

IBM® DB2® ユニバーサル・データベース



メッセージ解説書 第 2 巻

バージョン 7

IBM® DB2® ユニバーサル・データベース



メッセージ解説書 第 2 巻

バージョン 7

ご注意!

本書、および本書がサポートする製品をご使用になる前に、657ページの『付録C. 特記事項』にある一般的な情報を必ずお読みください。

本書には、IBM の専有情報が含まれています。その情報は、使用許諾条件に基づき提供され、著作権により保護されています。本書に記載される情報には、いかなる製品の保証も含まれていません。また、本書で提供されるいかなる記述も、製品保証として解釈すべきではありません。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

原 典 :	GC09-2979-01 IBM® DB2® Universal Database Message Reference Volume 2 Version 7
発 行 :	日本アイ・ビー・エム株式会社
担 当 :	ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2001.8

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1993, 2001. All rights reserved.

Translation: © Copyright IBM Japan 2001

目次

本書について	v	SQL3000 - SQL3099	363
本書の対象読者	v	SQL3100 - SQL3199	380
本書の構成	v	SQL3200 - SQL3299	399
編成	v	SQL3300 - SQL3399	408
表記規則	v	SQL3400 - SQL3499	415
第1章 メッセージの概要	1	SQL3500 - SQL3599	418
使用可能なオンライン情報	1	SQL3600 - SQL3699	427
その他の DB2 メッセージ	3	SQL3700 - SQL3799	430
その他のメッセージ・ソース	3	SQL3800 - SQL3899	433
第2章 SQL メッセージ	5	SQL3900 - SQL3999	434
SQL0000 - SQL0099	5	SQL4000 - SQL4099	441
SQL0100 - SQL0199	17	SQL4100 - SQL4199	444
SQL0200 - SQL0299	36	SQL4300 - SQL4399	455
SQL0300 - SQL0399	61	SQL4400 - SQL4499	456
SQL0400 - SQL0499	78	SQL4900 - SQL4999	459
SQL0500 - SQL0599	107	SQL5000 - SQL5099	469
SQL0600 - SQL0699	130	SQL5100 - SQL5199	476
SQL0700 - SQL0799	143	SQL6000 - SQL6099	482
SQL0800 - SQL0899	150	SQL6100 - SQL6199	502
SQL0900 - SQL0999	159	SQL6500 - SQL6599	505
SQL1000 - SQL1099	181	SQL7000 - SQL7099	515
SQL1100 - SQL1199	206	SQL8000 - SQL8099	518
SQL1200 - SQL1299	221	SQL8100 - SQL8199	523
SQL1300 - SQL1399	246	SQL9300 - SQL9399	524
SQL1400 - SQL1499	261	SQL10000 - SQL10099	525
SQL1500 - SQL1599	275	SQL20000 - SQL20099	530
SQL1600 - SQL1699	282	SQL20100 - SQL20199	555
SQL1700 - SQL1799	290	SQL20200 - SQL20299	561
SQL1800 - SQL1899	297	SQL29000 - SQL29100	563
SQL1900 - SQL1999	304	SQL30000 - SQL30099	566
SQL2000 - SQL2099	304	SQL30100 - SQL30199	582
SQL2100 - SQL2199	318	第3章 SQLSTATE メッセージ	583
SQL2200 - SQL2299	321	クラス・コード 00 無条件正常終了	584
SQL2300 - SQL2399	323	クラス・コード 01 警告	584
SQL2400 - SQL2499	326	クラス・コード 02 データなし	588
SQL2500 - SQL2599	332	クラス・コード 07 動的 SQL エラー	588
SQL2600 - SQL2699	348	クラス・コード 08 接続例外	588
SQL2700 - SQL2799	350	クラス・コード 09 トリガー・アクション	589
SQL2800 - SQL2899	359	クラス・コード 0A サポートされていない機能	589

クラス・コード 0D ターゲット・タイプ指定が無効	589
クラス・コード 0F 無効なトークン	590
クラス・コード 0K RESIGNAL ステートメントが無効	590
クラス・コード 20 CASE ステートメントにケースが見つからない	590
クラス・コード 21 カーディナリティー違反	590
クラス・コード 22 データ例外	591
クラス・コード 23 制約違反	592
クラス・コード 24 無効なカーソル状態	593
クラス・コード 25 無効なトランザクション状態	593
クラス・コード 26 無効な SQL ステートメント ID	594
クラス・コード 28 無効な許可指定	594
クラス・コード 2D 無効なトランザクション終了	594
クラス・コード 2E 無効な接続	594
クラス・コード 34 無効なカーソル名	595
クラス・コード 36 無効なカーソル指定	595
クラス・コード 38 外部関数例外	595
クラス・コード 39 外部関数呼び出し例外	596
クラス・コード 3B SAVEPOINT が無効	597
クラス・コード 40 トランザクション・ロールバック	597
クラス・コード 42 構文エラーまたはアクセス規則違反	598
クラス・コード 44 WITH CHECK OPTION 違反	610
クラス・コード 46 Java DDL	610
クラス・コード 51 無効なアプリケーション状態	610
クラス・コード 54 SQL または製品の限界の超過	611

クラス・コード 55 前提条件の状態にないオブジェクト	612
クラス・コード 56 その他の SQL または製品エラー	614
クラス・コード 57 リソースが使用不能、またはオペレーターの介入	615
クラス・コード 58 システム・エラー	616

付録A. 通信エラー	619
TCP/IP	619
APPC	623
NETBIOS	626
IPX/SPX	628

付録B. DB2 ライブラリーの使用法	635
DB2 PDF ファイルおよびハードコピー版資料	635
DB2 情報	635
PDF 資料の印刷	647
印刷資料の注文方法	647
DB2 オンライン文書	647
オンライン・ヘルプへのアクセス	647
オンライン情報の表示	650
DB2 ウィザードの使用	652
文書サーバーのセットアップ	654
オンライン情報の検索	655

付録C. 特記事項	657
商標	660

索引	663
-----------	------------

IBM と連絡をとる	665
製品情報	665

本書について

本書の目的は、DB2 の各種コンポーネントから戻されるメッセージをリストすることです。

本書の対象読者

メッセージ解説書 は、戻されるメッセージの詳細な情報を必要とする DB2 ユーザーを対象としています。

本書の構成

本書は、DB2 の各種コンポーネントから戻されるエラー・メッセージをすべてリストしています。

編成

本書は、次のように構成されています。

- 『第1章 メッセージの概要』では、エラー・メッセージにアクセスし、それを解釈する方法を説明しています。
- 『第2章 SQL メッセージ』では、警告やエラー状態が検出されたときにデータベース・マネージャーで生成されるメッセージ (SQLCODE 値) について説明します。
- 『第3章 SQLSTATE メッセージ』では、各 SQLSTATE 値の意味について説明します。
- 『付録A. 通信エラー』では、sqlcode -30081 に関連した通信エラー・コードについて説明します。

表記規則

日時の形式、および日時の区切り文字として使用する文字は、米国語形式を使用する構成になっているシステムに適用されます。ご使用になるシステムの各国語形式によって、これらの形式や文字の表示は異なる場合があります。

第1章 メッセージの概要

本書では、DB2 がインストールされたオペレーティング・システムの機能をよくご存じであることが前提となっています。以下の章に記載されている情報を使用すれば、エラーや問題を識別し、適切なりカバリー処置を行って問題を解決することができます。さらに、この情報を使用すると、メッセージが生成され記録される場所を理解することができます。

使用可能なオンライン情報

以下の DB2 メッセージは、オペレーティング・システムのコマンド行からアクセスできます。

接頭部 記述

ASN	DB2 複製で生成されるメッセージ
CCA	クライアント構成アシスタントで生成されるメッセージ
CLI	コール・レベル・インターフェースで生成されるメッセージ
DBA	コントロール・センターおよびデータベース管理ユーティリティーで生成されるメッセージ
DBI	インストールおよび構成で生成されるメッセージ
DB2	コマンド行プロセッサで生成されるメッセージ
DWC	データウェアハウスセンターで生成されるメッセージ
FLG	情報カタログ・マネージャーで生成されるメッセージと理由コード
GSE	DB2 地理情報エクステンダーで生成されるメッセージ
SAT	DB2 サテライト・エディションで生成されるメッセージ
SPM	同期点マネージャーで生成されるメッセージ
SQJ	Java Embedded SQL (SQLJ) で生成されるメッセージ
SQL	警告やエラー状態が検出されたときにデータベース・マネージャーで生成されるメッセージ

さらに、SQLSTATE 値に関連したメッセージ・テキストもオンラインで参照できます。

メッセージ ID は、3 文字のメッセージ接頭部 (上のリストを参照) と、それに続く 4 桁または 5 桁のメッセージ番号から成り立っています。エラー・メッセージの重大度を示す末尾の 1 文字はオプションです。

上記のエラー・メッセージにアクセスするには、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトで次のように入力します。

```
db2 "? XXXnnnnn"
```

where *XXX* represents the message prefix
and where *nnnnn* represents the message number.

注: db2 コマンドのパラメーターとして受け入れられるメッセージ ID は、大文字小文字の区別がありません。また、終了の文字も不要です。

そのため、以下のコマンドの結果は同じになります。

- db2 “? SQL0000N”
- db2 “? sql0000”
- db2 “? SQL0000n”

ご使用の画面に対しメッセージ・テキストが長すぎる場合は、次のコマンドを使用します (UNIX ベース・システムおよび「more」をサポートしている他のシステムの場合)。

```
db2 "? XXXnnnnn" | more
```

ヘルプは、対話式入力モードでも起動できます。対話式入力モードに入るには、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトで次のように入力します。

```
db2
```

対話式入力モードになると、次のコマンド・プロンプトにコマンドを入力できます。

```
db2 =>
```

このモードで DB2 メッセージを見るには、コマンド・プロンプトで次のように入力します。

```
? XXXnnnnn
```

注: メッセージ・テキストが画面に収まらない場合、非グラフィック・ワークステーションで作業しているユーザーは、出力を「more」プログラム (UNIX ベース・システムの場合) に送るか、または表示可能なファイルに出力を転送します。

SQLSTATE 値に関連したメッセージ・テキストは、次のコマンドを実行して検索できません。

db2 "? nnnnn"

or

db2 "? nn"

ここで、*nnnnn* は 5 桁の SQLSTATE (英数字) のことで、*nn* は 2 桁の SQLSTATE クラス・コード (SQLSTATE 値の最初の 2 桁) です。

その他の DB2 メッセージ

本書またはオンラインで解説されていないメッセージを戻す DB2 コンポーネントもいくつかあります。メッセージ接頭部の中には、以下が入っていることがあります。

AUD DB2 監査機能で生成されるメッセージ。

DIA 多くの DB2 コンポーネントで生成される診断メッセージ。これらのメッセージは、db2diag.log という診断ログ・ファイルに書き込まれ、ユーザーや DB2 サービス担当者がエラーを調査する際に、追加情報を提供することが目的です。

GOV DB2 管理プログラム・ユーティリティーで生成されるメッセージ。

ほとんどの場合、これらのメッセージから警告やエラーの原因を判別するのに十分な情報が得られます。メッセージを生成したコマンドやユーティリティーに関する詳細な情報は、該当するコマンドやユーティリティーに関して文書化されている適切な資料を参照してください。

その他のメッセージ・ソース

システムで他のプログラムを実行している場合は、本書で解説されていない接頭部が付いたメッセージを受け取ることがあります。

それらのメッセージについては、該当するプログラム製品の資料を参照してください。

第2章 SQL メッセージ

各メッセージは接頭部 (SQL) とメッセージ番号から構成されるメッセージ ID を持っています。メッセージはメッセージ番号順にリストされます。「通知」、「警告」、「重大」の 3 つのメッセージ・タイプがあります。エラー・メッセージは *N* で終了するメッセージ ID を持ちます。「警告」または「通知」メッセージは *W* で終了します。「重大」システム・エラーは *C* で終了するメッセージ ID を持ちます。

メッセージ番号は *SQLCODE* としても参照されます。*SQLCODE* はメッセージ・タイプ (*N*, *W*, または *C*) に応じて、正または負の番号としてアプリケーションに渡されます。*W* が正の値を持つものに対して、*N* と *C* は負の値を持ちます。*DB2* は *SQLCODE* をアプリケーションに戻すので、アプリケーションは *SQLCODE* に関連するメッセージを受け取ることができます。*DB2* は、*SQL* ステートメントの結果としての状況に対する値 *SQLSTATE* も返します。*SQLSTATE* 値は、『第3章 *SQLSTATE* メッセージ』にリストされます。いくつかの *SQLCODE* 値は、関連する *SQLSTATE* 値を持っています。提供された *SQLCODE* (適用可能な場合) に関連する *SQLSTATE* は、この章の各メッセージに記述されています。

SQL メッセージの変数パラメーターは記述名として表示されます。

SQL0000 - SQL0099

SQL0000W ステートメントは正常に処理されました。

説明: 警告状態が起きていなければ、*SQL* ステートメントは正常に処理されました。

ユーザーの処置: *SQLWARN0* をチェックして、ブランクであることを確認してください。ブランクの場合は、ステートメントが正常に実行されています。ブランクでない場合は、警告が発生しています。他の警告標識をチェックして、特定の警告状態を判別してください。たとえば、*SQLWARN1* がブランクでない場合は、ストリングが切り捨てられています。

アプリケーション開発の手引き を参照してください。

sqlcode: 0

sqlstate: 00000、 01003、 01004、 01503、
01504、 01506、 1509、 01517

SQL0001N バインド、またはプリコンパイルが失敗しました。

説明: 前のメッセージ中に示された理由のために、バインドまたはプリコンパイル要求が失敗しました。

パッケージは作成されません。

ユーザーの処置: メッセージ・ファイル内のメッセージを参照してください。 コマンドを再発行してください。

サンプル・データベースをインストールしている場合は、それをドロップしてサンプル・データベースを再インストールしてください。

SQL0002N バインド・ファイル名が無効です。

説明: 前のメッセージ中に示された理由のために、指定されたバインド・ファイル名を使用できません。

パッケージは作成されません。

ユーザーの処置: メッセージ・ファイル内のメッセージを参照してください。 コマンドを再発行してください。

サンプル・データベースをインストールしている場合は、それをドロップしてサンプル・データベースを再インストールしてください。

SQL0003N データベース名が無効です。

説明: 前のメッセージ中に示された理由のために、指定されたデータベース名を使用できません。

パッケージは作成されません。

ユーザーの処置: メッセージ・ファイル内のメッセージを参照してください。 コマンドを再発行してください。

SQL0004N パスワードが無効です。

説明: パスワードに無効な文字が入っているか、またはパスワードが長すぎます。

パッケージは作成されません。

ユーザーの処置: 有効なパスワードを指定して、コマンドを再発行してください。

SQL0005N メッセージ・ファイル名が無効です。

説明: 前のメッセージ中に示された理由のために、指定されたメッセージ・ファイル名を使用できません。

パッケージは作成されません。

ユーザーの処置: メッセージ・ファイル内のメッセージを参照してください。 メッセージ・ファ

イルの名前をチェックしてください。メッセージ・ファイルがある場合にはその属性をチェックしてください。コマンドを再発行してください。

SQL0006N `datetime format` パラメーターが無効です。

説明: `datetime format` パラメーターの値が 0 から 3 の有効な範囲内にありません。

パッケージは作成されません。

ユーザーの処置: 有効な `format` パラメーターを指定して、コマンドを再発行してください。

SQL0007N “<text>” の後の文字 “<character>” が無効です。

説明: 示された “<character>” は、SQL ステートメントの有効な文字ではありません。

「<text>」フィールドは、無効な文字の前にある 20 文字の SQL ステートメントを示します。

連合システム・ユーザー: データ・ソースは、“<character>” および “<text>” メッセージ・トークンに対して該当する値を提供しないこともあります。この場合、“<character>” および “<text>” は、“<data source>:UNKNOWN” という形式になります。これは、指定されたデータ・ソースの実際の値が不明であることを示します。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 無効な文字を取り除くか、または有効な文字で置き換えてください。

sqlcode: -7

sqlstate: 42601

SQL0008N ホスト変数宣言のトークン “<token>” が無効です。

説明: ホスト変数宣言に構文の誤りがあります。プリコンパイラーがホスト変数を識別できません。

ステートメントは処理できません。ステートメン

ト (セミコロンまで) に宣言されたどのホスト変数も受け付けられません。

ユーザーの処置: ホスト変数宣言の構文を確認してください。

SQL0009W プリコンパイラー・オプションを上書きしようとしたが、無視されました。

説明: プリコンパイラー・オプションの上書きが試みられました。

オプションは無視されます。

ユーザーの処置: すべてのプリコンパイラー・オプションが正しく指定されていることを確認してください。

SQL0010N “<string>” で始まるSTRING定数に、終わりの区切り文字がありません。

説明: ステートメントに、“<string>” で始まるSTRING定数が入っていますが、正しく終了していません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメントを調べて、示されているSTRING定数にアポストロフィが抜けていないことを確認してください。

sqlcode: -10

sqlstate: 42603

SQL0011N 注釈が終了していません。

説明: 注釈が正しく終了していません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメントを調べて、示されている注釈に区切り文字が抜けていないこと、または余分な区切り文字がないかことを確認してください。

SQL0012W 列 “<column>” で修飾のない相関が発生しました。

説明: 示された列は SELECT ステートメント中にありますが、明示的に修飾されておらず、外部の SELECT ステートメントの FROM 文節に指定されている表にあります。したがって、SELECT ステートメントの列に対する参照は外部参照と見なされ、相関が発生します。

ステートメントは、相関が指定されたものとして処理されました。

ユーザーの処置: 相関が必要であることを確認してください。外部参照を用いるときには、必ず明示的に修飾してください。

sqlcode: +12

sqlstate: 01545

SQL0013N 空の区切り ID は無効です。

説明: プリコンパイル時に、空のSTRINGとして指定された、カーソル名、ステートメント名、データベース名、または許可 ID が見つかりました。これは有効ではありません。ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 有効なカーソル名、ステートメント名、データベース名、または許可 ID を指定してください。

SQL0014N ソース・ファイル名が無効です。

説明: プリコンパイラーの呼び出しに指定したソース・ファイル名に無効な文字が入っているか、またはソース・ファイル名へのポインターが無効です。

パッケージは作成されませんでした。

ユーザーの処置: 正しいソース・ファイル名を使用してください。

SQL0015N ホスト変数データ・タイプ
"**<token_1>**" が無効です。
"**<token_2>**" を使用してください。

説明: WCHARTYPE CONVERT プリコンパイル・オプションが有効な場合には、漢字ホスト変数はデータ・タイプ 'sqldbchar'ではなく、'wchar_t'で宣言されていなければなりません。

WCHARTYPE NOCONVERT プリコンパイル・オプションが有効で (デフォルト)、'wchar_t' がこのプラットフォームに 4 バイト整数として定義されている場合には、漢字ホスト変数はデータ・タイプ 'wchar_t'ではなく、'sqldbchar'で宣言されていなければなりません。

ユーザーの処置: ホスト変数の現行のデータ・タイプを、メッセージに指定されたデータ・タイプと置き換えてください。

SQL0017N RETURN ステートメントを指定し、SQL 関数またはメソッドで実行する必要があります。

説明: SQL 関数またはメソッドが RETURN ステートメントを含んでいないか、あるいは関数またはメソッドが RETURN ステートメントの実行を終了していませんでした。

ユーザーの処置: 関数またはメソッドが RETURN ステートメントを実行しているかを確認してください。

sqlcode: -17

sqlstate: 42632

SQL0020W バインドまたはプリコンパイル・オプション
"**<option-name(s)/option-number(s)>**"
は、ターゲット・データベースでサポートされていないため、無視されます。

説明: この警告は次の状況の場合に返されます。

- プリコンパイル / バインド時に指定された 1 つ以上のオプションが、ターゲット DBMS によってサポートされていない。
- プリコンパイル / バインド時に指定された 1 つ以上のオプションのオプション値が、ターゲット DBMS によってサポートされていない。

サポートされていないオプション / 値は無視されず。最も可能性が高い原因としては、DRDA アプリケーション・サーバーへの接続時にのみサポートされるオプションまたはオプション値が、非 DRDA サーバーへの接続時に指定されたことです。

DRDA アプリケーション・サーバーでのみサポートされるオプションのリストについては、"db2 ? bind" または "db2? prep" と入力してください。

オプション番号と対応するオプション名には、以下が含まれます。

- | | |
|----|---------------------|
| 1 | DATETIME |
| 2 | LANGLEVEL |
| 4 | ISOLATION |
| 5 | BLOCKING |
| 6 | GRANT |
| 8 | SQLFLAG |
| 16 | CONNECT |
| 17 | SQLRULES |
| 18 | DISCONNECT |
| 19 | SYNCPPOINT |
| 20 | ISOLATION |
| 21 | BINDFILE |
| 22 | SQLCA |
| 23 | PACKAGE |
| 24 | OPTLEVEL |
| 25 | SYNTAX または SQLERROR |

26 NOLINEMACRO
30 LEVEL
31 COLLECTION
32 VERSION
33 OWNER
34 QUALIFIER
35 TEXT
40 VALIDATE
41 EXPLAIN
42 ACTION
44 REPLVER
45 RETAIN
46 RELEASE
47 DEGREE
50 STRDEL
51 DECDEL
55 CHARSUB
56 CCSIDS
57 CCSIDM
58 CCSIDG
59 DEC
60 WCHARTYPE
61 DYNAMICRULES
62 INSERT
63 EXPLSNAP
64 FUNCPATH
65 SQLWARN
66 QUERYOPT

ユーザーの処置: この DBMS への接続時に、バインドまたはプリコンパイルの指定 “<option-name(s)/option-number(s)>” が必要なことを確認してください。

SQL0021W 無効なプリコンパイラー・オプション “<option>” が無視されました。

説明: メッセージに示されたオプションは、有効なプリコンパイラー・オプションではありません。

オプションは無視されます。

ユーザーの処置: すべてのプリコンパイラー・オプションが正しく指定されていることを確認してください。

SQL0022W 重複するプリコンパイラー・オプション “<option>” が無視されました。

説明: プリコンパイラー・オプション “<option>” が重複しています。

オプションは無視されます。

ユーザーの処置: すべてのプリコンパイラー・オプションが 1 回だけ指定されていることを確認してください。

SQL0023N データベース名が無効です。

説明: 指定されたデータベース名は、有効な名前ではありません。

プリコンパイルは終了します。

ユーザーの処置: データベース名のつづりが正しく、短 ID の規則にしたがっていることを確認してください。

SQL0024N データベース名が指定されませんでした。

説明: プリコンパイル時にデータベース名が指定されていませんでした。

プリコンパイルは終了します。

ユーザーの処置: データベース名を指定してください。

SQL0025W バインドまたはプリコンパイルが、警告付きで完了しました。

説明: バインドまたはプリコンパイルは成功しましたが、警告が出されました。パッケージとバインド・ファイルのいずれか、または両方が、コマンドで要求された通りに作成されました。

ユーザーの処置: メッセージ・ファイル内のメッセージを参照してください。必要に応じて、問題を訂正してコマンドを再発行してください。

SQL0026N パスワードが無効です。

説明: 指定されたパスワードは、有効なパスワードではありません。

プリコンパイルは終了します。

ユーザーの処置: 指定したパスワードが、パスワードの規則に当たっていることを確認してください。

SQL0028C バインド・ファイルのリリース番号が無効です。

説明: バインド・ファイルのリリース番号が、インストールされているバージョンのデータベース・マネージャーのリリース番号と互換ではありません。

このバインド・ファイルは、現行バージョンのデータベース・マネージャーでは使用できません。コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 可能であれば、現在のデータベース・マネージャーを使用して、プリコンパイル・プロセスを繰り返してください。または、互換リリース・レベルのデータベース・マネージャーで作成されたバインド・ファイルのみを使用してください。

SQL0029N INTO 文節が必要です。

説明: アプリケーション・プログラムに組み込まれている非カーソル SELECT または VALUES ステートメントには、ステートメントの結果を入

れる場所を指示するための INTO 文節が必要です。動的 SELECT ステートメントには、INTO 文節を使用できません。

ユーザーの処置: INTO 文節を SELECT または VALUES ステートメントに追加して、もう一度アプリケーション・プログラムをプリコンパイルしてください。

sqlcode: -29

sqlstate: 42601

SQL0030N ソース・ファイル名が指定されませんでした。

説明: プリコンパイル時にソース・ファイル名が指定されていませんでした。

プリコンパイルは終了します。

ユーザーの処置: ソース・ファイル名を指定してください。

SQL0031C ファイル “<name>” がオープンできませんでした。

説明: ファイル “<name>” が指定されていますが、オープンできませんでした。

プリコンパイルは終了します。

ユーザーの処置: 示されたファイル名が正しく、ファイル・システム内に存在し、ファイル許可が正しいことを確認してください。

サンプル・データベースをインストールしている場合は、それをドロップしてサンプル・データベースを再インストールしてください。エラーが続く場合は、データベース・マネージャーを再インストールした後に、サンプル・データベースをインストールしてください。

SQL0032C ファイル “<name>” が使用できません。

説明: ファイル “<name>” の読み取りまたは書き込み中に、エラーが起きました。

プリコンパイルは終了します。

ユーザーの処置: もう一度プリコンパイルしてください。

SQL0033N “<name>” は、有効なバインド・ファイルではありません。

説明: 示されたバインド・ファイル “<name>” が、有効なバインド・ファイルではありません。

バインドは終了します。

ユーザーの処置: 正しいファイル名が指定されていることを確認してください。

SQL0034N バインド・ファイル名が指定されませんでした。

説明: バインド時にバインド・ファイル名が指定されていませんでした。

バインドは終了します。

ユーザーの処置: バインド・ファイル名を指定してください。

SQL0035N ファイル “<name>” がオープンできません。

説明: メッセージ・ファイル “<name>” がオープンできませんでした。

バインドまたはプリコンパイルは終了しました。

ユーザーの処置: システムがそのファイルにアクセスできることを確認してください。

SQL0036N ファイル名 “<name>” の構文が無効です。

説明: ファイルがプリコンパイラへの入力の場合は、使用する言語に対する正しい拡張子を持っている必要があります。ファイルがバインド・プログラムへの入力の場合は、拡張子 *.bnd* を持っている必要があります。また、プラットフォームの最大長を超える完全に解決されたファイル名も、このエラーの原因となります。

プリコンパイルまたはバインドは終了します。

ユーザーの処置: 示されたファイル名が正しいことを確認してください。

SQL0037W メッセージ・ファイル “<name>” の構文が無効です。

説明: メッセージ・ファイル名 “<name>” は、この機能に対して構文的に正しくありません。

システムは出力を標準出力装置に切り替えます。

ユーザーの処置: 示されたファイル名が正しいことを確認してください。

SQL0038W バインド・オプション **SQLERROR CONTINUE** は、この **DB2 提供リスト・ファイル** を **DB2/MVS、SQL/DS、または OS/400** とバインドする時に必要となるために、活動化されています。

説明: 次の **DB2 提供リスト・ファイル** をバインドする時には、**SQLERROR CONTINUE** バインド・オプションが必要です。

- ddcsmvs.lst
- ddcsvm.lst
- ddcsvse.lst
- ddcs400.lst

このオプションは、バインド・ファイルに SQL ステートメントがある場合にも、これを無効と見なすために、DRDA サーバーにパッケージの作成を指示します。すべての DRDA サーバーが DB2 提供リスト・ファイルに入っているすべての SQL ステートメントをサポートしていないので、リスト・ファイルのすべてのバインド・ファイルに対してパッケージが作成されるように保証するためには、**SQLERROR CONTINUE** バインド・オプションを使用しなければなりません。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。必要なバインド・オプション **SQLERROR CONTINUE** が指定されています。今後、この警告の受信を回

避するためには、SQLERROR CONTINUE バインド・オプションを指定してください。

SQL0039N バインド・ファイルが無効なため、バインド・プログラムが処理を完了できませんでした。

説明: バインド・プログラムがバインド・ファイルを処理できませんでした。バインド・ファイルの内容が誤って更新されたため、そのバインド・ファイルは無効となっている可能性があります。

バインド・ファイルは処理されません。

ユーザーの処置: 可能であれば、新しいバインド・ファイルを作成するために、プリコンパイル・プロセスを繰り返してください。または、バインド・ファイルの新しいコピーを取得してください。

SQL0040N リスト “<name>” のバインド・ファイルでエラーが発生しました。“<list>” のファイルはバインドされませんでした。

説明: メッセージ・ファイル内の前のメッセージに示された理由のため、1 つ以上のバインド・ファイルがバインドされませんでした。バインドされなかったファイルのリストは 1 から始まる数字で構成されており、その数字はリスト・ファイル内のバインドされなかったファイルの相対位置を示します。“<name>” には、リスト・ファイルのパス情報が入っていません。

メッセージには、エラーがあった最初の 20 個のバインド・ファイルしかリストされません。20 個以上のバインド・ファイルにエラーがあった場合は、リストの最後のバインド・ファイル名の後に、省略記号 (...) が挿入されます。

パッケージは作成されませんでした。

ユーザーの処置: メッセージ・ファイル内のメッセージを参照してください。リスト・ファイルをチェックして、有効な名前が入っていることを

確認してください。コマンドを再発行してください。

SQL0041N 致命的エラーが発生して処理が終了されたために、リスト “<name>” 内のファイル番号 “<number>” に続くファイルをバインドする試みは実行されませんでした。

説明: バインド処理中の一部のエラーは致命的なエラー (すなわち、システム・エラーまたはメモリー・エラー) と考えられます。リスト・ファイルのファイルの処理中にこれらのエラーの 1 つが起こった場合には、処理は終了されます。リスト・ファイルの残りのファイルをバインドする試みは行われません。

リスト内で指定されたバインド・ファイルをバインド中に、このようなエラーが起こりました。バインド・ファイルの識別に使用される数字が、リスト・ファイルのファイルの相対位置を示していることに注意してください。

ユーザーの処置: 起こったエラーを解決するためには、これに伴って出されたその他のメッセージを参照してください。コマンドを再発行してください。

SQL0051N プログラム中の SQL ステートメントの数が、最大値を超えています。

説明: プログラム内で使用する SQL ステートメントが多すぎて、データベース内の 1 つのパッケージでは処理しきれません。

プリコンパイルは終了します。

ユーザーの処置: プログラムを単純にするか、個別の小さいプログラムに分割するか、またはその両方を行ってください。

SQL0053W プログラムに SQL ステートメントがありません。

説明: 指定されたソース・ファイルには、SQL ステートメントが入っていません。

バインドの場合には、空のパッケージが作成されます。

ユーザーの処置: プリコンパイルまたはバインド中のプログラムが正しいことを確認してください。

SQL0055N ソース入力ファイルが空です。

説明: プログラム・ソース入力ファイルに、データが入っていません。

プリコンパイルは終了します。

ユーザーの処置: 正しい入力ファイルが指定されていることを確認してください。

SQL0056N ネストされた複合ステートメントに **SQLSTATE** または **SQLCODE** 変数宣言があります。

説明: **SQLSTATE** または **SQLCODE** 変数宣言が、**SQL** ルーチンで最外部の複合ステートメントではなく、ネストされた複合ステートメントにあります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: **SQLSTATE** および **SQLCODE** 変数は、**SQL** ステートメントで最外部の複合ステートメントでのみ宣言してください。

sqlcode: -56

sqlstate: 42630

SQL0057N **SQL** 関数またはメソッド内の **RETURN** ステートメントには、戻り値が含まれていなければなりません。

説明: 返す値の指定なしで、**RETURN** ステートメントが **SQL** 関数またはメソッドに指定されています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: **RETURN** ステートメントに値を指定してください。

sqlcode: -57

sqlstate: 42631

SQL0058N **SQL** プロシージャ内の **RETURN** ステートメント値のデータ・タイプは **INTEGER** でなければなりません。

説明: **INTEGER** データ・タイプではない値または式で、**RETURN** ステートメントが **SQL** プロシージャに指定されています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: **INTEGER** のデータ・タイプを持つ **RETURN** ステートメントで値を指定してください。

sqlcode: -58

sqlstate: 428F2

SQL0060W “<name>” プリコンパイラーが処理中です。

説明: このメッセージは、プリコンパイラーの処理開始時に、標準出力装置に書き込まれます。

トークン “<name>” は、呼び出された特定言語のプリコンパイラーを示します。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL0061W バインド・プログラムが処理中です。

説明: このメッセージは、バインド・プログラムの処理開始時に、標準出力装置に書き込まれます。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL0062W ファイル "<name>" の INCLUDE 開始中です。

説明: INCLUDE ステートメントが指定されています。現在、プリコンパイラーは INCLUDE ファイルを処理しています。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL0063W ファイル "<name>" の INCLUDE が完了しました。

説明: プリコンパイラーが INCLUDE ファイルの処理を完了しました。INCLUDE ステートメントを含んでいるファイルの処理が再開されます。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL0064N ファイル "<name>" が直接または間接的に、自己 INCLUDE しています。

説明: 循環 INCLUDE が指定されています。プリコンパイラー入力ファイルはそのファイル自体を INCLUDE することはできず、そのファイルを INCLUDE するファイルに INCLUDE されることもできません。

示されたファイルは INCLUDE されません。

ユーザーの処置: INCLUDE ファイルのネストをチェックして、循環を取り除いてください。

SQL0065N ホスト変数宣言内で、予期しない行の終わりに達しました。

説明: ホスト変数宣言に構文の誤りがあります。宣言が完了する前に、行の終わりが見つかりました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ホスト変数宣言の構文を確認してください。

SQL0078N ルーチン "<routine-name>" にパラメーターを指定しなければなりません。

説明: ルーチン "<routine-name>" では、すべてのパラメーターについてパラメーター名が指定されていません。ルーチンが LANGUAGE SQL または SQLMACRO で定義されている場合、定義済みパラメーターごとにパラメーター名が必要です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 定義済みパラメーターすべてがパラメーター名を持っていることを確認してください。

sqlcode: -78

sqlstate: 42629

SQL0079N DECLARE GLOBAL TEMPORARY TABLE "<name>" のスキーマ名は、"<schema-name>" ではなく SESSION でなければなりません。

説明: 宣言された一時表のスキーマ名は SESSION でなければなりません。DECLARE GLOBAL TEMPORARY TABLE ステートメントは、宣言された新しい一時表 "<name>" を明示スキーマ名 "<schema-name>" で定義しています。これは許されていません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの方法でステートメントを変更してください。

- スキーマ名を SESSION に変更する
- スキーマ名を除去し、DB2 にデフォルト値 SESSION を使用させる

sqlcode: -79

sqlstate: 428EK

SQL0081N プリコンパイル / バインド中に、
SQLCODE “<sqlcode>” が返され
ました。

説明: プログラムのプリコンパイル中またはバ
インド中に、予期しない **SQLCODE** “<sqlcode>” が
データベース・マネージャーから返されました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: **SQLCODE** を調べて問題を判別
し、適切な処置を取ってください。

SQL0082C エラーが発生したため、処理は終了
しました。

説明: 前に起きた非 **SQL** エラーのために、処理
が終了しました。

プリコンパイル / バインド / 再バインドは終了
します。パッケージは作成されませんでした。

ユーザーの処置: 前のエラーの原因を訂正して、
もう一度やり直してください。

SQL0083C メモリーの割り振りエラーが発生し
ました。

説明: 処理を実行するために必要なメモリーが足
りなくなりました。

ユーザーの処置: 解決策は以下の通りです。

- システムに十分な実メモリーおよび仮想メモ
リーがあることを確認してください。
- バックグラウンド処理を終了してください。

SQL0084N **EXECUTE IMMEDIATE** ステート
メントに、**SELECT** または
VALUES ステートメントが含まれ
ています。

説明: **SELECT** または **VALUES** ステートメント
が **EXECUTE IMMEDIATE** ステートメントで使
用されています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 暗黙機能はサポートされていま
せん。**SELECT** または **VALUES** ステートメント
を準備してください。その後、**OPEN**、
FETCH、および **CLOSE** を使用してください。

sqlcode: -84

sqlstate: 42612

SQL0085N ステートメント名 “<name>” は、
すでに定義されています。

説明: 今回の **DECLARE** ステートメント内で指
定されたステートメント名は、前回の **DECLARE**
ステートメントですでに使用されています。

今回の **DECLARE** ステートメントは処理されま
せん。前回の **DECLARE** ステートメントの指定
が、現在も有効です。

ユーザーの処置: 今回のステートメントには、別
の名前を使用してください。

SQL0086C メモリーの割り振りエラーが発生し
ました。

説明: 処理を実行するために必要なメモリーが足
りなくなりました。

ユーザーの処置: 解決策は以下の通りです。

- システムに十分なメモリーがあることを確認し
てください。
- バックグラウンド処理を終了してください。

SQL0087N ホスト変数 “<name>” が、構造参
照が許されていない場所で使用され
た構造です。

説明: 構造参照を **SQL** ステートメントで使用す
ると、そのコンポーネント・フィールドのコンマ
で区切られたリストが、その代わりに使用され
たかのように扱われます。ホスト変数のリストは
PREPARE などの **SQL** ステートメントで使用で
きないので、複数フィールドを持つ構造に対する
参照にもなりません。

ユーザーの処置: アトミック・ホスト変数、また

は完全に修飾された構造フィールド名を持つ構造参照を置き換えてください。

SQL0088N ホスト変数 “<name>” が未確定です。

説明: ホスト変数 “<name>” を一意的に識別できません。同じ修飾を持つ複数のホスト変数が検出される可能性があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ホスト変数の修飾を増やすか、またはすでに完全に修飾されたものが存在している場合は、名前変更してください。

SQL0089N エラーが 100 個に達したので、処理が終了しました。

説明: エラーが 100 個に達したので、プリコンパイラーまたはバインド・プログラムが処理を終了します。

ユーザーの処置: メッセージ・ログに示されているエラーを修正して、コマンドを再発行してください。

SQL0091W プリコンパイルまたはバインドが、“<number-1>” エラーと “<number-2>” 警告で終了しました。

説明: プリコンパイルまたはバインドが、上記の番号の警告とエラーで終了しました。

プリコンパイルまたはバインドは終了します。

ユーザーの処置: 警告またはエラーが起きた場合は、必要に応じてプログラムを修正し、プリコンパイルまたはバインドを再試行してください。

SQL0092N 前のエラーにより、パッケージが作成されませんでした。

説明: 前のエラーのために、パッケージが作成されませんでした。

ユーザーの処置: エラーを修正して、プリコンパイルまたはバインドを再試行してください。

SQL0093N EXEC SQL のステートメント終了文字が現れる前に、入力ファイルの終わりに達しました。

説明: SQL ステートメントの処理中、そのステートメントが終了する前にソースが終了しました。

プリコンパイルは終了します。

ユーザーの処置: SQL ステートメントが正しく終了していることを確認してください。

SQL0094N ユーザーの割り込み要求で、バインドが終了しました。

説明: 割り込み要求 (ユーザーが割り込みキーを押した可能性があります) のために、バインドが終了しました。

処理は終了しました。パッケージは作成されません。

ユーザーの処置: 必要な場合には、もう一度バインドの実行依頼を行ってください。

サンプル・データベースをインストールしている場合は、それをドロップしてサンプル・データベースを再インストールしてください。

SQL0095N 前のエラーにより、バインド・ファイルが作成されませんでした。

説明: 前のエラーのために、バインド・ファイルが作成されませんでした。

バインド・ファイルは作成されません。

ユーザーの処置: エラーを訂正して、プリコンパイルを再試行してください。

SQL0097N **LONG VARCHAR** または **LONG VARGRAPHIC** データ・タイプの変数またはパラメーターが **SQL** ルーチンでサポートされていません。

説明: SQL ルーチン (プロシージャ、関数、またはメソッド) は、LONG VARCHAR または LONG VARGRAPHIC データ・タイプの変数またはパラメーターをサポートしていません。

ユーザーの処置: LONG VARCHAR または

SQL0100 - SQL0199

SQL0100W **FETCH、UPDATE** または **DELETE** の対象となる行がないか、または照会の結果が空の表です。

説明: 以下に示す条件の 1 つが成立していません。

- UPDATE または DELETE ステートメントに指定された探索条件を満たす行が見つかりません。
- SELECT ステートメントの結果が空の表でした。
- 結果表の最後の行の後ろにカーソルを位置付けたときに、FETCH ステートメントが実行されました。
- INSERT ステートメントで使用された SELECT の結果が空です。

データの検索、更新、または削除は実行されませんでした。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。処理は続行されます。

sqlcode: +100

sqlstate: 02000

LONG VARGRAPHIC データ・タイプの変数またはパラメーターを SQL ルーチンで使用しないでください。LONG VARCHAR の場合は、明示的な長さを持つ VARCHAR を使用してください。LONG VARGRAPHIC の場合は、明示的な長さを持つ VARGRAPHIC を使用してください。

sqlcode: -97

sqlstate: 42601

SQL0101N ステートメントが長すぎるか、または複雑すぎます。

説明: ステートメントの長さまたは複雑さがシステムの制限を超えているか、または組み込まれた制約またはトリガーが多すぎるために、ステートメントが処理できませんでした。

ステートメントが、バックされた記述の作成または変更を行うステートメントの場合は、新しくバックされた記述が、システム・カタログの対応する列に対して長すぎる可能性があります。

連合システム・ユーザーはステートメントが次のいずれかの状態であることもチェックしてください。

- 長さまたは複雑さの連合サーバー・システム限度またはデータ・ソース・システム限度のいずれかを超過している。
- その他のデータ・ソース特定限度を違反している。

ステートメントは処理できません。

注: 異なったコード・ページのもとで実行されるアプリケーションおよびデータベースに対して文字データ変換が実行された場合には、変換の結果の長さが限界を超えます。

ユーザーの処置: 次のいずれかを行ってください。

- ステートメントをより短い、またはより簡単な SQL ステートメントに分割してください。
- データベース構成ファイルのステートメント・ヒープ (stmtheap) の大きさを増やしてください。
- ステートメントのチェックの数または関連する制約の数を減らすか、あるいは外部キーの索引の数を減らしてください。
- ステートメントのトリガーの数を減らしてください。
- 連合システム・ユーザー: どちらのデータ・ソースがステートメントを失敗させているかを判別 (障害の起きたデータ・ソースを識別する手順については、問題判別の手引きに従ってください) して、拒否の原因を判別してください。連合サーバーが原因で拒否が起こる場合は、データベース構成ファイルのステートメント・ヒープ (stmtheap) の大きさを増やしてください。

sqlcode: -101

sqlstate: 54001

SQL0102N “<string>” で始まる文字列定数が長すぎます。

説明: 以下のいずれかが起こりました。

- COMMENT ON ステートメントの注釈が 254 バイトより大きくなっています。
- SQL CONNECT ステートメントに指定されるアプリケーション・サーバー名が、18 文字より大きくなっています。
- “<string>” で始まる文字列定数の長さが 32672 バイトを超えています。32672 バイトを超える長さを持つ文字列、または 16336 文字を超える長さを持つグラフィック・文字列は、ホスト変数からの割り当てを通じてのみ指定することができます。DB2 ファミリーの他のサーバーが、文字列に対して別のサイズ制限を指定している可能性があります。詳細については、該当する DB2 製品のマニュアルをご覧ください。

- 連合システム・ユーザー: データ・ソース特有の制限がパススルー・セッションで超えないようにしてください。たとえば、パススルー セッションで DB2 (MVS/ESA 版) に送信されるステートメントに組み込まれた 254 バイト以上の文字リテラルは上記のエラーを起こします。

これは、データ変換が行われて、その結果のストリングが長過ぎる状態になる可能性があります。アプリケーションと、異なったコード・ページのもとで実行されるデータベースとの結合では、ストリング定数はアプリケーション・コード・ページからデータベース・コード・ページに変換されます。特定の状況 (データベースが EUC コード・ページで作成された時など) では、グラフィック・ストリング定数は、データベース・コード・ページから UCS-2 (UNICODE) エンコードにさらに変換される場合があります。これは、入力ストリングより長い結果のストリングをもつ可能性があることを意味します。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 表の注釈または列の注釈の場合は、注釈のサイズを短くしてください。SQL CONNECT ステートメントの場合は、アプリケーション・サーバー名の長さを減らしてください。ストリング定数の場合は、要求された機能は対話形式では使用できません。アプリケーション・プログラムに組み込まれている CONNECT SQL ステートメント以外でエラーが起きた場合は、ホスト変数に長ストリングを割り当てて、SQL ステートメントのストリング・リテラルとその変数を置き換えてください。

連合システム・ユーザー: パススルー・セッションの場合、どのデータ・ソースがエラーの原因であるかを判別してください (障害の起きたデータ・ソースについては、問題判別の手引きを参照してください)。データ・ソースでどの特定限度を超えたのか判別するために SQL ダイアレクトを調べ、失敗したステートメントを必要に応じて調整してください。

sqlcode: -102

sqlstate: 54002

SQL0103N 数値リテラル “<literal>” が無効です。

説明: 示された “<literal>” は数字で始まっていますが、有効な整数、10 進数、または浮動小数リテラルではありません。

連合システム・ユーザー: データ・ソース特定リテラルの表示エラーがパスルー・セッションで起こりました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 無効な数値リテラルを訂正してください。連合システム・ユーザーは、エラーがパスルー・セッションで発生した場合、どのデータ・ソースがエラーの原因であるかを判別してください (障害の起きたデータ・ソースについては、問題判別の手引きを参照してください)。データ・ソースでどのリテラル表示規則が違反しているのか判別するために SQL ダイアレクトを調べ、失敗したステートメントを必要に応じて調整してください。

sqlcode: -103

sqlstate: 42604

SQL0104N “<text>” に続いて予期しないトークン “<token>” が見つかりました。使用可能なトークンは “<token-list>” です。

説明: SQL ステートメントの構文エラーが、テキスト “<text>” の後の示されたトークンに見つかりました。「<text>」フィールドは、無効なトークンの前にある 20 文字の SQL ステートメントを示しています。

解決の手掛かりとして、“<token-list>.”として、SQLCA の「SQLERRM」フィールドに有効なトークンの一部のリストが提供されます。このリス

トは、その時点までのステートメントが正しいと想定しています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 示されたトークンの領域内のステートメントを調べて、修正してください。

sqlcode: -104

sqlstate: 42601

SQL0105N “<string>” で始まるSTRING定数が無効です。

説明: ステートメントに、“<string>” で始まる無効なSTRING定数が入っています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 正しい形式のSTRING定数を指定してください。グラフィック・STRING、対の区切り文字、およびSTRING内の文字が偶数バイトであることをチェックしてください。

連合システム・ユーザー、問題判別の手引きを参照して、どのデータ・ソースがエラーの原因であるかを判別してください。

sqlcode: -105

sqlstate: 42604

SQL0106N SQL ステートメントは正しく開始されていますが、不完全です。

説明: SQL ステートメントは、入力が検出されなくなる点までは正しいものでした。これは、リテラルが正しく終わっていないことが原因である可能性があります。STRING・リテラルには終わりの引用符が必要です。

この SQL ステートメントの処理が終了しました。

ユーザーの処置: 関数を完成するために必要なパーツのすべてをステートメントが持っているか、またすべての文節が完了しているかを調べてください。

PL/I の場合: SQL ステートメントがセミコロン

前で終わっているかを確認してください。アセンブラーの場合: 継続規則に正しく従っているかを確認してください。(ブランク以外の文字が 72 桁目になければならず、継続行は 16 桁目以降から開始されていなければなりません。)

COBOL の場合: SQL ステートメントが END-EXEC の前で終わっているかを確認してください。

sqlcode: -106

sqlstate: 42601、42603

SQL0107N 名前 “<name>” が長すぎます。最大長は “<length>” です。

説明: “<name>” として戻された名前が長すぎます。このタイプの名前に許される最大の長さは、“<length>” で示されています。

索引および制約の名前の最大長は 18 バイトです。列の名前の最大長は 30 バイトです。保管点、表、視点、および別名の最大長は 128 バイトです。(ここにはエスケープ文字は含まれません。)

SQL ルーチン内の SQL 変数名、条件名、およびラベルは、長さが 64 バイトを超えてはなりません。

ユーザー定義タイプの場合には最大 8 バイトですが、スキーマ名 (オブジェクト修飾子) の長さとして最大 30 バイトが許可されています。

ホスト変数名の長さは、255 バイトを超えてはなりません。

SQL CONNECT ステートメントの場合、プリコンパイル時には最大 18 文字のアプリケーション・サーバー名が受け入れられます。ただし、実行時には、8 文字を超える長さのアプリケーション・サーバー名はエラーになります。

また、SQL CONNECT ステートメントでは、18 文字以内のパスワード、および 8 文字以内の許可 ID が受け入れられます。

連合システム・ユーザー: パススルー・セッション

ン内の場合、データ・ソース特定限度を超えている可能性があります。

ステートメントは処理できません。

注: 異なったコード・ページのもとで実行されるアプリケーションおよびデータベースに対して文字データ変換が実行された場合には、変換の結果の長さが限界を超えます。

ユーザーの処置: より短い名前を使用するか、またはオブジェクト名のつづりを訂正してください。

連合システム・ユーザー: パススルー・セッションの場合、どのデータ・ソースがエラーの原因であるかを判別してください (障害の起きたデータ・ソースについては、問題判別の手引きを参照してください)。データ・ソースでどの特定限度を超えたのか判別するために SQL ダイアレクトを調べ、失敗したステートメントを必要に応じて調整してください。

sqlcode: -107

sqlstate: 42622

SQL0108N 名前 “<name>” の修飾子の数が正しくありません。

説明: 名前 “<name>” の修飾が正しくありません。

名前 “<name>” を提供するオブジェクトは、修飾子を 1 つしか持てません。

修飾子付きか修飾子なしの表名、または相関名で、列名は修飾されます。場合によっては、列名には表名修飾子が必要になります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: オブジェクトの名前が正しく修飾されていることを確認してください。

sqlcode: -108

sqlstate: 42601

SQL0109N “<clause>” 文節は使用できません。

説明: 示された文節は、SQL ステートメント内では使用できません。

副照会、INSERT ステートメント、または CREATE VIEW ステートメントには、INTO、ORDER BY、または FOR UPDATE 文節を指定できません。組み込み SELECT ステートメントには、ORDER BY または FOR UPDATE 文節を指定できません。組み込み SELECT ステートメントには、副照会内を除いて、セット演算子を使用できません。カーソル宣言で使用される SELECT または VALUES ステートメントには、INTO 文節を指定できません。RAISE_ERROR 関数は、CAST 指定でいくつかのデータ・タイプにキャストされている場合にのみ、選択リストとして使用できます。

連合システム・ユーザー: パススルー・セッションの場合、データ・ソース特有の制約事項に違反している可能性があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 文節を取り除いて、SQL ステートメントを修正してください。

連合システム・ユーザー: パススルー・セッションの場合、どのデータ・ソースがエラーの原因であるかを判別してください (障害の起きたデータ・ソースについては、問題判別の手引きを参照してください)。どの特定制約事項が違反されたのか判別するデータ・ソースでどの特定制約事項を違反したのか判別するために SQL ダイアレクトを調べ、失敗したステートメントを必要に応じて調整してください。

sqlcode: -109

sqlstate: 42601

SQL0110N “<string>” は無効な 16 進数です。

説明: 16 進数 “<string>” が無効です。原因は以下のいずれかです。

- 無効な 16 進数が指定されています。'0 から 9'、'A から F'、および 'a から f' のみが使用できます。
- 偶数でない 16 進数が指定されています。
- 8000 以上の 16 進数が指定されています。

ユーザーの処置: 定数を訂正して、もう一度ステートメントの実行依頼を行ってください。

sqlcode: -110

sqlstate: 42606

SQL0111N 列関数 “<name>” に、列名が指定されていません。

説明: 列関数 “<name>” (AVG、MIN、MAX、SUM、または COUNT(DISTINCT)) が指定されましたが、オペランドに列名が入っていないため無効です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 列名を、列関数に対するオペランドである式に指定してください。

注: このエラーは、Version 2 以前の DB2 のリリースにのみ適用されます。

sqlcode: -111

sqlstate: 42901

SQL0112N 列関数 “< name>” のオペランドに、列関数、スカラー全選択、または副照会が含まれています。

説明: 列関数のオペランドに以下を組み込むことはできません。

- 列関数
- スカラー全選択
- 副照会

SELECT リストでは、算術演算子のオペランドは DISTINCT キーワードの入った列関数で使用できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 列関数の使用を訂正して無効な式を取り除き、もう一度やり直してください。

sqlcode: -112

sqlstate: 42607

SQL0113N “<identifier>” が許可されていない文字を含んでいるか、または文字を含んでいません。

説明: SQL 変数名、パラメーター名、または条件名 “<identifier>” に無効な文字が入っています。許可されているのは、SQL 通常 ID として有効な文字だけです。ID が区切られているため、大文字への変換が行われず、大文字と小文字がお互いに異なるものとして扱われることに注意してください。

ユーザーの処置: ID を訂正して、ステートメントを再実行依頼してください。

sqlcode: -113

sqlstate: 42601

SQL0117N 割り当てられた値の数が、指定された列の数、または暗黙に指定されている列の数と同じではありません。

説明:

- INSERT ステートメントの値リスト内の挿入値の数が、明示的または暗黙的に指定された列数と等しくありません。列リストが指定されていない場合は、表または視点のすべての列の入った列リストが暗黙に指定されたものと見なされます。
- SET 変換変数ステートメントまたは UPDATE ステートメントの SET 文節の割り当ての右側の値の数が、左側の列の数と一致しません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメントを修正して、指定した列または暗黙に指定される列ごとに 1 つの値を指定してください。

sqlcode: -117

sqlstate: 42802

SQL0118N INSERT、DELETE または UPDATE ステートメントのターゲットとなる表または視点が、FROM 文節でも指定されています。

説明: INSERT、DELETE または UPDATE ステートメントのターゲットとして指定された表または視点が、ステートメント内の副照会の FROM 文節中にも指定されています。

INSERT、UPDATE または DELETE のターゲットとなる表または視点を使って、挿入される値を渡したり、または挿入、更新、削除される行を修飾することはできません。

ステートメントは処理できません。

このメッセージは、バージョン 1.2 以前のサーバーと、DB2 コネクトを介してアクセスされるホストにのみ適用されます。

ユーザーの処置: 暗黙機能はサポートされていません。希望する結果を得るには、対象とする表または視点の一時的なコピーを作成し、そのコピーへの副選択を指定してください。

sqlcode: -118

sqlstate: 42902

SQL0119N **SELECT** 文節、**HAVING** 文節、または **ORDER BY** 文節に指定された “<expression-start>” で始まる式が、**GROUP BY** 文節に指定されていないか、あるいは **GROUP BY** 文節の指定されていない列関数のある **SELECT** 文節、**HAVING** 文節、または **ORDER BY** 文節に入っています。

説明: **SELECT** ステートメントは以下に示すエラーのいずれかになります。

- 識別可能な式と列関数が、**SELECT** 文節、**HAVING** 文節、または **ORDER BY** 文節に入っていますが、**GROUP BY** 文節がありません。
- 識別可能な式が **SELECT** 文節、**HAVING** 文節、または **ORDER BY** 文節に入っていますが、**GROUP BY** 文節に入っていません。

識別可能な式は、“<expression-start>” で始まる式です。式は単一系列名にするのがよいでしょう。

NODENUMBER または **PARTITION** 関数を **HAVING** 文節で指定した場合、表のすべての区分化キー列が **HAVING** 文節にあると見なされません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: **SELECT** 文節、**HAVING** 文節、または **ORDER BY** 文節の **GROUP BY** 文節に列を組み込むか、あるいは列関数を **SELECT** 文節から削除して、ステートメントを訂正してください。

sqlcode: -119

sqlstate: 42803

SQL0120N **WHERE** 文節、**GROUP BY** 文節、**SET** 文節、または **SET** 変換変数ステートメントに、列関数が含まれています。

説明: **WHERE** 文節が **HAVING** 文節の副照会で使用され、かつ列関数の引き数がグループに対する相関参照である場合にのみ、その **WHERE** 文節に列関数を入れることができます。 **GROUP BY** 文節については、列関数の引き数が、**GROUP BY** 文節の入った副選択とは異なる副選択の列に対する相関参照である場合にのみ、この文節に列関数を入れることができます。 **UPDATE** ステートメントの **SET** 文節または **SET** 変換変数ステートメントは、割り当ての右側の全選択内にもみ列関数を組み込むことができます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 列関数が使用されないように、または列関数がサポートされる場所でのみ使用されるように、ステートメントを変更してください。

sqlcode: -120

sqlstate: 42903

SQL0121N 列 “<name>” が **INSERT**、**UPDATE**、または **SET** 変換変数ステートメントで、2 回以上指定されています。

説明: 同じ列 “<name>” が、**INSERT** ステートメントの列リスト、**UPDATE** ステートメントの **SET** 文節の割り当ての左側、または **SET** 変換変数ステートメントの割り当ての左側に 2 回以上指定されています。視点の 2 つ以上の列が基礎表の同じ列にもとづいている視点の更新または挿入を行うときに、このエラーが起きる可能性があることに注意してください。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメントの構文を修正し、各列名を 1 度だけ指定するようにしてください。

sqlcode: -121

sqlstate: 42701

SQL0122N **GROUP BY** 文節のない **SELECT** ステートメントの **SELECT** 文節に、列名と列関数が入っているか、または **SELECT** 文節に含まれている列名が、**GROUP BY** 文節に入っていない。

説明: **SELECT** ステートメントは以下に示すエラーのいずれかになります。

- 列名と列関数が **SELECT** 文節中に入っていますが、**GROUP BY** 文節がありません。
- 列名が **SELECT** 文節中に入っていますが、**GROUP BY** 文節中に入っていない。

列がスカラー関数の中に入っている可能性があります。

NODENUMBER または **PARTITION** 関数を **SELECT** 文節で指定した場合、表のすべての区分化キー列が **SELECT** 文節にあると見なされません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: **SELECT** 文節内の **GROUP BY** 文節に列を組み込むか、または **SELECT** 文節から列を削除して、ステートメントを訂正してください。

sqlcode: -122

sqlstate: 42803

SQL0123N 関数 "<name>" 内の位置 "<n>" にあるパラメーターは、定数またはキーワードでなければなりません。

説明: 関数 "<name>" 内の位置 "<n>" にあるパラメーターが、定数でなければならない場合に定数でなく、キーワードでなければならない場合にキーワードではありませんでした。

ユーザーの処置: 関数の各引き数を、対応するパラメーターの定義に一致させてください。

sqlcode: -123

sqlstate: 42601

SQL0125N **ORDER BY** 文節の列番号が、1 より小さいか、結果表の列数より大きくなっています。

説明: ステートメント内の **ORDER BY** 文節中の列の番号が、1 以下かまたは結果表の列数 (**SELECT** 文節内の項目数) より大きくなっています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: **ORDER BY** 文節の構文を修正して、各列の **ID** が結果表の列を正しく識別するようにしてください。

sqlcode: -125

sqlstate: 42805

SQL0127N **DISTINCT** が 2 回以上指定されています。

説明: **DISTINCT ID** は、以下のように使用することはできません。

- **SELECT** 文節および列関数の両方で使用する。
- 同一の **SELECT** ステートメント内の複数の列関数で使用する。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: このエラーは、Version 2 以前の DB2 のリリースと、DB2 コネクトを介してアクセスされるホストのみに適用されます。

sqlcode: -127

sqlstate: 42905

SQL0129N ステートメントに含まれている表名が多すぎます (最大値は 15 です)。

説明: SQL ステートメントに入っている表名が多すぎます。1 個の SQL ステートメントが参照できる最大の表数は 15 です。参照される任意のビューの各表がこの限度内に含まれます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを複数の単純ステートメントに分割して、各ステートメントが 15 またはそれ以下の表参照となるようにしてください。

このメッセージは、バージョン 1.2 以前のサーバーと、DB2 コネクトを介してアクセスされるホストにのみ適用されます。

sqlcode: -129

sqlstate: 54004

SQL0130N **ESCAPE** 文節が単一文字でないか、またはパターン・ストリングに、エスケープ文字の無効なオカレンスが含まれています。

説明: エスケープ文字は、2 バイト以下の長さの単一文字でなければなりません。これがパターン・ストリングに現れるのは、エスケープ文字自身、パーセント記号、または下線が後に続く場合だけです。LIKE 述部の ESCAPE 文節に関する詳細については、SQL 解説書を参照してください。

ユーザーの処置: パターン・ストリングまたはエスケープ文字を訂正してください。

sqlcode: -130

sqlstate: 22019、22025

SQL0131N **LIKE** 述部のオペランドに適合しないデータ・タイプが含まれています。

説明: LIKE または NOT LIKE の左側が文字タイプの場合は、右側も文字タイプでなければなりません。

左側が漢字タイプの場合は、右側も漢字タイプでなければなりません。

式の左側のタイプが BLOB の場合は、右側も BLOB タイプでなければなりません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: LIKE 述部をチェックし、同じデータ・タイプに修正してください。

sqlcode: -131

sqlstate: 42818

SQL0132N 最初のオペランドがストリング式でないか、または 2 番目のオペランドがストリングではないため、**LIKE** 述部、または **POSSTR** スカラー関数が無効です。

説明: 最初のオペランドがストリング式でないか、または 2 番目のオペランドがストリングではないため、ステートメントの LIKE 述部または POSSTR スカラー関数が無効です。

LIKE または NOT LIKE 述部の左側のオペランド、または POSSTR の最初のオペランドは、ストリング表現でなければなりません。述部の右側または POSSTR のオペランドにある値は、以下のいずれでもかまいません。

- 定数
- 特殊レジスター
- ホスト変数
- 上記のいずれかのオペランドを持つスカラー関数
- 上記を連結する式

以下の制約があります。

- 式のエレメントは LONG VARCHAR、CLOB、LONG VARCHAR、または DBCLOB のタイプにはできません。さらに、BLOB ファイル参照変数にはできません。
- 式の実際の長さは、4000 バイトを超えることができません。

LIKE 述部または POSSTR スカラー関数は、DATE、TIME、TIMESTAMP では使用できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: LIKE および POSSTR の構文をチェックし、訂正してください。

sqlcode: -132

sqlstate: 42824

SQL0134N ストリング列、ホスト変数、定数、または関数 “<name>” の使用が不適切です。

説明: ストリング “<name>” の使用は許されていません。

以下では、結果が最大 255 バイトを超えるストリング・データ・タイプになる式は許可されていません。

- SELECT DISTINCT ステートメント
- GROUP BY 文節
- ORDER BY 文節
- DISTINCT を持つ列関数
- UNION ALL 以外のセット演算子の SELECT または VALUES ステートメント

以下に示す処理においては、結果が LONG VARCHAR または LONG VARCHAR データ・タイプとなる式の使用は許されません。

- EXISTS または NULL 以外の述部
- 列関数

- EXISTS または NULL 以外の述部の副照会の SELECT 文節
- INSERT ステートメント内の副選択の SELECT 文節
- 式が LONG VARCHAR または LONG VARCHAR ホスト変数でない場合の UPDATE ステートメント内の SET 文節の値式
- セット演算子の SELECT ステートメント (UNION ALL 以外)
- VARCHAR スカラー関数

連合システム・ユーザー: パススルー セッションで、データ・ソース特定制約事項はこのエラーの原因である可能性があります。障害のあるデータ・ソースについては、SQL 解説書の資料を参照してください。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ストリングで要求された処理はサポートされていません。

注: 255 バイトの限界を超えているかどうか不明な場合には、文字ストリング式を評価するために、コード・ページ変換の操作が必要となるかを考慮してください。ソースとターゲットのコード・ページによっては、ターゲットがソースより長い属性をもつ場合もあります。詳細に関しては、ストリングの制限およびストリングの変換について、SQL 解説書を参照してください。

sqlcode: -134

sqlstate: 42907

SQL0135N INSERT ステートメントまたは UPDATE ステートメントの長ストリング列の入力は、ホスト変数からのものか、またはキーワード NULL でなければなりません。

説明: UPDATE または INSERT は、NULL またはホスト変数を使用している定数、列名、または

副照会を使用しています。

長ストリング列は LONG VARCHAR、LONG VARCHAR、VARGRAPHIC、VARCHAR(n) のいずれか (n は 254 より大きく 32767 以下)、または VARGRAPHIC(n) (n は 127 より大きく 16383 未満) です。

ユーザーの処置: 長ストリングの使用に関しては、DB2 for VM Application Programming manual を参照してください。ステートメントを訂正してください。もう一度やり直してください。

sqlcode: -135

sqlstate: 56033

SQL0137N "**<operation>**" から導かれる長さが "**<maximum value>**" を超えています。

説明: 指定されたオペランドの連結結果が、結果タイプによってサポートされている長さを超えました。

いずれかのオペランドが CLOB で、その制限が 2 ギガバイトでない限り、文字ストリングの結果は 32,700 バイトに制限されます。

いずれかのオペランドが DBCLOB で、その制限が 1,073,741,823 (1 ギガバイトより 1 少ない値) 2 バイト文字でなり限り、漢字ストリングの結果は 16,350 文字に制限されます。

2 進数ストリングの結果 (オペランドは BLOB) は 2 ギガバイトに制限されます。

ユーザーの処置: オペランドの長さの合計が、サポートされている値を超えないようにして、もう一度やり直してください。

sqlcode: -137

sqlstate: 54006

SQL0138N SUBSTR 関数の 2 番目または 3 番目の引き数の値が、有効な値の範囲外になっています。

説明: 下記のいずれかの状態が発生しました。

- SUBSTR 関数の 2 番目の引き数が 1 より小さいか、M より大きい。
- SUBSTR 関数の 3 番目の引き数が 0 より小さいか、M-N+1 より大きい値を持つ式となっている。

固定長の場合、M は最初の引き数の長さであり、可変長の場合、M は最初の引き数の最大長です。N は 2 番目の引き数の値です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: SUBSTR 関数の 2 番目と 3 番目の引き数の値が、上記の規則に従っていることを確認してください。

sqlcode: -138

sqlstate: 22011

SQL0139W 列 "**<column>**" の指定に重複した文節があります。

説明: 列指定内の文節が重複しています。

ステートメントは正常に処理されましたが、重複した文節は無視されました。

ユーザーの処置: 列指定を訂正してください。

sqlcode: +139

sqlstate: 01589

SQL0142N この SQL ステートメントはサポートされていません。

説明: 他の IBM リレーショナル・データベース製品では、有効な組み込み SQL ステートメントかもしれませんが、データベース・マネージャーではサポートされていません。

連合システム・ユーザー: SQL ステートメントが

SQL ステートメントをサポートしないデータ・ソースに送信されていないか確認してください。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: SQL ステートメントの構文を変更するか、そのステートメントをプログラムから取り除いてください。

連合システム・ユーザー: 理由が不明な場合は、要求を失敗させたデータ・ソースに対して問題を分離し (障害の起きたデータ・ソースを識別するための手順については、問題判別の手引きを参照してください)、そのデータ・ソースの SQL ダイアレクトを調べてください。

SQL0143W この SQL ステートメントはサポートされておらず、無効な構文は無視されます。

説明: 他の IBM リレーショナル・データベース製品では、有効な組み込み SQL ステートメントかもしれませんが、データベース・マネージャーではサポートされていません。

このステートメントは一貫性のない、または望ましくない結果を招く可能性があります。

ユーザーの処置: SQL ステートメントの構文を変更するか、そのステートメントをプログラムから取り除いてください。

SQL0150N INSERT、DELETE、あるいは UPDATE ステートメント内の視点、タイプ付き表、または要約表は、要求された操作が許可されていない視点、タイプ付き表、または要約表です。

説明: INSERT、DELETE、あるいは UPDATE ステートメント内で指定されている視点、タイプ付き表、または要約表は、要求された挿入、更新、または削除操作が実行できないように定義されています。

視点は、SELECT ステートメントに次のいずれかがある場合にのみ、読み取り専用となります。

- DISTINCT キーワード
- 選択リスト内の列関数
- GROUP BY または HAVING 文節
- 以下のいずれかの項目を指定する FROM 文節
 - 複数の表または視点
 - 読み取り専用の視点 (SYSCAT.SYSVIEWS の READONLY 列が 'Y' に設定されています)
 - SELECT ステートメントの副照会の FROM 文節でも識別される表または視点。(注: これは DB2 Version 2 以前のリリースにのみ該当します。)
- セット演算子 (UNION ALL 以外)
- 連合システム・ユーザー: 列の更新を不可能にするデータ・ソース特定制限

上記の条件は SELECT ステートメントの副照会には適用されませんので、注意してください。

一時的ではない構造化タイプに定義されているタイプ付き表に直接、行を挿入することはできません。この表の副表では挿入が許可されています。

要約表には、挿入、更新、あるいは削除操作を行うことはできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 要求されている機能は視点あるいは要約表では実行できません。

連合システム・ユーザー: 理由が不明な場合は、要求を失敗させたデータ・ソースに対して問題を分離し (障害の起きたデータ・ソースを識別するための手順については、問題判別の手引きを参照してください)、そのデータ・ソースのオブジェクト定義と更新制約を調べてください。

sqlcode: -150

sqlstate: 42807

SQL0151N 列 “<name>” は更新できません。

説明: 以下のいずれかの状態のため、示された列は更新できません。

- 対象表が視点で、示された列が、列を更新できないスカラー関数、式、キーワード、定数、または視点の列から派生した列です。
- 示された列が、システム・カタログの更新不能列です。

連合システム・ユーザーは、他のデータ・ソース特有の制限が列の更新を妨げていないかを調べてください。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 要求された機能はサポートされません。更新可能カタログ (および更新可能列) のリストについては、*SQL 解説書* を参照してください。

連合システム・ユーザー: 理由が不明な場合は、要求を失敗させたデータ・ソースに対して問題を分離し (問題判別の手引きを参照してください)、そのデータ・ソースのオブジェクト定義と更新制約を調べてください。

sqlcode: -151

sqlstate: 42808

SQL0153N CREATE VIEW ステートメントまたは共通表式に、列リストがありません。

説明: 以下の場合には、CREATE VIEW ステートメントまたは共通表式に列リストを指定する必要があります。

- 全選択の SELECT リストのすべてのエレメントが、列名以外で AS 文節を使用して名前が指定されていません。
- AS 文節を使用して名前が変更されていない同一の列名を持つ 2 つのエレメントが存在します。

ステートメントは処理できません。CREATE VIEW ステートメントの場合、視点は作成されません。

ユーザーの処置: CREATE VIEW ステートメントまたは共通表式に列名リストを指定するか、または AS 文節を使用して、全選択の SELECT リストの列の名前を指定してください。

sqlcode: -153

sqlstate: 42908

SQL0155N トリガー変換表は変更できません。

説明: トリガーに、OLD_TABLE または NEW_TABLE が識別された REFERENCING 文節が入っています。DELETE、INSERT または UPDATE トリガー SQL ステートメントが、変更する表として指定されている OLD_TABLE または NEW_TABLE と同じ名前を使用しました。

ユーザーの処置: DELETE、INSERT または UPDATE トリガー SQL ステートメントを、トリガー・アクションから取り除くか、または変換表の名前を変更して、変更する表と矛盾しないようにしてください。

sqlcode: -155

sqlstate: 42807

SQL0156N この処理に使用されている名前が、表名ではありません。

説明: SQL ステートメント ALTER TABLE、DROP TABLE、SET CONSTRAINTS、CREATE TRIGGER、CREATE INDEX、LOCK TABLE、および RENAME TABLE は表にのみ適用され、視点には適用できません。RUNSTATS および LOAD ユーティリティーも、表にのみ適用可能で、視点には適用できません。

連合システム・ユーザー: いくつかのユーティリティーおよびステートメントは、連合環境ではサポートされていません。詳細については「管理の手引き」を参照してください。

ステートメントまたはユーティリティは処理されません。

ユーザーの処置: 正しい表名がステートメントに指定されていることを確認してください。別名を指定する場合は、別名が表名に変換されることを確認してください。

連合システム・ユーザー: オブジェクトがニックネームではないことを確認してください。

sqlcode: -156

sqlstate: 42809

SQL0157N 基礎表を識別していないため、“<name>”は **FOREIGN KEY** 文節では許可されていません。

説明: オブジェクト “<name>” が、CREATE または ALTER TABLE ステートメントの FOREIGN KEY 文節に指定されました。FOREIGN KEY 文節は基礎表を識別していなければなりません。

ステートメントは処理できません。指定した表は作成または更新されません。

ユーザーの処置: ステートメントを修正して、FOREIGN KEY 文節内に基礎表名を指定してください。

別名を指定する場合は、別名が基礎表名に変換されることを確認してください。

sqlcode: -157

sqlstate: 42810

SQL0158N “<name>”用に選択した列数が、関連する全選択の結果表にある列数と同じではありません。

説明: ID “<name>”は、次の中から識別できません。

- CREATE VIEW ステートメントで命名された視点
- 共通表式の表名

- ネストされた表の式の関連名
- CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントに指定されている要約表
- CREATE FUNCTION ステートメントに指定されている関数
- CREATE METHOD ステートメントに指定されているメソッド

指定された列数の数は、関連した全選択の結果表内の列数と同じでなくてはなりません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: “<name>”に定義されている列名のリストが関連した全選択内で結果表の各列に対して名前を指定するよう、構文を訂正してください。

sqlcode: -158

sqlstate: 42811

SQL0159N ステートメントは、“<expected-object-type>”よりむしろ “<object-type>”を識別する “<object>”を参照します。

説明: ステートメントまたはコマンドの一部として指定されているオブジェクト “<object>”は、予想されるタイプ “<expected-object-type>”ではなく、“<object-type>”のオブジェクト・タイプを参照します。

ステートメントまたはコマンドで指定するオブジェクトのタイプは、“<expected-object-type>”で識別されるタイプと同じでなければなりません。たとえば、ステートメントが DROP ALIAS *PBIRD.TI* の場合、*PBIRD.TI* は別名でなければなりません。

ユーザーの処置: “<expected-object-type>”で識別されるオブジェクトのタイプと、正しく一致するようステートメントまたはコマンドを変更します。

sqlcode: -159

SQL0160N WITH CHECK オプションは指定された視点には無効です。

説明: 以下の場合、WITH CHECK OPTION 文節を視点定義で使用することはできません。

- この視点は読取専用として定義されています。SELECT ステートメントに、以下に示す項目のいずれかが入っている場合、視点は読み取り専用となります。(上記の条件は SELECT ステートメントの副照会には適用されませんので、注意してください。)
 - DISTINCT キーワード
 - 選択されたりリスト内の列関数
 - GROUP BY または HAVING 文節
 - 以下のいずれかを示す FROM 文節
 - 複数の表または視点
 - 読み取り専用視点
 - セット演算子 (UNION ALL 以外)
- 副照会の入った CREATE VIEW ステートメントの SELECT ステートメント (いくつかのカタログ表の特定の統計列を除く)

連合システム・ユーザー: WITH CHECK オプションは、更新可能なニックネームを参照する視点ではサポートされていません。

ステートメントは処理できません。指定した視点は作成されません。

ユーザーの処置: 上記の規則に従うように、WITH CHECK OPTION 文節を除去するか、または視点定義を変更してください。

sqlcode: -160

sqlstate: 42813

SQL0161N INSERT または UPDATE の結果の行が、視点定義に合いません。

説明: WITH CHECK OPTION 文節が、INSERT または UPDATE ステートメントのオブジェクトである視点定義で指定されました。その結果、処理結果が視点定義に一致するように、その視点内の行に対する挿入または更新処理のすべてがチェックされます。

ステートメントは処理できません。挿入または更新処理は実行されず、視点および基礎表の内容は変更されませんでした。

ユーザーの処置: 視点定義を調べて、要求した INSERT または UPDATE が拒否された理由を判別してください。これは、データ固有の条件の場合があることに注意してください。

要求した INSERT または UPDATE が、ターゲットの列の範囲外の値を設定しようとした可能性があります。システム・カタログ更新に関しては、SQL 解説書 で、カタログの様々な更新可能な列に対する値の有効な範囲を参照してください。

連合システム・ユーザーは、理由が不明な場合は、要求を失敗させたデータ・ソースに対して問題を分離し (問題判別の手引きを参照してください)、そのデータ・ソースのオブジェクト定義と視点定義を調べてください。

sqlcode: -161

sqlstate: 44000

SQL0170N 関数 “<name>” の引き数の数が間違っています。

説明: 示されたスカラー関数 “<name>” 内の引き数の数が、少なすぎるかまたは多すぎます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: そのスカラー関数に指定した引き数の数が正しいことを確認してください。

sqlcode: -170

sqlstate: 42605

SQL0171N ルーチン “<name>” の引き数
“<n>” の長さまたは値が誤って
います。

説明: ルーチン “<name>” の引き数 “<n>” の長さまたは値が誤っています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ルーチンの引き数が、ルーチンの規則にしたがっていることを確認してください。

sqlcode: -171

sqlstate: 42815

SQL0172N “<name>” は、有効な関数名では
ありません。

説明: SQL ステートメントに、認識できないスカラー関数が入っています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 示された関数名のつづりが正しいことを確認してください。

sqlcode: -172

sqlstate: 42601

SQL0176N TRANSLATE スカラー関数の 2 番
目、3 番目、または 4 番目の引き
数が間違っています。

説明: ステートメントが以下の 1 つ以上の理由
で正しくありません。

- TRANSLATE スカラー関数では、異なるバイト数でエンコードされた他の文字による、文字の置き換えが許されない。たとえば、1 バイト文字を 2 バイト文字に置き換えられないだけでなく、2 バイト文字も 1 バイト文字に置き換えることができません。
- TRANSLATE スカラー関数の 2 番目と 3 番目の引き数は、正しい形式の文字で終わる必要があります。

- TRANSLATE スカラー関数の最初の引き数が CHAR または VARCHAR の場合、4 番目の引き数は、正しい形式の 1 バイト文字でなければなりません。

- TRANSLATE スカラー関数の最初の引き数が GRAPHIC または VARGRAPHIC の場合、4 番目の引き数は、正しい形式の 2 バイト文字でなければなりません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: TRANSLATE スカラー関数の 2 番目、3 番目、4 番目の引き数が正しい値を持っていることを確認してください。

sqlcode: -176

sqlstate: 42815

SQL0180N 日時値のSTRING表記の構文が、
間違っています。

説明: 日付、時刻、またはタイム・スタンプの値のSTRING表記が、指定されたデータ・タイプまたは暗黙的なデータ・タイプの構文に合っていない。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 日付、時刻、またはタイム・スタンプの値の構文が、そのデータ・タイプの構文にしたがっていることを確認してください。そのSTRINGを日付、時刻、またはタイム・スタンプの値として使用していない場合は、使用時に、そのデータ・タイプにならないことを確認してください。

連合システム・ユーザー: 問題は データ・ソースの日時表示の問題が原因である可能性があります。理由が不明な場合は、要求を失敗させたデータ・ソースに対して問題を分離し（問題判別の手引きを参照してください）、そのデータ・ソースの日時表示の制約事項を調べてください。

sqlcode: -180

sqlstate: 22007

SQL0181N 日時値のストリング表記が許容範囲を超えています。

説明: 日付、時刻、またはタイム・スタンプの値のストリング表記に、許容範囲を超える値が入っています。

このエラーは、アプリケーションが日付時刻を作成するのに使用したものと異なる日付時刻形式の国コードを使用するアプリケーションから、日付時刻値にアクセスすることで起こります。たとえば、dd/mm/yyyy の形式で保管されたストリングの日付時刻値は、mm/dd/yyyy 形式を採用するアプリケーションを使用するときには無効になりません。

日付、時刻、またはタイム・スタンプの値の有効な範囲は、次のとおりです。

- 年の場合、0001 から 9999。
- 月の場合、1 から 12。
- 日の場合、1 から 31 (月が 1、3、5、7、8、10、12 の場合)。
- 日の場合、1 から 30 (月が 4、6、9、11 の場合)。
- 日の場合、1 から 28 (月が 2 (うるう年でない) 場合)。
- 日の場合、1 から 29 (月が 2 (うるう年) の場合)。
- 時間の場合、0 から 24。時刻が 24 の場合、他の表示データは 0 になります。時間形式が USA の場合は、時刻を 12 より大きくすることはできません。
- 分の場合、0 から 59。
- 秒の場合、0 から 59。
- マイクロ秒の場合、0 から 999999。
- 年間通算日の場合、001 から 365 (うるう年でない)。
- 年間通算日の場合、001 から 366 (うるう年)。

連合システム・ユーザー: 問題はデータ・ソースの日時表示の問題が原因である可能性があります

ず。データ・ソースでの日付と時刻の値の範囲については、データ・ソースの資料を参照してください。理由が不明な場合は、要求を失敗させたデータ・ソースに対して問題を分離し (問題判別の手引きを参照してください)、そのデータ・ソースの日時表示の制約事項を調べてください。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 指定した値が有効な範囲内であることを確認してください。また、アプリケーションの日付時刻形式がそのストリング値と同じであることも確認してください。

sqlcode: -181

sqlstate: 22007

SQL0182N 日時値またはラベル付き期間の表現が無効です。

説明: 指定された表現に、正しくない日付の値、時刻の値、タイム・スタンプの値、またはラベル付き期間が使用されています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを調べて問題の原因を判別し、ステートメントを訂正してください。

sqlcode: -182

sqlstate: 42816

SQL0183N 日時算術演算または日時スカラー関数の結果が、有効な日付の範囲を超えています。

説明: 演算処理の値が日付またはタイム・スタンプで、0001-01-01 から 9999-12-31 までの範囲を超えています。

ステートメントは処理されません。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを調べて、問題の原因を判別してください。問題がデータによるものであれば、エラーが起きたときに処理されていたデータを調べてください。

sqlcode: -183

sqlstate: 22008

SQL0187N 現在の日付 / 時刻特殊レジスタ
に対する参照が無効です。

説明: 日付 / 時刻情報の検索時に、オペレーテ
ィング・システムがエラーを見つけました。

ユーザーの処置: システム TOD クロックと時間
帯の設定が正しいことを確認してください。

sqlcode: -187

sqlstate: 22506

SQL0190N ALTER TABLE “<table-name>”
が、既存の列と互換性のない列
“<column-name>” の属性を指定
しました。

説明: ALTER TABLE ステートメントにある表
“<table-name>” の列 “<column-name>” で ALTER
COLUMN 文節に指定されている属性に、既存の
列の属性との互換性がありません。以下のいずれ
かの理由で、エラーが返されました。

- SET DATA TYPE 文節が指定されている場合:
 - 既存の列がデータ・タイプ VARCHAR では
ない
 - 既存の列の長さが、文節に指定されている長
さを超えている
- SET EXPRESSION 文節が指定されている場
合、既存の列が、式によって生成されたもの
として定義されていない

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 指定された属性に既存の列との
互換性を与え、属性指定を除去するか、または異
なる列名を指定してください。

sqlcode: -190

sqlstate: 42837

SQL0191N フラグメント化された MBCS 文字
のためにエラーが発生しました。

説明: 考えられる理由は、以下の通りです。

1. ユーザー・データに正しくない形式のマルチ
バイト文字が入っていた。たとえば、DBCS
文字の最初のバイトは見つかったが、2 番目
のバイトが見つからないというような場合で
す。
2. SUBSTR または POSSTR などのスカラー関
数がマルチバイト・ストリングを不正に切り
捨てた。これらの関数については、データベ
ース・コード・ページのコンテキスト内で、
開始および長さの値がバイト単位で正しくな
ければなりません。Unicode データベースにつ
いては、これと共通の原因として、UTF-8 ス
トリングの開始および長さが正しくない可能
性があります。
3. TRANSLATE などのスカラー関数がマルチバ
イト・ストリングを変更した。

連合システム・ユーザー: この状態はデータ・ソ
ースによっても検出できます。

ユーザーの処置:

1. 入力データを訂正して、もう一度やり直して
ください。
2. 文字がデータベース・コード・ページに変換
されるときに開始および長さの値を変更し
て、マルチバイト文字が不正に切り捨てられ
ないようにしてください。
3. エラーのある TRANSLATE を訂正してくださ
い。

連合システム・ユーザー: データが正しい場合
は、要求を失敗させたデータ・ソースに対して問
題を分離し (問題判別の手引きを参照してくださ
い)、そのデータ・ソースの DBCS の制約事項を
調べてください。データが正確であるようなら
ば、IBM サービスに連絡してください。

sqlcode: -191

sqlstate: 22504

SQL0193N ALTER TABLE ステートメントでは、列 “<column-name>” が **NOT NULL** として指定されており、**DEFAULT** 文節が指定されていないか、**DEFAULT NULL** として指定されています。

説明: すでに存在する表に新しい列を追加する場合は、すべての既存の行の新しい列に対して、値を割り当てる必要があります。デフォルトでは、null 値が割り当てられます。ただし、列が **NOT NULL** として定義されているので、**NULL** 以外のデフォルト値を定義する必要があります。

ユーザーの処置: 列の **NOT NULL** 制約を取り除くか、または列に対して **NULL** 以外のデフォルト値を指定してください。

sqlcode: -193

sqlstate: 42601

SQL0197N 修飾された列名は、ORDER BY 文節では許されていません。

説明: セット演算子 (**UNION**、**EXCEPT**、**INTERSECT**) の入った全選択の **ORDER BY** 文節は、修飾された列名を持つことができません。

ユーザーの処置: **ORDER BY** 文節のすべての列名が無修飾であることを確認してください。

sqlcode: -197

sqlstate: 42877

SQL0198N PREPARE または EXECUTE IMMEDIATE ステートメントのステートメント・ストリングが、**ブランク**または**空**です。

説明: **PREPARE** または **EXECUTE IMMEDIATE** ステートメントの対象であるホスト変数がすべて**ブランク**であるか、または**空**のストリングです。

PREPARE または **EXECUTE IMMEDIATE** ステートメントは完了されません。

ユーザーの処置: プログラムの論理を修正して、ステートメントが実行される前に、**PREPARE** または **EXECUTE IMMEDIATE** ステートメントのオペランドに有効な **SQL** ステートメントを指定してください。

sqlcode: -198

sqlstate: 42617

SQL0199N “<text>” に続く予約語 “<keyword>” の使用が無効です。
使用可能なトークンは “<token-list>” です。

説明: 予約語 “<keyword>” が “<text>” の後に現れときに、ステートメントのその部分で、**SQL** ステートメントの構文エラーが見つかりました。「<text>” フィールドは、予約語の前にある 20 文字の **SQL** ステートメントを示しています。ステートメント内の文節が間違った順になっている可能性があります。

解決の手掛かりとして、“<token-list>.” として、**SQLCA** の「**SQLERRM**」フィールドに有効なトークンの一部のリストが提供されます。このリストは、その時点までのステートメントが正しいと想定しています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: キーワード域のステートメントを調べてください。コロンの場合は、追加してください。文節が正しい順序で指定されていることを確認してください。メッセージに示されている予約語が予約語としてリストされている場合は、その語を区切り **ID** にしてください。

注: このエラーは、**Version 2** 以前の **DB2** のリリースにのみ適用されます。

sqlcode: -199

sqlstate: 42601

SQL0200 - SQL0299

SQL0203N 参照する列 “<name>” が確定できません。

説明: 列 “<name>” がステートメントで使用されており、その列が参照可能な列が複数ありました。これは、以下のいずれかによる可能性があります。

- FROM 文節に指定された、同じ名前の列を持つ 2 つの表
- 選択リストの複数の列に適用される名前を参照する ORDER BY 文節
- それが古いまたは新しい変換変数を参照する場合は、指示するための相関名を使用しない CREATE TRIGGER ステートメントの対象表の列に対する参照

列名には、どの表の列なのかを明確にするために、より詳細な情報が必要です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 列名に修飾子を追加してください。修飾子は表名または相関名です。選択リストの列の名前の変更が必要になる場合があります。

sqlcode: -203

sqlstate: 42702

SQL0204N “<name>” は未定義の名前です。

説明: このエラーは、以下のいずれかが原因です。

- “<name>” によって示されているオブジェクトが、データベースに定義されていません。
- データ・タイプが使用されています。このエラーは、以下の理由で起きる可能性があります。
 - “<name>” が修飾されている場合は、この名前のデータ・タイプがデータベースに存在しません。

- “<name>” が修飾されていない場合は、ユーザーの関数パスに、必要なデータ・タイプが属しているスキーマが入っていなかったために使用されました。
 - パッケージがバインドされた時間より前の作成タイム・スタンプのデータベースには、データ・タイプはありません (静的ステートメントに該当します)。
 - データ・タイプが CREATE TYPE ステートメントの UNDER 文節にある場合は、タイプ名は定義されたタイプと同じ可能性があります。これは有効ではありません。
- 関数が以下のいずれかで参照されています。
 - DROP FUNCTION ステートメント
 - COMMENT ON FUNCTION ステートメント
 - CREATE FUNCTION ステートメントの SOURCE 文節
- “<name>” が修飾されている場合は、関数が存在しません。“<name>” が修飾されていない場合は、この名前関数が現在の関数パスのいずれのスキーマにも存在しません。関数が COALESCE、NULLIF、あるいは VALUE の組み込み関数に基づくことはできないことに注意してください。

この戻りコードは、すべてのタイプのデータベース・オブジェクトに対して生成されます。

連合システム・ユーザー: “<name>” によって示されているオブジェクトが、データベースに定義されていません。あるいは、“<name>” は DROP NICKNAME ステートメント内のニックネームではありません。

一部のデータ・ソースは、“<name>” に適切な値を提供しません。この場合、メッセージ・トークンは “OBJECT:<data source> TABLE/VIEW” の形式になります。これは、指定されたデータ・ソースの実際の値が不明であることを示します。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: オブジェクト名 (必須の修飾子を含む) が、SQL ステートメントに正しく指定されており、それが存在することを確認してください。SOURCE 文節にデータ・タイプまたは関数が抜けている場合は、オブジェクトが存在しない可能性があるか、またはオブジェクトはどこかに存在しているが、スキーマが関数パスに存在しない可能性があります。

連合システム・ユーザー: ステートメントが DROP NICKNAME の場合、オブジェクトが実際にニックネームであるかどうか確認してください。オブジェクトは連合データベースまたはデータ・ソースに存在しない可能性があります。連合データベース・オブジェクトとデータ・ソースオブジェクト (存在する場合) の存在を確認してください。

sqlcode: -204

sqlstate: 42704

SQL0205N 列または属性 “<name>” が、“<object-name>” で定義されていません。

説明: “<object-name>” が表または視点である場合は、“<name>” は、“<object-name>” で定義されていない列です。“<object-name>” が構造化タイプである場合は、“<name>” は、“<object-name>” で定義されていない属性です。

連合システム・ユーザー: “<object-name>” はニックネームを指すこともあります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: “<object-name>” が表または視点である場合は、列および表または視点名 (必須の修飾子を含む) が、SQL ステートメントに正しく指定されていることを確認してください。“<object-name>” が構造型の場合は、属性およびタイプ名 (必須の修飾子を含む) が SQL ステートメントに正しく指定されていることを確認してください。

また、REORG または IMPORT 時にこのエラーを受け取った場合は、索引の列名が、管理の手引き で定義されているデータベース・マネージャ一命名規則に違反している可能性があります。

sqlcode: -205

sqlstate: 42703

SQL0206N 使用されているコンテキストで、“<name>” は無効です。

説明: このエラーは、以下の場合に起きる可能性があります。

- INSERT または UPDATE ステートメントの場合は、指定された列が表の列でないか、あるいは挿入または更新の対象として指定された視点ではありません。
- SELECT または DELETE ステートメントの場合は、示された列が、ステートメント内の FROM 文節で識別された表または視点の列ではありません。
- ORDER BY 文節については、指定した列が、許可されない副選択の相関参照となっていない。
- CREATE TRIGGER、CREATE METHOD、または CREATE FUNCTION ステートメントの場合は次のとおりです。
 - 参照名 “<name>” は、列名、ローカル変数、または遷移変数には解決されません。
 - SIGNAL ステートメントに指定された条件名 “<name>” は、まだ宣言されていません。
- CREATE TRIGGER ステートメントの場合は、以下の通りです。
 - OLD または NEW 相関名を使用せずに、参照が対象となる表の列に対して行われました。
 - トリガー・アクションの SET 変換変数ステートメントの割り当ての左側が、新しい変換変数のみがサポートされる場所で、古い変換変数を指定しました。

- PREDICATES 文節を指定された CREATE FUNCTION ステートメントの場合は、以下のとおりです。
 - SQL 関数の RETURN ステートメントが、パラメーターではない変数、または RETURN ステートメントの効力範囲にない他の変数を参照しています。
 - FILTER USING 文節が、パラメーター名ではない、または WHEN 文節内の式名ではない変数を参照しています。
 - 索引指数規則の検索ターゲットが、作成中の関数のパラメーター名に一致していません。
 - 索引指数規則の検索ターゲットが、EXPRESSION AS 文節内の式名、または作成中の関数のパラメーター名に一致していません。
- CREATE INDEX EXTENSION ステートメントの場合、RANGE THROUGH 文節または FILTER USING 文節が、文節で使用できるパラメーター名ではない変数を参照しています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 名前が SQL ステートメントに正しく指定されていることを確認してください。SELECT ステートメントの場合は、すべての必須の表が FROM 文節に指定されていることを確認してください。ORDER BY 文節の副選択については相関列参照がないので、注意してください。表に対して相関名を使用している場合は、後続の参照が、表名ではなく、相関名を使用していることを確認してください。

CREATE TRIGGER ステートメントの場合は、新しい変換変数のみが SET 変換変数ステートメントの割り当ての左側に指定されており、対象となる表の列に対する参照に、相関名が指定されていることを確認してください。

sqlcode: -206

sqlstate: 42703

SQL0207N セット演算子を使用する SELECT ステートメントの ORDER BY 文節では、列名を使用できません。

説明: セット演算子を持つ SELECT ステートメントに、列名を指定する ORDER BY 文節が入っています。この場合、ORDER BY 文節の列のリストは、整数しか持つことができません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ORDER BY 文節の列リストの中には、整数のみを指定してください。

注: このエラーは、Version 2 以前の DB2 と DB2 コネクトを介してアクセスされるホストにのみ適用されます。

sqlcode: -207

sqlstate: 42706

SQL0208N 列 “<name>” は結果表に含まれないので、ORDER BY 文節は無効です。

説明: ORDER BY リスト中に指定されている列 “<name>” が、SELECT リスト中に指定されておらず、結果表にも無いため、ステートメントは有効ではありません。SELECT ステートメントの全選択が副選択でない場合、結果表の列のみが、その結果の順序付けに使用できます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 示された列を結果表へ追加するか、または ORDER BY 文節から削除して、ステートメントの構文を訂正してください。

sqlcode: -208

sqlstate: 42707

SQL0212N “<name>” は、重複した表指定であるか、あるいはトリガー定義の **REFERENCING** 文節に重複指定されています。

説明: “<name>” によって指定されている表、視点、別名、または相関名が、同一の FROM 文節中にある表、視点、別名、または相関名と同じです。

ステートメントが CREATE TRIGGER の場合は、REFERENCING 文節が、対象となる表と同じ名前を指定する場合は、あるいは OLD または NEW 相関名、あるいは NEW_TABLE または OLD_TABLE ID の複数に対して、同じ名前を持つ場合があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: SELECT ステートメントの FROM 文節を訂正してください。相関名を表名、視点名、別名に関連させて、表名、視点名、別名、または相関名が FROM 文節内の他の表名、視点名、別名、または相関名と同じにならないようにしてください。

CREATE TRIGGER ステートメントの場合は、REFERENCING 文節内の名前を、重複しないように変更してください。

sqlcode: -212

sqlstate: 42712

SQL0214N **ORDER BY** 文節の位置の式、または “<clause-type>” 文節の “<expression-start-or-order-by-position>” で始まる式が無効です。理由コード = “<reason-code>”

説明: 以下のような “<reason-code>” で示された理由で、“<clause-type>” 文節の式 “<expression-start-or-order-by-position>” の最初の部分で定義した式が無効です。

1 SELECT ステートメントの全選択は、副

選択ではありません。このタイプの SELECT ステートメントについては、ORDER BY 文節に式は許可されません。“<clause-type>” が ORDER BY である場合のみ、この理由コードが起きます。

2 SELECT 文節に DISTINCT が指定され、SELECT リストの式にちょうど一致する式ではありません。“<clause-type>” が ORDER BY である場合のみ、この理由コードが起きます。

3 ORDER BY 文節に列関数があるため、グループ化が起きています。“<clause-type>” が ORDER BY である場合のみ、この理由コードが起きます。

4 GROUP BY 文節の式をスカラー全選択にすることはできません。“<clause-type>” が GROUP BY である場合のみ、この理由コードが起きます。

5 GROUP BY 文節では、参照解除演算子の左方は可変関数にできません。“<clause-type>” が GROUP BY である場合のみ、この理由コードが起きます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 次のように “<reason-code>” が指定する理由に基づき、SELECT ステートメントを修正してください。

1 ORDER BY 文節から式を除去してください。結果の列を参照する場合は、ソート・キーを単一整数または単一系列名の形式に変更してください。

2 SELECT 節から DISTINCT を除去するか、またはソート・キーを単一整数または単一系列名の形式に変更してください。

3 GROUP BY 文節を追加するか、または ORDER BY 文節から列関数を除去してください。

4 GROUP BY 文節から、あらゆるスカラ

一全選択を除去してください。スカラー全選択に基づいた結果の列をグループ化させる場合は、ネストした表の式または共通の表の式を使用し、結果の列としての式で結果の表をまず提供してください。

5 GROUP BY 文節で、参照解除演算子の左方から任意の可変関数を除去してください。

sqlcode: -214

sqlstate: 42822

SQL0216N 述部演算子の両側にあるエレメントの数が一致しません。述部演算子は“<predicate-operator>”です。

説明: 述部には、述部演算子の右または左側(または両側)に、要素のリストが備えられています。エレメント数は両側で同じものでなくてはなりません。これらのエレメントは括弧で囲まれた式のリスト内に、または全選択にリストを選択するエレメントとして表示される可能性があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 述部演算子で、エレメント数が一致していない述部を訂正してください。

sqlcode: -216

sqlstate: 428C4

SQL0217W 情報の解釈要求しか実行されていないので、ステートメントは実行されませんでした。

説明: いずれかの解釈特殊レジスターの現在の値が、EXPLAIN に設定されています。この値を使えば、動的 SQL ステートメントの準備と解釈を行うことはできますが、動的ステートメントを実行することはできません。

ユーザーの処置: この状態になったインターフェースまたはアプリケーションから、適切な SET

ステートメントを発行して、EXPLAIN 以外を設定するように、該当する解釈特殊レジスターの値を変更してください。

sqlcode: +217

sqlstate: 01604

SQL0219N 必須の解釈表“<name>”がありません。

説明: 解釈機能が呼び出されましたが、必須の解釈表“<name>”を見つけないことができませんでした。解釈機能を呼び出す前に、解釈表を作成する必要があります。

ユーザーの処置: 必須の解釈表を作成してください。sqllib の下の misc ディレクトリーの EXPLAIN.DDL というファイルで使用可能な解釈表を作成するには、SQL データ定義言語ステートメントが必要です。

sqlcode: -219

sqlstate: 42704

SQL0220N 解釈表“<name>”、列“<name2>”は定義が正しくないか、または欠落しています。

説明: 解釈機能が呼び出されましたが、解釈表“<name>”の定義が予期されたものではありませんでした。以下の原因のため、定義が正しくありません。

- 正しくない列数が定義されています。(“<name2>”が数値の場合)。
- 正しくないデータ・タイプが列に割り当てられています。(“<name2>”が列名の場合)。

ユーザーの処置: 示された解釈表の定義を訂正してください。sqllib の下の misc ディレクトリーの EXPLAIN.DDL というファイルで使用可能な解釈表を作成するには、SQL データ定義言語ステートメントが必要です。

sqlcode: -220

sqlstate: 55002

SQL0222N カーソル “<cursor-name>” を使用するホールに対して操作が試行されました。

説明: SQLSTATE が 24510 の場合、エラーが起きたということです。 SENSITIVE STATIC と定義されているカーソル “<cursor-name>” を使って位置指定の更新または削除が試みられ、現在行は、削除ホールまたは更新ホールと識別されました。ホールが発生するのは、カーソル “<cursor-name>” の結果表の現在行に対応するデータベース内の行を DB2 が更新または削除しようとしたときに、それに対応する行がもう基礎表内に存在しない場合です。

SQLSTATE が 02502 の場合、これは警告です。カーソル “<cursor-name>” のフェッチの処理中に削除ホールまたは更新ホールが検出されました。ホールが発生するのは、カーソル “<cursor-name>” の結果表の現在行に対応する行をデータベースから DB2 が再フェッチしようとしたときに、それに対応する行がもう基礎表内に存在しない場合です。データは戻されません。

削除ホールが起きるのは、基礎表内の対応する行が削除されてしまっている場合です。

更新ホールが起きるのは、基礎表内の対応行が更新されてしまって、カーソルの SELECT ステートメントに指定されている検索条件をその更新後の行がもう満足しなくなった場合です。

ステートメントは処理されません。カーソルはホール上に置かれたままになります。

ユーザーの処置: FETCH ステートメントを発行し、ホールではない行上にカーソルを位置付けます。

sqlcode: -222

sqlstate: 02502,24510

SQL0224N 結果表がカーソル “<cursor-name>” を使用した基礎表と一致しません。

説明: 位置指定 UPDATE または DELETE が、カーソル “<cursor-name>” (SENSITIVE STATIC として定義) を使用して、結果表の列の値が基礎表の現行値と一致しない行で試行されました。基礎表の行が、結果表に取り出されたときから位置指定 UPDATE または DELETE が処理されたときまでに更新されたため、行は一致しません。

ステートメントは処理できません。カーソル位置は変更されません。

ユーザーの処置: 分離レベルを変更して、基礎表の行をカーソル操作中に再度更新できないようにするか、あるいは FETCH INSENSITIVE を行うようにアプリケーションを変更して、位置付けされた UPDATE または DELETE を再試行してください。

sqlcode: -224

sqlstate: 24512

SQL0225N カーソルが SCROLL として定義されていないため、カーソル “<cursor-name>” の FETCH ステートメントが無効です。

説明: スクロール不能カーソル “<cursor-name>” に、次のいずれかのキーワードとともに FETCH ステートメントが指定されました。 PRIOR、FIRST、LAST、BEFORE、AFTER、CURRENT、ABSOLUTE、または RELATIVE。スクロール不能カーソルに指定できるのは NEXT だけです。データは取り出されません。

ステートメントは処理できません。カーソル位置は変更されません。

ユーザーの処置: FETCH ステートメントの現在の取り出し方向キーワード (PRIOR または FIRST) を除去し、NEXT を指定してください。また、カーソルの定義をスクロール可能に変更する方法もあります。

sqlcode: -225

sqlstate: 42872

SQL0227N カーソル “<cursor-name>” の位置が不明のため、**FETCH NEXT、PRIOR、CURRENT**、または **RELATIVE** は許可されません (“<sqlcode>”、“<sqlstate>”)

説明: “<cursor-name>” のカーソル位置が不明です。カーソル “<cursor-name>” の直前の複数行 **FETCH** が、取り出された複数の行の処理中にエラー (SQLCODE “<sqlcode>”、SQLSTATE “<sqlstate>”) になっています。要求された行はエラーのためプログラムに戻すことはできず、カーソル位置は不明のままになりました。

標識構造が直前の複数行 **FETCH** で提供されていた場合は、正の **SQL** コードが返され、取り出された行はすべてアプリケーション・プログラムに返されています。

ステートメントは処理できません。カーソル位置は変更されません。

ユーザーの処置: カーソルをクローズして再オープンし、位置をリセットしてください。スクロール可能カーソルの場合は、**FETCH** ステートメントを変更して、他の取り出しステートメント (**FIRST**、**LAST**、**BEFORE**、**AFTER**、**ABSOLUTE** など) の 1 つを指定し、有効なカーソル位置を設定して、データの行を取り出してください。

sqlcode: -227

sqlstate: 24513

SQL0228N **FOR UPDATE** 文節が読み取り専用カーソル “<cursor-name>” に指定されました。

説明: カーソル “<cursor-name>” は **INSENSITIVE SCROLL** として定義されていますが、対応する **SELECT** ステートメントに **FOR UPDATE** 文節が入っています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 読み取り専用カーソルを定義するには、**INSENSITIVE** を **DECLARE CURSOR** に指定しますが、カーソルの **SELECT** ステートメントの一部として **FOR UPDATE** 文節を指定しないでください。

sqlcode: -228

sqlstate: 42620

SQL0231W カーソル “<cursor-name>” の現在位置が現在行の **FETCH** には無効です。

説明: **FETCH CURRENT** または **FETCH RELATIVE 0** ステートメントがスクロール可能カーソル “<cursor-name>” に発行されました。カーソルが結果表の行に位置付けられていないため、操作は無効です。**FETCH BEFORE** または **FETCH AFTER** ステートメントに続く、あるいは **SQLCODE +100** になった **FETCH** ステートメントに続く現在行の **FETCH** は許可されません。

ステートメントは処理できません。カーソル位置は変更されません。

ユーザーの処置: 現在行の取り出しを行う前に、カーソルが結果表の行に位置付けられていることを確認してください。

sqlcode: +231

sqlstate: 02000

SQL0236W **SQLDA** が “<integer1>” **SQLVAR** 項目しか指定していません。“<integer2>” **SQLVAR** 項目が “<integer3>” 列に必要です。**SQLVAR** 項目が設定されています。

説明: **SQLDA** の「**SQLN**」フィールドの値は、少なくとも結果セットの列数と同じ大きさでなければなりません。

データベース・マネージャーは **SQLVAR** 項目を

設定しません (さらに、SQLDOUBLED フラグは "オフ" (すなわち、スペース文字) に設定されま
す)。

ユーザーの処置: SQLDA の「SQLN」フィールドの値を、メッセージに示されている値まで増やして (SQLDA がその容量をサポートするための十分な大きさになるように)、ステートメントの再実行依頼を行ってください。

sqlcode: +236

sqlstate: 01005

SQL0237W SQLDA が “<integer1>” SQLVAR 項目しか指定していません。 記述している列の少なくとも 1 つは異なるタイプであるため、“<integer2>” SQLVAR 項目を指定する必要があります。2 次 SQLVAR 項目が設定されていません。

説明: 結果セットの列の少なくとも 1 つが異なるタイプなので、結果セットの列数と同じ数の SQLVAR 項目について、スペースを 2 回指定する必要があります。データベース・マネージャーは基本 SQLVAR 項目のみを設定します (さらに、SQLDOUBLED フラグはオフ (すなわち、スペース文字) に設定されます)。

ユーザーの処置: 結果セットの異なるタイプに関する追加情報が必要でない場合は、処置を行う必要はありません。異なるタイプの情報が必要な場合は、SQLDA の「SQLN」フィールドの値を、メッセージに示されている値まで増やして (その容量をサポートするのに十分な大きさの SQLDA があることを確認した後で)、ステートメントの再実行依頼を行う必要があります。

sqlcode: +237

sqlstate: 01594

SQL0238W SQLDA が “<integer1>” SQLVAR 項目しか指定していません。 記述している列の少なくとも 1 つが LOB または構造化タイプであるため、“<integer3>” 列に “<integer2>” SQLVAR 項目が必要です。SQLVAR 項目が設定されていません。

説明: 結果セットの列の少なくとも 1 つが LOB または構造化タイプなので、結果セットの列数と同じ数の SQLVAR 項目について、スペースを 2 回指定する必要があります。結果セットの 1 つ以上の列が異なるタイプである可能性にも注意してください。

データベース・マネージャーは SQLVAR 項目を設定しません (さらに、SQLDOUBLED フラグはオフ (すなわち、スペース文字) に設定されます)。

ユーザーの処置: SQLDA の「SQLN」フィールドの値を、メッセージに示されている値まで増やして (その容量をサポートするのに十分な大きさの SQLDA があることを確認した後で)、ステートメントの再実行依頼を行ってください。

sqlcode: +238

sqlstate: 01005

SQL0239W SQLDA が “<integer1>” SQLVAR 項目しか指定していません。 記述している列の少なくとも 1 つが特殊タイプまたは参照タイプであるため、“<integer3>” 列に “<integer2>” SQLVAR 項目が必要です。SQLVAR 項目が設定されていません。

説明: 結果セットの列が特殊タイプまたは参照タイプの場合、結果セットの列数と同じ数の SQLVAR 項目について、スペースを 2 回指定する必要があります。

データベース・マネージャーは SQLVAR 項目を

設定しません (さらに、SQLDOUBLED フラグはオフ (すなわち、スペース文字) に設定されます)。

ユーザーの処置: 特殊タイプまたは参照タイプの情報が必要な場合は、SQLDA の「SQLN」フィールドの値を、メッセージに示されている値まで増やして (その容量をサポートするのに十分な大きさの SQLDA があることを確認した後で)、ステートメントの再実行依頼を行う必要があります。結果セットの特殊タイプまたは参照タイプに関する追加情報が必要でない場合は、結果セットの列数に適合するのに十分な SQLVAR 項目のみを指定して、ステートメントの再実行依頼を行うことができます。

sqlcode: +239

sqlstate: 01005

SQL0242N タイプ “<object-type>” の “<object-name>” というオブジェクトが、オブジェクトのリストで複数回指定されました。

説明: タイプ “<object-type>” のオブジェクト名のリストで、“<object-name>” というオブジェクトが複数回指定されました。ステートメントの操作をオブジェクトで複数回実行することはできません。

ユーザーの処置: リスト内の重複したオブジェクトを訂正し、重複するオカレンスを取り除いてください。

sqlcode: -242

sqlstate: 42713

SQL0243N SENSITIVE カーソル “<cursor-name>” を指定された SELECT ステートメントに定義できません。

説明: カーソル “<cursor-name>” は SENSITIVE と定義されていますが、SELECT ステートメントの内容では、カーソルの一時結果表が DB2 で作

成されなければならない、このカーソル外部で加えられた変更を必ず表示できるとは限りません。この状況は、照会の内容に応じて結果表が読み取り専用になったときに起きます。たとえば、照会に結合が入っている場合は、結果表は読み取り専用になります。この場合、カーソルは INSENSITIVE または ASENSITIVE として定義されている必要があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 結果表が読み取り専用でなくなるように照会の内容を変更するか、またはカーソルのタイプを INSENSITIVE または ASENSITIVE に変更してください。

sqlcode: -243

sqlstate: 36001

SQL0244N FETCH で指定された SENSITIVITY “<sensitivity>” がカーソル “<cursor-name>” では無効です。

説明: FETCH で指定されたセンシティブィティ・オプション “<sensitivity>” がカーソル “<cursor-name>” で有効になっているセンシティブィティ・オプションと矛盾しています。下のリストに、FETCH で指定可能なオプションが示されています:

DECLARE CURSOR	FETCH Statement
INSENSITIVE	INSENSITIVE
SENSITIVE STATIC	SENSITIVE or INSENSITIVE
SENSITIVE DYNAMIC	SENSITIVE
SENSITIVE	SENSITIVE
ASENSITIVE	INSENSITIVE or SENSITIVE (depending on the effective sensitivity of the cursor)

スクロール不能カーソルの場合、センシティブィティ・オプションは指定できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: FETCH で指定されたセンシティブィティ・オプションを変更または除去してください。

sqlcode: -244

sqlstate: 428F4

SQL0257N ロー・デバイス・コンテナは、現在このプラットフォームではサポートされていません。

説明: 「DEVICE」コンテナの使用が試みられました。これは、現在このプラットフォームではサポートされていません。

ユーザーの処置: 代わりに、「FILE」コンテナまたはシステム管理表スペースを使用してください。

sqlcode: -257

sqlstate: 42994

SQL0258N 表スペースの再平衡が保留または進行中は、コンテナを追加することはできません。

説明: 以下に示す条件の 1 つが成立しています。

1. 同じ表スペース (同一ノードの) にコンテナを追加する ALTER TABLESPACE は、あらかじめ同じ作業単位に発行されています。表スペースのコンテナは、作業単位の 1 つの ALTER TABLESPACE ステートメント内の 1 つのノードにのみ追加することができます。
2. コンテナを追加する表スペースは、現在再平衡中です。詳細が、システム・エラー・ログとデータベース・マネージャーのエラー・ログ、またはそのいずれかに記録されている場合があります。

ユーザーの処置:

1. 可能ならば、その作業単位をロールバックし、すべてのコンテナに追加する単一の ALTER TABLESPACE を発行してください。可能でない場合は、再平衡が完了するまで待った後で、もう一度やり直してください。

2. 再平衡が完了するまで待った後で、もう一度やり直してください。

sqlcode: -258

sqlstate: 55041

SQL0259N 表スペースのコンテナ・マップが複雑過ぎます。

説明: マップ構造は、表スペースのアドレス・スペースがさまざまなコンテナにマップされる方法に関するレコードを保持しています。これが複雑になりすぎると、表スペース・ファイルに適合しなくなります。

詳細が、システム・エラー・ログとデータベース・マネージャーのエラー・ログ、またはそのいずれかに記録されている場合があります。

ユーザーの処置: コンテナ間でデータをもっと均等に分散するために、表スペースの再平衡が必要になる場合があります。そうすれば、マッピングが簡潔になる可能性があります。

これがうまくいかない場合は、可能な限り同じサイズのコンテナを作成してください。表スペースをバックアップした後で、データベース管理ユーティリティを使用してコンテナを変更すれば、既存のコンテナ・サイズを変更することができます。その後で、表スペースを新しいコンテナに復元してください。

sqlcode: -259

sqlstate: 54037

SQL0260N LONG 列、DATALINK 列、または構造化タイプ列であるため、列“<column-name>”は区分化キーに属することができません。

説明: 区分化キーは LONG タイプ列、DATALINK 列、または構造化タイプ列を持つことができません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 区分化キーに LONG 列、DATALINK 列、または構造化タイプ列を使用しないでください。

表に LONG 列、DATALINK 列、または構造化タイプ列しかない場合、区分化キーに使用できる列をその表に追加するか、または区分化キーなしで単一ノードのノード・グループに表を定義してください。

sqlcode: -260

sqlstate: 42962

SQL0262N 表 “<table-name>” は LONG タイプの列のみが含まれるため複数ノードのノード・グループ “<nodegroup-name>” で作成できません。区分化キーを作成できません。

説明: LONG タイプ列のみから成る表 “<table-name>” を複数ノードのノード・グループ内に作成できません。この表には、区分化キー内で使用するために少なくとも 1 つは非 LONG タイプ列を備えてください。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 1 つまたは複数の非 LONG タイプ列で表を作成するか、単一ノードのノード・グループで表を作成するかのいずれかの方法をとってください。

sqlcode: -262

sqlstate: 428A2

SQL0263N “<node-number-1>” から “<node-number-2>” までのノード範囲は無効です。2 次ノード番号は最初のノード番号より大きいか、または同等にしてください。

説明: 指定されたノード範囲が有効ではありません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: このステートメント内のノード範囲を訂正し、要求を再試行してください。

sqlcode: -263

sqlstate: 428A9

SQL0264N 表が複数ノードのノード・グループ “<name>” で定義された表スペースに表が常駐しているため、区分化キーの追加またはドロップはできません。

説明: 単一ノードのノード・グループの区分化キーのみを追加または消去できます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 次の 1 つを実行し、要求を再試行してください:

- 区分化キーを使用する同一表を定義してください。
- 単一ノードのノード・グループにこのノード・グループを再配布してください。

sqlcode: -264

sqlstate: 55037

SQL0265N ノード “<node-number>” は重複ノードです。

説明: CREATE NODEGROUP ステートメントに対し、ON NODES 文節内で 1 度のみノード表示が可能です。

CREATE TABLESPACE および ALTER TABLESPACE ステートメントに対し、ノードは 1 度のみ、1 つの ON NODES 文節でのみ表示可能です。

ALTER NODEGROUP ステートメントまたは REDISTRIBUTE NODEGROUP コマンドに対し、次の 1 つが発生しました。

- ノードが ADD NODES または DROP NODES 文節で複数回表示された。

- ノードが ADD NODES および DROP NODES 文節の両方で複数回表示された。
- 追加されるノードは、すでにノード・グループのメンバーである。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ON NODES、ADD NODES、または DROP NODES 文節内のノード名またはノード番号が固有であるかを確認してください。CREATE TABLESPACE および ALTER TABLESPACE ステートメントに対し、ノードが複数の ON NODES 文節で表示されていないかを確認してください。

さらに、ALTER NODEGROUP ステートメントまたは REDISTRIBUTE NODEGROUP コマンドでは、次のようにしてください。

- ADD NODES および DROP NODES 文節の両方でノードを指定しないでください。
- ノードがすでにノード・グループに定義されている場合は、ADD NODES 文節からノードを除去してください。

sqlcode: -265

sqlstate: 42728

SQL0266N ノード “<node-number>” は定義されていません。

説明: このノード “<node-number>” は次のいずれかの理由のため有効ではありません。

- ノード番号が有効な範囲である 0 から 999 までの間にない
- ノードがノード構成ファイル内にない
- ノードがノード・グループの一部でないため、要求された操作を処理しない

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 次の条件に従います。

- 有効範囲内のノード番号を伴うステートメント、コマンドまたは API を発行する

- システムにノードを追加するプロシージャール続ける
- ステートメント、コマンドまたは API 内の指定されたノードから、ノードを除去する

sqlcode: -266

sqlstate: 42729

SQL0268N ノード・グループを再配布している間は “<operation>” を実行できません。

説明: 以下のいずれかとなります:

- このノード・グループは再配布されています。現行操作が完了するまで、このノード・グループを更新、消去または再配布できません。
- 表のノード・グループが再配布されている間は、表の区分化キーを消去できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 再配布が完了するまで待ち、要求を再試行してください。

sqlcode: -268

sqlstate: 55038

SQL0269N データベースに区分化マップの最大数が含まれています。

説明: データベースに区分化マップの最大数 (32,768) が入っているため、新規ノード・グループの作成、ノードグループの更新、または既存のノード・グループの再配布ができません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: データベースの 1 つまたは複数のノード・グループを消去してください。

注: ノード・グループの消去は、ノード・グループに常駐する表スペース、表および視点などのようなデータベース・オブジェクトをすべて消去します。

sqlcode: -269

sqlstate: 54033

SQL0270N 関数をサポートしていません。(理由コード = “<reason-code>”).

説明: 以下の理由コードによって示されている制限のため、ステートメントを処理できません。

- 1 1 次キー、各固有制約、および各固有索引には表の区分列 (列はほかの順序で表示している可能性があります) がすべて入っているようにしている。
- 2 区分化キー列の値の更新はサポートされていない。
- 3 外部キーが ON DELETE SET NULL で定義されているとき、ヌル可能な区分化キー列をこの外部キーに組み込むことはできません。このような制約を定義した結果、区分化キー列を更新することになるため、これは理由コード 2 の特殊事例です。
- 4 カタログ区分以外の複数区分ノード・グループあるいは単一区分ノード・グループを使用している定義済み表は DATA CAPTURE CHANGES をサポートしません。
- 5 WITH CHECK OPTION 文節で作成された視点は、次の場合関数 (または関数を使用する参照視点) を使用できません。
 - 非決定的の場合
 - 副次作用がある場合
 - データの配置に関連する場合 (たとえば、ノード番号または区分関数)。これらの関数は、新しい視点が CASCADED チェック・オプションで作成された場合に参照視点内にはありません。
- 6 ユーザー定義の特殊タイプに対してトランスフォームは定義できません。

- 7 長いフィールドは、4K のページ・サイズの表スペースを使用するときのみに、定義できます。LONG TABLESPACE は、4K のページ・サイズを使用する場合のみに作成できます。
- 8 構造化タイプは、DB2 バージョン 7.1 以前の表または構造化タイプ属性データ・タイプの列としてサポートされていません。
- 9 トリガーはタイプ付き表ではサポートされません。
- 10 単一のデフォルト表スペースは、4K ページ・サイズを指定した表スペースに位置する必要がある LOB 列が表にあるため、および表の行サイズあるいは列数に、8K ページ・サイズを指定した表スペースが必要であるため、選択することができません。
- 11 タイプ付き表あるいは視点は、属性を持たない構造化タイプを使用して作成することができません。
- 12 ソース・キー・パラメーターのタイプは、ユーザー定義の構造化タイプか、または LOB、DATALINK、LONG VARCHAR、あるいは LONG VARGRAPHIC から生成された特殊タイプである必要があります。
- 13 検査制約はタイプ付き表で定義することができないか、または WITH CHECK OPTION 文節がタイプ付き視点で指定することができません。
- 14 参照制約はタイプ付き表に定義することができないか、またはタイプ付き表である親表に定義することができません。
- 15 デフォルト値は参照タイプ列で定義されません。
- 16 参照データ・タイプあるいは構造化データ・タイプを、DB2 バージョン 7.1 以前のパラメーター・データ・タイプまた

- はユーザー定義関数の戻りデータ・タイプとして使用することはできません。また、効力範囲内にある参照データ・タイプを、ルーチンのパラメーター・データ・タイプまたは戻りタイプとして使用することはできません。構造化タイプを表または行関数の戻り列として使用することはできません。
- 17** SET CONSTRAINTS ステートメントはタイプ付き表に対して使用することができません。
- 18** 列レベル UPDATE と REFERENCES 特権は、タイプ付き表または視点では授与されません。
- 19** 特定のデフォルト値は、タイプ付き表の列に対するデフォルト定義の時に指定する必要があります。
- 20** ALTER TABLE は要約表でサポートされていません。
- 21** 列の長さは要約表の基礎表である表では更新されません。
- 22** 要約表は CREATE SCHEMA ステートメントで定義されません。
- 23** REPLICATED は REFRESH DEFERRED で定義された要約表にのみ指定されません。
- 24** BEFORE トリガーで起動されたアクションが、REFRESH IMMEDIATE で定義された要約表を参照できません。
- 25** SET CONSTRAINTS ステートメントに指定できるのは、1 つの要約表だけです。
- 26** 再配布されているノード・グループには、複製された要約表が最低 1 つは入っています。
- 27** 複製された要約表は、この表を作成している列に存在している固有索引がない表には、定義されません。
- 28** タイプ付き表あるいは要約表は名前変更ができません。
- 29** FOR EXCEPTION 文節は、SET CONSTRAINTS ステートメントの要約表では指定できません。
- 30** タイプ付き表およびタイプ付き視点は CREATE SCHEMA ステートメントで定義できません。
- 31** 区分化キーは 500 を超える列では定義できません。
- 32** カタログ区分以外の複数区分ノード・グループまたは単一区分ノード・グループを使用して定義された表は、FILE LINK CONTROL で定義された DATALINK 列をサポートしません。
- 33** REFRESH IMMEDIATE で定義された要約表の基礎表を、カスケード効果によって (つまり、オプション ON DELETE CASCADE または ON DELETE SET NULL によって) 参照制約の子にすることはできません。
- 34** 基礎オブジェクトの関連機能は、現在のリリースではサポートされていません。
- 35** シーケンス列または識別列をマルチノード・データベース環境で作成することはできません。
- 36** シーケンス列または識別列が存在する場合、マルチノード・データベースのデータベース活動化は許可されていません。
- 38** 索引拡張子を使用する索引は、複数区分ノード・グループではサポートされていません。
- 39** ニックネームまたは OLE DB 表関数は、SQL 関数または SQL メソッドの本体で直接的に、または間接的に参照できません。

- 40 IDENTITY_VAL_LOCAL 関数は、トリガーまたは SQL 関数で 使用することはできません。
- 41 SQL 変数ステートメントは、ローカル変数と遷移変数の両方に割り当てられません。これはサポートされていません。
- 42 マルチノード・データベース内での、SQL 制御ステートメントを使ったトリガー、メソッド、または関数の実行、および動的複合ステートメントの実行は許可されません。

ユーザーの処置: 理由コードに対応する処置は、次のとおりです。

- 1 CREATE TABLE、ALTER TABLE または CREATE UNIQUE INDEX ステートメントを訂正する。
- 2 複数区分の表の区分化キー列を更新しない、または、区分列の新規値を使用して行を削除した後に挿入しようとするしない。
- 3 区分化キー列をヌル使用不能にするか、別の ON DELETE アクションを指定するか、または表の区分化キーを変更して、外部キーに区分化キーの列が組み込まれないようにしてください。
- 4 DATA CAPTURE NONE を指定するかあるいは表がカタログ区分を指定する単一区分ノード・グループの表スペースにあるかどうか確認してください。
- 5 WITH CHECK OPTION 文節を使用したり、視点定義から関数または視点を除去しないでください。
- 6 トランスフォームはユーザー定義の特殊タイプに対して自動的に行われます。CREATE TRANSFORM ステートメントはユーザー定義の構造化タイプのみを使用してください。
- 7 長いフィールドの入った任意の表に対して、4K ページ・サイズの表スペースを使用してください。DMS 表スペースを

使用する場合は、長いフィールドを、4K ページ・サイズの表スペース、または別のページ・サイズの表、表スペースか索引データで位置づけられます。LONG TABLESPACE を定義する時は、PAGESIZE 4K を使用してください。

- 8 DB2 バージョン 7.1 以前のサーバーであれば、CREATE TABLE ステートメントまたは ALTER TYPE ADD COLUMN ステートメントに構造化タイプの列データ・タイプがないことを確認してください。CREATE TYPE ステートメントまたは ALTER TYPE ADD ATTRIBUTE ステートメントでのどの属性データ・タイプも構造化タイプでないことを確認してください。
- 9 タイプ付き表ではトリガーを定義しないでください。
- 10 表の行サイズあるいは行数を減らすか、またはロング・データが 4K ページ・サイズを指定した表スペースにあり、基本データが 8K ページ・サイズを指定した表スペースにあるような 2 つの表スペースを指定してください。
- 11 タイプ付き表あるいは視点を作成する場合は、最低でも 1 つの属性を定義している構造化タイプを指定します。
- 12 ソース・キー・パラメーターのタイプである場合、ユーザー定義の構造化タイプか、または LOB、DATALINK、LONG VARCHAR、あるいは LONG VARGRAPHIC から生成された特殊タイプだけを使用してください。
- 13 タイプ付き表の CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントでは、検査制約を指定しないようにします。タイプ付き視点の CREATE VIEW ステートメントでは、WITH CHECK OPTION 文節を指定しないでください。
- 14 CREATE TABLE または ALTER

- TABLE ステートメントでは、タイプ付き表を検査制約を指定しないようにします。
- 15** CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントで参照データ・タイプを指定した列に対して、DEFAULT 文節を指定しないようにします。
- 16** DB2 バージョン 7.1 以前のサーバーであれば、ユーザー定義関数の作成時に構造化タイプ・パラメーターまたは戻りタイプを指定しないでください。また、効力範囲内の参照タイプをパラメーターまたは戻りタイプとして指定しないでください。構造化タイプを表または行関数の戻り列として指定しないでください。
- 17** SET CONSTRAINTS ステートメントにあるタイプ付き表を指定しないようにします。
- 18** タイプ付き表または視点で、REFERENCES あるいは UPDATE 特権を授与する時に、特定の列名を組み込まないようにします。
- 19** タイプ付き表の列で DEFAULT 文節を指定する時に、特定の値を組み込むようにします。
- 20** 要約表をドロップし、任意の属性を指定して再作成します。
- 21** 要約表をドロップして、基礎表の列の長さを更新して要約表を再作成します。
- 22** CREATE SCHEMA ステートメントの外側で CREATE SUMMARY TABLE ステートメントを発行してください。
- 23** REPLICATED 指定を除去するか、または REFRESH DEFERRED が要約表定義に指定されていることを確認します。
- 24** BEFORE トリガーのトリガー済みアクションにある要約表への参照を除去します。
- 25** 要約表ごとに、SET CONSTRAINTS IMMEDIATE CHECKED ステートメントを別々に発行します。
- 26** ノード・グループにある複製された要約表のすべてをドロップし、REDISTRIBUTE NODEGROUP コマンドを再発行します。複製された要約表を再作成します。
- 27** 要約表に定義された列のサブセットが、基礎表の固有索引を作成する列のセットであることを確認します。
- 28** タイプ付き表あるいは要約表名は、表のドロップおよび新規名での再作成によってのみ、変更することが可能です。表をドロップすると、表に依存する別のオブジェクトにも影響が出る可能性があり、表での特権が失われます。
- 29** SET CONSTRAINTS ステートメントから FOR EXCEPTION 文節を除去します。
- 30** CREATE SCHEMA ステートメントの外側で、タイプ付き視点またはタイプ付き表の CREATE ステートメントを発行します。
- 31** 区分化キー内の列の数を減らします。
- 32** DATALINK 列に NO LINK CONTROL を指定するか、またはカタログ区分を指定する単一区分ノード・グループの表スペースに表が置かれていることを確認します。複数区分ノード・グループに再分配する場合は、再分配を継続するために表をドロップする必要があります。
- 33**
- REFRESH IMMEDIATE で子として定義された要約表の基礎表で、カスケード効果によって (つまり、オプション ON DELETE CASCADE または ON DELETE SET NULL によって) 参照制約を定義しない、または

- カスケード効果による (つまり、オプション ON DELETE CASCADE または ON DELETE SET NULL による) 参照制約の子である基礎表を持つ REFRESH IMMEDIATE 要約表を定義しないようにします。

34 エラーはサポートされていないオブジェクトの関連機能の使用を除去することによって訂正することができます。

35 属性 “GENERATED [ALWAYS | BY DEFAULT] AS IDENTITY ...” を列から除去するか、またはシーケンスを作成しないでください。

36 新規ノードをドロップして、単一ノード構成に戻してください。ノードがさらに必要であれば、新規ノードを追加する前に、識別列のあるシーケンスまたは表をドロップしなければなりません。

38 索引拡張子を使用する索引を、複数区分ノード・グループの表に作成することはできません。索引拡張子を使用する索引がノード・グループ内の表に存在している間、そのノード・グループを複数区分ノード・グループにすることはできません。このような索引をドロップして区分をノード・グループに追加する (この場合、索引を再作成できません) か、またはノード・グループを未変更のままにしてください。

39 ニックネームまたは OLE DB 表関数への参照を除去するか、または間接的にこれらのいずれかを参照しているオブジェクトへの参照を除去してください。

40 IDENTITY_VAL_LOCAL 関数の呼び出しをトリガー定義または SQL 関数定義から除去してください。

41 割り当てを 2 つの別々のステートメントに分割します。一方のステートメントは SQL 変数にのみ値を割り当て、もう

一方のステートメントは遷移変数にのみ値を割り当てなければなりません。

42 新規ノードをドロップして、単一ノード構成に戻してください。ノードがさらに必要であれば、制御ステートメントもっているトリガー、関数、またはメソッドをドロップしなければなりません。

sqlcode: -270

sqlstate: 42997

SQL0271N fid "<fid>" を伴う表の索引ファイルがないか、無効です。

説明: fid "<fid>" を伴う表の索引ファイルは処理中に要求されます。このファイルは無くなっているか、有効でないかのいずれかです。

このステートメントを処理することができず、アプリケーションは、まだデータベースに接続されています。この条件は、この表の索引を使用しないほかのステートメントには影響を及ぼしません。

ユーザーの処置: すべてのユーザーが、そのデータベースから切断されていることを確認し、すべてのノードに RESTART DATABASE コマンドを実行してください。そのあと要求を再試行してください。

この索引 (または索引群) は、データベースが再始動されるときに再作成されます。

sqlcode: -271

sqlstate: 58004

SQL0276N 復元保留状態にあるため、データベース "<name>" に接続することはできません。

説明: このデータベースを、接続が完了する前に復元してください。

接続は行われていません。

ユーザーの処置: データベースを復元し、再度

CONNECT ステートメントを発行してください。

sqlcode: -276

sqlstate: 08004

SQL0279N データベース接続が **COMMIT** 処理中に終了しました。トランザクションが確定していない可能性があります。理由コード = “<reason-code>”

説明: コミット処理がエラーを検出しました。このトランザクションは、コミット状態に入っていますが、コミット処理は完了していない可能性があります。このアプリケーションのデータベース接続は、終了しています。

エラーの原因は、“<reason-code>” に示されています。

- 1 トランザクションで呼び出されたノードが失敗しています。
- 2 ノードの一つに対してコミットが拒否されました。詳細については db2diag.log ファイルを調べてください。

ユーザーの処置: エラーの原因を判別してください。最も一般的なエラーの原因はノード障害または接続障害なので、システム管理者に連絡して援助を求める必要があります。RESTART DATABASE コマンドはこのトランザクションのコミット処理を完了します。

sqlcode: -279

sqlstate: 08007

SQL0280W 視点、トリガー、または要約表 “<name>” が、既存の作動不能の視点、トリガーまたは要約表を置換しました。

説明: 既存の作動不能の視点、トリガー、または要約表 “<name>” が以下のように置き換えられました。

- CREATE VIEW ステートメントの結果としての新しい視点定義
- CREATE TRIGGER ステートメントの結果としての新しいトリガー定義
- CREATE SUMMARY TABLE ステートメントの結果としての新しい要約表定義

ユーザーの処置: 必要ありません。

sqlcode: +280

sqlstate: 01595

SQL0281N 表スペース “<tablespace-name>” はシステム管理表スペースであるため、追加コンテナでは更新できません。

説明: 追加コンテナはシステム管理表スペースに追加できません。この場合に対する例外は、ノード・グループが表スペースなしでノードを追加するように修正され、次にコンテナが ALTER TABLESPACE コマンドを使用して新規ノード上に一度追加された場合です。一般的に、追加のコンテナを加えるには、表スペースがデータベースに管理されている必要があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: システム管理表スペースにさらにコンテナを増やすには、表スペースを削除してからコンテナを増やして表スペース再度作成し、それぞれのコンテナがコンテナ・サイズの限度と同じサイズであるか、あるいはそれより小さいサイズであるか、を確認するか、また DMS 表スペースに変更してください。

sqlcode: -281

sqlstate: 42921

SQL0282N 表スペース内の少なくとも 1 つの表 “<table-name>” が、他の表スペースに 1 つ以上の部分を持っているため、表スペース “<tablespace-name>” がドロップできません。

説明: 示された表スペースの表に、その表のすべての部分が入っているわけではありません。複数の表スペースが指定された場合は、指定された表スペースのいずれかにある表に、リスト内にその表のすべての部分が入っているわけではありません。基礎表、索引、または長いデータが他の表スペースに存在する可能性があるため、表スペースのドロップによって表が完全にドロップされません。そのため、表が不整合状態に置かれ、そのために表スペースをドロップできません。

ユーザーの処置: 表スペースのドロップを試行する前に表スペース “<tablespace-name>” に入っているすべてのオブジェクトがこの表スペースのすべての部分を収容していることを確認するか、またはリスト内の部分の入ったこれらの表スペースをドロップに組み込みます。

これには、表スペースをドロップする前に、表 “<table-name>” のドロップが必要になる場合があります。

sqlcode: -282

sqlstate: 55024

SQL0283N システム一時表スペース “<tablespace-name>” だけが、データベース内で “<page-size>” ページ・サイズを持つシステム一時表スペースであるため、ドロップすることはできません。

説明: データベースには、カタログ表スペースのページ・サイズと同じページ・サイズのシステム一時表スペースが少なくとも 1 つ入っている必要があります。表スペース “<tablespace-name>” をドロップすると、“<page-size>” ページ・サイズ

を持つ最後のシステム一時表スペースがデータベースからドロップされます。

ユーザーの処置: この表スペースのドロップを試行する前に、データベースに他の “<page-size>” ページ・サイズのシステム一時表スペースがあることを確認してください。

sqlcode: -283

sqlstate: 55026

SQL0284N 文節 “<clause>” の後に続く表スペース “<tablespace-name>” が “<tablespace-type>” 表スペースであるため、表は作成されませんでした。

説明: CREATE TABLE または DECLARE GLOBAL TEMPORARY TABLE ステートメントが、文節 “<clause>” の後に、この文節に有効な表スペースのタイプではない表スペース “<tablespace-name>” を指定しました。

これは以下の状況で起きます。

- 通常の表の場合、“<tablespace-name>” が IN 文節に指定されていて、表スペースが REGULAR 表スペースではありません。
- 宣言された一時表の場合、“<tablespace-name>” が IN 文節に指定されていて、表スペースが USER TEMPORARY 表スペースではありません。
- “<tablespace-name>” が LONG IN 文節に指定されていて、表スペースがデータベースによって管理されている LONG 表スペースではありません。
- “<tablespace-name>” が INDEX IN 文節に指定されていて、表スペースがデータベースによって管理されている REGULAR 表スペースではありません。

ユーザーの処置: CREATE TABLE ステートメントを訂正して、“<clause>” 文節に適切なタイプで表スペースを指定してください。

sqlcode: -284

sqlstate: 42838

SQL0285N 1 次表スペース

"<tablespace-name>" がシステム管理表スペースであるため、表 "<table-name>" の索引と長い列のいずれか、または両方を、独立表スペースに割り当てることができません。

説明: 1 次表スペースがシステム管理表スペースの場合は、表のすべての部分はその表スペースに入っている必要があります。1 次表スペース、索引表スペース、長い表スペースがデータベース管理表スペースの場合にのみ、表の部分を独立表スペースに持つことができます。

ユーザーの処置: 1 次表スペースにデータベース管理表スペースを指定するか、または表の部分を他の表スペースに割り当てないでください。

sqlcode: -285

sqlstate: 42839

SQL0286N 許可 ID "<user-name>" が使用を許可されている少なくとも "<pagesize>" のページ・サイズを持つデフォルトの表スペースが検出されませんでした。

説明: CREATE TABLE または DECLARE GLOBAL TEMPORARY TABLE ステートメントで表スペースが指定されませんでした。また、許可 ID "<user-name>" が USE 特権を持っている正しいタイプ (宣言済み一時表では USER TEMPORARY) の表スペースで十分なページ・サイズ ("<pagesize>" 以上) のものが見つかりませんでした。

表に、十分なページ・サイズがあるかどうかは、行のバイト・カウントあるいは列の数で判別されます。

ユーザーの処置: "<pagesize>" 以上のページ・サイズがある正しいタイプ (REGULAR または

USER TEMPORARY) の表スペースが存在すること、また、その表スペースに対して許可 ID "<user-name>" が USE 特権を持っていることを確認してください。

sqlcode: -286

sqlstate: 42727

SQL0287N SYSCATSPACE はユーザー・オブジェクトには使用できません。

説明: CREATE TABLE または GRANT USE OF TABLESPACE ステートメントが、カタログ表のために予約されている表スペース SYSCATSPACE を指定しました。

ユーザーの処置: 別の表スペース名を指定してください。

sqlcode: -287

sqlstate: 42838

SQL0288N 長い表スペースは **MANAGED BY SYSTEM** を使用して定義できません。

説明: 定義される表スペースは、大きなオブジェクトと長ストリングで使用されます。これらは、データベース管理スペースに定義された表スペースにのみ格納することができます。したがって、システム管理スペースを使用する長い表スペースは定義できません。

ユーザーの処置: CREATE TABLESPACE スペースのキーワード LONG を取り除くか、または MANAGED BY DATABASE に変更してください。

sqlcode: -288

sqlstate: 42613

**SQL0289N 表スペース "<tablespace-name>"
の新規ページを割り振れません。**

説明: 以下に示す条件の 1 つが成立しています。

1. この SMS 表スペースに割り当てられたコンテナのいずれかが、最大サイズに達しました。これが、エラーの原因である可能性があります。
2. この DMS 表スペースに割り当てられているすべてのコンテナがいっぱいです。これが、エラーの原因である可能性があります。
3. この DMS 表スペースの表スペース・オブジェクト表がいっぱいです。
4. 再平衡が進行中ですが、新しく追加されるスペースを使用可能にするのに十分なものにまでは進んでいません。
5. リダイレクト復元が、小さすぎるコンテナに対して実行されています。
6. ロールフォワードは、次のリダイレクト復元に実行され、この表スペースに割り当てられたすべてのコンテナがいっぱいになっています。
7. コンテナ追加をスキップするロールフォワードが実行され、この表スペースに割り当てられたすべてのコンテナがいっぱいになっています。

詳細が、システム・エラー・ログとデータベース・マネージャのエラー・ログ、またはそのいずれかに記録されている場合があります。

ユーザーの処置: エラーの原因に対応する処置を実行してください。

1. DMS TABLESPACE に切り替えるか、あるいは (ディレクトリー数) >= (最大表サイズ / 最大ファイル・サイズ) のようなディレクトリー (パス) を使用して、SMS TABLESPACE を再作成してください。最大ファイル・サイズはオペレーティング・システムによって変わることに注意してください。

2. 再平衡プログラムが新しいページを使用可能にした後で、新しいコンテナを DMS 表スペースに追加して、操作をやり直してください。
3. この DMS 表スペースから不要な表をドロップしてください。
4. 再平衡プログラムが進行するのを待ってください。
5. リダイレクト復元を大きなコンテナで再度実行してください。
6. リダイレクト復元を大きなコンテナで再度実行してください。
7. コンテナの追加を許可しているロールフォワードを再度実行するか、リダイレクト復元を大きなコンテナに実行してください。

sqlcode: -289

sqlstate: 57011

SQL0290N 表スペースのアクセスが許されていません。

説明: 意図されたアクセスに対して無効な状態にある表スペースにアクセスしようとするプロセスは、許されていません。

- 表スペースが静止状態の場合は、表スペースを静止状態に保持しているプロセスのみが、その表スペースに対するアクセスを許されます。
- 表スペースが他のいずれかの状態の場合は、指定されたアクションを実行するプロセスのみが、その表スペースに対するアクセスを許されます。
- 活動状態のシステムまたは宣言された一時表の入った、システムまたはユーザー一時表スペースはドロップできません。
- 表スペースが "復元保留" 状態でない限り、SET CONTAINER api はコンテナ・リストの設定に使用できません。

詳細が、システム・エラー・ログとデータベース・マネージャーのエラー・ログ、またはそのいずれかに記録されている場合があります。

ユーザーの処置: 解決策は以下の通りです。

- 表スペースが静止状態の場合は、その表スペースで静止共用または静止更新の獲得を試みてください。あるいは、表スペースのリセットの静止を試みてください。
- 表スペースが他のいずれかの状態の場合は、アクセスする前に、その表スペースが通常の状態に戻るまで待ってください。

表スペースの状態に関する詳細については「管理の手引き」を参照してください。

sqlcode: -290

sqlstate: 55039

SQL0291N 状態変換は、表スペースでは使用できません。

説明: 表スペースの状態の変更が試みられました。新しい状態が表スペースの現在の状態との整合性を持っていないか、または特定状態をオフにしようとしたが、表スペースがその状態ではありません。

詳細が、システム・エラー・ログとデータベース・マネージャーのエラー・ログ、またはそのいずれかに記録されている場合があります。

ユーザーの処置: 表スペースの現在の状態に応じて、バックアップの完了、ロードの完了、ロールフォワードの完了などが起きると、表スペースの状態が変わります。表スペース状態に関する詳細については、「systems administration guide」を参照してください。

sqlcode: -291

sqlstate: 55039

SQL0292N 内部データベース・ファイルが作成できませんでした。

説明: 内部データベース・ファイルが作成できませんでした。詳細が、システム・エラー・ログとデータベース・マネージャーのエラー・ログ、またはそのいずれかに記録されている場合があります。

ユーザーの処置: そのファイルの入ったディレクトリーが、アクセス可能 (たとえば、取り付けられている) であること、およびデータベース・インスタンス所有者によって書き込み可能であることをチェックしてください。

sqlcode: -292

sqlstate: 57047

SQL0293N 表スペース・コンテナのアクセス・エラーです。

説明: このエラーは、以下のいずれかの条件によって発生した可能性があります。

- コンテナ (ディレクトリー、ファイルまたはロー・デバイス) が見つかりませんでした。
- コンテナに、適切な表スペースに所有されていることを示すタグが付いていません。
- コンテナ・タグが壊れています。

このエラーはデータベースの始動時および ALTER TABLESPACE SQL ステートメントの処理時に返されます。

詳細が、システム・エラー・ログとデータベース・マネージャーのエラー・ログ、またはそのいずれかに記録されている場合があります。

ユーザーの処置: 次の処置を試行してください。

1. ディレクトリー、ファイル、または装置が存在し、ファイル・システムがマウントされている (それが独立したファイル・システム上にある場合) ことを確かめてください。コンテナ

一は、データベース・インスタンス所有者によって、読み書き可能でなければなりません。

- 最新のバックアップがある場合は、表スペースまたはデータベースの復元を試みてください。正しくないコンテナのために復元が失敗し、コンテナが `DEVICE` タイプでない場合は、最初に、手操作でそのコンテナを取り除いてください。

エラーが `SWITCH ONLINE` オプション付きの `ALTER TABLESPACE SQL` ステートメントの処理から返された場合は、上記で説明された問題を訂正した後にステートメントを再発行してください。

エラーが残る場合、IBM サービス担当者に連絡してください。

sqlcode: -293

sqlstate: 57048

SQL0294N コンテナはすでに使用中です。

説明: 表スペース・コンテナが共用できないことがあります。このエラーの原因として可能性のあるものは次の通りです。

- `CREATE TABLESPACE` または `ALTER TABLESPACE` ステートメントに、他の表スペースですすでに使用中のコンテナが組み込まれていました。
- `CREATE TABLESPACE` または `ALTER TABLESPACE` ステートメントに、削除されている表スペースからのコンテナが組み込まれていましたが、`DROP` ステートメントはコミットされていませんでした。
- ノードを追加するのに使用される `ALTER NODEGROUP` ステートメントが、同じ物理ノードにある `LIKE` ノードのコンテナを使用していました。そのため、これらのコンテナはすでに使用中となっています。

- `CREATE TABLESPACE` または `ALTER TABLESPACE` ステートメントが、単一の物理ノードの 2 つ以上の論理ノードにある同じコンテナを使用しようとしていました。同じコンテナを、同じ物理ノードの 2 つ以上のノードに対して使用することはできません。
- `ADD NODE` コマンドまたは API が、同じ物理ノードにある `LIKE` ノードのシステム一時表スペースからコンテナを使用しました。そのため、これらのコンテナはすでに使用中となっています。
- `CREATE TABLESPACE` または `ALTER TABLESPACE` ステートメントに、もう存在していないけれども正しくドロップされていない、別のデータベースからのコンテナが組み込まれていました。実際、このコンテナは使用されていませんが、使用中であるとタグ付けされています。そのため、タグが外されるまで、DB2 はコンテナの使用を許可しません。ただし、タグが外されるときに、このコンテナが同じデータベースまたは別のデータベースによって使用中ではないことを確認することが重要です。タグを外したときにコンテナが使用中であれば、関係するデータベースは損傷を受けます。

詳細が、システム・エラー・ログとデータベース・マネージャーのエラー・ログ、またはそのいずれかに記録されている場合があります。

ユーザーの処置: コンテナが固有であるかを確認してください。

- `CREATE` または `ALTER TABLESPACE` ステートメントに対し、表スペースに別のコンテナを指定してください。
- 削除された表スペースに属するコンテナが組み込まれた `CREATE` または `ALTER TABLESPACE` ステートメントの場合、`DROP` ステートメントがコミットしてから再度試行するか、あるいは別のコンテナを指定してください。

- ALTER NODEGROUP ステートメントに対し、WITHOUT TABLESPACES 文節を使用してこのステートメントを再発行し、新規ノードの固有コンテナを作成するのに ALTER TABLESPACE ステートメントを使用してください。
- 物理ノード上に複数の論理ノードが組み込まれた環境にある CREATE または ALTER TABLESPACE ステートメントの場合、同じコンテナがこのような論理ノードで指定されていないことを確認してください。
- ADD NODE コマンドまたは API に対し、WITHOUT TABLESPACES 文節を使用してステートメントを再発行し、システム一時表スペースの新規ノードで固有なコンテナを作成するのに ALTER TABLESPACE ステートメントを使用してください。
- もう存在しなくても正しくドロップされていないデータベースに属していた DMS コンテナの使用を試みている場合、db2untag ユーティリティを使用して DB2 コンテナ・タグを外すことができます。このタグが外されると DB2 はコンテナの解放を考慮し、このコンテナは CREATE TABLESPACE または ALTER TABLESPACE ステートメントで使用できます。

注: db2untag の使用には十分に気を付けてください。データベースによって使用されているコンテナに対して db2untag コマンドを出すと、そのコンテナを使用していたデータベース、および現在でも使用しているデータベースの両方が損傷を受けます。

sqlcode: -294

sqlstate: 42730

SQL0295N 表スペースのすべてのコンテナ名を結合した長さが、長すぎます。

説明: コンテナのリストを格納するために必要な合計スペースが、表スペース・ファイルのこの

表スペースに割り当てられたスペースを超えました。

詳細が、システム・エラー・ログとデータベース・マネージャーのエラー・ログ、またはそのいずれかに記録されている場合があります。

ユーザーの処置: 以下の 1 つ以上を試みてください。

- 記号リンク、取り付けられたファイル・システムなどを使用して、新しいコンテナ名を短くしてください。
- 表スペースのバックアップを行った後で、データベース管理ユーティリティを使用して、コンテナの数と名前の長さ、またはそのいずれかを減らしてください。その後で、表スペースを新しいコンテナに復元してください。

sqlcode: -295

sqlstate: 54034

SQL0296N 表スペースの限界を超えています。

説明: このデータベースには、最大数の表スペースが入っています。もう作成することはできません。

詳細が、システム・エラー・ログとデータベース・マネージャーのエラー・ログ、またはそのいずれかに記録されている場合があります。

ユーザーの処置: もう使用されていない表スペースを削除してください。表スペースのすべてのデータを 1 つの表スペースに移動し、他の表スペースを削除して、小さな表スペースを結合してください。

sqlcode: -296

sqlstate: 54035

SQL0297N コンテナのパス名が長すぎます。

説明: コンテナ名を指定する全パスが、最大許容長を超えています。データベース・ディレクトリに関連するパスとして、コンテナが指定さ

れている場合は、それら 2 つの値の連結が最大長を超えてはなりません。

詳細が、システム・エラー・ログとデータベース・マネージャーのエラー・ログ、またはそのいずれかに記録されている場合があります。

ユーザーの処置: パスの長さを短くしてください。

sqlcode: -297

sqlstate: 54036

SQL0298N コンテナ・パスが正しくありません。

説明: コンテナ・パスが、以下のいずれかの要件に違反しています。

- コンテナ・パスは、有効な完全修飾された絶対パス、または有効な相対パスでなければなりません。文字は、データベース・ディレクトリに関連して解釈されます。
- EXTEND または RESIZE 操作の場合、指定のコンテナ・パスが存在しなければなりません。
- パスはインスタンス ID に対して読み / 書き可能でなければなりません (UNIX ベース・システムのファイル許可をチェックしてください)。
- コンテナはコマンドに指定したタイプでなければなりません (ディレクトリ、ファイルまたは装置)。
- システム管理表スペースのコンテナ (ディレクトリ) は、コンテナとして指定された場合は空でなければならず、他のコンテナの下にネストしてはなりません。
- 1 つのデータベースに対するコンテナは、別のデータベースのディレクトリの下に位置してはならず、別のデータベースに対して現れるディレクトリの下にもなれない場合があります。この規則は、形式が SQLnnnnn ('n' は数字) のディレクトリには適用されません。

- コンテナは、オペレーティング・システムのファイル・サイズ制限内でなければなりません。

- ドロップ済みデータベース管理表スペースのコンテナ (ファイル) は、すべてのエージェントが終了および開始した後で、システム管理表スペースのコンテナ (ディレクトリ) としてのみ再発行できます。

- リダイレクト復元中に、SMS コンテナが DMS 表スペースに指定されたか、あるいは DMS コンテナが SMS 表スペースに指定されました。

- EXTEND または RESIZE 操作で指定されたコンテナ・タイプは、コンテナが作成されたときに指定されたコンテナ・タイプ (FILE または DEVICE) に一致しません。

このメッセージは、コンテナへのアクセスを DB2 に禁止する、その他の予期しないエラーが発生した場合にも返されます。

詳細が、システム・エラー・ログとデータベース・マネージャーのエラー・ログ、またはそのいずれかに記録されている場合があります。

ユーザーの処置: 別のコンテナ・ロケーションを指定するか、またはコンテナを変更して DB2 に受け入れ可能にし (ファイル許可の変更など)、もう一度やり直してください。

sqlcode: -298

sqlstate: 428B2

SQL0299N コンテナは、すでに表スペースに割り当てられています。

説明: 追加しようとしたコンテナが、すでに表スペースに割り当てられていました。

詳細が、システム・エラー・ログとデータベース・マネージャーのエラー・ログ、またはそのいずれかに記録されている場合があります。

ユーザーの処置: 別のコンテナを選択して、もう一度やり直してください。

SQL0300 - SQL0399

SQL0301N EXECUTE または OPEN ステートメント内のホスト変数の値は、データ・タイプが適切でないため使用できません。

説明: ステートメント中に指定されたホスト変数は、そのデータ・タイプとその使用法との間に互換性がないため使用できませんでした。

このエラーは、EXECUTE または OPEN ステートメント上の SQLDA 内に正しくないホスト変数または SQLTYPE 値を指定した場合に起きます。ユーザー定義構造化タイプの場合、ホスト変数または SQLTYPE の関連する組み込みタイプがステートメントのトランスフォーム・グループで定義された TO SQL トランスフォーム関数のパラメーターと互換性がないことが考えられます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメント中のすべてのホスト変数のデータ・タイプがその使用法との間に互換性があることを確認してください。

sqlcode: -301

sqlstate: 07006

SQL0302N EXECUTE または OPEN ステートメント内のホスト変数の値が大きすぎます。

説明: 入力ホスト変数値が、SELECT、VALUES、または準備されたステートメントに定義された使用法に対して大きすぎます。以下のいずれかが起きました。

- SQL ステートメントで使用されている対応するホスト変数またはパラメーター・マーカーが文字列として定義されていますが、入力ホスト変数が長すぎる文字列を持っています。

- SQL ステートメントで使用されている対応するホスト変数またはパラメーター・マーカーが数値として定義されていますが、入力ホスト変数が大きすぎる数値を持っています。
- 終了のための NUL 文字が C 言語のヌルで終了する文字列・ホスト変数から抜けています。
- 連合システム・ユーザー: パススルー・セッション内の場合、データ・ソース特定制約事項を違反している可能性があります。

このエラーは、EXECUTE または OPEN ステートメント上の SQLDA に正しくないホスト変数、または正しくない SQLLEN 値を指定したときに起きます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 入力ホスト変数値のタイプと長さが正しいことを確認してください。入力ホスト変数でパラメーター・マーカーに値を与えている場合は、その値がパラメーター・マーカーの暗黙的なデータ・タイプと長さに合うようにしてください。

連合システム・ユーザー: パススルー・セッションの場合、エラーの原因であるデータ・ソースを判別してください (障害の起きたデータ・ソースを識別する手順については、問題判別の手引きを参照してください)。どの特定制約事項が違反されたのか判別するデータ・ソースでどの特定制約事項を違反したのか判別するために SQL ダイアクトを調べ、失敗したステートメントを必要に応じて調整してください。

sqlcode: -302

sqlstate: 22001、22003

SQL0303N データ・タイプに互換性がないため、**SELECT**、**VALUES**、または **FETCH** ステートメントのホスト変数に、値を割り当てられません。

説明: 組み込まれた **SELECT** または **VALUES** ステートメントが、ホスト変数に値を割り当てようとしたが、変数のデータ・タイプと、対応する **SELECT**-list または **VALUES**-list エレメントのデータ・タイプに互換性がありません。両方ともに数値、文字、または漢字でなければなりません。たとえば、ユーザー定義のデータ・タイプの場合、ホスト変数は、ステートメントのトランスフォーム・グループに定義されている **FROM SQL** トランスフォーム関数の結果タイプと互換性のある、関連する組み込みデータ・タイプで定義されます。たとえば、列のデータ・タイプが日付または時刻の場合は、変数のデータ・タイプは適切な最小長を持つ文字でなければなりません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 表定義が現在のものであり、ホスト変数が適切なデータ・タイプであることを確認してください。ユーザー定義のデータ・タイプの場合、ホスト変数の関連する組み込みデータ・タイプが、ステートメントのトランスフォーム・グループに定義されている **FROM SQL** トランスフォーム関数の結果タイプと互換性があることを確認してください。

sqlcode: -303

sqlstate: 42806

SQL0304N 値がホスト変数のデータ・タイプの範囲外なので、その値をホスト変数に割り当てることができません。

説明: ホスト変数リストへの **FETCH**、**VALUES**、または **SELECT** は、ホスト変数が検索された値を保留するのに十分な大きさでないため、失敗しました。

ステートメントは処理できません。データは取り出されません。

ユーザーの処置: 表定義が現在のものであり、ホスト変数が適切なデータ・タイプであることを確認してください。SQL データ・タイプの許容範囲については、*SQL 解説書* を参照してください。

連合システム・ユーザー: データ・ソースから返されたデータ・タイプの範囲については、そのデータ・ソースの資料を参照してください。

sqlcode: -304

sqlstate: 22001、22003

SQL0305N 標識変数が指定されていないので、**SELECT** または **FETCH** ステートメント内のホスト変数に **NULL** 値を割り当てられません。

説明: **FETCH** または組み込まれた **SELECT** または **VALUES** 処理が、標識変数が指定されていないホスト変数に挿入される **NULL** 値を取り出しました。列が **NULL** 値を返す可能性がある場合は、標識変数を指定する必要があります。

ステートメントは処理できません。データは取り出されません。

ユーザーの処置: **FETCH** または **SELECT** オブジェクト表の定義、または **VALUES** リストのエレメントを調べてください。それらの列の **NULL** 値を取り出すことができるすべてのホスト変数に対して、標識変数を指定するように、プログラムを修正してください。

sqlcode: -305

sqlstate: 22002

SQL0306N ホスト変数 “<name>” が定義されていません。

説明: ホスト変数 “<name>” が **DECLARE SECTION** で宣言されていません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ホスト変数が宣言されていること、またその名前のつづりが正しいことを確認してください。

SQL0307N ホスト変数 “<name>” はすでに定義されています。

説明: ホスト変数 “<name>” は、すでに DECLARE SECTION で定義されています。

定義は無視されます。代わりに、前回の定義が使用されます。

ユーザーの処置: ホスト変数のつづりが正しく、名前は 1 つのプログラムにつき 1 回だけ定義されていることを確認してください。

SQL0308N ホスト変数の数の制限に達しました。

説明: ホスト変数の数の制限は、SYSPLAN の HOST_VARS 列に指定された値によって異なります。この制限に達しました。

残りの変数宣言は無視されます。

ユーザーの処置: プログラムを単純にするか、個別の小さいプログラムに分割してください。

SQL0309N OPEN ステートメントのホスト変数の値が NULL ですが、対応する他のステートメントでは NULL 値は使用できません。

説明: 入力ホスト変数の値が NULL でしたが、SELECT、VALUES、または準備されたステートメントでの対応する使用方法に、標識変数が指定されていませんでした。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: USING 文節を使用する必要があることを確認してください。別の方法としては、必要な場合にのみ標識変数が指定されていることを確認してください。

sqlcode: -309

sqlstate: 07002

SQL0310N SQL ステートメントに含まれるホスト変数が多すぎます。

説明: ステートメント中のホスト変数が最大数を超えています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメントのホスト変数を減らすか、またはステートメントが複雑すぎないことを確認してください。

SQL0311N ホスト変数番号 “<var-number>” の長さが、負であるか、または最大を超えています。

説明: 評価時に、SQLDA の項目が <var-number> (1 に基づく) で示されるストリング・ホスト変数の長さ指定が負であるか、またはそのホスト変数に定義された最大長より長くなっています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: プログラムを訂正して、すべてのストリング・ホスト変数の長さが負の値ではないか、あるいは最大長より短くするようにしてください。

sqlcode: -311

sqlstate: 22501

SQL0312N ホスト変数 “<host-name>” が動的 SQL ステートメント、視点定義、またはトリガー定義で使用されています。

説明: ホスト変数 “<host-name>” が SQL ステートメントで使用されていますが、ホスト変数は動的 SQL ステートメント、視点定義の SELECT ステートメント、またはトリガー定義のトリガー・アクションで使用することができません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 動的 SQL ステートメントについては、ホスト変数の代わりに、パラメーター・

マーカー (?) を使用してください。ホスト変数およびパラメーター・マーカーを、視点定義またはトリガー定義で使用しないでください。

sqlcode: -312

sqlstate: 42618

SQL0313N EXECUTE または OPEN ステートメント内のホスト変数の数が、必須の入力値の数と等しくありません。

説明: EXECUTE または OPEN ステートメントに指定されているホスト変数の数が、SQL ステートメントに指定されているホスト変数またはパラメーター・マーカー (?) の数と同じではありません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: EXECUTE または OPEN ステートメントに指定されているホスト変数の数と、SQL ステートメント内に現れるホスト変数またはパラメーター・マーカーの数が同じになるように、アプリケーション・プログラムを修正してください。

sqlcode: -313

sqlstate: 07001, 07004

SQL0314N ホスト変数 “<name>” の宣言が正しくありません。

説明: ホスト変数 “<name>” の宣言が、以下のいずれかの理由で正しくありません。

- 指定したタイプがサポートされていません。
- 指定した長さがゼロか、負か、または大きすぎます。
- 初期化指定子を使用しています。
- 指定した構文が正しくありません。

変数は定義されません。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーがサポートする宣言のみを、正しく指定していることを確認してください。

SQL0315N ホスト変数の宣言が正しくありません。

説明: ホスト変数の宣言が、以下のいずれかの理由で正しくありません。

- 指定したタイプがサポートされていません。
- 指定した長さがゼロか、負か、または大きすぎます。
- 指定した構文が正しくありません。

変数は定義されません。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーがサポートする宣言のみを、正しく指定していることを確認してください。

SQL0317N BEGIN DECLARE SECTION の後に END DECLARE SECTION がありません。

説明: DECLARE SECTION の処理中に、入力の終わりに達しました。

プリコンパイルは終了します。

ユーザーの処置: DECLARE SECTION を終了させるための END DECLARE SECTION ステートメントを追加してください。

SQL0318N 先行する BEGIN DECLARE SECTION がない END DECLARE SECTION が見つかりました。

説明: END DECLARE SECTION ステートメントが見つかりましたが、先行する BEGIN DECLARE SECTION がありません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: END DECLARE SECTION の前に BEGIN DECLARE SECTION を入力してください。

SQL0324N “<usage>” 変数 “<name>” は間違ったタイプです。

説明: INDICATOR 変数 “<name>” が小整数でないか、または STATEMENT 変数 “<name>” が文字データ・タイプではありません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 変数が正しいタイプで、正しく指定されていることを確認してください。

SQL0332N ソース・コード・ページ “<code page>” をターゲット・コード・ページ “<code page>” への変換を使用できません。理由コード “<reason-code>”。

説明: ソース・コード・ページからターゲット・コード・ページへのデータの変換はサポートされていません。このエラーは、以下の状態で起きる可能性があります。

- SQL ステートメントの実行中に、エラーが起きました。データは、データベース・マネージャーによって処理されません。
- WSF または IXF ファイルのインポートまたはエクスポート中に、エラーが起きました。インポートまたはエクスポートは失敗します。
- 連合システム・ユーザー: データ・ソースは指定されたコード・ページの変換をサポートしません。
- DB2 コネクト・ユーザー: ソース・コード・ページおよびターゲット・コード・ページの両方がホストの CCSID または AS/400 システムを参照している可能性があります。
- 暗号化されたデータとともに保管されているコード・ページからターゲット・コード・ページへの変換中にエラーが発生しました。

理由コードは以下のとおりです。

- 1 ソースとターゲット・コード・ページの組み合わせを、データベース・マネージャーがサポートしていません。

- 2 ソースとターゲット・コード・ページの組み合わせを、データベース・マネージャーまたはクライアント・ノードのオペレーティング・システム文字変換ユーティリティのいずれかがサポートしていません。

- 3 ソースとターゲット・コード・ページの組み合わせを、データベース・マネージャーまたはサーバー・ノードのオペレーティング・システム文字変換ユーティリティのいずれかがサポートしていません。

ユーザーの処置: 解決策は以下の通りです。

- ソースとターゲットのコード・ページのデータ変換が、データベース・マネージャーによってサポートされていることを確認してください。データベース・マネージャーのコード・ページ・サポートについては、概説およびインストールを参照してください。DB2 コネクトが使用されている場合は、DB2 コネクト 概説およびインストール をチェックしてください。
- 一部のコード・ページ組み合わせのデータ変換は、ソースまたはターゲットのコード・ページの言語グループによって、データベース・マネージャー・インストール・オプションを介してサポートされる場合があります。戻された理由コードに示される通り、適切なものがインストールされていて、データベース・マネージャーおよびクライアント・アプリケーションにアクセス可能であることを確認してください。インストール・オプションのリストについては、概説およびインストール または DB2 コネクト 概説およびインストール を参照してください。
- 一部のコード・ページ組み合わせのデータ変換は、ソースまたはターゲットのコード・ページの言語グループによって、オペレーティング・システム供給文字変換ユーティリティを介したデータベース・マネージャーによってサポートされる場合があります。サポートされている変換機能のリストについては、オペレーティン

グ・システムの資料をチェックし、適切な変換機能がインストールされており、戻された理由コードで示されているデータベース・マネージャーとクライアント・アプリケーションに対してアクセス可能なことを確認してください。使用されているオペレーティング・システムの変換ユーティリティのリストについては、概説およびインストール または DB2 コネクト 概説およびインストール を参照してください。

- サポートされていないコード・ページを、記述されている対のいずれかに変更してください。

AS/400 ユーザーは、AS/400 CCSID 65535 がサポートされていないことに留意してください。CCSID 65535 を使用してエンコードされた AS/400 データは、DB2 コネクトを使用してアクセスするためには、サポートされている CCSID に変換される必要があります。

連合システム・ユーザー: データ・ソースコード・ページのサポートについては、DB2 インストールおよび構成 補足 を参照してください。

sqlcode: -332

sqlstate: 57017

SQL0334N コード・ページ "<source>" からコード・ページ "<target>" への変換中にオーバーフローが発生しました。ターゲット・エリアの最大サイズは "<max-len>" です。ソース・ストリング長は "<source-len>" およびその 16 進数表示は "<string>" でした。

説明: SQL ステートメントの実行中に、コード・ページ変換処理の結果が、ターゲット・オブジェクトの最大サイズより大きなストリングになりました。

ユーザーの処置: 以下を行って、状況に応じて、オーバーフロー条件が起きないようにデータを修正してください。

- ソース・ストリングの長さを短くするか、あるいはターゲット・オブジェクトのサイズを大きくしてください (下記の注を参照してください)。
- 操作を変えてください。
- 暗号化されたデータ値を暗号化解除関数で使用する前に、バイト数のより多い VARCHAR ストリングにキャストしてください。
- アプリケーション・コード・ページとデータベース・コード・ページが同じであることを確認してください。同じであれば、ほとんどの接続でコード・ページ変換は必要なくなります。

注: 文字変換の一部として、文字または漢字ストリングのデータ・タイプの自動プロモーションは行われません。結果のストリングの長さがソース・ストリングのデータ・タイプの最大長を超えた場合には、オーバーフローが起こります。この状況を訂正するには、ソース・ストリングのデータ・タイプを変更するか、変換してストリング長を長くするためにデータ・タイプをキャストします。

sqlcode: -334

sqlstate: 22524

SQL0336N 10 進数の位取りをゼロにする必要があります。

説明: 10 進数は、位取りがゼロでなければならぬコンテキストにおいて使用されます。これは、10 進数が START WITH、INCREMENT、MINVALUE、MAXVALUE、または RESTART WITH の CREATE または ALTER SEQUENCE ステートメントで指定されたときに起きます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 10 進数の右側にある、ゼロ以外の数字を除去してください。

sqlcode: -336

sqlstate: 428FA

SQL0338N JOIN 演算子に関連した ON 文節が有効ではありません。

説明: JOIN 演算子に関連した ON 文節が次の理由の 1 つのため、有効ではありません。

- 結合条件は、ほかの副照会を組み込むことはできません。
- ON 分節内の列参照は、ON 文節のスコープ (ON 文節として同一の結合済み表に入っている) 内にある表の列のみを参照しています。
- スカラー全選択は、ON 文節の式では使用できません。
- 全外部結合の ON 文節で参照される関数は決定的なものであり外部アクションは必要ありません。
- 参照解除操作 (->) は使用できません。
- SQL 関数または SQL メソッドを使用できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ON 文節を訂正して、該当する列を参照するか、または他の副照会あるいはスカラー全選択を削除してください。非参照操作、SQL 関数、または SQL メソッドを ON 文節から除去してください。

全外部結合を使用する場合には、ON 文節のすべての関数が決定的なもので外部アクションが必要のないことを確認してください。

sqlcode: -338

sqlstate: 42972

SQL0340N 共通表式 “<name>” が、同じステートメント内の共通表式定義の他のオカレンスと同じ ID を持っています。

説明: 共通表式名 “<name>” が、ステートメントの複数の共通表式の定義で使用されています。共通表式の記述に使用される名前は、同じステートメント内で固有でなければなりません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 共通表式のいずれかの名前を変更してください。

sqlcode: -340

sqlstate: 42726

SQL0341N 共通表式 “<name1>” と “<name2>” の間に、循環参照が存在しています。

説明: 共通表式 “<name1>” が全選択内の FROM 文節の “<name2>” を参照し、“<name2>” が全選択内の FROM 文節の “<name1>” を参照しています。上記の形態の循環参照は許されていません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: いずれかの共通表式から循環参照を取り除いてください。

sqlcode: -341

sqlstate: 42835

SQL0342N 共通表式 “<name>” が再帰的なため、SELECT DISTINCT は使用できず、UNION ALL を使用する必要があります。

説明: 上記 2 つの説明は以下の通りです。

- 共通表式が再帰的なため、共通表式 “<name>” 内の全選択は、SELECT DISTINCT で開始することができません。
- 共通表式 “<name>” 内の全選択が、再帰的な共通表式に必要な UNION ALL の代わりに、UNION を指定しています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: キーワード DISTINCT を共通表式から取り除いて、UNION の後にキーワード ALL を追加するか、または共通表式内の再帰参照を取り除いてください。

sqlcode: -342

sqlstate: 42925

SQL0343N 再帰共通表式 “<name>” には、列名が必要です。

説明: 再帰共通表式 “<name>” は、共通表式の ID の後に列名を指定する必要があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 共通表式の ID の後に、列名を追加してください。

sqlcode: -343

sqlstate: 42908

SQL0344N 再帰共通表式 “<name>” には、列 “<column-name>” に適合しないデータ・タイプ、長さ、コード・ページがあります。

説明: 再帰共通表式 “<name>” が、共通表式の繰り返し全選択で参照される列 “<column-name>” を持っています。データ・タイプ、長さ、およびコード・ページは、この列の初期化全選択にもとづいて設定されます。繰り返し全選択の列 “<column-name>” に対する式の結果が、その列に値を割り当てない可能性がある異なるデータ・タイプ、長さ、またはコード・ページになりました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 再帰共通表式的全選択で使用している列を、初期化列が繰り返し列と一致するように修正してください。

sqlcode: -344

sqlstate: 42825

SQL0345N 再帰共通表式 “<name>” の全選択は、2 つ以上の全選択の UNION でなければならず、列関数、GROUP BY 文節、HAVING 文節、または ON 文節の入った明示的な結合を組み込むことはできません。

説明: 共通表式 “<name>” に、それ自体に対する参照が入っているため、以下のようになります。

- 2 つ以上の全選択の合併でなければなりません。
- GROUP BY 文節を組み込むことはできません。
- 列関数を持つことはできません。
- HAVING 文節を組み込むことはできません。
- ON 文節との明示的な結合を組み込むことはできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 以下の方法を使って、共通表式を変更してください。

- 2 つ以上の全選択の合併を作成する。
- 列関数、GROUP BY 文節、HAVING 文節、または ON 文節の入った明示的な JOIN を除去する。
- 再帰参照を取り除く。

sqlcode: -345

sqlstate: 42836

SQL0346N 同じ FROM 文節、または副照会の FROM 文節に 2 回目のオカレンスがあるため、共通表式 “<name>” に対する無効な参照が最初的全選択で起きました。

説明: 共通表式 “<name>” に、以下のいずれかによって記述されている、それ自体に対する無効な参照が入っています。

- UNION ALL セット演算子の前にある最初的全選択の再帰参照。最初的全選択は初期化でなければならず、再帰参照を組み込むことはできません。
- 同じ FROM 文節の同じ共通表式に対する複数の参照。上記の参照は、再帰共通表式では許されていません。
- 副照会の FROM 文節の再帰照会。再帰循環は、副照会では定義できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを行ってください。

- 合併演算子の前にある全選択を、再帰参照を組み込まないように変更してください。
- 同じ共通表式に対する複数の参照の入った FROM 文節を、ただ 1 つの参照に変更してください。
- 副照会の FROM 文節を、共通表式を参照しないように変更してください。

sqlcode: -346

sqlstate: 42836

SQL0347W 再帰共通表式 “<name>” に、無限ループが含まれている可能性があります。

説明: “<name>” という名前の再帰共通表式が、完了しない可能性があります。この警告は、再帰共通表式の繰り返し部分の一部として、特定の構文が見つけられないことにもとづいています。予

期されている構文は、以下の通りです。

- 繰り返し選択リストの INTEGER 列の 1 ずつの増加
- “counter_col < constant” または “counter_col < :hostvar” 形式の繰り返し部分の WHERE 文節の述部

再帰共通表式にこの構文がないため、結果として無限ループになる可能性があります。再帰共通表式のデータまたは他の特性のおかげで、ステートメントが正常に完了する場合があります。

ユーザーの処置: 無限ループを避けるには、上記の構文を組み込んでください。

sqlcode: +347

sqlstate: 01605

SQL0348N “<sequence-expression>” はこのコンテキストでは指定できません。

説明: ステートメントに、無効なコンテキストで NEXTVAL 式または PREVVAl 式が入っています。NEXTVAL 式と PREVVAl 式は、以下のコンテキストでは使用できません。

- 完全外部結合の結合条件
- CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメント内の列の DEFAULT 値
- CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメント内の生成された列定義
- CHECK 制約の条件
- CREATE TRIGGER ステートメント (NEXTVAL 式が指定される可能性があります、PREVVAl 式は指定されません)
- CREATE VIEW ステートメント、CREATE METHOD ステートメントまたは CREATE FUNCTION ステートメント

NEXTVAL 式は、以下のコンテキストでは指定できません。

- CASE 式
- 総計関数のパラメーター・リスト

- INSERT、UPDATE または VALUES INTO ステートメントの全選択を除く副照会
- 外部 SELECT に DISTINCT 演算子を備えた SELECT ステートメント
- 外部 SELECT に GROUP BY 演算子を備えた SELECT ステートメント
- 結合の結合条件
- 外部 SELECT ステートメントが、UNION、INTERSECT、または EXCEPT セット演算子を使用する別の SELECT ステートメントと結合した SELECT ステートメント
- ネストされた表の式
- 表関数のパラメーター・リスト
- 最外部の SELECT ステートメント、DELETE、または UPDATE ステートメントの WHERE 文節
- 最外部の SELECT ステートメントの ORDER BY 文節
- UPDATE ステートメントの SET 文節における、式的全選択の SELECT 文節
- SQL ルーチンにおける IF、WHILE、DO...UNTIL、または CASE ステートメント

ステートメントは処理されません。

ユーザーの処置: シーケンス式への参照を除去して、ステートメントを再実行依頼してください。

sqlcode: -348

sqlstate: 428F9

SQL0349N 位置 “<column-position>” にある列の NEXTVAL 式の指定は、すべての行の同じ列の他のすべての式の指定に一致していなければなりません。

説明: 複数行 INSERT ステートメントの VALUE 文節または VALUE 式の位置 “<column-position>” にある列に指定された式に、NEXTVAL 式が入っています。NEXTVAL 式の入った式がこれらのいずれかにある列の値を指定す

るために使用されているとき、その同じ式がすべての行のその列に指定されていなければなりません。たとえば、次の INSERT ステートメントは正常に実行されます。

```
INSERT INTO T1
VALUES(NEXTVAL FOR sequence1 + 5, 'a'),
      (NEXTVAL FOR sequence1 + 5, 'b'),
      (NEXTVAL FOR sequence1 + 5, 'c')
```

次の INSERT ステートメントは失敗します。

```
INSERT INTO T1
VALUES(NEXTVAL FOR sequence1 + 5, 'a'),
      (NEXTVAL FOR sequence1 + 5, 'b'),
      (NEXTVAL FOR sequence1 + 4, 'c')
```

ユーザーの処置: 構文を訂正して、ステートメントを再実行依頼してください。

sqlcode: -349

sqlstate: 560B7

SQL0350N LOB、DATALINK、または構造化タイプ列 “<column-name>” は索引、キー、固有制約、生成された列、または宣言された一時表では使用できません。

説明: 索引、キー、または固有制約の最大サイズに違反していない場合でも、LOB 列、DATALINK 列、または構造化タイプ列は索引、キー、または固有制約では使用できません。これらのデータ・タイプはまた、生成された列または宣言された一時表の列タイプとしてもサポートされません。この制限には、LOB または DATALINK に基づく特殊タイプ列の使用が入っています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: LOB、DATALINK、または構造化タイプ列を索引、キー、固有索引、生成された列、または宣言された一時表から除去してください。構造化タイプ列で指定された索引は、索引拡張子を使用して定義された可能性があります。

sqlcode: -350

sqlstate: 42962

SQL0351N サポートされていない **SQLTYPE** が出力 **SQLDA** (選択リスト) の位置 “<position-number>” で検出されました。

説明: 位置 “<position-number>” の **SQLDA** のエレメントは、アプリケーション・リクエスターまたはアプリケーション・サーバーがサポートしないデータ・タイプのためのものです。アプリケーションが **SQLDA** ディレクトリーを使用していない場合は、“<position-number>” は選択リストまたは **CALL** ステートメントのパラメーターのエレメントの位置を表します。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメントを変更して、サポートされていないデータ・タイプを除去してください。選択ステートメントについては、サポートされていないデータ・タイプを持つ選択リスト内の列の名前を除去するか、照会でキャストを使用して、サポートされているデータ・タイプに列をキャストしてください。

sqlcode: -351

sqlstate: 56084

SQL0352N サポートされていない **SQLTYPE** が入力リスト (**SQLDA**) の位置 “<position-number>” で検出されました。

説明: 位置 “<position-number>” の **SQLDA** のエレメントは、アプリケーション・リクエスターまたはアプリケーション・サーバーがサポートしないデータ・タイプのためのものです。アプリケーションが **SQLDA** ディレクトリーを使用していない場合は、“<position-number>” は入力ホスト変数、パラメーター・マーカー、または **CALL** ステートメントのパラメーターの位置を表します。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメントを変更して、サ

ポートされていないデータ・タイプを除去してください。

sqlcode: -352

sqlstate: 56084

SQL0355N 定義されている列 “<column-name>” が、ログに記録するには大きすぎます。

説明: ラージ・オブジェクト・データ・タイプ (**BLOB**、**CLOB**、**DBCLOB**) は、2 ギガバイト (2,147,483,647 バイト) までのサイズで作成される可能性があります。データ値のロギングは、サイズが 1 ギガバイト (1,073,741,823 バイト) 以下のオブジェクトに対してのみ許されています。したがって、サイズが 1 ギガバイトを超える巨大なオブジェクトは、ログに記録することができません。

ユーザーの処置: 列の作成中に **NOT LOGGED** 句を使用して、明示的にデータのロギングが必要ないことを示すか、または列の最大サイズを 1 ギガバイトまたはそれ以下まで減らしてください。

sqlcode: -355

sqlstate: 42993

SQL0357N **DB2** データ・リンク・マネージャー “<name>” が現在使用できません。理由コード = “<reason-code>”

説明:

ステートメントには、**DB2** データ・リンク・マネージャー “<name>” での処理が必要です。理由コードで示されたように、**DB2** データ・リンク・マネージャーは現在使用できません。

01 **DB2** データ・リンク・マネージャーを使用できません。

02 操作が試行されたデータ・サーバー、インスタンス、またはデータベースが、該

当する DB2 データ・リンク・マネージャーに登録されていません。

- 03 DB2 データ・リンク・マネージャーへのアクセスが禁止されています。
- 04 DB2 データ・リンク・マネージャーは、不明なサーバーです。
- 05 DB2 データ・リンク・マネージャーとの通信中にエラーが発生しました。
- 06 DB2 データ・リンク・マネージャーのインストール・タイプに、データベースに登録されているタイプとの互換性はありません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 理由コードに応じた処置は以下の通りです。

- 01 DB2 データ・リンク・マネージャーまたは通信リンクがダウンしている可能性があります。しばらく待機してから再試行するか、または DB2 データ・リンク・マネージャー管理者に問い合わせてください。問題が解決しない場合は、データベースからアプリケーションを切断し、もう一度接続した後で再試行してください。
- 02 データベース・サーバー、インスタンス、またはデータベースを DB2 データ・リンク・マネージャーに登録してください。
- 03 DB2 データ・リンク・マネージャーへのアクセスは、それが一貫性のある状態にあることを DB2 が確認できるまで許可されません。DB2 がこれを非同期に行うまで待ってください。他の理由コードの状態のために、DB2 がこれを行うことができない可能性もあります。このため、問題が続く場合は、インスタンスの db2diag.log ファイルでその状態を調べて訂正してください。DB2 データ・リン

ク・マネージャーの破損リカバリに関する情報について詳しくは、管理ガイドを参照してください。

- 04 DB2 データ・リンク・マネージャーがネットワーク上で使用可能であることを確認してください。
- 05 DB2 データ・リンク・マネージャーおよび通信リンクが立ち上がっているかを確かめてください。問題が解決しない場合は、データベースからアプリケーションを切断し、もう一度接続した後で再試行してください。
- 06 DB2 データ・リンク・マネージャーが DFS にインストールされている場合、CELL としてデータベースに追加する必要があります。また、ネイティブ・ファイル・システムにインストールされている場合、NODE として追加する必要があります。ADD DATALINKS MANAGER コマンドの詳細については、コマンド解説を参照してください。

sqlcode: -357

sqlstate: 57050

SQL0358N DATALINK 値が参照したファイルにアクセスできません。理由コード = “<reason-code>”

説明: DATALINK 値を割り当てられません。理由コードは以下の通りです。

- 21 DATALINK 値データ・ロケーション形式は無効です。
- 22 DATALINK 値 DB2 データ・リンク・マネージャーがデータベースに登録されていません。
- 23 DATALINK リンク・タイプ値が無効です。

- 24 DB2 リンク・マネージャーが DATALINK 値参照ファイルを見つけられません。
- 25 DATALINK 値参照ファイルがすでにデータベースにリンクされています。
- 26 DATALINK 値参照ファイルはリンクのためにアクセスできません。これは、設定ユーザー ID (SUID) または設定グループ ID (SGID) がオンになっている、ディレクトリー、記号リンク、許可ビットを持つファイル、あるいは誰にも所有されていないファイル (UID = -2) である可能性があります。
- 27 DATALINK 値データ・ロケーションまたは注釈が長すぎます。
- 28 DB2 データ・リンク・マネージャーの既存のレジストリーが、このファイルにリンクすることを許可していません (DLFM に一致する接頭部がありません)。
- 29 DB2 データ・リンク・マネージャーが、DB2 ユーザーがこのファイルにリンクすることを許可していません。
- 30 別のアプリケーションで、ファイルに対するリンクがすでに進行中です。
- 31 DB2 データ・リンク・マネージャーによるファイル・コピーが、リンク解除されるファイルについて完了していません。ステートメントは処理できません。
- ユーザーの処置:** 処置は次のように理由コードに基づきます。
- 21 データ・ロケーション形式を訂正してください。
- 22 正しい DB2 データ・リンク・マネージャーが指定されていることを確認して、正しい場合はデータベースに登録してください。登録された DB2 データ・リンク・マネージャーは、データベース・マネージャー構成パラメーター・データ・リンクが YES に設定されていない場合は無視されます。
- 23 リンク・タイプ値を訂正してください。
- 24 正しいファイルが指定され、このファイルが存在しているか、チェックします。
- 25 ファイルの既存の参照をリンク解除するか、またはこのステートメントでファイルを指定しないようにしてください。
- 26 ディレクトリーのリンクは許可されていません。記号リンクではなく、実際のファイル名を使用してください。SUID または SGID がオンの場合は、DATALINK タイプを使用してこのファイルをリンクできません。このファイルが誰にも所有されていない場合 (UID = -2)、DATALINK タイプを READ PERMISSION DB オプションと一緒に使用してこのファイルをリンクできません。
- 27 データ・ロケーション値または注釈の長さを小さくしてください。
- 28 DB2 データ・リンク・マネージャー管理者に連絡して、このファイルへのリンクに必要な登録を追加してください。
- 29 DB2 データ・リンク・マネージャー管理者に連絡して、必要な許可を入手してください。
- 30 このファイルをリンクせず、あとでやり直してください。
- 31 ファイルのコピーが完了するように時間をとってあとでやり直してください。

sqlcode: -358

sqlstate: 428D1

SQL0359N 識別列またはシーケンスの値の範囲を使い果たしました。

説明: DB2 は識別列またはシーケンス・オブジェクトに値を生成しようとしたが、すでにすべての許容できる値が割り当てられています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 識別列の場合、識別列の値の範囲を大きくして、表を再定義してください。値の範囲が列のデータ・タイプの範囲より小さくなるように制限する MAXVALUE または MINVALUE が指定されている場合、列を変更して有効値の範囲を拡張できます。これを行わない場合、識別列を再作成する必要がありますが、そのためには表を再作成しなければなりません。最初に既存の表をドロップして、識別列に異なるデータ・タイプを指定して表を再作成します。識別列の現在のデータ・タイプより大きい値の範囲を持つデータ・タイプを指定してください。

シーケンス・オブジェクトの場合、値の範囲を大きくしてシーケンスを再定義してください。MAXVALUE または MINVALUE 文節によって値の範囲がシーケンス・オブジェクトのデータ・タイプの範囲よりも小さくなるように制限されている場合、シーケンスを変更して有効値の範囲を拡張してください。これを行わない場合、シーケンス・オブジェクトをドロップし、より大きな値の範囲を許可するデータ・タイプを指定して CREATE SEQUENCE ステートメントを再発行してください。

sqlcode: -359

sqlstate: 23522

SQL0360W 表 “<table-name>” がデータ・リンク調整保留 (DRP) またはデータ・リンク (DRNP) 状態にあるため、DATALINK 値が無効である可能性があります。

説明: 表がデータ・リンク調整保留 (DRP) またはデータ・リンク調整不可 (DRNP) 状態にあるた

め、表 “<table-name>” の DATALINK 値が無効である可能性があります。これらのいずれかの状態にある間は、DB2 データ・リンク・マネージャーでのファイルの制御は保証されません。

ステートメント処理が続行しています。

ユーザーの処置: データ・リンク調整保留 (DRP) およびデータ・リンク調整不可 (DRNP) 状態で該当する処置を取るための情報については、管理の手引きを参照してください。

sqlcode: +360

sqlstate: 01627

SQL0368N DB2 データ・リンク・マネージャー “<dlm-name>” がデータベースに登録されていません。

説明: DB2 データ・リンク・マネージャー “<dlm-name>” がデータベースに登録されていません。データベース・マネージャー構成パラメーター DATALINK が NO に設定されている場合は、登録された DB2 データ・リンク・マネージャーは無視されます。DB2 データ・リンク・マネージャーは DROP DATALINKS MANAGER コマンドでドロップされた可能性があります。DB2 データ・リンク・マネージャーが同じ名前でも新たに登録されていることが考えられます。この場合エラーは、その DB2 データ・リンク・マネージャーの以前にドロップされた登録に関連しています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: データベース・マネージャー構成パラメーター DATALINK が YES に設定されていることを確認してください。以前にドロップされた DB2 データ・リンク・マネージャーへのリンクである DATALINK 値を、調整ユーティリティを使用して除去する必要があります。詳細については、コマンド解説書の中の DROP DATALINKS MANAGER コマンドの使用上の注意を参照してください。

sqlcode: -368

sqlstate: 55022

SQL0370N 位置 “<n>” のパラメーターは、**LANGUAGE SQL** 関数 “<name>” の **CREATE FUNCTION** ステートメントで指定しなければなりません。

説明: **LANGUAGE SQL** で定義されたすべての関数パラメーターには、それぞれ *parameter-name* が必要です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 関数のおおのこのパラメーターにパラメーター名を指定してください。

sqlcode: -370

sqlstate: 42601

SQL0372N 表で許可されている **IDENTITY** または **ROWID** 列は 1 つだけです。

説明: 以下のいずれかを試みました。

- 複数の **IDENTITY** 列を持つ表を作成
- すでに 1 つの **IDENTITY** 列を持つ表に同じ列を追加
- 複数の **ROWID** 列を持つ表を作成
- すでに 1 つの **ROWID** 列を持つ表に同じ列を追加

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: **CREATE TABLE** ステートメントの場合、**ROWID** データ・タイプまたは **IDENTITY** 属性を持つ行を 1 つだけ選択してください。 **ALTER TABLE** ステートメントの場合、すでに **ROWID** 列または **IDENTITY** 列が表に存在しています。データ・タイプ **ROWID** または **IDENTITY** 属性を持つ別の行を表に追加しないでください。

sqlcode: -372

sqlstate: 428C1

SQL0373N **GENERATED** 列 “<column-name>” に **DEFAULT** 文節を指定できません。

説明: **GENERATED** 列として識別されている列に、**DEFAULT** 文節を指定することはできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: **DEFAULT** 文節を除去して、ステートメントを再実行依頼してください。

sqlcode: -373

sqlstate: 42623

SQL0374N **LANGUAGE SQL** 関数 “<function name>” の **CREATE** ステートメントが “<clause>” 文節で指定されていませんが、関数本体ではこの指定を要求しています。

説明: 次の状態がエラーの原因だと思われます:

次のいずれかの条件が関数本体に適用する場合は、**NOT DETERMINISTIC** を指定しなければなりません。

- **NOT DETERMINISTIC** プロパティをコールした関数。
- 特殊レジスターがアクセスされた。

LANGUAGE SQL を指定して定義された関数の本文に副選択が入っている、または **SQL** データを読み取れる関数を呼び出す場合は、**READ SQL DATA** を指定しなければなりません。

LANGUAGE SQL を指定して定義された関数の本文が **EXTERNAL ACTION** プロパティを備えた関数を呼び出す場合は、**EXTERNAL ACTION** を指定しなければなりません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 文節を指定するか、または関数の本体を変更してください。

sqlcode: -374

sqlstate: 428C2

SQL0385W SQL ルーチンで **SQLSTATE** または **SQLCODE** 変数への割り当てが上書きされたと思われるため、ハンドラーを活動化しません。

説明: 値を **SQLSTATE** または **SQLCODE** 特殊変数に割り当てているステートメントが少なくとも 1 つ、SQL ルーチンに入っています。これらの変数には、SQL ルーチンでの SQL ステートメントの処理によって値が割り当てられています。そのため、SQL ステートメント処理の結果、割り当てられている値が上書きされたと考えられません。さらに、**SQLSTATE** 特殊変数への値の割り当ては、どのハンドラーも活動化しません。

ルーチン定義は正常に処理されました。

ユーザーの処置: 必要ありません。この警告が出されないようにするには、**SQLSTATE** または **SQLCODE** 特殊変数への割り当てを除去してください。

sqlcode: +385

sqlstate: 01643

SQL0388N 関数 “<function-name>” の **CREATE CAST** ステートメントでは、ソース “<source data type name>” およびターゲット “<target-data-type-name>” の両方が組み込まれたタイプかまたは同じタイプです。

説明: データ・タイプのどちらかがユーザー定義のタイプでなければなりません。ソース・タイプおよびターゲット・タイプの両方が同じデータ・タイプであってはなりません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ソースまたはターゲットのデータ・タイプを変更してください。

sqlcode: -388

sqlstate: 428DF

SQL0389N **CREATE CAST** ステートメントで識別された特定の関数インスタンス “<specific name>” は、1 つ以上のパラメーターがあるか、ソース・データ・タイプと一致しないパラメーターがあるか、またはターゲットと一致しないデータ・タイプを戻します。

説明: キャスト関数には、

- 1 つのパラメーターがなければなりません。
- パラメーターのデータ・タイプがソース・データ・タイプと同じでなければなりません。
- 結果データ・タイプはターゲット・データ・タイプと同じでなければなりません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 別の関数を選択するか、ソース・データ・タイプまたはターゲット・データ・タイプを変更してください。

sqlcode: -389

sqlstate: 428DG

SQL0390N 関数 “<function-name>” は使用されているコンテキストの中で無効な特定の関数 “<specific-name>” に変わりました。

説明: 関数は、使用されているコンテキストの中で無効な特定の関数に変わりました。

“<specific-name>” が空ストリングの場合、関数は “<function-name>” で示される組み込み関数に変わります。推定される状態としては、以下のものがあります。

- 特定の関数は、スカラー、列、あるいは行関数のみが予想される (コピーされたスカラー関数のような) 表関数です。

- 特定の関数は、表関数のみが予想される (照会
の FROM 文節のような) スカラー、列、ある
いは行関数です。
- 特定の関数は、スカラーあるいは列関数のみが
予想される行関数です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 正しい関数名および引き数が指
定されていることと、現行パスに正しい関数が定
義されているスキーマが入っていることを確認し
てください。関数名、現行パス、(SET CURRENT
FUNCTION PATH または FUNCPATH パイン
ド・オプション使用) を変更するか、あるいは関
数が使用されているコンテキストを変更してくだ
さい。

sqlcode: -390

sqlstate: 42887

SQL0391N 関数 "<function_name>" に基づい た行の使用が無効です。

説明: ステートメントは、次の理由のいずれか 1
つから、使用できない行ベースの関数
"<function_name>" を使用しています。

- 関数は GROUP BY または HAVING 文節で使
用されますが、選択リストには入ってませ
ん。
- 関数は、ステートメントの再帰の本質のため、
このコンテキストで使用されません。
- 関数は、検査制約で使用されません。
- 関数は、生成された列で使用されません。
- 関数は、WITH CHECK OPTION 文節が指定さ
れている視点定義、または WITH CHECK
OPTION 文節を指定するような視点に従属する
視点では使用されません。
- 関数には、基礎表の行に変わらない引き数があ
ります。これは、NULL 生成行が可能な外部結
合の結果列を伴う状態が含まれます。
- 関数は複製された要約表からの行で使用されま
せん。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: "<function-name>" が使用でき
ないコンテキストから、これを除去してくださ
い。

sqlcode: -391

sqlstate: 42881

SQL0392N カーソル "<cursor>" に提供される **SQLDA** が、以前のフェッチ以降に 変更されています。

説明: アプリケーションが **DB2** 規則で実行され
ており、1 つの FETCH ステートメントの LOB
として、また他の FETCH ステートメントのロケ
ーターとして LOB データを返すことを要求して
います。これは許されていません。

ユーザーの処置: ステートメントは処理されませ
ん。

DB2 規則を使用しないようにするか、または連
続したフェッチ間で LOB から SQLDA のロケ
ーターへの (またはその逆の) データ・タイプ・コ
ードの変更を行わないように、アプリケーション
を変更してください。

sqlcode: -392

sqlstate: 42855

SQL0400 - SQL0499

SQL0401N 演算 “<operator>” のオペランドのデータ・タイプが一致していません。

説明: SQL ステートメント内の演算 “<operator>” に、数値と非数値オペランドが混在しているか、または演算オペランドが互換ではありません。

連合システム・ユーザー: このデータ・タイプ違反はデータ・ソースまたは連合サーバーで起こった可能性があります。

一部のデータ・ソースは、“<operator>” に適切な値を提供しません。この場合、メッセージ・トークンは “<data source>:UNKNOWN” の形式になります。これは、指定されたデータ・ソースの実際の値が不明であることを示します。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: すべてのオペランドのデータ・タイプをチェックして、データ・タイプが比較可能であること、およびステートメント内の使用方法に互換性があることを確認してください。

SQL ステートメントのオペランドがすべて正しく、しかも視点にアクセスしている場合には、視点のすべてのオペランドのデータ・タイプをチェックしてください。

連合システム・ユーザー: 原因が不明の場合、要求の失敗を引き起こすデータ・ソースと問題を分離して (障害の起こったデータ・ソースを識別するための手順については問題判別の手引きを参照してください。) そのデータ・ソースのデータ・タイプ制約事項を検証してください。

sqlcode: -401

sqlstate: 42818

SQL0402N 算術関数または演算 “<operator>” のオペランドのデータ・タイプが、数値ではありません。

説明: 非数値オペランドが、算術関数または演算子 “<operator>” に対して指定されています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: SQL ステートメントの構文を調べ、指定された関数または演算子のすべてのオペランドが数値となるように修正してください。

連合システム・ユーザー: 理由が不明な場合は、要求を失敗させたデータ・ソースに対して問題を分離し (障害の起きたデータ・ソースを識別するための手順については問題判別の手引きを参照してください)、そのデータ・ソースに適用した操作を調べてください。

sqlcode: -402

sqlstate: 42819

SQL0403W 新しく定義された別名 “<name>” は、現在未定義のオブジェクト “<name2>” によって解決されています。

説明: 別名 <name> は、以下のように定義されています。

- データベースにまだ定義されていない表または視点。
- データベースに定義されていない表または視点によって解決される他の別名。

オブジェクト <name2> は未定義のオブジェクトです。SQL ステートメント (CREATE ALIAS 以外) が、新しく作成された別名を正常に使用するには、このオブジェクトが存在している必要があります。指定された別名 <name> は作成されません。

SQL0406N UPDATE または INSERT ステートメント内の数値が、ターゲット列の範囲内にありません。

説明: UPDATE または INSERT SQL ステートメントの処理中に計算された、ホスト変数の値または数値がターゲット列の範囲外です。この問題は、対象の列で発生する値、それらの値で実行される SQL 処理、またはその両方によって起きる可能性があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 数値データ・タイプに許されている範囲については、メッセージ SQL0405 の説明を参照してください。

注: システム・カタログ更新に関しては、更新可能なカタログのさまざまな列の有効な範囲について、SQL 解説書を参照してください。

sqlcode: -406

sqlstate: 22003

SQL0407N NULL 値の NOT NULL 列 “<name>” への割り当ては許されていません。

説明: 以下のいずれかが起きました。

- 更新値または挿入値は NULL ですが、対象となる列が表定義で NOT NULL として宣言されています。したがって、以下の制約を受けません。
 - NULL 値はその列に挿入できない。
 - 更新はその列の値を NULL に設定できない。
 - トリガーの SET 変換変数ステートメントは、その列の値を NULL に設定できない。
- 更新値または挿入値は DEFAULT ですが、対象となる列が表定義で WITH DEFAULT のない NOT NULL として宣言されています。したがって、以下の制約を受けません。
 - NULL のデフォルト値はその列に挿入できない。

- 更新はその列の NULL のデフォルト値を設定できない。

- トリガーの SET 変換変数ステートメントは、その列の NULL のデフォルト値を設定できない。

- INSERT ステートメントの列名リストに、表定義で NOT NULL および WITH DEFAULT なしで宣言された列がありません。

- INSERT ステートメントの視点に、基礎表定義で NOT NULL および WITH DEFAULT なしで宣言された列がありません。

“<name>” の値が形式 “TBSPACEID=n1, TABLEID=n2, COLNO=n3” であれば、エラーが出されたときに SQL ステートメントの列名が使用可能ではありませんでした。示されている値は、NULL 値を許可していない基礎表の表スペース、表、および列番号を表しています。

連合システム・ユーザー: この状態は連合サーバーまたはデータ・ソースで検出できます。一部のデータ・ソースは、“<name>” に適切な値を提供しません。この場合、メッセージ・トークンは “<data source>:UNKNOWN” の形式になります。これは、指定されたデータ・ソースの実際の値が不明であることを示します。

ステートメントは処理できません。

注: いくつかの状況では、トークン “<name>” が充てんされない場合があります (SQLCA の 「sqlerrmc」フィールドが充てんされません)。

ユーザーの処置: 対象表定義を調べて、NOT NULL 属性を持つ表の列と、WITH DEFAULT 属性を持たない表の列を判別した後で、SQL ステートメントを修正してください。

“<name>” の値が形式 “TBSPACEID=n1, TABLEID=n2, COLNO=n3” であれば、以下の照会を使用して表名および列名を判別することができます。


```
SELECT C.TABSCHEMA, C.TABNAME, C.COLNAME
FROM SYSCAT.TABLES AS T,
     SYSCAT.COLUMNS AS C
WHERE T.TBSPACEID = n1
AND T.TABLEID = n2
AND C.COLNO = n3
AND C.TABSCHEMA = T.TABSCHEMA
AND C.TABNAME = T.TABNAME
```

この照会で識別される表および列は、SQL ステートメントに障害があった視点の基礎表だと考えられます。

連合システム・ユーザー: 理由が不明な場合は、要求を失敗させたデータ・ソースに対して問題を分離し (障害の起きたデータ・ソースを識別するための手順については問題判別の手引きを参照してください)、そのデータ・ソースのオブジェクト定義を調べてください。デフォルト (NULL および NOT NULL) はデータ・ソースの間で同じである必要はないことに注意してください。

sqlcode: -407

sqlstate: 23502

SQL0408N 値には、その割り当てターゲットのデータ・タイプとの互換性がありません。ターゲット名は “<name>” です。

説明: SQL ステートメントによって列、パラメーター、SQL 変数、または変換変数に割り当てられる値のデータ・タイプに、その割り当てターゲットの宣言されたデータ・タイプとの互換性がありません。両方が、以下のデータ・タイプでなければなりません。

- 数値
- 文字
- 漢字
- 日付または文字
- 時刻または文字
- タイム・スタンプまたは文字
- データ・リンク

- 同一の特殊タイプ
- 値のターゲット・タイプが、列のターゲット・タイプのサブタイプである参照タイプ
- 同じユーザー定義構造化タイプ: そうでなければ、値の静的タイプは、ターゲットの静的タイプ (宣言されたタイプ) のサブタイプでなければなりません。ホスト変数が入っている場合、関連するホスト変数の組み込みタイプが、ステートメントのトランスフォーム関数に定義されている TO SQL トランスフォーム関数のパラメーターと互換性がなければなりません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメント (およびターゲット表または視点) を調べて、ターゲット・データ・タイプを判別してください。割り当てられている変数、式、またはリテラル値が割り当てターゲットとして正しいデータ・タイプであることを確認してください。ユーザー定義の構造化タイプである場合、ステートメントのトランスフォーム関数に定義されている TO SQL トランスフォーム関数のパラメーターを割り当てターゲットとして考慮してください。

sqlcode: -408

sqlstate: 42821

SQL0409N COUNT 関数のオペランドが無効です。

説明: SQL ステートメントに指定されているような、COUNT 関数のオペランドは SQL 構文の規則に適合しません。COUNT(*) と COUNT(DISTINCT column) のみを指定できます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: COUNT(*) または COUNT(DISTINCT column) を指定してください。

注: このメッセージは、Version 2 以前の DB2 のバージョンにのみ適用されます。

sqlcode: -409

sqlstate: 42607

SQL0410N 浮動小数点リテラル “<literal>”
が、30 文字を超えています。

説明: 示された浮動小数点リテラルが、先行する 0 を除いても 30 文字を超える長さになっています。浮動小数点リテラルの最大長は 30 文字です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 示されたりテラルを短くしてください。

sqlcode: -410

sqlstate: 42820

SQL0412N 1 つの列しか許可されていない副選
会から複数の列が返されました。

説明: SQL ステートメントのコンテキストで
は、結果として 1 つの列だけを持つよう副選択
が指定されています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: スカラー副選択が 1 つだけ許
可されている場合は、1 つの列だけを指定してく
ださい。

sqlcode: -412

sqlstate: 42823

SQL0413N 数値データ・タイプの変換中に、オ
ーバーフローが発生しました。

説明: SQL ステートメントの処理中、ある数値
タイプのデータを別のタイプへ変換するときにオ
ーバーフローが起きました。数値変換は SQL の
標準規則に従って実行されます。

連合システム・ユーザー: 数値変換は、連合サー
バー、データ・ソース、またはその両方で起きる
可能性があります

ステートメントは処理できません。データの検
索、更新、または削除は実行されませんでした。

ユーザーの処置: SQL ステートメントの構文を
調べて、エラーの原因を判別してください。問題
がデータに依存する場合は、エラーが起きたとき
に処理されていたデータを調べる必要があります。
す。

連合システム・ユーザー: 原因が不明の場合、要
求の失敗を引き起こすデータ・ソースと問題を分
離して (障害の起こったデータ・ソースを識別す
るための手順については、問題判別の手引きを参
照)、そのデータ・ソースのデータ範囲制約事項を
調べてください。

sqlcode: -413

sqlstate: 22003

SQL0415N 対応する列のデータ・タイプは、セ
ット演算子を含む全選択または
INSERT または全選択の **VALUES**
文節の複数行で互換性があ
りませ
ん。

説明: このエラーが発生する可能性のあるステ
ートメントはたくさんあります。

- このエラーは、セット操作 (UNION、
INTERSECT、または EXCEPT) の入った
SELECT または VALUES ステートメント内で
発生する可能性があります。SELECT または
VALUES ステートメントを作成する副選択ま
たは全選択の対応する列は、互換性があ
りませ
ん。
- このエラーは、複数行に挿入している INSERT
ステートメント内で発生する可能性があ
ります。この場合、VALUES 文節内で指定された
行の対応する列は、互換性があ
りませ
ん。
- このエラーは、複数行を伴い使用される
VALUES 文節がある SELECT または
VALUES ステートメント内で発生する可能
性があります。この場合、VALUES 文節内で指
定された行の対応する列は、互換性があ
りませ
ん。

この列は、次のいずれかの理由で互換性がありません。

- 2 つの列が両方とも文字になっていない。
- 2 つの列が両方とも数字になっていない。
- 2 つの列が両方とも日付になっていない。
- 2 つの列が両方とも時刻になっていない。
- 2 つの列が両方ともタイム・スタンプになっていない。
- 2 つの列が両方ともグラフィックになっていない。
- 2 つの列が同じユーザー定義の異なるタイプになっていない。

列のデータ・タイプが文字、日付、時刻またはタイム・スタンプの場合、対応する列がリテラル・ストリングになります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: SELECT ステートメントで使われる列名または VALUES 文節の式を訂正し、対応するすべての列が互換タイプになるようにしてください。

sqlcode: -415

sqlstate: 42825

SQL0416N UNION ALL 以外のセット演算子で接続された SELECT または VALUES ステートメントには、254 バイトを超える結果列を指定できません。

説明: セット演算子で接続された SELECT または VALUES ステートメントのいずれかが、254 バイトより長い結果列を指定しています。254 バイトより長い VARCHAR または VARGRAPHIC 結果列は、UNION ALL セット演算子とのみ使用することができます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: UNION 演算子の代わりに、UNION ALL を使用するか、または 254 バイト

より長い結果列を、SELECT または VALUES ステートメントから取り除いてください。

sqlcode: -416

sqlstate: 42907

SQL0417N 準備されたステートメント・ストリングに、同じ演算子のオペランドとしてパラメーター・マーカーが含まれています。

説明: PREPARE または EXECUTE

IMMEDIATE の対象として指定されたステートメント・ストリングに、CAST 指定のない同一の演算子のオペランドとして使用されているパラメーター・マーカーを持つ述部または式が入っています。たとえば:

```
? > ?
```

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: このような構文はサポートされていません。CAST 指定を使用して、少なくとも 1 つのパラメーター・マーカーをデータ・タイプに指定してください。

sqlcode: -417

sqlstate: 42609

SQL0418N ステートメントに、無効なパラメーター・マーカーの使用が含まれています。

説明: タイプされなかったパラメーター・マーカーは、以下では使用できません。

- SELECT リスト内
- 日時算術処理の唯一の引き数として
- いくつかの場合には、スカラー関数の唯一の引き数として
- GROUP BY 文節中のソート・キーとして

パラメーター・マーカーは、以下で使用することはできません。

- 準備されたステートメントではないステートメント内
- CREATE VIEW ステートメントの全選択内
- CREATE TRIGGER ステートメントのトリガー・アクション内
- DB2 クエリー・パトローラーによって取り込まれた照会内

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメントの構文を訂正してください。タイプなしパラメーター・マーカーが許されない場合は、CAST 指定を使用して、パラメーター・マーカーをデータ・タイプに指定してください。

sqlcode: -418

sqlstate: 42610

SQL0419N 結果の位取りが負になるため、10 進数の除算は無効です。

説明: 指定された 10 進除算は、結果の位取りが負の値になるために有効ではありません。

10 進除算の結果の位取りを計算するために内部的に使用される式は、以下のとおりです。

$$\text{Scale of result} = 31 - \text{np} + \text{ns} - \text{ds}$$

ここで、np は分子の精度、ns は分子の位取り、ds は分母の位取りを表します。

連合システム・ユーザー: 10 進数除法は、連合サーバー、データ・ソース、またはその両方で起きる可能性があります指定された 10 進数除法の結果は、そのデータ・ソースの位取りが無効になります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 10 進除算で使用される可能性のあるすべての列の精度と位取りを調べてください。整数または小整数は、計算のために 10 進数に変換される場合があることに注意してください。

連合システム・ユーザー: 原因が不明の場合、要求の失敗を引き起こすデータ・ソースと問題を分離して (障害の起こったデータ・ソースを識別するための手順については、問題判別の手引きを参照)、そのデータ・ソースのデータ範囲制約事項を調べてください。

sqlcode: -419

sqlstate: 42911

SQL0420N 無効な文字が、関数 “<function-name>” の文字ストリング引き数で見つかりました。

説明: 関数 “<function-name>” が、数値 SQL 定数では無効な文字の入った文字ストリング引き数を持っています。関数は、ターゲット・データ・タイプとして “<function-name>” を使用する CAST 指定の使用の結果として、呼び出された可能性があります。SQL ステートメントに使用された関数またはデータ・タイプが、“<function-name>” の同義語である可能性があります。

10 進文字を DECIMAL 関数に指定する場合は、それがデフォルト 10 進文字の代わりに使用する必要がある文字になります。

ユーザーの処置: 指定する場合は、数値タイプに変換される文字ストリングが、10 進文字を使用する数値 SQL 定数に有効な文字のみを備えていることを確認してください。

sqlcode: -420

sqlstate: 22018

SQL0421N セット演算子のオペランドまたは VALUES 文節が、列数と同じ数ではありません。

説明: UNION、EXCEPT、INTERSECT などのセット演算子のオペランドは、列数と同じ数でなければなりません。VALUES 文節の行は、列数と同じ数を持つ必要があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを修正して、各オペランドまたは VALUES 文節の各行が、列数とまったく同じ数を持つようにしてください。

sqlcode: -421

sqlstate: 42826

SQL0423N ロケーター変数

“<variable-position>” は、現在、どんな値も表していません。

説明: ロケーター変数にエラーがあります。それに割り当てられた LOB 値がないか、変数と関連したロケーターが解放されているか、あるいは結果セット・カーソルがクローズされています。

“<variable-position>” が提供される場合には、エラーのある変数の序数位置が指定される変数セットに示されます。エラーを検出した時点によっては、データベース・マネージャーが “<variable-position>” を判別できないことがあります。

“<variable-position>” は序数位置の代わりに、関数名が識別したユーザー定義の関数から戻ったロケーター値がエラーであること示す “function-name RETURNS” 値を備えている可能性があります。

ユーザーの処置: LOB ロケーターの場合、ステートメントの実行の前に、SQL ステートメントで使用される LOB ロケーター変数に有効な LOB 値があるように、プログラムを訂正してください。LOB 値は、SELECT INTO ステートメント、VALUES INTO ステートメント、あるいは FETCH ステートメントによって、ロケーター変数に割り当てることができます。

戻りカーソルであった場合、割り振りの前にカーソルがオープン されていることを確認してください。

sqlcode: -423

sqlstate: 0F001

SQL0426N アプリケーションの実行環境では、動的コミットは無効です。

説明: CONNECT TYPE 2 環境 または CICS などの分散トランザクション処理 (DTP) 環境で実行中のアプリケーションが、SQL 動的 COMMIT ステートメントを実行しようとした。SQL 動的 COMMIT ステートメントは、この環境では実行できません。

連合システム・ユーザー: SQL 動的 COMMIT ステートメントをパススルー・セッションで実行することはできません。

ユーザーの処置:

- DTP 環境によって提供されるコミット・ステートメントを使用して、コミットを実行してください。たとえば、CICS 環境の場合、これは CICS SYNCPOINT コマンドになります。
- このステートメントがストアード・プロシージャ内で実行された場合は、ステートメントを完全に除外してください。

連合システム・ユーザー: COMMIT ステートメントをコメントにするか、または静的ステートメントとしてコーディングしてください。その後、プログラムを再実行依頼してください。

sqlcode: -426

sqlstate: 2D528

SQL0427N アプリケーションの実行環境では、動的ロールバックは無効です。

説明: CONNECT TYPE 2 環境 または CICS などの分散トランザクション処理 (DTP) 環境で実行中のアプリケーションが、SQL 動的 ROLLBACK ステートメントを実行しようとした。SQL 動的 ROLLBACK ステートメントは、この環境では実行できません。

連合システム・ユーザー: SQL 動的 ROLLBACK ステートメントをパススルー・セッションで実行することはできません。

ユーザーの処置:

- DTP 環境によって提供されるロールバック・ステートメントを使用して、ロールバックを実行してください。たとえば、CICS 環境の場合、これは CICS SYNCPOINT ROLLBACK コマンドになります。
- このステートメントがストアド・プロシージャ内で実行された場合は、ステートメントを完全に除外してください。

連合システム・ユーザー: ROLLBACK ステートメントをコメントにするか、または静的ステートメントとしてコーディングしてください。その後、プログラムを再実行依頼してください。

sqlcode: -427

sqlstate: 2D529

SQL0428N SQL ステートメントは、作業単位の最初のステートメントとしてのみ許可されています。

説明: この SQL ステートメントは、作業単位を開始する他の SQL ステートメントよりも前に実行する必要があります。以下の状況が考えられます。

- SQL ステートメントは作業単位の先頭になければならず、SQL が作業単位内の接続に対して出されている
- SQL ステートメントは作業単位の先頭になければならず、WITH HOLD カーソルが接続に対してオープンされている

ステートメントが DISCONNECT ALL である場合、すべての接続に対して DISCONNECT が実行されるため、いずれかの接続が上記の制限に違反すると、要求が失敗することに注意してください。

ユーザーの処置: SQL ステートメント処理の前に、COMMIT または ROLLBACK を出してください。WITH HOLD カーソルがある場合、それ

らをクローズする必要があります。ステートメントが SET INTEGRITY であれば、COMMIT THRESHOLD 文節を除去してください。

sqlcode: -428

sqlstate: 25001

SQL0429N 並列 LOB ロケーター の最大数を超過しました。

説明: 作業単位ごとに、最大 32,000 の並列 LOB ロケーターが、DB2 ではサポートされています。

ユーザーの処置: もっと少ない並列 LOB ロケーターしか必要としないようにプログラムを修正して、もう一度やり直してください。

sqlcode: -429

sqlstate: 54028

SQL0430N ユーザー定義関数 “<function-name>” (特定名 “<specific-name>”) が異常終了しました。

説明: 示された UDF に制御があるときに、異常終了が起きました。

ユーザーの処置: UDF を修正する必要があります。UDF の作成者またはデータベース管理者に連絡してください。修正されるまで、その UDF は使用するべきではありません。

sqlcode: -430

sqlstate: 38503

SQL0431N ユーザー定義関数 “<function-name>” (特定名 “<specific-name>”) が、ユーザーによって割り込まれました。

説明: 示された UDF に制御があるときに、ユーザー / クライアント割り込みが起きました。

ユーザーの処置: これは、無限ループまたは待機

などの UDF の問題を示している可能性があります。問題が続く場合 (すなわち、割り込みを行うことが必要になった場合に、同じエラー状態になる) は、UDF 作成者またはデータベース管理者に連絡してください。問題が修正されるまでは、その UDF を使用するべきではありません。

sqlcode: -431

sqlstate: 38504

SQL0432N パラメーター・マーカーが、ユーザー定義タイプ名、または参照ターゲット・タイプ名 “<udt-name>” を持つことができません。

説明: ステートメントのパラメーター・マーカーが、それが使用されているコンテキストに基づいて、ユーザー定義タイプ “<udt-name>” またはターゲット・タイプ “<udt-name>” を持つ参照タイプを持っていると判断されました。パラメーター・マーカーは、データ・タイプが割り当ての一部 (INSERT の VALUES 文節、または UPDATE の SET 文節) ではないか、あるいは CAST 指定を使用したユーザー定義特殊データ・タイプまたは参照データ・タイプに明示的にキャストされていない場合は、そのデータ・タイプとしてユーザー定義タイプまたは参照タイプを持つことはできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: パラメーター・マーカーのユーザー定義特殊データ・タイプまたは参照データ・タイプに、明示キャストを使用してください。あるいは、ユーザー定義特殊データ・タイプの列を対応するソース・データ・タイプにキャストするか、参照データ・タイプの列を対応するタイプにキャストしてください。

sqlcode: -432

sqlstate: 42841

SQL0433N 値 “<value>” が長すぎます。

説明: 値 “<value>” が、その値をいくつかの方法でトランスフォームするために呼び出される、システム (組み込み) キャストまたは調整関数による切り捨てを要求しました。この値が使用されている場所では、切り捨てが許されていません。

トランスフォームされる値は、以下のいずれかです。

- ユーザー定義関数 (UDF) に対する引き数
- UPDATE ステートメントの SET 文節に対する入力
- 表に INSERT される値
- 他の特定のコンテキストでのキャストまたは調整関数に対する入力
- そのデータ・タイプおよび長さが反復の初期化部分で判別され、反復の反復部分で大きくできる反復して参照される列

ステートメントは失敗します。

ユーザーの処置: “<value>” が SQL ステートメントのリテラル・ストリングの場合は、その使用目的に対して長すぎます。

“<value>” がリテラル・ストリングでない場合は、SQL ステートメントを調べて、トランスフォームが行われる場所を判別してください。トランスフォームに対する入力が長すぎるか、またはターゲットが短すぎます。

問題を訂正して、ステートメントを再実行してください。

sqlcode: -433

sqlstate: 22001

SQL0434W 文節 “<clause>” のサポートされない値が、値 “<value>” で置き換えられました。

説明: 文節 “<clause>” に指定された値がサポートされておらず、示されたサポートされている値 “<value>” で置き換えられました。

ユーザーの処置: 選択された値が受け入れ可能であれば、変更する必要はありません。そうでない場合は、“<clause>” に有効な値を指定してください。

sqlcode: +434

sqlstate: 01608

SQL0435N 無効な SQLSTATE “<sqlstate>” が、関数 RAISE_ERROR に指定されています。

説明: RAISE_ERROR 関数に指定された SQLSTATE が、SQLSTATE を定義しているアプリケーションについて、規則と一致しません。

ユーザーの処置: 関数 RAISE_ERROR に指定されている SQLSTATE を修正してください。

SQLSTATE は、5 文字の文字ストリングでなければなりません。これは、長さ 5 で定義された CHAR タイプ、または長さ 5 以上で定義された VARCHAR タイプでなければなりません。

SQLSTATE の値は、以下のような、アプリケーション定義 SQLSTATE の規則にしたがう必要があります。

- 各文字は、数字のセット ('0' から '9')、またはアクセントの付かない大文字 ('A' から 'Z') でなければなりません。
- エラー・クラスではないので、SQLSTATE クラス (最初の 2 文字) を '00'、'01'、または '02' することはできません。
- SQLSTATE クラス (最初の 2 文字) が文字 '0' から '6' または 'A' から 'H' で始まっている場合、サブクラス (最後の 3 文字) は 'I' から 'Z' までの文字で始まらなければなりません。
- SQLSTATE クラス (最初の 2 文字) が文字 '7'、'8'、'9' または 'I' から 'Z' で始まっている場合、サブクラス (最後の 3 文字) は '0' から '9' または 'A' から 'Z' のいずれでもかまいません。

sqlcode: -435

sqlstate: 428B3

SQL0436N 終了のための NULL 文字が C 言語のヌルで終了する文字ストリング・ホスト変数から抜けています。

説明: C プログラミング言語の入力ホスト変数コードの値には、ストリングの最後にヌル終止符が必要です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 入力ホスト変数の値が、ヌル終止符で終了していることを確認してください。

sqlcode: -436

sqlstate: 22024

SQL0437W この複合照会のパフォーマンスが最適ではない可能性があります。理由コード: “<reason-code>”

説明: 照会が複雑なために、使用できないリソースを要求しているか、または最適化境界条件が見つかったために、ステートメントのパフォーマンスが次善のパフォーマンスになる可能性があります。以下が理由コードのリストです。

- 1 メモリーの制約のため、結合列挙方式が更新されました。
- 2 照会の複雑さのため、結合列挙方式が更新されました。
- 3 最適化プログラムのアンダーフローが起きました。
- 4 最適化プログラムのオーバーフローが起きました。
- 5 照会最適化クラスが低すぎました。
- 6 最適化プログラムが無効な統計を無視しました。

ステートメントは処理されます。

ユーザーの処置: 以下の 1 つ以上を行ってください。

- データベース構成ファイルのステートメント・ヒープ (stmtheap) の大きさを増やしてください。(理由コード 1)
- ステートメントをより簡単な SQL ステートメントに分割してください。(理由コード 1,2,3,4)
- 述部に必要以上の応答セットを指定していないことを確認してください。(理由コード 3)
- 現在の照会最適化クラスを、低い値に変更してください。(理由コード 1,2,4)
- 照会に関連した表に対して、Runstats を発行してください。(理由コード 3,4)
- 現在の照会最適化クラスを、高い値に変更してください。(理由コード 5)
- 照会で呼び出された表およびその対応索引に対して、RUNSTATS を再発行します。つまり、表と索引の統計が一致するように、AND INDEXES ALL 文節を使用します。(理由コード 6)

sqlcode: +437

sqlstate: 01602

SQL0438N アプリケーションで、診断テキスト：“<text>”のエラーが発生しました。

説明: このエラーは、トリガーの RAISE_ERROR 関数または SIGNAL SQLSTATE ステートメントの実行の結果として起きました。

ユーザーの処置: アプリケーションの資料を参照してください。

sqlcode: -438

sqlstate: アプリケーション定義

SQL0439N ユーザー定義関数

“<function-name>” が関数 “<source-function>” によって間接的に実行され、その結果、エラー “<sqlcode>” が発生しました。

説明: 関数 “<function-name>” がユーザーのステートメント内で参照されていました。ただし、SOURCE 文節がこの関数の定義に使用されていたため、関数 “<source-function>” が実際にその関数を実施することは避けられました。

(“<function-name>” から “<source-function>” へは、直接または間接的な定義パスが存在する可能性があります。) コンパイル時に、“<source-function>” のカプセル化プログラム (関数に代わって作動する DB2 コード) が、“<sqlcode>” で示されるエラーを返しました。

ユーザーの処置: 修正を行う前に、実際のエラー状況を理解する必要があります。“<sqlcode>” の説明を調べてください。“<source-function>” が組み込み関数の場合、組み込み関数がユーザーのステートメントで直接参照されたときには、“<sqlcode>” が問題を示します。

“<source-function>” がユーザー定義関数の場合は、メッセージが、引き数のいずれかまたは関数の結果を使用して、最も可能性のある問題を示します。

問題を訂正して再度試行してください。

sqlcode: -439

sqlstate: 428A0

SQL0440N 互換引き数を持つ

“<function-name>” という名前の関数が、関数パスで見つかりませんでした。

説明: これは、データベース・マネージャーが参照を実行するために使用できる関数またはメソッドを見つけられない場合、関数 “<function-name>” (ここで “<function-name>” はメソッドを指す場合

もあります) への参照で起こります。原因は以下のとおりです。

- “<function-name>” が間違っ て指定されたか、またはデータベースに存在しません。
- 修飾付き参照が行われましたが、修飾子の指定が正しくありませんでした。
- ユーザーの関数パスに、必要な関数またはメソッドが属しているスキーマが入っていない ため、無修飾参照が使用されました。
- 間違っ た数の引き数が組み込まれていました。
- 正しい数の引き数が組み込まれてい ましたが、引き数の 1 つ以上のデータ・タイプが正しくありませんでした。
- 関数が、パッケージがバインドされた時間よりも早い作成タイム・スタンプを持つデータベースに存在しません (静的ステートメントに適用されます)。
- UPDATE ステートメントで使用されている属性割り当てに対応する mutator メソッドが見つかりませんでした。属性の新しい値のデータ・タイプが、属性のデータ・タイプと同じ、またはプロモート可能なデータ・タイプではありません。

ユーザーの処置: 問題を修正して、やり直してください。これには、カタログ・アクセス、ステートメントに対する変更、新しい関数の追加、および関数パスに対する変更も含まれます。

sqlcode: -440

sqlstate: 42884

SQL0441N “<function-name>” 関数を持つキーワード **DISTINCT** または **ALL** の使用が無効です。

説明: いくつかの考えられる原因があります。

- キーワード **DISTINCT** または **ALL** が関数 “<function-name>” を参照する括弧内で検出され、関数はスカラー関数として解決されました。スカラー関数でのキーワード **DISTINCT** または **ALL** の使用は無効です。

- キーワード **DISTINCT** が、サポートされていない列関数で使用されました。これらの関数には、**COVARIANCE**、**CORRELATION**、および **REGR** で始まる線形回帰関数が含まれます。
- 関数がキーワード **ALL** または **DISTINCT** をサポートしている列関数であるという前提でしたが、それが解決した関数は列関数ではありませんでした。

ユーザーの処置:

- スカラー関数を使用されている場合は、キーワード **DISTINCT** または **ALL** を除去してください。スカラー関数には無効です。
- 関数が **DISTINCT** または **ALL** キーワードをサポートしない列関数である場合は、キーワードを除去してください。
- 列関数を使用されている場合は、関数解決に問題があります。関数パスをチェックして必要な関数がいずれかのスキーマに存在するかどうかを調べ、関数名のつづり、パラメーターの数およびタイプについて **SYSFUNCTIONS** カタログもチェックしてください。

エラーを訂正して、もう一度やり直してください。

sqlcode: -441

sqlstate: 42601

SQL0442N ルーチン “<routine-name>” の参照中にエラーが起きました。引き数の最大許容数 (**90**) を超えました。

説明: ルーチン “<routine-name>” への参照に指定された引き数が多すぎます。最大許容数は 90 です。

ユーザーの処置: ステートメントに、正しい数の引き数を使用されていることを確認して、もう一度やり直してください。

sqlcode: -442

sqlstate: 54023

SQL0443N ルーチン “<routine-name>” (特定名 “<specific-name>”) が、診断テキスト “<text>” とともにエラー **SQLSTATE** を返しました。

説明: ルーチン “<routine-name>” (特定名 “<specific-name>”) が、メッセージ・テキスト “<text>” とともに形式 38xxx の **SQLSTATE** を DB2 に返しました。このルーチンは、ユーザー定義関数またはユーザー定義メソッドだと考えられます。

ユーザーの処置: エラーの意味を理解する必要があります。データベース管理者、またはルーチンの作成者に連絡してください。

SYSFUN スキーマの **IBM** 提供機能によって検出されたエラーは、すべて **SQLSTATE 38552** を戻します。メッセージのメッセージ・テキスト部分は、次の形式となっています。

SYSFUN:nn

この場合の **nn** は次の意味をもつ理由コードです。

- 01** 数値が範囲外
- 02** ゼロによる除算
- 03** 算術オーバーフローまたはアンダーフロー
- 04** 無効なデータ形式
- 05** 無効な時刻形式
- 06** 無効なタイム・スタンプ形式
- 07** タイム・スタンプ期間の無効な文字表示
- 08** 無効な間隔タイプ (1、 2、 4、 8、 16、 32、 64、 128、 256 のいずれかでなければならない。)
- 09** スtringが長すぎる
- 10** String関数の長さまたは位置が範囲外になっている

- 11** 浮動小数点数では無効な文字表示である
- 12** メモリー不足
- 13** 想定外のエラー

sqlcode: -443

sqlstate: 38xxx (ルーチンによって返された **SQLSTATE**)

SQL0444N ルーチン “<routine-name>” (特定名 “<specific-name>”) が、アクセスできないライブラリーまたはパス “<library-or-path>”、関数 “<function-code-id>” のコードで実行されています。理由コード: “<code>”

説明: **DBMS** が、ルーチン “<routine-name>” (特定名 “<specific-name>”) を実行するコードの本体にアクセスを試みましたが、理由コード “<code>” (下のリストで説明) によってアクセスできません。ルーチンを実行するファイルは “<library-or-path>” で、関数は “<function-code-id>” で示されています。

(提供可能なトークンの合計長の制約のために、最後の 2 つのトークンが切り捨てられる場合があります。これが起きた場合は、ルーチンに定義されているライブラリーまたは全パス、および関数コード **ID** を判別するために、カタログ内のルーチンの定義へのアクセスが必要になる場合があります。)

ユーザーの処置: 与えられる理由コードは、以下の通りです。

- 1** パス名 “<library-or-path>” が最大値 (255 バイト) を超えています。ルーチン定義をもっと短いパスを指定するように変更する必要があるか、または **DB2** インスタンス・パス名が長すぎます。カタログ定義を調べて、どちらの場合であるかを判別してください。関数本体を、もっと

短いパス名のディレクトリーに移動することが必要になる場合があります。

- 2 DB2 インスタンス・パス名が DB2 から検索できませんでした。システム管理者に連絡してください。
- 3 パス "`<library-or-path>`" が見つかりませんでした。ルーチンの作成者またはデータベース管理者に連絡してください。ルーチン定義またはルーチンそれ自身の位置を訂正しなければなりません。
- 4 "`<library-or-path>`" 内のファイルが見つかりませんでした。ルーチンの作成者またはデータベース管理者に連絡してください。ルーチン定義またはルーチンの位置を訂正するか、ルーチンを再リンクしなければなりません。

OS/2 では、この理由コードは UDF DLL 名が形式 (8.3) より長い場合に発生する可能性があります。たとえば、"`abcdefgh99.dll`" の名前は形式 (10.3) を持つため、その結果理由コード 4 を持つこのメッセージになります。解決法は、名前を受け入れ可能な形式、たとえば "`abcde99.dll`" に変更することです。

上記に加えて、ルーチンが共用ライブラリーあるいは DLL を必要として、共用ライブラリーが見つからない (UNIX ベース・システムでは LIBPATH 環境変数で、INTEL システムでは PATH 環境変数で指定されるディレクトリーの連結を使用する) 場合、この理由コードが結果として発生します。この理由コードの前に、複数レベルの間接原因がある場合があります。たとえば、ルーチン本体 X が見つかった場合、共用ライブラリー Y が必要となります。Y はここで検出されるものです。ただし、Y には Z が必要で、Z が見つからない場合には、SQL0444N 理由コード 4 が結果として出されます。

- 5 関数の入ったライブラリーをロードするためのメモリーが足りないか、1 つ以上の記号を解決できませんでした。ルーチンの作成者またはデータベース管理者に連絡して、ライブラリーが正しくリンクされているかを確認してください。外部関数などの関連する記号を解決するために、すべての必須ライブラリーが使用可能でなければなりません。メモリー不足と判別した場合は、DB2 に使えるメモリーを増やすようにシステム構成を変更する必要があります。
- 6 関数 "`<function-code-id>`" が、指定したモジュールで見つかりませんでした。ルーチンの作成者またはデータベース管理者に連絡してください。ルーチン定義または関数それ自身を訂正しなければなりません。
- 7 関数名 ("`<function-code-id>`") として与えられた記号が、指定されたライブラリー内の有効な関数の名前ではありません。ルーチンの作成者またはデータベース管理者に連絡してください。ルーチン定義または関数それ自身を訂正しなければなりません。
- 8 上記の理由以外で、"ロード" システム関数が失敗しました。モジュールがリンクされていないか、または正しくリンクされていない可能性があります。
- 9 "`<library-or-path>`" で示されているライブラリー内の関数名 "`<function-code-id>`" を解決するためのメモリーが足りませんでした。ルーチンの作成者またはデータベース管理者に連絡して、関数の入ったライブラリーが正しくリンクされているかを確認してください。DB2 サーバーがもっと多くのメモリーを使用できるように、システム構成の変更が必要になる場合があります。
- 10 `loadquery` システム呼び出しが失敗しました。これは、unix ベース・システムで

のみ発生し、データベース・マネージャ
ー自体が正しくインストールされてい
ないことの徴候です。システム管理者に連
絡してください。

11 エージェント・プロセスが、libdb2.a
library に存在しているべき特定のデー
タベース・マネージャ関数を検索してい
ましたが、見つかりませんでした。これ
は、unix ベース・システムでのみ発生
し、データベース・マネージャが正し
くインストールされていないことの徴候
です。システム管理者に連絡してくだ
さい。

15 アクセスが拒否されています。これは、
PATH 環境変数を使用して検索する必要
のあるルーチン定義ステートメントの
EXTERNAL NAME に全パスが指定され
ていない場合か、または関数が
instance_name¥function ディレクトリーに
存在しない場合に Windows NT 環境で
発生する可能性があります。たとえば、
PATH に関数および SYSTEM アカウ
ントのもとで実行される DB2 インスタ
ンスに優先して LAN ドライブが組み込ま
れている場合は、この理由コードになる
可能性があります。

その他: 未確認システム障害が起きました。コー
ドを書き留めて、システム管理者に連絡
してください。

このメッセージの情報でエラーを診断できない場
合、診断ログ・ファイル db2diag.log にエラー情
報が入っているため、問題を特定するために役立
ちます。システム管理者に連絡して援助を求める
必要がある場合があります。

連合システム・ユーザー: このユーザー定義関数
が関数テンプレートである場合 (そのため、連合
サーバーに存在するためのコードが必要ない場
合)、この関数がリモート・データ・ソースで評価
されるようにするために、SQL ステートメント
または統計の変更を考慮する必要があります。

sqlcode: -444

sqlstate: 42724

SQL0445W 値 “<value>” が切り捨てられまし
た。

説明: 値 “<value>” が、その値をいくつかの方
法でトランスフォームするために呼び出される、
システム (組み込み) キャストまたは調整関数に
よって切り捨てられました。これは警告状況で
す。

トランスフォームされる値がルーチン (ユーザー
定義ルーチン UDF またはメソッド) の出力で、
ルーチン定義に CAST FROM の指定があるた
め、または UDF が他の関数から呼び出されて
いるために、結果のトランスフォームが必要な
ため、トランスフォームが行われます。

ユーザーの処置: 出力が予期されていること、お
よび切り捨てが予期しない結果の原因となら
ないことを確認してください。

sqlcode: +445

sqlstate: 01004

SQL0447W ステートメントに、文節
“<clause>” を含む重複指定があり
ます。

説明: “<clause>” キーワードが、ステートメント
に 2 回以上入っています。これは警告状態
です。

ユーザーの処置: 重複が意図されたものである場
合、または重複が障害を起こさないと判断した場
合は、対応する必要はありません。“障害” とは、
たとえば、他の必須キーワードが抜けているこ
を示しています。

sqlcode: +447

sqlstate: 01589

SQL0448N ルーチン “<routine-name>” の定義中にエラーが起きました。パラメーターの最大許容数 (90 がユーザー定義関数用、32767 がストアード・プロシージャー用) を超えました。

説明: ルーチン “<routine-name>” の定義中、指定されたパラメーターが多すぎます。ルーチン定義ステートメントは CREATE FUNCTION、CREATE PROCEDURE、CREATE TYPE (メソッド定義)、または ALTER TYPE (メソッド定義) だと思われます。

ユーザーの処置: ステートメントを変更して、パラメーターの数を減らしてください。

sqlcode: -448

sqlstate: 54023

SQL0449N ステートメント定義ルーチン “<routine-name>” で、無効な形式のライブラリー / 関数識別が **EXTERNAL NAME** 文節に含まれています。

説明: ユーザー定義関数 (UDF)、ユーザー定義メソッド、またはストアード・プロシージャー “<routine-name>” の CREATE ステートメントの EXTERNAL NAME 文節にエラーが見つかりました。ライブラリー / 関数識別の規則は、以下の通りです。

名前の形式は '!' または '<a>' です。単一引用符内には、ブランクを使用できません。<a> は以下のいずれかです。

- ファイルの全パス識別 (AIX では /u/slick/udfs/math また OS/2 では d:¥myfunc¥math)
- sqllib ディレクトリーの 'function' ディレクトリーに存在することが想定されるファイル名 (たとえば math)

 を省略すると、指定したファイルがリンクされたときに定義される入り口点がデフォルトになります。 を指定すると、ルーチン本体として呼び出される <a> 内の入り口点 (関数) として識別されます。

ユーザーの処置: 問題を訂正して再度試行してください。考えられる原因として、名前の先頭または最後にブランクまたは '!' が入っている可能性があります。

sqlcode: -449

sqlstate: 42878

SQL0450N ルーチン “<routine-name>” (特定名 “<specific-name>”) が、長すぎる結果値、SQLSTATE 値、メッセージ・テキスト、またはスクラッチパッドを生成しました。

説明: ルーチン “<routine-name>” (特定名 “<specific-name>”) からの戻りにおいて、以下のいずれかに割り振られているバイト数を超えるバイト数を返されたことを DB2 が見つけました。

- 結果値 (ルーチン定義に基づきます)。原因としては、次のものが考えられます。
 - 結果バッファーに移動したバイトが多すぎる。
 - データ・タイプは VARCHAR のようにデータ値を null で区切る必要があり、区切りの null は定義されたサイズの範囲内ではない。
 - DB2 はこの値の前に 2- あるいは 4- バイト長の値を予想し、この長さが結果に定義されたサイズを超過しています。
 - ルーチンが LOB ロケーターを戻しました。このロケーターに関連する LOB 値は結果の定義されたサイズを超えています。

ルーチンの結果引き数の定義は、データ・タイプの要件に適合している必要があります。詳細については、アプリケーション開発の手引きを参照してください。

- SQLSTATE 値 (ヌル終止符を含めて 6 バイト)

- メッセージ・テキスト (ヌル終止符を含めて 71 バイト)
- スクラッチパッドの内容 (CREATE FUNCTION で宣言された長さ)

これは許されていません。

また、スクラッチパッドの長さフィールドがルーチンによって更新された場合にも、このメッセージが返されます。

ユーザーの処置: データベース管理者、またはルーチンの作成者に連絡してください。

sqlcode: -450

sqlstate: 39501

SQL0451N ルーチン “<routine-name>” を定義しているステートメント内の “<data-item>” 定義に、与えられている言語で作成された非ソース関数には適切でないデータ・タイプ “<type>” が含まれています。

説明: ルーチン “<routine-name>” を定義しているステートメントの “<data-item>” 部分でエラーが起きました。ユーザーのステートメントに、無効なタイプ “<type>”、または無効なタイプ “<type>” に基づいているユーザー定義タイプ (UDT) が入っています。ルーチン定義は CREATE FUNCTION、CREATE PROCEDURE、CREATE TYPE (メソッド定義)、または ALTER TYPE (メソッド定義) だと思われ
ます。

“<data-item>” は、ステートメントの問題の領域を識別するトークンです。たとえば、“PARAMETER 2”、“RETURNS”、または “CAST FROM” です。

ユーザーの処置: どの状態が起きたかを判別して、適切な処置を取ってください。適切な処置には、以下が含まれます。

- ルーチン定義をサポートされているタイプに変更 (たとえば DECIMAL から FLOAT) してく

ださい。ここには、ルーチン本体それ自身の変更が関わってくる可能性があり、ルーチンの使用でのキャスト関数の使用も関与する可能性があります。

- 新しい (適切な) ユーザー定義タイプを作成するか、または既存の UDT の定義を変更してください。

sqlcode: -451

sqlstate: 42815

SQL0452N ホスト変数 “<variable-position>” によって参照されているファイルにアクセスできません。理由コード: “<reason-code>”

説明: “nth” ホスト変数によって参照されているファイルのアクセスを試みたとき、またはアクセス中にエラーが起きました。n は “<variable-position>” で、理由は “<reason-code>” です。ホスト変数の位置を判別できなかった場合、<variable-position> は 0 に設定されます。理由コードは以下の通りです。

- 01 - ファイル名の長さが無効か、またはファイル名とパスのいずれか、または両方の形式が無効です。
- 02 - ファイル・オプションが無効です。以下のいずれかの値を持つ必要があります。

```
SQL_FILE_READ
    -read from an existing file
SQL_FILE_CREATE
    -create a new file for write
SQL_FILE_OVERWRITE
    -overwrite an existing file.
    If the file does not exist,
    create the file.
SQL_FILE_APPEND
    -append to an existing file.
    If the file does not exist,
    create the file.
```

- 03 - ファイルが見つかりませんでした。

- 04 - SQL_FILE_CREATE オプションが、既存のファイルと同じ名前を持つファイルに指定されました。
- 05 - ファイルへのアクセスが拒否されました。ユーザーが、ファイルをオープンするための許可を持っていません。
- 06 - ファイルへのアクセスが拒否されました。ファイルが非互換モードで使用されています。書き込まれるファイルが、排他モードでオープンされています。
- 07 - ファイルへの書き込み中に、ディスクがいっぱいになりました。
- 08 - ファイルの読み取り中に、予期しないファイル終わりが見つかりました。
- 09 - ファイルのアクセス中に、メディア・エラーが起きました。
- 10 - ファイルから読み取り中に、不完全または無効なマルチバイト文字が検出されました。
- 11 - ファイル・コード・ページからアプリケーションの漢字コード・ページにデータを変換中に、エラーが検出されました。

ユーザーの処置:

理由コード 01 の場合は、ファイル名の長さ、ファイル名およびパスを訂正してください。

理由コード 02 の場合は、有効なファイル・オプションを指定してください。

理由コード 03 の場合は、ファイルにアクセスする前に、指定したファイルが存在することを確認してください。

理由コード 04 の場合は、ファイルが必要ないときは、そのファイルを削除するか、または存在しないファイル名を指定してください。

理由コード 05 の場合は、ユーザーが、ファイルに対するアクセス (正しいファイル許可) を持っていることを確認してください。

理由コード 06 の場合は、別のファイルを使用するか、またはそのファイルにアクセスする必要があるときは、ファイルが同時にアクセスされない

ように、アプリケーションを変更してください。

理由コード 07 の場合は、不必要なファイルを削除して、ディスク・スペースを解放するか、または十分なディスク・スペースを持つ別のドライブ / ファイル・システムに常駐するファイルを指定してください。また、オペレーティング・システムまたはユーザー・ファイル・サイズの限界に達していないことを確認してください。ユーザーのアプリケーションのコード・ページがマルチバイト・エンコード・スキーマを使用していて、最後の文字の部分だけが書き込み可能な場合には、そのファイルに完全書式の文字だけが入っていることを確認してください。

理由コード 08 の場合は、ファイルが入力に使用されているときは、ファイル全体が読み取られる前に、そのファイルが変更されていないことを確認してください。

理由コード 09 の場合は、ファイルが常駐しているメディアのすべてのエラーを修正してください。

理由コード 10 の場合は、アプリケーションのコード・ページに基づいて有効なマルチバイト文字だけがファイルに入っていることを確認するか、あるいはファイルの内容と同じコード・ページのもとで実行している間にその要求を投入してください。

理由コード 11 の場合には、日本語 EUC などのファイルのコード・ページと、UCS-2 などのアプリケーションの漢字コード・ページとの間の文字変換サポートがインストールされていることを確認してください。

sqlcode: -452

sqlstate: 428A1

SQL0453N ルーチン “<routine-name>” を定義しているステートメントの **RETURNS** 文節で、問題が識別されています。

説明: ルーチン “<routine-name>” の結果をキャストする問題が識別されました。CAST FROM データ・タイプが、RETURNS データ・タイプにキャストできないので、問題が起きました。データ・タイプ間のキャストの詳細については、*SQL 解説書* を参照してください。

ユーザーの処置: RETURNS または CAST FROM 文節を変更して、CAST FROM データ・タイプが RETURNS データ・タイプにキャストできるようにしてください。

sqlcode: -453

sqlstate: 42880

SQL0454N ルーチン “<routine-name>” の定義で与えられているシグニチャーが、すでにスキーマに存在する他のルーチンまたはタイプのシグニチャーに一致しています。

説明: 関数のシグニチャーは関数名、関数に定義されているパラメーターの数、およびパラメーターのタイプの順序リスト (パラメーター・タイプは考慮されません) によって構成されています。

メソッドのシグニチャーは、メソッド名、メソッドのサブジェクト・タイプ、メソッドに定義されているパラメーターの数、およびパラメーターのタイプの順序リスト (パラメーター・タイプは考慮されません) によって構成されています。

プロシージャのシグニチャーは、プロシージャの名前およびプロシージャに定義されているパラメーターの数 (データ・タイプは考慮されていません) から構成されています。

この場合、以下のいずれかが考えられます。

- 作成される関数と同じシグニチャーを持つ関数またはプロシージャ (“<routine-name>”) が、すでにスキーマに存在します。
- 追加されるメソッド指定、または作成されるメソッド本体として同じシグニチャーを持つサブジェクト・タイプのメソッド (“<routine-name>”) が存在します。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 既存のルーチンが必要な機能を提供しているかどうかを判別してください。提供していない場合、ルーチンのシグニチャーを変更しなければなりません。(たとえば、ルーチン名を変更)

sqlcode: -454

sqlstate: 42723

SQL0455N ルーチン “<routine-name>” において、**SPECIFIC** 名として与えられているスキーマ名 “<schema-name1>” が、ルーチンのスキーマ名 “<schema-name2>” に一致していません。

説明: SPECIFIC 名が 2 つの部分の名前として指定されている場合、“<schema-name1>” 部分は、“<routine-name>” の “<schema-name2>” 部分と同じでなければなりません。“<routine-name>” の “<schema-name2>” 部分が、直接指定されている場合があること、またはステートメントの許可 ID に対するデフォルトを持っている場合があることに注意してください。ルーチンがメソッドであれば、“<schema-name>” は、そのメソッドのサブジェクト・タイプのスキーマ名を指します。

ユーザーの処置: ステートメントを訂正して、もう一度やり直してください。

sqlcode: -455

sqlstate: 42882

SQL0456N ルーチン “<routine-name>” の定義において、SPECIFIC 名 “<specific-name>” はすでにスキーマに存在しています。

説明: ユーザーは明示 SPECIFIC 名 “<specific-name>” をルーチン “<routine-name>” の定義に与えましたが、この名前はスキーマ内の関数、メソッド、またはプロシージャの SPECIFIC 名として存在しています。

ユーザーの処置: 新しい SPECIFIC 名を選択して、もう一度やり直してください。

sqlcode: -456

sqlstate: 42710

SQL0457N システム使用のために予約されているため、名前 “<name>” を関数、メソッド、ユーザー定義データ・タイプ、または構造化データ・タイプ属性に付けることはできません。

説明: 示されている名前はシステム使用のために予約されているので、ユーザー定義関数、メソッド、ユーザー定義データ・タイプ、または構造化データ・タイプを作成できません。関数名、特定タイプ名、構造化タイプ名、あるいは属性名に対して使用されない名前には、以下のものがあります。

"=", "<", ">", ">=", "<=", "&=", "&>", "&<",
"!=", "!", ">", "!", "<", "<>", SOME, ANY, ALL, NOT,
AND, OR, BETWEEN, NULL, LIKE, EXISTS, IN,
UNIQUE, OVERLAPS, SIMILAR, and MATCH.

ユーザーの処置: システム使用のために予約されていない関数、メソッド、ユーザー定義データ・タイプ、あるいは構造化データ・タイプ属性の名前を選択してください。

sqlcode: -457

sqlstate: 42939

SQL0458N シグニチャーによるルーチン “<routine-name>” への参照において、一致するルーチンが見つかりませんでした。

説明: シグニチャーによる関数、メソッド、またはストアード・プロシージャ “<routine-name>” への参照において、一致する関数、メソッド、またはストアード・プロシージャが見つかりませんでした。

パラメーターを受け入れることができるデータ・タイプが使用されている場合、タイプ・パラメーターはオプションです。たとえば CHAR(12) の場合、CHAR(12) とパラメーターを指定でき、また CHAR() とパラメーターを省略することができます。パラメーターを指定すると、DBMS は、データ・タイプとデータ・タイプ・パラメーターに正確に一致するものだけを受け入れます。パラメーターを省略すると、DBMS データ・タイプのみ的一致するものを受け入れます。CHAR() 構文は、一致する関数が見つからなかったときにデータ・タイプを無視するよう DBMS に指示する方法を提供します。

DROP FUNCTION/PROCEDURE および COMMENT ON FUNCTION/PROCEDURE ステートメントでは、無修飾参照がステートメント許可 ID で修飾され、問題が見つかる可能性があるスキーマになることにも注意してください。CREATE 関数の SOURCE 文節では、修飾が現在の関数パスから行われます。この場合、一致する関数はパス全体に存在しません。

関数は、COALESCE、NULLIF、NODENUMBER、PARTITION、RAISE_ERROR、TYPE_ID、TYPE_NAME、TYPE_SCHEMA、または VALUE 組み込み関数に基づくことはできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 以下の対応を行ってください。

- 正しいスキーマが備わるように、関数パスを変更します。

- データ・タイプの指定からパラメーターを取り除きます。
- SPECIFIC 名を使用して、シグニチャーの代わりに、関数あるいはプロシーチャーを参照します。

sqlcode: -458

sqlstate: 42883

SQL0461N データ・タイプ
“<source-data-type>”を持つ値
を、タイプ “<target-data-type>”
に **CAST** できません。

説明: ステートメントに、データ・タイプ
“<target-data-type>” にキャストされるデータ・タイプ
“<source-data-type>” を持つ最初のオペランドが指定された **CAST** が入っています。このキャストはサポートされていません。

ユーザーの処置: キャストがサポートされるように、ソースまたはターゲットのいずれかのタイプを変更してください。事前定義されたデータ・タイプについては、SQL 解説書を参照してください。ユーザー定義の異なるタイプの入ったキャストの場合、キャストは基本データ・タイプとユーザー定義の異なるタイプ間、または基本データ・タイプにプロモート可能なデータ・タイプから、ユーザー定義の異なるタイプに対してのみ行われます。

sqlcode: -461

sqlstate: 42846

SQL0462W ルーチン “<routine-name>” (特定名 “<specific-name>”) が、診断テキスト “<text>” とともに警告 **SQLSTATE** を返しました。

説明: ルーチン “<routine-name>” (特定名 “<specific-name>”) が、メッセージ・テキスト “<text>” とともに形式 01Hxx の **SQLSTATE** を DB2 に返しました。

ユーザーの処置: 警告の意味を理解する必要があります。データベース管理者、またはルーチンの作成者に連絡してください。

sqlcode: +462

sqlstate: 01Hxx

SQL0463N ルーチン “<routine-name>” (特定名 “<specific-name>”) が、診断テキスト “<text>” とともに無効な **SQLSTATE** “<state>” を返しました。

説明: ルーチンが返すことができる有効な **SQLSTATE** は 38xxx (エラー)、38502 (エラー)、および 01Hxx (警告) です。このルーチン “<routine-name>” (特定名 “<specific-name>”) が、無効な **SQLSTATE** “<state>” をメッセージ・テキスト “<text>” とともに返しました。ルーチンはエラー状態です。

ユーザーの処置: ルーチンを修正する必要があります。データベース管理者、またはルーチンの作成者に連絡してください。間違った **SQLSTATE** のアプリケーション重要度をルーチンの作成者から得ることもできます。

sqlcode: -463

sqlstate: 39001

SQL0464W プロシーチャー
“<procedure-name>” が
“<generated-nbr-results>” 照会結果
セットを返しました。このプロシ
ーチャーは、定義された制限
“<max-nbr-results>” を超えてい
ます。

説明: “<procedure-name>” と名付けられたストアード・プロシーチャーが正常に完了しました。しかし、そのストアード・プロシーチャーは、プロシーチャーが返すことができる照会結果セットの数について定義された制限を超えていました。

generated-nbr-results

ストアード・プロシージャによって返された照会結果セットの数を示します。

max-nbr-results

ストアード・プロシージャの照会結果セット数について定義された制限を示します。

最初の “<max-nbr-results>” の照会結果セットのみが SQL CALL ステートメントを発行した SQL プログラムに返されます。

考えられる原因は次の通りです: クライアントによって課された DRDA 制限のため、ストアード・プロシージャが “<generated-nbr-results>” 結果セットを返せない。DRDA クライアントが、MAXRSLCNT DDM コード・ポイントによってこの制限を確立した。

ユーザーの処置: SQL ステートメントが成功しました。SQLWARN9 フィールドが 'Z' に設定されました。

sqlcode: +464

sqlstate: 0100E

SQL0465N 分離モード・プロセスの開始、初期化、または通信を行うことができません。理由コード “<code>”

説明: 分離モード・ルーチン (ユーザー定義関数またはメソッド) の実行に関係する、システム関連問題があります。問題の正確な特質は、“<code>” で示されています。これは、ユーザーの問題ではありません。理由コードには、以下のものがあります。

ルーチン・プロセス・エラー

- 21:** 内部データまたはアプリケーション・データの初期化が失敗しました。
- 22:** シグナル・ハンドラーの登録が失敗しました。

23: エージェント・プロセスに、REQUEST QUEUE のアクセス授与を授与することに失敗しました。

24: ルーチン・プロセスの共用メモリーへの接続が失敗しました。

25: REPLY QUEUE のオープンが失敗しました。

26: REPLY QUEUE への書き込みが失敗しました。

27: REQUEST QUEUE の作成が失敗しました。

28: REQUEST QUEUE からの読み取りが失敗しました。

29: ルーチン・プロセスが消滅しました。

30: ルーチン・プロセスが USER INTERRUPT シグナルを受け取りました。

31: ルーチン・モジュールをアンロードできませんでした。

32: モジュールのロード / アンロードに使用される制御ブロックに対するストレージの割り振りが失敗しました。

33: エージェント・プロセスからルーチン・プロセスに SIGINT の送信できませんでした。

34: OLE ライブラリーの初期化に失敗しました。

35: OLE DB 初期化サービス・コンポーネントの初期化に失敗しました。

40: ルーチン・プロセスで内部エラーが発生しました。

エージェント・プロセス・エラー

41: ルーチン・プロセスを spawn できませんでした。

42: REPLY QUEUE の作成が失敗しました。

- 43: REPLY QUEUE からの読み取りが失敗しました。
- 44: REQUEST QUEUE のオープンが失敗しました。
- 45: REQUEST QUEUE への書き込みが失敗しました。
- 47: ルーチン・プロセスに、UDFP 共用メモリー・セットに対するアクセス許可を授与できませんでした。
- 48: ルーチン・プロセスに REPLY QUEUE に対するアクセス許可を授与できませんでした。
- 49: モジュールのロード / アンロードに使用される制御ブロックに対するストレージの割り振りが失敗しました。
- 50: ルーチン・コードまたはエージェント・コードの実行中にエージェント・プロセスが消滅しました。
- 51: 非分離ルーチン・コードの実行中に、エージェント・プロセスが USER INTERRUPT を受け取りました。
- 60: ルーチン・プロセスで内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: データベースまたはシステム管理者に連絡してください。

sqlcode: -465

sqlstate: 58032

SQL0466W プロシージャー

“<procedure-name>” が、ストアード・プロシージャーから “<number-results>” の結果セットを返しました。

説明: このメッセージは、CALL SQL ステートメントの発行の結果として返されます。これは、ストアード・プロシージャー “<procedure-name>” に、関連する “<number-results>” の結果セットがあることを示しています。

ステートメントは正しく完了しました。

ユーザーの処置: 必要ありません。

sqlcode: +466

sqlstate: 0100C

SQL0467W プロシージャー

“<procedure-name>” には、別の結果セットが含まれています。合計 “<max-nbr-results>” の結果セットがあります。

説明: このメッセージはカーソルのクローズの結果として戻されます。これは、ストアード・プロシージャー “<procedure-name>” に別の結果セットが存在し、次の結果セットでカーソルがオープンされたことを示しています。ストアード・プロシージャーには、合計 “<max-nbr-results>” の結果セットがあります。

ステートメントは正しく完了しました。

ユーザーの処置: 必要ありません。 フェッチは、次の結果セットで続行できます。

sqlcode: +467

sqlstate: 0100D

SQL0469N パラメーター・モード (IN、OUT、または INOUT) は、特定名 “<specific-name>” のプロシージャー “<procedure-name>” のパラメーター (パラメーター番号 “<number>”、名前 “<parameter-name>”) には無効です。

説明: 以下のいずれかが起こりました。

- SQL プロシージャーのパラメーターが OUT と宣言され、プロシージャー本体の入力として使用されている
- SQL プロシージャーのパラメーターが IN と宣言され、プロシージャー本体で変更されている

ユーザーの処置: パラメーターの属性を INOUT に変更するか、またはプロシーチャー内のパラメーターの使用を変更してください。

sqlcode: -469

sqlstate: 42886

SQL0470N ユーザー定義ルーチン “<routine-name>” (特定名 “<specific-name>”) には、パスされなかった引き数 “<argument>” のヌル値があります。

説明: ルーチンにはヌル標識を渡さないパラメーター・スタイルで定義されたヌル値のある入力引き数が入っているか、あるいはこのパラメーターのデータ・タイプはヌル値をサポートしません。

ユーザーの処置: ルーチンがヌル値で呼び出される場合は、パラメーター・スタイルと入力タイプがヌル値を受け入れ可能であることを確認してください。関数の場合、“RETURNS NULL ON NULL INPUT” で関数を作成することができます。

sqlcode: -470

sqlstate: 39004

SQL0471N 理由 “<reason-code>” のためにルーチン “<name>” の呼び出しが失敗しました。

説明: DB2 ユニバーサル・データベース (OS/390 版) サーバーでルーチン “<name>” が呼び出されました。DB2 理由コード “<reason-code>” で説明されている条件のため、ルーチンの呼び出しは失敗しました。

ステートメントは処理されません。MVS システム・コンソール上でこのエラーを説明する DSNX9xx メッセージを表示できます。

ユーザーの処置: DB2 ユニバーサル・データベース (OS/390 版) サーバーの資料を調べて、

DB2 理由コードで説明されている条件を正してください。

sqlcode: -471

sqlstate: 55023

SQL0473N システム事前定義タイプと同じ名前を持つユーザー定義データ・タイプは作成できません。

説明: 作成されるデータ・タイプの名前に、システム事前定義データ・タイプと同一名であるか、または BOOLEAN である無修飾名があります。これは許されていません。区切り文字を追加しても、有効な名前にはなりません。

ステートメントを処理できませんでした。

ユーザーの処置: 他の ID を使用するよう、ステートメントを修正してください。

sqlcode: -473

sqlstate: 42918

SQL0475N SOURCE 関数の結果タイプ “<type-1>” は、ユーザー定義関数 “<function-name>” の RETURNS タイプ “<type-2>” にはキャストできません。

説明: ソースであるユーザー定義関数 (UDF) の CREATE を有効にするには、ソース関数の結果タイプ (“<type-1>”) が作成される関数の RETURNS タイプ (“<type-2>”) にキャスト可能でなければなりません。これらのデータ・タイプ間でサポートされるキャストはありません。データ・タイプ間のキャストの詳細については、SQL 解説書を参照してください。

ユーザーの処置: RETURNS データ・タイプまたは SOURCE 関数識別を変更して、SOURCE 関数の結果タイプが RETURNS データ・タイプにキャストできるようにしてください。

sqlcode: -475

sqlstate: 42866

SQL0476N ルーチン “<function-name>” への参照がシグニチャーなしで行われましたが、ルーチンはそのスキーマで固有ではありません。

説明: 関数あるいはストアド・プロシージャーに対するシグニチャーのない参照は許されていますが、示された関数あるいはストアド・プロシージャー “<function-name>” がそのスキーマ内で固有でなければならないのに、固有ではありませんでした。ルーチンがメソッドであれば、シグニチャーのない参照が許可されていますが、ここで示されているメソッドはデータ・タイプとして固有ではありません。

DROP FUNCTION/PROCEDURE および **COMMENT ON FUNCTION/PROCEDURE** ステートメントでは、無修飾参照がステートメント許可 ID で修飾され、問題が見つかる可能性があるスキーマになることに注意してください。CREATE FUNCTION の SOURCE 文節では、修飾子は現在の関数パスから作成されます。この場合、この名前を持つ関数の入ったパスの最初のスキーマが、同じ名前の別の関数を持っています。

連合システム・ユーザー: パススルー・セッションでは、ステートメントが CREATE FUNCTION MAPPING ステートメントの場合、このエラーは、関数のマッピングを 1 つのリモート関数から複数のローカル関数に作成しようとしたことを示します。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを行って、参照を訂正してください。

- シグニチャーを完了する
- 目的のルーチンの SPECIFIC 名を使用する
- SQL パスを変更する

その後で再試行してください。

sqlcode: -476

sqlstate: 42725

SQL0478N オブジェクト・タイプ “<object-type1>” が、そのオブジェクトに依存するタイプ “<object-type2>” のオブジェクト “<object-name>” のため、ドロップできません。

説明: タイプ “<object-type1>” のオブジェクトである基本オブジェクトは、他のオブジェクトがそのオブジェクトに依存しているためにドロップできません。タイプ “<object-type2>” (たとえばオブジェクト “<object-name>” の) オブジェクトを使用して定義された制約依存関係があります。

依存関係が間接的である可能性があります。つまり、示されたオブジェクトが、ドロップされているオブジェクトに依存している別のオブジェクトに依存しています。

たとえば:

- 関数 F1 のソースが関数 F2 である
- 表 V1 が F1 によって定義されている
- F2 での F1 の直接依存性、および F2 での V1 の間接依存性のために、F2 をドロップする試みが失敗する

ユーザーの処置: このオブジェクトをドロップしないようにするか、または最初に従属オブジェクトをドロップしてください。

sqlcode: -478

sqlstate: 42893

SQL0480N プロシージャー “<procedure-name>” は呼び出されていません。

説明: ASSOCIATE LOCATORS ステートメントで識別されているプロシージャーがアプリケーション・プロセス内で呼び出されていないか、またはプロシージャーは呼び出されていますが、ステートメントの前に暗黙的または明示的なコミットが行われました。

ユーザーの処置: CALL ステートメントにプロシ

ージャー名を指定するための構文が、ASSOCIATE LOCATORS ステートメントの構文と同じになるよう、ステートメントを訂正してください。修飾されていない名前がプロシージャーを呼び出すために使用されている場合、別のステートメントに 1 部分の名前も指定しなければなりません。ステートメントを出し直してください。

sqlcode: -0480

sqlstate: 51030

SQL0481N GROUP BY 文節には、“<element 2>” でネストされた “<element 1>” が入っています。

説明: 次のネストのタイプは、GROUP BY 文節内で許可されていません:

- CUBE CUBE, ROLLUP, または GEL 内
- ROLLUP CUBE, ROLLUP, または GEL 内
- () CUBE, ROLLUP, または GEL 内
- GROUPING SET GROUPING SET, CUBE, ROLLUP, または GEL 内

GEL は GROUP BY 文節の構文図でグループ化式リストとして表示されるエレメントを表しています。

いくつかのインスタンスでは、値 “---” が “<element 2>” について示されます。この場合、“---” は CUBE、ROLLUP、GROUPING SET、または GEL のいずれかを表しています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ネストを除去する GROUP BY 文節を修正してください。

sqlcode: -481

sqlstate: 428B0

SQL0483N ユーザー定義関数 “<function-name>” の CREATE のパラメーターの数が、SOURCE 関数のパラメーターの数と一致しません。

説明: 別の関数がソースであるユーザー定義関数 “<function-name>” の作成が試みられました。以下のいずれかの状態になっています。

- SOURCE 文節が、関数名 (入力パラメーター・リスト) を使用してソース関数を識別しましたが、リスト内のタイプの数が、作成される関数のパラメーターの数と異なります。
- SOURCE 文節が、異なる構文を使用してソース関数を識別しましたが、その関数のタイプの数が、作成される関数のパラメーターの数と異なります。

ユーザーの処置: SOURCE 関数と作成される関数のパラメーターの数は、同じでなければなりません。SOURCE 関数の識別を、以下のように変更する必要があります。

- 入力パラメーター・リストを修正する。
- 適切な関数を識別するように、関数名または関数特定名を修正する。

関数の正しい解決が行われるように、関数パスの修正が必要になる場合もあります。

sqlcode: -483

sqlstate: 42885

SQL0486N BOOLEAN データ・タイプは、現在内部的にのみサポートされています。

説明: ステートメントの 1 つ以上のデータ・タイプが BOOLEAN です。これは、DB2 の現在のバージョンではサポートされていません。

ユーザーの処置: データ・タイプを変更して、ステートメントの再実行依頼を行ってください。

sqlcode: -486

sqlstate: 42991

SQL0487N ルーチン “<routine-name>” (特定名 “<specific-name>”) が、SQL ステートメントを実行しようと試みました。

説明: ルーチンの本体を実行するためのプログラムは、SQL ステートメントの実行を許可されていません。このルーチン “<routine-name>” (特定名 “<specific-name>”) には、SQL ステートメントが入っています。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを除去した後で、プログラムを再コンパイルしてください。ルーチンを定義しているステートメントへの指定を許可されている SQL のレベルを調べてください。

sqlcode: -487

sqlstate: 38001

SQL0489N **SELECT** または **VALUES** リスト項目内の関数 “<function-name>” が、**BOOLEAN** 結果を作成しました。

説明: 関数 “<function-name>” が、ブール結果を戻す述部としての使用を定義されています。このような結果は、選択リストでは無効です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 関数名を訂正するか、関数の使用を除去してください。

sqlcode: -489

sqlstate: 42844

SQL0491N ルーチン “<routine-name>” の定義には **RETURNS** 文節、さらに **EXTERNAL** 文節 (他の必須キーワードとともに)、**RETURN** ステートメント、または **SOURCE** 文節のいずれかが必要です。

説明: 必要な文節が、ルーチン “<routine-name>” の定義に見つかりません。EXTERNAL が指定されていた場合、LANGUAGE、PARAMETER STYLE、DETERMINISTIC または NOT DETERMINISTIC、NO SQL、および EXTERNAL ACTION または NO EXTERNAL ACTION も指定しなければなりません。

ユーザーの処置: 足りない文節を追加した後で、もう一度やり直してください。

sqlcode: -491

sqlstate: 42601

SQL0492N ユーザー定義関数 “<function-name>” の **CREATE** で、パラメーター番号 “<number>” に問題があります。**SOURCE** 関数との不一致になる場合があります。

説明: 関数 “<function-name>” の位置 “<number>” にあるパラメーターがエラーであるため、CREATE が実行できません。ソース関数の位置 “<number>” にあるパラメーターが、作成中の関数の対応するパラメーターにキャストできません。

ユーザーの処置: 適切な処置には以下が含まれません。

- 別のソース関数を識別します。
- 作成中の関数のパラメーターのデータ・タイプを変更して、ソース関数のデータ・タイプがこのデータ・タイプにキャストできるようにします。

sqlcode: -492

sqlstate: 42879

SQL0493N ルーチン “<routine-name>” (特定名 “<specific-name>”) が、構文的または数值的に無効な日付、時刻、またはタイム・スタンプ値を返しました。

説明: ユーザー定義関数 (UDF) またはメソッド “<routine-name>” (特定名 “<specific-name>”) が、無効な日付、時刻、またはタイム・スタンプ値を返しました。

構文的に無効な日付の値の例は '1994-12*25' で、'*' を '.' にする必要があります。数值的に無効な時刻の値の例は '11.71.22' で、時間には 71 分は存在しません。

ユーザーの処置: ルーチンを修正する必要があります。データベース管理者、またはルーチンの作成者に連絡してください。

sqlcode: -493

sqlstate: 22007

SQL0495N コスト・カテゴリー “<cost-category>” で、<estimate-amount1>” プロセッサ一秒の見積もられたプロセッサ・コスト (“<estimate-amount2>” サービス単位) が、“<limit-amount>” サービス単位のリソース制限エラーしきい値を超えています。

説明:

動的 INSERT、UPDATE、DELETE、または SELECT SQL ステートメントの準備の結果、リソース限定表 (RLST) で指定されたエラーしきい値を超えたコスト見積もりになりました。

DB2 のコスト・カテゴリー値が “B” になった場合もこのエラーが発行され、RLST の RLF_CATEGORY_B 列で指定されたデフォルトのアクションがエラーを発行します。

estimate_amount1

準備された INSERT、UPDATE、DELETE または SELECT ステートメントが実行される場合のコストの見積もり (プロセッサ一秒)。

estimate_amount2

準備された INSERT、UPDATE、DELETE または SELECT ステートメントが実行される場合のコストの見積もり (サービス単位)。

cost-category

この SQL ステートメントのための DB2 のコスト・カテゴリー使用可能な値は A または B です。

limit-amount

RLST の RLFASUERR 列で指定されたエラーしきい値 (サービス単位)。

動的 INSERT、UPDATE、DELETE、または SELECT ステートメントの準備に失敗しました。

ユーザーの処置: コスト・カテゴリー値が “B” であるためにこの SQLCODE が返された場合は、ステートメントがパラメーター・マーカースを使用しているか、参照される表と列について使用できない統計が存在する可能性があります。管理者が、参照された表でユーティリティー RUNSTATS を実行したことを確認してください。また、ステートメントが実行されるときに UDF が呼び出されるか、INSERT、UPDATE、または DELETE ステートメントについては、変更された表にトリガーが定義されている可能性もあります。このステートメントについて DSN_STATEMNT_TABLE または IFCID 22 レコードをチェックして、この SQL ステートメントがコスト・カテゴリー “B” になった理由を判別してください。問題を変えられない場合、または統計を入手できない場合は、管理者に問い合わせて RLST の RLF_CATEGORY_B 列の値をステートメントを実行できるようにする “Y” に変更するか、エラーではなく警告を返す “W” に変更してください。

SQL ステートメントがプロセッサ・リソースを多く使用しすぎていることが警告の原因である場合は、ステートメントが効率良く実行されるために書き直してみてください。あるいは、管理者に RLST のエラーしきい値を増やすように依頼してください。

sqlcode: -495

sqlstate: 57051

SQL0499N カーソル “<cursor-name>” は、プロシージャ “<procedure-name>” から、この結果セットまたは別の結果セットに対して、すでに割り当てられています。

説明: 結果セットにカーソルを割り当てようとしたのですが、複数のカーソルがすでにプロシージャ

SQL0500 - SQL0599

SQL0501N **FETCH** または **CLOSE** ステートメントに指定されたカーソルが、オープンしていません。

説明: 指定されたカーソルがオープンされていないときに、プログラムが、(1) **FETCH** (カーソルを使用)、または (2) **CLOSE** (カーソルのクローズ) を試みました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: カーソルをクローズした可能性がある前のメッセージの (SQLCODE) をチェックしてください。カーソルをクローズした後では、フェッチまたはカーソルをクローズするステートメントに、SQLCODE -501 が返されます。

前回の SQLCODE が発行されていない場合は、アプリケーション・プログラムを修正して、**FETCH** または **CLOSE** ステートメントが実行されるときに、カーソルがオープンされているようにしてください。

sqlcode: -501

— “<procedure-name>” に割り振られています。

ユーザーの処置: ターゲットの結果セットが以前にカーソルに割り当てられているか、判別してください。複数のカーソルがプロシージャ “<procedure-name>” に割り振られている場合、1つのカーソルだけが、ストアード・プロシージャの結果セットを処理するために使用されるようにしてください。

sqlcode: -499

sqlstate: 24516

sqlstate: 24501

SQL0502N **OPEN** ステートメントに指定されたカーソルは、すでにオープンしています。

説明: プログラムが、すでにオープンしているカーソルに対して **OPEN** ステートメントを実行しようとした。

ステートメントは処理できません。カーソルは変更されません。

ユーザーの処置: アプリケーション・プログラムを修正して、すでにオープンされているカーソルに対して **OPEN** ステートメントを実行しないようにしてください。

sqlcode: -502

sqlstate: 24502

SQL0503N カーソルの **SELECT** ステートメントの **FOR UPDATE** で列が識別されていないので、この列は更新できません。

説明: プログラムが、カーソル宣言または準備された **SELECT** ステートメント内の **FOR UPDATE** 文節内で識別されていない表の列内の値を、カーソルを使用して更新しようとした。

更新される列は、カーソル宣言の **FOR UPDATE** 文節内で識別される必要があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: アプリケーション・プログラムを修正してください。列の更新が必要な場合は、その名前をカーソル宣言の **FOR UPDATE** 文節に追加してください。

sqlcode: -503

sqlstate: 42912

SQL0504N カーソル “<name>” が定義されていません。

説明: **UPDATE** または **DELETE WHERE CURRENT OF** “<name>” が指定されていますが、カーソル “<name>” がアプリケーション・プログラムに宣言されていません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: アプリケーション・プログラムが完全であることを確認して、カーソル名のつづりのエラーを訂正してください。

sqlcode: -504

sqlstate: 34000

SQL0505N カーソル “<name>” はすでに定義されています。

説明: **DECLARE** ステートメントに指定されているカーソル名は、すでに宣言されています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: カーソル名のつづりが正しいことを確認してください。

SQL0507N **UPDATE** または **DELETE** ステートメントに指定されたカーソルは、オープンしていません。

説明: 指定されたカーソルがオープンされていないときに、プログラムが **UPDATE** または **DELETE WHERE CURRENT OF** カーソル・ステートメントを実行しようとした。

ステートメントは処理できません。更新または削除は実行されません。

ユーザーの処置: カーソルをクローズした可能性がある前のメッセージの (**SQLCODE**) をチェックしてください。カーソルがクローズした後に、フェッチまたはカーソルをクローズするステートメントを使用すると、**SQLCODE -501** を受け取り、更新または削除ステートメントを使用すると、**SQLCODE -507** を受け取ります。アプリケーション・プログラムの論理を修正して、**UPDATE** または **DELETE** ステートメントが実行されたときに、指定したカーソルがオープンされているようにしてください。

sqlcode: -507

sqlstate: 24501

SQL0508N **UPDATE** または **DELETE** ステートメントに指定されたカーソルが、行を示していません。

説明: 指定されたカーソルが対象表の行を示していないときに、プログラムが **UPDATE** または **DELETE WHERE CURRENT OF** カーソル・ステートメントを実行しようとした。カーソルは、更新または削除する行を示している必要があります。

行が削除されるときに、カーソルが行を示しません。これには、**ROLLBACK TO SAVEPOINT** が実行されるときにの保管点内のカーソルの使用も含まれます。

連合システム・ユーザー: リモート・データ源のレコードが、別のアプリケーション (またはこのアプリケーション内の別なカーソル) によって更新および / または削除されましたので、レコードは存在しません。

ステートメントは処理できません。更新または削除されるデータはありません。

ユーザーの処置: アプリケーション・プログラムの論理を修正して、UPDATE または DELETE ステートメントが実行される前に、カーソルが対象表の意図した行を正しく示すようにしてください。FETCH がメッセージ SQL0100W (SQLCODE = 100) を返した場合は、カーソルが行を示していないことに注意してください。

sqlcode: -508

sqlstate: 24504

SQL0509N UPDATE または DELETE ステートメントに指定された表が、カーソルの SELECT に指定された表と同じではありません。

説明: プログラムが UPDATE または DELETE WHERE CURRENT OF カーソル・ステートメントを実行しようとしたのですが、そのステートメントに指定された表名が、カーソルを宣言する SELECT ステートメントに指定された表の名前と一致しませんでした。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: アプリケーション・プログラムを修正して、UPDATE または DELETE ステートメントに指定した表とカーソル宣言に指定した表が同じになるようにしてください。

sqlcode: -509

sqlstate: 42827

SQL0510N 指定されたカーソルに対して、UPDATE または DELETE は許されていません。

説明: 要求された更新または削除処理が許されていない表または視点定義に対して、プログラムが UPDATE または DELETE WHERE CURRENT OF カーソル・ステートメントを実行しようとした。たとえば、このエラーは読み取り専用の視点からの削除、またはカーソルが FOR UPDATE 文節とともに定義されていない場合の更新で起きる可能性があります。

SELECT ステートメントが以下の場合、データベース・マネージャーの表示が読み取り専用 (RO) になります。

- DISTINCT キーワード
- SELECT リスト内の列関数
- GROUP BY または HAVING 文節
- 以下のいずれかの項目を指定する FROM 文節
 - 複数の表または視点
 - 読み取り専用の視点 (SYSCAT.SYSVIEWS の READONLY 列が 'Y' に設定されています)
 - SELECT ステートメントの副照会の FROM 文節でも識別される表または視点。(注: これは、Version 2 以前の DB2 のリリースのみに関する制約です。)
- セット演算子 (UNION ALL 以外)

上記の条件は SELECT ステートメントの副照会には適用されませんので、注意してください。

カーソルが FOR FETCH ONLY または ORDER BY 文節とともに宣言されています。

カーソルが未確定で、BLOCKING ALL バインド・オプションが指定されています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーがステートメントを失敗した場合に、カーソルが読

み取り専用の SELECT または VALUES ステートメントに基づいているなら、そのカーソルに対して、更新または削除ステートメントを発行しないでください。

データベース・マネージャーがステートメントを失敗した場合に、カーソルが読み取り専用 SELECT または VALUES ステートメントに基づいておらず、FOR FETCH ONLY または ORDER BY 文節とともに定義されているときは、この文節をカーソル定義から取り除くか、あるいは更新または削除ステートメントを発行しないでください。

データベース・マネージャーがステートメントを失敗し、カーソルがフェッチ専用、あるいはその定義またはコンテキストから更新可能のどちらであるかを判別できない場合は、BLOCKING NO または BLOCKING UNAMBIG バインド・オプションを使用して、プログラムを再バインドしてください。

連合システム・ユーザー: 要求の失敗を引き起こすデータ・ソースと問題を分離してください (失敗したデータ・ソースを識別する手順については、問題判別の手引きを参照してください)。データ・ソースの要求が失敗する場合、データ・ソースの制約事項を検査して、問題の原因および解決を判別してください。データ・ソースに制約事項がある場合は、そのデータ・ソースの SQL 解説書を参照して、オブジェクトがなぜ更新不可能かを判別してください。

sqlcode: -510

sqlstate: 42828

SQL0511N カーソルで指定された表が変更できないので、**FOR UPDATE** 文節は使用できません。

説明: SELECT または VALUES ステートメントの結果表は更新できません。

カーソルが、以下の入った VALUES ステートメントまたは SELECT ステートメントにもとづいている場合、結果表は読み取り専用になります。

- DISTINCT キーワード
- SELECT リスト内の列関数
- GROUP BY、HAVING、または ORDER BY 文節
- 以下のいずれかの項目を指定する FROM 文節
 - 複数の表または視点
 - 読み取り専用視点
 - タイプ付き表あるいは視点で使用する OUTER 文節
 - SELECT ステートメントの副照会の FROM 文節でも識別される表または視点。(注: これは、Version 2 以前の DB2 のバージョンのみに関する制約です)。
- セット演算子 (UNION ALL 以外)

上記の条件は SELECT ステートメントの副照会には適用されませんので、注意してください。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 指定されたように、結果表では更新を実行しないでください。

連合システム・ユーザー: 要求の失敗を引き起こすデータ・ソースと問題を分離してください (失敗したデータ・ソースを識別する手順については、問題判別の手引きを参照してください)。データ・ソースの要求が失敗する場合、データ・ソースの制約事項を検査して、問題の原因および解決を判別してください。データ・ソースに制約事項がある場合は、そのデータ・ソースの SQL 解説書を参照して、オブジェクトがなぜ更新不可能かを判別してください。

sqlcode: -511

sqlstate: 42829

SQL0513W この SQL ステートメントは、表全体または視点全体を変更します。

説明: UPDATE または DELETE ステートメントには、WHERE 文節が入っていないので、このステートメントが実行されると、表または視点の

すべての行が変更されます。

このステートメントは受け付けられません。

連合システム・ユーザー: すべてのデータ・ソースがこの警告条件を報告するわけではありません。連合サーバーは条件が存在すればこの警告の発行を試行しますが、連合サーバーが常にこの条件を検出できる保証はありません。

UPDATE/DELETE 操作を全体表または表示からの作用より妨げるためにはこの警告を使用しないでください。

ユーザーの処置: 実際にすべての表または視点を修正する必要があることを確認してください。

SQL0514N カーソル “<name>” が、準備された状態ではありません。

説明: このアプリケーション・プログラムが、準備状態ではないカーソル “<name>” を使用しようとした。カーソルが、(1) 準備されることのないステートメント、(2) ROLLBACK によって無効にされたステートメント、または (3) パッケージの明示または暗黙の再バインドによって無効にされたステートメントに関連しています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ケース (1) の場合は、カーソルをオープンする前に、“<name>” の DECLARE CURSOR ステートメントに指定されているステートメントを準備してください。ケース (2) の場合は、カーソルの使用が完了するまで、ROLLBACK を発行しないでください。ケース (3) の場合、カーソルの準備を再発行する必要があります。

sqlcode: -514

sqlstate: 26501

SQL0516N DESCRIBE ステートメントが、準備されたステートメントを指定していません。

説明: DESCRIBE ステートメントのステートメント名は、同一のデータベース・トランザクションで用意されたステートメントを指定する必要があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメント名が準備されたステートメントを指定していることを確認してください。

sqlcode: -516

sqlstate: 26501

SQL0517N このカーソル “<name>” は SELECT または VALUES ステートメントでない準備されたステートメントを識別しています。

説明: カーソル “<name>” は、カーソル宣言に指定されている準備されたステートメントが、SELECT または VALUES ステートメントではないために、指定された通りに使用できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメント名が、カーソル “<name>” の PREPARE ステートメントおよび DECLARE CURSOR ステートメントに、正しく指定されていることを確認してください。または、プログラムを修正して、準備された SELECT または VALUES ステートメントのみが、カーソル宣言との関連で使用されるようにしてください。

sqlcode: -517

sqlstate: 07005

SQL0518N EXECUTE ステートメントに指定されたステートメントが、準備された状態ではないか、あるいは **SELECT** または **VALUES** ステートメントです。

説明: アプリケーション・プログラムが、(1) 準備されることのないステートメント、(2) ROLLBACK によって無効にされたステートメント、(3) SELECT または VALUES ステートメント、または (4) パッケージの明示または暗黙の再バインドによって無効にされたステートメントの EXECUTE を試みました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ケース (1) の場合は、EXECUTE (実行) を試みる前に、ステートメントを準備してください。ケース (2) の場合は、準備されたステートメントの使用が完了するまで、ROLLBACK を発行しないようにするか、あるいは ROLLBACK の後で、もう一度ステートメントを準備してください。ケース (3) の場合は、ステートメントが SELECT または VALUES ステートメントでないことを確認してください。ケース (4) の場合、カーソルの準備を再発行する必要があります。

sqlcode: -518

sqlstate: 07003

SQL0519N PREPARE ステートメントが、オープン・カーソル “<name>” の **SELECT** または **VALUES** ステートメントを識別しています。

説明: カーソルがすでにオープンされているときに、アプリケーション・プログラムが、示されたカーソルの SELECT または VALUES ステートメントを準備しようとした。

ステートメントは準備されません。カーソルは影響を受けません。

ユーザーの処置: アプリケーション・プログラムを修正して、オープン済みのカーソルに対して、

SELECT または VALUES ステートメントを準備しないようにしてください。

sqlcode: -519

sqlstate: 24506

SQL0525N SQL ステートメントを、**section** = “<sectno>” **package** = “<pkgname>” 整合性トークン = **X**“<contoken>” に対するバインド実行時がエラーのため、実行できません。

説明: 以下のいずれかとなります:

- パッケージがバインドされたときにステートメントにエラーがありましたが、オプション SQLERROR (CONTINUE) が使用されたためエラーは無視されました。ステートメントにエラーが入っているため、実行できません。
- ステートメントはこのロケーションで実行不能か、または DB2 アプリケーション・リクエスト (たとえば、OS/2 で実行中のアプリケーションでこのメッセージが可能です) のみで実行可能だと思われます。

変数は次の通りです。

sectno セクション番号

pkgname

locid.collid.pkgid

contoken

16 進数で整合性トークン

ステートメントは処理されません。

ユーザーの処置: SQL ステートメントが指定のロケーションで実行しない場合は、プログラムを訂正し、エラーのステートメントがそのロケーションで実行されないようにしてください。パッケージをプリコンパイル、コンパイル、およびバインド置換してください。SQL ステートメントが指定のロケーションで実行する場合は、バインドしたときの問題を訂正し、BIND と ACTION(REPLACE) を使用してもう一度パッケージ

ジをバインドしてください。パッケージの複数バージョンがバインドされた場合、次の SELECT ステートメントを発行して、エラーのあるバージョンを判別してください。SELECT VERSION FROM locid.SYSIBM.SYSPACKAGE WHERE LOCATION = ' ' AND COLLID = 'collid' AND NAME = 'pkgid' AND HEX(CONTOKEN) = 'contoken'

意味:

locid ロケーション名
collid コレクション ID
pkgid プログラム名

sqlcode: -525

sqlstate: 51015

SQL0526N 要求された関数は、宣言された一時表に適用されません。

説明: 実行されている SQL ステートメントは、宣言された一時表を参照しています。宣言された一時表は、与えられているコンテキストでは使用できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを修正し、宣言された一時表にオブジェクトの参照がないことを確認してください。

sqlcode: -526

sqlstate: 42995

SQL0528N 表 “<tablename>” にはすでに制約 “<name>” の重複している固有の制約が存在します。

説明: UNIQUE 文節は、PRIMARY KEY 文節、別の UNIQUE 文節または PRIMARY KEY と同一の列リストを使用するか、表 “<tablename>” にすでに存在している UNIQUE 文節を使用します。固有制約の重複は許可されていません。

いずれかが指定または存在している場合は、“<name>” は制約名になります。制約名が指定されていない場合、“<name>” は、3 つのピリオドに続く UNIQUE 文節の列リストで指定された最初の列名です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 重複 UNIQUE 文節を除去するか、あるいは列リストを固有制約の一部でない列のセットに変更してください。

sqlcode: -528

sqlstate: 42891

SQL0530N FOREIGN KEY

“<constraint-name>” の挿入または更新の値は、親表の親キーの値と同じではありません。

説明: 対象表の外部キーに値を設定しようとしたが、この値は親表の親キーの値と同じではありません。

行を従属表へ挿入する時には、外部キーの挿入値は、関連する関係の親表の行の親キーの値と等しくしてください。

同様に、外部キーの値を更新する時には、外部キーの更新値は、ステートメント完了時の関係する親表の行の親キーの値と等しくしてください。

連合システム・ユーザー: 制約がデータ・ソースに存在する可能性があります (子および親表がデータ・ソース上に存在する場合)。

一部のデータ・ソースは、“<constraint name>” に該当する値を提供しません。この場合、メッセージ・トークンは “<data source>:UNKNOWN” の形式になります。これは、指定されたデータ・ソースの実際の値が不明であることを示します。

ステートメントは実行できませんでした。対象表の内容は変更されません。

ユーザーの処置: まず、外部キーの挿入値または更新値を調べた後で、親表の各親キーと比較をして、問題の判別と訂正を行ってください。

sqlcode: -530

sqlstate: 23503

SQL0531N 関係 “<constraint-name>” の親行の親キーを更新できません。

説明: 操作は親表の行で親キーの更新を試行しましたが、指定行の親キーは “<constraint-name>” 制約において関連付けされる従属表の従属行を持っていました。

制約 “<constraint-name>” の更新規則が NO ACTION の時、親行にある親キーの値は、親行にステートメント完了時に従属行がある場合は、更新することはできません。

制約 “<constraint-name>” の更新規則が RESTRICT の時、親行にある親キーの値は、親行を更新しようとした時に、親行に従属行がある場合は、更新することはできません。

連合システム・ユーザー: 制約がデータ・ソースに存在する可能性があります (子および親表がデータ・ソース上に存在する場合)。

一部のデータ・ソースは、“<constraint name>” に該当する値を提供しません。この場合、メッセージ・トークンは “<data source>:UNKNOWN” の形式になります。これは、指定されたデータ・ソースの実際の値が不明であることを示します。

ステートメントは実行できませんでした。対象表の内容は変更されません。

ユーザーの処置: 対象表の親キーおよび従属表の外部キーを調べて親キーの指定行の値が変更されているかを判別してください。問題が明らかにならない場合は、対象表および従属表の内容を調べて、問題の判別と訂正を行ってください。

sqlcode: -531

sqlstate: 23001, 23504

SQL0532N 関係 “<constraint-name>” が削除を制限しているので、親行が削除できません。

説明: 親表の指定行の削除する操作をしましたが、指定行の親キーには参照制約 “<constraint-name>” に従属行があり、NO ACTION または RESTRICT の削除規則が関係に指定されています。

制約 “<constraint-name>” の削除規則が NO ACTION のとき、従属行がステートメント完了時に親キーにまだ依存している場合は親表の行を削除できません。

制約 “<constraint-name>” の削除規則が RESTRICT のとき、親行が削除時に従属行を持っている場合は親表の行を削除できません。

削除によって、NO ACTION または RESTRICT の削除規則を持つ従属表で他の行がカスケードして削除される可能性があることに注意してください。このように、制約 “<constraint-name>” はオリジナル削除操作とは別の表にある可能性があります。

連合システム・ユーザー: 制約がデータ・ソースに存在する可能性があります (子および親表がデータ・ソース上に存在する場合)。

一部のデータ・ソースは、“<constraint name>” に該当する値を提供しません。上記の場合、実際の値は不明であることを指示する値 (たとえば “unknown”) が該当するフィールドに入ります。

ステートメントは実行できませんでした。表の内容は変更されません。

ユーザーの処置: すべての下位表の削除規則を調べて、問題の判別と訂正を行ってください。関係する特定の表は、関係 “<constraint-name>” から判別できます。

sqlcode: -532

sqlstate: 23001, 23504

SQL0533N 関係が全選択の結果を 1 行に制限しているため、**INSERT** ステートメントは無効です。

説明: 全選択を使用する **INSERT** 処理が、同じ参照制約内で親と従属である表に、複数行を挿入しようとした。

INSERT 処理の全選択は、1 行以上のデータを返すことはできません。

INSERT ステートメントを実行できませんでした。対象表の内容は変更されません。

連合システム・ユーザー: 制約がデータ・ソースに存在する可能性があります (子および親表がデータ・ソース上に存在する場合)。

ユーザーの処置: 全選択の探索条件を調べて、1 行のデータのみが選択されていることを確認してください。

sqlcode: -533

sqlstate: 21501

SQL0534N 複数行の更新は無効です。

説明: **UPDATE** 処理が、1 次キーまたは固有索引に組み込まれた列の複数行更新を実行しようとした。

1 次キーまたは固有索引の列の複数行更新はサポートされていません。

UPDATE ステートメントは実行できませんでした。表の内容は変更されません。

連合システム・ユーザー: 制約は連合サーバーに存在する可能性がある、(子と親表が連合サーバーの表に存在する場合) またはデータ・ソースに存在する可能性があります(子と親表がデータ・ソースに存在する場合)。

ユーザーの処置: **UPDATE** ステートメントの探索条件を、対象表の 1 行のみを更新するようにしてください。

sqlcode: -534

sqlstate: 21502

SQL0535N 自己参照関係が削除を 1 行に制限しているため、**DELETE** ステートメントは無効です。

説明: **WHERE** 文節付きの **DELETE** 処理が、**RESTRICT** または **SET NULL** 削除規則を持つ参照制約において同じ関係にある親表と従属表から、複数行を削除しようとした。

DELETE 処理の **WHERE** 文節では、1 行のデータしか選択できません。

DELETE ステートメントは実行できませんでした。対象表の内容は変更されません。

連合システム・ユーザー: 制約がデータ・ソースに存在する可能性があります (子および親表がデータ・ソース上に存在する場合)。

ユーザーの処置: **WHERE** 文節の探索条件を調べて、1 行のデータのみが選択されていることを確認してください。

注: これは、Version 2 以前の DB2 のリリースのみに関する制約です。

sqlcode: -535

sqlstate: 21504

SQL0536N 表 “<name>” が処理に影響される可能性があるため、**DELETE** ステートメントは無効です。

説明: 副照会で参照される、示された表を使用する **DELETE** 処理が実行されようとした。

以下のいずれかの理由で、**DELETE** ステートメントの副照会内で参照される、示された表が影響される可能性があります。

- **CASCADE** または **SET NULL** 削除規則と関係する **DELETE** の対象表の従属
- **CASCADE** または **SET NULL** 削除規則と関係する別の表の従属と、その表にカスケードしている可能性のある **DELETE** の対象表からの削除

連合システム・ユーザー: 制約がデータ・ソースに存在する可能性があります (子および親表がデータ・ソース上に存在する場合)。

一部のデータ・ソースは、“<name>” に適切な値を提供しません。上記の場合、実際の値は不明であることを指示する値 (たとえば “unknown”) が該当するフィールドに入ります。

ステートメントを処理できませんでした。

ユーザーの処置: 表が DELETE ステートメントによる影響を受ける可能性がある場合は、DELETE ステートメントの副照会で、表を参照しないでください。

注: このエラーは、Version 2 以前の DB2 と DB2 コネクトを介してアクセスされるホストにのみ適用されます。

sqlcode: -536

sqlstate: 42914

SQL0537N PRIMARY KEY 文節、FOREIGN KEY 文節、UNIQUE 文節または PARTITIONING KEY 文節は複数回、列 “<name>” を識別します。

説明: 列 “<name>” は複数回、CREATE または ALTER ステートメントの PRIMARY KEY 文節、FOREIGN KEY 文節、UNIQUE 文節または PARTITIONING KEY 文節に表示されます。

連合システム・ユーザー: 制約がデータ・ソースに存在する可能性があります (子および親表がデータ・ソース上に存在する場合)。

一部のデータ・ソースは、“<name>” に適切な値を提供しません。上記の場合、実際の値は不明であることを指示する値 (たとえば “unknown”) が該当するフィールドに入ります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 列ごとに特定名を指定してください。

sqlcode: -537

sqlstate: 42709

SQL0538N FOREIGN KEY “<name>” は表 “<table-name>” の親キーの記述と一致していません。

説明: 示された外部キーの定義は、表 “<table-name>” の親キーの記述と一致していません。

エラーの可能性としては、次のいずれかが考えられます。

- 外部キーの列リストの列数が、親キーの列リストの列数と一致していません。
- 外部キーの列リストの列数が、親表の 1 次キーの列数と一致していません (親キーの列リストは指定されません。)
- 対応する列の記述は互換性がありません。対応しあう列が、互換データ・タイプ (どちらの列も数値、文字ストリング、グラフ、日付 / 時刻であるか、または同じ特殊タイプ) であれば、それらの列記述には互換性があります。

“<name>” は FOREIGN KEY 文節に指定される場合の制約名です。制約名を指定していない場合、“<name>” は、3 つのピリオドに続く文節に指定された最初の列名です。

連合システム・ユーザー: 一部のデータ・ソースは、“<name>” および “<table-name>” に適切な値を提供しません。上記の場合、実際の値は不明であることを指示する値 (たとえば “unknown”) が該当するフィールドに入ります。

制約がデータ・ソースに存在する可能性があります (子および親表がデータ・ソースに存在する場合)。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 外部キーの記述が親キーの記述に一致するようにこのステートメントを訂正してください。

sqlcode: -538

sqlstate: 42830

SQL0539N 表 “<name>” は “<key-type>” キーを持っていません。

説明: 以下のいずれかが起きました。

- 表 “<name>” が、FOREIGN KEY 文節内で親表として指定されていますが、その表が 1 次キーを持っていないので、親表として定義できません。
- ALTER TABLE ステートメントはこの表 “<name>” の 1 次キーをドロップしようとしたが、この表は 1 次キーを持っていません。
- ALTER TABLE ステートメントはこの表 “<name>” の区分化キーをドロップしようとしたが、この表は区分化キーを持っていません。

連合システム・ユーザー: 制約がデータ・ソースに存在する可能性があります (子および親表がデータ・ソース上に存在する場合)。

一部のデータ・ソースは、“<name>” および “<key-type>” に適切な値を提供しません。上記の場合、実際の値は不明であることを指示する値 (たとえば “unknown”) が該当するフィールドに入ります。

ステートメントは処理できません。システム・カタログは、参照制約の親表として定義できません。

ユーザーの処置: 参照制約の作成時には、外部キー (制約) を指定する前に、1 次キーを指定してください。

sqlcode: -539

sqlstate: 42888

SQL0540N 1 次索引または要求された固有索引がないため、“<table-name>” 表の定義が不完全です。

説明: 指定された表は PRIMARY KEY 文節または UNIQUE 文節で定義されていました。その定義が不完全です。1 次キーに (1 次索引) および任意の UNIQUE 文節の列 (必須の固有索引) に対して固有索引が定義されるまでに使用不能となっています。FOREIGN KEY 文節の表、または SQL 操作ステートメントの表を使用しようとしてしました。

ステートメントは処理されません。

ユーザーの処置: 参照する前に、1 次索引または必須の固有索引を表で定義してください。

sqlcode: -540

sqlstate: 57001

SQL0541W 参照、1 次キーまたは固有制約 “<name>” は、重複制約のため、無視されます。

説明: “<name>” が参照制約を参照する場合、FOREIGN KEY 文節は別の FOREIGN KEY 文節と同じ外部キーおよび親表を使用します。

“<name>” が 1 次キーまたは固有制約を参照する場合、次の状況のいずれかが存在します。

- PRIMARY KEY 文節はこのステートメントの UNIQUE 文節と同じ列のセットを使用します。
- UNIQUE 文節は、このステートメントの PRIMARY KEY 文節または別の UNIQUE 文節と同じ列のセットを使用します。
- 同じ列のセットにある PRIMARY KEY または UNIQUE 制約が、表 “<tablename>” にすでに存在しています。

指定された場合、“<name>” は制約名です。制約名を指定しなかった場合、“<name>” は FOREIGN KEY または UNIQUE 文節の列リストで指定された、3 つのピリオドに続く最初の列名になります。

連合システム・ユーザー: 制約がデータ・ソースに存在する可能性があります (子および親表がデータ・ソース上に存在する場合)。

一部のデータ・ソースは、“<name>” に適切な値を提供しません。上記の場合、実際の値は不明であることを指示する値 (たとえば “unknown”) が該当するフィールドに入ります。

指示された参照制約または固有制約は作成されませんでした。ステートメントは正常に処理されました。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。処理は続行されます。

sqlcode: +541

sqlstate: 01543

SQL0542N “<name>” は NULL 値を含む可能性があるため 1 次キーまたは固有キーの列にすることができません。

説明: PRIMARY KEY 文節または UNIQUE 文節で識別された列 “<name>” は、NULL 値を許可するように定義されています。

連合システム・ユーザー: 一部のデータ・ソースは、“<name>” に適切な値を提供しません。上記の場合、実際の値は不明であることを指示する値 (たとえば “unknown”) が該当するフィールドに入ります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 列、1 次キーまたは固有キーの定義を訂正してください。

sqlcode: -542

sqlstate: 42831

SQL0543N 検査制約 “<constraint-name>” が削除を制限しているために、親表の行が削除できません。

説明: ターゲット表が親表であって、しかも参照制約を使用して、SET NULL の削除規則を持つ従

属表に接続されているために、削除処理を実行できません。ただし、従属表に検査制約が定義されているので、列への null 値の組み込みが制限されます。

ステートメントは処理されません。

ユーザーの処置: 外部キー、従属表の削除規則、矛盾する検査制約を調べてください。相互矛盾がないように、削除規則または検査制約を変更してください。

sqlcode: -543

sqlstate: 23511

SQL0544N 制約に違反する行が表に含まれているために、検査制約 “<constraint-name>” が追加できません。

説明: 表の少なくとも 1 つの既存の行が、ALTER TABLE ステートメントに追加される検査制約に違反しています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ALTER TABLE ステートメントに指定されている検査制約定義および表のデータを調べて、制約の違反が存在する理由を判別してください。制約に違反しないように、検査制約またはデータを変更してください。

sqlcode: -544

sqlstate: 23512

SQL0545N 行が検査制約 “<constraint-name>” を満たしていないために、要求された処理は実行されません。

説明: 検査制約違反は、INSERT または UPDATE 処理で起きる可能性があります。結果の行が、その表の検査制約定義に違反しました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: データとカタログ視点

SYSCAT.CHECKS の検査制約定義を調べて、INSERT または UPDATE ステートメントが失敗した理由を判別してください。制約に違反しないように、データを変更してください。

sqlcode: -545

sqlstate: 23513

SQL0546N 検査制約 "**<constraint-name>**" が無効です。

説明: CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントの検査制約が、以下の 1 つ以上の理由で無効です。

- 制約定義に副照会が入っている。
- 制約定義に列関数が入っている。
- 制約定義にホスト変数が入っている。
- 制約定義にパラメーター・マーカが入っている。
- 制約定義に特殊レジスターが入っている。
- 制約定義に可変ユーザー定義関数が入っている。
- 制約定義に外部処理を使用するユーザー定義関数が入っている。
- 制約定義に scratchpad オプションを使用するユーザー定義関数が入っている。
- 検査制約が列定義の一部で、その検査条件に、定義されている列以外の列名に対する参照が入っている。
- 制約定義に参照解除操作または Deref 関数が入っており、その範囲参照引き数がオブジェクト ID (OID) 列以外になっている。
- 制約定義で TYPE 述部が使用されている。
- 制約定義に SCOPE 文節を指定した CAST が指定されている。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: エラーの原因に応じて、以下のいずれかを行ってください。

- リストされた項目を入れないように、検査制約を変更してください。
- 表レベルの制約定義になるように、検査制約定義を列定義の外側に移動してください。

sqlcode: -546

sqlstate: 42621

SQL0548N "**<check-condition-element>**" とともに定義されている検査制約が無効です。

説明: CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントの検査制約が、以下の 1 つ以上の理由で無効です。

- 制約定義に副照会が入っている。
- 制約定義に列関数が入っている。
- 制約定義にホスト変数が入っている。
- 制約定義にパラメーター・マーカが入っている。
- 制約定義に特殊レジスターが入っている。
- 制約定義に、deterministic 関数ではない関数が入っている。
- 制約定義に外部処理を使用するユーザー定義関数が入っている。
- 制約定義に scratchpad オプションを使用するユーザー定義関数が入っている。
- 定義に、READS SQL DATA オプションを使用するユーザー定義関数が入っている。
- 定義に、式に基づく生成された列への参照が入っている。
- 検査制約が列定義の一部で、その検査条件に、定義されている列以外の列名に対する参照が入っている。
- 生成された列の定義に、それ自身への参照が入っている。
- 制約定義に参照解除操作または Deref 関数が入っており、その範囲参照引き数がオブジェクト ID (OID) 列以外になっている。

- ・制約定義で TYPE 述部が使用されている。
- ・制約定義に SCOPE 文節を指定した CAST が指定されている。

エラー・メッセージのテキスト内のトークンが、無効な項目をリストしています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: エラーの原因に応じて、以下のいずれかを行ってください。

- ・リストされた項目を入れないように、検査制約または生成された列を変更してください。
- ・表レベルの制約定義になるように、検査制約定義を列定義の外側に移動してください。

sqlcode: -548

sqlstate: 42621.

SQL0549N “<object-type2>” のバインド・オプション **DYNAMICRULES(BIND)** が効力を持っているため、“<statement>” ステートメントが “<object-type1 >” “<object-name1>” に対して許可されません。

説明: プログラムが、オプション **DYNAMICRULES(BIND)** が効力を持つパッケージまたはプランから発行することのできないいくつかの SQL ステートメントの 1 つである、示された SQL ステートメントを発行しようとした。この SQL ステートメントは以下の通りです。

- ・動的 GRANT ステートメント
- ・動的 REVOKE ステートメント
- ・動的 ALTER ステートメント
- ・動的 CREATE ステートメント
- ・動的 DROP ステートメント
- ・静的または動的 SET CURRENT SCHEMA ステートメント

“<statement>”

エラーになっている SQL ステートメント

“<object-type1>”

PACKAGE または DBRM。DBRM は DRDA 接続でのみ有効です。

“<object-name1>”

“<object-type1>” が PACKAGE である場合は、“<object-name1>” は形式 'location-id.collection-id.package-id' のパッケージの名前です。“<object-type1>” が DBRM である場合は、“<object-name1>” は形式 'plan-name DBRM-name' の DBRM の名前です。

“<object-type2>”

PACKAGE または PLAN。PLAN は DRDA 接続でのみ有効です。

“<object-type1>” が PACKAGE である場合は、“<object-type2>” は PACKAGE または PLAN になります (DYNAMICRULES(BIND) でバインドされる場合)。“<object-type1>” が DBRM である場合は、“<object-type2>” は PLAN になります。

SQL ステートメントは実行できません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを行って、エラーを訂正してください。

- ・SQL ステートメントが組み込まれている場合は、それを除去し、アプリケーション・プログラムをもう一度プリコンパイルおよびコンパイルして、BIND コマンドを **DYNAMICRULES(BIND)** オプション付きで再発行してください。
- ・該当する場合は、**DYNAMICRULES(RUN)** でバインドされるパッケージまたはプランを持つ SQL ステートメントを使用してください。
- ・SQL ステートメントがバインドされるプランまたはパッケージに対して、**REBIND** コマンドを **DYNAMICRULES(RUN)** オプション付きで発行してください。

sqlcode: -549

sqlstate: 42509

SQL0551N “<authorization-ID>” は、オブジェクト “<name>” で処理 “<operation>” を実行する特権を持っていません。

説明: 許可 ID “<authorization-ID>” が、適切な許可を持たずに、“<name>” 上で示された “<operation>” を実行しようとした。

参照制約を持つ表の作成または変更を行っている場合は、ユーザーが FOREIGN KEY の作成またはドロップを行うための REFERENCES 特権を持っていないことがこのメッセージ (SQLCODE) で分かります。この場合は、“<operation>” が “REFERENCES” で、“<name>” が、制約が参照する対象です。

DB2 ユーティリティーまたは CLI アプリケーションの実行を試行する場合、データベースを作成したユーザー ID が存在しない、あるいは、要求された特権がないため、DB2 ユーティリティー・プログラムはそのデータベースに再バインドされる必要があります。

連合システム・ユーザー: ユーザーが SYSCAT.USEROPTIONS 視点の remote_pw 列を変更しているときにこのメッセージが返された場合は、そのユーザーは他のユーザーのパスワードの変更を許可されていません。更新処理を行うユーザーは、更新された行の authid 列の値と一致する SYSADM 権限または権限 ID (USER 特殊レジスター内の値) を持つ必要があります。データ・ソースは “<authid>”、<operation>、そして <name> に対して該当する値を提供しないこともあります。この場合、メッセージ・トークンは “<data source> AUTHID:UNKNOWN”、“UNKNOWN”、および “<data source>:TABLE/VIEW” の形式になります。これは、指定されたデータ・ソースの authid、operation、および name の実際の値が不明であることを示します。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: “<authorization-ID>” に操作を実行するのに必要な権限があるか確認してください。

連合システム・ユーザー: この許可は、連合サーバー、データ・ソース、またはその両方にある可能性があります。

DB2 ユーティリティー・プログラムがデータベースに再バインドされる必要がある場合、データベース管理者は、データベースに接続されている間に bnd サブディレクトリーから次の CLP コマンドを 1 つ発行し、このデータベースを完成することができます。

- DB2 の場合は “DB2 bind @db2ubind.lst blocking all grant public”
- CLI の場合は “DB2 bind @db2cli.lst blocking all grant public”

sqlcode: -551

sqlstate: 42501

SQL0552N “<authorization-ID>” は、操作 “<operation>” を実行する特権を持っていません。

説明: 許可 ID “<authorization-ID>” が、適切な許可を持たずに、示された “<operation>” を実行しようとした。

連合システム・ユーザー: 一部のデータ・ソースは、“<authorization-ID>” および <operation> に適切な値を提供しません。この場合、メッセージ・トークンは “<data source>

AUTHID:UNKNOWN”、および “UNKNOWN” の形式になります。これは、指定されたデータ・ソースの許可 ID および操作の実際の値が不明であることを示します。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: “<authorization-ID>” が、処理を実行する許可を持っていることを確認してください。

連合システム・ユーザー: この許可は、連合サーバー、データ・ソース、またはその両方にある可能性があります。

sqlcode: -552

sqlstate: 42502

SQL0553N スキーマ名 “<schema-name>” を持つオブジェクトは、作成できません。

説明: スキーマ名 “<schema-name>” が無効な理由は、そのスキーマ名が、作成されるオブジェクトのタイプに依存しているためです。

- DB2 Version 2 以前のリリースに存在したオブジェクトのタイプ (表、視点、索引、パッケージ) は、スキーマ名 SYSCAT、SYSFUN、SYSSTAT または SYSIBM を使用して作成できます。SYS で始まる追加スキーマは将来的に DB2 で排他使用して予約される可能性があるため、スキーマ名を SYS で始めないように、お勧めします。
- DB2 Version 2 で始まるオブジェクトのタイプ (ユーザー定義関数、異なるタイプ、トリガー、スキーマ、および別名) は、文字 SYS で始まるスキーマ名では作成できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 有効なスキーマ名を使用するか、または明示スキーマ名を取り除いて、ステートメントを再実行してください。

sqlcode: -553

sqlstate: 42939

SQL0554N 許可 ID はそれ自体に特権を授与できません。

説明: 許可 ID が、特権が与えられる許可 ID リスト内の項目の 1 つであるにもかかわらず、GRANT ステートメントを実行しようとした。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: リストから許可 ID を除去してください。

sqlcode: -554

sqlstate: 42502

SQL0555N 許可 ID はそれ自体の特権は取り消せません。

説明: 許可 ID が、特権が取り消される許可 ID リスト内の項目であるにもかかわらず、REVOKE ステートメントを実行しようとした。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: リストから許可 ID を除去してください。

sqlcode: -555

sqlstate: 42502

SQL0556N “<authorization-ID>” はこの特権を持っていないので、“<authorization-ID>” の特権を取り消す試みは拒否されました。

説明: “<authorization-ID>” が特権を所有していないので、特権を取り消すことができません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: REVOKE 規則に一致するように REVOKE ステートメントを変更して、ステートメントの再実行依頼を行ってください。

REVOKE ステートメントが、取り消される特権と、各許可 ID が指定された特権の少なくとも 1 つを所有している許可 ID のリストを、リストしていることを確認してください。

sqlcode: -556

sqlstate: 42504

SQL0557N 指定された特権の組み合わせは、与えることも取り消すこともできません。

説明: 以下のいずれかが起きました。

- GRANT または REVOKE ステートメントに、異なったクラスの特権の組み合わせが入っています。特権はすべて 1 つのクラスでなければなりません。例は DATABASE、PLAN、または TABLE です。
- GRANT ステートメントが、許可されていない特権を視点に与えようとしていました。ALTER、INDEX、REFERENCES は視点に授与できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメントの訂正と再実行依頼を行ってください。

sqlcode: -557

sqlstate: 42852

SQL0558N “<authorization-ID>” が “<control>” 権限を保持しているため、“<authorization-ID>” の特権を取り消す試みは拒否されました。

説明: “<authorization-ID>” が “<control>” 特権を保持しています。取り消される特権は “<control>” 特権では暗黙的であるため、“<control>” 特権も取り消されない限りこの特権を取り消せません。

“<control>” の有効な値は次のとおりです。

- DBADM
- CONTROL

ステートメントは処理されません。取り消される特権はありません。

ユーザーの処置: 必要に応じて、“<control>” 特権を取り消してください。

sqlcode: -558

sqlstate: 42504

SQL0562N 指定されたデータベース特権は、**PUBLIC (共用)** には与えられません。

説明: GRANT ステートメントが、データベース特権を予約済み許可 ID PUBLIC (共用) に与えようとしていました。DBADM 権限は PUBLIC (共用) に授与することができません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 暗黙機能はサポートされていません。

sqlcode: -562

sqlstate: 42508

SQL0567N “<authorization-ID>” は無効な許可 ID です。

説明: “<authorization-ID>” で示されている許可 ID は、以下のいずれかの理由で無効です。

- “SYS”、“sys”、“IBM”、“ibm”、“SQL”、または “sql” で始まっています。
- a から z、A から Z、0 から 9、および 3 つの特殊文字 (#、@、\$) 以外の文字が入っています。
- 区切られており、小文字が入っています。
- GUESTS、ADMINS、USERS、または LOCAL です。
- GRANT または REVOKE ステートメントのキーワード USER または GROUP が先行する PUBLIC です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 無効な許可 ID を訂正してください。

sqlcode: -567

sqlstate: 42602

SQL0569N おそらく "**<authorization-name>**" がユーザーとグループの両方をシステムに識別したので、**GRANT/REVOKE** ステートメントは失敗しました。

説明: GRANT または REVOKE ステートメントが、ユーザーとグループの両方を、セキュリティ一名のスペースで識別する可能性のある許可名に指定され、ステートメントに USER または GROUP キーワードを明示的に指定していません。したがって、ステートメントは未確定になります。DCE セキュリティーを使用する場合、USER または GROUP キーワードは常に必須であることを注意してください。

ユーザーの処置: 必要な権限 ID を固有に識別する USER または GROUP キーワードを明示的に指定するように、ステートメントを変更してください。

sqlcode: -569

sqlstate: 56092

SQL0570W タイプ "**<object-type>**" のオブジェクト "**<object-name>**" の要求した特権がすべて授与されたわけではありません。

説明: GRANT 操作がタイプ "**<object-type>**" のオブジェクト "**<object-name>**" で試行されましたが、授与されない特権があります。ステートメントを発行した許可 ID には、授与オプションで認められるすべての特権が備わっていないか、あるいは DBADM 権限がありません。

有効な要求された特権はすべて授与されました。

ユーザーの処置: 要求権限を入手し、操作を再試行してください。

sqlcode: +570

sqlstate: 01007

SQL0572N パッケージ "**<pkgname>**" は操作不能です。

説明: パッケージ "**<pkgname>**" が操作不能とマークされているので、使用する前に、明示的に再バインドする必要があります。このパッケージが依存している 1 つ以上のユーザー定義関数がドロップされているので、このパッケージは使用できません。

ユーザーの処置: REBIND または BIND コマンドを使用して、示されたパッケージを明示的に再バインドしてください。

sqlcode: -572

sqlstate: 51028

SQL0573N 制約 "**<name>**" の参照文節に指定された列リストが、親表 "**<table-name>**" の固有制約を識別しません。

説明: "**<name>**" によって識別された制約の参照文節で指定された列名のリストが、参照表 "**<table-name>**" の 1 次キーまたは固有キーの列名と一致しません。

指定された場合、"**<name>**" は制約名です。制約名を指定しなかった場合、"**<name>**" は FOREIGN KEY 文節の列リストで指定された、3 つのピリオドが後に続く最初の列名になります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 参照文節の列リストを訂正するか、または固有制約を参照される表に追加してください。

sqlcode: -573

sqlstate: 42890

SQL0574N DEFAULT 値または IDENTITY 属性値は、表 “<table-name>” の列 “<column-name>” で有効ではありません。理由コード: “<reason-code>”

説明: 表 “<table-name>” の列 “<column-name>” の DEFAULT 値または IDENTITY 属性値は有効ではありません。理由コードは以下の通りです。

- 1 定数とそのデータ・タイプの定数についての形式に従っていないので、つまり値の長さ、または精度が正しくないか、または関数が間違っただデータ・タイプを戻したので、値がカラムに割り当て可能ではありません。
- 2 浮動小数点定数が指定され、列が浮動小数点データ・タイプになっていません。
- 3 10 進定数が指定され、非ゼロ桁が列への割り当て時に切り捨てられます。
- 4 値は、16 進数定数の X、完全に修飾された関数名、および括弧のような接頭部文字や、ストリングについての引用符を組み込んで 255 バイト以上です。値の有効でない空白は無視されます。等しくないコード・ページ環境では、データベース・コード・ページのストリングの拡張の結果、値は 255 バイト以上になります。
- 5 USER 特殊レジスターが指定され、文字ストリング・データ・タイプの長さ属性は、8 よりも小さくなります。
- 6 日付時刻特殊レジスター (CURRENT DATE、CURRENT TIME、または CURRENT TIMESTAMP) が指定され、カラムのデータ・タイプと一致しません。
- 7 サポートされていない関数が指定されました。指定される関数は、システム生成キャスト関数、または組み込み関数

BLOB、DATE、TIME、または TIMESTAMP の 1 つでなければなりません。

- 8 日付時刻関数への引き数が、文字ストリング定数または対応する日付時刻特殊レジスターではありませんでした。
- 9 システム生成キャスト関数が指定され、カラムがユーザー定義の異なるタイプとして定義されていませんでした。
- 10 非ゼロの位取りによる値が、識別列の START WITH または INCREMENT BY オプションに指定されました。
- <0 ゼロより小さい理由コードは SQLCODE です。DEFAULT 値指定のエラーは、この SQLCODE に対応するエラー・メッセージの検査によって判断することができます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 返された理由コードに基づいて、DEFAULT 値または IDENTITY 属性値を訂正してください。

sqlcode: -574

sqlstate: 42894

SQL0575N 作動不能のマークが付いているため、視点あるいは要約表 “<name>” は使用できません。

説明: 視点あるいは要約表 “<name>” が従属している表、視点、別名、あるいは特権が取り除かれたため、その視点あるいは要約表が作動不能になりました。視点は、以下のいずれでもない SQL ステートメントでは使用できません。

- COMMENT ON
- DROP VIEW または DROP TABLE
- CREATE ALIAS
- CREATE VIEW または CREATE TABLE

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: “<name>” が視点の場合、作動不能の視点と同じ視点定義を使用する CREATE VIEW ステートメントを発行して、視点を再作成してください。“<name>” が要約表である場合、作動不能の表と同じ要約表定義を使用する CREATE TABLE ステートメントを発行して、要約表を再作成してください。

sqlcode: -575

sqlstate: 51024

SQL0576N 反復別名チェーンとなるため、“<name2>” の別名 “<name>” は作成できません。

説明: “<name2>” 上の “<name>” の別名定義は、解決されることのない反復別名チェーンになります。たとえば、“別名 A が、別名 A を参照する別名 B を参照する” ことは、解決されることのない反復別名チェーンです。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: “<name>” の別名定義を変更するか、または別名チェーンの他のいずれかの別名定義を改訂して、反復チェーンを回避してください。

sqlcode: -576

sqlstate: 42916

SQL0577N ユーザー定義ルーチン “<routine-name>” (特定名 “<specific-name>”) がデータを変更しようとしたが、MODIFIES SQL DATA として定義されていませんでした。

説明: ルーチンの本体の実施に使用されたプログラムが、SQL データを変更することはできません。

ユーザーの処置: ルーチン定義に指定されている使用可能な SQL のレベルを調べてください。MODIFIES SQL DATA を使ってルーチン定義を

再作成するか、または問題の UPDATE ステートメント、DELETE ステートメント、INSERT ステートメント、あるいは MODIFIES SQL DATA と定義されているルーチン参照を、ルーチン本体から削除することができます。

sqlcode: -577

sqlstate: 38002

sqlstate: 42985

SQL0579N ユーザー定義ルーチン “<routine-name>” (特定名 “<routine-name>”) がデータを読み取ろうとしたが、READS SQL DATA または MODIFIES SQL DATA として定義されていませんでした。

説明: ユーザー定義ルーチンの本体の実施に使用されたプログラムは、SQL データを読み取ることはできません。

ユーザーの処置: ルーチン定義に指定されている使用可能な SQL のレベルを調べてください。READS SQL DATA を使ってルーチン定義を再作成するか、または問題の UPDATE ステートメント、DELETE ステートメント、INSERT ステートメント、あるいは MODIFIES SQL DATA または READS SQL DATA と定義されているルーチン参照を、ルーチン本体から削除することができます。

sqlcode: -579

sqlstate: 38004

sqlstate: 42985

SQL0580N CASE 式の結果式を、すべて NULL にすることはできません。

説明: すべての結果式 (THEN および ELSE キーワードに続く式) がキーワード NULL で指定された CASE 式が、ステートメントに存在します。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: キーワード NULL 以外の結果式が少なくとも 1 つ入るように、CASE 式を変更してください。

sqlcode: -580

sqlstate: 42625

SQL0581N CASE 式の結果式のデータ・タイプが、互換ではありません。

説明: 互換でない結果式 (THEN および ELSE キーワードに続く式) を持つ CASE 式が、ステートメントに存在します。

CASE 式のデータ・タイプは、結果式の "結果データ・タイプの規則" を使用して決定されます。結果式のデータ・タイプは、以下のいずれかの理由で、互換でなくなる可能性があります。

- すべてが文字データ・タイプではありません。
- すべてが数値データ・タイプではありません。
- すべてがデータ・データ・タイプではありません。
- すべてが時刻データ・タイプではありません。
- すべてがタイム・スタンプ・データ・タイプではありません。
- すべてが同じユーザー定義の異なるデータ・タイプではありません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 互換性を持つように、結果式を修正してください。

sqlcode: -581

sqlstate: 42804

SQL0582N VALUES 文節、IN 述部、GROUP BY 文節または ORDER BY 文節の CASE 式には、比較述部、全選択を用いた IN 述部、または EXISTS 述部を組み込むことができません。

説明: CASE 式の検索条件は次の通りです。

- 比較述部 (SOME、ANY、または ALL を使用)
- 全選択を使用する IN 述部
- EXISTS 述部

さらに、CASE 述部は以下の一部です。

- VALUES 文節
- IN 述部
- GROUP BY 文節または
- ORDER BY 文節

上記の CASE 式はサポートされていません。

CASE 式は SQL で書き込まれた関数の一部である可能性があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 比較述部、IN 述部、または EXISTS 述部の使用を、CASE 式から取り除いてください。CASE 式が関数の一部である場合、照会エラーの原因となる関数を除いて書き込む必要があります。

sqlcode: -582

sqlstate: 42625

SQL0583N deterministic 関数ではないか、または外部アクションを含んでいるため、ルーチン "<routine-name>" の使用は無効です。

説明: ルーチン (関数またはメソッド)

"<routine-name>" が、deterministic ではないルーチン、または外部アクションを持つルーチンとして定義されています。このタイプのルーチンは、使用されているコンテキストではサポートされて

いません。無効になるコンテキストは、以下の通りです。

- BETWEEN 述部の最初のオペランド。
- 単純-case-式の最初の WHEN キーワードの前の式の中。
- GROUP BY 文節の式の中。
- ORDER BY 文節 (外部処理のみ) の式の中。
- ユーザー定義の述部指定、または索引拡張子定義の FILTER 文節の中。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: deterministic ではない、または外部アクション・ルーチンが使用されるよう意図されている場合、これらの特性のないルーチンに置き換えてください。deterministic ではない、または外部アクション・ルーチンに関連する動作が意図したものである場合は、その意図を明示するステートメントの代替形式を使用してください。

- BETWEEN 述部の代わりに、比較述部の等価組み合わせ (a between b and c の代わりに、 $a \geq b$ and $a \leq c$) を使用する対応するステートメントを使用してください。
- 単純-when-文節の代わりに、ルーチンが探索条件ごとに指定される探索-when-文節を使用してください。
- deterministic ではない、または外部アクション・ルーチンを GROUP BY 文節から除去してください。deterministic ではない、または外部アクション・ルーチンに基づいた結果の列をグループ化させる場合は、ネストした表の式または共通の表の式を使用し、結果の列としての式で結果の表をまず提供してください。
- ORDER BY 文節から外部アクション・ルーチンを除去してください。照会の一部に列である場合、ORDER BY 文節の式を単一整数または単一系列名形式のソート・キーに変更してください。
- deterministic ではない、または外部アクション・ルーチンを FILTER 文節から除去してください。

sqlcode: -583

sqlstate: 42845

SQL0584N NULL または DEFAULT の使用は無効です。

説明: DEFAULT は、INSERT ステートメントの一部である VALUES 文節内でのみ使用可能です。

INSERT ステートメントの一部でない VALUES 文節は、各列の少なくとも 1 行に NULL 以外の値を持っている必要があります。

DEFAULT を WHERE または HAVING 文節の列名として使用する場合には、これを大文字にして、二重引用符で囲まなければなりません。

連合システム・ユーザー: DEFAULT は、オブジェクトがニックネームである INSERT ステートメントの VALUES 文節では使用されません。

ユーザーの処置: VALUES 文節の値を、NULL または DEFAULT 以外に置き換えてください。DEFAULT を列名として使用する場合には、これを大文字にして、二重引用符で囲まなければなりません。

sqlcode: -584

sqlstate: 42608

SQL0585N スキーマ名 “<schema-name>” は関数パスに複数回表示できません。

説明: この関数パスには、“<schema-name>” が複数個組み込まれています。関数パスには、各スキーマ名の 1 つのオカレンスしか組み込むことができません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 関数パスから、“<schema-name>” の重複オカレンスを除去してください。

sqlcode: -585

sqlstate: 42732

SQL0586N CURRENT FUNCTION PATH 特殊レジスターの合計長は、254 文字を超えることはできません。

説明: CURRENT FUNCTION PATH 特殊レジスターは、VARCHAR(254) として定義されています。ストリングの内容に、二重引用符で区切られ、コンマで次のスキーマ名から分離されている各スキーマ名が入っています。CURRENT FUNCTION PATH のすべてのスキーマ名のストリングの合計長は、254 文字を超えることができません。このメッセージの原因となる SET CURRENT FUNCTION PATH ステートメント、あるいは PREP または BIND コマンドの FUNCPATH オプションが、この制限を超えました。

ステートメントまたはコマンドが処理されません。

ユーザーの処置: スキーマ名を取り除いて、合計長を最大長の 254 文字に合うように減らしてください。すべてのスキーマ名が必要な場合は、CURRENT FUNCTION PATH に必要なスキーマ名が少なくなるように、いくつかのユーザー定義関数の統合が必要になる可能性があります。

sqlcode: -586

sqlstate: 42907

SQL0590N コンテキスト “<context-tag>” で指定された名前 “<name>” が固有ではありません。

説明: 名前 “<name>” がパラメーター、SQL 変数、カーソル、ラベル、または条件として、“<context-tag>” によって定義されたコンテキストに指定されています。この名前は特定名ではありません。

“<context-tag>” が “BEGIN...END” の場合、エラーのコンテキストは動的 SQL 複合ステートメントです。そうでない場合、エラーのコンテキストはトリガーまたはルーチンであり、“<context-tag>” は複合ステートメントの入ったト

リガー名またはルーチン名です。

- “<name>” がパラメーター名の場合、これはパラメーター・リストとルーチンの EXPRESSION AS 文節内で固有でなければなりません。
- “<name>” が SQL 変数名、カーソル名、または条件の場合、これは複合ステートメント内で固有でなければなりません。
- ラベルは複合ステートメント内で固有でなければならず、ネストされたステートメントのラベルとは異なっていなければなりません。

ユーザーの処置: 特定名になるように変更してください。

sqlcode: -590

sqlstate: 42734

SQL0595W 分離レベル “<requested-level>” が、“<escalated-level>” に自動調整されました。

説明: 示された分離レベルは、DB2 ではサポートされていません。DB2 がサポートしている分離レベルの次に高いレベルになりました。

ユーザーの処置: この警告を防ぐには、DB2 がサポートしている分離レベルを指定してください。DB2 は、繰り返し可能読み取り (RR)、読み取り固定 (RS)、カーソル固定 (CS)、アンコミット読み取り (UR) の分離レベルをサポートしています。

sqlcode: +595

sqlstate: 01526

SQL0598W 既存索引 “<name>” が 1 次キーまたは固有キーの索引として使用されます。

説明: 1 次キーまたは固有キーを定義する ALTER TABLE 操作には索引が必要で、示された索引が必要な索引と一致しています。

1 次キーまたは固有キーを作成中に、同じ列のセ

ット (順序は問わない) を 1 次キーまたは固有キーとして、昇順または降順に関係なく識別し、固有なものとして識別される場合、索引記述に一致します。

ステートメントは正常に処理されます。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

sqlcode: +598

sqlstate: 01550

SQL0599W 長ストリング・データ・タイプにもとづいた異なるタイプに対しては、比較関数が作成されません。

説明: 長ストリング・データ・タイプ (BLOB、CLOB、DBCLOB、LONG VARCHAR、

SQL0600 - SQL0699

SQL0600N 重複シグニチャーのため、あるいは既存のルーチンを上書きするため、ルーチン “<routine-name>” を生成できませんでした。

説明: 同じ名前を持つ他の関数およびシグニチャーがスキーマにすでに存在するため、あるいはメソッドまたは関数が既存のメソッドを上書きするため、CREATE または ALTER 操作中は、システム生成キャスト関数、observer メソッド、mutator メソッド、または constructor 関数を作成できませんでした。

ユーザーの処置: 競合を起こしているユーザー定義タイプ、属性、キャスト関数に他の名前を選択するか、または生成できなかった関数またはメソッドと同じ名前を持つ関数またはメソッドをドロップしてください。

sqlcode: -600

sqlstate: 42710

または LONG VARGRAPHIC) にもとづいた異なるタイプに対しては、対応する関数がこれらの組み込みデータ・タイプに対して使用できないために、比較関数が作成されません。

これは警告状況です。ステートメントは正常に処理されます。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

sqlcode: +599

sqlstate: 01596

SQL0601N 作成されるオブジェクト名が、タイプ “<type>” の既存の名前 “<name>” と同じです。

説明: CREATE または ALTER ステートメントが、タイプ “<type>” のオブジェクトが、その名前でアプリケーション・サーバー、または同じステートメントにすでに存在しているときに、オブジェクト “<name>” の作成または追加を行おうとしました。

“<type>” が FOREIGN KEY、PRIMARY KEY、UNIQUE、または CHECK CONSTRAINT の場合、“<name>” は、CREATE または ALTER TABLE ステートメントに指定されている制約名か、あるいはシステムによって生成されます。

連合システム・ユーザー: 一部のデータ・ソースは、“<name>” および “<type>” に適切な値を提供しません。この場合、“<name>” および “<type>” は “OBJECT:<data source> TABLE/VIEW”、および “UNKNOWN” 形式になります。これは、指定されたデータ・ソースの実際の値が不明であることを示します。

ステートメントは処理できません。新しいオブジ

エクトは作成されず、既存のオブジェクトは更新も更新もされません。

ユーザーの処置: 既存のオブジェクトをドロップするか、または新しいオブジェクトに別の名前を選択してください。

連合システム・ユーザー: ステートメントが CREATE FUNCTION MAPPING または CREATE TYPE MAPPING ステートメントの場合、ユーザーはタイプ・マッピング名を提供する必要はなく、システムが自動的にこのマッピングのための固有名を生成します。

sqlcode: -601

sqlstate: 42710

SQL0602N CREATE INDEX または CREATE INDEX EXTENSION ステートメントに指定された列が多すぎます。(最大は 16)

説明: CREATE INDEX ステートメントによって生成される列の数が、データベース・マネージャの最大値の 16 を超えています。索引がタイプ付き表に定義された場合は、指定された列の最大数を 15 に減らすための追加オーバーヘッドがあります。

CREATE INDEX EXTENSION ステートメントの場合、GENERATE KEY 関数は、索引内で許可されている最大 16 列を超えた列数を返します。

連合システム・ユーザー: 他のデータ・ソースの限界が異なります。制限を超えている可能性があります。この問題は連合サーバーで検出されるか、またはデータ・ソースで検出される可能性があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 列数の限界の 16 に適合するように、索引定義を変更してください。CREATE INDEX EXTENSION ステートメントの場合、異なる GENERATE KEY 関数を指定するか、または少ない列を返すよう関数を再定義してください。

連合システム・ユーザー: 列数の限界のデータ・ソースに適合するように、索引定義を変更してください。

sqlcode: -602

sqlstate: 54008

SQL0603N 表に、識別された列の値に対して重複する行が含まれているために、固有索引は作成できません。

説明: CREATE INDEX ステートメントに定義されている索引は、指定された表が、識別された列の値を重複する行をすでに含んでいるために、固有な索引として作成されませんでした。

連合システム・ユーザー: この状態はデータ・ソースによっても検出できます。

ステートメントは処理できません。指定された索引は作成されません。

ユーザーの処置: データを調査して、重複データが有効であるかどうかを判断してください。または、非 UNIQUE 索引を作成することを考慮してください。

sqlcode: -603

sqlstate: 23515

SQL0604N 列の長さ、精度、または位取り属性、特殊タイプ、構造化タイプ、構造化タイプの属性、関数、あるいはタイプ・マッピング “<data-item>” が無効です。

説明: CREATE または ALTER ステートメントのデータ・タイプ指定、または CAST 指定にエラーがあります。無効な長さ、精度、または位取り属性が指定されている可能性があるか、あるいはこのコンテキスト内ではデータ・タイプ自体が正しくないか、または許されていない可能性があります。エラーの位置は “<data-item>” によって、以下のように示されます。

- CREATE または ALTER TABLE ステートメントの場合、“<data-item>” はエラーを含んでいる列の名前か、またはエラーを含んでいるデータ・タイプを示します。列データ・タイプが構造化タイプであれば、明示的または暗黙的 INLINE LENGTH 値は少なくとも 292 で、32677 を超えることはできません。
- CREATE FUNCTION ステートメントの場合、“<data-item>” は、ステートメントの問題の領域を識別するトークンです。たとえば、“PARAMETER 2”、“RETURNS”、または“CAST FROM” です。場合によっては、エラーのあるデータ・タイプになる可能性もあります。
- CREATE DISTINCT TYPE ステートメントの場合、“<data-item>” は定義されるタイプの名前か、またはエラーを含んでいるソース・データ・タイプの名前を示します。
- CREATE または ALTER TYPE ステートメントの場合、“<data-item>” はエラーを含んでいる属性のタイプ、またはインライン長の値が誤っている構造化タイプの名前を示します。インライン長を 292 よりも、また構造化タイプの constructor 関数によって返されたサイズよりも小さくすることはできません。
- CAST(式 AS データ・タイプ) の場合、“<data-item>” は“CAST” またはエラーのあるデータ・タイプです。

連合システム・ユーザー: ステートメントが CREATE TYPE MAPPING ステートメントの場合に、ローカル・データ・タイプまたはリモート・データ・タイプのいずれかのタイプ属性が無効なタイプ・マッピングの作成が試行されました。理由として考えられるのは、以下のとおりです。

- ローカルな長さ / 精度が 0 あるいは負の値にセットされている。
- 長さ / 精度属性が、日付 / 時間 / タイム・スタンプ、浮動、または整数のようなデータ・タイプに対して指定されている。

- 位取り属性が、文字、日付 / 時間 / タイム・スタンプ、浮動、または整数のようなデータ・タイプに対して指定されている。
- FOR BIT DATA 文節が、文字以外のタイプに対して指定されている。
- リモート精度が、Informix 日付以外のリモート・データ・タイプに対して 0 にセットされている。
- 無効なフィールド修飾子が Informix 日付タイプに対する入力マッピングで使用されている。
- 終了値が、精度 / 位取りの範囲での開始値より小さくなっている。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 構文を訂正し、再試行してください。

sqlcode: -604

sqlstate: 42611

SQL0605W 必要な記述を持つ索引“<name>”がすでに存在しているため、その索引は作成されませんでした。

説明: CREATE INDEX 処理が新しい索引を作成しようとしたが、示された索引が必要な索引と一致します。

CREATE INDEX の場合、同じ列を同じ昇順または降順の指定で識別する場合には 2 つの索引の記述は一致し、この 2 つの索引は両方が固有な索引として指定されるか、または新しい索引が非固有索引として指定されます。また、同じまたは逆の昇順または降順指定で同じ列を識別する場合は、2 つの索引の記述は一致し、少なくとも 1 つの記述に ALLOW REVERSE SCANS パラメーターが含まれます。

新しい索引は作成されませんでした。

ユーザーの処置: 既存の索引“<name>”が適切な索引である限り、処置は必要ありません。たとえば、既存の索引が反転走査を許可しておらず、必要な索引がそれを許可している場合、既存の索

引 “<name>” は適切な索引ではありません (その逆も同じです)。この場合、索引 “<name>” は必要な索引が作成される前にドロップされなければなりません。

sqlcode: +605

sqlstate: 01550

SQL0606N COMMENT ON または LABEL ON ステートメントが、指定された表または列が “<owner>” によって所有されていないために失敗しました。

説明: 存在しない、またはメッセージ・テキストで示された所有者によって所有されていない表または列で、注釈またはラベルに対する試行が行われました。

SQL ステートメントの処理は終了しました。

ユーザーの処置: ステートメントを訂正してください。もう一度やり直してください。

sqlcode: -606

sqlstate: 42505

SQL0607N “<operation>” は、システム・オブジェクトに定義されていません。

説明: SQL ステートメントに指定されている “<operation>” は、システム・オブジェクトでは実行できません。以下のいずれかが、試みられました。

- システム・カタログ表、組み込み関数、または組み込みデータ・タイプなどのシステム所有オブジェクトの DROP または ALTER。
- システム所有組み込み関数の COMMENT ON。
- システム・カタログ表の INSERT または DELETE。
- システム・カタログ表での UPDATE ディレクトリー。システム・カタログ表のサブセットのいくつかの列は更新可能です。これらのカタロ

グ表での UPDATE 処理の場合は、SYSSTAT スキーマの更新可能な視点を使用する必要があります。更新可能なカタログ視点 (SYSSTAT 視点) の説明については、*SQL 解説書* を参照してください。

- システム表での索引の CREATE または DROP。
- システム表でのトリガーの CREATE。
- FOR UPDATE 文節の入った SELECT ステートメントの FROM 文節での更新不能システム表の識別。更新可能なシステム・カタログのリストについては、*SQL 解説書* を参照してください。
- システム表スペースの DROP または ALTER。
- システム・ノード・グループの DROP または ALTER。
- IBMCATGROUP または IBMTEMPGROUP ノード・グループの REDISTRIBUTE。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 更新可能な SYSSTAT 視点を通して更新可能なシステム・カタログ表の上記の列を除いて、システム・オブジェクトは変更しないでください。詳細については、*SQL 解説書* を参照してください。

sqlcode: -607

sqlstate: 42832

SQL0612N “<name>” は重複名です。

説明: 同じ名前のステートメントが発行され、重複が許可されていない箇所で数回にわたって現れました。これらの名前の現れる場所は、ステートメントのタイプによって異なります。

- CREATE TABLE ステートメントは、2 つの列に定義された同じ列名を持つことができません。
- CREATE VIEW ステートメントまたは共通表式定義は、列名リストに同じ列名を持つことが

できません。列名リストを指定しない場合は、視点の選択リストの列の列名を固有にする必要があります。

- ALTER TABLE ステートメントは、すでに存在する列の名前、または追加する別の列と同じ名前を使用して、列を表に追加することはできません。さらに、列名は、単一 ALTER TABLE ステートメントで、1 つのみの ADD または ALTER COLUMN 文節に参照することができます。
- CREATE INDEX は、索引キーまたは索引の INCLUDE 列の一部として複数回指定されている列名を持つことはできません。
- CREATE TRIGGER は、更新トリガーを活動化する列のリストに複数回指定されている列名を持つことはできません。
- ステートメントの CREATE TABLE OF は REF IS 列および構造化タイプの任意の属性に定義された名前と同じ名前を持つことはできません。
- CREATE TYPE ステートメントは、2 つの属性に定義された同じ名前を持つことができます。属性名はタイプとすべてのスーパータイプにおいて、固有でなければなりません。
- ALTER TYPE ステートメントは、タイプまたはスーパータイプで別の追加属性としてすでに存在している属性の名前を使用して、構造化タイプに属性を追加することはできません。さらに、属性の名前は、構造化タイプが作成した任意の表の REF IS 列と同じでない可能性があります。さらに、属性名は、単一 ALTER TYPE ステートメントで、1 つのみの ADD または DROP ATTRIBUTE 文節に参照することができます。
- CREATE INDEX EXTENSION ステートメントは、2 つのパラメーターに定義された同じ名前を持つことはできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメントのタイプとして適切な特定名を指定してください。

sqlcode: -612

sqlstate: 42711

SQL0613N “<name>” によって識別された 1 次キーまたは固有キーが長すぎるか列が多すぎます。

説明: “<name>” によって識別された PRIMARY KEY 文節または UNIQUE 文節の列の内部長の合計が 1024 を超えているか、列の数が最大の 16 を超えています。また、1 次キーまたは固有キーは、LONG VARCHAR 列を使用して定義できません。タイプ付き表で 1 次キーまたは固有制約が定義された場合は、指定された列の最大数を 15 に減らし、長さを 1020 に制限する追加の索引オーバーヘッドがあります。

指定された場合、“<name>” は 1 次キーまたは固有制約の制約名です。制約名が指定されなかった場合は、“<name>” が 3 つのピリオドが後に続く 1 次キーまたは固有制約文節に指定された最初の列名になります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 1 次キーまたは列の限界である 16 およびキー長の限界に一致するように、1 つ以上のキー列を削除して、1 次キー定義を変更してください。

sqlcode: -613

sqlstate: 54008

SQL0614N 指定された列を結合した長さが長すぎるため、索引または索引拡張子 “<index-name>” は作成されないか、または更新されません。

説明: キー列の内部長の合計が 1024 を超えたため、索引は索引は作成または更新できませんでした。また、LONG VARCHAR、LONG VARGRAPHIC、また LOB 列を使用する索引は作成できません。索引がタイプ付き表で定義された場合は、最大長を 4 バイトまで減らす追加の索引オーバーヘッドがあります。索引は、1 つま

たはそれ以上の列のデータ・タイプを更新する ALTER TABLE ステートメントによって更新可能です。

GENERATE KEY 関数によって返された列の合計が 1024 を超えたため、索引拡張子を作成できませんでした。

ステートメントは処理できません。示されている索引または索引拡張子が作成されなかったか、または表を更新できませんでした。

ユーザーの処置: 索引定義を修正するには、または列を更新するには、1 つまたはそれ以上のキー列を除去して、キーの長さを許容最大長まで減らしてください。索引拡張子定義の場合、異なる GENERATE KEY 関数を指定するか、または返される行の長さが減るよう関数を再定義してください。

sqlcode: -614

sqlstate: 54008

SQL0615N 同じアプリケーション・プロセスで使用されているため、タイプ “<object-type>” のオブジェクト “<object-name>” をドロップできません。

説明: 使用中である場合、オブジェクトの DROP ステートメントを出すことはできません。

ステートメントは処理できません。このオブジェクトはドロップされません。

ユーザーの処置: オブジェクト “<object-name>” に直接的、または間接的に依存するカーソルをクローズし、ステートメントを再実行依頼してください。

sqlcode: -615

sqlstate: 55006

SQL0620N CREATE TABLE ステートメントが、“<user-id>” に専用の、255 より少ない表を持つリカバリー可能な dbspace がないために失敗しました。

説明: dbspace 名が CREATE TABLE ステートメントで指定されていないため、データベース・マネージャーは、“<user-id>” が所有する専用 DB スペースを見つけようとしていました。このメッセージは、次のいずれかの条件のもとで表示されません。

1. DB2 (VM データベース版) で検出された “<user-id>” の専用 DB スペースがありません。
2. 1 つ以上の専用 DB スペースが “<user-id>” で見つかりましたが、それぞれに 255 の表が入っています。
3. 専用 DB スペースが、リカバリー不能ストレージ・プールに配置されました。リカバリー可能ストレージ・プールに存在する専用 DB スペースのみが、CREATE TABLE ステートメントが dbspace 名を指定しなかった場合に使用可能になります。

SQL ステートメントの処理は終了しました。

ユーザーの処置: 以下は、上記の 3 つの条件に対する提案です。

1. リカバリー可能ストレージ・プールで専用 DB スペースを獲得します。データベース管理者の援助が必要になるかもしれません。
2. リカバリー可能ストレージ・プールの専用 DB スペースにある表をドロップして項目を解放するか、または上記の (1) で示された処置を行います。
3. 表をリカバリー不能ストレージ・プールの既存の DB スペースに作成したい場合は、CREATE TABLE コマンドで DB スペース名を指定します。それ以外の場合は、上記の (1) で示された処置を行ってください。

その後、CREATE TABLE ステートメントを再実行します。

該当する場合は、ユーザーの専用 DB スペースを
獲得してください。

sqlcode: -620

sqlstate: 57022

SQL0623N クラスター化索引はすでに
“<name>” 表で存在します。

説明: CREATE INDEX ステートメントは 2 番
目のクラスター化索引を指定の表に作成します。
与えられた表には 1 つのみのクラスター化索引
が有効です。

ステートメントは処理されません。

ユーザーの処置: 既存のクラスター化索引の識別
と妥当性検査を “<name>” 表で検査してくださ
い。索引を CLUSTER 属性なしで作成することを
考慮してください。

sqlcode: -623

sqlstate: 55012

SQL0624N 表 “<name>” はすでに
“<key-type>” キーを持っていま
す。

説明: 1 次キーまたは区分化キーを、示された表
がすでに持っているため ALTER TABLE ステ
ートメントに定義することはできません。

ステートメントは処理されません。

ユーザーの処置: 表は複数の 1 次キーまたは区
分化キーを持つことができません。

sqlcode: -624

sqlstate: 42889

SQL0628N “<clause-type>” を含む、複数の
キーワードまたは矛盾するキーワ
ードが存在します。

説明: ステートメントについて、この状態が診断
されるさまざまな理由が存在します。

“<clause-type>” の値によって示されていることが
起きたことは確かです。考慮すべき可能性は、以
下のとおりです。

- キーワードが、他のキーワードと同じステ
ートメントに指定されていない可能性があります。
- キーワードが、指定されている順序が強制で
はないキーワードの順序の一部である可能性が
あります。このような順序のキーワードは、指
定されていることも否定するキーワードととも
に指定されている可能性があります。
- キーワードが、別の関連値で、複数回出現する
可能性があります。
- キーワードは、別の特定のキーワードが指定さ
れていない同じステートメントでこのキーワ
ードの指定を必要とする可能性があります。

ユーザーの処置: ステートメントが、そのステ
ートメントに定義された構文と規則に一致してい
ることをチェックしてください。重複しているた
めに無効なオカレンスまたは矛盾するキーワ
ードを訂正してください。

sqlcode: -628

sqlstate: 42613

SQL0629N FOREIGN KEY “<name>” は
NULL 値を含むことができないた
め、SET NULL は指定できませ
ん。

説明: 示された FOREIGN KEY 文節の SET
NULL オプションは、キー列が NULL 値を許可
しないので無効です。

FOREIGN KEY 文節で指定すると、“<name>” は
制約名になります。制約名を指定しなかった場
合、“<name>” は FOREIGN KEY 文節の列リス

トで指定された、3 つのピリオドが後に続く最初の列名になります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: キー列を変更して NULL 値を許可するか、または削除規則を変更してください。

sqlcode: -629

sqlstate: 42834

SQL0631N FOREIGN KEY “<name>” が長すぎるか、または列の数が多すぎます。

説明: CREATE TABLE ステートメントの FOREIGN KEY 文節で識別された列の内部長の合計が 1024 を超えているか、または識別された列の数が 16 を超えています。また、外部キーは、LONG VARCHAR 列では定義できません。

FOREIGN KEY 文節で指定すると、“<name>” は制約名になります。制約名を指定しなかった場合、“<name>” は FOREIGN KEY 文節の列リストで指定された、3 つのピリオドが後に続く最初の列名になります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 外部キー定義を修正するには、1 つ以上のキー列を削除することによって、列の限界である 16 およびキーの長さの制限に合うようにしてください。

sqlcode: -631

sqlstate: 54008

SQL0632N 削除規則制限により、表 “<table-name>” の従属表として、表が定義できないため、FOREIGN KEY “<name>” は無効です。(理由コード = “<reason-code>”)

説明: 以下のいずれかの理由コードのため、CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントの対象表が、表 “<table-name>” の従属

表として定義することができないので、参照制約は定義できません。

- (01) 関係が自己参照であり、SET NULL 削除規則を持つ自己参照関係はすでに存在しています。
- (02) 関係が、削除される表を自らに接続させる複数の表のサイクルを形成しています (サイクルの他のすべての削除規則は CASCADE になります)。
- (03) 関係が、複数の関係を通して、表を示された表に削除接続しており、既存の関係の削除規則が SET NULL です。

エラーの原因は、CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメント内の FOREIGN KEY 文節に指定されている削除規則ではなく、既存の関係の削除規則にあります。

FOREIGN KEY 文節で指定すると、“<name>” は制約名になります。制約名を指定しなかった場合、“<name>” は FOREIGN KEY 文節の列リストで指定された、3 つのピリオドが後に続く最初の列名になります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 可能であれば、CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントから特定の FOREIGN KEY 文節を取り除いてください。

sqlcode: -632

sqlstate: 42915

SQL0633N FOREIGN KEY “<name>” の削除規則は、“<delete-rule>” でなければなりません。(理由コード = “<reason-code>”)

説明: CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントの FOREIGN KEY 文節内に指定された削除規則が無効です。示された削除規則が、以下のいずれかの理由で必要です。

- (01) 参照制約が自己参照で、既存の自己参照制約が示された削除規則 (NO ACTION、RESTRICT または CASCADE) を持っています。
- (02) 参照制約が自己参照で、表が CASCADE 削除規則との関係にある従属表です。
- (03) 関係が、複数の関係を通して表を同一表に削除接続しており、このような関係は、同じ削除規則 (NO ACTION、RESTRICT または CASCADE) を持つ必要があります。

FOREIGN KEY 文節で指定すると、“<name>” は制約名になります。制約名を指定しなかった場合、“<name>” は FOREIGN KEY 文節の列リストで指定された、3 つのピリオドが後に続く最初の列名になります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 可能ならば、削除規則を変更してください。

sqlcode: -633

sqlstate: 42915

SQL0634N FOREIGN KEY “<name>” の削除規則は、CASCADE であってはなりません (理由コード = “<reason-code>”)

説明: CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントの FOREIGN KEY 文節に指定されている CASCADE 削除規則が、以下のいずれかの理由コードのとおり有効ではありません。

- (01) SET NULL、NO ACTION または RESTRICT の削除規則を持つ自己参照制約が存在します。
- (02) 関係が、表をそれ自体に削除結合しているサイクルを構成します。サイクル内の既存の削除規則の 1 つが CASCADE ではないので、削除規則が CASCADE でない場合は、この関係が定義できる可能性があります。

- (03) 関係が、異なる削除規則または SET NULL に等しい削除規則を持つ複数のパスを通して、別の表を同一表に削除結合しています。FOREIGN KEY 文節で指定すると、“<name>” は制約名になります。制約名を指定しなかった場合、“<name>” は FOREIGN KEY 文節の列リストで指定された、3 つのピリオドが後に続く最初の列名になります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 可能ならば、削除規則を変更してください。

sqlcode: -634

sqlstate: 42915

SQL0637N 複数の PRIMARY KEY 文節または複数の DROP PRIMARY KEY 文節が指定されています。

説明: CREATE TABLE ステートメントに、複数の PRIMARY KEY 文節が入っているか、または ALTER TABLE ステートメントに、複数の PRIMARY KEY または DROP PRIMARY KEY 文節が入っています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメントを訂正してください。

sqlcode: -637

sqlstate: 42614

SQL0638N 列定義が指定されていないので、表 “<name>” が作成できません。

説明: CREATE TABLE ステートメントに、列定義が入っていません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 1 つ以上の列定義をステートメントに追加してください。

sqlcode: -638

sqlstate: 42601

SQL0644N ステートメント

"<statement-type>" のキーワード
"<keyword>" に指定された値が無効です。

説明: "<statement-type>" の記述で許可されているとおりのキーワード "<keyword>" の後に無効な値があります。数値の場合は、値が定義された範囲外にある可能性があります。その他のタイプの場合は、値が有効な値の定義セットにありません。

ユーザーの処置: 有効な値を、"<statement-type>" の参照資料から判別して、適切な変更を行ってください。

sqlcode: -644

sqlstate: 42615

SQL0647N バッファース・プール

"<bufferpool-name>" は現在活動状態ではありません。

説明: バッファース・プール "<bufferpool-name>" は現在のデータベース環境では活動状態になっていません。同じページ・サイズの別のバッファース・プールの検出しようとしたのですが、現在のデータベース環境ではこのようなバッファース・プールが活動状態になっていません。バッファース・プール "<bufferpool-name>" は最近定義されましたが、まだ活動状態ではありません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 要求されたバッファース・プールを活動化するには、データベースを停止して、開始しなおしてください。

sqlcode: -647

sqlstate: 57003

SQL0648N 表 "<owner1.table-name1>" が、複数のパスを介した表 "<owner2.table-name2>" への連結を削除されるため、外部キーは定義できません。理由コード = "<reason-code>"。

説明: 以下のいずれかの理由コード = "<reason-code>" のために外部キーを定義できません。

01 この関係によって、表 "<owner1.table-name1>" は、複数のパスを介した表 "<owner2.table-name2>" への連結を SET NULL の同じ削除規則によって削除されます。

02 この関係によって、表 "<owner1.table-name1>" は、複数のパスを介した表 "<owner2.table-name2>" への連結を異なる削除規則によって削除されます。

SQL ステートメントの処理は終了しました。

ユーザーの処置: ステートメントを訂正してください。もう一度やり直してください。

sqlcode: -648

sqlstate: 42915

SQL0658N オブジェクト "<name>" は、明示的に削除できません。

説明: ID "<name>" は以下のいずれかを示しています。

- 特殊タイプでの使用を目的としてシステムによって作成されたため、DROP ステートメントではドロップできないキャスト関数または比較関数
- 構造化タイプでの使用を目的としてシステムによって作成されたため、ALTER TYPE メソッドではドロップできないメソッド

- SQL プロシージャでの使用を目的としてシステムによって作成されたため、DROP ステートメントではドロップできないパッケージ

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置:

- 関数 “<name>” は、関数またはメソッドを定義した特殊タイプまたは構造化タイプを削除することによってのみ削除できます。特殊タイプ名は、関数の名前、あるいは関数に対するパラメーターのタイプのいずれかに対応します。
- メソッド “<name>” は、メソッドを定義した構造化タイプをドロップすることによってのみドロップできます。メソッド名は、構造化タイプの属性名に対応しています。
- パッケージ “<name>” は、パッケージを定義した SQL プロシージャをドロップすることによってのみドロップできます。SQL プロシージャの特定名は、DSHEMA および DNAME を SYSIBM.SYSDEPENDENCIES カタログ表を検索して見つけることができます。(ここで BSCHEMA および BNAME は “<name>” に一致し、BTYPE は 'K' で DTYPE は 'L' です。)

sqlcode: -658

sqlstate: 42917

SQL0659N 表オブジェクトの最大サイズを超えました。

説明: 表を構成する 1 つ以上のオブジェクトが、最大サイズに達しました。表を構成するストレージ・オブジェクトは、以下のとおりです。

- データ: これは、基本列データが格納される場所です。
- 索引: これは、表のすべての索引が格納される場所です。
- 長いデータ: これは、LONG VARCHAR と LONG VARGRAPHIC 列データが格納される場所です。

- Lob/Lob 割り振り: これは、BLOB、CLOB、DBCLOB 列データ、および制御情報が格納される場所です。

ストレージ・オブジェクトは最大サイズまで大きくなると、それ以上は拡張できません。

ユーザーの処置: オブジェクト内の既存のスペースを、新しいデータが格納できるようにするには、以下の処置が必要になる可能性があります。

- 表を再編成してください。
- 表から不必要な行を削除してください。
- 表から索引をドロップしてください。
- データ量を減らすために、行を削除してください (未使用ストレージを再利用するために、この処置の後に再編成が必要になる可能性があります)。

sqlcode: -659

sqlstate: 54032

SQL0667N 親表の親キーで検索できない外部キーの値が入っているので、FOREIGN KEY “<name>” を、作成することはできません。

説明: 更新された表が親表の親キーに一致しない外部キーがある行に少なくとも 1 つ入っているため、指示された外部キーの定義が失敗しました。

指定された場合、“<name>” は制約名です。制約名を指定しなかった場合、“<name>” は FOREIGN KEY 文節の列リストで指定された、3 つのピリオドが後に続く最初の列名になります。

ステートメントは処理できません。指定した表は更新されません。

ユーザーの処置: 誤りのある表の行を取り除いて、外部キーを定義してください。

sqlcode: -667

sqlstate: 23520

SQL0668N 基礎表 (あるいは従属表) が検査保留状態の場合は、処理を行うことができません。

説明: 表が検査保留状態にある場合は、データに定義されている制約に違反する 1 つ以上の行が存在する可能性があります。この表は操作には使用できません。検査保留状態ではない親表での操作は、従属表が検査保留状態である場合にこのエラーを受け取ることもなる可能性があります。

ユーザーの処置: SET INTEGRITY ステートメントを IMMEDIATE CHECKED オプションで実行して、データが、表あるいはこれに従属している表で定義されているすべての制約を満足していることを確認してください。

sqlcode: -668

sqlstate: 57016

SQL0669N システム必須索引をドロップすることはできません。

説明: DROP INDEX ステートメントがドロップする索引は、以下で必要なものです。

- 表で 1 次キー制約を行う
- 表で固有制約を行う
- タイプ付き表階層のオブジェクト ID (OID) 列の固有を行う
- 複製された要約表を保守する

システム必須索引は、DROP INDEX ステートメントを使用してドロップされません。

ステートメントは処理できません。指定された索引はドロップされません。

ユーザーの処置: 1 次または固有制約を保持しない場合は、ALTER TABLE ステートメントの DROP PRIMARY KEY 文節または DROP CONSTRAINT 文節を使用して、1 次キーを除去してください。索引が強制的な 1 次または固有キーのみ作成された場合は、索引はドロップされます。そうでない場合は、DROP INDEX ステ

ートメントが処理されます。

OID 列の索引は、表のドロップによってのみドロップされます。

複製された要約表を保守するために必要な索引は、複製された要約表を先にドロップしていないとドロップされません。

sqlcode: -669

sqlstate: 42917

SQL0670N 表の行の長さが "<length>" バイトの制限を超えています。(表スペースは "<tablespace-name>".)

説明: データベース・マネージャーの表の行の長さは、以下のいずれかの制限の範囲にしてください。

- 4K ページ・サイズでは、4005 バイト
- 8K ページ・サイズでは、8101 バイト
- 16K ページ・サイズの表スペースでは 16293 バイト
- 32K ページ・サイズの表スペースでは 32677 バイト

行の長さは、列の内部的な長さを加算した合計です。内部列の長さの詳細については、SQL 解説書の CREATE TABLE を参照してください。

以下に示す条件の 1 つが生じた可能性があります。

- CREATE TABLE または ALTER TABLE ステートメントに定義されている表の行の長さが、表スペースのページ・サイズ制限を超えています。regular 表スペース名 "<tablespace-name>" は、ページ・サイズが行の長さ制限を決定するために使用される表スペースを示しています。
- DECLARE GLOBAL TEMPORARY TABLE ステートメントに定義されている表の行の長さが、表スペースのページ・サイズ制限を超えています。ユーザー一時表スペース名 "<tablespace-name>" は、ページ・サイズが行

の長さ制限を決定するために使用される 表スペースを示しています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 原因にしたがって、次のいずれかを行ってください。

- CREATE TABLE, ALTER TABLE の場合、あるいは DECLARE GLOBAL TEMPORARY TABLE の場合は、可能であればページ・サイズを大きくして表スペースを指定します。
- ページ・サイズを大きくできない場合、列を除去して行の長さを減らすか、列の長さを短くします。

sqlcode: -670

sqlstate: 54010

SQL0673N 1 次または固有キー索引は、制約“<name>”の識別された 1 次または固有キーの列の値と重複している行が表に含まれているため、作成されません。

説明: “<name>”によって識別される制約の 1 次または固有キー定義が、PRIMARY KEY または UNIQUE 文節の列の複製値を伴う行が、すでに更新されている表に入っているため失敗しました。

指定された場合、“<name>”は制約名です。制約名が指定されなかった場合は、“<name>”が 3 つのピリオドが後に続く 1 次キーまたは固有制約文節に指定された最初の列名になります。

ステートメントは処理できません。指定した表は更新されません。

ユーザーの処置: 1 次または固有キーの定義を試行する前に表から誤った行を除去してください。

sqlcode: -673

sqlstate: 23515

SQL0680N 表、視点、または表関数に指定されている列が多過ぎます。

説明: 表ごとに許可されている列の最大数は、表スペースのページ・サイズと列のデータ・タイプに基づいています。表の制限は以下のとおりです。

- 4K ページ・サイズでは、最大 500 の列が許可されます。
- 8K、16K、および 32K ページ・サイズでは、最大 1012 の列が許可されます。

表の列の実際の番号は、次の公式で決定されます。合計列 * 8 + LOB 列の数 * 12 + データ・リンク列の数 * 28 <= ページ・サイズの最小限度

視点ごとに許可されている列の最大数は 5000 です。

表関数に許可されている列の最大数は 255 です。

連合システム・ユーザー: 他のデータ・ソースは異なった最大列制限を持っている可能性があります。この制限に達しました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 表または視点の列数が制限を超えないようにしてください。ページ・サイズが大きいと列の数表を作成する場合には、ページ・サイズを大きくして表スペースを指定してください。要求されたように、分離する表または視点を作成して、制限を超えた追加情報を保留にしてください。

連合システム・ユーザー: 表列の数を、データ・ソースにサポートされた最大数に制限してください。要求されたように、分離表または視点を作成して、データ・ソースがサポートする最大数を超えた列の追加情報を保留にしてください。

sqlcode: -680

sqlstate: 54011

SQL0683N 列、属性、ユーザー定義・タイプ、または関数 “<data-item>” の指定に、非互換文節が入っています。

説明: CREATE または ALTER のデータ項目の指定にエラーがあります。“INTEGER と FOR BIT DATA” などの非互換の指定が存在します。エラーの位置は “<data-item>” によって、以下のように示されます。

- CREATE または ALTER TABLE ステートメントの場合は、“<data-item>” がエラーのある列の名前を示します。
- CREATE FUNCTION ステートメントの場合、“<data-item>” は、ステートメントの問題の領域を識別するトークンです。たとえば、“PARAMETER 3”、“RETURNS”、または “CAST FROM” です。
- CREATE DISTINCT TYPE ステートメントの場合は、“<data-item>” が定義されているタイプの名前を示します。
- CREATE または ALTER TYPE ステートメントの場合、“<data-item>” はエラーを含んでいる文節を示すか、エラーを含んでいる属性の名前を示します。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 非互換性を取り除いて、もう一度ステートメントをやり直してください。

sqlcode: -683

sqlstate: 42842

SQL0696N トリガー “<trigger-name>” の定義に、無効な相関名または変換表名 “<name>” が使用されています。理由コード = “<reason-code>”。

説明: トリガー定義に、無効な “<name>” が使用されています。“<reason-code>” の値は、以下

のような特定の問題を示します。

- 1 NEW 相関名および NEW_TABLE 名は、DELETE トリガーでは使用できません。
- 2 OLD 相関名および OLD_TABLE 名は、INSERT トリガーでは使用できません。
- 3 OLD_TABLE 名および NEW_TABLE 名は、BEFORE トリガーでは使用できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 先行するキーワードとともに、無効な相関名または変換表名を取り除いてください。

sqlcode: -696

sqlstate: 42898

SQL0697N OLD または NEW 相関名は、FOR EACH STATEMENT 文節で定義されたトリガーでは使用できません。

説明: 定義されたトリガーに、OLD または NEW 相関名 (あるいは、その両方) が指定された REFERENCING 文節、および FOR EACH STATEMENT 文節が入っています。これらは一緒に指定できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: OLD または NEW 相関名を REFERENCING 文節から取り除くか、または FOR EACH STATEMENT を FOR EACH ROW で置き換えてください。

sqlcode: -697

sqlstate: 42899

SQL0700 - SQL0799

SQL0707N 最初の 3 文字がシステム・オブジェクト用に予約されているため、オブジェクト "`<name>`" を作成できません。

説明: 以下が予約名のリストです。

- 表スペース名は、'SYS' で始まることはできません
- ノード・グループ名は、'SYS' または 'IBM' で始まることはできません

ユーザーの処置: 予約接頭部で開始していない名前を選択してください。

sqlcode: -707

sqlstate: 42939

SQL0713N "`<special-register>`" の置換値が無効です。

説明: SET `<special-register>` ステートメントに指定した値が、示された特殊レジスタの有効な値ではないか、または指定した値が、標識変数の結果として NULL になったかのどちらかです。

ステートメントは処理されません。

ユーザーの処置: 置換値と標識変数の両方、またはいずれかを訂正してください。各特殊レジスタの有効な値の説明については、SQL 解説書を参照してください。

sqlcode: -713

sqlstate: 42815

SQL0723N トリガー "`<trigger-name>`" のトリガー SQL ステートメントでエラーが発生しました。 **SQLCODE** "`<sqlcode>`", **SQLSTATE** "`<sqlstate>`"、メッセージ・トークン "`<token-list>`" の入った情報が、エラーについて返されます。

説明: トリガー "`<trigger-name>`" の SQL ステートメントが、トリガーの実行中に失敗しました。

sqlcode、sqlstate、メッセージ・トークン・リスト (各トークンは縦線によって区切られています) が提供されます。メッセージ・トークンは切り捨てられる可能性があります。エラーの詳細な説明として、対応する "`<sqlcode>`" を参照してください。

トリガーと、トリガーを実行させたオリジナル SQL ステートメントは、処理されません。

ユーザーの処置: 失敗した SQL ステートメントの SQLCODE に関連するメッセージを検査してください。そのメッセージに示されている処置にしたがってください。

sqlcode: -723

sqlstate: 09000

SQL0724N トリガー "`<trigger-name>`" の活性化が、カスケードの最大レベルを超えました。

説明: トリガーのトリガー SQL ステートメントが別のトリガーを活性化したとき、または参照制約の削除規則が追加のトリガーを活性化したときに、トリガーのカスケードが起きます。このカスケードの深さは 16 に制限されています。

直接または間接的に同じトリガーを活性化するトリガー SQL ステートメントがトリガーに入っている再帰状態は、カスケードが制限を超えるのを防ぐ条件が存在しない場合、容易にこのエラーを引き起こすカスケードの形式の 1 つです。

指定された "`<trigger-name>`" は、カスケードの 17 番目のレベルで活性化されたトリガーの 1 つです。

ユーザーの処置: このエラーを受け取った UPDATE、INSERT、または DELETE ステートメントによって活性化されるトリガーで始めてください。これらのトリガーのいくつかが再帰的な場合は、トリガーを許容制限以上に活性化しない条件が存在することを確認してください。これが問題の原因でない場合は、活性化されるトリガーのチェーンをたどって、カスケードの制限を超える

チェーンを判別してください。

sqlcode: -724

sqlstate: 54038

SQL0727N 暗黙的にシステム・アクション・タイプ “<action-type>” を実行中にエラーが発生しました。エラーに関して戻された情報には、**SQLCODE** “<sqlcode>”, **SQLSTATE** “<sqlstate>” およびメッセージ・トークン “<token-list>” が含まれています。

説明: ステートメントあるいはコマンドの処理によって、データベース・マネージャーが追加の処理を行う場合があります。この処理中にエラーが発生しました。試行された処置は、“<action-type>” によって表示されます。

- 1 パッケージの暗黙的な再バインド
- 2 キャッシュされた動的 SQL ステートメントの暗黙的な作成
- 3 視点の暗黙的再生成
- 4 この戻りコードは、DB2 による使用のために予約されています。
- 5 SQL ステートメントの増分バインド

sqlcode, sqlstate, メッセージ・トークン・リスト (各トークンは縦線によって区切られています) が提供されます。メッセージ・トークンは切り捨てられる可能性があります。エラーの詳細な説明として、対応する “<sqlcode>” を参照してください。

“<action-type>” を引き起こすオリジナル SQL ステートメントあるいはコマンドは処理されず、暗黙的なシステム処置は成功しませんでした。

連合システム・ユーザー: パススルー・セッションで SQL ステートメントを動的に準備し、セッ

ションがクローズされた後でこのステートメントの実行を試みたために、このメッセージを受け取ったと思われます。

ユーザーの処置: 失敗した SQL ステートメントの SQLCODE に関連するメッセージを検査してください。そのメッセージに示されている処置にしたがってください。

無効なパッケージの場合、REBIND コマンドを使用してこのエラーを再作成またはすでにエラーの原因が解決されているこのパッケージを、明示的に有効にすることができます。

視点を再生成中に発生する障害については、障害を起こす視点の名前が db2diag.log ファイルに記録されます。失敗した視点は、ドロップすることが可能で、視点の再生成を引き起こすステートメントあるいはコマンドの変更をすることも可能です。

連合システム・ユーザー: 障害のあったステートメントがパススルー・セッションで動的に準備されていた場合、別のパススルー・セッションをオープンし、もう一度ステートメントを作成および準備し、セッションがオープンしている間に実行してください。

sqlcode: -727

sqlstate: 56098

SQL0750N 視点、要約表、トリガー、SQL 関数、SQL メソッド、検査制約、または参照制約で参照されているため、ソース表を名前変更できません。

説明: RENAME ステートメントのソース表を次のいずれかの理由のため、名前変更できません。

- 表が既存の視点で参照されている。
- 表が既存の要約表で参照されている。
- 表が既存のトリガーで参照されている。これには、トリガー SQL ステートメントの表または参照上のトリガーを含みます。

- 表が既存の SQL 関数または SQL メソッドで参照されている。
- 表にはチェックが定義されている。
- 表が親または従属表として、参照制約に入っている。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: RENAME ステートメントを発行する前に、表の視点、要約表、トリガー、SQL 関数、SQL メソッド、検査制約、または参照制約をドロップしてください。表に従属する視点あるいは要約表の場合、表が BSHEMA および BNAME 列に一致する SYSCAT.VIEWDEP を照会してください。表に従属するトリガーの場合、表が BSHEMA および BNAME に一致する SYSCAT.TRIGDEP を照会してください。SQL 関数または SQL メソッドの場合、表が BSHEMA および BNAME 列に一致する SYSCAT.FUNCDEP を照会してください。表に従属するチェックの場合、表が TABSCHEMA および TABNAME に一致する SYSCAT.CHECKS を照会してください。表に従属する参照制約の場合、表が TABSCHEMA および TABNAME、または REFTABSCHEMA および REFTABNAME に一致する SYSCAT.REFERENCES を照会してください。

sqlcode: -750

sqlstate: 42986

SQL0751N ユーザー定義関数またはプロシージャ “<function-name>” (特定名 “<specific-name>”) が、許可されていないステートメントを実行しようとしていました。

説明: ユーザー定義関数またはプロシージャの本体の実行に使用されたプログラムが、ステートメントの実行を許可されていません。

ユーザーの処置: ステートメントを除去した後で、プログラムを再コンパイルしてください。

sqlcode: -751

sqlstate: 38003

sqlstate: 42985

SQL0752N CONNECT タイプ 1 接続設定が使用されている場合、論理作業単位内のデータベースへの接続は許可されていません。

説明: COMMIT または ROLLBACK ステートメントを発行する前に、別のデータベースまたは同じデータベースへの接続が試みられました。要求は、CONNECT タイプ 1 環境内では処理できません。

ユーザーの処置:

- 他のデータベースへの接続を要求する前に、COMMIT または ROLLBACK ステートメントの実行依頼を行ってください。
- 作業単位内で複数データベースを更新する必要がある場合は、再プリコンパイル、またはアプリケーション内から SET CLIENT API の発行を行って、接続設定を SYNCPOINT TWOPHASE と CONNECT 2 に変更してください。

sqlcode: -752

sqlstate: 0A001

SQL0773N CASE ステートメントにケースが見つかりません。

説明: ELSE 文節のない CASE ステートメントが、SQL ルーチンのルーチン本体に見つかりました。CASE ステートメントに指定されている条件が一致しません。

ユーザーの処置: 起こりうる条件をすべて扱えるよう、CASE ステートメントを変更してください。

sqlcode: -773

sqlstate: 20000

SQL0776N カーソル “<cursor-name>” の使用は無効です。

説明: カーソル “<cursor-name>” が、SQL プロシージャの FOR ステートメントにカーソル名として指定されています。このカーソルは、FOR ステートメント内の CLOSE、FETCH、または OPEN ステートメントには指定できません。

ユーザーの処置: CLOSE、FETCH、または OPEN ステートメントを除去してください。

sqlcode: -776

sqlstate: 428D4

SQL0777N ネストされた複合ステートメントは許可されていません。

説明: SQL プロシージャのルーチン本体のアトミック複合ステートメントをネストすることはできません。

ユーザーの処置: ネストされたアトミック複合ステートメントが SQL プロシージャに組み込まれていないことを確認してください。

sqlcode: -777

sqlstate: 42919

SQL0778N 終了ラベル “<label>” が開始ラベルと同じではありません。

説明: FOR、IF、LOOP、REPEAT、WHILE または複合ステートメントの末尾に指定されているラベル “<label>” が、ステートメントの先頭にあるラベルと異なっています。開始ラベルが指定されていない場合、終了ラベルを指定することはできません。

ユーザーの処置: FOR、IF、LOOP、REPEAT、WHILE、および複合ステートメントで、終了ラベルが開始ラベルと同じであることを確認してください。

sqlcode: -778

sqlstate: 428D5

SQL0779N GOTO、ITERATE または LEAVE ステートメントに指定されているラベル “<label>” が無効です。

説明: GOTO、ITERATE または LEAVE ステートメントにラベル “<label>” が指定されています。このラベルは定義されていないか、ステートメントの有効なラベルではありません。

ITERATE ステートメントのラベルは、FOR、LOOP、REPEAT、または WHILE ステートメントのラベルである必要があります。

LEAVE ステートメントのラベルは、FOR、LOOP、REPEAT、WHILE、または複合ステートメントのラベルである必要があります。

GOTO のラベルは、GOTO ステートメントの効力範囲である必要があります。

- GOTO ステートメントが FOR ステートメントで定義されている場合、“<label>” は、ネストされた FOR ステートメントまたはネストされた複合ステートメント以外の同一の FOR ステートメントで定義される必要があります。
- GOTO ステートメントが複合ステートメントで定義されている場合、“<label>” は、ネストされた FOR ステートメントまたはネストされた複合ステートメント以外の同一の複合ステートメントで定義される必要があります。
- GOTO ステートメントがハンドラーで定義されている場合、“<label>” は、他の効力範囲の規則に準拠して同一のハンドラーで定義される必要があります。
- GOTO ステートメントがハンドラー外で定義されている場合、“<label>” はハンドラー内で定義してはなりません。

ユーザーの処置: GOTO、ITERATE、または LEAVE ステートメントに有効なラベルを指定してください。

sqlcode: -779

sqlstate: 42736

SQL0780N UNDO がハンドラーに指定されていますが、**ATOMIC** が複合ステートメントに指定されていません。

説明: UNDO が SQL プロシージャにある複合ステートメントのハンドラーに指定されていません。複合ステートメントが **ATOMIC** でないかぎり、UNDO を指定することはできません。

ユーザーの処置: 複合ステートメントが **ATOMIC** になるよう指定するか、またはハンドラーに **EXIT** あるいは **CONTINUE** を指定してください。

sqlcode: -780

sqlstate: 428D6

SQL0781N ハンドラーに指定されている条件“<condition>”が定義されていません。

説明: SQL プロシージャのハンドラーに指定されている条件“<condition>”が定義されていません。

ユーザーの処置: **DECLARE CONDITION** ステートメントで条件を定義するか、またはハンドラーから条件を除去してください。

sqlcode: -781

sqlstate: 42737

SQL0782N ハンドラーに指定されている条件または **SQLSTATE** 値が無効です。

説明: 以下のいずれかの理由で、SQL のハンドラーに指定されている条件または **SQLSTATE** 値が無効です。

- 条件または **SQLSTATE** 値が、すでに同じ効力範囲にある別のハンドラーによって指定されている
- 条件または **SQLSTATE** 値が、同じハンドラーに **SQLEXCEPTION**、**SQLWARNING**、または **NOT FOUND** として指定されている

ユーザーの処置: 条件または **SQLSTATE** 値をハンドラーから除去してください。

sqlcode: -782

sqlstate: 428D7

SQL0783N 重複する列名または名前のない列が、**FOR** ステートメントの **DECLARE CURSOR** ステートメントに指定されました。

説明: **FOR** ステートメントの選択リストには、固有の列名が入っていなければなりません。指定された選択リストに重複する列名、または名前のない式があります。

ユーザーの処置: **FOR** ステートメントに指定されている選択リストに固有の列名を指定してください。

sqlcode: -783

sqlstate: 42738

SQL0785N **SQLSTATE** または **SQLCODE** 変数の宣言あるいは使用は許可されていません。

説明: **SQLSTATE** または **SQLCODE** が SQL ルーチンのルーチン本体で変数として使用されましたが、以下のいずれかの理由で無効です。

- **SQLSTATE** が **CHAR(5)** として宣言されていない
- **SQLCODE** が **INTEGER** として宣言されていない
- 変数に **NULL** 値が割り当てられている

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: **SQLSTATE** 変数を **CHAR(5)** として、また **SQLCODE** 変数を **INTEGER** として宣言してください。変数を有効な値に設定してください。

sqlcode: -785

sqlstate: 428D8

SQL0787N RESIGNAL ステートメントがハンドラー内にありません。

説明: RESIGNAL ステートメントは、条件ハンドラー内でのみ使用できます。

ユーザーの処置: RESIGNAL ステートメントを除去するか、あるいは SIGNAL ステートメントを代わりに使用してください。

sqlcode: -787

sqlstate: 0K000

SQL0789N パラメーターまたは変数 “<name>” のデータ・タイプは、SQL ルーチンでサポートされていません。

説明: SQL ルーチン (関数、メソッド、またはプロシージャ) は、DATALINK、REFERENCE、DISTINCT、または LOB データ・タイプの変数またはパラメーターをサポートしていません。

ユーザーの処置: SQL ルーチン定義では、DATALINK、REFERENCE、DISTINCT、または LOB データ・タイプの SQL 変数またはパラメーターを使用しないでください。パラメーターまたは変数 “<name>” に異なるデータ・タイプを指定してください。

sqlcode: -789

sqlstate: 429BB

SQL0797N トリガー “<trigger-name>” が、サポートされていないトリガー SQL ステートメントで定義されています。

説明: トリガーが、以下のリストと一致しないトリガー SQL ステートメントで定義されています。

- BEFORE トリガーには、以下のトリガー SQL ステートメントを含むことができます。

- 全選択
- SET 変数ステートメント
- AFTER トリガーには、以下のトリガー SQL ステートメントを含むことができます。
 - INSERT ステートメント
 - 探索済み UPDATE ステートメント
 - 探索済み DELETE ステートメント
 - 全選択

いくつかの場合には、“<trigger-name>” がこのメッセージに現れません。

ユーザーの処置: 上記のリストと一致しない各ステートメントについて、トリガーのトリガー SQL ステートメントをチェックして、それを取り除いてください。

sqlcode: -797

sqlstate: 42987

SQL0798N GENERATED ALWAYS として定義されている列 “<column-name>” に値を指定することはできません。

説明: 表内の行を挿入または更新しているとき、GENERATED ALWAYS 列 “<column-name>” に値が指定されました。キーワード DEFAULT が指定されていないかぎり、GENERATED ALWAYS 列を INSERT のため列リストに、あるいは UPDATE のため SET 文節に指定することはできません。

INSERT または UPDATE は実行されません。

ユーザーの処置: GENERATED ALWAYS 列を列リストまたは SET 文節から除去するか、または列の値として DEFAULT を指定してください。

sqlcode: -798

sqlstate: 428C9

SQL0800 - SQL0899

SQL0801N ゼロによる除算が試みられました。

説明: 列関数または算術式の処理が、ゼロによる除算を結果としました。

ステートメントは処理できません。INSERT、UPDATE、または DELETE ステートメントの場合は、挿入も更新も実行されません。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを調べて、問題の原因を判別してください。問題がデータによるものであれば、エラーが起きたときに処理されていたデータを調べてください。データ・タイプの有効範囲を判別するには、SQL 解説書を参照してください。

連合システム・ユーザー: SQL ステートメントを調べて、問題の原因を判別してください。問題がデータによるものであれば、エラーが起きたときにデータ・ソースで処理されていたデータを調べてください。

sqlcode: -801

sqlstate: 22012

SQL0802N 算術オーバーフロー、またはその他の算術例外が発生しました。

説明: 列関数または算術式の処理で、算術オーバーフローが起きました。

ステートメントは処理できません。INSERT、UPDATE、または DELETE ステートメントの場合は、挿入も更新も実行されません。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを調べて、問題の原因を判別してください。問題がデータによるものであれば、エラーが起きたときに処理されていたデータを調べてください。データ・タイプの有効範囲を判別するには、SQL 解説書を参照してください。

SQL ステートメントによって返された値を列関数が扱えない場合にも、このエラーが返されることがあります。たとえば、MAX_LONGINT_INT

SQL 制限で定義されているよりも多い行を持つ表に対して SELECT COUNT ステートメントを出すと、算術オーバーフロー・エラーが起きます。2,147,483,647 を超える行を持つ表には COUNT_BIG 列関数を使用するよう考慮してください。

連合システム・ユーザー: SQL ステートメントを調べて、問題の原因を判別してください。問題がデータによるものであれば、エラーが起きたときにデータ・ソースで処理されていたデータを調べてください。データ・タイプの有効範囲を判別するには、対応する SQL 解説書でデータ・ソースを参照してください。

sqlcode: -802

sqlstate: 22003

SQL0803N “<index-id>” で識別される 1 次キー、ユニーク制約、または固有索引を持つ表 “<table-name>” の列に重複行を作成できないため、INSERT ステートメント、UPDATE ステートメントの 1 つ以上の値、または DELETE ステートメントによって行われた外部キーの更新が無効です。

説明: INSERT または UPDATE の対象となる表 “<table-name>” は、1 つ以上の UNIQUE 索引により、ある列または列のグループ内に固有の値を持つように制約されています。あるいは、親表の DELETE ステートメントが、1 つ以上の UNIQUE 索引によって制約されている従属表 “<table-name>” 内の外部キーの更新を行いました。固有索引は、表に定義されている 1 次キーまたはユニーク制約をサポートしている可能性があります。要求された INSERT、UPDATE、または DELETE ステートメントを完了すると列の値が重複してしまうため、ステートメントを処理できません。

または、INSERT または UPDATE ステートメントの対象が視点の場合には、その視点が定義されている表 “<table-name>” が制約を受けます。

“<index-id>” が整数値である場合は、以下の照会を発行することによって SYSCAT.INDEXES から索引名を取得できます。

```
SELECT INDNAME, INDSHEMA
FROM SYSCAT.INDEXES
WHERE IID = <index-id>
AND TABSCHEMA = 'schema'
AND TABNAME = 'table'
```

schema は “<table-name>” のスキーマ部分で、table は “<table-name>” の表名部分を表していません。

ステートメントは処理できません。表は変更されません。

ユーザーの処置: “<index-id>” で識別される索引の定義を調べてください。

UPDATE ステートメントの場合は、指定した処理自体がユニーク制約との間に矛盾がないことを確認してください。それでもエラーの内容が不明な場合には、対象表の内容を調べて、問題の原因を判別してください。

INSERT ステートメントの場合は、対象表の内容を調べて、固有制約に違反している指定した値リストの値を判別してください。または、INSERT ステートメントに副照会が入っている場合に問題の原因を判別するには、その副照会によって示される表の内容を対象表の内容と一致させる必要があります。

DELETE ステートメントの場合、示された従属表について、外部キーのユニーク制約を調べ、規則 ON DELETE SET NULL で定義されているかを調べてください。この表には、示された固有索引に組み込まれた外部キー列を持っています。この表の列に NULL がすでにあるために外部キー列を NULL に設定できません。

連合システム・ユーザー: 失敗を引き起こしたデータ・ソースで問題を分離し (問題判別の手引き

を参照して、SQL ステートメント処理の失敗のデータ・ソースを判別してください)、前にリストされた条件の索引定義およびデータを調べてください。

sqlcode: -803

sqlstate: 23505

SQL0804N 現行要求に対するアプリケーション・プログラムの入力パラメーターが無効です。理由コードは “<reason-code>”。ホスト変数あるいは SQLDA の SQLVAR が無効です: ホスト変数/SQLVAR 番号 = “<var-number>”、SQLTYPE = “<sqltype>”、SQLLEN = “<sqllen>”、ホスト変数/SQLVAR タイプ = “<input_or_output>”。

説明: 現行要求を処理中にエラーが発生しました。

- 呼び出しパラメーター・リストはプリコンパイラーで作成されますが、アプリケーション・プログラマーがプリコンパイラーの出力を修正し、あるいは別の方法で呼び出しパラメーター・リストを上書きする場合には正しくない可能性があります。
- SQL 内の SQLDA あるいはホスト変数が無効である。
- 作成された要求がサポートされていないか、コンテキスト外にある。

理由コードは次のように解釈されます。

- 100** 作成された要求がサポートされていないか、コンテキスト外にある。
- 101** SQLDA.SQLLN が SQLDA.SQLD より小さい。
- 102** SQLVAR.SQLTYPE が無効である。

連合システム・ユーザー: 指定したデータ・タイプは、連合サーバー、またはア

クセスしたいデータ・ソースによってサポートされていません。

- 103** SQLVAR.SQLLEN あるいは SQLVAR2.SQLLONGLEN で指定した長さが SQLVAR.SQLTYPE で与えられた SQL タイプに対して間違っている。
- 104** SQLVAR を 2 倍することが予期されていたが、SQLDA.SQLDAID の SQLDOUBLED フィールドが '2' に設定されていない: ラージ・オブジェクト・タイプまたは構造化タイプのために、これが必要になる場合があります。
- 105** 2 バイト文字ラージ・オブジェクトには SQLVAR2.SQLDATALEN ポインターで示される奇数値があり、これが常にバイトで、DBCLOB に対してもそうである。
- 106** SQLDATA ポインターが無効であるか、あるいは不十分なストレージを示している。
- 107** SQLIND ポインターが無効であるか、あるいは不十分なストレージを示している。
- 108** SQLDATALEN ポインターが無効であるか、あるいは不十分なストレージを示している。
- 109** 入力ホスト変数 /SQLVARS の特定値が現行 SQL ステートメントで予想される。
- 110** LOB ロケーターが互換タイプの LOB に関連していない。
- 111** LOB が SQLVAR の SQLTYPE に示されているが、2 番目の SQLVAR はヌルである。
- 112** SQLDATATYPE NAME フィールドが無効。データベース内で既存のユーザー定義タイプを識別するための形式に適合していません。既存のユーザー定義タイプ

を識別するための形式は、8 バイト、その後にはピリオド、さらにその後には 18 バイトです。

- 113** SQLFLAG4 フィールドが無効。構造化タイプが指定されている場合、値は X'12' でなければなりません。参照タイプが指定されている場合、値は X'01' でなければなりません。その他の場合、値は X'00' でなければなりません。

ホスト変数を指定した SQL ステートメントでは、ホスト変数番号を使用してステートメント (あるいは 複合 SQL の場合はサブステートメント) の最初からカウントし無効なホスト変数を探し出すことができます。SQLDA を使用したステートメントでは SQLVAR 番号が無効な SQLVAR の検出に使用されます。入力 SQLDA では入力ホスト変数あるいは SQLVAR をカウントするだけです。出力も同様です。この番号の基本は 1 であることに注意してください。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 示されたエラーについて、アプリケーション・プログラムを調べてください。プログラマーは、プリコンパイラ出力を変更するべきではないことに注意してください。

連合システム・ユーザー: 理由コード 102 を受け取った場合、サポートされているデータ・タイプを指定してプログラムを再実行依頼してください。

sqlcode: -804

sqlstate: 07002

SQL0805N パッケージ "<package-name>" が見つかりませんでした。

説明: このメッセージ (SQLCODE) の考えられる原因は、以下のとおりです。

- 指定されたパッケージまたはプログラムがデータベースで定義されていません。

- プログラムが検索されなかったまたはドロップされました。
- 実行されているアプリケーションがデータベースにバインドされていません。
- DB2 ユーティリティまたは CLI アプリケーションの実行を試行中の場合、DB2 ユーティリティをそのデータベースに再バインドする必要があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 正しいパッケージ名を指定するか、またはプログラムをバインドしてください。実行中のアプリケーションがデータベースにバインドされていない場合は、データベース管理者に連絡して、バインドに必要な処置を行ってください。

DB2 ユーティリティ・プログラムがデータベースに再バインドされる必要がある場合、データベース管理者は、データベースに接続されている間に bnd サブディレクトリーから次の CLP コマンドを 1 つ発行し、このデータベースを完成することができます。

- DB2 の場合は "DB2 bind @db2ubind.lst blocking all grant public"
- CLI の場合は "DB2 bind @db2cli.lst blocking all grant public"

連合システム・ユーザー: 連合サーバーに必要なパッケージが、適用可能なデータ・ソースにバインドされることを確認してください。データ・ソースへのパッケージのバインドについては、インストールおよび構成 補足ガイドを参照してください。

sqlcode: -805

sqlstate: 51002

SQL0808N CONNECT ステートメント・セマンティクスに、他の既存の接続のセマンティクスとの整合性がありません。

説明: CONNECT ステートメントが、接続が存在するソース・ファイルの接続オプション (SQLRULES、CONNECT タイプ、SYNCPPOINT、または RELEASE タイプ) とは異なる接続タイプでプリコンパイルされたソース・ファイルから作成されています。

ユーザーの処置: すべてのソース・ファイルが、同じ CONNECT オプションでプリコンパイルされていることを確認するか、または確認できない場合は、最初の CONNECT ステートメントを発行する前に、SET CLIENT api を呼び出して、アプリケーション・プロセスに必要なオプションを設定してください。

sqlcode: -808

sqlstate: 08001

SQL0811N スカラー全選択、SELECT INTO ステートメント、または VALUES INTO ステートメントの結果が複数行になりました。

説明: 以下のいずれかがエラーの原因です。

- 組み込み SELECT INTO または VALUES INTO ステートメントの実行結果が、複数行の結果表になりました。
- スカラー全選択の実行結果が、複数行の結果表になりました。

連合システム・ユーザー: この状態は連合サーバーまたはデータ・ソースで検出できます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメントに適切な条件指定が入っていることを確認してください。条件指定が適切な場合には、1 行のみが想定されているときに、複数の行または値を返すデータの問題

である可能性があります。

連合システム・ユーザー: 失敗を引き起こしたデータ・ソースで問題を分離して (*DB2 問題判別の手引き*を参照して、SQL ステートメント処理の失敗のデータ・ソースを判別してください)、そのオブジェクトに対する選択基準およびデータを調べてください。

sqlcode: -811

sqlstate: 21000

SQL0817N SQL ステートメントは、ステートメントの結果が禁止された更新操作となるため、実行されません。

説明: アプリケーションは、実行結果がユーザー・データあるいはサブシステム・カタログへの更新となる SQL を実行しようとしていました。これは、以下のいずれかの理由から禁止されています。

- アプリケーションが IMS 照会専用トランザクションとして動作している
- アプリケーションが 2 フェーズ・コミットをサポートしないリモート DBMS でデータを更新しようとする IMS または CICS アプリケーションである
- アプリケーションが、複数のロケーションおよび 2 フェーズ・コミットをサポートしないロケーションのいずれかでデータを更新しようとした

SQL ステートメントには INSERT、UPDATE、DELETE、CREATE、ALTER、DROP、GRANT、および REVOKE が入っています。

ステートメントは処理されません。

ユーザーの処置: アプリケーションが IMS 照会専用トランザクションとして動作している場合、アプリケーション実行下での照会専用トランザクションの状況変更について、IMS システム・プログラマーを調べてください。

IMS または CICS アプリケーションがリモート

の更新を行う場合、アプリケーションがサーバー DBMS でのローカル・アプリケーションとして動作するか、あるいはサーバー DBMS が 2 フェーズ・コミットをサポートするようにアップグレードされる必要があります。

アプリケーションが複数のロケーションでデータを更新しようとする場合、アプリケーションを変更するか、あるいはすべての DBMS が 2 フェーズ・コミットをサポートするよう、アップグレードされる必要があります。

sqlcode: -817

sqlstate: 25000

SQL0818N タイム・スタンプの矛盾が起きました。

説明: プリコンパイル時にプリコンパイラーによって生成されたタイム・スタンプが、バインド時にパッケージとともに格納されたタイム・スタンプと同じではありません。

この問題は以下の状況で起きる可能性があります。

- アプリケーションをバインドせずにプリコンパイル、コンパイル、リンクを行った場合
- プログラムのコンパイルとリンクを行わずに、プリコンパイルとバインドを行った場合
- アプリケーション・モジュールにリンクされるオブジェクト・モジュールを作成したプリコンパイルとは異なるプリコンパイルによって作成されたバインド・ファイルを使用して、アプリケーションをバインドした場合
- 既存のプランと同じ名前のアプリケーションをバインドし、既存の (古い) アプリケーションを実行した場合

連合システム・ユーザー: 前にリストされた原因に加えて、必須パッケージをすべての適用可能なデータ・ソースにバインドするわけではないため、問題が発生する可能性もあります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: オブジェクト・モジュールと一致するプログラムのバインド・ファイルを使用して、もう一度アプリケーションをバインドしてください。または、データベース内に格納されているパッケージに対応するプログラムを実行してください。

サンプル・データベースをインストールしている場合は、このメッセージの番号とテキストを記録して、技術サービス担当者に連絡してください。

連合システム・ユーザー: 前にリストされた処置に加えて、連合サーバーに必要なパッケージが適用可能なデータ・ソースにバインドされていることを確認してください。データ・ソースへのパッケージのバインドに関する詳細については、インストールおよび構成 補足を参照してください。

sqlcode: -818

sqlstate: 51003

SQL0822N SQLDA に、無効なデータ・アドレスまたは標識変数アドレスが含まれています。

説明: アプリケーション・プログラムによって、無効なアドレスが SQLDA に置かれました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: アプリケーション・プログラムを修正して、有効なアドレスが SQLDA に置かれるようにしてください。

sqlcode: -822

sqlstate: 51004

SQL0840N SELECT リストに戻された項目が多すぎます。

説明: SELECT リスト内に返された項目数が、許容最大値を超えています。SELECT リストの最大値 (共通表式以外) は 1012 です。共通表式での SELECT リストの最大は 5000 です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: すべての情報が実際に必要かどうかを判別してください。(SQL ステートメント SELECT * from A, B, C の SELECT list * によって戻される項目数は、3 つの表すべての列数の合計です。) 可能であれば、情報の必要な項目のみが戻されるように、SQL ステートメントを修正してください。すべての情報が必要な場合は、SQL ステートメントを 2 つ以上のステートメントに分割してください。

sqlcode: -840

sqlstate: 54004

SQL0842N サーバー "<server-name>" への接続はすでに存在しています。

説明: SQLRULES(STD) が実際あり、CONNECT ステートメントは既存 SQL 接続を識別します。

ユーザーの処置: エラーに対する処置は、以下のとおりです。

- サーバー名が意図した名前でない場合は、訂正してください。
- SQLRULES(STD) が有効で、CONNECT ステートメントが既存の SQL 接続を識別している場合は、CONNECT を SET CONNECTION に置き換えるか、またはオプションを SQLRULES(DB2) に変更してください。

アプリケーションのエラーを修正して、もう一度やり直してください。

sqlcode: -842

sqlstate: 08002

SQL0843N サーバー名は既存の接続を指定しません。

説明: ステートメント、コマンド、または API は、アプリケーション・プロセスの既存の SQL 接続を識別しないサーバー名を指定しました。

次の使用で起こった可能性があります:

- SET CONNECTION ステートメント

- RELEASE ステートメント
- DISCONNECT ステートメント
- SET または QUERY CLIENT INFORMATION

ユーザーの処置: エラーに対する処置は、以下のとおりです。

- サーバー名が意図した名前でない場合は、訂正してください。
- サーバーへの接続が確立されており、接続の要求を発行する前に、現在または休止状態にあることを確認してください。

アプリケーションのエラーを修正して、もう一度やり直してください。

sqlcode: -843

sqlstate: 08003

SQL0845N PREVVAL 式は、NEXTVAL 式がシーケンス “<sequence-name>” の現行セッションで値を生成するまで使用できません。

説明: PREVVAL 式がシーケンス “<sequence-name>” を指定していますが、値がまだこのシーケンスについて生成されていません。シーケンスの PREVVAL 式を発行するためには、このシーケンスについて値を生成するために、NEXTVAL 式をこのセッションで発行する必要があります。

ユーザーの処置: セッション内で同じシーケンスについて PREVVAL 式を発行する前に、シーケンスに少なくとも 1 つの NEXTVAL 式を発行してください。

sqlcode: -845

sqlstate: 51035

SQL0846N 識別列またはシーケンス・オブジェクト “<object-type>” “<object-name>” の指定が無効です。

説明: 識別列またはシーケンス・オブジェクトについて、ALTER または CREATE TABLE ステートメント内の属性の指定が、以下の理由のいずれかで無効である可能性があります。

- 識別列の基礎となるデータ・タイプまたはシーケンス・オブジェクトがサポートされていません。識別列およびシーケンス・オブジェクト・サポートがサポートするデータ・タイプは次の通りです: SMALLINT、INTEGER、BIGINT、および位取りがゼロの DECIMAL。
- START WITH、INCREMENT BY、MINVALUE または MAXVALUE に対する値が、識別列またはシーケンス・オブジェクトのデータ・タイプの範囲外です。
- INCREMENT BY に対する値が、長精度整数定数の範囲外です。
- MINVALUE は MAXVALUE 以下でなければなりません。
- 無効な値が CACHE に指定されました。値は最小値 2 の短整数でなければなりません。

ユーザーの処置: 構文を訂正して、ステートメントを再実行依頼してください。

sqlcode: -846

sqlstate: 42815

SQL0859N トランザクション・マネージャー・データベースに対するアクセスが、SQLCODE “<SQLCODE>” で失敗しました。

説明: アプリケーションが SYNCPOINT(TWOPHASE) でプリコンパイルされ、2 フェーズ・コミットを調整するために、トランザクション・マネージャー・データベースを必要としています。トランザクション・マネージャー・データベースが使用できない理由は、以

下である可能性があります。

- トランザクション・マネージャー・データベースが作成されていません。
- データベース・マネージャー構成ファイルの「*tm_database*」フィールドが更新されておらず、データベースの名前で活動状態になっています。
- データベースは存在しますが、データベースに対する通信が失敗しました。

ユーザーの処置: 解決策は以下の通りです。

- このメッセージとともに返された **SQLCODE** を参照して、その **SQLCODE** に関する適切な処置にしたがってください。
- *tm_database* が存在することを確認し、存在しない場合は、新しいデータベースを作成するか、または **TM** データベースとして使用できる既存のデータベースを選択してください。ディスク・ストレージに重大な制約が存在しない場合は、独立したデータベースを作成することが推奨されます。
- フィールド「*tm_database*」を使用した **TM** データベースのデータベース・マネージャー構成の構成を行っていない場合は、それを実行してください。
- *tm_database* への接続が作成可能なことを確認してください。たとえば、コマンド行プロセッサを使用して、接続を試みてください。
- 選択された *tm_database* が、**DB2** コネクトを介してアクセスされたデータベースでないことを確認してください。

sqlcode: -859

sqlstate: 08502

SQL0863W 接続は成功しましたが、1 バイト文字しか使用できません。

説明: サーバー・データベースおよびクライアント・アプリケーションは異なる言語タイプのコード・ページを使用し、7 ビット ASCII 範囲外の

文字は使用できません (7 ビット ASCII 内の文字のみがすべてのコード・ページに存在します)。たとえば、日本語とラテン 1 コード・ページ間の接続があっても、日本語文字はすべてラテン 1 コード・ページでは使用できません。そのため、これらの文字すべてを避ける必要があります (英語の文字は問題ありません)。

連合システム・ユーザー: 考えられる原因は以下のとおりです。

- 連合データベースは単一バイトおよび 2 バイト文字の両方をサポートしていますが、データベース・クライアント・システムは単一バイト文字のみをサポートします。
- データ・ソースは単一バイト文字と 2 バイト文字の両方をサポートしていますが、連合システムは単一文字のみをサポートします。

ユーザーの処置: アプリケーションおよびデータベース・コード・ページ間で共通でない文字を使用する **SQL** ステートメントまたはコマンドを実行要求しないでください。

連合システム・ユーザー: クライアント・システム、連合システム、およびデータ・ソース間で共通でない文字を使用する **SQL** ステートメントまたはコマンドを実行依頼しないでください。

sqlcode: +863

sqlstate: 01539

SQL0865N *tm_database* 値が無効です。

説明: データベース・マネージャー構成で *tm_database* として選択されたデータベースが有効ではありません。データベースはレベル **DB2 V2.1** またはそれ以降のレベルでなければならず、**DRDA** プロトコルでは (つまり **DB2** コネクトでは) アクセスすることはできません。

ステートメントは処理されません。

ユーザーの処置:

1. データベース・マネージャー構成を更新して、`tm_database` パラメーター に、有効なデータベースを指定してください。
2. `db2stop` と `db2start` を発行して、変更を反映してください。

sqlcode: -865

sqlstate: 08001

SQL0866N 接続リダイレクトが失敗しました。
理由コード: “<reason-code>”。

説明: データベースでのディレクトリーのカタログが原因で、サポートされていない方法で接続がリダイレクトされました。

理由コードには、以下のものがあります。

- 01** データベース接続が、あるサーバーから別のサーバーへの複数リダイレクトを呼び出しましたが、1 つの接続リダイレクトのみがサポートされています。
- 02** 現在のバージョンの DB2 クライアントまたはサーバーと、バージョン 1 クライアントまたはサーバーの両方を呼び出す接続が試みられました。バージョン 1 クライアントまたはサーバーではリダイレクトがサポートされていないために、この試みは失敗しました。

ユーザーの処置: 理由コードによる処置は、以下のとおりです。

- 01** 接続のパスにおいて、接続を他のサーバーにリダイレクトするサーバーが複数にならないように、データベースを再カタログします。
- 02** 接続をリダイレクトする中継サーバーが存在しないように、データベースを再カタログします。

sqlcode: -866

sqlstate: 08001

SQL0868N **USER/USING** 文節を使用する **CONNECT** が、接続がすでに存在するサーバーに対して試みられました。

説明: サーバーに対する現行または休止接続が存在するので、**USER/USING** 文節を使用したこのサーバーへの **CONNECT** (接続) が試みられました。

ユーザーの処置: 解決策は以下の通りです。

- **SET CONNECTION** ステートメントを使用して、**DORMANT** 接続を現行接続にしてください。
- アプリケーションが **SQLRULES(DB2)** を使用している場合は、**USER/USING** なしの **CONNECT** ステートメントを使用してください。
- 既存の作業単位を完了して切断し、**USER/USING** を使用して再接続してください。

sqlcode: -868

sqlstate: 51022

SQL0880N **SAVEPOINT** “<savepoint-name>” が存在しないか、またはこのコンテキストでは無効です。

説明: **RELEASE** または **ROLLBACK TO SAVEPOINT** “<savepoint-name>” ステートメントを出したときにエラーが起きました。この名前を持つ保管点が見つからないか、または現在のアトミック実行コンテキストの外側に設定されています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメントにある保管点の名前を訂正して、ステートメントを出し直してください。

sqlcode: -880

sqlstate: 3B001

SQL0881N 名前 “<savepoint-name>” の **SAVEPOINT** が存在しますが、この保管点名は再利用できません。

説明: 名前 “<savepoint-name>” は **SAVEPOINT** ステートメントですでに使用されています。この保管点名を使用している **SAVEPOINT** ステートメントの少なくとも 1 つが、名前が固有でなければならないことを宣言している **UNIQUE** キーワードも指定しているため、この名前を再利用することはできません。

ステートメントは処理できません。新しい保管点は設定されていません。同じ名前の古い保管点が存在します。

ユーザーの処置: この保管点に別の名前を選択し、**SAVEPOINT** ステートメントを出し直してください。既存の保管点名を使用する必要がある場合、**RELEASE SAVEPOINT** ステートメントを出して既存の保管点を解放してください。ただし、指定された保管点が設定された後でトランザクションに設定された保管点も、この **RELEASE SAVEPOINT** ステートメントによって解放される

SQL0900 - SQL0999

SQL0900N アプリケーション状態がエラーです。データベース接続が存在しません。

説明: データベースに対する接続が存在しません。これは、以下のいずれかが理由である可能性があります。

- アプリケーション状態における重大エラーのため、データベース接続が失われました。
- アプリケーションがデータベースから切断された可能性があり、次の **SQL** ステートメントを実行する前に、新しい現行接続が確立されていません。

ユーザーの処置: 既存の休止接続に切り替える (**CONNECT TO** または **SET CONNECTION** を使用) か、または新しい接続を確立 (**CONNECT** を使用) して、現行接続を再確立してください。

ので注意してください。詳細については、**SQL** 解説書を参照してください。

sqlcode: -881

sqlstate: 3B501

SQL0882N 保管点は存在しません。

説明: **ROLLBACK TO SAVEPOINT** ステートメントを出したときにエラーが起きました。既存の保管点がない場合、特定の保管点名を指定せずに **ROLLBACK TO SAVEPOINT** を出すことは許可されていません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 異なるステートメントを出すか、または **ROLLBACK** ステートメントでトランザクション全体のロールバックを試みてください。

sqlcode: -882

sqlstate: 3B502

sqlcode: -900

sqlstate: 08003

SQL0901N 重大ではないシステム・エラーのため、**SQL** ステートメントが失敗しました。後続の **SQL** ステートメントは処理できます。(理由 “<reason>”)

説明: システム・エラーのために、エラーが起きました。**SQL** ステートメントの処理が終了した理由は、“<reason>” (これは英語だけで表示され、**IBM** サポート担当員だけが参考とする) です。

ユーザーの処置: メッセージ番号 (**SQLCODE**) と理由 “<reason>” を記録してください。

トレースが活動状態の場合は、オペレーティン

グ・システムのコマンド・プロンプトから、独立トレース機能呼び出してください。この機能の使用法については、問題判別の手引きの独立トレース機能を参照してください。以下の情報を用意して、技術サービス担当者に提供してください。

- 問題記述
- SQLCODE
- 理由 “<reason>”
- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

連合システム・ユーザー: 失敗を引き起こしたデータ・ソースで問題を分離し (問題判別の手引きを参照して、SQL ステートメント処理の失敗のデータ・ソースを判別してください)、データ・ソースに対する必要な診断を行ってください。データ・ソースの問題判別手続きはそれぞれ違うので、適用できるデータ・ソース解説書を参照してください。

sqlcode: -901

sqlstate: 58004

SQL0902C システム・エラー (理由コード = “<reason-code>”) が発生しました。後続の SQL ステートメントは処理されません。

説明: システム・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: メッセージ番号 (SQLCODE) とメッセージの理由コードを記録してください。

トレースが活動状態の場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから、独立トレース機能呼び出してください。この機能の使用法については、問題判別の手引きの独立トレース機能を参照してください。以下の情報を用意して、技術サービス担当者に提供してください。

- 問題記述

- SQLCODE および組み込み理由コード
- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

連合システム・ユーザー: 失敗を引き起こしたデータ・ソースで問題を分離し (問題判別の手引きを参照して、SQL ステートメント処理の失敗のデータ・ソースを判別してください)、データ・ソースに対する必要な診断を行ってください。データ・ソースの問題判別手続きはそれぞれ違うので、適用できるデータ・ソース解説書を参照してください。

sqlcode: -902

sqlstate: 58005

SQL0903N COMMIT ステートメントが失敗し、トランザクションはロールバックされました。理由コード: “<reason-code>”。

説明: 現在の作業単位に関連する 1 つ以上のサーバーが、コミットされるデータベースを準備できませんでした。COMMIT ステートメントは失敗し、トランザクションはロールバックされました。

理由コードには、以下のものがあります。

- 01** 作業単位に関連するいずれかのデータベースに対する接続が失われました。

連合システム・ユーザー: 接続したデータベースが連合サーバー・データベースで、ニックネームが使用される場合、データベース内でニックネームに要求されたいずれかのデータ・ソースの接続が失われました。

- 02** 作業単位に関連するデータベースまたはノードの 1 つがアクセスされましたが、コミットを作成できません。

連合システム・ユーザー: 接続したデータベースが連合サーバー・データベース

で、ニックネームが使用される場合、データベース内でニックネームに要求されたいずれかのデータ・ソースがコミットを作成できません。

03 作業単位に関連する DB2 データ・リンク・マネージャーがコミットを作成できませんでした。

ユーザーの処置: データベースに対する接続が失われた場合は、接続を再確立してください。障害が接続に関連していない場合は、リモート・システムのエラー診断ログを参照して、障害の特質と必要な処置を判別してください。アプリケーションを再実行してください。

sqlcode: -903

sqlstate: 40504

SQL0904N リソースが使用できないため、実行できませんでした。理由コード: "**<reason-code>**"、リソース・タイプ: "**<resource-type>**"、およびリソース名: "**<resource-name>**"

説明: タイプ "**<resource-type>**" のリソース "**<resource-name>**" が、"**<reason-code>**" によって指示された理由のために使用不能だったため、SQL ステートメントを実行できませんでした。リソース・タイプ・コードの解説には DB2 (MVS 版) の問題判別文書を参照してください。

ユーザーの処置: 使用不能だったリソースの識別を検査してください。リソースが使用できない原因を判別するには、指定された "**<reason-code>**" を参照してください。

sqlcode: -904

sqlstate: 57011

SQL0905N リソース制限を超えたため、実行に失敗しました。リソース名 = "**<resource-name>**"、制限 = "**<limit-amount1>**" CPU 秒 ("**<limit-amount2>**" サービス単位) が "**<limit-source>**" から選別されました。

説明: リソース制限を超えたため、SQL ステートメントの実行が終了しました。

制限を超えたリソース名は "**<resource-name>**" です。これは、制限が選別されたリソース限定表の列名でもあります。CPU 秒で超えた制限は "**<limit-amount1>**"、サービス単位では "**<limit-amount2>**" です。それぞれの SQL ステートメントに許可された CPU 秒数が "**<resource-name>**" ASUTIME です。許可された CPU 秒数の最大は "**<limit-amount1>**" です。サービス単位での最大数は "**<limit-amount2>**" です。

生原量を選別するのに使用されたソースは "**<limit-source>**" です。これはリソース限定表またはシステム・パラメーターの名前です。ソースがシステム・パラメーターの場合、表へのアクセス時に、リソース限定表に適用可能項目が入っていなかったか、またはエラーが発生しました。いずれの場合も、制限はインストール (システム) パラメーターから獲得されました。

ユーザーの処置: SQL ステートメントがなぜ長時間かかったかを判別して、適切な処置をとってください。SQL ステートメントの単純化、表および索引の再構築、またはリソース限定表保守担当のインストール・グループに連絡することを考慮してください。

この戻りコードを受け取るアプリケーション・プログラムが追加 SQL ステートメントを実行できません。

sqlcode: -905

sqlstate: 57014

SQL0906N 前のエラーのためこの機能が使用不能になったので、SQL ステートメントを実行できません。

説明: 前のエラーのため要求された機能が使用不能になったため、SQL ステートメントの実行が失敗しました。この状態は、アプリケーション・プログラムが異常終了を代行受信した場合 (たとえば、ON ERROR PL/I プログラムで ON ERROR 条件)、および SQL ステートメントの実行を継続した場合に起こります。また、この状態は、DB2 CICS トランザクションが作成スレッド・エラーが発生したにもかかわらず、SYNCPPOINT ROLLBACK を最初に発行せずに、SQL 要求の発行を継続した場合に起こります。

ユーザーの処置: 一般には、アプリケーション・プログラムはこの戻りコードを受信した段階で終了する必要があります。この戻りコードで、アプリケーションが他の SQL ステートメントを実行するためのすべての試行が失敗します。DB2 CICS トランザクションの場合、SQLCA で SQLERRP フィールドにモジュール名 DSNCEXT1 が入っている場合、トランザクションが SYNCPPOINT ROLLBACK を発行して、処理を継続する可能性があります。トランザクションが ROLLBACK を選択して処理を継続した場合、作成スレッド・エラーを元に戻す状態を訂正することができます。

sqlcode: -906

sqlstate: 24514, 51005, 58023

SQL0908N "<bind-type>" エラー使用
"<auth-id>" 権限 BIND、
REBIND、または AUTO_REBIND
操作は許可されません。

説明: BIND および REBIND の場合、指示された権限 ID は指示された "<bind-type>" をプランまたはパッケージに対して実行できません。リソース限定表 (RLST) に入力することは、この権限 ID、またはすべての権限 ID によってのバインドおよび再バインドを禁止します。

AUTO-REBIND の場合、AUTO-REBIND 操作を制御するシステム・パラメーターが AUTO-REBIND を禁止するように設定されています。

bind-type

バインド操作のタイプ (BIND、REBIND または AUTO-REBIND)。

auth-id

BIND サブコマンドの起動者の権限 ID または AUTO-REBIND 操作に対する起動者の 1 次権限 ID。

ユーザーの処置: 指示された権限 ID がバインドに使用できる場合、活動 RLST 表を入力変更してください。AUTO-REBIND 操作が使用不能になった場合、パッケージを再実行する前に再バインドしてください。

sqlcode: -908

sqlstate: 23510

SQL0909N オブジェクトが削除されました。

説明: アプリケーション・プログラムは、(1) 表をドロップしてからアクセスしようとした、または (2) 索引をドロップしてからその索引を使用してオブジェクト表にアクセスしようとした。

ユーザーの処置: ドロップした後に、オブジェクトにアクセスまたは使用としないように、アプリケーション・プログラムの論理を訂正する必要があります。

アプリケーション・プログラム内で索引をドロップすることは特に危険です。なぜならば、アプリケーション (バインドまたは再バインドによって) に対して生成されたプランがオブジェクト表にアクセスするため、実際に特定の索引を使用していることを判別する方法はないからです。

sqlcode: -909

sqlstate: 57007

SQL0910N SQL ステートメントが、変更が保留されているオブジェクトにアクセスできません。

説明: アプリケーション・プログラムが、以下が行われたのと同じ作業単位内のオブジェクトにアクセスしようとした。

- アプリケーション・プログラムが、オブジェクトまたは関連オブジェクト (たとえば、表の索引) に対して DROP を発行した。
- アプリケーション・プログラムが、制約を追加またはドロップしたオブジェクトに対して、ステートメントを発行した。
- アプリケーション・プログラムが、直接または間接的にオブジェクトに影響を与える DROP TRIGGER または CREATE TRIGGER ステートメントを発行した。
- アプリケーション・プログラムが、オブジェクトを変更保留状態にする ROLLBACK TO SAVEPOINT ステートメントを発行した。
- アプリケーション・プログラムが、NOT LOGGED 宣言一時表の行をすべて削除するステートメントを発行した。

連合システム・ユーザー: 以前にリストされた原因に加えて、オブジェクトへのアクセスを妨げる、ほかのデータ・ソースの特定制限が存在する可能性があります。

SQL ステートメントは処理されません。

ユーザーの処置: 変更が行われたのと同じ作業単位内のオブジェクトにアクセスしないように、アプリケーション・プログラムを変更してください。通常は、データ定義言語 (DDL) ステートメントを、同じオブジェクトにアクセスするデータ操作言語 (DML) ステートメントとは異なる作業単位に分離します。

失敗したステートメントを正常に処理するためには、作業単位がコミットまたはロールバックを行う必要があります。1 コミットされた修正がオブジェクトをドロップする場合は、失敗した SQL

ステートメントを正常に処理するために、オブジェクトの再作成が必要になる可能性があります。

オブジェクトが SAVEPOINT 内で変更されている場合、ROLLBACK TO SAVEPOINT ステートメントを出した後でそのオブジェクトへのアクセスを試みないよう、アプリケーション・プログラムを変更してください。変更されたオブジェクトにアクセスし、ROLLBACK TO SAVEPOINT の時点でオープンされていたカーソルはアクセス不能になります。カーソルをクローズするようアプリケーションを変更してください。

NOT LOGGED 宣言一時表に関係する挿入、削除、または更新ステートメントが失敗すると、その表にある行はすべて削除されます。障害が起こった時点で、この宣言された一時表に対してオープンされていたカーソルはアクセス不能になるため、アプリケーションによってクローズされなければなりません。

連合システム・ユーザー: 直前の処置で問題が解決されない場合は、要求を分離し (問題判別の手引き を参照して、SQL ステートメント処理の失敗のデータ・ソースを判別してください)、オブジェクトへのアクセスを妨げる原因となる追加制約をデータ・ソースで判別してください。アプリケーションがそれらの制約に違反しないことを確認してください。

sqlcode: -910

sqlstate: 57007

SQL0911N デッドロックまたはタイムアウトのため、現在のトランザクションがロールバックされました。理由コード “<reason-code>”。

説明: 現在の作業単位が、オブジェクトの使用について、未解決競合状態になったために、ロールバックされました。

理由コードは以下のとおりです。

- 2 デッドロックのために、トランザクションがロールバックされました。

68 ロック・タイムアウトのために、トランザクションがロールバックされました。

72 トランザクションに関する DB2 データ・リンク・マネージャーに関連するエラーのために、トランザクションがロールバックされました。

注: 作業単位に関連する変更は、もう一度入力する必要があります。

アプリケーションは直前の COMMIT にロールバックされます。

ユーザーの処置: デッドロックまたはロック・タイムアウトを防ぐには、可能であれば、長く実行されるアプリケーションまたは、デッドロックを起しやすいアプリケーションに対して、頻繁に COMMIT を発行してください。

連合システム・ユーザー: デッドロックは連合サーバーまたはデータ・ソースで起こる可能性があります。データ・ソースおよび潜在的に連合システムをスパンするデッドロックを検出するメカニズムが存在しません。要求が失敗したデータ・ソースを識別することができます。(問題判別の手引きを参照して、SQL ステートメントの処理に失敗したデータ・ソースを判別してください。)

デッドロックはだいたい標準であるか、または決まった SQL の組み合わせを処理中に予期されません。可能な限りデッドロックを避けるために、アプリケーションを設計することをお勧めします。

sqlcode: -911

sqlstate: 40001

SQL0912N データベースに対するロック要求の最大値に達しました。

説明: ロック・リストへのメモリー割り振り量が十分でないために、データベースに対するロック要求が最大値に達しました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: アプリケーションは、他の SQL ステートメントの実行依頼を行う前に、COMMIT または ROLLBACK ステートメントの実行依頼を行う必要があります。使えるロック・リスト・スペースを増やすには、データベース構成パラメーター (*locklist*) の増大を検討してください。

sqlcode: -912

sqlstate: 57011

SQL0913N 実行がデッドロックまたはタイムアウトによって失敗しました。理由コード “<reason-code>”。

説明: 発行された要求が、オブジェクトの使用について未解決競合で呼び出されており、実行は失敗しました。

理由コードは以下のとおりです。

2 デッドロックのために、トランザクションが正常に実行されていません。

68 ロック・タイムアウトのために、トランザクションが正常に実行されていません。

72 トランザクションに関する DB2 データ・リンク・マネージャーに関連するエラーのために、トランザクションがロールバックされました。

80 タイムアウトのために、ステートメントが正常に実行されていません。

ユーザーの処置:

- 理由コード 80 の場合、アプリケーションを終了せずに失敗したステートメントを再試行することができます。アプリケーションが複数のリモート・データベースにアクセスする場合、グローバル・デッドロックを防ぐために、トランザクションをロールバックするのはよい方法です。
- その他の理由コードの場合、トランザクションをロールバックするように要求を出してください。

い。トランザクションは現在のトランザクション・ブランチの障害のため、コミットできません。

- デッドロックまたはロック・タイムアウトを回避する助けになるには、可能であればアプリケーションを長時間実行するための、または高速同時アクセスでデータを要求するアプリケーションには頻繁に COMMIT 操作を発行してください。

sqlcode: -913

sqlstate: 57033

SQL0917N DRDA アプリケーション・リクエスターからのリモート・バインドが失敗しました。

説明: DRDA アプリケーション・リクエスターからのリモート・バインド時にエラーが発生しました。このエラーはバインドまたはコミット処理中に発行できます。

ユーザーの処置: この問題は、エラーのため SQL ステートメントがバインドできなかったことが大体原因です。ユーザーは、エラーの原因となるステートメントを判別するため、DRDA アプリケーション・リクエスターで診断機能と相談して、それを訂正する必要があります。

sqlcode: -917

sqlstate: 42969

SQL0918N アプリケーションがロールバックを実行する必要があります。

説明: データベースの作業単位はすでにロールバックされていますが、この作業単位に入っている他のリソース・マネージャーはまだロールバックしていません。このアプリケーションの整合性を保証するために、アプリケーションがロールバックを発行するまで、すべての SQL 要求が拒否されます。

ユーザーの処置: アプリケーションがロールバック

を発行するまで、すべての SQL 要求が拒否されます。たとえば、CICS 環境の場合、これは CICS SYNCPOINT ROLLBACK コマンドになります。

sqlcode: -918

sqlstate: 51021

SQL0920N データベース・クライアント・システムのデータは、他のデータベース・クライアント・システムからはアクセスできません。

説明: ワークステーションが、クライアントまたはローカル・クライアントを持つサーバーとして構成されています。このシステムで作成されたデータベースは、他のワークステーションとは共有できません。

関数は処理されません。

ユーザーの処置: サーバー・ワークステーションからのみデータを要求してください。

sqlcode: -920

sqlstate: 57019

SQL0925N アプリケーション実行環境の SQL COMMIT が無効です。

説明: 以下の場合には、COMMIT が許されていません。

- CICS などの分散トランザクション処理環境の場合、静的 SQL COMMIT ステートメントが試みられましたが、環境特有のコミット・ステートメントが必要です。たとえば、CICS 環境の場合、これは CICS SYNCPOINT コマンドになります。
- プリコンパイルされた、または非 TP モニター環境の CONNECT 2 を使用するよう設定された DB2 アプリケーションが、静的 SQL COMMIT しか許されていないにもかかわらず、動的 SQL COMMIT を発行しました。

- ストアード・プロシージャから発行された場合、呼び出すアプリケーションが分散作業単位または分散トランザクション処理環境で実行されているときは、SQL COMMIT も許可されません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを行って、問題を解決してください。

- COMMIT を発行するステートメントを取り除いて、環境に対して有効なコミットを行うステートメントで置き換えてください。
- 非 TP モニター環境の接続タイプ 2 の場合は、静的 COMMIT のみを使用してください。
- ストアード・プロシージャの場合は、COMMIT を取り除いてください。

sqlcode: -925

sqlstate: 2D521

SQL0926N アプリケーション実行環境の SQL ROLLBACK が無効

説明: 以下の場合には、ROLLBACK が許されていません。

1. CICS などの分散トランザクション処理環境で、静的 SQL ROLLBACK ステートメントが試みられましたが、環境特有のロールバック・ステートメントが必要です。たとえば、CICS 環境の場合、これは CICS SYNCPOINT ROLLBACK コマンドになります。
2. プリコンパイルされた、または CONNECT 2 を使用するよう設定された DB2 アプリケーションが、静的 SQL ROLLBACK しか許されていないにもかかわらず、動的 SQL ROLLBACK を発行しました。
3. ストアード・プロシージャから発行された場合、呼び出すアプリケーションが分散作業単位 (CONNECT タイプ 2) または分散トランザクション処理環境で実行されているときは、SQL ROLLBACK も制限されます。

ユーザーの処置:

1. ROLLBACK を発行するステートメントを取り除いて、環境に対して有効なロールバックを行うステートメントで置き換えてください。
2. 接続タイプ 2 の場合は、静的 COMMIT のみを使用してください。
3. ストアード・プロシージャの場合は、それ自体を取り除いてください。

sqlcode: -926

sqlstate: 2D521

SQL0930N ステートメントを処理するためのストレージが足りません。

説明: 別のメモリー・ページを必要とする要求がデータベースに対して行われましたが、データベース・マネージャーが利用できるページがありません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 解決策は以下の通りです。

- システムに十分な実メモリーおよび仮想メモリーがあることを確認してください。
- バックグラウンド処理を終了してください。
- DUOW 再同期でエラーが起きた場合は、データベース・マネージャー構成パラメーターの値 *maxagents* を増やし、*resync_interval* を減らしてください。

sqlcode: -930

sqlstate: 57011

SQL0931C オペレーティング・システム・ファイル表がオーバーフローしました。後続の SQL ステートメントは処理されません。

説明: オペレーティング・システムの制限に達しました。アプリケーション・プログラムは、これ以上 SQL ステートメントを発行できません。データベースにはリカバリーが必要であるというマ

ークが付けられ、このデータベースを使用しているすべてのアプリケーションが、このデータベースにアクセスできなくなります。

ユーザーの処置: データベースを使用しているすべてのアプリケーションを終了してください。データベースを再始動してください。

この問題の再発を防ぐには、以下を行ってください。

- MAXFILOP データベース構成パラメーターを小さな値に変更してください (すると、DB2 のオペレーティング・システム・ファイル表の使用度が減少します)。
- できれば、システム・ファイルを使用しているアプリケーションを終了してください。
- オペレーティング・システム・ファイル表制限の増加方法については、オペレーティング・システムの資料を参照してください。ほとんどの UNIX 環境では、カーネル構成をより大きな値に更新すればこれを行うことができます。(AIX の場合は、使用しているマシンのメモリー容量を増やすことによってしか、これを行うことができない可能性があります。)

sqlcode: -931

sqlstate: 58005

SQL0950N 現在使用されているため、表または索引はドロップできません。

説明: オープン・カーソルが現在表または索引を使用している場合は、DROP TABLE または DROP INDEX ステートメントを発行することができません。

ステートメントは処理できません。表または索引はドロップされません。

ユーザーの処置: 必要なカーソルをすべてクローズして、ステートメントの再実行依頼を行ってください。

sqlcode: -950

sqlstate: 55006

SQL0951N 同じアプリケーション・プロセスで使用されているため、タイプ “<object-type>” のオブジェクト “<object-name>” を更新できません。

説明: ロックまたは使用中である場合、オブジェクトへの ALTER または SET INTEGRITY ステートメントを出すことはできません。

ステートメントは処理できません。このオブジェクトは更新されていません。

ユーザーの処置: オブジェクト “<object-name>” に直接的、または間接的に依存するカーソルをクローズし、ステートメントを再実行依頼してください。

sqlcode: -951

sqlstate: 55007

SQL0952N 割り込みによって、処理が取り消されました。

説明: ユーザーが割り込みキー・シーケンスを押した可能性があります。

ステートメントの処理は終了します。終了が起きる前の変更が、データベースに適用されている可能性があります。コミットされません。

連合システム・ユーザー: この状態は、データ・ソースによっても検出されることもあります。

ユーザーの処置: アプリケーションを続行してください。

サンプル・データベースをインストールしている場合は、それをドロップしてサンプル・データベースを再インストールしてください。

sqlcode: -952

sqlstate: 57014

SQL0954C ステートメントの処理に使用できる十分なストレージが、アプリケーション・ヒープにありません。

説明: アプリケーションのすべての利用可能なメモリを使いきってしまいました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: このメッセージを受け取ったアプリケーションを終了してください。アプリケーション・ヒープを増やすには、データベース構成パラメーター (*applheapsz*) を増大してください。

sqlcode: -954

sqlstate: 57011

SQL0955C ステートメントを処理するための、ソート・メモリーを割り振ることはできません。理由コード = “<reason-code>”

説明: 以下の理由コードに示されているとおり、ソート処理を行うため、データベースで使用可能な仮想メモリーが不足しています。

- 1 専用プロセス・メモリーが不十分です。
- 2 ソート処理のためのデータベース広域共用メモリー域に共用メモリーが不十分です。

このステートメントは処理されませんが、他のSQL ステートメントは処理される可能性があります。

ユーザーの処置: 以下の 1 つ以上を行ってください。

- 対応するデータベース構成ファイルのソート・ヒープ・パラメーター (*sortheap*) の値を減らしてください。
- 理由コード 1 の場合、可能であれば、使用可能な専用仮想メモリーを増やしてください。たとえば UNIX システムでは、*ulimit* コマンド

を使用してプロセス用のデータ域の最大サイズを大きくすることができます。

- 理由コード 2 の場合、(*sheapthres*) データベース・マネージャー構成パラメーターの値を大きくすることで、ソート処理のためのデータベース広域共用メモリー域を大きくしてください。

sqlcode: -955

sqlstate: 57011

SQL0956C ステートメントの処理に使用できる十分なストレージが、データベース・ヒープにありません。

説明: データベースのすべての利用可能なメモリーを使いきってしまいました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: このメッセージを受け取ったアプリケーションを終了してください。データベース・ヒープを増やすには、データベース構成パラメーター (*dbheap*) を増大してください。入出力サーバーの数が上限に近い場合は、この数を減らすことも役に立つ可能性があります。

dbheap を変更するには、以下のようなコマンドを入力します。これは、データベース *sample* の *dbheap* をサイズ 2400 に設定します。

```
db2 UPDATE DB CFG FOR sample USING DBHEAP 2400
```

データベースへの接続を切断し、変更を有効化します。

sqlcode: -956

sqlstate: 57011

SQL0958C オープンできるファイルの最大数に達しました。

説明: データベースが使用可能なファイル・ハンドルの最大数に達しました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: データベースのロケーションに許されているオープン・ファイルの最大数に影響を与えるパラメーターを増やしてください。これには、構成パラメーター (*maxfilop*) を増やして、インスタンスがもっと多くのファイル・ハンドルを使用できるようにすることと、他のセッションを終了して、使用中のファイル・ハンドルを減らすことも関与します。

sqlcode: -958

sqlstate: 57009

SQL0959C ステートメントの処理に使用できる十分なストレージが、サーバーのコミュニケーション・ヒープにありません。

説明: サーバーのコミュニケーション・ヒープのすべての利用可能なメモリーを使い切りました。

コマンドまたはステートメントは処理されません。

ユーザーの処置: このメッセージを受け取ったアプリケーションを終了してください。サーバー・ワークステーションのデータベース・マネージャー構成ファイルのコミュニケーション・ヒープ (*comheapsz*) パラメーターのサイズを増やしてください。

注:このメッセージは、Version 2 以前の DB2 のリリースにのみ適用されます。

sqlcode: -959

sqlstate: 57011

SQL0960C データベースのファイルの最大数に達しました。

説明: データベース・ファイルの最大数に達しました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: このメッセージを受け取ったアプリケーションを終了してください。すべての

活動アプリケーションをデータベースから切断した後で、もう一度データベースに接続してください。エラーが続く場合は、表、索引、またはその両方をデータベースからドロップするか、あるいはデータベースを分割してください。

サンプル・データベースをインストールしている場合は、それをドロップしてサンプル・データベースを再インストールしてください。

sqlcode: -960

sqlstate: 57011

SQL0964C データベースのトランザクション・ログがいっぱいです。

説明: トランザクション・ログのすべてのスペースを使い切ってしまいました。

2 次ログ・ファイルを持つ循環ログが使用されている場合は、2 次ログ・ファイルの割り振り及使用が試みられています。ファイル・システムにスペースがない場合は、2 次ログを使用することができません。

アーカイブ・ログが使用されている場合、ファイル・システムは、新しいログ・ファイルを収容するためのスペースを提供しません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: このメッセージ (SQLCODE) を受け取った場合は、COMMIT または ROLLBACK を実行するか、またはもう一度やり直してください。

データベースが並列アプリケーションで更新されている場合は、もう一度やり直してください。他のアプリケーションがトランザクションを終了すると、ログ・スペースが解放される場合があります。

もっと頻繁にコミット処理を行ってください。トランザクションがコミットされていない場合は、そのトランザクションがコミットされたときに、ログ・スペースが解放される場合があります。アプリケーションの設計時に、更新トランザクシ

ョンのコミット時期を考慮して、ログがいっぱいにならないようにしてください。

デッドロックが起きている場合は、より頻繁にチェックしてください。これは、データベース構成パラメーター `DLCHKTIME` を減らせば可能です。そうすれば、デッドロックを見つけることができ、すみやかにデッドロックを解決 (`ROLLBACK` を使って) して、ログ・スペースを解放することができます。

この状態が頻発する場合は、より大きなログ・ファイルを使用可能にするために、データベース構成パラメーターを増やしてください。より大きなログ・ファイルは容量を必要としますが、アプリケーションの再試行を減少させます。より大きなログ・ファイルは、より多くのスペースを必要としますが、再処理を行うためのアプリケーションの実行を減少させます。

サンプル・データベースをインストールしている場合は、それをドロップしてサンプル・データベースを再インストールしてください。

sqlcode: -964

sqlstate: 57011

SQL0965W このワークステーションのメッセージ・ファイルには、**SQL 警告** “<SQLCODE>” に対応するメッセージ・テキストがありません。警告は、オリジナル・トークン “<token list>” とともに、モジュール “<name>” から返されました。

説明: データベース・サーバーは、アプリケーションにコード “<SQLCODE>” を返しました。この警告コードは、このワークステーションのデータベース・マネージャー・ファイルのメッセージに対応していません。

ユーザーの処置: ご使用のデータベース・サーバーの資料を参照し、指定された “<SQLCODE>” の原因を判別してください。

SQL0966N データベース接続サービス・ディレクトリーに指定されたエラー・マッピング・ファイル “<name>” が見つからないか、またはオープンできません。

説明: 以下に示す条件の 1 つが成立しています。

- エラー・マッピング・ファイルが存在しません。
- エラー・マッピング・ファイルが、現在他のアプリケーションによってオープンされています。
- エラー・マッピング・ファイルが指定したパスに存在しません。
- エラー・マッピング・ファイルが壊れています。

エラー・マッピング・データは検索されませんでした。

ユーザーの処置: このファイルをオープンしているアプリケーションから解放するか、再インストールするか、またはオリジナル・ファイルを復元してください。

sqlcode: -966

sqlstate: 57013

SQL0967N データベース接続サービス・ディレクトリーに指定されたエラー・マッピング・ファイル “<name>” の形式が無効です。

説明: プログラムがエラー・マッピング・ファイルの読み取りを行っていたときに、エラーが起きました。

エラー・マッピング・データは検索されませんでした。

ユーザーの処置: エラー・マッピング・ファイルのすべての構文エラーを訂正してください。

sqlcode: -967

sqlstate: 55031

SQL0968C ファイル・システムがいっぱいです。

説明: データベースを持っているファイル・システムのいずれかがいっぱいです。このファイル・システムには、データベース・ディレクトリー、データベース・ログ・ファイル、または表スペース・コンテナが入っている可能性があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 診断ログを参照して、いっぱいになったファイル・システムを判別してください。不要なファイルを消去して、システム・スペースに空きを作ってください。データベース・ファイルは消去しないでください。さらにスペースが必要な場合は、不要な表および索引のドロップが必要になる場合があります。

unix ペース・システムでは、カレント・ユーザー ID に許可されている最大ファイル・サイズを超えたために、このディスク・フル状態になる場合があります。chuser コマンドを使用して、fsize を更新してください。リポートが必要になる場合があります。

sqlcode: -968

sqlstate: 57011

SQL0969N このワークステーションのメッセージ・ファイルには、SQL エラー “<error>” に対応するメッセージ・テキストがありません。エラーは、オリジナル・トークン “<token list>” とともに、モジュール “<name>” から戻されました。

説明: このデータベース・サーバーは、ご使用のアプリケーションに SQLCODE “<error>” を戻しました。このエラー・コードは、このワークステーションのデータベース・マネージャー・ファイルのメッセージに対応していません。

ユーザーの処置: ご使用のデータベース・サーバ

一の資料を参照し、指定された SQLCODE の原因を判別してください。データベース・サーバーの資料にある指定された処置を行い、この問題を修正してください。

連合システム・ユーザー: 失敗を引き起こしたデータ・ソースで問題を分離してください (問題判別の手引きを参照して、SQL ステートメント処理の失敗のデータ・ソースを判別してください)。データ・ソースのマニュアルで “<error>” を探してください。問題がデータに依存する場合は、エラーが起きたときに処理されていたデータを調べる必要があります。

SQL0970N システムが、読み取り専用ファイルへの書き込みを試みました。

説明: データベースによって使用されているファイルが読み取り専用とマークされているか、または存在しません。このファイルに対し、データベースには書き込みアクセスが必要です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: このメッセージ (SQLCODE) を受け取ったアプリケーションを終了してください。すべてのデータベース・ファイルが、読み取りと書き込みの両方のアクセスを許されていることを確認してください。指定されたファイル名に必要なないブランクがないかどうか調べてください。

sqlcode: -970

sqlstate: 55009

SQL0972N データベースのドライブに、正しいディスクットが入っていません。

説明: ドライブ内のディスクットが、データベース・ディスクットではありません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 必要なディスクットをドライブに挿入してください。そのドライブに存在するデータベースを使用するアプリケーションを始動し

た場合は、そのディスクットを取り除かないでください。

sqlcode: -972

sqlstate: 57019

SQL0973N ステートメントの処理に使用できる十分なストレージが、"**<heap-name>**" にありません。

説明: このヒープのすべての利用可能なメモリーを使いきってしまいました。ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: このメッセージ (SQLCODE) を受け取ったアプリケーションを終了してください。ヒープ・サイズを増やすために、"**<heap-name>**" の構成パラメーターを増やしてください。

sqlcode: -973

sqlstate: 57011

SQL0974N データベースのあるドライブがロックされています。

説明: データベースの入ったドライブがロックされていることを、システムが報告しました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ドライブをロックできる他の処理 (たとえば、CHKDSK) が、システムで実行されていないことを確認してください。やり直してください。

サンプル・データベースをインストールしている場合は、それをドロップしてサンプル・データベースを再インストールしてください。

sqlcode: -974

sqlstate: 57020

SQL0975N データベースまたはインスタンス "**<name>**" がユーザー "**<username>**" によって静止されているために、新しいトランザクションを開始できません。静止タイプ: "**<type>**"。

説明: ユーザーが使用を試みていたインスタンスまたはデータベースを、他のユーザーが静止したので、インスタンスまたはデータベースが静止状態ではなくなるまで、新しいトランザクションは使用できません。

静止タイプ "**<type>**" は、すでに静止しているインスタンスまたはデータベースを示しており、'1' がインスタンスで、'2' がデータベースです。

ユーザーの処置: 現在インスタンスまたはデータベースを静止しているユーザーに連絡して、DB2 が静止から解放される時期を尋ね、解放されたときに要求を再試行してください。

sqlcode: -975

sqlstate: 57046

SQL0976N ディスクット・ドライブのドアが開いています。

説明: データベースの入ったドライブのドアが開いた状態にあります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ドライブのドアを閉じて、やり直してください。

sqlcode: -976

sqlstate: 57021

SQL0977N COMMIT 状態が不明です。

説明: *tm_database* が、COMMIT 処理中に使用不能になったため、COMMIT の結果が不明になりました。データベースの再同期化が、*tm_database* が使用可能になったときに起きます。再同期化中に、トランザクションがロール

バックされる場合があることに注意してください。これ以降の SQL ステートメントの実行は安全に行われますが、ロックは、再同期プロセスが完了するまで保持されます。

ユーザーの処置: たとえば、CLP を使用して、*tm_database* に対する接続が可能なことを確認してください。接続できない場合は、返された SQLCODE に必要な処置にしたがって、接続が確立できることを確認してください。

sqlcode: -977

sqlstate: 40003

SQL0978N ディスケットが書き込み禁止になっています。

説明: 書き込み処理がデータベースに対して試みられましたが、データベースの入ったディスクが書き込み禁止になっています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 正しいディスクを使用していることを確認してください。必要に応じて、ディスクから保護を取り除いてください。

sqlcode: -978

sqlstate: 55009

SQL0979N NONE の SYNCPOINT で実行中のアプリケーション・プロセスの COMMIT が、"<num>" データベースに対して失敗しました。失敗には、"<alias/SQLSTATE1>"、"<alias/SQLSTATE2>"、"<alias/SQLSTATE3>"、"<alias/SQLSTATE4>" というデータベース別名と SQLSTATE の対 (最大 4 つまで返されます) が含まれます。

説明: アプリケーションが複数のデータベースに接続されており、COMMIT が発行されました

が、それらの接続の 1 つ以上に対して失敗しました。

連合システム・ユーザー: 失敗した接続が、ニックネームが使用されている連合サーバー・データベースである場合、ニックネームに必須である、データ・ソースに対するコミットが失敗します。

ユーザーの処置: 更新されるアプリケーションとデータの性質に応じて、アプリケーションが意図した変更が、すべてのデータベースにわたって整合性を持って反映されていることを確認するために、これ以上の処理の中止、失敗のログへの記録、および適切な SQL の発行が必要になる可能性があります。

COMMIT エラーによって影響を受けるデータベースの全リストが返されない場合は、全リストの診断ログを参照してください。

sqlcode: -979

sqlstate: 40003

SQL0980C ディスク・エラーが起きました。後続の SQL ステートメントは処理されません。

説明: 現在および後続の SQL ステートメントの正常な実行を妨げるディスク・エラーが起きました。アプリケーション・プログラムは、これ以上 SQL ステートメントを発行できません。たとえば、アプリケーション・プロセスに関連するリカバリー・ルーチンは、追加の SQL ステートメントを発行できません。データベースにはリカバリーが必要であるというマークが付けられ、このデータベースを使用しているすべてのアプリケーションが、このデータベースにアクセスできなくなります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 可能であれば、SQLCA からすべてのエラー情報を記録してください。データベースを使用しているすべてのアプリケーションを終了してください。エラーがハードウェア・エラーかどうかを判断し、問題判別の手引きに

解説されているハードウェア問題に対する適切な処置を取ってください。データベースを再始動してください。リカバリーが不可能な場合には、バックアップ・コピーからデータベースを復元してください。

サンプル・データベースをインストールしている場合は、それをドロップしてサンプル・データベースを再インストールしてください。

sqlcode: -980

sqlstate: 58005

SQL0982N ディスク・エラーが起きました。
ただし、後続の SQL ステートメントは処理できます。

説明: 一時システム・ファイルの処理中に、現在の SQL ステートメントの正常な実行を妨げるディスク・エラーが起きました。ただし、後続の SQL ステートメントは処理できます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: このメッセージ (SQLCODE) を受け取ったアプリケーションを終了してください。

sqlcode: -982

sqlstate: 58004

SQL0983N このトランザクション・ログは、現在のデータベースにはありません。

説明: ログ・ファイルに格納されているシグニチャーが、データベースの従属シグニチャーと一致しません。通常このエラーは、データベースが格納されているディレクトリーとは異なるディレクトリーに格納されているログ・ファイルを指定したときに起きます。ファイルのリダイレクトが行われた可能性があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ログ・ファイルに対する適切なアクセスを持つコマンドを再発行してください。

sqlcode: -983

sqlstate: 57036

SQL0984C COMMIT または ROLLBACK が失敗しました。後続の SQL ステートメントは処理されません。

説明: システム・エラーのために、コミットまたはロールバック処理が正常に処理できませんでした。アプリケーション・プログラムは、これ以上 SQL ステートメントを発行できません。たとえば、アプリケーション・プロセスに関連するリカバリー・ルーチンは、追加の SQL ステートメントを発行しない可能性があります。データベースにはリカバリーが必要であるというマークが付けられ、このデータベースを使用しているすべてのアプリケーションが、このデータベースにアクセスできなくなります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: メッセージ番号 (SQLCODE) と、可能であれば、すべての SQLCA エラー情報を記録してください。データベースを使用しているすべてのアプリケーションを終了してください。データベースを再始動してください。サンプル・データベースをインストールしている場合は、それをドロップしてサンプル・データベースを再インストールしてください。

リカバリーが不可能な場合には、バックアップ・コピーからデータベースを復元してください。

トレースが活動状態の場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから、独立トレース機能を呼び出してください。この機能の使用法については、問題判別の手引きの独立トレース機能を参照してください。以下の情報を用意して、技術サービス担当者に提供してください。

必要な情報は、以下のとおりです。

- 問題記述
- SQLCODE
- SQLCA の内容 (ある場合)

- トレース・ファイル (可能であれば)

連合システム・ユーザー: 失敗を引き起こしたデータ・ソースで問題を分離して (*DB2 問題判別の手引き*を参照して、SQL ステートメント処理の失敗のデータ・ソースを判別してください)、そのデータ・ソースに必要な診断ステップとデータベース・リカバリー手順を行ってください。データ・ソース変更の問題判別手順とデータベース・リカバリー手順には、適当なデータ・ソースのマニュアルを参照してください。

sqlcode: -984

sqlstate: 58005

SQL0985C データベース・カタログの処理中に、ファイル・エラーが起きました。データベースは使用できません。

説明: システムが、カタログ・ファイルの入出力エラーをリカバリーできません。

システムは、データベースを使用するステートメントを処理できません。

ユーザーの処置: バックアップ・コピーからデータベースを復元してください。

サンプル・データベースをインストールしている場合は、それをドロップしてサンプル・データベースを再インストールしてください。

sqlcode: -985

sqlstate: 58005

SQL0986N ユーザー表の処理中に、ファイル・エラーが起きました。データベースは使用できません。

説明: 表のデータは有効ではありません。

システムは、表を使用するステートメントを処理できません。

ユーザーの処置: データベースに不整合がある場

合は、バックアップ・バージョンからデータベースを復元してください。

サンプル・データベースをインストールしている場合は、それをドロップしてサンプル・データベースを再インストールしてください。

sqlcode: -986

sqlstate: 58004

SQL0987C アプリケーション制御共用メモリーのセットの割り振りができません。

説明: アプリケーション制御共用メモリーのセットの割り振りができません。このエラーは、操作の試行をしているデータベース・マネージャーまたは環境のいずれかに十分なメモリー・リソースがないため起きます。この問題の原因となるメモリー・リソースには、以下が含まれます。

- システムに割り振られた共用メモリーの ID 数。
- システムで使用可能なページングまたはスワップ・スペースの量。
- システムで使用可能な物理メモリー量。

ユーザーの処置: 以下の 1 つ以上を行ってください。

- データベース・マネージャー要件およびシステムで実行中の他のプログラムの要件を満たすだけの十分なメモリー・リソースが使用可能であることを確認してください。
- データベース構成パラメーター `app_ctl_heap_sz` を削減して、このメモリー・セットのデータベース・マネージャー所要量を削減してください。
- データベース構成パラメーター `dbheap`、`util_heap_sz`、および `buffpage` の 1 つまたは複数小さくしてください。割り振られたデータベース・グローバル・メモリーの量に影響するパラメーターについては、*管理の手引き*を参照してください。

- `intra_parallel` が `yes` に設定されている場合、データベース構成パラメーター `sheapthres` を小さくし、そうでなければ `intra_parallel` を `no` に設定してください。
- 該当する場合は、システムを使用している他のプログラムを停止してください。

sqlcode: -987

sqlstate: 57011

SQL0990C 索引エラーが起きました。表を再編成してください。

説明: 索引に対する活動が激しく、索引用のすべてのフリー・スペースを使いきました。

連合システム・ユーザー: この状態は、データ・ソースによっても検出されることもあります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 行った作業をコミットして、コマンドを再発行してください。エラーが続く場合は、作業をロールバックしてください。さらにエラーが続く場合は、可能であれば、表を再編成してください。

連合システム・ユーザー: 失敗を引き起こしたデータ・ソースで問題を分離し(問題判別の手引きを参照して、SQL ステートメント処理の失敗のデータ・ソースを判別してください)、そのデータ・ソースの索引再作成手順を行ってください。

SQL0992C プリコンパイルされたプログラムのリリース番号が無効です。

説明: プリコンパイルされたプログラム (パッケージ) のリリース番号が、インストールされているバージョンのデータベース・マネージャーのリリース番号との整合性を持っていません。

プリコンパイルされたプログラム (package) は、現在のバージョンのデータベース・マネージャーでは使用できません。コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 互換リリース・レベルのデータベース・マネージャーでプリコンパイルされたプログラムのみを使用してください。

sqlcode: -992

sqlstate: 51008

SQL0993W データベース構成ファイルにある、ログへの新しいパス (`newlogpath`) が無効です。

説明: ログ・ファイルへのパスが、以下のいずれかの理由で無効です。

- パスが存在しません。
- 正しい名前のファイルが指定されたパスに見つかりましたが、このデータベースのログ・ファイルではありませんでした。
- データベース・マネージャーのインスタンス ID が、パスまたはログ・ファイルへのアクセスを許可されていません。

要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: ログ・ファイルへのパスを変更するには、有効な値を持つデータベース構成コマンドを再発行してください。

sqlcode: +993

sqlstate: 01562

SQL0994N アプリケーションの保管点の使い方が無効です。

説明: アプリケーション保管点関数の使用法に矛盾があります。プログラムが、以下のいずれかを実行しようとしていました。

- 複数の活動保管点の要求。
- 活動保管点のない終了保管点呼び出しの発行。
- 活動保管点のないロールバック保管点呼び出しの発行。

関数は処理されません。

ユーザーの処置: プログラムの保管点の使い方を訂正してください。

SQL0995W ログ・ファイルへの現在のパス (logpath) が無効です。ログ・ファイル・パスはデフォルトにリセットされました。

説明: ログ・ファイルへのパスが、以下のいずれかの理由で無効です。

- パスが存在しません。
- 正しい名前のファイルが指定されたパスに見つかりましたが、このデータベースのログ・ファイルではありませんでした。
- データベース・マネージャのインスタンス ID が、パスまたはログ・ファイルへのアクセスを許可されていません。

循環ログの場合は、ログ・ファイルがデフォルト・ログ・パスに作成されます。アーカイブ・ログの場合は、次のログ・ファイルがデフォルト・ログ・パスに作成されます。要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: ログ・ファイルへのパスを変更するには、有効な値を持つ構成コマンドを再発行してください。

sqlcode: +995

sqlstate: 01563

SQL0996N 表スペースのオブジェクト用のページを解放できません。

説明: 表スペース内に壊れた内部データベース・ページ、または内部論理エラーがあります。詳細が、システム・エラー・ログとデータベース・マネージャのエラー・ログ、またはそのいずれかに記録されている場合があります。

ユーザーの処置: オブジェクトまたは表スペースの使用を続けしないでください。オブジェクトおよび表スペースを検査するために、IBM サービスに連絡してください。

sqlcode: -996

sqlstate: 58035

SQL0997W トランザクション処理に関する一般情報メッセージです。理由コード = "**<XA-reason-code>**".

説明: SQLCODE 997 は、データベース・マネージャのコンポーネント間でのみ渡され、アプリケーションへは戻されません。エラー以外の状況については、XA 戻りコードを伝達するために使用されます。理由コードは、以下のとおりです。

- XA_RDONLY (3) - トランザクション・ブランチが読み取り専用で、コミットされています。
- 64 - TM データベースが、DUOW 再同期でトランザクションがコミットされる必要があることを示しています。
- 65 - TM データベースが、DUOW 再同期でトランザクションがロールバックされる必要があることを示しています。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL0998N トランザクションまたはヒューリスティック処理中に、エラーが起きました。理由コード = "**<reason-code>**" サブコード = "**<subcode>**".

説明: 分散トランザクションを処理している時にエラーが検出されました。トランザクションは次の通りです。

- 分散トランザクション処理環境での処理 (たとえば、CICS やその他のトランザクション・マネージャからのもの)。
- ヒューリスティック操作の処理。
- 連合データベース内の複数のニックネームの更新。それぞれの更新されたニックネームが異なるデータ・ソースを表します。上記の場合、データ・ソースの 1 つがトランザクション処理中に失敗しました。この場合、返された理由コ

ードは、連合データベースではなくデータ・ソースでの障害の理由です。

考えられる理由コード (対応する X/Open XA 理由コードが括弧内に示されます) は以下の通りです。

- 01 - (XAER_ASYNC) 非同期処理がすでに未解決です。
- 02 - (XAER_RMERR) トランザクション・プランチで、リソース・マネージャーが起きました。
- 03 - (XAER_NOTA) XID が無効です。
- 04 - (XAER_INVALID) 無効な引き数が与えられました。サブコードは以下のとおりです。
 - 01 - xa_info ポインタが無効です。(たとえば、XAOpen スtringが null です)
 - 02 - データベース名が最大長を超えました。
 - 03 - ユーザー名が最大長を超えました。
 - 04 - パスワードが最大長を超えました。
 - 05 - ユーザー名は指定されていますが、パスワードがありません。
 - 06 - パスワードは指定されていますが、ユーザー名がありません。
 - 07 - xa_info Stringにパラメーターが多すぎます。
 - 08 - 複数の xa_opens が、同じデータベース名に対してさまざまな RM ID を生成しました。
 - 09 - データベース名が指定されていません。
 - 10 - exe_type が無効です。
- 05 - (XAER_PROTO) ルーチンが不適切なコンテキストで呼び出されました。
- 06 - (XAER_RMFAIL) リソース・マネージャーを使用できません。
- 07 - (XAER_DUPID) XID がすでに存在します。
- 08 - (XAER_OUTSIDE) RM がグローバル・トランザクション以外で作業中です。
- 09 - トランザクション・マネージャーの登録 (ax_reg) が失敗しました。サブコードは以下のとおりです。
 - 01 - 結合 XID が見つかりませんでした。
 - 02 - tp_mon_name 構成パラメーターに指定された動的ライブラリーが、ロードできませんでした。
- 10 - 中断中に、別のトランザクションを開始しようとしてしました。
- 12 - トランザクション・マネージャーの登録解除 (ax_unreg) が失敗しました。
- 13 - インターフェース障害: ax_reg() および ax_unreg() が見つかりません。
- 14 - Microsoft 配布の Transaction Coordinator を使用した DB2 への参加は失敗しました。MSDTC サービスがダウンしている可能性があります。現在のトランザクションを終了する必要があります。
- 35 - 非 XA データベースに対するヒューリスティック処理は無効です。
- 36 - XID がデータベース・マネージャーに認識されていません。
- 37 - トランザクションは、すでにヒューリスティックにコミットされています。
- 38 - トランザクションは、すでにヒューリスティックにロールバックされています。
- 39 - トランザクションが未確定トランザクションではありません。
- 40 - このトランザクションには、ロールバックのみが許されています。
- 41 - ノード障害のため、トランザクションは MPP 従属ノードでヒューリスティックにコミットされません。
- 69 - DUOW 再同期化中にデータベース・ログ ID の不一致が起きました。

- 85 - ヒューリスティック処理の結果、トランザクションは部分的にコミットされ、ロールバックされました。
- 210 - このトランザクションでは、ヒューリスティック・コミットのみが許可されています。ノードの中にはすでにコミット状態のものがあります。
- 221 - ホスト上の DBMS のバージョンでは、同じ XA トランザクションに関係するアプリケーションがすべて、データベースに接続するために同じユーザー ID を使用しなければなりません。
- 222 - ホスト上の DBMS のバージョンでは、同じ XA トランザクションに関係するアプリケーションがすべて、同じ CCSID を持つていなければなりません。
- 223 - DB2 コネクト XA サポートは、ローカル・クライアントに、またはインバウンド接続を設定するために TCPIP を使用しているリモート・クライアントにのみ使用可能です。
- 224 - DB2 コネクト XA サポートは、少なくともバージョン 7.1 のクライアントにのみ使用可能です。

ユーザーの処置: 理由コード 1 から 8 については、SQLCA が呼び出し元に戻されない場合があるので、システム・ログに項目が作成されます。

エラーの原因が、ニックネームに関連する、障害が起こったデータ・ソースである場合は、障害が起こったデータ・ソースの位置は必ず連合サーバーのシステム・ログに表示されます。

理由コード 4 については、xa open スtringの内容を調べて、必要な修正を行ってください。

理由コード 9、サブコード 02 については、tp_mon_name 構成パラメーターに、トランザクションの動的登録に使用される ax_reg() 関数を持つ外部製品の動的ライブラリーの名前が入っていることを確認してください。

理由コード 14 については、MSDTC サービスが活動状態であるか、確認してください。

理由コード 35 については、グローバル・トランザクションの読み取り専用リソース・マネージャーとしてのみ関連するデータベースに対して、ヒューリスティック処理の実行が試みられました。例は MVS 上の DB2 などの DRDA データベースです。これらのタイプの非 XA データベースは、XA 未確定トランザクションを持つことができません。

理由コード 36、37、38 については、未確定トランザクションで無効なヒューリスティック処理の実行が試みられました。間違った XID を指定したか、あるいはこの XID が記録された後でヒューリスティックまたは再同期処理が行われた可能性があります。まだヒューリスティック処理を実行する必要があるかどうかを確認するには、ヒューリスティック照会要求を実行して、未確定トランザクションの現在のリストを入手してください。

理由コード 39 については、終了し、2 フェーズ・コミットが始まるのを待っているトランザクションに対して、XID が指定されました。2 フェーズ・コミット・プロセスが開始され、未確定トランザクションとなったトランザクションにのみ、ヒューリスティック処理を実行することができます。

理由コード 40 については、失敗したトランザクションの下で、SQL ステートメントが試みられました。これの例は、トランザクションに関連する密結合スレッドが異常終了した後で、正常に登録されている同じトランザクション・スレッドで SQL ステートメントを試みることです。

理由コード 41 の場合、db2diag ログ・ファイルのでこの問題に関する詳細情報を調べてください。失敗したノードで、DB2 を再始動する必要があります。システム管理者に連絡して援助を求める必要がある場合があります。

理由コード 69 については、トランザクション・マネージャー (TM) データベース、リソース・マネージャー (RM) データベース、またはその両方が、未確定トランザクションが発生したときのデータベースとは異なります。換言すれば、TM デ

ータベースまたは RM データベースは異なるデータベースのインスタンスを参照することができません。ログ ID 不一致は、以下の理由によって起きる可能性があります。

- RM インスタンスでの TM データベースのデータベース・ディレクトリーが正しくありません。
- 未確定トランザクションが発生した後で、構成が変更された可能性があります。
- データベースがドロップされて、再作成された可能性があります。この場合は、ヒューリスティックに、未確定トランザクションをコミットまたはロールバックすることしかできません。

理由コード 85 については、ユーザーが複数のデータ・ソースを更新中に、いくつかのデータ・ソースがヒューリスティックにロールバック、またはコミットされ、その結果、トランザクションは部分的にコミットされ、ロールバックされます。この理由コードでは、データは矛盾した状態です。トランザクションで更新されたデータをすべて手動でチェックし、データを訂正する必要があります。

理由コード 210 の場合、すでにコミット状態であるノードがあります。未確定トランザクションを解決するには、ヒューリスティック・コミットを実行する必要があります。

理由コード 221 の場合、同じ XA トランザクションに関係するアプリケーションがすべて、データベースに接続するために同じユーザー ID を使用していることを確認してください。

理由コード 222 の場合、同じ XA トランザクションに関係するアプリケーションがすべて、同じ CCSID を持っていることを確認してください。

理由コード 223 の場合、ローカル・クライアントを使用するよう、またリモート・クライアントについては、ゲートウェイに接続するために通信

プロトコルとして TCPIP を使用するようアプリケーションおよびクライアント・セットアップを変更してください。

理由コード 224 の場合、クライアントを 7.1 またはそれ以降のバージョンに更新してください。

一般情報を収集する手順は、以下のとおりです。

理由コードで識別された問題が解決できない場合は、メッセージ番号 (SQLCODE)、理由コード、およびメッセージのオプションのサブコードまたはシステム・ログ内の SQLCA を記録してください。

障害の原因が連合データベースである場合、連合サーバーのシステム・ログで見つかる、障害が起こったデータ・ソースの位置も記録する必要があります。

トレースが活動状態の場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから、独立トレース機能呼び出ししてください。この機能の使用法については、問題判別の手引きの独立トレース機能を参照してください。以下の情報を用意して、技術サービス担当者に提供してください。

- 問題記述
- SQLCODE、組み込み理由コード、そしてサブコード
- SQLCA の内容 (可能であれば)
- トレース・ファイル (可能であれば)
- 障害が連合サーバーで起きている場合、障害が起こったデータ・ソースの位置

コンソール、あるいはトランザクション・マネージャーおよびデータベース・マネージャーのメッセージ・ログにも、追加情報がある可能性があります。

sqlcode: -998

sqlstate: 58005

SQL1000 - SQL1099

SQL1000N “<alias>” は、有効なデータベース別名ではありません。

説明: コマンドまたは api に指定された別名が、有効ではありません。別名は、1 から 8 文字 (MBCS を使用している国ではバイト) でなければならない、すべての文字を、データベース・マネージャーの基本文字セットから使用する必要があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 正しい別名を指定して、コマンドを再発行してください。

SQL1001N “<name>” は、有効なデータベース名ではありません。

説明: コマンドに指定されたデータベース名の構文が無効です。データベース名は、1 から 8 文字でなければならない、すべての文字をデータベース・マネージャーの基本文字セットから使用する必要があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 正しいデータベース名を指定して、コマンドを再発行してください。

sqlcode: -1001

sqlstate: 2E000

SQL1002N “<drive>” は、有効なドライブではありません。

説明: コマンドに指定されたドライブが無効です。ドライブは、データベースまたはデータベース・ディレクトリーが存在する、ディスクセット・ドライブまたはハード・ディスク区画を示す 1 文字 (A から Z) です。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 正しいドライブを指定して、コマンドを再発行してください。

SQL1003N 構文が正しくないためにパスワードが有効ではないか、またはパスワードが、指定されたデータベースのパスワードと一致しません。

説明: パスワードの長さは 18 文字以下です。ただし、パスワードが APPC 対話で検査される場合は、8 文字以下でなければなりません。

ユーザーの処置: パスワードが許容限界より長くないことを確認してください。

sqlcode: -1003

sqlstate: 28000

SQL1004C コマンドの処理に十分なストレージが、ファイル・システムにありません。

説明: コマンドを処理するには、指定されたファイル・システムのストレージが十分ではありません。

OS/2 および Windows 環境の区分データベース環境では、区分データベース・グループのノードにはそれぞれ、CREATE DATABASE コマンドを成功させるために使用できる (使用可能スペースが入っている) 全く同一の物理ハード・ディスク指定 (文字) がある必要があります。物理ハード・ディスクは、データベース・マネージャー構成で指定されます。このフィールドがブランクのままの場合、デフォルトは DB2 がインスタンス所有マシン (sqllib パス) にインストールされているハード・ディスクとなります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 別のファイル・システムを選択するか、またはデータベース・マネージャー機能にスペースを与えるために、指定したファイル・システムからデータベース・ファイル以外のいくつかのファイルを削除してください。

OS/2 および Windows 環境の区分データベース環

境では、次のステップに従ってください。

- どのハード・ディスク指定 (文字) が必要か決定する。ドライブ文字は、エラー・メッセージで指定されています。
- データベース区画のどのノードが問題を起こしているか判別する。インスタンス所有ノードの db2diag.log ファイルでこの情報を検索することができます。
- 問題を起こしているそれぞれのノードで、ドライブ上の問題を訂正するか、またはデータベース・マネージャ構成でのドライブ指定を変更して、区分データベース・グループのノードごとに、同じドライブが使用可能 (十分なスペースがある) となるようにしてください。
- コマンドを再発行してください。

SQL1005N データベース別名 "`<name>`" は、すでにローカル・データベース・ディレクトリーまたはシステム・データベース・ディレクトリーのどちらかに存在しています。

説明: 指定された別名は、すでに使用されています。catalog database コマンドに別名を指定しないと、データベース名が別名として使用されます。データベースの作成時には、別名はデータベース名と同じになります。

このエラーは、すでにシステム・データベース・ディレクトリーに別名が存在するのに、catalog database コマンドを出したために起きた可能性があります。

create database コマンドでこのエラーが起こった場合は、以下の可能性が考えられます。

- 別名が、すでにシステム・データベース・ディレクトリーおよびローカル・データベース・ディレクトリーに存在する。
- 別名が、すでにシステム・データベース・ディレクトリーに存在しますが、ローカル・データベース・ディレクトリーには存在しない。

- 別名が、すでにローカル・データベース・ディレクトリーに存在しますが、システム・データベース・ディレクトリーには存在しない。

ユーザーの処置: catalog database コマンドの場合は、システム・データベース・ディレクトリーから別名をアンカタログした後で、オリジナル・コマンドを再発行するか、または異なる別名でデータベースをカタログしてください。

create database コマンドの場合は、上記の 3 つの状況に応じて、以下の操作を行ってください。

- 別名を使用しているデータベースをドロップしてください。その後で、オリジナル・コマンドを再発行してください。
- 別名をアンカタログしてください。その後で、オリジナル・コマンドを再発行してください。
- 別名をシステム・データベース・ディレクトリーにカタログしてください。同じ別名を使用しているデータベースをドロップしてください。その後で、オリジナル・コマンドを再発行してください。

SQL1006N アプリケーションのコード・ページ "`<code page>`" が、データベースのコード・ページ "`<code page>`" と一致していません。

説明: データベースの活動コード・ページが、作成時の活動コード・ページと異なっているため、アプリケーションがデータベースに接続できませんでした。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 現在のアプリケーション・プログラムを終了して、オペレーティング・システムに戻ってください。プロセスのコード・ページを変更して、アプリケーション・プログラムを再始動してください。

SQL1007N 表スペースのオブジェクト用のページの検索でエラーが起きました。

説明: 表スペースの壊れた内部データベース・ページ、または内部論理エラーが存在します。詳細が、システム・エラー・ログとデータベース・マネージャーのエラー・ログ、またはそのいずれかに記録されている場合があります。

ユーザーの処置: オブジェクトまたは表スペースの使用を続けしないでください。オブジェクトおよび表スペースを検査するために、IBM サービスに連絡してください。

sqlcode: -1007

sqlstate: 58034

SQL1008N 無効な表スペース ID です。

説明: 指定された表スペース ID が存在しません。現在の最大表スペース ID より大きいか、または表スペースがドロップされています。

ユーザーの処置: データベースの使用を続けしないでください。エラー・ログの診断情報を保管して、IBM サービスに連絡してください。

sqlcode: -1008

sqlstate: 58036

SQL1009N このコマンドは無効です。

説明: このコマンドは、クライアント専用ワークステーション上、またはリモート・データベースに対する発行ではサポートされていません。このようなコマンドの例は、ローカル・データベースのカatalogです。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 解決策は以下の通りです。

- クライアント専用でないワークステーション、またはデータベースが常駐するワークステーション上で、指定したコマンドを実行してください。

- データベースが正しくカatalogされていることを確認してください。
 - 別のコマンドを実行してください。
-

SQL1010N “<type>”は無効なタイプ・パラメーターです。

説明: Database Environment コマンドに指定されたタイプが、有効ではありません。これは、間接データベースの場合は '0'、リモート・データベースの場合は '1' でなければなりません。

さらに、AIX、OS/2、Windows NT、Windows 95 プラットフォームの場合は、DCE グローバル名を持つデータベースのタイプを '3' にすることができます。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なタイプを指定して、コマンドを再発行してください。

SQL1011N 間接項目に対する CATALOG DATABASE コマンドに、パスが指定されていません。

説明: CATALOG DATABASE コマンドが、間接項目に対して発行されましたが、パスが指定されていません。間接項目は、データベースが常駐するパスを指定する必要があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 必要なパスを指定してコマンドを再発行するか、またはタイプを変更してください。

SQL1012N リモート項目に対する CATALOG DATABASE コマンドに、ノード名が指定されていません。

説明: リモート項目に対する CATALOG DATABASE コマンドに、*nodename* パラメーターが指定されていません。リモート項目は、データベースのノード名を指定する必要があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: *nodename* パラメーターまたは別のタイプを指定して、コマンドを再発行してください。

SQL1013N データベース別名またはデータベース名 “<name>” が見つかりませんでした。

説明: コマンドに指定されたデータベース名または別名が、既存のデータベースではないか、あるいはそのデータベースが (クライアントまたはサーバー) データベースでディレクトリーに見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 示されたデータベース名が、システム・データベース・ディレクトリーに存在することを確認してください。データベース名がシステム・データベース・ディレクトリーに存在しない場合は、データベースが存在しないか、またはデータベース名がカタログされていないかのどちらかです。

データベース名がシステム・データベース・ディレクトリーに存在し、項目タイプが **INDIRECT** の場合は、データベースが指定したローカル・データベース・ディレクトリーに存在することを確認してください。項目タイプが **REMOTE** の場合は、データベースが存在し、サーバー・ノードのデータベース・ディレクトリーにカタログされていることを確認してください。

AT NODE 文節をとまなう **CREATE DATABASE** の場合、データベース名が **INDIRECT** の入力タイプおよび **-1** と同等ではないカタログ・ノード番号をとまなうシステム・データベース・ディレクトリーにあることを確認してください。

連合システム・ユーザー: 上記に加えて、**SYSCAT.SERVERS** に指定されているデータベース名がすべて有効であるかどうかを検査してください。**SYSCAT.SERVERS** 項目で指定されたデータベースが存在しない項目は訂正してください。

sqlcode: -1013

sqlstate: 42705

SQL1014W 走査中のディレクトリー、ファイル、またはリストには、これ以上の項目はありません。

説明: ディレクトリー、ファイル、またはリストの走査は終了されます。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL1015N 前のセッションが正常に終了しなかったので、データベースを再始動する必要があります。

説明: 前のセッションが異常終了 (たとえば、電源障害) したために、データベースを再始動する必要があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: アプリケーションは、このメッセージ (**SQLCODE**) を受け取ったら、警告メッセージを出力して、データベースをリカバリーする時間を要求することができます。データベースを再始動するには、**RESTART DATABASE** コマンドを実行してください。区分データベース・サーバー環境では、このコマンドはすべてのノードに対して発行されます。

sqlcode: -1015

sqlstate: 55025

SQL1016N CATALOG NODE コマンドで指定された **local_lu** 別名 “<name>” は無効です。

説明: **CATALOG NODE** コマンドで指定されたローカル論理装置 (**local_lu**) 別名は使用できません。ローカル論理装置別名はローカル **SNA** 論理装置別名で、1 から 8 文字でなければならず、ブランク文字は使用できません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 別名が使用可能な論理装置名であることを確認してください。名前に使用されている文字を確認してください。有効な論理装置名を使用して、コマンドを再発行してください。

SQL1017N CATALOG NODE コマンドで指定されたモード・パラメーター “<mode>” は無効です。

説明: CATALOG NODE コマンドで指定されている *mode* パラメーターは使用できません。

mode パラメーターが、コミュニケーション・マネージャーがセッションのセットアップに使用する通信プロファイルを識別しています。モードは 1 から 8 文字でなければなりません。有効な文字は大文字または小文字の A から Z、0 から 9、#、@、および \$ です。先頭の文字は英字でなければなりません。システムは小文字を大文字に変更します。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 名前が使用可能なモード名であることを確認してください。名前に使用されている文字を確認してください。正しいモードを指定して、コマンドを再発行してください。

SQL1018N CATALOG NODE コマンドで指定されたノード名 “<name>” は、すでに存在しています。

説明: CATALOG NODE コマンドの *nodename* パラメーターに指定されているノード名は、すでにこのファイル・システムのノード・ディレクトリーにカタログされています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: *nodename* パラメーターが正しくタイプされている場合は、処理を継続してください。

ノードのカタログ情報が無効な場合は、カタログされているノードをアンカタログした後で、コマンドを再発行してください。ノードのカタログ情報が有効な場合は、新しいノード名を定義して、それを使用してコマンドを再実行してください。

SQL1019N コマンドに指定されたノード名 “<name>” が無効です。

説明: コマンドに指定されたノード名が無効です。ノード名は 1 から 8 文字で、すべての文字はデータベース・マネージャーの基本文字セットから使用する必要があります。指定されたノード名を、ローカル・インスタンス名と同一名にすることはできません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: DB2INSTANCE 環境変数の値を表示して、ノード名がローカル・インスタンス名と同一名でないことを確認してください。

UNIX オペレーティング・システムでは、次のコマンドを入力して DB2INSTANCE 環境変数を表示してください。

```
echo $DB2INSTANCE
```

Windows および OS/2 オペレーティング・システムでは、次のコマンドを入力して DB2INSTANCE 環境変数を表示してください。

```
echo %DB2INSTANCE%
```

正しいノード名を指定して、コマンドを再発行してください。

SQL1020C ノード・ディレクトリーがいっぱいです。

説明: ノード・ディレクトリーには、これ以上項目が入りません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ノード・ディレクトリー内の不要な項目をアンカタログしてください。

SQL1021N UNCATALOG NODE コマンドで指定されたノード名 “<name>” が、見つかりません。

説明: コマンドに指定された *nodename* が、ノード・ディレクトリーに見つかりませんでした。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: *nodename* パラメーターが正しい場合は、ノードがすでにアンカタログされている可能性があり、処理を継続することができます。その他の場合は、正しいノード名を使用して、コマンドを再発行してください。

SQL1022C コマンドの処理に使用できる、十分なメモリーがありません。

説明: コマンドの処理に使用できるランダム・アクセス・メモリー (RAM) が不足しています。

リモート・プロシージャが呼び出された場合は、そのリモート・プロシージャが、許容最大値 (4K) より大きなローカル可変スペースを使用する可能性があります。

ステートメントにユーザー定義関数 (UDF) が入っている場合は、*udf_mem_sz* データベース・マネージャー構成パラメーターによって制御されているメモリー・セットが、使用可能なメモリーより大きい可能性があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: アプリケーションを停止してください。 解決策は以下の通りです。

- CONFIG.SYS ファイルの MEMMAN NO SWAP、NO MOVE オプションを、SWAP、MOVE に変更してください。
- バックグラウンド処理を終了してください。
- UDF が失敗しているステートメントに関連する場合、*udf_mem_sz* の入ったメモリーの割り振りを定義する構成パラメーターの値を減らしてください。
- さらにランダム・アクセス・メモリー (RAM) をインストールしてください。
- リモート・プロシージャが呼び出された場合は、そのリモート・プロシージャが 4K 以下のローカル可変スペースを使用することを確認してください。
- リモート・データ・サービスを使用している場合は、アプリケーションごとに少なくとも 1

ブロックが使用されるので、サーバーとクライアント構成でリモート・データ・サービスのヒープ・サイズ (*rsheapsz*) を増やしてください。

- OS/2 システムの場合は、CONFIG.SYS ファイルの MEMMAN ステートメントの PROTECT を NOPROTECT に変更してください。それによって、もっと多くのメモリー・スペースがアプリケーションで使用可能になりますが、OS/2 の特定の保護機能が使用できなくなります。詳細と、これが使用環境に適切かどうかを判断するには、OS/2 の資料を参照してください。
- OS/2 システムの場合は、*min_priv_mem* データベース・マネージャー構成パラメーターの値を増やしてください。それによって、データベース・マネージャーが *db2start* 時に、もっと多くの専用メモリー・スペースを予約できます。
注: これは、Version 2 以前の DB2 のリリースにのみ適用されます。

sqlcode: -1022

sqlstate: 57011

SQL1023C 通信での対話が失敗しました。

説明: 通信による対話でエラーが起きました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: オリジナル・コマンドを再発行してください。エラーが続く場合は、通信管理者に連絡してください。

連合システム・ユーザー: この状態はデータ・ソースによっても検出できます。

sqlcode: -1023

sqlstate: 08001

SQL1024N データベース接続が存在しません。

説明: データベースに対する接続が存在しません。SQL CONNECT ステートメントが先に実行

されるまでは、他の SQL ステートメントは処理されません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: データベースからの接続中にエラーが起きた場合は、処理が続けられます。エラーが他の SQL ステートメントで起きた場合は、SQL CONNECT ステートメントを発行して、コマンドまたはステートメントの再実行依頼を行ってください。

sqlcode: -1024

sqlstate: 08003

SQL1025N データベースがまだ活動状態になっているために、データベース・マネージャーが停止されませんでした。

説明: データベース・マネージャーの制御下にあるデータベースに接続されているアプリケーションが存在する場合、あるいはデータベースが活動化されている場合には、stop database manager コマンドを処理することはできません。

何も処理されません。

ユーザーの処置: 通常、処置は必要ありません。データベース・マネージャーを停止するには、すべての活動アプリケーションを、使用しているすべてのデータベースから切り離す必要があります。この代わりに、FORCE コマンドを使用してアプリケーションを強制的に切断し、DEACTIVATE コマンドを使用してデータベースを非活動化することができます。

SQL1026N データベース・マネージャーはすでに活動状態になっています。

説明: start database manager コマンドは、すでに処理されています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: コマンドがすでに処理されているので、アプリケーションは処理を継続することができます。

SQL1027N ノード・ディレクトリーが見つかりません。

説明: ノード・ディレクトリーが見つからないため、list node directory コマンドは処理できません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 適切なパラメーターを使用して、CATALOG NODE コマンドを実行し、現在のコマンドを再発行してください。

SQL1029N CATALOG NODE コマンドで指定された partner_lu 別名 “<name>” は無効です。

説明: CATALOG NODE コマンドに指定された partner_lu 別名が、指定されていないか、または無効な文字を含んでいます。partner_lu 別名はパートナー SNA 論理装置別名で、1 から 8 文字でなければならず、ブランク文字は使用できません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: partner_lu のつづりエラーを調べてください。別名が使用可能な論理装置名であることを確認してください。別名に使用されている文字を確認してください。正しい partner_lu を使用して、コマンドを再発行してください。

SQL1030C データベース・ディレクトリーがいっぱいです。

説明: システム・データベース・ディレクトリーまたはローカル・データベース・ディレクトリーは、これ以上項目を保持できません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ディレクトリー内の不要な項目をアンカタログしてください。ローカル・データベース・ディレクトリーがいっぱいの場合は、別のファイル・システムに新しいデータベースを作成してください。

SQL1031N 指定されたファイル・システムには、データベース・ディレクトリーが見つかりません。

説明: システム・データベース・ディレクトリーまたはローカル・データベース・ディレクトリーを見つけることができませんでした。データベースが作成されていないか、または正しくカタログされていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: データベースが、正しいパスの指定で作成されていることを確認してください。Catalog Database コマンドは、データベースが常駐するディレクトリーを指定するパス・パラメーターを持っています。

sqlcode: -1031

sqlstate: 58031

SQL1032N start database manager コマンドが実行されていません。

説明: start database manager コマンドが処理されていません。データベース・マネージャー、SQL ステートメント、ユーティリティを発行する前に、このコマンドを処理する必要があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: データベース・マネージャー開始コマンドを実行して、現在のコマンドを再発行してください。

複数の論理ノードを使用している場合、DB2NODE 環境変数が正しく設定されているか、確認してください。アプリケーションのノードを示す DB2NODE 環境は接続を試行します。DB2NODE をこのアプリケーションと同じホストで定義されたノードの 1 つのノードに設定する必要があります。

sqlcode: -1032

sqlstate: 57019

SQL1033N データベース・ディレクトリーは現在使用中のためアクセスできません。

説明: データベース・ディレクトリーは現在更新中のためアクセスできません。また、データベース・ディレクトリーが何らかの理由ですでにアクセスされている場合は、更新のためにディレクトリーにアクセスすることはできません。こうした状態は、システム・データベース・ディレクトリーまたはローカル・データベース・ディレクトリーのいずれでも発生します。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: アクセスが完了するまで待ち、このコマンドを再発行してください。

sqlcode: -1033

sqlstate: 57019

SQL1034C データベースが壊れています。アプリケーションは、データベースから切断されました。データベースを処理するすべてのアプリケーションは停止しました。

説明: データベースに障害が起きました。リカバリーするまで使用できません。データベースに接続されていたすべてのアプリケーションは切断され、データベース上でアプリケーションを実行していたすべてのプロセスが停止しました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: RESTART DATABASE コマンドを実行して、データベースをリカバリーしてください。RESTART コマンドが整合性のために失敗した場合は、データベースのバックアップからの復元が必要になる可能性があります。区分データベース・サーバー環境で、syslog を検査してバックアップからデータベースを復元する前のノードまたは通信障害のために RESTART コマンドが失敗しているか検索してください。失敗している場合、データベース・マネージャーが起動していて、すべてのノード間で通信が使用可能であるこ

とを確認してから、再始動コマンドを再度実行してください。

ロールフォワード処理中にこのエラーが起きた場合は、データベースをバックアップから復元して、ロールフォワードをもう一度実行する必要があります。

区分データベース環境では、RESTART データベース・コマンドがノードごとに実行されていることに注意してください。データベースがすべてのノードで再始動しているか確認するには、次のコマンドを使用します。

```
db2_all db2 restart database <database_name>
```

このコマンドは、すべての未確定トランザクションが解決したことを確認するには、数回実行する必要があります。

サンプル・データベースをインストールしている場合は、それをドロップしてサンプル・データベースを再インストールしてください。

sqlcode: -1034

sqlstate: 58031

SQL1035N このデータベースは現在使用中です。

説明: 下記のいずれかの状態が存在します。

- 排他使用が要求されましたが、そのデータベースは、(同一プロセス内の)他のユーザーによって、共用データベースとしてすでに使用されています。
- 排他使用が要求されましたが、そのデータベースはすでに排他データベースとして使用されています。(2つの別々のプロセスが、同じデータベースにアクセスしようとしています。)
- データベースへの接続の最大数に達しました。
- データベースが、他のシステムの他のユーザーによって使用されています。
- 活動化 / 非活動化 データベースが処理中です。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 解決策は以下の通りです。

- データベースが使用中でなくなったときに、コマンドを再発行してください。
- 現在のユーザーに一致するように許可を変更するか、またはデータベースが使用中でなくなるまで待ってください。
- データベースが排他使用でなくなるまで待ってください。
- 他のシステムの他のユーザーが、データベースから切断するまで待ってください。

sqlcode: -1035

sqlstate: 57019

SQL1036C データベースのアクセス中に、入力エラーが発生しました。

説明: 少なくとも1つのデータベース・ファイルに、以下のI/Oエラーが起きました。

- システムが、データベース・ファイルのオープン、読み取り、または書き込みを行うことができません。
- システムが、データベース・ファイルまたはデータベースのディレクトリーを作成中にエラーが起きたために、データベースを作成することができません。
- システムが、データベース・ファイルまたはデータベースのディレクトリーを削除中にエラーが起きたために、データベースをドロップすることができません。
- システムがデータベース・ファイルまたはデータベースのディレクトリーを作成または削除中に割り込みを受信したため、システムはデータベースを作成できません。
- システムは接続中にデータベース・サブディレクトリーまたはデータベース構成ファイルを位置指定することはできません。

データベースは使用することができません。

ユーザーの処置: データベースを処理しているときにエラーが起きた場合は、コマンドを再発行してください。エラーが続く場合は、データベースをバックアップ・バージョンから復元してください。

CREATE DATABASE または DROP DATABASE コマンドを処理しているときにエラーが起きた場合は、後続の CREATE DATABASE または DROP DATABASE コマンドが、正常に処理されなかった CREATE DATABASE または DROP DATABASE コマンドが残したファイルおよびディレクトリーを削除しようとしています。

サンプル・データベースをインストールしている場合は、それをドロップしてサンプル・データベースを再インストールしてください。

データベースへの接続を試行中にエラーが発生した場合は、追跡結果を入手し、データベースのリカバリーができるか、弊社サポート担当者に連絡してください。

sqlcode: -1036

sqlstate: 58030

SQL1037W ノード・ディレクトリーが空です。

説明: ノード・ディレクトリーの内容を読み取ろうとしましたが、項目が存在しません。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

sqlcode: +1037

sqlstate: 01606

SQL1038C ノード・ディレクトリーにアクセス中に、入出力エラーが起きました。

説明: 入出力エラーのために、ノード・ディレクトリーがアクセスできませんでした。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: コマンドを再発行してください。エラーが続く場合は、ノード・ディレクトリー (sqllib ディレクトリーの下の sqlnodir) を取り

除いて、もう一度ノード名をネットワークにカタログしてください。

sqlcode: -1038

sqlstate: 58031

SQL1039C データベース・ディレクトリーにアクセス中に入出力エラーが発生しました。

説明: システム・データベース・ディレクトリーまたはローカル・データベース・ディレクトリーにアクセスできません。このエラーは、システムがデータベースをカタログまたはアンカタログしているときのみでなく、ディレクトリーにカタログされているデータベースにアクセスしているときにも起きる可能性があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 解決策は以下の通りです。

- ディスケット・システムでエラーが起きた場合には、正しいディスクがドライブに挿入されていて、その使用準備ができていることを確認してください。ディスクが書き込み禁止になっていないことを確認してください。
- データベース・ディレクトリーが損傷を受けている場合には、カタログされているデータベースをバックアップ・バージョンから復元して、カタログしてください。

サンプル・データベースをインストールしている場合は、それをドロップしてサンプル・データベースを再インストールしてください。

sqlcode: -1039

sqlstate: 58031

SQL1040N データベースに接続されているアプリケーションの数が、すでに最大数に達しています。

説明: データベースに接続されているアプリケーションの数が、データベースの構成ファイルに定

義されている最大値と同じです。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ほかのアプリケーションがデータベースから切断するまでお待ちください。もっと多くのアプリケーションを並行して実行する必要がある場合は、*maxappls* の値を増やしてください。すべてのアプリケーションがデータベースから切断されて、データベースが再始動されると、新しい値が反映されます。

sqlcode: -1040

sqlstate: 57030

SQL1041N 並列処理できる最大数のデータベースが、すでに始動しています。

説明: アプリケーションが、非活動データベースを始動しようとしたのですが、活動データベースの数が、システム構成ファイルに定義されている最大値に達しています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: データベースの 1 つが非活動状態になるのを待ってください。より多くのデータベースを同時に活動状態にする必要がある場合は、*numdb* の値を増やしてください。新しい値は、次のデータベース・マネージャーが正常に始動した後に反映されます。

sqlcode: -1041

sqlstate: 57032

SQL1042C 予期しないシステム・エラーが発生しました。

説明: システム・エラーが発生しました。このエラーの理由としては、データベース・マネージャーが正しくインストールされていないか、または環境が正しくセットアップされていない可能性があります。

OS/2 で、データベース・マネージャーの始動中の場合、このエラーの最も一般的な理由は、NET.ACC ファイルが壊れていることです。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーの始動中に OS/2 でエラーが起き、NET.ACC ファイルが疑わしい場合は、システムの NET.ACC ファイルを、OS/2 インストール・ディスク用の DB2 のディスク 1 にある NET.ACC で置き換えてください。

データベースへの接続中にエラーが起きた場合は、トレースを取得 (以下に指示があります) して、IBM サポートに連絡してください。

問題が上記の助言に当てはまらない場合は、システムの日付と時刻が正しく設定されていること、およびシステムが十分なメモリーを持ち、スワッピング / ページング・スペースが使用可能なことを確認してください。

現在のコマンドを再発行してください。

エラーが続く場合は、データベース・マネージャーの再始動を行ってください。

まだエラーが続く場合は、データベース・マネージャーを再インストールしてください。

トレースが活動状態の場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから、独立トレース機能呼び出ししてください。この機能の使用法については、*問題判別の手引き* の独立トレース機能を参照してください。以下の情報を用意して、技術サービス担当者に提供してください。

必要な情報は以下のとおりです。

- 問題記述
- SQLCODE またはメッセージ番号
- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

連合システム・ユーザー: 必要な場合は、要求を拒否しているデータ・ソースに問題を分離してください (障害の起きたデータ・ソースを識別する手順については、問題判別の手引きを参照してく

ださい)。問題がデータ・ソースのものである場合、データ・ソースのための問題判別手順にしたがってください。

sqlcode: -1042

sqlstate: 58004

SQL1043C データベース・マネージャーが、システム・カタログを初期化できませんでした。エラー “<error>” が返されました。

説明: システム・カタログの初期化時に、CREATE DATABASE コマンドが失敗しました。

ユーザーの処置: このメッセージのメッセージ番号 (SQLCODE) とエラー・コードを記録してください。

トレースが活動状態の場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから、独立トレース機能呼び出ししてください。この機能の使用法については、[問題判別の手引き](#)の独立トレース機能を参照してください。以下の情報を用意して、技術サービス担当者に提供してください。

- 環境: アプリケーション
- 必要な情報は以下のとおりです。
 - 問題記述
 - SQLCODE またはメッセージ番号とエラー ID
 - SQLCA の内容 (ある場合)
 - トレース・ファイル (可能であれば)

SQL1044N 割り込みによって、処理が取り消されました。

説明: ユーザーが割り込みキー・シーケンスを押した可能性があります。

処理は停止します。

連合システム・ユーザー: この状態はデータ・ソースによっても検出できます。

ユーザーの処置: 割り込みを処理するために、処理を継続してください。

サンプル・データベースをインストールしている場合は、それをドロップしてサンプル・データベースを再インストールしてください。

データベース・マネージャーを開始している場合は、DB2 コマンドを実行する前に、db2stop を発行してください。

sqlcode: -1044

sqlstate: 57014

SQL1045N データベースが、正しくカタログされていがないために見つかりません。

説明: データベース・ディレクトリーの間接項目が、別の非 HOME 項目を指しています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: directory scan コマンドを使用して、すべての関連するデータベース・ディレクトリーの項目を確認してください。

sqlcode: -1045

sqlstate: 58031

SQL1046N 許可 ID が無効です。

説明: ログオン時に指定された許可 ID が、データ・ソースまたはデータベース・マネージャーのどちらかに無効です。以下のいずれかが起きました。

- Windows プラットフォームでは 30 文字、その他のプラットフォームでは 8 文字を超える文字が許可 ID に入っています。
- 許可 ID に、許可 ID では無効な文字が入っています。有効な文字は A から Z、a から z、0 から 9、#、@ および \$ です。
- 許可 ID が、PUBLIC または public です。
- 許可 ID が、SYS、sys、IBM、ibm、SQL、または sql で始まっています。

- 権限はデータ・ソース特定命名規則に違反しています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効な許可 ID を使用して、ログオンしてください。

連合システム・ユーザー: 必要な場合は、要求を拒否しているデータ・ソースに問題を分離します。(障害の起きたデータ・ソースを識別する手順については問題判別の手引きを参照してください。) 次に、そのデータ・ソースに有効な権限 ID を使用してください。

sqlcode: -1046

sqlstate: 28000

SQL1047N このアプリケーションはほかのデータベースにすでに接続されています。

説明: アプリケーションは他のデータベースに接続されているときには、データベースを作成できません。

すでに他のデータベースに接続している場合は、データベースにバインド・ファイルをバインドすることは許されていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 活動データベースから切断して、コマンドを再発行してください。

SQL1048N **START USING DATABASE** または **CONNECT TO** コマンドの **use** パラメーター “<parameter>” は無効です。共用アクセスの場合は 'S'、排他使用の場合は 'X'、単一ノードで排他使用の場合は 'N' を使用してください。**DB2** コネクト接続の場合、**S** のみがサポートされます。**N** は **MPP** 構成でのみサポートされます。

説明: **START USING DATABASE** または **CONNECT TO** コマンドの **use** パラメーターは、共用使用時には 'S'、排他使用時には 'X' でなければなりません。**DB2** コネクトを使用してデータベースに接続している場合には、共用アクセスのみが許可されています。これらの値に対して、**SQLENV.H** ファイルで略号が提供されています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効な **use** パラメーター (略号も使用できます) を使用して、コマンドを再発行してください。

SQL1049C アプリケーション状態がエラーです。データベース接続は失われました。

説明: データベースへの接続が切り離されました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: **CONNECT RESET** ステートメントを発行してください。

SQL1050N このデータベースはホーム・データベースなので、アンカタログできません。

説明: **UNCATALOG DATABASE** コマンドに指定されたデータベースは、ホーム・データベースです。データベースがドロップされたときに、ディレクトリー項目が削除されるため、ホーム・データベースはアンカタログできません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: データベース名が正しく指定されている場合は、処理を継続してください。

SQL1051N データベース・ディレクトリーのパス “<path>” が、存在しません。

説明: コマンドの `database directory` パラメーター、またはデータベース・ディレクトリー項目に指定されたパスが無効です。その名前のファイル・システムは存在しません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: データベース・ディレクトリーの正しいパスを指定して、コマンドを再発行してください。

sqlcode: -1051

sqlstate: 57019

SQL1052N データベース・パス “<path>” が存在しません。

説明: コマンドの `path` パラメーターに指定されたパスが無効です。その名前のパスは存在しません。

OS/2 および Windows 環境の区分データベース環境では、区分データベース・グループのノードにはそれぞれ、`CREATE DATABASE` コマンドを成功させるために使用できる (使用可能スペースが入っている) 全く同一の物理ハード・ディスク指定 (文字) がある必要があります。物理ハード・ディスクは、データベース・マネージャー構成で指定されます。このフィールドがブランクのままの場合、デフォルトは `DB2` がインスタンス所有マシン (`sqllib` パス) にインストールされているハード・ディスクとなります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 正しいデータベース・パスを指定して、コマンドを再発行してください。

OS/2 および Windows 環境の区分データベース環境では、次のステップに従ってください。

- どのハード・ディスク指定 (文字) が必要か決定する。ドライブ文字は、エラー・メッセージで指定されています。
- データベース区画のどのノードが問題を起しているか判別する。インスタンス所有ノードの `db2diag.log` ファイルでこの情報を検索することができます。
- 問題を起しているそれぞれのノードで、ドライブ上の問題を訂正するか、またはデータベース・マネージャー構成でのドライブ指定を変更して、区分データベース・グループのノードごとに、同じドライブが使用可能 (十分なスペースがある) となるようにしてください。
- コマンドを再発行してください。

SQL1053N 割り込みは、すでに処理されています。

説明: システムは現在割り込みを処理しているため、他の割り込みは受け付けられません。

割り込み要求が無視されます。

ユーザーの処置: 現在の割り込み処理が終了するのを待って、コマンドを再発行してください。

SQL1054N COMMIT が進行中なので、割り込みはできません。

説明: このシステムは、現在 `COMMIT` を処理しています。ユーザーが割り込みキー・シーケンスを入力しました。

割り込み要求が無視されます。

連合システム・ユーザー: この状態はデータ・ソースによっても検出できます。

ユーザーの処置: `COMMIT` 終了するまで待って、割り込み要求の再実行依頼を行ってください。

SQL1055N ROLLBACK が進行中なので、割り込みはできません。

説明: このシステムは、現在 ROLLBACK を処理しています。ユーザーが割り込みキー・シーケンスを入力しました。

割り込み要求が無視されます。

連合システム・ユーザー: この状態はデータ・ソースによっても検出できます。

ユーザーの処置: ROLLBACK が終了するまで待って、割り込み要求の再実行依頼を行ってください。

SQL1056N すでに 8 つのデータベース・ディレクトリー走査がオープンしていません。

説明: このプロセスの 8 つのデータベース・ディレクトリー走査は、すでにオープンされています。8 つ以上の走査のオープンは許されています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 1 つ以上の CLOSE DIRECTORY SCAN コマンドを実行して、オリジナル・コマンドを再発行してください。

sqlcode: -1056

sqlstate: 54029

SQL1057W システム・データベース・ディレクトリーが空です。

説明: システム・データベース・ディレクトリーの内容を読み取ろうとしましたが、項目が存在しませんでした。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

sqlcode: +1057

sqlstate: 01606

SQL1058N Directory Scan コマンドの handle パラメーターが無効です。

説明: Directory Scan コマンドに指定されている handle パラメーターが有効ではありません。

handle は、OPEN DIRECTORY SCAN または OPEN NODE DIRECTORY SCAN コマンドから返されたものでなければなりません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効な handle パラメーターを指定して、コマンドを再発行してください。

SQL1059N Open Scan コマンドが出されていないために、Get Next コマンドが処理できません。

説明: 走査をオープンする前に、directory scan コマンドが実行されました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: OPEN DIRECTORY SCAN または OPEN NODE DIRECTORY SCAN コマンドを実行して、現在のコマンドを再発行してください。

SQL1060N ユーザー “<authorization-ID>” は CONNECT 特権を持っていません。

説明: 示された許可 ID には、データベースにアクセスするための CONNECT 特権が与えられていません。データベースに接続する前に、CONNECT 特権を授与される必要があります。

連合システム・ユーザー: この状態はデータ・ソースによっても検出できます。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: データベースのシステム管理者またはデータベース管理者に連絡して、許可 ID に対して GRANT CONNECT 要求を発行してください。コマンドを再発行してください。

連合システム・ユーザー: 必要な場合は、要求を

拒否しているデータ・ソースに問題を分離します (障害の起きたデータ・ソースを識別する手順については問題判別の手引きを参照してください)。次に、そのデータ・ソースに授与された特権が正しいものであるかどうかを確認してください。

sqlcode: -1060

sqlstate: 08004

SQL1061W RESTART は正常に終了しましたが、データベースに対する未確定トランザクションが存在しています。

説明: 未確定トランザクションが見つかったことを除いて、RESTART は正常に終了しました。データベースは使用可能ですが、データベースへの最後の接続をドロップする前に、未確定のトランザクションを解決しないと、次にデータベースを使用する前に、再び RESTART が必要になります。

ユーザーの処置: 未確定トランザクションを解決するか、またはデータベースを使用するときは常に、データベースの RESTART を準備してください。(XA/DTP 環境で) データベースを使用していたトランザクション・マネージャー (TM) が使用可能な場合は、管理者が TM を使用して、未確定トランザクションを解決する必要があります。または、十分に注意して、管理者が CLP を使用して、トランザクションをヒューリスティックに完了することもできます。

区分データベース・サーバー環境では、RESTART データベース・コマンドがノードごとに実行されていることに注意してください。データベースをすべてのノードで再始動するには、次のコマンドを使用してください。

```
db2_all db2 restart database <database_name>
```

このコマンドを実行すると、すべてのノードが使用中の場合、未確定トランザクションを解決します。

このコマンドは、すべての未確定トランザクションが解決したことを確認するには、数回実行する必要があります。

SQL1062N データベース・パス “<path>” が見つかりませんでした。

説明: コマンドで指定されたデータベース *path* パラメーターが存在しません。パスが指定されていない場合は、システム構成ファイルに定義されているデフォルト・パスが使用され、それが存在しませんでした。

OS/2 および Windows 環境の区分データベース環境では、区分データベース・グループのノードにはそれぞれ、CREATE DATABASE コマンドを成功させるために使用できる (使用可能スペースが入っている) 全く同一の物理ハード・ディスク指定 (文字) があります。物理ハード・ディスクは、データベース・マネージャー構成で指定されます。このフィールドがブランクのままの場合、デフォルトは DB2 がインスタンス所有マシン (sqllib パス) にインストールされているハード・ディスクとなります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: パスまたはデフォルト・パスを調べて、システムに存在することを確認してください。コマンドを再発行してください。

OS/2 および Windows 環境の区分データベース環境では、次のステップに従ってください。

- どのハード・ディスク指定 (文字) が必要か決定する。ドライブ文字は、エラー・メッセージで指定されています。
- データベース区画のどのノードが問題を起こしているか判別する。インスタンス所有ノードの db2diag.log ファイルでこの情報を検索することができます。
- 問題を起こしているそれぞれのノードで、ドライブ上の問題を訂正するか、またはデータベース・マネージャー構成でのドライブ指定を変更して、区分データベース・グループのノードご

とに、同じドライブが使用可能 (十分なスペースがある) となるようにしてください。

- コマンドを再発行してください。

SQL1063N データベース・マネージャーの始動処理が正常に終了しました。

説明: データベース・マネージャーを始動させるコマンドが、正常に終了しました。

SQL1064N データベース・マネージャーの停止処理が正常に終了しました。

説明: データベース・マネージャーを停止させるコマンドが、正常に終了しました。

SQL1065W データベースは作成されましたが、リスト “<list-name>” 内の 1 つ以上のバインド・ファイルでエラーが起きました。“<list>” のファイルはバインドされませんでした。

説明: 1 つ以上のユーティリティが、データベースにバインドされませんでした。リスト・ファイル “<list-name>” には、バインド・ファイルのリストが入っています。“<list>” の番号は、リスト・ファイル内のバインドされていないファイルの相対位置を示します。

リストされているユーティリティ・バインド・ファイルは、新しく作成されたデータベースへはバインドされません。

ユーザーの処置: 示されたユーティリティは、データベースにバインドできる可能性があります。バインド・プログラム呼び出しでは、format オプションは使用できません。

SQL1066N DB2START 処理が正常に終了しました。IPX/SPX プロトコル・サポートは正常に始動されませんでした。

説明: IPX/SPX プロトコル・サポートの始動に失敗しました。リモート・クライアントは

IPX/SPX を使用して、サーバーに接続することができません。考えられる原因は以下のとおりです。

- ワークステーションが、NetWare ファイル・サーバーにログインしていません。
- ワークステーションが、NetWare ファイル・サーバー・バインダリーにオブジェクトを作成するための許可を持っていません。
- ネットワークの別のデータベース・マネージャーが、データベース・マネージャー構成ファイルに指定されているオブジェクト名と同じ名前を使用しています。

ユーザーの処置: ワークステーションが NetWare ファイル・サーバーにログインしており、ファイル・サーバーのバインダリーに、オブジェクトを作成するための十分な許可を持っていることを確認してください。SUPERVISOR またはそれと同等の ID でログインする必要があります。また、データベース・マネージャー構成ファイルに指定されているオブジェクト名が、ネットワーク内のすべてのデータベース・マネージャーに対して固有であることも確認してください。訂正を行って、DB2STOP を実行した後で、もう一度 DB2START を実行してください。

問題が続く場合は、オペレーティング・システム・コマンド・プロンプトに、DB2TRC ON -L 0X100000 をタイプしてください。DB2START を再実行した後で、コマンド・プロンプトに、“DB2TRC DUMP ファイル名” をタイプして、トレース情報を保管してください。トレースをオフにするには、DB2TRC OFF をタイプしてください。トレース情報をサービス・コーディネーターに渡してください。

SQL1067N DB2STOP 処理が正常に終了しました。IPX/SPX プロトコル・サポートは正常に停止されませんでした。

説明: IPX/SPX プロトコル・サポートの停止に失敗しました。考えられる原因は以下のとおりです。

- ワークステーションが、NetWare ファイル・サーバーにログインしていません。
- ワークステーションが、NetWare ファイル・サーバー・バインドリーのオブジェクトを削除するための権限を持っていません。

ユーザーの処置: ワークステーションが NetWare ファイル・サーバーにログインしており、ファイル・サーバーのバインドリーのオブジェクトを削除するための十分な権限を持っていることを確認してください。SUPERVISOR またはそれと同等の ID でログインする必要があります。訂正を行って、もう一度 DB2STOP を実行してください。

問題が続く場合は、オペレーティング・システム・コマンド・プロンプトに、DB2TRC ON -L 0X100000 をタイプしてください。DB2STOP を再実行した後で、コマンド・プロンプトに、“DB2TRC DUMP ファイル名” をタイプして、トレース情報を保管してください。トレースをオフにするには、DB2TRC OFF をタイプしてください。トレース情報をサービス・コーディネーターに渡してください。

SQL1068N CONNECT または ATTACH ステートメントのユーザー ID “<user-ID>” を所有しているドメインが、DB2DOMAINLIST 環境変数に定義されていません。

説明: CONNECT TO または ATTACH TO ステートメントのユーザー ID が、DB2DOMAINLIST 環境変数に定義されているドメインに属していません。

ユーザーの処置: DB2SET コマンドを使用し

て、そのユーザー ID を所有しているドメインの名前を DB2DOMAINLIST 環境変数に指定してください。

sqlcode: -1068

sqlstate: 08004

SQL1069N データベース “<name>” は、ホーム・データベースではありません。

説明: データベースがローカル・データベースではありません。ローカル・データベースは、システム・データベース・ディレクトリーに間接的にカタログされており、この項目が、同じノードのローカル・データベース・ディレクトリーのホーム項目を示しています。リモート・データベースはドロップできません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 示されたデータベース名が正しくない場合は、正しいデータベース名を使用して、コマンドを再実行してください。示されたデータベース名が正しく、そのデータベース名をデータベース・ディレクトリーから消去したい場合は、UNCATALOG DATABASE コマンドを使用してください。

SQL1070N database name パラメーターのアドレスが無効です。

説明: アプリケーション・プログラムが、database name パラメーターに無効なアドレスを使用しました。そのアドレスが割り振られていないバッファーを指しているか、またはそのバッファー内の文字ストリングにヌル終止符がありません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: アプリケーション・プログラムを修正して、有効なアドレスを使用し、入力ストリングが NULL で終了するようにしてください。

SQL1071N database alias パラメーターのアドレスが無効です。

説明: アプリケーション・プログラムが、このパラメーターに無効なアドレスを使用しました。そのアドレスが割り振られていないバッファを指しているか、またはそのバッファ内の文字ストリングにヌル終止符がありません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なアドレスがアプリケーション・プログラムで使用され、入力ストリングがヌルで終了していることを確認してください。

SQL1072C データベース・マネージャー・リソースが、不整合状態にあります。データベース・マネージャーが異常終了したか、あるいは他のアプリケーションによるシステム・リソースの使用が、データベース・マネージャーが使用しているシステム・リソースと競合している可能性があります。システム・リソースのクリーンアップが必要になる場合があります。

説明: データベース・マネージャー・リソースが不整合状態にあるために、要求が失敗しました。以下の場合に、これが起きる可能性があります。

- DB2 が異常終了した (UNIX ベース・システムの場合、たとえば、プロセスが `stop database manager` コマンドではなく、“kill” コマンドで終了した場合に、これが起きる可能性があります)。
- 他のアプリケーションまたはユーザーが、データベース・マネージャー・リソースを取り除いた (UNIX ベース・システムの場合、たとえば、十分な特権を持つユーザーが、データベース・マネージャーが所有しているプロセス間通信 (IPC) リソースを、誤って “ipcrm” コマンドで除去した可能性があります)。

- 他のアプリケーションによるシステム・リソースの使用法が、データベース・マネージャーによるシステム・リソースの使用法と矛盾している (UNIX ベース・システムの場合、別のアプリケーションが、データベース・マネージャーで IPC リソースの作成に使用したキーと同じキーを使用している可能性があります)。
- データベース・マネージャーの別のインスタンスが、同じリソースを使用している可能性がある。2 つのインスタンスが異なったファイル・システム上にあつて、複数の `sqlib` ディレクトリーが同じ `i` ノードを偶然もっている (`i` ノードは IPC キーを獲得するために使用される) 場合に、UNIX ベース・システムでこれが起こることがあります。

ユーザーの処置: リソースのクリーンアップが必要になる可能性があります。

- インスタンス ID の下で実行中のすべてのデータベース・マネージャー・プロセスを取り除いてください (UNIX ベース・システムの場合、“`ps -eaf -u <instance id> | grep db2`” を使用すると、インスタンス ID の下で実行中のすべてのデータベース・マネージャー・プロセスをリストすることができ、“`kill -9 <process id>`” コマンドを使用すると、それらを取り除くことができます)。
- インスタンス ID の下で実行されているアプリケーションが他に存在しないことを確認した後で、そのインスタンス ID が所有しているすべてのリソースを取り除いてください (UNIX ベース・システムの場合、“`ipcs | grep <instance id>`” コマンドを使用すると、インスタンス ID が所有しているすべての IPC リソースをリストすることができ、“`ipcrm -[q]mls <id>`” コマンドを使用すると、それらを取り除くことができます)。
- データベース・マネージャーの他のインスタンスが実行中の場合は、`i` ノード競合が発生する可能性があります。これは、2 つのインスタンスを同時に活動状態にすることはできませんが、個別に開始できることを示しています。い

いずれかのインスタンスの IPC キーの生成に使用される `i` ノードを変更する必要があります。単一ノード・インスタンスの場合は、`sqllib directory` からインスタンス所有者として以下を行います。

- `.ftok` ファイルを削除する
`rm .ftok`
- 新しい `.ftok` ファイルを作成する
`touch .ftok`

マルチノード・インスタンスの場合は、インスタンス所有者として以下を行います。

- `sqllib` と同じレベルで別のディレクトリーを作成する。
 - `sqllib` のもとにあるすべてのものを新しいディレクトリーに移動する。
 - `sqllib` を削除する。
 - 新しいディレクトリーを `sqllib` の名前に変更する。
- データベース・マネージャー・インスタンスを再始動してください。

SQL1073N ノード・ディレクトリーのリリース番号が正しくありません。

説明: ノード・ディレクトリーのリリース番号が、製品で使用可能なリリース番号と一致しません。ノード・ディレクトリーが、以前のリリースで作成されたものと思われます。

ユーザーの処置: すべてのノード項目を再カタログして、コマンドを再発行してください。

SQL1074N `password` パラメーターのアドレスが無効です。

説明: アプリケーション・プログラムが、このパラメーターに無効なアドレスを使用しました。そのアドレスが割り振られていないバッファーを指しているか、またはそのバッファー内の文字ストリングにヌル終止符がありません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なアドレスがアプリケーション・プログラムで使用され、入カストリングがヌルで終了していることを確認してください。

SQL1075N `database comment` パラメーターのアドレスが無効です。

説明: アプリケーション・プログラムが、このパラメーターに無効なアドレスを使用しました。そのアドレスが割り振られていないバッファーを指しているか、またはそのバッファー内の文字ストリングにヌル終止符がありません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なアドレスがアプリケーション・プログラムで使用され、入カストリングがヌルで終了していることを確認してください。

SQL1076N `count` パラメーターのアドレスが無効です。

説明: アプリケーション・プログラムが、`count` パラメーターに無効なアドレスを使用しました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なアドレスが、アプリケーション・プログラムで使用されていることを確認してください。

SQL1077N `handle` パラメーターのアドレスが無効です。

説明: アプリケーション・プログラムが、`handle` パラメーターに無効なアドレスを使用しました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なアドレスが、アプリケーション・プログラムで使用されていることを確認してください。

SQL1078N **buffer** パラメーターのアドレスが無効です。

説明: アプリケーション・プログラムが、*buffer* パラメーターに無効なアドレスを使用しました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なアドレスが、アプリケーション・プログラムで使用されていることを確認してください。

SQL1079N **nodename** パラメーターのアドレスが無効です。

説明: アプリケーション・プログラムが、無効な *nname* パラメーター・アドレスを使用しました。そのアドレスが割り振られていないバッファを指しているか、またはそのバッファ内の文字ストリングにヌル終止符がありません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なアドレスがアプリケーション・プログラムで使用され、入力ストリングがヌルで終了していることを確認してください。

SQL1080N **local_lu name** パラメーターのアドレスが無効です。

説明: アプリケーション・プログラムが、*local_lu name* パラメーターに無効なアドレスを使用しました。そのアドレスが割り振られていないバッファを指しているか、またはそのバッファ内の文字ストリングにヌル終止符がありません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なアドレスがアプリケーション・プログラムで使用され、入力ストリングがヌルで終了していることを確認してください。

SQL1081N **partner_lu** パラメーターのアドレスが無効です。

説明: アプリケーション・プログラムが、*partner_lu* パラメーターに無効なアドレスを使用しました。そのアドレスが割り振られていないバッファを指しているか、またはそのバッファ内の文字ストリングにヌル終止符がありません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なアドレスがアプリケーション・プログラムで使用され、入力ストリングがヌルで終了していることを確認してください。

SQL1082N **mode** パラメーターのアドレスが無効です。

説明: アプリケーション・プログラムが、*mode* パラメーターに無効なアドレスを使用しました。そのアドレスが割り振られていないバッファを指しているか、またはそのバッファ内の文字ストリングにヌル終止符がありません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なアドレスがアプリケーション・プログラムで使用され、入力ストリングがヌルで終了していることを確認してください。

SQL1083N データベース記述ブロックが処理できません。理由コード
=“<reason-code>”

説明: アプリケーションが CREATE DATABASE コマンドを実行しましたが、データベース記述ブロック (DBDB) が、以下のいずれかの理由コードで処理できませんでした。

- DBDB のアドレスが無効です (理由コード 01)。
- DBDB の「SQLDBDID」フィールドの値が無効です (理由コード 02)。これは、値 SQLDBDB1 に設定される必要があります。
- DBDB の「SQLDBCSS」フィールドの値が無効です (理由コード 04)。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: エラーを訂正して、コマンドを再発行してください。

SQL1084C 共有メモリー・セグメントを割り振ることができません。

説明: データベース・マネージャーが、Database Environment コマンドまたは SQL CONNECT ステートメントの処理中に、セグメントを割り振ることができませんでした。

dbheap パラメーターが小さすぎる可能性があります。

ユーザーの処置: メッセージ番号 (SQLCODE) を記録してください。このエラーの原因としては、データベース・マネージャー、またはデータベース・マネージャーの処理が試みられていた環境に、十分なリソースが存在しなかった可能性があります。データベース・マネージャーの要求を満足するための十分なメモリー・リソースが、使用可能なことを確認してください。活動状態である必要がないバックグラウンド・プロセスのクローズも必要になる場合があります。

十分なメモリー・リソースがあってもこの問題が続く場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトで、独立トレース機能呼び出してください。この機能の使用法については、*問題判別の手引き* の独立トレース機能を参照してください。以下の情報を用意して、技術サービス担当者に提供してください。

必要な情報は以下のとおりです。

- 問題記述
- SQLCODE またはメッセージ番号
- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

sqlcode: -1084

sqlstate: 57019

SQL1085N アプリケーション・ヒープを割り振ることができません。

説明: データベース構成ファイルに指定された 4K ページ単位のアプリケーション・ヒープを、データベース・マネージャーが割り振ることができなかったため、アプリケーションはデータベースに接続することができませんでした。システムに 4K ページがありません。コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 解決策は以下のとおりです。

- データベース構成ファイル内のアプリケーション・ヒープの大きさ (applheapsz) を減らしてください。
- データベース構成ファイル内のアプリケーションの最大数を減らしてください。
- バックグラウンド処理を終了してください。
- メモリーを増やしてください。

sqlcode: -1085

sqlstate: 57019

SQL1086C オペレーティング・システム・エラー “<error>” が起きました。

説明: コマンドが、オペレーティング・システムからエラーを受け取ったために、これ以上処理を続けることができません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: オペレーティング・システムのユーザー・マニュアルを参照して、エラーの詳細を解析してください。

SQL1087W データベースは作成されましたが、リスト・ファイル “<name>” のオープン中にエラーが起きました。ユーティリティーはデータベースにバインドされません。

説明: CREATE DATABASE は、ユーティリティー・バインド・ファイルのリストが入っている

リスト・ファイルをオープンできませんでした。
リスト・ファイルは *sqllib* サブディレクトリーの
bnd サブディレクトリーに置いてください。

ユーティリティー・バインド・ファイルは、新しく作成されたデータベースへはバインドされません。

ユーザーの処置: ユーティリティーをデータベースにバインドしてください。バインド・プログラム呼び出しには *format* オプションを使用しないでください。

SQL1088W データベースは作成されましたが、ユーティリティーのバインド中にエラーが起きました。ユーティリティーはデータベースにバインドされません。

説明: CREATE DATABASE または MIGRATE DATABASE が、ユーティリティー・バインド・ファイルをデータベースにバインドできませんでした。

ユーティリティー・バインド・ファイルは、新しく作成されたデータベースまたはマイグレーションされたデータベースにはバインドされません。

ユーザーの処置: ユーティリティーをデータベースにバインドしてください。バインド・プログラム呼び出しには *format* オプションを使用しないでください。

SQL1089W データベースは作成されましたが、ユーティリティーのバインドに中断が起きました。ユーティリティーはデータベースにバインドされません。

説明: データベースへユーティリティーをバインド中に、CREATE DATABASE コマンドが割り込みを受けました。割り込みキー・シーケンスが押された可能性があります。

ユーティリティー・バインド・ファイルは、新しく

作成されたデータベースへはバインドされません。

ユーザーの処置: ユーティリティーをデータベースにバインドしてください。バインド・プログラム呼び出しには *format* オプションを使用しないでください。

SQL1090C プリコンパイルされたアプリケーション・プログラムまたはユーティリティーのリリース番号が無効です。

説明: プリコンパイルされたアプリケーション・プログラムまたはユーティリティーのリリース番号が、インストールされているデータベース・マネージャーのリリース番号と互換ではありません。

アプリケーション・プログラムが、前のレベルのデータベース・マネージャー・ライブラリーまたは DLL を、データベース・マネージャー構成ファイルのインストール・バージョンにアクセス中に使用する場合は、エラーが発生する可能性があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: アプリケーション・プロセスに対して選択されたデータベース・マネージャー・ライブラリーのバージョンまたは DLL が前のもの (古い) ではないことを検査してください。

問題が続行する場合は、現在のデータベース・マネージャーを使用して、プリコンパイル・プロセスを繰り返してください。互換リリース・レベルのデータベース・マネージャーでプリコンパイルされたアプリケーション・プログラムのみを使用してください。

SQL1091C データベースのリリース番号が無効です。

説明: データベースのリリース番号が、インストールされているバージョンのデータベース・マネージャーのリリース番号と互換性がありません。これはデータベースが作成されたときのリリース

番号、データベースが最後にマイグレーションされたときのリリース番号、またはカタログに定義されている最新のバージョン、リリース、変更、フィックスバック・レベルである可能性があります。

コマンドは処理されません。マイグレーションまたは復元中にエラーが起きた場合は、互換性のないリリースのデータベースをマイグレーションまたは復元しようとしています。エラーがフィックスバックの除去後の最初の接続で発生した場合は、より高いレベルのデータベース・マネージャー・コードを使用することを定義されているデータベースに接続しようとしています。

ユーザーの処置: 互換性のあるリリースのデータベース・マネージャーを使用して作成されたデータベースだけを使用してください。マイグレーションまたは復元中にエラーが起きた場合は、最初に、現行リリースのデータベース・マネージャーでマイグレーションできるリリースに、データベースをマイグレーションする必要があります。エラーがフィックスバックの除去後の最初の接続で発生した場合は、ユーティリティを使用してデータベースをフィックスバック・レベルに更新する前にデータベースをバックアップから復元する必要があります。

sqlcode: -1091

sqlstate: 08004

SQL1092N “<authorization-ID>” には要求されたコマンドを実行する権限がありません。

説明: そのコマンドまたは処理に対する適切な権限を持たずに、コマンドまたは処理を実行しようとしました。

コマンドは処理されません。

連合システム・ユーザー: この状態はデータ・ソースによっても検出できます。

ユーザーの処置: 正しい権限を持つユーザーとしてログオンして、失敗したコマンドまたは処理を

やり直してください。正しい権限には、SYSADM、SYSCTRL、SYSMAINT、DBADM が含まれます。DBADM はデータベースに授与され、他のすべての権限は、データベース・マネージャー構成に定義されているグループのメンバーによって決定されます (たとえば、データベース・マネージャー構成ファイルの *sysctrl_group* が、'beatles' として定義されている場合、SYSCTRL 権限を得るには、グループ 'beatles' に属している必要があります)。試みられたコマンドまたは操作に必要な権限のリストについては、コマンド解説書 または *SQL 解説書* を参照してください。

Windows 2000 環境でケルベロス認証を使用している場合、ドメイン・アカウントでマシンにログオンしていることを確認してください。Windows 環境では、ドメイン・ユーザーだけがケルベロス認証を使用できます。

LDAP サポートを使用している場合、ユーザーが DB2 コネクト・ゲートウェイが CATALOG DATABASE、NODE および DCS DATABASE コマンドを実行する権限があることを確認してください。クライアントまたはゲートウェイで "UPDATE DBM CFG USING CATALOG_NOAUTH YES" コマンドを呼び出して、この問題を訂正してください。

連合システム・ユーザー: 必要な場合は、要求を拒否しているデータ・ソースに問題を分離します (障害の起きたデータ・ソースを識別する手順については問題判別の手引きを参照してください)。次に、指定された権限 ID がそのデータ・ソースに適切な権限であるかどうかを確認してください。

権限の要求については、システム管理者に連絡してください。適切な許可を持たずに、コマンドを実行しないでください。

SQL1093N ユーザーはログオンしていません。

説明: ユーザーは、権限を必要とするコマンドが処理される前に、ログオンしておく必要があります。このエラーの原因には、以下が含まれます。

- ユーザー ID が取得できない。
- ログオン時に、予期しないオペレーティング・システムのエラーが起きた。
- アプリケーションがバックグラウンド・プロセスで実行されている。
- ユーザーがログオンを取り消した。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なユーザー ID でログオンして、コマンドを再発行してください。さまざまな並列プロセスがログオンを要求しているときは、数秒待ってから、ログオン手順を繰り返してください。

sqlcode: -1093

sqlstate: 51017

SQL1094N ノード・ディレクトリーは更新中なので、アクセスできません。

説明: ノード・ディレクトリーの更新中は、ノード・ディレクトリーを走査することも、使用することもできません。また、データベース・ディレクトリーが何らかの理由ですでにアクセスされている場合は、更新のためにディレクトリーにアクセスすることはできません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 更新が完了してからコマンドを再発行してください。

sqlcode: -1094

sqlstate: 57009

SQL1095N すでに 8 つのノード・ディレクトリー走査がオープンしています。

説明: 8 つのノード・ディレクトリー走査がこのプロセスでオープンされており、これ以上走査をオープンすることはできません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 1 つ以上の CLOSE NODE

DIRECTORY SCAN コマンドを実行してください。コマンドを再発行してください。

sqlcode: -1095

sqlstate: 54029

SQL1096N このコマンドは、このノード・タイプには無効です。

説明: コマンドをサポートしないノードでコマンドが実行されたか、またはこのノード・タイプを正しくセットアップしていないシステム環境が見つかりました。たとえば、データベースが、クライアント・ノードで LOCAL としてカタログされています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: コマンドおよびパラメーターが、ノード・タイプに対して正しいことを確認してください。また、コマンドが処理される環境が正しいことを確認してください。コマンドを再発行してください。

SQL1097N ノード名がノード・ディレクトリーにありません。

説明: リモート・データベースのデータベース・ディレクトリーにリストされているノード名、または付加するコマンドに指定されているノード名が、ノード・ディレクトリーにカタログされていません。

コマンドは処理されません。

連合システム・ユーザー: この状態はデータ・ソースによっても検出できます。

ユーザーの処置: データベース・ディレクトリーにリストされているノード名、または付加コマンドの対象のノード名が、ノード・ディレクトリーにカタログされていることを確認してください。ノードがノード・ディレクトリーにリストされない場合は、CATALOG NODE コマンドを発行してください。

連合システム・ユーザー: 上記でリストされたア

クシオンに加えて、すべての SYSCAT.SERVERS 項目にリストされたノード名が正しいことを検証してください。ノードがノード・ディレクトリーにリストされず、サーバーが DB2 ファミリーのメンバーである場合は、そのノードに CATALOG NODE コマンドを実行してください。

sqlcode: -1097

sqlstate: 42720

SQL1098N このデータベースには、アプリケーションがすでに接続されています。

説明: データベースへの接続が要求されましたが、アプリケーションは指定されたデータベースにすでに接続されています。

コマンドは処理されません。

SQL1100 - SQL1199

SQL1100W **Catalog Database** コマンドに指定されたノード名 “<name>” が、ノード・ディレクトリーにカタログされていません。

説明: Catalog Database コマンドがノード名 “<name>” を指定しましたが、ノード・ディレクトリーにカタログされていません。リモート・データベースを使用する前に、ノード名をカタログする必要があります。

CATALOG DATABASE コマンドは正常に処理されます。

ユーザーの処置: CATALOG NODE コマンドを実行してください。

SQL1101N ノード “<node-name>” のリモート・データベース “<name>” には、指定された許可 ID とパスワードではアクセスできません。

説明: ノード “<node-name>” 上のリモート・データベース “<name>” への接続が要求されましたが、このノードに対して指定された許可 ID とパ

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

sqlcode: -1098

sqlstate: 53056

SQL1099N ディスケットが書き込み禁止になっています。

説明: 書き込み操作が、書き込み禁止になっているディスク内のデータベースに対して試みられました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 正しいディスクを使用していることを確認してください。必要に応じて、ディスクから保護を取り除いてください。

スワードの組み合わせ (リモート許可表または実行時のいずれかで) を、リモート・ノードが受け付けませんでした。

要求は処理できません。

ユーザーの処置: リモート・システム用の有効な許可 ID およびパスワードを使用して、要求の再実行依頼を行ってください。

SQL1102N データベース名が指定されませんでした。

説明: マイグレーション時にデータベース名が指定されていませんでした。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: マイグレーション用のデータベース名を指定してください。

SQL1103W **Migrate Database** コマンド処理が正常に終了しました。

説明: Migrate コマンドが正常に終了しました。

データベースがすでに現在のレベルで、マイグレ

ーションする必要がない場合でも、このメッセージが返されることに注意してください。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL1104N program name パラメーターのアドレスが無効です。

説明: アプリケーション・プログラムが、program name に無効なアドレスを使用しました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: アプリケーション・プログラムで正しいアドレスを使用してください。

SQL1105N SQL CONNECT RESET ステートメントは、リモート・アプリケーション・インターフェース・プロシージャでは許されていません。

説明: リモート・アプリケーション・プロシージャに、SQL CONNECT RESET ステートメントが入っています。

リモート・プロシージャは続行できません。

ユーザーの処置: SQL CONNECT RESET ステートメントを取り除いて、リモート・プロシージャを再実行してください。

sqlcode: -1105

sqlstate: 38003

SQL1106N 指定された DLL “<name>” モジュールはロードされましたが、関数 “<function>” は実行できませんでした。

説明: DLL (ダイナミック・リンク・ライブラリー) 内の関数が見つかりませんでした。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: DLL モジュールが正しく作成されていることを確認してください。定義ファイ

ルのモジュールを参照してください。

sqlcode: -1106

sqlstate: 42724

SQL1107N 指定された DLL “<name>” をロード中に、割り込みを受けました。

説明: DLL (ダイナミック・リンク・ライブラリー) をロードしているときに、コマンドが割り込みを受けました (Ctrl+Break が押された可能性があります)。

処理は停止します。

ユーザーの処置: コマンドを再発行してください。

sqlcode: -1107

sqlstate: 42724

SQL1108N 指定された DLL “<name>” をロード中に、予期しない入出力エラーまたはオペレーティング・システム・エラーを受け取りました。

説明: 「プログラム名」フィールドに指定された DLL (ダイナミック・リンク・ライブラリー) をロードするときに、予期しないエラーが起きました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 現在のコマンドを再発行してください。それでも、エラーが続く場合は、データベース・マネージャを再インストールしてください。

インストールがエラーを修正しない場合は、メッセージ番号 (SQLCODE) と、可能であれば、SQLCA 内のすべての情報を記録してください。

トレースが活動状態の場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから、独立トレース機能呼び出ししてください。この機能の使用法については、問題判別の手引きの独立トレース機能を参照してください。技術サービ

ス担当者に連絡してください。

sqlcode: -1108

sqlstate: 42724

SQL1109N 指定された DLL "**<name>**" がロードできませんでした。

説明: 指定された DLL (ダイナミック・リンク・ライブラリー) モジュールが見つかりませんでした。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 指定したファイルが、システムの LIBPATH に指定されたサブディレクトリーに存在することを確認してください。

sqlcode: -1109

sqlstate: 42724

SQL1110N 指定されたデータ・エリアが無効で、使用できませんでした。

説明: データ域が正しく初期化されていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ユーザー指定の「入力 SQLDA」または「出力 SQLDA」フィールドが、正しく初期化されていることを確認してください。

SQL1111N 指定されたプログラム名 "**<name>**" は無効です。

説明: DLL (ダイナミック・リンク・ライブラリー) モジュールまたはプログラム名の構文が正しくありません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: DLL またはプログラム名が正しく指定されていることを確認してください。

sqlcode: -1111

sqlstate: 42724

SQL1112N 指定された DLL "**<name>**" のロードに十分なシステム・リソースがありません。

説明: 指定された DLL (ダイナミック・リンク・ライブラリー) モジュールをロードするためのランダム・アクセス・メモリー (RAM) が十分ではありません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: アプリケーションを停止してください。 解決策は以下のとおりです。

- CONFIG.SYS ファイルの MEMMAN NO SWAP、NO MOVE オプションを、SWAP、MOVE に変更してください。
- バックグラウンド処理を終了してください。
- メモリー割り振りを定義する構成パラメーターの値を減らしてください。
- さらにランダム・アクセス・メモリー (RAM) をインストールしてください。

sqlcode: -1112

sqlstate: 42724

SQL1113N 出力 SQLDA の sqlvar "**<n>**" のデータ・タイプが、"**<type 1>**" から "**<type 2>**" に変更されました。

説明: リモート・ストアード・プロシージャが、出力 SQLDA 内の *n* 番目の SQLVAR のデータ・タイプを変更しました。*(n* は、不一致が見つかった最初の SQLVAR の通し番号を示します) ストアード・プロシージャはデータを戻しません。

ユーザーの処置: リモート・ストアード・プロシージャを修正して、出力 SQLDA のデータ・タイプ情報が変更されないようにしてください。

sqlcode: -1113

sqlstate: 39502

SQL1114N 出力 SQLDA の sqlvar “<n>” のデータの長さが、“<length 1>” から “<length 2>” に変更されました。

説明: リモート・ストアード・プロシージャが、出力 SQLDA 内の n 番目の sqlvar のデータ長を変更しました (n は、不一致が発見された最初の SQLVAR の通し番号を示します)。

ストアード・プロシージャはデータを戻しません。

ユーザーの処置: リモート・ストアード・プロシージャを修正して、出力 SQLDA のデータの長さ情報が変更されないようにしてください。

sqlcode: -1114

sqlstate: 39502

SQL1115N 出力 SQLDA の sqlvar の数が、“<count 1>” から “<count 2>” に変更されました。

説明: リモート・プロシージャが、出力 SQLDA の「sqld」フィールドを変更しました (sqld は、SQLDA 内の使用された sqlvar の数を示します)。

ストアード・プロシージャはデータを戻しません。

ユーザーの処置: リモート・ストアード・プロシージャを修正して、出力 SQLDA の「sqld」フィールドが変更されないようにしてください。

sqlcode: -1115

sqlstate: 39502

SQL1116N 「バックアップ保留中」のために、データベース “<name>” の接続または活動化を行うことはできません。

説明: ロールフォワード・リカバリーの開始点を用意するために、指定されたデータベースがバック

アップを要求しています。

接続は行われていません。

ユーザーの処置: BACKUP ルーチン呼び出してデータベースをバックアップします。ただし、ロールフォワードを必要としない場合は、ログを保存して、ユーザー出口データベース構成パラメーターをオフに設定してください。

sqlcode: -1116

sqlstate: 57019

SQL1117N 「ROLL-FORWARD PENDING」のために、データベース “<name>” の接続または活動化を行うことはできません。

説明: 指定されたデータベースは、ロールフォワード・リカバリーが使用可能な状態で復元されましたが、ロールフォワードは行われません。

接続は行われていません。

連合システム・ユーザー: この状態はデータ・ソースによっても検出できます。

ユーザーの処置: データベースをロールフォワードするか、または ROLLFORWARD コマンドを使用して、ロールフォワードを行わないことを指示してください。データベースのロールフォワードを行わないと、データベースの最後のバックアップ以降に書かれたレコードが、データベースに適用されないことに注意してください。

連合システム・ユーザー: 必要な場合は、要求を拒否しているデータ・ソースに問題を分離します (障害の起きたデータ・ソースを識別する手順については問題判別の手引きを参照します)。次に、そのデータ・ソースに適切なリカバリー処置を行い、データ・ソースを一貫性ポイントまでリカバリーします。

sqlcode: -1117

sqlstate: 57019

SQL1118N 前のバックアップが完了していないために、データベース "**<name>**" の接続または活動化を行うことはできません。

説明: バックアップ処理中にシステム・エラーが起きたので、データベースが不整合状態になっています。

接続は行われていません。

連合システム・ユーザー: この状態はデータ・ソースによっても検出できます。

ユーザーの処置: BACKUP コマンドを実行して、もう一度コマンドをやり直してください。

連合システム・ユーザー: 必要な場合は、要求を拒否しているデータ・ソースに問題を分離します(障害の起きたデータ・ソースを識別する手順については問題判別の手引きを参照してください)。次に、コマンドを再試行する前に、データ・ソースに対して BACKUP コマンドを実行してください。

sqlcode: -1118

sqlstate: 57019

SQL1119N 前の復元が完了していないために、データベース "**<name>**" の接続または活動化を行うことはできません。

説明: 復元処理中にシステム・エラーが起きたので、データベースが不整合状態になっています。

接続は行われていません。

連合システム・ユーザー: この状態はデータ・ソースによって検出できます。

ユーザーの処置: RESTORE コマンドを実行して、もう一度コマンドをやり直してください。

連合システム・ユーザー: 必要な場合は、要求を拒否しているデータ・ソースに問題を分離します(障害の起きたデータ・ソースを識別する手順については問題判別の手引きを参照してください)。次に、コマンドを再試行する前に、データ・ソース

に対して RESTORE コマンドを実行してください。

sqlcode: -1119

sqlstate: 57019

SQL1120N 前のバックアップまたは復元が完了していないために、データベース "**<name>**" の接続または活動化を行うことはできません。

説明: バックアップまたは復元処理中にシステム・エラーが起きたので、データベースが不整合状態になっています。バックアップまたは復元のどちらかが処理されていたかが決定できません。

接続は行われていません。

連合システム・ユーザー: この状態はデータ・ソースによっても検出できます。

ユーザーの処置: BACKUP または RESTORE コマンドを実行してから、もう一度コマンドをやり直してください。

連合システム・ユーザー: 必要な場合は、要求を拒否しているデータ・ソースに問題を分離します(障害の起きたデータ・ソースを識別する手順については問題判別の手引きを参照してください)。次に、コマンドを再試行する前に、データ・ソースに対して BACKUP または RESTORE コマンドを実行してください。

sqlcode: -1120

sqlstate: 57019

SQL1121N **node structure** パラメーターのアドレスが無効です。

説明: アプリケーションが、**node structure** パラメーターに無効なアドレスを使用しました。そのアドレスが割り振られていないバッファを指しているか、または必須入力を含むための十分なバッファがありません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: プログラムが必要なバッファ領域の割り振りを行っていることを確認して、コマンドを再実行してください。

SQL1122N protocol structure パラメーターのアドレスが無効です。

説明: アプリケーションが、protocol structure パラメーターに無効なアドレスを使用しました。そのアドレスが割り振られていないバッファを示しているか、または正しくないプロトコル・バッファを示しているかのどちらかです。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: プロトコルが、ノード構造の「プロトコル」フィールドにもとづいた必須バッファ領域の割り振りを行っていることを確認して、コマンドを再発行してください。

SQL1123N プロトコル “<type>” が無効です。

説明: Catalog コマンドのノード構造に指定したプロトコル・タイプが、認識されない値です。有効なプロトコル・タイプは、*sqlenv* ヘッダー・ファイルに定義されています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ノード構造のプロトコル・タイプを確認して、コマンドを再発行してください。

SQL1124N リモート・ワークステーション名 “<name>” が無効です。

説明: Catalog コマンドの NETBIOS プロトコル構造に指定したリモート・ワークステーション名が、指定されていないか、または無効な文字を含んでいます。ワークステーション名は 1 から 8 文字でなければなりません。有効な文字は A から Z、a から z、0 から 9、#、@ および \$ です。最初の文字は、英字または特殊文字 #、@、または \$ でなければなりません。小文字は、システムによって大文字に変更されます。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: リモート・ワークステーション名に指定された文字を確認してください。有効なワークステーション名を使用して、コマンドを再発行してください。

SQL1125N アダプター番号 “<number>” が無効です。

説明: Catalog コマンドの NETBIOS プロトコル構造に指定されたアダプター番号が無効です。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: アダプター番号が有効なことを確認して、コマンドを再発行してください。

SQL1126N ネットワーク ID “<ID>” が無効です。

説明: Catalog コマンドの APPN プロトコル構造のネットワーク ID が無効です。ネットワーク ID が、リモート論理装置 (LU) が存在する SNA ネットワークを識別しています。ネットワーク ID は 1 から 8 文字でなければなりません。有効な文字は A から Z、a から z、0 から 9、#、@ および \$ です。最初の文字は、英字または特殊文字 #、@、または \$ でなければなりません。小文字は、システムによって大文字に変更されます。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ネットワーク ID に指定された文字を確認してください。有効なネットワーク ID を使用して、コマンドを再発行してください。

SQL1127N リモート LU 名 “<name>” が無効です。

説明: Catalog コマンドの APPN プロトコル構造に指定されたリモート論理装置 (LU) 名が無効です。リモート LU 名は、リモート SNA 論理装置名で、1 から 8 文字でなければなりません。有効な文字は A から Z、a から z、0 から 9、#、@ および \$ です。最初の文字は、英字ま

たは特殊文字 #、@、または \$ でなければなりません。小文字は、システムによって大文字に変更されます。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: リモート LU 名に指定された文字を確認してください。有効なリモート LU 名を使用して、コマンドを再発行してください。

SQL1129N 新しいプロセスを生成するためのリソースが不十分なために、新しい **DARI (ストアード・プロシージャ)** プロセスが開始できませんでした。

説明: 新しいプロセスを生成するためのリソースが不十分なために、新しい **DARI (ストアード・プロシージャ)** プロセスが開始できませんでした。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを実行してください。

- DB2 を使用しているユーザー数を減らしてください。
- システム・プロセスの上限を増やしてください。

sqlcode: -1129

sqlstate: 42724

SQL1130N サーバー上で同時に存在可能な **DARI** プロセスの最大数に達したために、新しい **DARI (ストアード・プロシージャ)** プロセスが開始できませんでした。

説明: サーバー上で同時に存在可能な **DARI** プロセスの最大数に達したために、新しい **DARI (ストアード・プロシージャ)** プロセスが開始できませんでした。

ユーザーの処置: **DARI** プロセスの最大数を指定する *maxdari* 構成パラメーターを増やしてください。詳細については、データベース構成パラメ

ーター *maxdari* を参照してください。

sqlcode: -1130

sqlstate: 42724

SQL1131N **DARI (ストアード・プロシージャ)** プロセスが異常終了しました。

説明: このエラーの原因として、以下のことが考えられます。

- **DARI** ルーチン内にコーディング・エラー (すなわちセグメント違反) がある。
- 他のプロセスがシグナルを使用して、**DARI** プロセスを終了させました。

ユーザーの処置: 以下を行った後で、**DARI** 要求を再始動してください。

- **DARI** プロシージャにプログラミング・エラーがないことを確認してください。
- **DARI** プロセスに対して、終了シグナルを送っているユーザーがいないことを確認してください。

sqlcode: -1131

sqlstate: 38503

SQL1132N このコマンドは、**DARI (ストアード・プロシージャ)** 内での実行を許されていません。

説明: **DARI (ストアード・プロシージャ)** の有効範囲内で、無効なコマンドが発行されました。

DARI プロシージャは、続行できません。

ユーザーの処置: **DARI** プロシージャ内の不当なコマンドを取り除いて、再実行してください。

sqlcode: -1132

sqlstate: 38003

SQL1133N 出力 SQLDA の sqlvar (index = “<n>”) 内のポインター・アドレスが、DARI (ストアード・プロシージャー) 関数内で変更されました。

説明: 出力 SQLDA の sqlvar 内の “sqlind” または “sqldata” ポインターが、ユーザーが用意した DARI 関数内で更新されました。

ストアード・プロシージャーはデータを戻しません。

ユーザーの処置: 出力 SQLDA 内の示された sqlvar の使用法を修正して、DARI (ストアード・プロシージャー) 関数ルーチンの中で、ポインター・アドレスが変更されないようにしてください。

sqlcode: -1133

sqlstate: 39502

SQL1134N データベース認証タイプが CLIENT の場合、このコマンドは DARI (ストアード・プロシージャー) の有効範囲内では許されていません。

説明: データベースの認証タイプが CLIENT の場合、ALL SYSADM コマンドは DARI (ストアード・プロシージャー) 内で実行できません。

ストアード・プロシージャーはデータを戻しません。

DARI プロシージャーは、続行できません。

ユーザーの処置: DARI プロシージャー内の不当なコマンドを取り除いて、再実行してください。

sqlcode: -1134

sqlstate: 38003

SQL1135N データベースの作成時に、無効なセグメント数が指定されました。

説明: セグメント数に指定された値が範囲外です。有効範囲は 1 から 256 です。

ユーザーの処置: セグメント数を指定し直して、もう一度データベースを作成してください。

SQL1136N データベースの作成時に、無効な値がデフォルト表スペース・エクステンント・サイズ (dft_extentsize) に指定されました。

説明: デフォルト表スペース・エクステンント・サイズ (dft_extentsize) に指定された値が範囲外です。有効範囲は 2 から 256 です。

ユーザーの処置: 表スペース・エクステンント・サイズを訂正して、やり直してください。

SQL1137W データベース “<dbalias>” のドロップ時に、データベース・マネージャーがデータベース・パスまたはいくつかのコンテナを除去できませんでした。クリーンアップが必要です。

説明: コンテナのリストがアクセスできなかったか、またはコンテナまたはデータベース・ディレクトリーの除去中に、障害が起きました。

ユーザーの処置: システム管理コンテナ (ディレクトリー)、およびデータベース管理ファイル・コンテナを、オペレーティング・システム・コマンドを使用して、手操作で除去することが必要になる可能性があります。装置コンテナを解放するには、担当の IBM 技術員に連絡してください。

New Log Path 構成パラメーターでログ・ディレクトリーが変更されている場合は、ログ・ディレクトリー・ファイル・システムを手操作で取り外し、ログおよびデータベース・ディレクトリーを除去してください。

SQL1138W 固有索引 "<name>" が据え置き固有チェックをサポートするために移行しました。新規索引は作成されません。

説明: CREATE INDEX 処理が既存の索引で試行されました。索引が据え置き固有チェックをサポートするためにマイグレーションしていないため、このマイグレーションは実行されませんでした。

固有索引のマイグレーションされた形式によって、行ごとに更新が行われるのではなく更新ステートメントの最後に索引列の固有性チェックを複数の行で行うことができます。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

sqlcode: +1138

sqlstate: 01550

SQL1139N 表スペースの合計サイズが大き過ぎます。

説明: 現在の表スペースの合計サイズが大き過ぎます。REGULAR または USER TEMPORARY 表スペースのサイズは 0xFFFFF (16777215) ページに制限され、SYSTEM TEMPORARY または LONG 表スペースのサイズは 2 テラバイト (2 TB) に制限されています。

ユーザーの処置: 詳細については、診断ログ・ファイル db2diag.log をチェックしてください。表スペースのサイズを減らして、SQL ステートメントを訂正してください。

sqlcode: -1139

sqlstate: 54047

SQL1140W コスト・カテゴリー "<cost-category>" の見積もられたプロセッサ・コスト "<estimate-amount1>" プロセッサ一秒 ("<estimate-amount2>" サービス単位) がリソース限度警告しきい値 "<limit-amount>" サービス単位を超えました。

説明: 動的 INSERT、UPDATE、DELETE、または SELECT SQL ステートメントの準備の結果、リソース限定表 (RLST) に指定された警告しきい値を超えるコスト見積もりが発生しました。

この警告は、DB2 のコスト・カテゴリー値が "B" であり、RLST の RLF_CATEGORY_B 列に指定されたデフォルトのアクションが警告の発行である場合にも発行されます。

estimate_amount1

準備された INSERT、UPDATE、DELETE または SELECT ステートメントが実行される場合のコストの見積もり (プロセッサ一秒)。

estimate_amount2

準備された INSERT、UPDATE、DELETE または SELECT ステートメントが実行される場合のコストの見積もり (サービス単位)。

cost-category

この SQL ステートメントのための DB2 のコスト・カテゴリー使用可能な値は A または B です。

limit-amount

RLST の RLFASUWARN 列に指定されている警告しきい値 (サービス単位)。

動的 INSERT、UPDATE、DELETE、または SELECT ステートメントの準備は成功しました。準備されたステートメントを実行して、RLST に指定された ASUTIME 値を超える場合は、SQLCODE -905 が発行される可能性があります。

ユーザーの処置: 警告を扱って、ステートメント

の実行を許可するか、ステートメントの実行を行わないことを決定するためのアプリケーション論理が存在することを確認してください。コスト・カテゴリー値が "B" であるためにこの SQLCODE が返された場合は、ステートメントがパラメーター・マーカを使用しているか、参照される表と列について使用できない統計が存在する可能性があります。管理者が、参照された表でユーティリティ RUNSTATS を実行したことを確認してください。また、ステートメントが実行されるときに UDF が呼び出されるか、INSERT、UPDATE、または DELETE ステートメントについては、変更された表にトリガーが定義されている可能性もあります。このステートメントについて DSN_STATEMNT_TABLE または IFCID 22 レコードをチェックして、この SQL ステートメントがコスト・カテゴリー "B" になった理由を判別してください。

SQL ステートメントがプロセッサ・リソースを多く使用しすぎていることが警告の原因である場合は、ステートメントが効率良く実行されるために書き直してみてください。もう 1 つのオプションとして、RLST の警告しきい値を上げることを管理者に要請することもできます。

sqlcode: +1140

sqlstate: 01616

SQL1145N ゲートウェイ集線装置を使用している場合、**PREPARE** ステートメントはサポートされていません。理由コード: "<reason-code>"

説明: 以下のいずれかの "<reason-code>" によって、ステートメントが失敗しました。

- 1 ゲートウェイ集線機能が ON になっている場合、組み込み SQL にある動的に準備されたステートメントはサポートされていません。この構成では、クライアントが CLI アプリケーションである場合のみ、動的に準備されたステートメントがサポートされています。

- 2 ゲートウェイ集線機能が ON になっている場合、動的に準備された SET ステートメントはサポートされていません。

ユーザーの処置: 理由コードに基づいて、以下のいずれかの処置を行ってください。

- 1 動的 SQL ステートメントに CLI を使用するようアプリケーションを変更するか、または静的 SQL を使用するようアプリケーションを変更する
- 2 SET ステートメントに EXECUTE IMMEDIATE を使用する

sqlcode: -1145

sqlstate: 560AF

SQL1150N user id パラメーターのアドレスが無効です。

説明: アプリケーション・プログラムが、このパラメーターに無効なアドレスを使用しました。そのアドレスが割り振られていないバッファを指しているか、またはそのバッファ内の文字ストリングにヌル終止符がありません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なアドレスがアプリケーション・プログラムで使用され、入力ストリングがヌルで終了していることを確認してください。

SQL1160N DOS "<network protocol>" TSR はロードされていません。

説明: 指定された通信プロトコルの終了後常駐型 (TSR) ネットワーク・ドライバはロードされていません。TSR はネットワーク通信を使用する前にロードされている必要があります。

ユーザーの処置: 指定した通信プロトコルの TSR が正常にロードされていることを確認した後で、もう一度アプリケーションを実行してください。

SQL1163N タイプ “<ident-type>” の ID 名 “<ident-name>” が長すぎるために、データ取り込みについて表を使用可能にすることができませんでした。

説明: データ取り込みは、特定の長さを超える ID タイプではサポートされていません。試みられた変更の処理中に、タイプ “<ident-type>” の ID “<ident-name>” が長すぎるということがわかりました。データ取り込みを可能にするための ID タイプと最大長は以下のとおりです。

1. 列。データ取り込みを使用可能にするためには、列名は 18 バイト以下でなければなりません。
2. 表。データ取り込みを使用可能にするためには、表名は 18 バイト以下でなければなりません。
3. スキーマ。データ取り込みを使用可能にするためには、スキーマ名は 18 バイト以下でなければなりません。

ユーザーの処置: この表のデータ取り込みを使用可能にする場合は、問題の ID が上に示されている最大値を超えていないことを確認してください。そうでない場合は、長い ID 名を使用するために表のデータ取り込みをできなくしてください。

sqlcode: -1163

sqlstate: 42997

SQL1164N SQL ステートメントで使用されているタイプ “<type>” の SQLDA あるいはホスト変数が無効です。理由コード “<reason-code>”、ホスト変数 /SQLVAR 番号は “<var-number>” です。

説明: SQLDA あるいは SQL ステートメントのホスト変数を処理している間にエラーが起きました。

呼び出しパラメーター・リストはプリコンパイラ

ーで作成されますが、アプリケーション・プログラマーがプリコンパイラーの出力を修正し、アプリケーション・プログラムで SQL で始まる変数名を使用するか、あるいは別の方法で呼び出しパラメーター・リストを上書きする場合には正しくない可能性があります。

また SQLDA がアプリケーションによって直接渡される場合正しく初期化されない可能性があります。

ホスト変数 /SQLDA タイプ :

- 1 入力ホスト変数あるいは SQLDA
- 2 出力ホスト変数あるいは SQLDA

ホスト変数を指定した SQL ステートメントでは、ホスト変数番号を使用してステートメント (あるいは 複合 SQL の場合はサブステートメント) の最初からカウントし無効なホスト変数を探し出すことができます。SQLDA を使用したステートメントでは SQLVAR 番号が無効な SQLVAR の検出に使用されます。入力 SQLDA では入力ホスト変数あるいは SQLVAR をカウントするだけです。出力も同様です。この番号の基本は 1 で、すべての理由コードに適用できるわけではないことに注意してください。理由コードは次のように解釈されます。

- 1 SQLDA.SQLN が SQLDA.SQLD より小さい
- 2 SQLVAR.SQLTYPE が無効である
- 3 SQLVAR.SQLLEN あるいは SQLVAR2.SQLLONGLEN で指定した長さが SQLVAR.SQLTYPE で与えられた SQL タイプに対して間違っている
- 4 ラージ・オブジェクト SQLVAR はあるが、SQLDA.SQLDAID の SQLDOUBLED フィールドが '2' に設定されていない
- 5 入力 varchar が現行の長さ (varchar 自身の長さフィールドから) が最大長より大きくなっているものを提供している。

最大長は宣言 (ホスト変数の場合) あるいは SQLVAR.SQLLEN の設定 (ユーザー定義 SQLDA の場合) によって判別されます。

- 6 入力ラージ・オブジェクトの現行の長さ (LOB 自身の長さフィールドあるいは SQLVAR2.SQLDATALEN ポインターで示される) が最大長より大きく渡される。最大長は宣言 (ホスト変数の場合) あるいは SQLVAR2.SQLLONGLEN の設定 (ユーザー定義 SQLDA の場合) によって判別されます。
- 7 2 バイト文字ラージ・オブジェクトには SQLVAR2.SQLDATALEN ポインターで示される奇数値があり、これが常にバイトで、DBCLOB に対してもそうである
- 8 SQLDATA ポインターが無効であるか、あるいは不十分なストレージを示している
- 9 SQLIND ポインターが無効であるか、あるいは不十分なストレージを示している
- 10 SQLDATALEN ポインターが無効であるか、あるいは不十分なストレージを示している
- 11 入力ホスト変数 /SQLVARS の特定値が現行 SQL ステートメントで予想される

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 示されたエラーについて、アプリケーション・プログラムを調べてください。プログラマーは、プリコンパイラ出力を変更するべきではないことに注意してください。

sqlcode: -1164

sqlstate: 07002

SQL1165W 値がホスト変数のデータ・タイプの範囲外なので、その値をホスト変数に割り当てることができません。

説明: ホスト変数リストへの FETCH、VALUES、または SELECT は、ホスト変数が検索された値を保留するのに十分な大きさでないため、失敗しました。

このステートメント処理は -2 の null 標識を戻し続行しました。

ユーザーの処置: 表定義が現在のものであり、ホスト変数が適切なデータ・タイプであることを確認してください。SQL データ・タイプの許容範囲については、*SQL 解説書* を参照してください。

sqlcode: +1165

sqlstate: 01515

SQL1166W ゼロによる除算が試みられました。

説明: 算術式の処理でゼロの除算が起きました。この警告は、警告の原因となった行とは別の行で戻ってくる場合があります。たとえば、述部での算術式で、または照会がシステム一時表を使用して処理を行っている場合、これは起こります。null 標識が -2 に設定されているときにはいつでも警告が戻されるために再度発行される可能性があります。

ステートメント処理は続けられ、null を除算式の結果として使用し null 標識 -2 を戻すことが考えられます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを調べて、問題の原因を判別してください。問題がデータによるものであれば、エラーが起きたときに処理されていたデータを調べてください。

sqlcode: +1166

sqlstate: 01564

SQL1167W 算術オーバーフロー、またはその他の算術例外が発生しました。

説明: 算術式の処理が算術オーバーフロー、アンダーフロー、あるいは他の算術例外を起こしました。この警告は、警告の原因となった行とは別の行で戻ってくる場合があります。たとえば、述部での算術式で、または照会がシステム一時表を使用して処理を行っている場合、これは起こります。null 標識が -2 に設定されているときにはいつでも警告が戻されるために再度発行される可能性があります。

ステートメント処理は続けられ、null を算術式の結果として使用し null 標識 -2 を戻すことが考えられます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを調べて、問題の原因を判別してください。問題がデータによるものであれば、エラーが起きたときに処理されていたデータを調べてください。データ・タイプの有効範囲を判別するには、SQL 解説書を参照してください。

sqlcode: +1167

sqlstate: 01519

SQL1178N “<object-name>” と呼ばれる統合 “<object-type>” は、ニックネームまたは OLE DB 表関数を参照していません。

説明: “<object-name>” で識別されているタイプ “<object-type>” のオブジェクトはキーワード FEDERATED で定義されていますが、ステートメント内の全選択はニックネームまたは OLE DB 表関数を参照していません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: キーワード FEDERATED をステートメントから除去してください。

sqlcode: -1178

sqlstate: 429BA

SQL1179W 呼び出し側がデータ・ソース・オブジェクトについて必要な権限を持っていることを、“<object-name>” と呼ばれる “<object-type>” が必要としていると思われます。

説明: “<object-name>” で識別されているオブジェクトは、データ・ソースに実際のデータが存在している OLE DB 表関数またはニックネームを参照しています。データ・ソース・データにアクセスしている場合、ユーザー・マッピングおよび許可検査は、操作を開始したユーザーに基づいています。

“<object-type>” が SUMMARY TABLE であれば、操作は要約表のデータを最新表示しています。最新表示を行う REFRESH TABLE または SET INTEGRITY ステートメントを呼び出したユーザーに、データ・ソースにある基礎データ・ソース・オブジェクトにアクセスするための権限が必要だと思われます。

“<object-type>” VIEW であれば、データ・ソースにある基礎データ・ソース・オブジェクトにアクセスするための権限が、視点のユーザーに必要なと思われる。

いずれの場合でも、データ・ソース・オブジェクトへのアクセスが試みられたとき、許可エラーが起こる可能性があります。

ユーザーの処置: 視点または要約表に特権を授与するだけでは、データ・ソースからデータにアクセスする操作をサポートするには十分ではない場合があります。視点または要約表の基礎データ・ソース・オブジェクトのデータ・ソースにおいて、ユーザー・アクセスを授与することも考慮してください。

sqlcode: +1179

sqlstate: 01639

SQL1180N ルーチン "`<routine-name>`" (特定名 "`<specific-name>`") が OLE エラーを起こしました。

HRESULT="<hresult>、診断テキスト: "`<message text>`"

説明: ユーザー定義関数 (UDF) またはストアード・プロシージャ "`<routine-name>`" (特定名 "`<specific-name>`") の OLE 自動化サーバーとの通信を試みているときに、DB2 が OLE エラー・コードを受け取りました。HRESULT "`<hresult>`" は戻された OLE エラー・コードで、"`<message text>`" は検索されたエラー・メッセージです。

以下に、エラー・メッセージ、HRESULTS、および考えられる原因のリストの一部を示します。エラー・メッセージ・テキストは OLE によって変更される可能性があり、新規のエラー・コードが OLE によって追加される場合もあります。

不明なインターフェース (0x80020001):

指定の OLE オブジェクトは IDispatch インターフェースをサポートしません。

タイプの不一致 (0x80020005):

SQL データ・タイプの 1 つまたは複数ものがメソッド引き数のデータ・タイプと一致しません。

不明な名前 (0x80020006):

指定のメソッド名は指定の OLE オブジェクトで見つかりません。

無効なパラメーター数 (0x8002000E):

メソッドに渡された引き数の数がメソッドで受け入れた引き数の数と相違しています。

無効なクラス・ストリング (0x800401F3):

指定の ProgID あるいは CLSID が無効です。

クラスが登録されていない (0x80040154):

CLSID が正しく登録されません。

アプリケーションが見つからない (0x800401F5):

ローカル・サーバー EXE が見つかりません。

クラスの DLL が見つからない (0x800401F8):
処理中の DLL が見つかりません。

サーバー実行の失敗 (0x80080005):

OLE オブジェクトの作成ができません。

ユーザーの処置: 特殊用語の意味まで含んだ完全な文書については OLE プログラマー参考書 を参照してください。

sqlcode: -1180

sqlstate: 42724

SQL1181N ルーチン "`<routine-name>`" (特定名 "`<specific-name>`") が、記述 "`<message text>`" とともに例外を起こしました。

説明: ユーザー定義関数 (UDF) またはストアード・プロシージャ "`<routine-name>`" (特定名 "`<specific-name>`") が例外を起こしました。メッセージ・テキストには、ルーチンによって返された例外のテキスト記述が示されています。

ユーザーの処置: ユーザーは例外の意味を理解する必要があります。ルーチンの作成者に連絡してください。

sqlcode: -1181

sqlstate: 38501

SQL1182N ユーザー定義関数 "`<function-name>`" が指定された OLE DB provider のデータ・ソース・オブジェクトを初期化できませんでした。HRESULT="<hresult>"
診断テキスト: "<message-text>"

説明: 指定された OLE DB provider の OLE DB データ・ソース・オブジェクトをインスタンス化または初期化できませんでした。"`<hresult>`" は返された OLE DB エラー・コードで、"`<message-text>`" は検索されたエラー・メッセージです。

以下に HRESULTS および考えられる原因のリストの一部を示します。

0x80040154

クラス (OLE DB provider) が登録されていません。

0x80040E73

指定された初期化ストリングが指定に準拠していません。

0x80004005

指定されていないエラー (初期化中)。

ユーザーの処置: OLE DB provider の正しい登録と、接続ストリング内のパラメーターの初期化を確認します。OLE DB コア・コンポーネント内のデータ・リンク API 接続ストリング構文と HRESULT コードの完全な資料については、Microsoft OLE DB Programmer's Reference and Data Access SDK を参照してください。

sqlcode: -1182

sqlstate: 38506

SQL1183N ユーザー定義関数

“<function-name>” が指定された OLE DB provider から OLE DB エラーを受け取りました。
HRESULT=“<hresult>” 診断テキスト: “<message-text>”

説明: 指定された OLE DB provider が OLE DB エラー・コードを返しました。“<hresult>” は返された OLE DB エラー・コードで、“<message-text>” は検索されたエラー・メッセージです。

以下に HRESULTS および考えられる原因のリストの一部を示します。

0x80040E14

コマンドに、1 つ以上のエラーが入っていました。たとえば、パススルー・コマンド・テキストの構文エラーです。

0x80040E21

エラーが発生しました。たとえば、提供された columnID が無効です (DB_INVALIDCOLUMN)。

0x80040E37

指定された表が存在しません。

ユーザーの処置: HRESULT コードの完全な資料については、Microsoft OLE DB Programmer's Reference and Data Access SDK を参照してください。

sqlcode: -1183

sqlstate: 38506

SQL1184N 1 つ以上の EXPLAIN 表が、現在のバージョンの DB2 を使用して作成されていません。

説明: DB2EXMIG を使用して表がマイグレーションされるか、DB2 の現在のバージョンの EXPLAIN.DDL CLP スクリプトを使用して表がドロップまたは再作成されるまで、EXPLAIN はこれらの表に挿入できません。

ユーザーの処置: DB2EXMIG を使用して表をマイグレーションするか、DB2 の現在のバージョンの EXPLAIN.DDL CLP スクリプトを使用して表をドロップまたは再作成してください。コマンドを再発行してください。

sqlcode: -1184

sqlstate: 55002

SQL1185N FEDERATED “<value>” が、パッケージのバインドで誤って使用されています。

説明: “<value>” が NO であれば、パッケージ内の少なくとも 1 つの静的 SQL ステートメントに、ニックネーム、または OLE DB 表関数か OLE DB プロシージャのいずれかへの参照が入っています。この場合、パッケージをバインドす

るために FEDERATED YES を指定しなければなりません。

“<value>” が YES であれば、パッケージ内の静的 SQL ステートメントに、ニックネーム、または OLE DB 表関数か OLE DB プロシージャのいずれかへの参照が入っていません。この場合、パッケージをバインドするために FEDERATED NO を指定しなければなりません。

パッケージは作成されていません。

ユーザーの処置: 正しい FEDERATED オプションを指定してください。

SQL1186N タイプ “<object-type>”、名前 “<object-name>” のオブジェクトが、FEDERATED 文節が指定されずに、統合されたオブジェクトになるように変更されているか、または統合されたオブジェクトとして作成されています。

説明: 要約表を作成中で、fullselect が直接または間接的に OLE DB 表関数またはニックネーム

を参照している場合は、FEDERATED を指定する必要があります。

統合されていない視点を変更中で、fullselect が直接または間接的に OLE DB 表関数またはニックネームを参照している場合は、FEDERATED を指定する必要があります。

統合された視点を変更中で、fullselect がまだ直接または間接的に OLE DB 表関数またはニックネームを参照している場合は、FEDERATED を指定してはいけません。

ユーザーの処置: 要約表を作成するか、または統合されていない視点を統合された視点に変更するには、FEDERATED 文節の指定が必要です。

統合された視点へ継続する統合された視点を変更するには、NOT FEDERATED 文節を指定しないでください。

sqlcode: -1186

sqlstate: 429BA

SQL1200 - SQL1299

SQL1200N object パラメーターが無効です。

説明: COLLECT DATABASE STATUS 関数呼び出しの object パラメーターに指定された値が無効です。有効な値は以下の通りです:

SQLE_DATABASE

状況が単一データベースに対して収集されることを示します。

SQLE_DRIVE

状況が単一パス上のすべての LOCAL データベースに対して収集されることを示します。

SQLE_LOCAL

状況がすべての LOCAL データベースに対して収集されることを示します。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: object パラメーターを訂正して、もう一度 COLLECT DATABASE STATUS 関数呼び出しを行ってください。

SQL1201N status パラメーターが無効です。

説明: COLLECT DATABASE STATUS 関数呼び出しの status パラメーターに指定された値が無効です。有効な値は以下の通りです:

SQLE_SYSTEM

システム状況が収集されます。

SQLE_DATABASE

システム状況とデータベース状況が収集されます。

SQLE_ALL

システム状況、データベース状況、ユーザー状況が収集されます。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: `status` パラメーターを訂正して、もう一度 `COLLECT DATABASE STATUS` 関数呼び出しを行ってください。

SQL1202N 操作状況がまだ集められていません。

説明: `GET NEXT DATABASE STATUS BLOCK` 関数呼び出しまたは `FREE DATABASE STATUS RESOURCES` 関数呼び出し内の `handle` パラメーターに指定された値が無効です。ハンドルは、`COLLECT DATABASE STATUS` 関数呼び出しから返される正の関数値でなければなりません。

これは、プロセスから行われた 2 度目の `COLLECT DATABASE STATUS` 呼び出しです。最初の `COLLECT DATABASE STATUS` 呼び出しは終了し、そのハンドルは使用できません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: `handle` パラメーターを訂正して、もう一度 `COLLECT DATABASE STATUS` 関数呼び出しを行ってください。

SQL1203N このデータベースには、接続しているユーザーがありません。

説明: データベースのユーザー状況が要求されましたが、そのデータベースにはユーザーが接続されていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: データベース名と接続状況を確認してください。現在使用されているデータベースを使用して、コマンドを再発行してください。

SQL1204N コード・ページ “<code page>” と国コード “<country code>” のいずれか、またはその両方が、インストールされたバージョンのデータベース・マネージャーによってサポートされていません。

説明: このバージョンのデータベース・マネージャーは、活動コード・ページまたは国コード、あるいはその両方をサポートしていません。

コマンドは処理されません。

このバージョンのデータベース・マネージャーがサポートしている活動コード・ページと国コードを選択してください。

連合システム・ユーザー: 必要な場合は、要求を拒否しているデータ・ソースに問題を分離します (障害が起きたデータ・ソースを識別する手順については問題判別の手引きを参照してください)。次に、連合サーバーとデータ・ソースの両方でサポートされている活動コード・ページと国別コードを参照してください。

ユーザーの処置: 現在のプログラムを終了して、オペレーティング・システムに戻ってください。

sqlcode: -1204

sqlstate: 22522

SQL1205N 指定されているコード・ページ “<code page>” と国コード “<country>” のいずれか、またはその両方が無効です。

説明: このバージョンの DB2 は、`Create Database` コマンドで指定された活動コード・ページまたは国コード、あるいはその両方をサポートしていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: DB2/2 でサポートされている有効なコード・ページと国別コードの詳細については、`DB2 コマンド解説書` 中の `Create Database` コマンドを参照してください。

SQL1206N PRUNE LOGFILE はこのデータベース構成ではサポートされません。

説明: PRUNE LOGFILE は以下の場合にはサポートされません。

1. LOGRETAIN と USEREXIT の両方が NO に設定されている。
2. 活動状態のログ・ファイル・パスがロー・デバイスに設定されている。

ユーザーの処置: このデータベースに PRUNE LOGFILE コマンドを実行しないでください。

SQL1207N コミュニケーション・マネージャー構成ファイル “<name>” が見つかりません。

説明: CATALOG NODE コマンドに指定されたコミュニケーション・マネージャー構成ファイル名が、指定されたパスまたはデフォルト・ドライブの CMLIB ディレクトリーに見つかりませんでした。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 正しいコミュニケーション・マネージャー構成ファイル名とパスを使用して、コマンドを再発行してください。

SQL1209W CATALOG NODE 関数に指定された partner_lu 名 “<name>” が存在しません。名前は作成されました。

説明: CATALOG NODE 機能に指定された論理パートナー装置名が、デフォルト・ドライブの CMLIB ディレクトリーに存在するコミュニケーション・マネージャー構成ファイルにありません。

示された名前でも論理装置プロファイルが作られました。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL1210W 1 つ以上の DOS リクエスター/ WINDOWS リクエスター構成ファイル・パラメーターにデフォルト値が返されました。

説明: 1 つ以上の DOS リクエスター/ WINDOWS リクエスター構成ファイル・パラメーターに、デフォルト値が使用されます。パラメーターが、DOS リクエスター/ WINDOWS リクエスター構成ファイルに定義されていないか、この構成ファイルがオープンできないか、またはファイルの読み取り中にエラーが起きた可能性があります。

ユーザーの処置: DOS リクエスター/ WINDOWS リクエスター構成ファイルが適切なパスに存在し、パラメーターが明示的に定義されていることを確認してください。

SQL1211N コンピューター名 “<name>” が無効です。

説明: カタログ・コマンドの NPIPE プロトコル構造で指定されたコンピューター名は無効です。コンピューター名のサイズは 15 文字またはそれ以下でなくてはなりません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: コンピューター名が有効であることを確認し、コマンドを再発行してください。

SQL1212N インスタンス名 “<name>” が無効です。

説明: カタログ・コマンドで指定されたこのインスタンス名は無効です。インスタンス名のサイズは 8 文字またはそれ以下でなくてはなりません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: インスタンス名が有効であることを確認し、コマンドを再発行してください。

SQL1213N パスワード変更 LU 名 “<name>” が無効です。

説明: CATALOG コマンドの APPN プロトコル構造に指定されたパスワード変更論理装置 (LU) 名が無効です。

パスワード変更 LU 名はリモート SNA LU 名であり、1 から 8 文字でなければなりません。有効な文字は A から Z、a から z、0 から 9、#、@ および \$ です。最初の文字は、英字または特殊文字 #、@、または \$ でなければなりません。小文字は、システムによって大文字に変更されます。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: パスワード変更 LU 名に指定された文字を確認してください。

有効なパスワード変更 LU 名を指定してコマンドを再発行してください。

SQL1214N トランザクション・プログラム名 “<name>” が無効です。

説明: CATALOG コマンドの APPN プロトコル構造に指定されたトランザクション・プログラム (TP) 名が無効です。

TP 名はリモート SNA アプリケーション TP 名であり、1 から 64 文字でなければなりません。有効な文字は A から Z、a から z、0 から 9、#、@ および \$ です。最初の文字は、英字または特殊文字 #、@、または \$ でなければなりません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: TP 名に指定された文字を確認してください。

TP 名を指定してコマンドを再発行してください。

SQL1215N LAN アダプター・アドレス “<address>” が無効です。

説明: CATALOG コマンドの APPN プロトコル構造に指定された LAN アダプター・アドレスが無効です。

LAN アダプター・アドレスはリモート SNA LAN アダプター・アドレスであり、12 の 16 進数でなければなりません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: LAN アダプター・アドレスを確認してください。

有効な LAN アダプター・アドレスを指定してコマンドを再実行依頼してください。

SQL1216N 漢字データと漢字関数は、このデータベースではサポートされていません。

説明: データベースのコード・ページは、漢字データをサポートしません。データ・タイプ GRAPHIC、VARGRAPHIC、LONG VARGRAPHIC が、このデータベースには無効です。GRAPHIC リテラルと VARGRAPHIC スカラー関数が、このデータベースには無効です。

ステートメントは処理できません。

連合システム・ユーザー: この状態はデータ・ソースによっても検出できます。

ユーザーの処置: 有効なデータ・タイプを使用して、コマンドを再発行してください。

sqlcode: -1216

sqlstate: 56031

SQL1217N REAL データ・タイプがターゲット・データベースによってサポートされていません。

説明: SQL 操作は入力または出力変数として REAL のデータ・タイプ (単精度浮動小数点数) を使用しています。REAL データ・タイプがこ

の要求のターゲット・データベースにサポートされていません。

このステートメントは処理されません。

ユーザーの処置: ご使用のアプリケーション内の SQL データ・タイプ `DOUBLE` と一致する宣言を使用する SQL データ・タイプ `REAL` に相当するホスト変数の宣言を置換してください。

sqlcode: -1217

sqlstate: 56099

SQL1218N 現在、バッファ・プール
"`<buffpool-num>`" 使用可能なページはありません。

説明: 現在、バッファ・プールのすべてのページが使用中です。別のページの使用の要求が失敗しました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: バッファ・プールは、すべてのデータベース・プロセスまたはスレッドにページ作成できるほど大きくはありません。バッファ・プールが小さすぎるか、活動プロセスまたは活動スレッドが多すぎます。

再実行すれば、このステートメントが正常である可能性があります。このエラーがしばしば発生する場合は、次のいずれかのまたはすべての処置がこの失敗を防ぐのに役立ちます。

1. バッファ・プールのサイズを大きくする。
2. データベース・エージェントおよび / または接続の最大数を減らす。
3. 並列処理の最大数を減らす。
4. このバッファ・プールの表スペースのプリフェッチ・サイズを減らす。
5. いくつかの表スペースを別のバッファ・プールへ移動させる。

sqlcode: -1218

sqlstate: 57011

SQL1219N 専用仮想メモリの割り振りができないために、要求が失敗しました。

説明: 要求を処理するための専用仮想メモリが十分でないために、インスタンスが割り振られませんでした。これは、共用メモリ割り振りが他の (関連のない) プロセスで行われた結果として起きる場合があります。

ユーザーの処置: 問題の解決法は、以下のとおりです。

- OS/2 の場合は、`min_priv_mem` 構成パラメーターを増やします。それによって、インスタンスが開始されたときに、もっと多くの専用仮想メモリが予約されます。
- マシンで実行されているアプリケーション、特に共用メモリを大量に使用するアプリケーションを停止してください。

sqlcode: -1219

sqlstate: 57011

SQL1220N データベース・マネージャー共用メモリ・セットを割り振ることができません。

説明: データベース・マネージャーが、共用メモリ・セットを割り振ることができませんでした。このエラーの原因としては、データベース・マネージャー、またはデータベース・マネージャーの処理が試みられていた環境に、十分なメモリ・リソースが存在しなかった可能性があります。この問題の原因となるメモリ・リソースには、以下が含まれます。

- システムに割り振られている共用メモリ ID の数
- システムが使用可能なページングまたはスワッピングの容量
- システムが使用可能な物理メモリの容量

ユーザーの処置: 以下の 1 つ以上を行ってください。

- データベース・マネージャーとシステムで実行中の他のプログラムの要求を満たすだけのメモリー・リソースが、使用可能であることを確認してください。
- メモリー・セットに影響を与えるデータベース・マネージャー構成パラメーターを減らして、このメモリー・セットに対するデータベース・マネージャーの必要メモリー量を減らしてください。これらのパラメーターには、*maxagents*、*maxdari*、*numdb* があります。
- 該当する場合は、システムを使用している他のプログラムを停止してください。

SQL1221N アプリケーション・サポート層ヒープを割り振ることができません。

説明: アプリケーション・サポート層ヒープを割り振ることができませんでした。このエラーの原因としては、データベース・マネージャー、またはデータベース・マネージャーの処理が試みられていた環境に、十分なメモリー・リソースが存在しなかった可能性があります。この問題の原因となるメモリー・リソースには、以下が含まれます。

- システムに割り振られている共用メモリー ID の数
- システムが使用可能なページングまたはスワッピングの容量
- システムが使用可能な物理メモリーの容量

ユーザーの処置: 以下の 1 つ以上を行ってください。

- データベース・マネージャーとシステムで実行中の他のプログラムの要求を満たすだけのメモリー・リソースが、使用可能であることを確認してください。
- aslheapsz* 構成パラメーターを減らしてください。
- 該当する場合は、システムを使用している他のプログラムを停止してください。

sqlcode: -1221

sqlstate: 57011

SQL1222N その要求の処理に使用できる十分なストレージが、アプリケーション・サポート層ヒープにありません。

説明: アプリケーション・サポート層ヒープのすべての利用可能なメモリーを使いきってしまいました。

ユーザーの処置: *aslheapsz* 構成パラメーターを増やしてください。

sqlcode: -1222

sqlstate: 57011

SQL1223N この要求を処理するためのエージェントを開始できませんでした。

説明: *maxagents* 構成パラメーターを超えてしまうために、要求は失敗しました。

ユーザーの処置: *maxagents* 構成パラメーターを増やすか、またはデータベースを使用するユーザー数を減らすか、もしくはその両方を行ってください。

sqlcode: -1223

sqlstate: 57019

SQL1224N データベース・エージェントが、要求を処理するために開始できなかったか、あるいはデータベース・システムの遮断または強制コマンドによって終了されました。

説明: このメッセージは、以下の場合に出されます。

- データベース・サーバーでデータベース・マネージャーが始動していません。
- データベース・マネージャーが停止しました。
- データベース・マネージャーが、すでに最大数のエージェントを割り振っています。

- データベース・エージェントが、システム管理者によって強制終了されました。
- 主要データベース・マネージャー・プロセスの異常終了のために、データベース・エージェントが終了しました。
- アプリケーションがローカル・プロトコルで複数コンテキストを使用しています。この場合、接続の数は単一プロセスが接続できる共用メモリー・セグメントの数によって制限されます。たとえば、AIX での制限は 1 プロセスごとに 10 の共用メモリー・セグメントになります。

追加の連合サーバー・ケースは以下のとおりです。

- オペレーティング・システム・レベルでユーザーごとの処理の最大数 (AIX では `maxuproc`) を超えました。
- TCP/IP プロトコルを使用しているクライアント / サーバー環境では、クライアントで TCP/IP サービス名に割り当てられたポート番号はサーバーのポート番号と異なります。

この状態は連合サーバーまたはデータ・ソースで検出できます。

ユーザーの処置: データベース要求を再発行してください。接続が確立できない場合は、データベース・マネージャーが正常に始動していることを確認してください。さらに、*maxagents* データベース・マネージャー構成パラメーターが適切に構成されていることを確認してください。

連合システム・ユーザーは、次のように行う必要があります。

- 問題を、要求を拒否したデータ・ソースと分離して (*DB2 問題判別の手引き* を参照し、失敗するデータ・ソースを識別するための手続きに従ってください)、通信サブシステムが活動状態であることと、データベース・マネージャーおよび要求された通信プロトコル・サーバーがデータベース・サーバーで始動していることを確認してください。

- AIX オペレーティング・システムでは、`maxuproc` の設定をして、必要があれば変更する。`maxuproc` は、与えられた連合サーバーの下で実行できる処理の数を制限します。デフォルト設定は 40 です。

`maxuproc` の現在の設定をチェックするには、以下のコマンドを使用します。

```
lsattr -E -l sys0
```

指定された連合サーバーの下で現在実行中の処理の数を表示するには次のコマンドを使用してください。

```
ps -ef | grep instdjl | wc -l
```

この場合は “`instdjl`” は連合サーバーのインスタンス名です。

`maxuproc` を変更するには、次のコマンドを使用します。

```
chdev -l sys0 -a maxuproc='nn'
```

この場合 **nn** は `maxuproc` の新規整数値です。

アプリケーションがローカル・プロトコルで複数コンテキストを使用している場合、アプリケーション内の接続数を減らすか、別のプロトコル (たとえば、TCP/IP) に切り替えてください。AIX バージョン 4.2.1 またはこれ以上の場合、環境変数 `EXTSHM` を `ON` に設定し、単一プロセスが付加できる共用メモリーのセグメント数を増やすことができます。

sqlcode: -1224

sqlstate: 55032

SQL1225N オペレーティング・システムのプロセス、スレッド、またはスワップ・スペースの限界に達したために、要求は失敗しました。

説明: オペレーティング・システムのプロセス、スレッド、またはスワップ・スペースの限界に達

しました。db2diag ログ・ファイルでこの問題に関する詳細情報を調べてください。AIX システムでは、maxuproc 値が小さすぎる可能性があります。OS/2 ベースのシステムでは、THREADS CONFIG.SYS 値が小さすぎる可能性があります。

ユーザーの処置: db2diag.log ファイルを調べて、限界に達したものを判別し、その限界値を大きくしてください。

sqlcode: -1225

sqlstate: 57049

SQL1226N 調整エージェントの最大数は、すでに開始されています。

説明: 開始された調整エージェント数はすでに、システム構成ファイルに定義された最大値と同等になっています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ほかのアプリケーションがデータベースから切断するまでお待ちください。並行して、複数のアプリケーションが必要とされる場合、max_coordagents 値を増やしてください。新しい値は、次のデータベース・マネージャーが正常に始動した後に反映されます。

sqlcode: -1226

sqlstate: 57030

SQL1227N 列 "`<column>`" のカタログ統計 "`<value>`" が、ターゲットの列の範囲を超えているか、無効な形式を持っているか、他の統計との関係に矛盾があります。理由コード = "`<code>`"

説明: 更新可能カタログに指定された統計の値または形式が、無効か、範囲を超えているか、または矛盾しています。値、範囲、形式についての最も一般的なチェックは、以下のとおりです ("`<code>`" に対応しています)。

- 1 数値統計は -1 または ≥ 0 でなければなりません。
- 2 パーセントを表す数値統計 (たとえば、CLUSTERRATIO) は、 0 と 100 の間でなければなりません。
- 3 HIGH2KEY、LOW2KEY に関連する規則は、以下のとおりです。
 - HIGH2KEY、LOW2KEY の値のデータ・タイプは、対応するユーザー列と同じデータ・タイプでなければなりません。
 - HIGH2KEY、LOW2KEY の値の長さは、 33 またはターゲット列のデータ・タイプの最大長より短くなければなりません。
 - 対応する列に 3 つ以上の異なる値が存在する場合は、常に HIGH2KEY が $>$ LOW2KEY でなければなりません。列に 3 つ未満の異なる値が存在する場合は、HIGH2KEY が LOW2KEY と同じでもかまいません。
- 4 PAGE_FETCH_PAIRS に関連する規則は、以下のとおりです。
 - PAGE_FETCH_PAIRS 統計の個々の値は、ブランク区切り文字によって分離されていなければなりません。
 - PAGE_FETCH_PAIRS 統計の個々の値は、 10 桁より大きくてはならず、最大整数値 (MAXINT = 2147483647) より小さくなければなりません。
 - CLUSTERFACTOR が > 0 の場合は、常に有効な PAGE_FETCH_PAIRS 値でなければなりません。
 - 単一の PAGE_FETCH_PAIR 統計には、正確に 11 対が存在しなければなりません。
 - PAGE_FETCH_PAIRS のバッファー・サイズ項目は、昇順の値でなければなりません。また、PAGE_FETCH_PAIRS 項目のいずれの

バッファー・サイズの値も、NPAGES
が対応する表のページ数である
MIN(NPAGES、524287) より大きく
することはできません。

- PAGE_FETCH_PAIRS の "fetches" 項目は、NPAGES より少ない個別の fetches 項目を持たずに、降順の値でなければなりません。また、PAGE_FETCH_PAIRS 項目の "fetch" サイズの値は、対応する表の CARD (カーディナリティー) 統計より大きくしないでください。

- バッファー・サイズの値が 2 つの連続した列で同じ場合は、ページ・フェッチの値もその両方で同じでなければなりません。

5 CLUSTERRATIO と CLUSTERFACTOR に関連する規則は、以下のとおりです。

- CLUSTERRATIO の有効な値は -1、または 0 と 100 の間です。
- CLUSTERFACTOR の有効な値は -1、または 0 と 1 の間です。
- CLUSTERRATIO または CLUSTERFACTOR のどちらかは、常に -1 でなければなりません。
- CLUSTERFACTOR が正の値の場合は、有効な PAGE_FETCH_PAIR 統計が伴わなければなりません。

6 列のカーディナリティー (SYSCOLUMNS の COLCARD 統計) は、対応する表のカーディナリティー (SYSTABLES の CARD 統計) より大きく できません。

7 データ・タイプ LONG VARCHAR、 LONG VARGRAPHIC、BLOB、 CLOB、DBCLOB、またはユーザー定義 の構造化タイプを持つ列で、統計はサポ ートされていません。

8 統計が、このエンティティーに関連する

別の統計と矛盾しているか、またはこの
コンテキストでは無効です。

ユーザーの処置: 新しいカタログ統計が、上記の
範囲 / 長さ / 形式チェックを満足していること
を確認してください。

統計に対する更新が、内部関係 (たとえば、
cardinality) において整合性を持っていることを確
認してください。

sqlcode: -1227

sqlstate: 23521

SQL1228W DROP DATABASE は完了しまし
たが、データベース別名またはデー
タベース名 "<name>" が
"<num>" ノードで見つかりませ
ん。

説明: drop database コマンドは正常に完了しま
したが、データベース別名またはデータベース名
が見つからないノードがあります。 DROP
DATABASE AT NODE がこのノードですすでに実
行されている可能性があります。

ユーザーの処置: これは注意メッセージです。
応答は必要ありません。

**SQL1229N 現行トランザクションがシステム・
エラーのためロールバックしていま
す。**

説明: 以下のいずれかが起こりました。

1. ノード障害または通信障害といったシステ
ム・エラーが発生しました。 アプリケーシ
ョンは直前の COMMIT にロールバックされま
す。

DB2 ユーティリティー機能では、各機能は次
のようになります。

インポート

アプリケーションがロールバックさ
れます。COMMITCOUNT パラメー

ターを使用した場合、操作が直前のコミット・ポイントにロールバックします。

Reorg 操作がアボートし、再実行する必要があります。

再配布 操作はアボートしますが、正常に終了している操作もある可能性があります。「続行」オプションで要求を再度出すと、失敗したところから操作を再始動します。

ロールフォワード

操作がアボートし、データベースはロールフォワード保留状態のままです。コマンドを再実行してください。

バックアップ / 復元

操作がアボートし、再実行する必要があります。

- FCM (高速コミュニケーション・マネージャー) コミュニケーションは、DB2 インスタンスのすべてのノードにおいて同じではありません。すべてのノードのサービス・ファイルを検査し、ポートが同じであることを確認してください。ポートは次の形式を使用して定義されました。

```
DB2_<instance>      xxxx/tcp
DB2_<instance>_END  xxxx/tcp
```

<instance> は DB2 インスタンス名、xxxx はポート番号です。これらのポート番号が DB2 リモート・クライアント・サポートに使用されていないことを確認してください。

ユーザーの処置:

- 要求を再度試行してください。エラーが残る場合、db2diag ログ・ファイルでこの問題に関する詳細情報を調べてください。このエラーが最も多く発生する理由は、ノード障害のため、システム管理者に連絡して援助してもらうことが必要な場合があります。

高速スピード・スイッチが使用されている SP 環境では、このエラーは高速スピード・スイッチで障害が起きる徴候です。

- すべてのノードにおいて同じになるように、サービス・ポートを更新し、要求を再実行してください。

SQLCA の 6 番目の SQL エラー・フィールドが、ノード障害を検出したノード番号を示します。障害を検出したノードに関して、障害を起こしたノードを識別する db2diag ログにメッセージが入ります。

sqlcode: -1229

sqlstate: 40504

SQL1230W 指定されたエージェント ID の中に、強行できないものが少なくとも 1 つありました。

説明: Force コマンドに指定されたエージェント ID の中に、強行できないものが少なくとも 1 つありました。この警告の原因としては、以下が考えられます。

- 存在しないエージェント ID、または無効なエージェント ID が指定されました。
- エージェント ID の収集と Force コマンドの発行までの間に、エージェントがデータベース・マネージャーから切断されました。
- エージェント ID が実行できない並列エージェント (DB2 エンタープライズ拡張エディションのみにあります) に対して指定されました。

ユーザーの処置: 存在しないエージェント ID、または無効なエージェント ID を指定した場合は、有効なエージェント ID を使用して、コマンドを再発行してください。

SQL1231N 無効な Force count が指定されました。

説明: Force コマンドの count パラメーターに指定された値が有効ではありません。指定する値

は、正の整数または SQL_ALL_USERS でなければなりません。0 の値はエラーになります。

ユーザーの処置: count の値を訂正して、コマンドを再発行してください。

SQL1232N 無効な Force mode が指定されました。

説明: Force コマンドの mode パラメーターに指定された値が有効ではありません。Force コマンドでは、非同期モードのみがサポートされています。パラメーターは、SQL_ASYNC に設定される必要があります。

ユーザーの処置: mode を SQL_ASYNC に設定して、コマンドを再発行してください。

SQL1233N この文節またはスカラー関数は、UCS-2 であるグラフィック・データのみでサポートされます。

説明: UCS-2 はこのデータベースではサポートされていません。UCS-2 のサポートは、次の場合に必要です。

- トラフィック・ストリング式を VARCHAR スカラー関数の最初の引き数として指定している
- 2 番目の引き数が指定されている場合、文字ストリング式を VARGRAPHIC スカラー関数の最初の引き数として指定している
- 形式 UX'hex-digits' を使用している UCS-2 16 進定数を指定している

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 有効なデータ・タイプを使用して、コマンドを再発行してください。

sqlcode: -1233

sqlstate: 560AA

SQL1240N 静止状態の最大数に達しました。

説明: すでに 5 つのプロセスによって静止されている表スペースに対して、静止状態の獲得が試みられました。

ユーザーの処置: いずれかのプロセスが静止状態を解放するのを待って、もう一度やり直してください。

SQL1241N データベースの作成時に、無効な値が "<tbs-name>" 表スペースに指定されました。属性は "<string>" です。

説明: 表スペース属性の値が範囲外です。create database api に使用されている sqltsdesc 構造の形式については、「アプリケーション開発の手引き」の「データ構造」セクションを参照してください。識別された属性は、この構造のフィールド名です。

ユーザーの処置: create database 要求を訂正してください。

SQL1244W トランザクション・マネージャー・データベース "<server-name>" の切断が、次の COMMIT で起きます。

説明: TM データベースとして活動中のデータベースに対して、切断が発行されました。次の COMMIT が処理されるまで、切断は完了しません。

ユーザーの処置: TM データベースとして活動中のデータベースを即座に切断する必要がある場合は、処理を続ける前に、COMMIT ステートメントを発行してください。

sqlcode: +1244

sqlstate: 01002

SQL1245N 接続限界に達しました。このクライアントからは、これ以上接続できません。

説明: 接続数が制限されているか、または事前定義される必要がある環境で、並列データベース接続の最大数に達しました。これが起きる可能性がある主な例には、NETBIOS プロトコルの使用があります。

ユーザーの処置: 解決策は以下の通りです。

- SET CLIENT コマンドまたは API を使用して、「MAX NETBIOS CONNECTIONS」フィールドを必要な並列接続の最大数に設定してください。これは、接続を行う前に実行する必要があります。

sqlcode: -1245

sqlstate: 08001

SQL1246N 接続が存在している間は、接続設定を変更できません。

説明: 以下のいずれかが起きました。

- SET CLIENT API を使用するアプリケーションの接続設定の変更が試みられました。1 つ以上の接続が存在するために、拒否されました。
- アプリケーションに、DB2 コール・レベル・インターフェース API 呼び出しと組み込み SQL の入った関数への呼び出しの両方が入っており、接続管理が CLI API で呼び出されませんでした。

ユーザーの処置: 解決策は以下の通りです。

- SET CLIENT API (sqlesetc または sqlgsetc) あるいは CLP コマンドを実行する前に、アプリケーションがすべてのサーバーから切断されていることを確認してください。
- CLI がアプリケーションで使用されている場合は、すべての接続管理要求が、DB2 コール・

レベル・インターフェース API 経由で発行されていることを確認してください。

SQL1247N XA トランザクション処理環境で実行するアプリケーションには、**SYNCPOINT TWOPHASE** 接続設定を使用する必要があります。

説明: アプリケーションが、オプション SYNCPOINT ONEPHASE または SYNCPOINT NONE でプリコンパイルされているか、または SYNCPOINT 接続設定が、SET CLIENT API を使用して、上記のいずれかのオプションに変更されました。これらの設定は、トランザクション処理同期点コマンド (たとえば、CICS SYNCPOINT) を実行するアプリケーションには無効です。SYNCPOINT ONEPHASE が、デフォルト・プリコンパイラ・オプションであることに注意してください。

ユーザーの処置: 解決策は以下の通りです。

- プリコンパイラ・オプション SYNCPOINT TWOPHASE を使用して、もう一度アプリケーションをプリコンパイルしてください。
- 他の処理の前に、接続オプションを SYNCPOINT TWOPHASE に設定するために、SET CLIENT API が呼び出されるように、プログラムを変更してください。

sqlcode: -1247

sqlstate: 51025

SQL1248N データベース “<database alias>” は、トランザクション・マネージャーに定義されていません。

説明: トランザクション・マネージャーによってオープンされていないデータベースのアクセスが試みられました。2 フェーズ・コミットに使用するには、データベースがトランザクション・マネージャーに定義されている必要があります。

ユーザーの処置: 分散トランザクション処理環境

のトランザクション・マネージャーにリソース・マネージャーとして、データベースを定義してください。たとえば、CICS 環境の場合、XAD ファイルにデータベースを追加し、データベース別名を XAD 項目の XAOpen スtringに指定する必要があります。

sqlcode: -1248

sqlstate: 42705

SQL1251W ヒューリスティック照会に戻されるデータはありません。

説明: データベースに未確定トランザクションも、終了して同期点処理に入るのを待っているトランザクションもありません。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL1260N データベース “<name>” は、ノード “<node-list>” のロールフォワード・リカバリー用に構成されていません。

説明: 指定のデータベースが、示されているノードでロールフォワード・リカバリー用に構成されていません。“、...” がノード・リストの終わりに表示されている場合、完全なリストを見るには診断ログを調べてください。

データベースは指定のノードでロールフォワードされません。

(注: 区分データベース・サーバーを使用している場合、ノード番号は、エラーを起こしているノードを示しています。そうでない場合、これは関係のないものなので無視してください。)

ユーザーの処置: 指定ノードでリカバリーが必要か確認して、次にこのノードのデータベースのバックアップで最新のバージョンを復元してください。

SQL1261N データベース “<name>” はノード “<node-list>” でロールフォワード保留状態ではありません。そのためこのノードでロールフォワードする必要はありません。

説明: 指定のデータベースは指定ノードでロールフォワード保留状態にありません。これはデータベースが復元されていないか WITHOUT ROLLING FORWARD オプションで復元されたか、ロールフォワード・リカバリーがこのノードで完了したために起こる場合があります。

“、...” がノード・リストの終わりに表示されている場合、完全なリストを見るには診断ログを調べてください。

データベースはロールフォワードされません。

(注: 区分データベース・サーバーを使用している場合、ノード番号は、エラーを起こしているノードを示しています。そうでない場合、これは関係のないものなので無視してください。)

ユーザーの処置: 次のいずれかを行ってください。

1. 指定ノードでリカバリーが必要か確認してください。
2. このノードのデータベースのバックアップ・バージョンを復元してください。
3. ROLLFORWARD DATABASE コマンドを実行してください。

SQL1262N データベース “<name>” のロールフォワードに指定された時刻が無効です。

説明: 停止時刻値に指定された timestamp パラメーターが有効ではありません。timestamp は ISO 形式 (YYYY-MM-DD-hh.mm.ss.<sssss> で、YYYY は年、MM は月、DD は日、hh は時、mm は分、ss は秒を表し、sssss はオプションでマイクロ秒を表します) で入力する必要があります。

データベースはロールフォワードされません。

ユーザーの処置: timestamp が正しい形式で入力されていることを確認してください。

ROLLFORWARD DATABASE コマンドを実行する場合は、2105 より大きい年を指定していないことを確認してください。

SQL1263N アーカイブ・ファイル “<name>” がノード “<node-number>” のデータベース “< name>” で無効なログ・ファイルです。

説明: 指定のアーカイブ・ログ・ファイルが、データベース・ログ・ディレクトリーまたはオーバーフロー・ログ・ディレクトリーで見つかりましたが、ファイルが無効でした。

ロールフォワード・リカバリー処理は停止します。

(注：区分データベース・サーバーを使用している場合、ノード番号は、エラーを起こしているノードを示しています。そうでない場合、これは関係のないものなので無視してください。)

ユーザーの処置: 正しいアーカイブ・ログ・ファイルを判別するには、QUERY STATUS オプションを付けて、ROLLFORWARD DATABASE コマンドを実行してください。正しいアーカイブ・ログ・ファイルをデータベース・ログ・ディレクトリーに移すか、またはデータベースが整合性のある状況の場合は、正しいアーカイブ・ファイルを指すようにログ・パスを変更して、ROLLFORWARD DATABASE コマンドを再発行してください。別の方法として、正しいアーカイブ・ファイルを指しているオーバーフロー・ログ・パスを使用して、コマンドを再発行してください。

SQL1264N アーカイブ・ファイル “<name>” は、ノード “<node-number>” のデータベース “<database-name>” に属していません。

説明: 示されたアーカイブ・ログ・ファイルがログ・ディレクトリー、またはオーバーフロー・ログ・ディレクトリーで見つかりましたが、指定されたデータベースには属していません。

ロールフォワード・リカバリー処理は停止します。

(注：区分データベース・サーバーを使用している場合、ノード番号は、エラーを起こしているノードを示しています。そうでない場合、これは関係のないものなので無視してください。)

ユーザーの処置: 正しいアーカイブ・ログ・ファイルを判別するには、QUERY STATUS オプションを付けて、ROLLFORWARD DATABASE コマンドを実行してください。正しいアーカイブ・ログ・ファイルをデータベース・ログ・ディレクトリーに移すか、またはデータベースが整合性のある状況の場合は、正しいアーカイブ・ファイルを指すようにログ・パスを変更して、ROLLFORWARD DATABASE コマンドを再発行してください。別の方法として、正しいアーカイブ・ファイルを指しているオーバーフロー・ログ・パスを使用して、コマンドを再発行してください。

SQL1265N アーカイブ・ログ・ファイル “<name>” が、ノード “<node-number>” のデータベース “<name>” に対する現行のログ順序に関連していません。

説明: ロールフォワード・リカバリーの場合は、ログ・ファイルが正しい順序で処理される必要があります。ログ・ファイルの順序は、復元されたデータベース、または処理されたログ・ファイルによって決定されます。これに加えて、表スペース・レベル・ロールフォワード・リカバリーの場合は、ログ・ファイルが、データベースの現

在の状態が達した順序で処理される必要があります。指定のアーカイブ・ログ・ファイルが、指定ノードのデータベースのログ・ディレクトリまたはオーバーフロー・ログ・パスで見つかりましたが、ログ・ファイルが正しいログ順序ではありませんでした。

ロールフォワード・リカバリー処理は停止します。

(注：区分データベース・サーバーを使用している場合、ノード番号は、エラーを起こしているノードを示しています。そうでない場合、これは関係のないものなので無視してください。)

ユーザーの処置： 正しいアーカイブ・ログ・ファイルを判別するには、QUERY STATUS オプションを付けて、ROLLFORWARD DATABASE コマンドを実行してください。正しいアーカイブ・ログ・ファイルをデータベース・ログ・ディレクトリに移すか、またはデータベースが整合性のある状況の場合は、正しいアーカイブ・ファイルを指すようにログ・パスを変更して、ROLLFORWARD DATABASE コマンドを再発行してください。別の方法として、正しいアーカイブ・ファイルを指しているオーバーフロー・ログ・パスを使用して、コマンドを再発行してください。

SQL1266N データベース “<name>” が、指定された時刻を過ぎた “<timestamp>” までロールフォワードされました。

説明： ロールフォワードが、指定されたデータベース・ログ・ファイルの現在時刻より前のタイム・スタンプで停止するよう要求されています。これは、データベースあるいは表スペースのサブセットを、時刻までにロールフォワードするときにあります。

データベースのロールフォワード処理が停止します。

ユーザーの処置： 正しい時刻を指定するか、またはデータベースまたは表スペース・サブセットを

バックアップ・バージョンから復元して、ROLLFORWARD コマンドを再発行してください。

SQL1267N システムが、現在の PATH 環境変数で db2uexit を見つけることができませんでした。

説明： ユーザー提供ファイル db2uexit が、現在の PATH 環境変数に存在しないか、またはファイルが存在しないために、見つかりませんでした。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置： db2uexit へのパスを含むように、現在の PATH 環境変数を更新するか、または db2uexit ファイルを作成して、必要に応じて、PATH 環境変数を更新してください。

SQL1268N ノード “<node-number>” のデータベース “<name>” に対するログ・ファイル “<logfile>” の検索中に、ロールフォワード・リカバリーがエラー “<error>” のために停止しました。

説明： ロールフォワードの処理は、ログ・ファイルを検索するために db2uexit を呼び出します。エラーは db2uexit で起きた可能性があります。

ロールフォワード処理は停止します。データベースは指定ノードでロールフォワード保留状態のままです。

(注：区分データベース・サーバーを使用している場合、ノード番号は、エラーを起こしているノードを示しています。そうでない場合、これは関係のないものなので無視してください。)

ユーザーの処置： エラー、およびロールフォワード・リカバリーの再開または終了の説明については、管理の手引き のユーザー出口文書を参照してください。

SQL1269N 表スペース・レベル・ロールフォワード・リカバリーがすでに実行中です。

説明: 表スペース・レベル・ロールフォワード・リカバリーの使用が試みられましたが、すでに実行されています。一時点では、1つのエージェントのみが、ロールフォワード・リカバリーを実行することができます。

ユーザーの処置: 表スペース・レベル・ロールフォワード・リカバリーが完了するまで待ってください。リカバリーが必要な表スペースがまだある場合は、もう一度表スペース・レベル・ロールフォワード・リカバリーを開始してください。

SQL1270C LANG 環境変数が“<string>”にセットされています。この言語はサポートされていません。

説明: LANG 環境変数が、データベース・マネージャーがサポートしていない言語に設定されています。処理を継続できません。

ユーザーの処置: LANG 環境変数を、サポートされている言語に設定してください。詳細については、*管理の手引き*の「各国語サポート」付録を参照してください。

連合システム・ユーザー: NLS の詳細は、*DB2 インストールおよび構成 補足*を参照してください。

SQL1271W データベース“<name>”は回復されましたが、1つ以上の表スペースがノード“<node-list>”オフラインです。

説明: このメッセージは、破損リカバリー、データベース・レベル・ロールフォワード・リカバリー、または表スペース・レベル・ロールフォワード・リカバリーの後に、出される場合があります。データベースのレベル・ロールフォワード・リカバリーについて、データベースは STOP オプションが指定されている場合使用可能です。指定

ノードにある 1 つまたは複数の表スペースは使用できません。これは以下の場合に起きます。

- STOP オプションが時刻までの表スペース・レベル・ロールフォワード・リカバリーに指定されていない
- 1 つまたは複数の表スペースがリカバリー中にエラーを受け取った
- 表スペース・レベル・ロールフォワード・リカバリーがすでに進行中である間に追加の表スペースが復元された
- データベースが以前に表スペースがロールフォワードされた時刻を過ぎてロールフォワードされると、関連するすべての表スペースが復元保留状態になる

オフラインの表スペースは LIST TABLESPACES コマンドあるいは db2dart ユーティリティで指定されるノードで識別されます。診断ログが、特定の表スペースに関する詳細情報を提供します。

“、...” がノード・リストの終わりに表示されている場合、完全なリストを見るには診断ログを調べてください。

(注: 区分データベース・サーバーを使用している場合、ノード番号は、エラーを起しているノードを示しています。そうでない場合、これは関係のないものなので無視してください。)

ユーザーの処置: 必要に応じて表スペースの修復あるいは復元を行いロールフォワード・リカバリーを実行します。同じエラーが起きる場合、表スペース・レベル・ロールフォワード・リカバリーをオフラインで実行してみてください。

SQL1272N データベース“<name>”に対する表スペース・レベル・ロールフォワード・リカバリーが、ノード“<node-list>”で完了する前に停止しました。

説明: すべての修飾表スペースがロールフォワードされる前に、表スペース・レベル・ロールフォ

ワード・リカバリーが指定ノードで停止しました。これは、以下のいずれかによって起きる可能性があります。

- トランザクション表がいっぱいである。
- ロールフォワードされた表スペースのすべてが入出力エラーを受け取った。
- 時刻表スペース・レベルのロールフォワードでロールフォワードされた表スペースのいずれかに入出力エラーが起きた。
- 時刻表スペース・レベルのロールフォワードでロールフォワードされた表スペースのいずれかに対して、変更を行った活動状態のトランザクションを検出した。このトランザクションは未確定トランザクションである場合があります。
- 表スペース・レベル・ロールフォワードが中断し、再開する前にロールフォワードしていたすべての表スペースが再度復元された場合にも起きる可能性があります。

”、...” がノード・リストの終わりに表示されている場合、完全なリストを見るには診断ログを調べてください。

(注: 区分データベース・サーバーを使用している場合、ノード番号は、エラーを起こしているノードを示しています。そうでない場合、これは関係のないものなので無視してください。)

ユーザーの処置: 原因については、診断ログをチェックしてください。原因にしたがって次のいずれかを行ってください。

- LIST TABLESPACES コマンドを使用して表スペースが入出力エラーを受け取ったかを判別してください。その場合、表スペースを修復します。
- トランザクション表がいっぱいの場合、MAXAPPLS データベース構成パラメーターを組み込むか、あるいは表スペース・レベル・ロールフォワードをオフラインで実行してみてください。

- 原因が活動状態あるいは未確定のトランザクションにある場合、トランザクションを完了してください。
- 前の表スペース・レベル・ロールフォワードを中断したあとで、表スペースが復元された場合、前の表スペース・レベル・ロールフォワードはこの時点で取り消されます。次の表スペース・レベル・ロールフォワード・コマンドが、ロールフォワード保留状態の表スペースを調べます。

表スペース・レベル・ロールフォワード・リカバリーを再度実行してください。

SQL1273N データベース "`<name>`" のロールフォワード・リカバリーはノード "`<node-number>`" のログ・ファイル "`<name>`" が抜けているため、指定の停止点 (ログの終わりまたは時刻) に達しません。

説明: ロールフォワード・データベース・ユーティリティがデータベース・ログ・ディレクトリー、または指定ノードのオーバーフロー・ログ・ディレクトリーで指定のアーカイブ・ログ・ファイルを見つけることができません。

ロールフォワード・リカバリーは停止しました。

(注: 区分データベース・サーバーを使用している場合、ノード番号は、エラーを起こしているノードを示しています。そうでない場合、これは関係のないものなので無視してください。)

ユーザーの処置: 以下のいずれかを実行してください。

- 示されたアーカイブ・ログ・ファイルをデータベース・ログ・ディレクトリーに移すか、またはデータベースが整合状態の場合は、ログ・パスを正しいアーカイブ・ファイルに変更して、ROLLFORWARD DATABASE コマンドを再発行してください。別の方法として、正しいア

ーカイブ・ファイルを指しているオーバーフロー・ログ・パスを使用して、コマンドを再発行してください。

- 抜けているログ・ファイルが見つからない場合には、すべてのノードで、データベース / 表スペースを復元し抜けているログ・ファイルのタイム・スタンプより早いタイム・スタンプで時刻の指定をしてください。

SQL1274N データベース “<name>” にロールフォワード・リカバリーが必要であり、時刻はログの最後に設定する必要があります。

説明: データベースがロールフォワードされる必要があります。データベース・レベル・ロールフォワード・リカバリーでは、ログの最後までデータベース・レベル・ロールフォワードがすでに進行中であるため、時刻をログの最後に設定する必要があります。ロールフォワードを継続するには、同じ停止時間を指定しなければなりません。

以下の理由で、表スペース・レベル・ロールフォワード・リカバリーの場合は、時刻をログの最後に設定する必要があります。

- システム・カタログにはロールフォワード・リカバリーが必要です。システム・カタログはいつも、ほかのすべての表スペースと整合性を保つために、ログの最後にロールフォワードする必要があります。
- ログの最後に、表スペース・レベル・ロールフォワードがすでに進行中です。ロールフォワードを継続するには、同じ停止時間を指定しなければなりません。

データベースはロールフォワードされません。

ユーザーの処置: ROLLFORWARD TO END OF LOGS を指定して、ROLLFORWARD コマンドを再発行してください。

SQL1275N ロールフォワードに渡される停止時刻は、ノード “<node-list>” のデータベース “<name>” に指定時刻よりあとの情報が含まれているため “<timestamp>” 以降または同じにしてください。

説明: ロールフォワードされたデータベースあるいは少なくとも表スペースのいずれか 1 つがオンラインでバックアップされました。拡張仮想タイム・スタンプが表スペース・バックアップにあります。ロールフォワードに渡される停止時刻は、指定ノードのオンライン・バックアップの終了時刻よりも大きいか等しくなければなりません。

“、...” がノード・リストの終わりに表示されている場合、完全なリストを見るには診断ログを調べてください。

(注: 区分データベース・サーバーを使用している場合、ノード番号は、エラーを起しているノードを示しています。そうでない場合、これは関係のないものなので無視してください。)

ユーザーの処置: 以下のいずれかを実行してください。

- 停止時刻を “<timestamp>” よりも大きいか等しくして、コマンドを再発行してください。時刻は CUT (Coordinated Universal Time) で指定する必要があります。
- ノードの前のバックアップを復元して、ROLLFORWARD DATABASE コマンドを再発行します。

SQL1276N データベース "`<name>`" は、ロールフォワードが "`<timestamp>`" と等しいかより大きい時間にポイントを渡すまで、ロールフォワード保留状態から抜け出すことはできません。それは、ノード "`<node-number>`" に指定時刻よりあとの情報が含まれているためです。

説明: 呼び出し元のアクション

SQLUM_ROLLFWD_STOP、SQLUM_STOP、SQLUM_ROLLFWD_COMPLETE、SQLUM_COMPLETE を指定して、データベースあるいは表スペースのサブセットについて、ロールフォワード保留状態を解除させる要求が行われました。ただし、ロールフォワードされたデータベースあるいは少なくとも表スペースのいずれか 1 つがオンラインでバックアップされました。指定ノードのオンライン・バックアップ・タイム・スタンプの終わりにデータベースがロールフォワードされるまで、この要求を授与することはできません。

このエラーは、要求されたりカバリーを実行するために、すべてのログ・ファイルが提供されているわけではない場合にも発生します。

(注: 区分データベース・サーバーを使用している場合、ノード番号は、エラーを起こしているノードを示しています。そうでない場合、これは関係のないものなので無視してください。)

ユーザーの処置: ROLLFORWARD で指定された停止時刻の方が "`<timestamp>`" より小さい場合、"`<timestamp>`" より大きいか等しい停止時刻でコマンドを再実行します。

ログ・ファイルがすべて提供されているか、確認してください。ROLLFORWARD QUERY STATUS コマンドは、どのログ・ファイルが次に処理されるかを示します。ログ・ファイルの欠落に対する理由には、次のものがあります。

- ログ・パスが変更となった。ファイルは、前のログ・パスにあります。

- ユーザー出口プログラムは、ログ・ファイルが別の場所に保存されているため、検索することができない。

欠落ログ・ファイルが見つかった場合、これをログ・パスにコピーし、コマンドを再実行します。

SQL1277N 復元で、1 つ以上の表スペース・コンテナがアクセス不能であることが検出されたか、あるいはコンテナの状態を「ストレージを定義してください」に設定しました。

説明: 復元は、復元中の各表スペースが必要とするコンテナが、現在システムでアクセス可能であるかどうかを検査します。アクセス可能な場合は、コンテナが存在しないと、復元がコンテナを作成します。コンテナが作成できない場合、現在別の表スペースが使用中の場合、または他の理由でアクセスできない場合は、復元を続ける前に、必要なコンテナのリストを訂正する必要があります。

これがリダイレクト復元の場合、復元されている表スペースの各コンテナの状態は、「ストレージを定義してください」に設定されます。それによって、ストレージを再定義するのに、コンテナに対して SET TABLESPACE CONTAINERS api またはコマンドを使用することができます。

ユーザーの処置: 復元中の各表スペースのコンテナのリストを判別するには、TABLESPACE CONTAINER QUERY api を使用してください。各表スペースの更新したリストを指定するには、SET TABLESPACE CONTAINERS api を使用してください。この api によって、このリストがコンテナの初期リスト (すなわち、後続のロールフォワードが、データベース・ログに記録されている "コンテナの追加" 処理を再実行します) か、または最終リスト (ロールフォワードが "コンテナの追加" 処理を再実行しません) かを指定することができます。

コンテナが読み取り専用の可能性もあります。この場合、復元を続行するために必要な処置は、

コンテナへの読み取り / 書き込みアクセスの付与だけです。

SQL1278W ロールフォワード処理が正常に完了しました。活動状態あるいは未確定のトランザクションでは、ノード "`<node-list>`" でのロールバックが必要です。

説明: 時刻に対する表スペースのサブセットのロールフォワードは正常に完了しましたが、次の状態のいずれか、あるいは両方が起きました。

1. 指定時刻で活動状態のトランザクションが 1 つまたは複数存在します。トランザクションごとに、表スペース・サブセットの表スペースでロールバックされます。
2. 指定時刻で未確定のトランザクションが 1 つまたは複数存在します。未確定のトランザクションごとに、表スペース・サブセットの表スペースでロールバックされます。

表スペース・サブセットの表スペースでロールバックされたトランザクションは、ロールフォワードを行っていない別の表スペースにコミットされたままの可能性あります。

"、..." がノード・リストの終わりに表示されている場合、完全なリストを見るには診断ログを調べてください。

(注: 区分データベース・サーバーを使用している場合、ノード番号は、エラーを起こしているノードを示しています。そうでない場合、これは関係のないものなので無視してください。)

ユーザーの処置: 診断ログには、ロールフォワード・リカバリーでロールバックされたロールバックの詳細が含まれます。

SQL1279W いくつかの無効な索引が再作成されていない可能性があります。

説明: データベースの索引が再作成されるのは、データベースの再始動中です。いくつかの無効な

索引の再作成を妨げるエラーが、再始動中に起きました。詳細が、システム・エラー・ログとデータベース・マネージャーのエラー・ログ、またはそのいずれかに記録されている場合があります。

データベースの再始動または Reorg は成功しました。

ユーザーの処置: エラー・ログを調べて索引が再作成できなかった理由を判別し、問題を訂正してください。表が最初にアクセスされたときに、表の無効な索引が再作成されます。

SQL1280N ロールフォワードに渡される停止時間は、データベース "`<name>`" に対して "`<timestamp>`" より小さいか等しくしてください。これは、少なくとも 1 つの表スペースがこの時点ですでにロールフォワードしているためです。

説明: 時刻に対するロールフォワードで指定された表スペースの少なくとも 1 つが、以前にすでにロールフォワードされています。これ以上ロールフォワードを行うことはできません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを実行してください。

- 停止時刻 "`<timestamp>`" を指定してコマンドを再実行してください。
- すべての表スペースを再度復元し、"`<timestamp>`" より前の停止時刻を指定してコマンドを再実行してください。
- 表スペースの、前の時刻のロールフォワードで行ったバックアップを復元し、この時刻と同一の停止時刻でコマンドを再実行してください。

時刻は CUT (Coordinated Universal Time) で指定する必要があります。

SQL1281N パイプ "`<pipe-name>`" に障害が起きたために、データベース "`<database-alias>`" への接続が困難です。

説明: DB2 サーバーがパイプを壊したために、接続が失われました。現在のトランザクションはロールフォワードされました。

ユーザーの処置: 現在のコマンドを再発行してください。エラーが続く場合は、技術サービス担当者に連絡してください。

トレースが活動状態の場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから、独立トレース機能呼び出してください。この機能の使用法については、*問題判別の手引き*の独立トレース機能を参照してください。以下の情報を用意して、技術サービス担当者に連絡してください。

必要な情報は以下のとおりです。

- 問題記述
- SQLCODE またはメッセージ番号
- SQLCA の内容 (可能であれば)
- トレース・ファイル (可能であれば)

sqlcode: -1281

sqlstate: 40504

SQL1282N "`<pipe-name>`" 上のパイプ・インスタンスがすべてビジーであるために、データベース "`<database-alias>`" への接続が失敗しました。

説明: 接続が DB2 によって拒否されたので、名前付きパイプへの接続が失敗しました。名前付きパイプで許される接続の数には制限があります。

ユーザーの処置: DB2 サーバーの接続制限を増やすか、または名前付きパイプを使用しているいくつかのアプリケーションを終了させて、接続リ

ソースを解放してください。

sqlcode: -1282

sqlstate: 08001

SQL1283N パイプ "`<pipe-name>`" が別のプロセスで使用中的なので、データベース "`<database-alias>`" への接続が失敗しました。

説明: 名前付きパイプの名前が、すでに別のプロセスによって使用されています。名前付きパイプ・サポートは開始しませんでした。

ユーザーの処置: 環境変数 DB2PIPENAME を設定して違う名前を選択するか、または名前付きパイプを使用する別のプログラムに異なるパイプ名を使用させます。

SQL1284N パイプ "`<pipe-name>`" が見つからないために、データベース "`<database-alias>`" への接続が失敗しました。

説明: サーバーが名前付きパイプ・サポートを開始していなかったか、またはサーバーが名前付きパイプに対して別の名前を使用しています。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーを始動して、名前付きパイプ・サポートを開始してください。名前付きパイプ・サポートが開始されている場合は、環境変数 DB2PIPENAME を同じ値に設定して、名前付きパイプの名前をクライアントとサーバーの間で同じにしてください。

sqlcode: -1284

sqlstate: 08001

SQL1285N パイプ "`<pipe-name>`" が無効なために、データベース "`<database-alias>`" への接続が失敗しました。

説明: 環境変数 DB2PIPENAME によって設定された代替パイプ名が無効です。

ユーザーの処置: 環境変数 DB2PIPENAME の値は、有効なパイプ名でなければなりません。パイプ名は 8 バイトを超えてはならず、通常のファイル名と同じ構文制約にしたがう必要があります。

sqlcode: -1285

sqlstate: 08001

SQL1286N オペレーティング・システムが、パイプ "**<pipe-name>**" のリソースを使い果たしたために、データベース "**<database-alias>**" への接続が困難です。

説明: オペレーティング・システムがリソース(スワッピング・スペース、ディスク・スペース、ファイル)を使い果たしたために、名前付きパイプが失敗しました。現在のトランザクションはロールフォワードされました。

ユーザーの処置: システム・リソースを解放して、もう一度やり直してください。

sqlcode: -1286

sqlstate: 40504

SQL1287N 名前付きの "**<pipe>**" を検出できないために、インスタンス "**<instance>**" の付加が正常に実行されていません。

説明: サーバーがその名前付きパイプのサポートを開始していないか、あるいはインスタンス名が正しくありません。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーがそのサーバーで始動されていて、名前付きパイプのサポートが開始されていることを確認してください。インスタンス名が正しいことを確認してください。

SQL1290N **DFT_CLIENT_COMM** データベース・マネージャー構成パラメーター、または **DB2CLIENTCOMM** 環境変数の値は無効です。

説明: 正しくない値が指定されたか、または指定されたプロトコルが、ターゲット・データベースによってサポートされていません。許容される値は:

- UNIX プラットフォーム: TCPIP および APPC
- OS/2: TCPIP, APPC, IPXSPX, および NETBIOS
- Windows NT と Windows 95: TCPIP, APPC, IPXSPX, NETBIOS, および NPIPE

複数の値を指定する場合は、それらをコンマで区切る必要があります。

このメッセージは、接続で呼び出された中間ノードから返される場合があることに注意してください。たとえば、DB2 コネクト・ゲートウェイ経由で DRDA サーバーに接続しようとしており、クライアント・ワークステーションがグローバル・ディレクトリー・サービスを使用していない場合は、このメッセージが DB2 コネクト・ゲートウェイから返される可能性があります。

ユーザーの処置: 値を訂正して、もう一度やり直してください。

sqlcode: -1290

sqlstate: 08001

SQL1291N ディレクトリー・サービス・エラーが見つかりました。サービス: "**<directory-services-type>**"、API: "**<API>**"、関数: "**<function>**"、エラー・コード: "**<rc>**"。

説明: ディレクトリー・サービス・サブシステムによって、エラーが見つけられました。詳細については、トークンの値を参照してください。以下は、トークンの値の説明です。

"<directory-services-type>"

使用されたディレクトリー・サービスのタイプ。有効なトークンは、以下のとおりです。

- DCE

"<API>"

上記のディレクトリー・サービスのアクセスに使用された、アプリケーション・プログラミング・インターフェース。有効なトークンは、以下のとおりです。

- XDS/XOM

"<function>"

エラー・コードを返したディレクトリー・サービス・サブシステム関数の名前。

"<rc>"

上記関数から戻されたエラー・コード。値の意味は、使用している API によって異なります。

ds_read などの XDS 関数の場合、戻りコードの値は、DCE インクルード・ファイル xds.h で見つかります。

om_get などの XOM 関数の場合、戻りコードの値は、DCE 組み込みファイル xom.h で見つかります。

このメッセージは、接続で呼び出された中間ノードから返される場合があることに注意してください。たとえば、DB2 コネクト・ゲートウェイ経由で DRDA サーバーに接続しようとしており、クライアント・ワークステーションがグローバル・ディレクトリー・サービスを使用していない場合は、このメッセージが DB2 コネクト・ゲートウェイから返される可能性があります。

ユーザーの処置: 以下を確認してください。

- ディレクトリー・サービスを提供する製品が、正しくインストールされ、使用可能になっていること。
- ディレクトリー・サービス提供者 (たとえば、DCE) がログインを要求している場合は、ディ

レクトリー項目にアクセスするための適切な許可を持って、ディレクトリー・サービスにログインしていること。

問題が続く場合は、システム管理者またはデータベース管理者、もしくは両者に連絡し、提供されたトークンのセットを使用して、問題の原因を判別してください。

sqlcode: -1291

sqlstate: 08001

SQL1292N データベースまたはデータベース・マネージャー・インスタンスのグローバル名が無効です。

説明: データベースまたはデータベース・マネージャー・インスタンスのグローバル名には、NULL を使用することはできず、255 文字を超えることもできません。グローバル名前は "/.../" または "/:/" で始まる必要があります。

このメッセージは、接続で呼び出された中間ノードから返される場合があることに注意してください。たとえば、DB2 コネクト・ゲートウェイ経由で DRDA サーバーに接続しようとしており、クライアント・ワークステーションがグローバル・ディレクトリー・サービスを使用していない場合は、このメッセージが DB2 コネクト・ゲートウェイから返される可能性があります。

ユーザーの処置: グローバル名を訂正して、もう一度やり直してください。

SQL1293N グローバル・ディレクトリー項目で、エラーが見つかりました。エラー・コード: "<error-code>"。

説明: 使用しているグローバル・データベース・ディレクトリー項目のいずれかで、エラーが見つかりました。グローバル名を訂正して、もう一度やり直してください。

1 データベース・オブジェクトに、認証情報がありません。

- 2 データベース・オブジェクトとデータベース・ロケーター・オブジェクトの両方に、通信プロトコル情報が入っていません。
- 10 項目がデータベース・オブジェクトではありません。
- 11 データベース・オブジェクトの固有データベースが見つからないか、または長すぎるかのどちらかです。
- 12 データベース・オブジェクトのデータベース・プロトコルが、見つからないか、または長すぎるかのどちらかです。
- 13 データベース・オブジェクトで、無効な認証情報が見つかりました。
- 14 データベース・オブジェクトで、十分でない、または無効な通信プロトコル情報が見つかりました。
- 15 データベース・ロケーター・オブジェクト名が、データベース・オブジェクトにありません。
- 16 データベース・オブジェクトのデータベース・ロケーター・オブジェクト名が無効です。
- 20 項目がデータベース・ロケーター・オブジェクトではありません。
- 22 データベース・ロケーター・オブジェクトで、十分でない、または無効な通信プロトコル情報が見つかりました。
- 30 項目がルーティング情報オブジェクトではありません。
- 31 ターゲット・データベース情報が、ルーティング情報オブジェクトで見つかりませんでした。

- 32 ルーティング情報オブジェクトのターゲット・データベースの情報が不十分です。
- 33 適切なゲートウェイが、ルーティング情報オブジェクトで見つかりませんでした。
- 34 ゲートウェイでの認証のためのフラグが無効です。
- 35 ゲートウェイのデータベース・ロケーター・オブジェクト名が無効です。
- 36 ルーティング情報オブジェクトのターゲット・データベース情報属性のデータベース名が、見つからないか、または長すぎるかのどちらかです。
- 37 ルーティング情報オブジェクトのターゲット・データベース情報属性のデータベース・プロトコルが、見つからないか、または長すぎるかのどちらかです。

DCE サブシステムが操作不能の場合、または DCE ディレクトリー項目を読むための十分な特権を持っていない場合も、このメッセージが表示される場合があることに注意してください。

このメッセージは、接続で呼び出された中間ノードから返される場合があることに注意してください。たとえば、DB2 コネクト・ゲートウェイ経由で DRDA サーバーに接続しようとしており、クライアント・ワークステーションがグローバル・ディレクトリー・サービスを使用していない場合は、このメッセージが DB2 コネクト・ゲートウェイから返される可能性があります。

ユーザーの処置: DCE サブシステムが操作可能で、ディレクトリー項目を読むための適切な特権を持っていることを確認してください。問題が続く場合は、データベース管理者に連絡して、ディレクトリー項目のエラーを訂正してください。これらのディレクトリー・オブジェクトの形式については、*管理の手引き* を参照してください。

sqlcode: -1293

sqlstate: 08001

SQL1294N グローバル・ディレクトリー・アクセスに使用されているディレクトリー・パス名が、指定されていないかまたは無効です。

説明: グローバル・ディレクトリー・サービスを使用するには、ディレクトリー・パス名を、*dir_path_name* データベース・マネージャー構成パラメーター、または DB2DIRPATHNAME 環境変数のどちらかに指定する必要があります。名前が指定されていないか、または指定した名前が有効ではありません。

このメッセージは、接続で呼び出された中間ノードから返される場合があることに注意してください。たとえば、DB2 コネクト・ゲートウェイ経由で DRDA サーバーに接続しようとしており、クライアント・ワークステーションがグローバル・ディレクトリー・サービスを使用していない場合は、このメッセージが DB2 コネクト・ゲートウェイから返される可能性があります。

ユーザーの処置: 正しい名前をデータベース管理者に尋ね、正しい名前を指定して、もう一度やり直してください。

sqlcode: -1294

sqlstate: 08001

SQL1295N グローバル・ディレクトリー・アクセスに使用されているルーティング情報オブジェクトが、指定されていないかまたは無効です。

説明: このクライアントに対してネイティブではないデータベース・プロトコルを使用して、リモート・データベースにアクセスするグローバル・ディレクトリー・サービスを使用するには、ルーティング情報オブジェクトの名前を、*route_obj_name* データベース・マネージャー構成パラメーター、または DB2ROUTE 環境変数に指定する必要があります。名前が指定されてい

いか、または指定した名前が有効ではありません。

このメッセージは、接続で呼び出された中間ノードから返される場合があることに注意してください。たとえば、DB2 コネクト・ゲートウェイ経由で DRDA サーバーに接続しようとしており、クライアント・ワークステーションがグローバル・ディレクトリー・サービスを使用していない場合は、このメッセージが DB2 コネクト・ゲートウェイから返される可能性があります。

ユーザーの処置: 正しいオブジェクト名をデータベース管理者に尋ね、正しい名前を指定して、もう一度やり直してください。

sqlcode: -1295

sqlstate: 08001

SQL1296N DIR_TYPE パラメーターが NONE でない場合は、データベース・マネージャー構成パラメーターである DIR_PATH_NAME および DIR_OBJ_NAME に、有効な値を指定しなければなりません。

説明: これらのパラメーターには相互関係があります。DIR_TYPE の値が NONE の場合は、他の 2 つの値は無視されます。DIR_TYPE の値が NONE でない場合は、他の 2 つとも、有効な値を持っている必要があります。DIR_TYPE が NONE でない場合は、以下の規則が適用されます。

1. DIR_PATH_NAME と DIR_OBJ_NAME の値は、NULL (またはブランク) にすることはできません。
2. DIR_TYPE の値が DCE の場合は、DIR_PATH_NAME の値を、特殊な DCE ストリングである "/.../" または "/:/" で始める必要があります。

ユーザーの処置: DIR_TYPE の値を変更する場合は、最初に、DIR_PATH_NAME と DIR_OBJ_NAME パラメーターに有効な値が指定

されていることを確認してください。

DIR_PATH_NAME または DIR_OBJ_NAME パラメーターをブランクにする場合は、最初に、DIR_TYPE を NONE に設定してください。

SQL1297N このコマンドは、このプラットフォームでは現在サポートされていません。

説明: このコマンドで要求された機能は、このプラットフォームではサポートされていません。

SQL1300 - SQL1399

SQL1300N カタログ・ステートメント中の DCE プリンシパル名が無効です。

説明: カタログ・データベース操作中の DCE プリンシパル名が無効です。 DCE プリンシパル名には次の条件があります。

- AUTHENTICATION が DCE として指定されている場合、プリンシパル名はカタログ・ステートメントに含まれる必要があります。
- AUTHENTICATION が DCE として指定されていない場合、プリンシパル名はカタログ・ステートメントに含みません。
- プリンシパル名の最大長は 1024 バイトです。

ユーザーの処置: プリンシパル名が上記の条件を満たしていることを確認し、カタログ・コマンドを再実行してください。

SQL1301N サーバーの DCE キータブ・ファイルにアクセス中にエラーが起きました。

説明: サーバーの DCE キータブ・ファイルにアクセス中にエラーが起きました。 キータブ・ファイルを有効にするには、次の条件が満たされている必要があります。

- 存在するサーバーのキータブ・ファイルの名前が keytab.db2 であり、sqllib/security ディレクトリーにあること。

ユーザーの処置: このコマンドを使用しないでください。

- キータブ・ファイルには単一項目しかないこと。

ユーザーの処置: DCE が開始済みであることを確認してください。 次に、キータブ・ファイルが存在すること、単一項目を含んでいること (rgy_edit で)。 やり直してください。

SQL1302N DB2 権限 ID に対する DCE プリンシパル要素マッピング・エラー。
理由コードは "<reason-code>" です。

説明: DB2 権限 ID に DCE プリンシパル要素をマッピングする時にエラーが起きました。 下記の理由コードを参照してください。

- 1. DB2 権限 ID のマッピングに対して DCE ユーザーが抜けているか無効である
- 2. DB2 権限 ID のマッピングに対して DCE グループが抜けているか無効である

ユーザーの処置: DCE プリンシパル要素には、DB2 権限 ID に対する ERA マッピングが必要で、欠落している項目を DCE レジストリーに追加し、操作を再試行します。

sqlcode: -1302

sqlstate: 08001

SQL1303N セキュリティー・デーモンは再始動
できません。

説明: エージェントとセキュリティー・デーモンとの間の通信が切断されたか、あるいはセキュリティー・デーモンが異常終了した後に、セキュリティー・デーモンを再始動できません。データベース・マネージャーとのすべての新しい接続は拒否され、認証は不可能です。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーを停止して再始動します。db2start コマンドが失敗した場合、その SQL コードのユーザー応答にしたがってください。どのエラーが起こったのかを判別するには、First Failure Service Log (db2diag.log) を調べてください。

sqlcode: -1303

sqlstate: 58004

SQL1304N TCP/IP のセキュリティー・タイプ
SOCKS は無効です。

説明: Catalog Node コマンドの TCP/IP プロトコル構造中の TCP/IP セキュリティー・タイプ SOCKS が、認証タイプ DCE で無効です。

ユーザーの処置: セキュリティー・タイプ SOCKS を指定した TCP/IP プロトコルと、認証タイプ DCE の組み合わせを使用していないことを確認してください。

sqlcode: -1304

sqlstate: 08001

SQL1305N 内部 DCE エラーが起きました。

説明: 内部 DCE エラーで DB2 処理が失敗しました。

ユーザーの処置: DCE が開始済みであることを確認してください。問題が続く場合、サービス担当者に連絡してください。

sqlcode: -1305

sqlstate: 58004

SQL1306N セキュリティー監査機能の呼び出し
中に無効なパラメーターが指定され
ました。理由コードは
"<reason-code>" です。

説明: セキュリティー監査 API のパラメーターの 1 つが正しくありません。理由:

- 1 無効な監査オプションの指定。
- 2 構成 / 記述 sqlcaucfg 構造に無効なポインター。
- 3 無効な構成 / 記述パラメーター・トークン。
- 4 無効な構成 / 記述パラメーター値。値は正しくない、またはパラメーターの有効範囲外です。
- 5 構成 / 記述パラメーターに無効なカウント指定。
- 6 構成 / 記述パラメーターに割り振られた長さが不十分。
- 7 sqlcauextract 構造の抽出に無効なポインター。
- 8 抽出パラメーター・トークンが無効。
- 9 抽出パラメーター値が無効。値は正しくない、または有効範囲外です。
- 10 抽出パラメーターに無効なカウント指定。
- 11 抽出パラメーターに無効な長さ。

ユーザーの処置: システム管理者は、それぞれの理由に応じて特定の処理を取ってください。

- 1 sqlutil.h 組み込みファイルを参照して、監査 API 呼び出しに正しいオプション値を与えてください。
- 2 構成 / 記述構造に有効なポインターが与えられているかチェックしてください。
- 3 sqlcaucfg パラメーター・トークンの監査

機能参照セクションを調べることによって、正しいパラメーターが指定されます。

- 4 監査機能参照で有効な値を調べて、パラメーター値を訂正してください。
- 5 可変長パラメーターに正しいカウントを指定し、該当する長さを割り振り / 初期化してください。
- 6 SQLCA で返されたエラー・トークンに基づいて、構成 / 記述パラメーターに割り振られた長さを訂正してください。
- 7 抽出構造に有効なポインターが与えられているかチェックしてください。
- 8 sqleauextract パラメーター・トークンの監査機能参照セクションを調べることによって、正しいパラメーターが指定されます。
- 9 監査機能参照で有効な値を調べて、パラメーター値を訂正してください。
- 10 可変長パラメーターに正しいカウントを指定し、該当する長さを割り振り / 初期化してください。
- 11 SQLCA で返されたエラー・トークンに基づいて、抽出パラメーターに割り振られた長さを訂正してください。

SQL1307N セキュリティ監査機能の呼び出し中にエラーが起きました。理由コードは "`<reason-code>`" です。

説明: セキュリティ監査 API の呼び出しによってエラーが発生しました。理由:

1. 監査が開始済み。
2. 監査がすでに停止している。
3. 監査構成ファイルに無効なチェックサム。
4. デフォルトまたはユーザーが提供する監査パス名が長すぎる。

5. 監査構成ファイルを更新できない。ファイル・システムがいっぱいであるか、書き込みを許可しないかのどちらかです。
6. 構成ファイルが検出できない。ファイル、またはファイルの入ったディレクトリーのどちらかが存在しません。
7. 抽出ファイルが検出できない。
8. 抽出中の監査レコードの形式が無効。ファイルは破壊されました。

ユーザーの処置: システム管理者は、それぞれの理由に応じて特定の処理を取ってください。

1. 処置は必要ありません。
2. 処置は必要ありません。
3. バックアップから構成ファイルを復元するか、'audit reset' コマンドを実行してください。
4. ファイル名の長さが限度内の、異なる監査パス名を選択してください。
5. ファイル許可が正しくない場合、所有者によって書き込みが許されるように設定してください。ファイル・システムがいっぱいの時は、続行する前にフリー・スペースを作成してください。
6. 監査構成ファイルが欠落している場合、バックアップから復元するか、ファイルをデフォルトに初期化するために 'reset' コマンドを実行してください。ディレクトリーが欠落している場合、バックアップから復元するか、データベース・マネージャーのインスタンスを再作成してください。
7. 指定されたパスにファイルが存在するかどうかが検証してください。ファイルが欠落している場合、使用可能ならばバックアップから復元してください。
8. 監査ログ・ファイルが破壊された可能性が最も高いです。他の監査ログ・ファイルで問題が持続する場合は、DB2 サービスに通知してください。

SQL1308W 監査抽出機能は処理を完了しました。"<num-records>" レコードが抽出されました。

説明: セキュリティー監査抽出機能は処理を正常に完了し、指定された数のレコードを抽出しました。

ユーザーの処置: ゼロのレコードが抽出された場合、ユーザーは抽出ファイルに抽出パス名が入っているか、そして抽出パラメーターが正確であるか検証してください。

SQL1309N 無効なサーバー・プリンシパル名です。

説明: データベース・カタログのステートメントで指定されたサーバー・プリンシパル名は、DCE 登録に存在しません。このため、DCE チケットは DB2 サーバーで獲得できません。

ユーザーの処置: データベース・カタログ項目のプリンシパル名が DB2 サーバーで使用されている DCE プリンシパルに対応していることを確認してください。プリンシパル名を完全に修飾することが必要である可能性があります。

sqlcode: -1309

sqlstate: 08001

SQL1310N データベース接続サービス・ディレクトリーのアクセス中に、データベース接続サービス・ディレクトリー・サービスが失敗しました。

説明: データベース接続サービス・ディレクトリー・ファイルのアクセス中にファイル・エラーが起きたために、データベース接続サービス・ディレクトリー・サービスが失敗しました。

関数は処理されません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを実行した後で、関数を再実行してください。

- データベース接続サービス・ディレクトリーに項目を追加する場合は、ディレクトリー・ファ

イルが大きくなっても十分なスペースがあることを確認してください。

- 他の並行して実行されているプログラムが、ファイルにアクセスしていないことを確認してください。
- ディレクトリー・ファイルが壊れていないことを確認してください。リカバリー不能の場合は、消去してから再度作成するか、またはバックアップ・バージョンから復元する必要があります。

SQL1311N データベース接続サービス・ディレクトリーが見つかりません。

説明: ディレクトリーが見つかりません。ディレクトリーが削除された可能性があります。

関数は処理されません。

ユーザーの処置: CATALOG DCS DATABASE コマンドを使用して、データベース接続サービス・ディレクトリーに項目を追加するか、またはディレクトリーをバックアップ・バージョンから復元してください。

SQL1312W データベース接続サービス・ディレクトリーが空です。

説明: データベース接続サービス・ディレクトリーの内容の読み取りが試みられましたが、項目が存在しません。

処理は続行されますが、項目を使用する後続のコマンドは処理されません。

ユーザーの処置: Catalog DCS Database コマンドを使用して、ディレクトリーに項目を追加するか、または項目の入ったバックアップ・バージョンから復元してください。

SQL1313N データベース接続サービス・ディレクトリーがいっぱいです。

説明: ディレクトリーがすでに最大サイズに達しているため、項目をデータベース接続サービス・

ディレクトリーに追加できません。

関数は処理されません。

ユーザーの処置: 項目を追加する前に、ディレクトリーから項目を 1 つ以上削除してください。

SQL1314N データベース接続サービス・ディレクトリーの項目パラメーターのアドレスが無効です。

説明: アプリケーション・プログラムが、このパラメーターに無効なアドレスを使用しました。そのアドレスが割り振られていないバッファを指しているか、または必須入力を含むための十分なバッファがありません。

関数は処理されません。

ユーザーの処置: アプリケーション・プログラムが必要なバッファ領域を割り振っていることを確認して、コマンドを再発行してください。

SQL1315N ローカル・データベース名が無効です。

説明: ローカル・データベース名に無効な文字が指定されました。すべての文字は、データベース・マネージャー基本文字セットから使用される必要があります。

関数は処理されません。

ユーザーの処置: ローカル・データベース名に使用されている文字が、データベース・マネージャー基本文字セットの文字であることを確認して、コマンドを再発行してください。

SQL1316N データベース接続サービス・ディレクトリーに、指定されたローカル・データベース名の項目が見つかりませんでした。

説明: データベース接続サービス・ディレクトリーに、入力されたローカル・データベース名に対応する項目が見つからないために、データベース

接続サービス・ディレクトリー・サービスが失敗しました。

関数は処理されません。

ユーザーの処置: ローカル・データベース名が正しいことを確認して、コマンドを再発行してください。

SQL1317N ローカル・データベース名が、すでにデータベース接続サービス・ディレクトリーに存在します。

説明: ローカル・データベース名の項目がすでにディレクトリーに存在するために、項目がディレクトリー追加できませんでした。

関数は処理されません。

ユーザーの処置: 固有なローカル・データベース名を指定するか、または既存の項目を削除して新しい項目を追加してください。

SQL1318N パラメーター 1 の入力構造内のエレメント “<name>” の長さが無効です。

説明: データベース接続サービス・ディレクトリー項目構造の長さの値はゼロ以上か、またはエレメントが持つ最大長以下でなければなりません。

関数は処理されません。

ユーザーの処置: ディレクトリー項目構造のエレメントを指定する場合は、関連した長さがエレメントのバイト数を表している必要があります。そうでない場合は、長さの値はゼロでなければなりません。すべてのディレクトリー項目構造エレメントが、コマンドに必要な指定と長さを持っていることを確認して、コマンドを再発行してください。

SQL1319N データベース接続サービス・ディレクトリーの項目が集められていません。

説明: ディレクトリーの全項目をコピーする要求を受信しましたが、事前に項目を集める要求を受信しなかったか、または事前に項目を集める要求が失敗しました。

関数は処理されません。

ユーザーの処置: ディレクトリーをオープンする要求を出して、項目を集めてください。次に、このコマンドを再発行してください。

SQL1320N データベース接続サービス・ディレクトリーには、現在アクセスできません。

説明: データベース接続サービス・ディレクトリーにアクセスする要求が失敗しました。データベース接続サービス・ディレクトリーへの接続は、要求したアクセスのタイプとディレクトリーの現在の活動によって異なります。ディレクトリーを更新する要求の場合は、ディレクトリーが活動状態でなければなりません。要求がディレクトリーの読み取りの場合は、ディレクトリーが更新されていなければ、アクセスが許可されます。

関数は処理されません。

ユーザーの処置: 現在の活動が終了するのを待って、コマンドを再発行してください。

SQL1321N ディレクトリー項目構造に指定された構造 ID が無効です。

説明: ディレクトリー項目構造が受け取った構造 ID が、認識できる値を持っていません。

関数は処理されません。

ユーザーの処置: ディレクトリー項目構造に渡した構造 ID の値が有効であることを確認して、コマンドを再発行してください。

SQL1322N 監査ログ・ファイルを書き込み中にエラーが発生しました。

説明: DB2 監査機能は、後書きに監査イベントを記録するために呼び出されたときに、エラーが発生しました。監査ログが常駐しているファイルにはスペースがありません。このファイル・システムでスペースを空けるか、監査ログを切り詰めてサイズを縮小してください。

スペースがさら使用可能なときは、db2audit を使用してメモリーのデータを取り除いて、記録権限を作動可能状態にリセットしてください。適切な抽出が行われたことをまたログを切り詰める前にログをコピーしたことを確認してください。これは、削除された記録はリカバリー不能だからです。

ユーザーの処置: 監査がログ記録を再開できるように、システム管理者が適切な処置を行わなければなりません。

sqlcode: -1322

sqlstate: 58030

SQL1323N 監査構成ファイルにアクセスするときに、エラーが発生しました。

説明: db2audit.cfg を開けなかったのか、または無効でした。可能な理由:

- db2audit.cfg ファイルが存在していないか、または損傷されました。以下のいずれかの処置を実行してください。
 - ファイルの保管されたバージョンから復元してください。
 - db2audit 実行可能からリセット・コマンドを実行して、監査機能構成ファイルをリセットしてください。

ユーザーの処置: 監問題を解決するには、システム管理者が適切な処置を行わなければなりません。

sqlcode: -1323

sqlstate: 57019

SQL1325N リモート・データベース環境が、コマンドまたはいずれかのコマンド・オプションをサポートしません。

説明: DB2 ワークステーション・データベース特有のコマンドまたはコマンド・オプションを、DB2 コネクトまたは連合サーバーを通してホスト・データベースに対して発行しようとした。以下のコマンドが、DB2 (MVS 版)、DB2 (OS/400 版)、または SQL/DS データベースに対して発行されると、このエラーが起きます。

- OPSTAT (操作状況の把握)
- DARI (データベース・アプリケーション・リモート・インターフェース)
- GETAA (管理者権限の入手)
- GETTA (表権限の入手)
- PREREORG (表再編成の準備)
- REORG (再編成機能の呼び出し)
- RQSVPT/ENSVP/RLBSVPT (サブランザクション要求)
- RUNSTATS (統計の実行)
- COMPOUND SQL ATOMIC STATIC (アトミック複合 SQL)
- ACTIVATE DATABASE
- DEACTIVATE DATABASE

同様に、以下のコマンドも、間違ったオプションが原因でこのエラーを起こします。

- IMPORT (表のインポート) ファイル・タイプは IXF、コミット・カウントは 0、Action String (たとえば "REPLACE into ...") の最初の語は INSERT でなければなりません。
- EXPORT (表のエクスポート) ファイル・タイプは IXF でなければなりません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ホスト・データベースに対して DB2 コネクトまたは連合サーバーを通してこのコマンドを実行しないでください。

SQL1326N ファイルまたはディレクトリー "`<name>`" にアクセスできません。

説明: ファイルまたはディレクトリー "`<name>`" が、ファイル許可が間違っているか、またはファイル・パスが違っている、あるいはディレクトリーまたはパスに十分なスペースがないためアクセスできません。

ユーザーの処置: コマンドに指定されたパスまたはファイル名が有効なこと、およびそのパスまたはファイル名にアクセスする適切な許可を持っていてそのファイルが含まれるだけの十分なスペースがあることを確認してください。問題を修正して、コマンドを再発行してください。問題が続く場合は、システム管理者に連絡してください。

SQL1327N 暗黙接続に失敗しました。
"`<database-name>`" は有効なデータベース名ではありません。

説明: 暗黙接続の実行が失敗しました。DB2DBDFT 環境変数によって指定されたデータベース別名の構文が、有効ではありません。データベース名は 1 から 8 バイトで、すべての文字はデータベース・マネージャー基本文字セットから使用する必要があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: DB2DBDFT 環境変数で指定したデータベース別名を修正して、コマンドを発行してください。コマンド行プロセッサを使用している場合は、コマンドを再実行する前に、"db2 terminate" を実行する必要があります。暗黙接続を実行したくない場合は、DB2DBDFT 環境変数を取り除いてください。

sqlcode: -1327

sqlstate: 2E000

SQL1328N 暗黙接続に失敗しました。 データベース別名またはデータベース名 “<name>” が、ローカル・データベース・ディレクトリーに見つかりませんでした。

説明: 暗黙接続の実行が失敗しました。 DB2DBDFT 環境変数によって指定されたデータベース名が、既存のデータベースではありません。 データベースが、データベース・ディレクトリーの中に見つかりませんでした。

コマンドは処理されません。

分散作業単位内で発行された CONNECT RESET 要求は、デフォルト・データベースに対する暗黙接続を試みます。これが、このエラーの理由になる場合があります。

ユーザーの処置:

- DB2DBDFT 環境変数で指定したデータベース別名を修正して、コマンドを発行してください。
- 意図したアクションが、分散作業単位環境での処理中に接続を除去することである場合は、CONNECT RESET ステートメントを、DISCONNECT または RELEASE ステートメントで置き換えることを考慮してください。
- コマンド行プロセッサを使用している場合は、コマンドを再実行する前に、“db2 terminate” を実行する必要があります。
- 暗黙接続を実行したくない場合は、DB2DBDFT 環境変数を取り除いてください。

sqlcode: -1328

sqlstate: 42705

SQL1329N コマンドに指定された解決済みパスが長すぎます。

説明: コマンドに指定された解決パスが、データベース・マネージャーがサポートする最大長を超えています。解決パスは 215 文字を超えてはな

りません。 Create Database、Catalog Database、走査のための Open Database Directory、change database comment コマンドの実行中は、データベース・マネージャー・インスタンス名が指定されたパスの最後に追加されます。

ユーザーの処置: 完全に解決された絶対または相対パス名が、データベース・マネージャー・インスタンス名を含めて、215 文字を超えていないことを確認してください。パスを訂正して、コマンドを再実行してください。

SQL1330N 記号宛先名 “<name>” が無効です。

説明: Catalog Node コマンドの CPIC プロトコル構造の記号宛先名が、指定されていないか、または許された長さを超えています。名前は、1 から 8 バイトの長さでなければなりません。

ユーザーの処置: 記号宛先名が指定されており、その長さが 8 バイトを超えていないことを確認してください。有効な記号宛先名を使用して、コマンドを再発行してください。

SQL1331N CPIC セキュリティー・タイプ “<type>” が無効です。

説明: Catalog Node コマンドの CPIC プロトコル構造に指定された CPIC セキュリティー・タイプが無効です。セキュリティ・タイプは、LU 6.2 アーキテクチャーの指定にしたがって、データベース・クライアントがパートナー LU との対話を割り振るときに含まれるセキュリティ情報を指定します。セキュリティ・タイプの正しい値は、以下のとおりです。

- SQL_CPIC_SECURITY_NONE
 - アクセス・セキュリティ情報は含まれません。

注: これは連合サーバーを使用している場合はサポートされません。DB2 コネクトが使用されていれば、認証タイプが

DCE、KERBEROS、SERVER_ENCRYPT、または DCS_ENCRYPT の場合のみサポートされます。

- SQL_CPIC_SECURITY_SAME
 - ユーザー ID が、それがすでに検査済みであることを示す標識とともに含まれます。認証タイプ DCS が DB2 コネクトまたは連合サーバーで使用されている場合、あるいは認証タイプが DCE、KERBEROS、SERVER_ENCRYPT、または DCS_ENCRYPT である場合、これはサポートされません。
- SQL_CPIC_SECURITY_PROGRAM
 - ユーザー ID とパスワードの両方が含まれます。認証タイプ CLIENT が DB2 コネクトで使用されている場合、あるいは認証タイプが DCE、KERBEROS、SERVER_ENCRYPT、または DCS_ENCRYPT である場合、これはサポートされません。

ユーザーの処置: セキュリティー・タイプを上記のいずれかに指定して、コマンドを再実行してください。

sqlcode: -1331

sqlstate: 08001

SQL1332N ホスト名 "<name>" が無効です。

説明: Catalog Node コマンドの TCP/IP プロトコル構造のホスト名が、指定されていないか、または許された長さを超えています。名前は 1 から 255 文字の長さでなければならず、すべてブランクは使用できません。

ユーザーの処置: ホスト名が指定されており、それが 255 文字より長くないことを確認してください。有効なホスト名を使用して、コマンドを再発行してください。

SQL1333N サービス名 "<name>" が無効です。

説明: Catalog Node コマンドの TCP/IP プロトコル構造のサービス名が、指定されていないか、または許された長さを超えています。名前は 1 から 14 文字の長さでなければならず、すべてブランクは使用できません。

ユーザーの処置: サービス名が指定されており、それが 14 文字より長くないことを確認してください。有効なサービス名を使用して、コマンドを再発行してください。

SQL1334N データベース・サーバーを使用して、リモート要求をこの構成の 2 番目のデータベース・サーバーに経路指定することはできません。

説明: サポートされていない組み合わせのクライアントとターゲット・データベース・サーバーを使用するデータベース・サーバー・ノードを経由して、要求を経路指定しようとした。バージョン 2 以前のリリースのクライアントまたはターゲット・データベースが使用されたか、または DRDA クライアントから DRDA ターゲット・データベースへの要求を経路指定しようとした。要求は、クライアントから、ターゲット・データベースが実行されているノードに対して直接経路指定する必要があります。

ユーザーの処置: クライアント・マシンでデータベースをアンカタログした後で、データベースが実際に常駐するノードを指定して、データベースをカタログしてください。ノードもカタログされていることを確認してください。

SQL1335N アプリケーション・リクエスター名が無効です。

説明: アプリケーション・リクエスター名が指定されましたが、その中に無効な文字が入っています。すべての文字は、データベース・マネージ

ャー基本文字セットから使用される必要があります。

ユーザーの処置: アプリケーション・リクエスト一名に使用されている文字が、データベース・マネージャ基本文字セットから使用されていることを確認して、コマンドを再実行してください。

SQL1336N リモート・ホスト “<hostname>” が見つかりませんでした。

説明: システムが、リモート・ホストのアドレスを解決できません。考えられる原因は以下のとおりです。

- TCP/IP ノードのカタログ時に、間違った hostname の値が指定されました。
- 正しい hostname が指定されましたが、このクライアント・ノードにアクセス可能な TCP/IP 名前サーバーのどれにも、あるいはクライアントのホスト・ファイルにも、定義されていません。
- 接続しようとしたときに、hostname が定義されている TCP/IP 名サーバーを使用できませんでした。
- TCP/IP が実行されていません。

ユーザーの処置: TCP/IP が実行されており、TCP/IP ノードをカタログするときに指定した hostname が正しく、アクセス可能なネーム・サーバーまたはローカル・ホスト・ファイルに定義されていることを確認してください。

連合システム・ユーザー: リモート・ホストが SYSCAT.SERVERS 視点に正しくカタログされていることを確認してください。

SQL1337N サービス “<service-name>” が見つかりませんでした。

説明: システムが、service-name に関連するポート番号を解決できませんでした。考えられる原因は以下のとおりです。

- TCP/IP ノードがカタログされたときに、正しくない service-name の値が指定されました。

- 正しい service-name が指定されましたが、クライアントのサービス・ファイルに定義されていませんでした。

連合システム・ユーザー: この状態はデータ・ソースによっても検出できます。

ユーザーの処置: 正しい名前で、ローカル・サービス・ファイルに定義されていることを確認してください。

連合システム・ユーザー は、名前がデータ・ソースのサービス・ファイルに定義されていることも確認する必要があります。

SQL1338N 記号宛先名 “<symbolic-destination-name>” が見つかりませんでした。

説明: システムが、指定された symbolic-destination-name に関連するサイド情報を見つけることができません。考えられる原因は以下のとおりです。

- CPIC NODE がカタログされたときに、正しくない symbolic-destination-name が指定されました。
- 記号宛先名とその関連するサイド情報が、SNA 通信サブシステムに定義されていません。
- SNA 通信サブシステムは開始されていません。

ユーザーの処置: CPIC ノードをカタログするときに指定した symbolic-destination-name が正しい名前であり、それがローカル SNA 通信サブシステムに定義されていることを確認してください。

SNA 通信サブシステムが開始されていない場合は、開始してください。

SQL1339N "<n>" SQL エラーが、非アトミック複合 SQL ステートメントの実行で見つかり、識別は "<error1>" "<error2>" "<error3>" "<error4>" "<error5>" "<error6>" "<error7>" です。

説明: 複合 SQL ステートメントの 1 つ以上の SQL サブステートメントが、SQL エラー (負の戻りコード) になりました。

エラー・トークンは CLI/ODBC アプリケーションには返されません。CLI/ODBC アプリケーションは、SQLGetDiagRec、SQLGetDiagField、または SQLError APIs を使用してそれぞれのエラーについての詳細を取得できます。

ユーザーの処置: 提供されるエラー識別情報を調べてください。<n> <errorX> のトークンが埋められ、7 が最大です。各 <errorX> が SQL ステートメント・エラーを表します。これらのエラーは、見つかった順序でリストされます。メッセージ・テキストが形式化されていない場合、この情報は「SQLERRMC」フィールドの 2 番目で後続するトークンで見つけることができます (トークンは 1 バイトの 16 進数値 0xFF で区切られています)。

各 <errorX> は PPPSSSSS の形式で、意味は以下のとおりです。

PPP PPP は、複合 SQL ブロック内のエラーの原因となったステートメントの位置を表し、左寄せされています。たとえば、最初のステートメントが失敗した場合、このフィールドには番号 1 ("1 ") が含まれます。

SSSSS 失敗したステートメントの SQLSTATE です。

SQLCA 自体を調べることで、詳細な情報を見つけることができます。3 番目の「SQLERRD」フィールドには複合 SQL ステートメントで影響を受けた行の番号が入り、4 番目の「SQLERRD」

フィールドには成功した最後のステートメントの位置が入り、5 番目の「SQLERRD」フィールドには、DB2 クライアント / サーバーおよび SQL/DS データベースがアクセスされたときに、参照保全で影響を受けた行の番号が入り、6 番目の「SQLERRD」フィールドには失敗した (負の SQLCODES が返された) ステートメントの番号が入ります。

sqlcode: -1339

sqlstate: 56091

SQL1340N ファイル・サーバー "<fileserv>" が見つかりませんでした。

説明: システムが、指定されたファイル・サーバーをネットワークで見つけることができませんでした。考えられる原因は以下のとおりです。

- IPX/SPX ノードがカタログされたときに、正しくない *fileserv* 名が指定されていました。
- 正しい *fileserv* 名が指定されましたが、接続時に、ファイル・サーバーを使用できませんでした。

ユーザーの処置: IPX/SPX ノードをカタログするときに指定した *fileserv* 名が正しく、ファイル・サーバーがネットワーク上で使用可能であることを確認してください。

SQL1341N ワークステーション名を、クライアント・データベース・マネージャーの構成ファイルに指定してください。

説明: ワークステーション名が、クライアント・データベース・マネージャー構成ファイルに指定されていません。NetBIOS を使用してサーバーと通信を行う場合は、ワークステーション名を指定する必要があります。

ユーザーの処置: クライアント・データベース・マネージャー構成ファイルにワークステーション名を指定してください。

SQL1342N ファイル・サーバー名 "<name>"
がないか、または無効です。

説明: コマンド/API に指定されたファイル・サーバー名がないか、または無効です。

ユーザーの処置: ファイル・サーバー名が指定されており、名前に無効な文字が入っておらず、48文字より長くないことを確認してください。有効なファイル・サーバー名を使用して、コマンド/API を再発行してください。

SQL1343N オブジェクト名 "<name>" がないか、または無効です。

説明: コマンド/API に指定されているオブジェクト名がないか、または無効です。

ユーザーの処置: オブジェクト名が指定されており、名前に無効な文字が入っておらず、48文字より長くないことを確認してください。有効なオブジェクト名を使用して、コマンド/API を再発行してください。

SQL1350N アプリケーションが、この要求を処理するための正しい状態ではありません。理由コード = "<rc>"。

説明: 以下は、"<rc>" に対応しています。

- 01 アプリケーションは現在 SQL を処理しており、要求されたユーティリティ・コマンドを処理できません。
- 02 バックアップ要求が進行中です。バックアップが完了する前に、さらに要求が必要であることを示す警告が、初期ユーティリティ呼び出しから返されました。
- 03 復元要求が進行中です。復元が完了する前に、さらに要求が必要であることを示す警告が、初期ユーティリティ呼び出しから返されました。
- 04 ロールフォワード要求が進行中です。ロールフォワードが完了する前に、さらに

要求が必要であることを示す警告が、初期ユーティリティ呼び出しから返されました。

- 05 ロード要求が進行中です。ロードが完了する前に、さらに要求が必要であることを示す警告が、初期ユーティリティ呼び出しから返されました。
- 07 連合システム・ユーザー: アプリケーションは、SQL ステートメントを実行した後でこのコマンドを処理することはできません。

ユーザーの処置: 以下は、"<rc>" に対応しています。

- 01 このコマンドを再発行する前に、作業単位を完了 (COMMIT または ROLLBACK を使用) してください。
- 02-05 進行中のユーティリティの完了に必要な呼び出しを行った後で、このコマンドを再発行してください。
- 07 連合システム・ユーザー: アプリケーションは、データベース・マネージャーとの接続を確立した後、他のどの SQL ステートメントよりも前に、このコマンドを実行する必要があります。

SQL1360N 現在の処理は割り込み不能です。

説明: ユーザーが、割り込み不能なプロセスの割り込みを試みました。

ユーザーの処置: 現在のプロセスの割り込みを行わないでください。

SQL1361W 実行時間がタイムアウト値を超えました。割り込みを行いますか?

説明: コマンドが事前定義されたタイムアウト期間よりも長くかかる場合は、(Windows クライアントの場合) このコマンドの割り込みを行うかどうかを確認するためのダイアログ・ボックスがポップアップされます。

このメッセージは Windows 環境にのみ適用され、ダイアログ・ポップアップ・ボックスにのみ表示されます。

ユーザーの処置: YES - すぐに割り込みます;
NO - 続行し、プロンプトを表示しません;
CANCEL - 続行し、タイムアウトになります、という 3 つの選択があります。

SQL1370N インスタンスまたはデータベース "`<name2>`" が、ユーザー "`<username>`" によってすでに静止状態になっているため、インスタンスまたはデータベース "`<name1>`" の静止に失敗しました。 静止タイプ: "`<type>`"。

説明: データベースが別のユーザーによって、すでに静止されているにもかかわらず、インスタンスを静止するというような、静止のオーバーラップになるインスタンスまたはデータベースの静止が試みられました。

静止タイプ "`<type>`" は、すでに静止しているインスタンスまたはデータベースを示しており、'1' がインスタンスで、'2' がデータベースです。

ユーザーの処置: 現在インスタンスまたはデータベースを静止しているユーザーに連絡して、DB2 が静止から解放される時期を尋ね、解放されたときに要求を再試行してください。

SQL1371N インスタンスまたはデータベース "`<name>`" は、すでにユーザー "`<username>`" によって静止状態にされています。 静止タイプ: "`<type>`"。

説明: すでに静止状態にあるインスタンスまたはデータベースを静止しようとした。

静止タイプ "`<type>`" は、すでに静止しているインスタンスまたはデータベースを示しており、'1' がインスタンスで、'2' がデータベースです。

ユーザーの処置: 現在インスタンスまたはデータ

ベースを静止しているユーザーに連絡して、DB2 が静止から解放される時期を尋ね、解放されたときに要求を再試行してください。

SQL1372N トランザクションの実行中は、静止を実行できません。

説明: 静止を発行するユーザーが、未完の作業単位を持っているにもかかわらず、データベースまたはインスタンスを静止しようとした。この状態の間は、静止を発行できません。

ユーザーの処置: 作業単位を完了 (COMMIT または ROLLBACK) させて、もう一度やり直してください。

SQL1373N インスタンスまたはデータベース "`<name>`" は、静止状態にされていないために QUIESCE RESET を行うことができません。

説明: インスタンスまたはデータベースが静止状態ではないため、QUIESCE RESET が失敗しました。

ユーザーの処置: quiesce reset が正しいインスタンスまたはデータベースに対して発行されていることを確認して、もう一度やり直してください。

SQL1374N インスタンスまたはデータベース "`<name>`" は、他のユーザー "`<username>`" によって静止状態にされているために、QUIESCE RESET を行うことができません。

説明: インスタンスまたはデータベースが静止されましたが、それは他のユーザーによって行われました。

ユーザーの処置: quiesce reset が正しいインスタンスまたはデータベースに対して発行されていることを確認してください。

SQL1375N 無効なパラメーターが api に渡されました。パラメーター "`<parm-code>`" がエラーです。

説明: "`<parm-code>`" が、以下のエラーがあるパラメーターを示しています。

- 1 有効範囲
- 2 オプション

値が範囲外または無効である可能性があります。

ユーザーの処置: api の構文をチェックしてパラメーターを訂正し、もう一度やり直してください。

SQL1380N 予期しないケルベロス・セキュリティ・エラーが起きました。詳細については `db2diag.log` を参照してください。

説明: 認証中に、予期しないケルベロス・セキュリティ・エラーが起きました。

ユーザーの処置: 詳細については `db2diag.log` ファイルを調べてください。

SQL1381N Security Support Provider Interface が使用可能ではありません。

説明: Security Support Provider Interface (SSPI) が使用可能ではなかったため、認証に失敗しました。

ユーザーの処置: Windows オペレーティング・システムを稼働している場合、ファイル `security.dll` がシステム・ディレクトリに存在することを確認してください。また、使用されているオペレーティング・システムで SSPI がサポートされていることを確認してください。

SQL1382N ケルベロス・サポートが使用可能ではありません。

説明: ケルベロス・サポートがインストールされていないため、認証に失敗しました。

ユーザーの処置: ケルベロス・サポートがインストールされ、操作可能であることを確認してから、接続を再び試みてください。

SQL1383N ターゲット・プリンシパル名が無効です。

説明: CATALOG DATABASE コマンドに指定されたターゲット・プリンシパル名が無効です。

ユーザーの処置: UNCATALOG DATABASE コマンドを使用して、無効なターゲット・プリンシパル名を含んでいるデータベース項目を除去してください。CATALOG DATABASE コマンドを使用して、有効なターゲット・プリンシパル名でデータベース項目を再カタログしてから、接続を再び試みてください。

Windows 32 ビット オペレーティング・システム環境を稼働している場合、ターゲット・プリンシパル名は、形式 `<domain name>\<user ID>` の DB2 サービスのログオン・アカウント名です。

SQL1384N 相互認証を完了できません。

説明: クライアントまたはサーバーが相互認証を完了できなかったため、接続に失敗しました。

ユーザーの処置: ターゲット・プリンシパル名が CATALOG DATABASE コマンドに指定された場合、クライアントが接続を試みているサーバーに対し、ターゲット・プリンシパル名が有効であることを確認してください。

Windows 32 ビット オペレーティング・システム環境を稼働している場合、ターゲット・プリンシパル名は、形式 `<domain name>\<user ID>` の DB2 サービスのログオン・アカウント名です。

ターゲット・プリンシパル名が有効だと思われる場合、IBM サービスに連絡してください。

SQL1390C 環境変数 **DB2INSTANCE** が定義されていないか、または無効です。

説明: 環境変数 **DB2INSTANCE** が定義されていないか、または有効なインスタンス所有者に設定されていません。

ユーザーの処置: **DB2INSTANCE** 環境変数を、使用するインスタンスの名前に設定してください。使用するインスタンスの名前、または **DB2INSTANCE** 環境変数のインスタンス名への設定方法が分からない場合は、**管理の手引き** を参照してください。

連合システム・ユーザー: **DB2INSTANCE** の詳細については、**インストールおよび構成 補足** を参照してください。

PATH 環境変数に、使用するインスタンスのホーム・ディレクトリーの **sqllib/adm** パスが入っていることを確認してください (たとえば、**/u/instance/sqllib/adm** で、**/u/instance** は、UNIX システムのインスタンス所有者のホーム・ディレクトリーです)。

SQL1391N データベースは、すでに他のインスタンスで使用中です。

説明: データベースが、データベース・マネージャーの他のインスタンスによって使用中 (データベースは、1 つのインスタンスにしか使用できない可能性があります) のために、要求が失敗しました。これは、他のマシンにある他のインスタンスにもアクセス可能な、取り付け済みファイル・システム上のデータベースにアクセスしようとして起こる可能性があります。

また、データベースに対してオープン接続 (SNA を介して) をもっていて、データベース・マネージャーが異常終了した場合にも、これが起こることがあります。

ユーザーの処置:

- 正しいデータベースを使用しており、このデータベースを他のインスタンスが使用していないことを確認してください。

- データベース・マネージャーが異常終了して、それに対してコマンド行プロセッサ接続がある場合には、「db2 の終了」を実行して、そのオープン接続をクローズしてから、もう一度接続をやり直してください。

sqlcode: -1391

sqlstate: 51023

SQL1392N “<prep, bind, import, export>” を使用するアプリケーションの複数インスタンスはサポートされていません。

説明: **WINDOWS** 内では、一時点で実行できるインスタンスは **prep**、**bind**、**import**、**export** のいずれか 1 つだけです。

ユーザーの処置: **WINDOWS** 内では、**prep**、**bind**、**import**、**export** を使用するアプリケーションを複数始動しないでください。

SQL1393C 環境変数 **DB2PATH** が定義されていないか、または無効です。

説明: 環境変数 **DB2PATH** が定義されていないか、または有効なディレクトリー・パスに設定されていません。

ユーザーの処置: **DB2PATH** 環境変数を、データベース・マネージャーがインストールされているディレクトリーに設定してください。

SQL1394N インスタンスが定義されていません。

説明: インスタンスが未定義のため、新規インスタンスがアプリケーションに設定できません。

ユーザーの処置: 指定されたインスタンス名が存在することを確認してください。 **db2ilist** コマンドを使用して、インスタンスのリストを表示します。

db2ilist

SQL1395N アプリケーションが複数のコンテキストを使用しているため、別のインスタンスに切り替えできません。

説明: アプリケーションが複数のコンテキストを使用しているため、別のインスタンスに切り替える要求が失敗しました。

ユーザーの処置: 別のインスタンスに切り替える前に、アプリケーションが複数のコンテキストを使用していないか、確認してください。

SQL1396N アプリケーションがデータベースに接続あるいはインスタンスに接続しているため、別のインスタンスに切り替えできません。

説明: アプリケーションがデータベースに接続あるいはインスタンスに接続しているため、別のインスタンスに切り替える要求が失敗しました。

SQL1400 - SQL1499

SQL1400N 認証はサポートされていません。

説明: 指定された認証タイプはサポートされていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なパラメーターの値を使用して、コマンドを再発行してください。

サポートされている認証タイプのリストについては、[アプリケーション開発の手引き](#)を参照してください。

SQL1401N 認証タイプが一致しません。

説明: リモート・ノードの認証タイプとは異なる認証タイプで、ローカル・ノードにカタログされているリモート・データベースに接続しようとしてしました。

連合システム・ユーザー: このメッセージは以下の場合にも表示されます。

ユーザーの処置: 別のインスタンスに切り替える前に、アプリケーションがデータベースあるいはインスタンスに接続されていないか、確認してください。

SQL1397N DB2 サービスがログオンに失敗しました。

説明: DB2 サービスがログオンの失敗のため、開始できません。

ユーザーの処置: DB2 管理サーバーを開始している場合、DB2ADMIN SETID コマンドで新規のログオン・アカウントを設定します。Windows NT で DB2 サーバーを開始している場合、「コントロール パネル」の「サービス」ダイアログ・ボックスを使用して、DB2 サービスに対するログオン・アカウントを設定することができません。

- データ・ソースが SYSCAT.SERVEROPTIONS に OPTION = 'PASSWORD' の SETTING='N' を指定して識別され、データ・ソースが承認クライアント・モードで実行されていない (つまり、データ・ソースにパスワードが必要である)。
- データ・ソースが SYSCAT.SERVEROPTIONS に OPTION = 'PASSWORD' の SETTING='Y' を指定して識別され、データ・ソースが承認クライアント・モードで実行中である (つまり、データ・ソースにパスワードが必要ではない)。
- SYSCAT.SERVEROPTIONS の OPTION='PASSWORD' にサーバー・オプションが指定されておらず、PASSWORD に対するシステム・デフォルト値が、データ・ソース・パスワード要件に違反している。

ユーザーの処置: コマンドは処理されません。

リモート・データベースと同じ認証タイプで、クライアント・ノードにデータベース別名を再カタ

ログしてください。 コマンドを再発行してください。

連合システム・ユーザー:

- データ・ソースがパスワードを必要としているが、そのサーバーについて SYSCAT.SERVEROPTIONS に OPTION='PASSWORD' の SETTING='N' が入っているという問題がある場合は、ALTER SERVER SQL ステートメントを使用して SYSCAT.SERVEROPTIONS を更新し、正しいデータ・ソース・パスワード要件を反映させてください。
- データ・ソースがパスワードを必要としないが、SYSCAT.SERVEROPTIONS には OPTION='PASSWORD' の SETTING='Y' が入っているという問題がある場合は、ALTER SERVER SQL ステートメントを使用して SYSCAT.SERVEROPTIONS を更新し、正しいデータ・ソース・パスワード要件を反映させてください。
- OPTION='PASSWORD' のサーバー・オプションが SYSCAT.SERVEROPTIONS に設定されていない場合は、CREATE SERVER SQL ステートメントを使用して項目を作成し、正しいデータ・ソース・パスワード要件を反映させてください。

sqlcode: -1401

sqlstate: 08001

SQL1402N 予期しないシステム・エラーのため、ユーザーを認証できません。

説明: システム管理者に連絡してください。 UNIX ベース・システムでは、ファイル *db2ckpw* に正しい許可ビット・セットがないかあるいはシステムがスワップ / ページング・スペースを使いきっている可能性があります。 Windows NT では、DB2 セキュリティー・サービスが始動されていない場合があります。

コマンドは処理されません。

連合システム・ユーザー: この状態は、データ・ソースによっても検出されることもあります。

ユーザーの処置: UNIX ベース・システムでは、システム管理者に頼んで、*db2ckpw* に対する正しいアクセス許可が設定されているか、十分なスワップ / ページング・スペースがあるか確認してもらってください。 Windows NT ではシステム管理者に頼んで、DB2 セキュリティー・サービスがインストールされ始動されていることを確認してください。

SQL1403N 指定されたユーザー名とパスワードのいずれか、またはその両方が正しくありません。

説明: 指定された無効なユーザー名とパスワードのいずれか、またはその両方が正しくないか、ユーザー名 / パスワードの組み合わせが無効か、または接続しようとしているデータベースの認証タイプが SERVER で、CONNECT TO ステートメントにユーザー名とパスワードが指定されていません。

DB2 コネクトを使用している場合には、ホスト接続用の DCS ディレクトリー項目が見つからなかったことが問題である可能性があります。

確認サーバーによって、OS/2 クライアントから UNIX ベース・サーバーに接続していて、ユーザー ID およびパスワードを UPM からピックアップしている場合には、サーバーのユーザー ID は小文字で定義されていて、大文字のパスワードでなければなりません。

コマンドは処理されません。

連合システム・ユーザー: この状態は、データ・ソースによっても検出されることもあります。

ユーザーの処置: 正しいユーザー名とパスワードの組み合わせを提供してください。

連合システム・ユーザー: SYSCAT.USEROPTIONS の項目が、アクセスされるデータ・ソースの正しいユーザー名とパスワードを含むことを確認してください。

sqlcode: -1403

sqlstate: 08004

SQL1404N パスワードの期限が切れました。

説明: パスワードの期限が切れています。

ユーザーの処置: パスワードを変更した後で、新しいパスワードを使用して要求を再試行してください。DB2 クライアント構成アシスタント、あるいはコマンド行プロセッサの CONNECT および ATTACH コマンドを使用して、パスワードを変更します。

sqlcode: -1404

sqlstate: 08004

SQL1405N ローカル DB2 認証サーバーと通信できません。

説明: ローカル DB2 認証サーバーとの通信中のエラーのために、アプリケーションが認証に失敗しました。

ユーザーの処置: DB2 認証サーバーが、OS/2 ウィンドウから以下のコマンドを入力して、始動されていることを確認してください。

```
detach db2upm
```

SQL1415N ステートメントは診断の目的のためにだけコンパイルされたので、これは実行されていません。

説明: ステートメントは、サービス機能を使用して診断情報を収集するために、システムの一部を介して処理されました。ステートメントのその後の処理を可能にするために必要なステップは完了していません。

ユーザーの処置: このエラーは、サービス機能を使用して準備されたステートメントのシステムで、それ以上の処理ができないようにするために戻され、予定されたものです。

SQL1420N 連結演算子が多すぎます。

説明: 連結演算子の入った、長いまたは大きなオブジェクト・ストリング結果タイプの式の評価中に、データベース・マネージャーが内部限界に達しました。

ユーザーの処置: 式の連結数を減らして、もう一度やり直してください。

sqlcode: -1420

sqlstate: 54001

SQL1421N ホスト変数または **sqlvar** "**<number>**" と **wchar_t** 形式との間の変換中に、**MBCS** 変換エラーが起きました。理由コードは "**<rc>**" です。

説明: 組み込み SQL ステートメントを持つ C/C++ アプリケーションが、WCHARTYPE CONVERT オプションでプリコンパイルされました。実行時に、入力ホスト変数の場合は **wcstombs()**、出力ホスト変数の場合は **mbstowcs()** の変換中に、アプリケーションがエラーを受け取りました。ホスト変数または **sqlvar** 番号は、問題を起こしたデータ項目を示しています。有効な理由コードは、以下のとおりです。

- 1 入力データで問題が起きました
- 2 出力データで問題が起きました

ユーザーの処置: アプリケーション・データがすでに **MBCS** 形式の場合は、**WCHARTYPE NOCONVERT** を使用してアプリケーションをプリコンパイルして、再構築してください。アプリケーション・データが **wchar_t** 形式であることを意図している場合は、**wcstombs()** で失敗する入力データは壊れている可能性があります。データを訂正して、アプリケーションを再実行してください。

sqlcode: -1421

sqlstate: 22504

SQL1422N コンテナのサイズが無効です。

説明: データベース管理表スペースで使用されるコンテナのいずれかが、大きすぎるか、または小さすぎます。コンテナは、少なくともエクステント・サイズ + 1 ページの長さでなければなりません。コンテナの最大サイズは、オペレーティング・システムによって異なります。最も一般的なシステム制限は 2 ギガバイト (524288 4K ページ) です。

ユーザーの処置: 詳細については、診断ログをチェックしてください。その後で、SQL ステートメントを訂正してください。

sqlcode: -1422

sqlstate: 54039

SQL1423N 照会に、大規模オブジェクト・データ・タイプを持つ列が含まれています。

説明: 照会に、データ・タイプ BLOB、CLOB または DBCLOB を持つ列が入っています。通常、このようなデータ・タイプは、バージョン 2.1 以前のクライアントからは処理できません。

警告 SQLCODE +238 に対応する状況のエラーが起きました。状況に関する詳細については、このメッセージを参照してください。このメッセージを受け取ったクライアント・レベルでは、BLOB データ・タイプを処理できません。

SUBSTR 関数を使用するか、または LOB 列が、サポートされている長さの文字データ・タイプより大きくない場合は、SQLDA のデータ・タイプをバージョン 1 で使用可能な文字データ・タイプのいずれかに設定することで、CLOB および DBCLOB データ・タイプの処理が可能になる場合があります。

ユーザーの処置: 照会を変更して、データ・タイプ BLOB、CLOB または DBCLOB を持つ列を除外してください。照会に、タイプ BLOB の列が入っている場合は、これが唯一可能な処置です。列 (たとえば C1) が CLOB の場合は、CAST(C1

AS LONG VARCHAR) を使用すると、最初の 32700 文字を取得することができます。同様に、DBCLOB 列 (DC1) の場合は、CAST(DC1 AS LONG VARGRAPHIC) を使用すると、最初の 16350 文字を取得することができます。アプリケーション・コードが変更可能な場合は、コードを追加して SQLDA を変更し、LONG VARCHAR または LONG VARGRAPHIC を CLOB および DBCLOB に対して使用するようになります。

sqlcode: -1423

sqlstate: 56093

SQL1424N 変換変数および変換表列に対する参照が多すぎるか、またはそれらの参照の行が長すぎます。理由コード =“<rc>”。

説明: トリガーに、1 つ以上の変換表および変換変数を識別する REFERENCING 文節が入っています。トリガーのトリガー・アクションに、理由コードによって以下のいずれかの状態が示されている、変換表の列または変換変数に対する参照が入っています。

1 表の列数の制限を超える参照の合計

2 表の行の最大長を超える参照の合計長

ユーザーの処置: トリガーのトリガー・アクションにおける、変換変数および変換表の列に対する参照の数を減らして、長さが短くなるようにするか、またはその参照の合計数が、表の列の最大長より小さくなるようにしてください。

sqlcode: -1424

sqlstate: 54040

SQL1425N パスワードがユーザー ID なしで指定されました。

説明: ユーザー ID とパスワードを受け入れるコマンド/API は、ユーザー ID なしのパスワードは受け入れません。

ユーザーの処置: コマンド/API を再発行して、

すでにパスワードを指定している場合は、ユーザー ID を指定してください。

SQL1426N デフォルト・インスタンスが判別できません。

説明: 明示的に 'インスタンスへの付加' が実行されていない場合は、インスタンス・コマンドがデフォルト・インスタンスへの暗示付加を確立しようとしています。デフォルト・インスタンスは、DB2INSTDFLT および DB2INSTANCE 環境変数から決定されます。両方とも設定されていない場合は、暗示付加は確立できません。

ユーザーの処置: 上記のいずれかの環境変数を有効なインスタンス名に設定して、コマンドを再発行してください。

SQL1427N インスタンス付加が存在しません。

説明: アプリケーションがインスタンスに付加されていません。既存のインスタンス付加が存在しないかぎり、要求されたコマンド/API は実行できません。

ユーザーの処置: インスタンスからの切断中にエラーが起きた場合は、処理が続けられます。他のコマンドの処理中にエラーが起きた場合は、インスタンスに付加して、失敗したコマンドを再発行してください。

SQL1428N 出されたコマンドが正常に実行されるためには、"<nodename2>" への付加が必要ですが、アプリケーションがすでに "<nodename1>" に付加されています。

説明: コマンドを正常に処理するには、現在存在しているノード以外のノードに対する付加が必要です。アプリケーションは、1) コマンドが実行されたときに付加を持っていないか、または 2) コマンドが必要とするノードにすでに付加されている必要があります。

ユーザーの処置: コマンドを実行する前に、アプ

リケーションが付加をもっていないこと、または存在する付加が正しいノードに対するものであることを確認してください。

SQL1429N ノード名が DB2INSTANCE 環境変数の値と一致する、ノード・ディレクトリー項目は作成できません。

説明: CATALOG NODE コマンドまたは API では項目が許可されず、そのノード名は DB2INSTANCE 環境変数の値と一致しています。

ユーザーの処置: ノードがカタログされている別のノード名を選択して、もう一度やり直してください。

SQL1430N データベース名 "<database>" が、ノード "<nodename>" のシステム・データベース・ディレクトリーで見つかりません。

説明: 特定のデータベース名がデータベース・モニターに指定されている場合は、それらのデータベースが、ユーザーが現在付加しているノード、またはローカル・ノードに常駐している必要があります。

ユーザーの処置: 要求にリストされているすべてのデータベースが、ユーザーが付加しているノード、またはローカル・ノードに常駐していることを確認してください。要求を再発行してください。

SQL1431N リモートでの実行中は、相対パス "<path>" は使用できません。

説明: アプリケーションがサーバーからリモートである場合は、相対パスを使用できません。

ユーザーの処置: サーバーで有効な完全修飾パスを指定して、コマンドを再発行してください。

SQL1432N サーバーが認識しないデータベース・プロトコルを使用して、サーバーに要求が送られました。

説明: このエラーは、要求の伝送に使用しているデータベース・プロトコルを理解しないサーバーに対して DB2 要求が送信したことが原因で起こります。この状況は、DB2 Version 2 またはそれ以上のサーバーでないノード・ディレクトリーにリストされたサーバーに DB2 ATTACH 要求を送信すると、よく起こることがあります。また、付加要求を DB2 (AS/400 版)、DB2 (MVS 版)、または DB2 (VM および VSE 版) サーバーに送信した時にも起こることがあります。

ユーザーの処置: 上にリストされたサーバーに付加を試みないでください。

SQL1433N アプリケーションはすでに "`<database1>`" に接続されていますが、出されたコマンドを正常に実行するためには、"`<database2>`" への接続が必要です。

説明: コマンドを正常に処理するには、現在存在しているデータベース以外のものに対する接続が必要です。アプリケーションは次のいずれかでなければなりません。1) コマンドが出された時に接続がないか、あるいは 2) コマンドに必要なデータベースにすでに接続されている。

ユーザーの処置: コマンドを実行する前に、アプリケーションが接続をもっていないこと、または存在する接続が正しいデータベースに対するものであることを確認してください。

SQL1434N 32 ビットおよび 64 ビット・プラットフォーム間のクライアント / サーバー非互換性のため、CONNECT または ATTACH ステートメントが失敗しました。

説明: このリリースでは、32 ビットおよび 64 ビット・プラットフォームの間のクライアント /

サーバー接続はサポートされていません。

ユーザーの処置: 以下の形で、CONNECT または ATTACH ステートメントを出すことができません。

- 32 ビット・クライアントから 32 ビット・サーバー
- 64 ビット・クライアントから 64 ビット・サーバー

sqlcode: -1434

sqlstate: 08004

SQL1440W WITH GRANT OPTION は次のステートメントで無視されています。GRANT (データベース権限) ステートメント、GRANT (パッケージ特権) ステートメント、GRANT (索引特権) ステートメント、または表か視点の CONTROL 特権が授与される場合です。

説明: WITH GRANT OPTION はデータベース権限またはパッケージか索引の特権を与えているときは適用可能ではありません。WITH GRANT OPTION は、表、視点、索引またはパッケージの CONTROL 特権を適用していません。

有効な要求された特権はすべて授与されました。

ユーザーの処置: データベース権限、パッケージ特権を授与しているときは、WITH GRANT OPTION 文節を含んでいません。CONTROL を授与しているときは、WITH GRANT OPTION 文節を指定せずに分離授与ステートメントを使用してください。

sqlcode: +1440

sqlstate: 01516

SQL1441N 無効なパラメーターです。理由コードは "`<code>`" です。

説明: 以下は有効な理由コードのリストです。

- 1 コンテキスト・ポインターに NULL が渡されました。
- 3 コンテキスト・ポインターは初期化されましたが、有効なコンテキスト領域ではありません。
- 4 無効なオプション
- 5 予約されたパラメーターは NULL ではありませんでした。

ユーザーの処置: アプリケーション・コンテキスト・ポインターが正しく初期化され、使用されているオプションが有効であることを確認してから、再試行してください。

SQL1442N コンテキストは使用中でもなく、現行スレッドでも使用されていません。理由コードは "`<code>`" です。

説明: 以下の理由で呼び出しが失敗しました。

- 1 コンテキストはどのスレッドにも使用されていません (付加が行われていません)。
- 2 コンテキストは現行スレッドによって使用されていません。
- 3 現行スレッドはコンテキストを使用していません。

ユーザーの処置: 切り離し呼び出しの場合、コンテキストが現行スレッドによって使用されているもので、対応する付加が行われていることを確認してください。

get 現行コンテキスト呼び出しの場合、スレッドが現在コンテキストを使用しているか確認してください。

SQL1443N スレッドはすでにコンテキストに付加されています。

説明: ユーザーはコンテキストをスレッドに付加しようとしたのですが、スレッドはすでにコンテキストを使用しています。

ユーザーの処置: 新しいコンテキストに付加する前に、前のコンテキストから切り離してください。

SQL1444N 使用中のため、アプリケーション・コンテキストは破棄できません。

説明: ユーザーはまだ使用中にもかかわらず、アプリケーション・コンテキストを破棄しようとしてきました。コンテキストに接続しているスレッドがあるか、コンテキストにはそれに関連した CONNECT または ATTACH があります。破棄する前に、CONNECT RESET または DETACH を行い (CONNECT または ATTACH が行われていた場合)、コンテキストからすべてのスレッドを切り離してください。

ユーザーの処置: コンテキストに接続しているすべての呼び出しに対応する切り離しがあり、すべての CONNECTS には対応する CONNECT RESET があり、すべての ATTACHES には対応する DETACH があることを確認してください。

SQL1445N スレッドまたはプロセスには使用するためのコンテキストがありません。

説明: SQL_CTX_MULTI_MANUAL のコンテキスト・タイプには影響しますが、現行のスレッドまたはプロセスはコンテキストに付加されていません。

ユーザーの処置: データベース呼び出しを行う前に、現行のスレッドまたはプロセスがコンテキストに付加されているか確認してください。

SQL1450N 登録情報ポインターが無効です。

説明: 無効な登録情報ポインターが、register/deregister DB2 server command/API に渡されました。

ユーザーの処置: 有効なポインターが、register/deregister DB2 server command/API に渡されたことを確認してください。

SQL1451N DB2 サーバーの登録または登録取り消しは、サーバー・ノードから発行しなければなりません。

説明: DB2 サーバーの登録または登録取り消しが、無効なノードから発行されました。

ユーザーの処置: サーバー・ノードから register/deregister DB2 server command/API を再発行してください。

SQL1452N 無効な登録位置が指定されました。

説明: 無効な登録位置が、register/deregister DB2 server command/API に渡されました。

ユーザーの処置: 有効な登録位置が、register/deregister DB2 server command/API に渡されたことを確認してください。

SQL1453N データベース・マネージャー構成ファイルのファイル・サーバー名の項目がないか、または無効です。

説明: configuration command/API またはデータベース・マネージャー構成ファイルに指定されたファイル・サーバー名がないか、または無効です。

ユーザーの処置: ファイル・サーバー名が指定されており、名前に無効な文字が入っておらず、48文字より長くないことを確認してください。データベース・マネージャー構成ファイルのファイル・サーバー名を更新して、command/API を再発行してください。

SQL1454N データベース・マネージャー構成ファイルのオブジェクト名の項目がないか、または無効です。

説明: configuration command/API またはデータベース・マネージャー構成ファイルに指定されたオブジェクト名がないか、または無効です。

ユーザーの処置: オブジェクト名が指定されており、名前に無効な文字が入っておらず、48文字

より長くないことを確認してください。データベース・マネージャー構成ファイルのオブジェクト名を更新して、command/API を再発行してください。

SQL1455N データベース・マネージャー構成ファイルの IPX ソケット番号の項目がないか、または無効です。

説明: configuration command/API またはデータベース・マネージャー構成ファイルに指定された IPX ソケット番号がないか、または無効です。

ユーザーの処置: IPX ソケット番号が指定されており、番号に無効な文字が入っておらず、4文字よりも長くないことを確認してください。データベース・マネージャー構成ファイルの IPX ソケット番号を更新して、command/API を再発行してください。

SQL1456N データベース・マネージャー構成ファイルに指定されたオブジェクト名は、すでに NetWare ファイル・サーバーに存在します。

説明: DB2 サーバー・オブジェクト名を NetWare ファイル・サーバーに登録するときに、重複するオブジェクト名が見つかりました。

ユーザーの処置: データベース・マネージャー構成ファイルに指定されたオブジェクト名は、すでに使用されています。オブジェクト名を変更して、DB2 サーバーを再登録してください。

SQL1457N NetWare ディレクトリー・サービス接続が、すでに NetWare ファイル・サーバーに対して確立されているために、登録 / 登録解除が、指定されたそのファイル・サーバーにログインできませんでした。

説明: NetWare ディレクトリー・サービス接続が、すでに指定されたファイル・サーバーに対して確立されている場合は、NWLoginToFileServer

を使用したバインドリー・ログインは実行できません。

ユーザーの処置: サーバーのディレクトリー・サービス接続をログアウトして、ディレクトリー・サービスから切り離れた後で、登録 / 登録解除を再発行してください。

SQL1458N 直接アドレッシング用の IPX/SPX が、データベース・マネージャー構成ファイルに構成されています。
NetWare ファイル・サーバーに対する **DB2** サーバーの登録 / 登録解除は必要ありません。

説明: データベース・マネージャー構成ファイルが、IPX/SPX 直接アドレッシング用に構成されているため、登録 / 登録解除の発行は必要ありません。例: Fileserver と objectname が '*' で指定されています。

ユーザーの処置: DB2 サーバーは直接アドレッシング用に構成されているので、ファイル・サーバー・アドレッシングを使用する IPX/SPX クライアントは、このサーバーに接続できません。IPX/SPX クライアント・アドレッシングの両方のタイプをサポートするサーバーの場合は、fileserver と objectname をデータベース・マネージャー構成ファイルに指定してください。

SQL1460N **SOCKS** サーバー名の解決に必要な環境変数 "`<variable>`" が定義されていないか、または無効です。

説明: SOCKS 環境変数 SOCKS_NS または SOCKS_SERVER が定義されていません。SOCKS プロトコル・サポートには、これらの両方の環境変数の定義が必要です。

SOCKS_NS

これはドメイン・ネーム・サーバーの IP アドレスであり、ここに SOCKS サーバーが定義されます。

SOCKS_SERVER

これは SOCKS サーバーのホスト名です。

ユーザーの処置: 脱落している環境変数を定義して、コマンドを再発行してください。

SQL1461N セキュリティー・オプション "`<security>`" が無効です。

説明: TCP/IP ノードの SECURITY オプションに 'SOCKS' 以外の値があります。このオプションは、カタログしている TCP/IP ノードを使用可能にするために使用され、ファイアウォールを横切るために SOCKS プロトコル・サポートを使用します。'SOCKS' 以外の値は許されません。

ユーザーの処置: SOCKS プロトコル・サポートが必要なことを確認してください。その場合には、SECURITY SOCKS によってノードのカタログをやり直してください。そうでない場合には、ノードのカタログをやり直しますが、SECURITY オプションを省いてください。

SQL1462N 要求は同期ポイント・マネージャー接続のみに有効です。

説明: 試行された要求は同期ポイント・マネージャー接続に対してのみ有効ですが、同期ポイント・マネージャー・インスタンスは接続されていません。

ユーザーの処置: 同期ポイント・マネージャー・インスタンスに接続し、要求を再発行してください。

SQL1468N データベース・マネージャーの TCP/IP listener は、ノード "`<node-num2>`" に **CONNECT** あるいは **ATTACH** をする前に、サーバー・インスタンス "`<instance>`" (**nodenum** "`<node-num1>`") に構成され、実行中にしておいてください。

説明: SET CLIENT コマンドあるいは api または環境変数 DB2NODE が "`<node-num2>`" への CONNECT あるいは ATTACH 用のノードを設定するために使用されました。このノードに CONNECT あるいは ATTACH するには、データベース・マネージャーの TCP/IP listener はサーバー・インスタンス "`<instance>`" (ノード "`<node-num1>`") で構成され、実行中である必要があります。

注: このメッセージは暗黙的 CONNECT あるいは ATTACH で返される可能性があります。

ユーザーの処置: 次のいずれかを行ってください。

- `svcename` がデータベース・マネージャー構成のインスタンス "`<instance>`"、ノード "`<node-num1>`" で指定されていて DB2COMM 環境変数が TCP/IP を指定するように設定され、TCP/IP listener は DB2START 時刻で正常に開始されているか確認してください。
または
- ノードとデータベースを明示的にカタログ化してください。

sqlcode: -1468

sqlstate: 08004

SQL1469N インスタンス "`<instance-name>`" (**nodenum** "`<node-num1>`") には **db2nodes.cfg** ファイルで指定されたノード "`<node-num2>`" がありません。

説明: SET CLIENT コマンドあるいは api または環境変数 DB2NODE が "`<node-num2>`" への CONNECT あるいは ATTACH 用のノードを設定するために使用されました。後続の CONNECT あるいは ATTACH 処理は、インスタンス "`<instance-name>`" (ノード "`<node-num1>`") 上で **db2nodes.cfg** ファイルで、このノードを探し出すことができません。

注: このメッセージは暗黙的 CONNECT あるいは ATTACH で返される可能性があります。

ユーザーの処置: SET CLIENT コマンド、あるいは api あるいは DB2NODE 環境変数で指定されたノード番号が、中間インスタンス "`<instance-name>`"、ノード "`<node-num1>`" の **db2nodes.cfg** ファイルに存在しているか、確認してください。

sqlcode: -1469

sqlstate: 08004

SQL1470N **DB2NODE** 環境変数の値が有効ではありません。

説明: アプリケーションのノードを示す DB2NODE 環境は接続を試行します。DB2NODE が未設定またはブランクの場合、このアプリケーションはデフォルト・ノードへの接続を試行します。それ以外は、DB2NODE をこのアプリケーションと同じホストで定義されたノードの 1 つのノードに設定する必要があります。

ユーザーの処置: DB2NODE 環境変数を次の値のいずれかに設定してください。

未設定

アプリケーションにデフォルト・ノードが接続されます。

ブランク

アプリケーションにデフォルト・ノードが接続されます。

番号 アプリケーションにそのノード番号が接続されます。このノードはこのアプリケーションと同じホストで実行されていなくてはなりません。

sqlcode: -1470

sqlstate: 08001

SQL1471N このノードのデータベースがカタログ・ノードと同期化していないため、ノード "`<node-number>`" のデータベース "`<database-name>`" に接続できません。

説明: このノードのログの終わりの情報がカタログ・ノードの対応するレコードと一致しません。これは、別の場合にバックアップされたノードのデータベースを復元するため起こります。

ユーザーの処置: データベースが 1 つのノードでロールフォワードなしで復元されている場合、データベースがロールフォワードなしですべてのノードで一致するオフライン・バックアップで復元されていることを確認してください。

sqlcode: -1471

sqlstate: 08004

SQL1472N カタログ・ノードのシステム時刻とこのノードの仮想タイム・スタンプとの間の相違が `max_time_diff` データベース・マネージャー構成パラメーターより大きいため、ノード "`<node-number>`" のデータベース "`<database-name>`" に接続できません。

説明: コンピューター構成時のシステム時刻の相違 (db2nodes.cfg ファイルにリストされている) は `max_time_diff` データベース・マネージャー構成

パラメーターより大きいです。

ユーザーの処置: "すべてのコンピューターのシステム時刻を合わせて、`max_time_diff` パラメーターがデータベース・マシン間の通常の通信遅延ができるように構成されているか、確認してください。

上記を実行しても問題が続く場合、原因と処置を調べるには、[管理の手引き](#) を参照してください。

sqlcode: -1472

sqlstate: 08004

SQL1473N ローカル・ノードのシステム時刻とノード "`<node-list>`" の仮想タイム・スタンプ間の相違が `max_time_diff` データベース・マネージャー構成パラメーターより大きいため、トランザクションをコミットできません。トランザクションはロールバックされます。

説明: コンピューター構成時のシステム時刻の相違 (db2nodes.cfg ファイルにリストされている) は `max_time_diff` データベース・マネージャー構成パラメーターより大きいです。

"、..." がノード・リストの最後に表示された場合、完全なノード・リストについては、[syslog](#) ファイルを参照してください。

ユーザーの処置: "すべてのコンピューターのシステム時刻を合わせて、`max_time_diff` パラメーターがデータベース・マシン間の通常の通信遅延ができるように構成されているか、確認してください。

sqlcode: -1473

sqlstate: 40504

SQL1474W トランザクションは正常に完了しましたが、ローカル・ノードのシステム時刻とノード "`<node-list>`" の仮想タイム・スタンプ間の時刻の相違が `max_time_diff` データベース・マネージャー構成パラメーターより大きくなっています。

説明: コンピューター構成時のシステム時刻の相違 (`db2nodes.cfg` ファイルにリストされている) は `max_time_diff` データベース・マネージャー構成パラメーターより大きいです。

この警告メッセージはこの状態に影響されないため、読み取り専用トランザクションに返されません。ただし、これ以外のトランザクションはロールバックされます。このメッセージはユーザーになるべく早く処置をとるようにこの状態について通知するものです。

"、..." がノード・リストの最後に表示された場合、完全なノード・リストについては、`syslog` ファイルを参照してください。

ユーザーの処置: "すべてのコンピューターのシステム時刻を合わせて、`max_time_diff` パラメーターがデータベース・マシン間の通常の通信遅延ができるように構成されているか、確認してください。

sqlcode: 1474

sqlstate: 01607

SQL1475W CONNECT RESET 処理中にシステム・エラーが起きました。

説明: `CONNECT RESET` は成功しましたがノード障害やコミュニケーション・エラーのようなシステム・エラーが起きる可能性があります。

ユーザーの処置: 詳細については `db2diag.log` ファイルを調べてください。このノードのデータベースを再始動する必要があります。

sqlcode: 1475

sqlstate: 01622

SQL1476N 現行トランザクションがエラー "`<sqlcode>`" のため、ロールバックしました。

説明: `NOT LOGGED INITIALLY` オプションで表を作成中であったか、または `NOT LOGGED INITIALLY` が既存の表に対して活動化されました。同じ作業単位でエラーが起こったか、または `ROLLBACK TO SAVEPOINT` ステートメントが出されました。この作業単位はロールバックし、以下のようになります。

- この作業単位で作成された表はすべてドロップされます。
- トランザクションで活動化された `NOT LOGGED INITIALLY` 表はすべてアクセス不能とマークされており、ドロップだけを行うことができます。

"`<sqlcode>`" に、元のエラーの `SQLCODE` が入っています。 `ROLLBACK TO SAVEPOINT` がトランザクション内で出された場合、"`<sqlcode>`" は 0 になります。

ユーザーの処置: 問題を訂正して、トランザクションを再実行してください。 `NOT LOGGED INITIALLY` 表が作成または活動化される、同じトランザクションで使用されている `ROLLBACK TO SAVEPOINT` ステートメントを除去してください。

sqlcode: -1476

sqlstate: 40506

SQL1477N 表 "`<table-name>`" にアクセスできません。

説明: アクセスできない表に対してアクセスしようとした。以下のいずれかの理由のため、この表にアクセスできないと思われます。

- 作業単位がロールバックされたとき、表が `NOT LOGGED INITIALLY` を活動化していた

- 表は宣言された区分一時表で、その表が宣言されたために 1 つまたは複数の区分に障害が起こった (宣言された一時表はすべてスキーマ名 SESSION)
- ROLLFORWARD が、この表での NOT LOGGED INITIALLY の活動化、またはこの表での NONRECOVERABLE ロードを見つけた

その保全性を保証できないため、この表へのアクセスは許可されていません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの処置を行うことができます。

- 表が NOT LOGGED INITIALLY を活動化している場合、この表をドロップしてください。この表が必要な場合、作成し直してください。
- 表が宣言された一時表であれば、この表をドロップしてください。この表が必要な場合、宣言し直してください。
- そうでない場合、表スペースまたはデータベース・バックアップから復元してください。バックアップ・イメージは、リカバリー不能操作 (NOT LOGGED INITIALLY 操作または NONRECOVERABLE ロード) の完了に続き、コミット・ポイントの後でとられています。

sqlcode: -1477

sqlstate: 55019

SQL1478W 定義されたバッファーストレージを開始できませんでした。代わりに、DB2 のサポートするページ・サイズごとに、小さいバッファーストレージを開始しました。

説明: 定義されたバッファーストレージを開始できませんでした。代わりに、DB2 のサポートするページ・サイズごとに、小さいバッファーストレージを開始し、拡張記憶域が使用不可になります。以下の理由から、定義されたバッファーストレージを開始できませんでした。

- バッファーストレージの合計サイズおよびこのデータベースに指定された拡張ストレージに対して十分なメモリーが割り振られていません。
- データベース・ディレクトリーにあるバッファーストレージ・ファイルが抜けているか、壊れています。

ユーザーの処置: 問題の正しいソースについては db2diag.log ファイルを調べてください。解決方法として考えられるのは次のとおりです。

- データベースを正しく開始できるように 1 つ以上のバッファーストレージの大きさをドロップするか、または更新してください。データベースに拡張ストレージが指定されている場合、num_estore_segs と estore_seg_sz の値をメモリーが少なくても済むよう、調整してください。
- データベースで db2dart を実行しバッファーストレージ・ファイルの有効性を検証してください。db2dart でエラーが起きた場合、ローカル・サービス担当者に連絡してください。

この変更を行ったあとで、データベースを切断しデータベースの開始をやり直してください。

sqlcode: +1478

sqlstate: 01626

SQL1479W 結果の設定が最初の行設定を返す前にフェッチを試みました。

説明: 要求された行セットが結果セットの開始にオーバーラップし、次に示すフェッチ指示

SQL_FETCH_PRIOR

次のいずれかの状態です。

- 現行ポジションが最初の行を超えて、現行行の数が行設定の大きさより小さいか、等しくなっています。
- 現行ポジションが結果セットの終わりを超えて、行設定の大きさが結果セットより大きくなっています。

SQL_FETCH_RELATIVE

フェッチ・オフセットの絶対値が現行行設定の大きさより小さいが等しくなっています。

SQL_FETCH_ABSOLUTE

フェッチ・オフセットが負で、フェッチ・オフセットの絶対値が結果セットの大きさより大きくなっていますが現行行設定の大きさより小さいか、等しくなっています。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL1480N DISCOVER データベース・マネージャ構成パラメーターで指定された discover type が無効です。

説明: データベース・マネージャ構成ファイルの DISCOVER パラメーターの有効値は DISABLE、KNOWN、あるいは SEARCH です。

ユーザーの処置: DISCOVER データベース・マネージャ構成パラメーターを DISABLE、KNOWN、あるいは SEARCH で更新してください。

SQL1481N DISCOVER_COMM パラメーターで指定した 1 つ以上の通信プロトコルが無効です。

説明: データベース・マネージャ構成ファイルの DISCOVER_COMM パラメーターの有効値は NETBIOS、および TCPIP の組み合わせをコマンドで区切ったものです。

ユーザーの処置: DISCOVER_COMM データベース・マネージャ構成パラメーターを NETBIOS、および TCPIP をコマンドで区切って組み合わせ、更新してください。

SQL1482W BUFFPAGE パラメーターは、バッファ・プールのどちらか 1 つが -1 のサイズで定義されている場合にのみ使用されます。

説明: バッファ・プール -1 のサイズで定義されていない場合、BUFFPAGE データベース構成パラメーターが無視されることを警告しています。-1 は、バッファ・プールがバッファ・プール・ページとして BUFFPAGE パラメーターが使用されていることを示します。

ユーザーの処置: SYSCAT.BUFFERPOOLS から選択し、バッファ・プールの定義を検査してください。サイズ -1 (NPAGES) でバッファ・プールが定義されていない場合、BUFFPAGE パラメーターの設定はこのデータベースのバッファ・プールのサイズを変更しません。

SQL1490W 活動中のデータベースは正常ですが、このデータベースは 1 つ以上のノードですでに活動状態にあります。

説明: データベースが 1 つ以上のノードで、明示的に開始 (活動) しています。

ユーザーの処置: 警告を返したノードを調べるには診断ログを見てください。

SQL1491N データベースがまだ使用中のために、データベース "<name>" は非活動化されていません。

説明: 指定されたデータベースに接続されたアプリケーションがある場合には、そのデータベースを非活動化することはできません。

ユーザーの処置: すべてのアプリケーションが CONNECT RESET を行ったことを確認してから、もう一度やり直してください。

SQL1492N データベース "<name>" は活動状態になっていないために、これは非活動化されません。

説明: 指定されたデータベースは活動状態になっていないために、このデータベースを非活動化することはできません。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL1493N このアプリケーションは、活動データベースにすでに接続されています。

説明: アプリケーションがデータベースにすでに接続されているために、ACTIVATE DATABASE および DEACTIVATED DATABASE コマンドを先行することはできません。

ユーザーの処置: データベースから切り離してから、コマンドを再発行してください。

SQL1494W データベースの活動化は成功していますが、すでにデータベースへ接続されています。

説明: 1 つまたは複数のデータベース接続があります。

ユーザーの処置: ログの診断を参照して、この警告を返しているノードを判別してください。

SQL1495W データベースの非活動化は成功していますが、まだデータベースへ接続されているものがあります。

説明: 1 つまたは複数のデータベース接続がまだあります。

SQL1500 - SQL1599

ユーザーの処置: ログの診断を参照して、この警告を返しているノードを判別してください。

SQL1496W データベースの非活動化は成功しましたが、データベースは活動化されていませんでした。

説明: 非活動化データベースが実行されるときに、1 つまたは複数のノードでデータベースは明示的に開始されました。

ユーザーの処置: ログの診断を参照して、この警告を返しているノードを判別してください。

SQL1497W データベースの活動化 / 非活動化は成功しましたが、複数ノードでエラーが発生しています。

説明: 少なくともカタログ・ノードおよび調整ノードでデータベースの活動化 / 非活動化は成功しましたが、その他のノードでエラーが発生しました。

ユーザーの処置: 診断ログを参照しどのノードでどういうエラーが発生しているかを調べて可能であれば問題を修正し、データベース・コマンドの活動化 / 非活動化を再発行してください。

SQL1512N ddcstrc が、指定されたファイルに書き込めませんでした。

説明: *ddcstrc* は、書き込み先として指定されたファイル名に、トレース情報を書き込めませんでした。

ユーザーの処置: 指定したファイル名が、ファイル・システムに有効なことを確認してください。ファイル名を指定していない場合は、デフォルト・ファイル *ddcstrc.tmp* に対して必要な書き込み許可を持っていることを確認してください。

SQL1513W ddcstrc がオフになっていません。

説明: エラー状態のために、*ddcstrc* がオフになりませんでした。これは、トレース情報がファイル内に安全に格納される前に、失われないようにするために行われました。

ユーザーの処置: このエラーの前に報告された *ddcstrc* のエラー状態を修正して、もう一度トレースをオフにしてください。

SQL1520N バッファ・サイズは 65536 より大きいかあるいは等しい数値でなければなりません。

説明: *ddcstrc* コマンドに無効なバッファ・サイズが指定されました。

ユーザーの処置: バッファ・サイズに、65536 (64K) より大きいかあるいは等しい数値が使用されていることを確認してください。使用されるメモリーは、64K の倍数であることに注意してください。*ddcstrc* は、指定されたバッファ・サイズを最も近い 64K の倍数に切り捨てます。

SQL1525N DB2 セキュリティー・デーモンを開始中にエラーが起きました。

説明: DB2 セキュリティー・デーモンを開始中に予期しないエラーが起きました。

ユーザーの処置: 詳細情報については、*db2diag.log* ファイルを調べて、それから

DB2START コマンドを再実行してください。

SQL1526N DB2VIA サポートが開始していないため、db2start ができません。理由コードは "<reason code>" です。

説明: DB2VIA サポートは、*db2start* 時間で正常に開始されていませんでした。理由コードは、次のエラーを示しています。

1. DB2_VI_VIPL レジストリー変数で指定された VIPL ライブラリーがロードできない。
2. DB2_VI_DEVICE レジストリー変数で指定された装置名がオープンできない。
3. DB2 は VIA インプリメンテーションのインストールをサポートしない。

ユーザーの処置:

1. DB2 レジストリー DB2_VI_VIPL が正常に設定され、DB2_VI_VIPL で指定された名前が %PATH% 環境変数にあることを確認してください。
2. DB2 レジストリー DB2_VI_DEVICE が正常に設定されていることを確認してください。
3. DB2 は、少なくとも信頼できる送達レベルをサポートする VIA インプリメンテーションのサポートのみを行います。VIA インプリメンテーションが、Intel Virtual Interface Architecture Implementation Guide に従って適合する組を渡すことも必要です。選択した VIA インプリメンテーションが、この要件を満たしているかどうか、確認してください。

SQL1530W 指定の並列処理度は、システムが区画内並行処理ができないため、無視されます。

説明: DEGREE バインド・オプションが 1 より大きい値で指定されたか、あるいは SET CURRENT DEGREE ステートメントが 1 より大きい値で実行されながらデータベース・マネージ

ャーが区画内並行処理ができないかのいずれかです。

インスタンスで区画内並行処理ができるようにするには、`intra_parallel` 構成パラメーターを ON に設定して、データベース・マネージャーを開始してください。

ステートメントあるいはコマンドは正常に完了しましたが、度合いの指定は無視されます。

ユーザーの処置: 区画内並行処理を使用したい場合には、`intra_parallel` 構成パラメーターを ON に設定して、データベース・マネージャーを再始動します。

そうでない場合、1 あるいは ANY を度合いの指定に使用します。

sqlcode: +1530

sqlstate: 01623

SQL1550N SET WRITE SUSPEND コマンドが失敗しました。理由コード = “<reason-code>”

説明: 次のように、“<reason-code>”で示される条件が解決するまで、SET WRITE SUSPEND コマンドの発行はできません。

- 1 データベースが活動状態になっていません。
- 2 データベースのバックアップ操作が現在ターゲット・データベースで進行中です。DB2 がバックアップを完了するまで、書き込み操作は中断できません。
- 3 データベースの復元操作が現在ターゲット・データベースで進行中です。DB2 が復元操作を完了するまで、このデータベースの書き込み操作は中断できません。
- 4 書き込み操作がすでにこのデータベースについて中断されています。

- 5 1つ以上の表スペースの現在の状態では、書き込みを中断することはできません。

ユーザーの処置:

- 1 ACTIVATE DATABASE コマンドを発行することで、データベースを活動化し、SET WRITE SUSPEND コマンドを再発行します。
- 2 BACKUP プロシージャが終了するまで待機し、SET WRITE SUSPEND を再発行します。
- 3 RESTORE プロシージャが終了するまで待機し、SET WRITE SUSPEND を再発行します。
- 4 データベースはすでに延期状態です。書き込み操作を再開するには、このデータベースに対して SET WRITE RESUME コマンドを発行してください。
- 5 表スペースの状態を表示するには、LIST TABLESPACES コマンドを実行します。保留状態の表スペースは、SET WRITE SUSPEND コマンドを再実行する前に、これらの表スペースを、保留状態から開放するための適当なコマンドを実行してください。1つ以上の表スペースに、進行中の操作が含まれる場合は、SET WRITE SUSPEND コマンドを再実行する前に、その操作が完了するまで待機してください。

sqlcode: -1550

SQL1551N SET WRITE RESUME コマンドは、データベースが現在 WRITE SUSPEND 状態でないため失敗しました。

説明: データベースは現在 WRITE SUSPEND 状態ではありません。再開できるのは、書き込み操作が中断されているデータベースの書き込み操作だけです。

ユーザーの処置: 書き込み操作はこのデータベースでは使用可能なので、処置は不要です。書き込み操作を中断するには、SET WRITE SUSPEND コマンドを発行してください。

sqlcode: -1551

SQL1552N データベースが現在 **WRITE SUSPEND** 状態であるため、コマンドが失敗しました。

説明: このコマンドは、データベースの書き込み操作が中断されているときには許可されません。データベースは現在 WRITE SUSPEND 状態です。

ユーザーの処置: 失敗したコマンドが RESTART DATABASE であった場合は、WRITE RESUME オプション指定で RESTART DATABASE コマンドを再発行します。

失敗したコマンドが BACKUP または RESTORE コマンドであった場合は、SET WRITE RESUME FOR DATABASE コマンドを発行します。次に BACKUP または RESTORE コマンドを再発行してください。

sqlcode: -1552

SQL1553N 1 つ以上のデータベースが **WRITE SUSPEND** 状態のため、**DB2** を停止できません。

説明: 書き込み操作が中断されているデータベースはシャットダウンできません。データベースは現在 WRITE SUSPEND 状態です。

ユーザーの処置: SET WRITE RESUME コマンドを発行して、データベースの書き込み操作を再開し、次に db2stop コマンドを再発行してください。

sqlcode: -1553

SQL1580W コード・ページ "**<source-code-page>**" からコード・ページ "**<target-code-page>**" への変換中に、後書きブランクが切り捨てられました。ターゲット・エリアの最大サイズは "**<max-len>**" です。ソース・ストリング長は "**<source-len>**" およびその **16** 進数表示は "**<string>**" でした。

説明: SQL ステートメントの実行中に、コード・ページ変換処理の結果が、ターゲット・オブジェクトの最大サイズより大きなストリングになりました。ブランク文字だけが切り捨てられたために、処理は続行されます。

ユーザーの処置: 出力が予期されていること、および切り捨てが予期しない結果の原因とならないことを確認してください。

sqlcode: 1580

sqlstate: 01004

SQL1581N 表 "**<table-name>**" は付加モードの状態でクラスター化索引をもつことができません。

説明: このエラーが発行された状態が 2 つあります。

- クラスター化索引は表のために存在し、また、ALTER TABLE は付加モードでその表を位置づけるために使用されます。
- 表は付加モードで、CREATE INDEX はクラスター化索引を作成するために使用されます。

ユーザーの処置: クラスター化索引が必要な場合は、表を更新して、付加モードをオフにしてください。付加モードが必要な場合、表の既存のクラスター化索引をドロップしてください。

sqlcode: -1581

sqlstate: 428CA

SQL1582N 表スペース “<tblspace-name>” の PAGESIZE は、表スペースと関連しているバッファークール “<bufferpool-name>” の PAGESIZE と一致しません。

説明: CREATE TABLESPACE ステートメントで指定された PAGESIZE 値は、表スペースと一緒に使用するために指定されたバッファークールのサイズと一致しません。これらの値が一致しなければなりません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: バッファークールのサイズと一致するように PAGESIZE に指定された値を変更するか、またはバッファークールのページ・サイズを一致する値に変更してください。

sqlcode: -1582

sqlstate: 428CB

SQL1583N PAGESIZE 値 “<pagesize>” はサポートされていません。

説明: CREATE BUFFERPOOL または CREATE TABLESPACE ステートメントで指定された PAGESIZE は、サポートされるページ・サイズではありません。サポートされるバージョン 5 のページ・サイズは、4K、8K、16K、と 32K です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: サポートされているページ・サイズから 1 つを指定してください。

sqlcode: -1583

sqlstate: 428DE

SQL1584N 少なくとも “<pagesize>” のページ・サイズを持つシステム一時表スペースが見つかりませんでした。

説明: ステートメントを処理するために、一時表スペースが必要でした。“<pagesize>” またはこ

れより大きいページ・サイズを持つ、使用可能なシステム一時表スペースがありませんでした。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 少なくとも “<pagesize>” のページ・サイズを持つシステム一時表スペースを作成してください。

sqlcode: -1584

sqlstate: 57055

SQL1585N 十分なページ・サイズを持つシステム一時表スペースが存在しません。

説明: 以下に示す条件の 1 つが生じた可能性があります。

1. システム一時表スペースの行の長さが、データベース内で最大のシステム一時表スペースに適用できる制限を超えました。
2. システム一時表スペースに必要な列数が、データベース内で最大のシステム一時表スペースに適用できる制限を超えました。

システム一時表スペースは、そのページ・サイズによって異なります。値は以下のとおりです。

Max Record Length	Max Cols	Page size of temporary table space
-----	-----	-----
1957 bytes	244	2K
4005 bytes	500	4K
8101 bytes	1012	8K
16293 bytes	1012	16K
32677 bytes	1012	32K

ユーザーの処置: 存在しない場合、サポートされているより大きなページ・サイズを持つシステム一時表スペースを作成してください。このような表スペースが存在する場合、いくつかの列をシステム一時表から除去してください。要求されたように、分離する表または視点を作成して、制限を超えた追加情報を保留にしてください。

sqlcode: -1585

sqlstate: 54048

SQL1590N **LONG VARCHAR** および **LONG VARGRAPHIC** フィールドは、**DEVICE** 上にビルドされる **TABLESPACE** では許可されません。

説明: HP 上の装置 (ロー入出力) では、入出力を 1024 バイト境界上に位置合わせする必要があります。LONG VARCHAR および LONG VARGRAPHIC フィールドは 512 バイトごとにハンドルされるので、これを使用できるのは、SYSTEM MANAGED TABLESPACE または FILE コンテナーだけの DATABASE MANAGED TABLESPACE だけです。

ユーザーの処置: 代替:

- LONG の代わりに、LOB 列タイプ (BLOB、CLOB、DBCLOB) を選択してください。
- 正しい属性の表スペースを使用してください。

sqlcode: 1590

sqlstate: 56097

SQL1591N 表 “<table-name>” が正常な状態でないため、**SET INTEGRITY** ステートメントの **ON** オプションが無効です。

説明: ON オプションは検査保留状態の表のみに指定でき、SYSCAT.TABLES の CONST_CHECKED 列の最初 (外部キー制約)、2 番目 (検査制約)、および 5 番目 (要約表) のフィールドが 'Y' または 'U' でなければなりません。

ユーザーの処置: 表が検査保留でない場合は ON オプションを指定しないでください。表が検査保留の場合は、ON オプションとともに SET INTEGRITY ステートメントを実行する前に表の整合性検査 (要約表の場合は表の最新表示) を行ってください。

sqlcode: -1591

sqlstate: 55019

SQL1592N 表 “<table-name>” の増分の処理を行うことができないために、**INCREMENTAL** オプションは無効で、理由コード “<reason-code>” が返されます。

説明: 処置は次のように “<reason-code>” に基づいています。

- 31** REFRESH TABLE ステートメントに INCREMENTAL オプションが指定されている場合は、表が検査保留状態でない。
- 32** 表が REFRESH IMMEDIATE 要約表でない。
- 33** 要約表の場合は、表にロード置換またはロード挿入が発生した。
- 34** 最後の整合性検査後に表にロード置換が発生した。
- 35** 以下のいずれかとなります:
 - 検査保留中に表そのものまたは親 (要約表の場合は基礎表) に新しい制約が追加された。
 - 要約表の場合は、最後の最新表示後に表の基礎表にロード置換が発生した。
 - 要約表の場合は、基礎表のいくつかが最新表示される前に検査保留ではなくなった。
 - 要約表の場合は、基礎表のいくつかロードされた。次に表が最新表示されて、同じ基礎表にいくつかのロードが行われた。
 - 親 (要約表の場合は基礎表) のいくつかの整合性が増分についてではなく検査された。
 - マイグレーション前に、表が検査保留状態にありました。マイグレーション後に、はじめて表が保全性の検査をする時、全処理が必要です。

36 要約表の増分処理が現在サポートされていない。

ユーザーの処置: INCREMENTAL オプションを指定しないでください。システムは制約違反がないかを表全体に渡って検査します (または、要約表の場合は要約表定義照会を再計算します)。

sqlcode: -1592

sqlstate: 55019

SQL1593N 表 “<table-name>” が検査保留状態でないため、REMAIN PENDING オプションが無効です。

説明: REMAIN PENDING オプションを指定するためには、表は検査保留状態でなければなりません。

ユーザーの処置: REMAIN PENDING オプションを指定しないでください。

sqlcode: -1593

sqlstate: 55019

SQL1594W 古いデータがシステムによって検査されないままであり、このため、SYSCAT.TABLES カタログの CONST_CHECKED 列のいくつかのフィールドが 'U' としてマークされています。

説明: 表が以前に検査されていません (またはユーザーによって検査されました)。ステートメント SET INTEGRITY ... OFF または LOAD が後で実行されて、CONST_CHECKED 列のいくつかの値が 'W' に変更されました。INCREMENTAL オプションが現在のステートメントに指定されていると、表の古い (付加されていない) 部分はシステムによって検査されないままになります。これにしたがい、CONST_CHECKED 列の対応する値は 'U' としてマークされます。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。表のデータ保全性がシステムによって維持されること

をユーザーが望む場合は、表を検査保留に戻して INCREMENTAL オプションなしでステートメントを再実行します。システムによって全部の処理が選択されます。それによって、システムが表のデータ保全性に全責任を持ちます。

sqlcode: +1594

sqlstate: 01636

SQL1595N 参照制約の親表が検査されなかったか、要約表の基礎表が検査されていないために、表 “<table-name>” を検査できません。

説明: 整合性検査に違反するかもしれないデータのあるこの表の伝搬を防ぐためには、この表の整合性を検査するためにすべての親が検査されていなければなりません。これが要約表である場合は、この表を最新表示するためにすべての基礎表が検査されていなければなりません。

SYSCAT.TABLES の CONST_CHECKED 列の最初 (外部キー制約)、2 番目 (検査制約)、および 5 番目 (要約表) のフィールドが 'Y' または 'U' のときに、表は検査されます。

ユーザーの処置: すべての親表 (要約表の場合は基礎表) について整合性を検査して、このステートメントを再実行してください。

sqlcode: -1595

sqlstate: 55019

SQL1596N 従属 REFRESH IMMEDIATE 要約表を持つ “<table-name>” に、WITH EMPTY TABLE を指定することはできません。

説明: 少なくとも 1 つの REFRESH IMMEDIATE 要約表の照会で、表 “<table-name>” が参照されています。表を ACTIVATE NOT LOGGED INITIALLY に更新する場合、WITH EMPTY TABLE 文節をこのような従属関係を持つ表に指定することはできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: WITH EMPTY TABLE 文節を ALTER TABLE ステートメントから除去してください。

sqlcode: -1596

sqlstate: 42928

SQL1600 - SQL1699

SQL1601N データベース・システム・モニターの入力パラメーター
“<parameter>” がヌル・ポインタ
ーです。

説明: データベース・システム・モニター API の 1 つが呼び出されましたが、必要なパラメーターではなく、ヌル・ポインタが指定されています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なパラメーターの値を使用して、コマンドを再発行してください。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なパラメーターの値を使用して、コマンドを再発行してください。

SQL1602N 入力データ構造 (sqlma) に指定されたオブジェクト・タイプはサポートされていません。

説明: データベース・システム・モニターの Snapshot API の入力データ構造 (sqlma) の可変データ域に指定されたオブジェクト・タイプは、サポートされていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なオブジェクト・タイプを使用して、コマンドを再発行してください。有効なオブジェクト・タイプの詳細情報については、管理 API 解説書 および アプリケーション開発の手引き を参照してください。

SQL1604N パラメーター “<parameter>” がヌルで終わっていません。

説明: 文字ストリング・パラメーターの終わりには、ヌル文字が必要です。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 文字ストリング・パラメーターの終わりにヌル文字を追加して、コマンドを再発行してください。

SQL1603N パラメーター “<parameter>” が、入力データ構造 (sqlma) に指定されていません。

説明: データベース・システム・モニターの Snapshot または Estimate Buffer Size API の入力データ構造 (sqlma) に、必須パラメーターが指定されていません。

SQL1605W データベース “<db-alias>” が活動状態ではありません。

説明: データベース・システム・モニターの Reset API が、特定のデータベースのために呼び出されましたが、データベースが活動状態ではありませんでした。

コマンドは正常に終了しましたが、何の動作も行われていません。

ユーザーの処置: データベースの別名が正しく、データベースがすでに始動していることを確認してください。

SQL1606W データベース・システム・モニターの出力バッファーがいっぱいです。

説明: データベース・システム・モニターの出力バッファー域には、戻ってきたデータを収容できる十分な大きさがありません。起こりやすい原因は、呼び出しが行われたときのシステム活動が多すぎることにあり、またユーザー・アプリケーションからデータベース・モニター API 呼び出

しが行われた場合は、ユーザーが割り振ったバッファが戻りデータを含むのに小さすぎることにあります。

コマンドは正常に終了し、バッファがオーバーフローする前に集められたデータは、ユーザーのバッファに戻されています。

ユーザーの処置: コマンドを再発行するか、あるいはユーザー・アプリケーションからデータベース・モニター API を呼び出す場合は、もっと大きなバッファを割り振るか、または要求する情報量を減らしてください。

SQL1607N 要求されたデータベース・システム・モニター機能の実行に十分な、作業用メモリーがありません。

説明: データベース・マネージャーが、データベース・システム・モニター・コマンドを実行するには作業メモリーが足りません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 入力パラメーターのバッファ・サイズを減らして、コマンドを再発行してください。

SQL1608W 同一のデータベースを参照する、複数のデータベース別名が指定されました。

説明: データベース・システム・モニターの Snapshot または Estimate Buffer Size API 呼び出しが、sqlma 入力データ構造で、複数のデータベース別名に対する要求を指定して発行され、同じデータベースを指していました。

データベース・システム・モニターは正常に実行されましたが、出力バッファには情報のコピーが 1 つしか返されません。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。ただし、異なるデータベースの情報を要求する場合は、入力に指定したデータベース別名が正しいことを確認する必要があります。

SQL1609N データベース “<db-alias>” はリモート・データベースであり、モニターできません。

説明: データベース・システム・モニター API 呼び出しが、リモート・データベースのデータベース別名を指定して発行されました。データベース・システム・モニターは、リモート・データベースのモニターをサポートしていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 入力に指定したデータベース別名が正しいことを確認し、正しいデータベース別名を使用して、コマンドを実行する必要があります。

SQL1610N データベース・システム・モニターの入力パラメーター “<parameter>” が無効です。

説明: データベース・システム・モニター API の 1 つが呼び出されましたが、示されたパラメーターに無効な値が指定されました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なパラメーターの値を使用して、コマンドを再発行してください。

SQL1611W データベース・システム・モニターからデータが戻されませんでした。

説明: データベース・システム・モニター API 呼び出しが発行された時点で、ユーザーが要求したモニター情報は利用可能ではありませんでした。これは、要求したデータベースまたはアプリケーションが活動状態でなかった場合、あるいは表グループなどのモニター・グループが OFF のときに、表情報が要求された場合に起こります。

ユーザーの処置: コマンドは正常に終了しましたが、ユーザーには何もデータが返されません。

モニターしようとしているデータベースまたはアプリケーションが、データベース・システム・モニター API を呼び出す時点で活動状態であるこ

と、または必要なモニター・グループが活動状態であることを確認する必要があります。

SQL1612N 指定されたイベント・モニターのターゲット・パスが無効です。

説明: CREATE EVENT MONITOR ステートメントに指定されたターゲット・パスが、有効なパス名ではありません。 コマンドは処理されませんでした。

ユーザーの処置: 正しいイベント・モニターのターゲット・パスを使用して、ステートメントの再実行依頼を行ってください。

sqlcode: -1612

sqlstate: 428A3

SQL1613N 指定されたイベント・モニター・オプションが無効です。

説明: CREATE EVENT MONITOR ステートメントに指定されたオプションが無効です。 考えられる理由には、以下があります。

- 指定された MAXFILES、MAXFILESIZE、または BUFFERSIZE が小さすぎます。
- MAXFILESIZE が BUFFERSIZE より小さくなっています。
- MAXFILESIZE NONE が、MAXFILES が 1 以外の場合に指定されました。

コマンドは処理されませんでした。

ユーザーの処置: 正しいイベント・モニター・オプションを使用して、ステートメントの再実行依頼を行ってください。

sqlcode: -1613

sqlstate: 428A4

SQL1614N イベント・モニターを活動化しているときに、入出力エラーが起きました。理由コード = "**<reason-code>**"。

説明: イベント・モニターを活動化しているときに、入出力エラーが起きました。原因は次のように "**<reason-code>**" に基づいています。

- 1 不明なイベント・モニターのターゲット・タイプを見つけました。
- 2 イベント・モニターのターゲット・パスが見つかりませんでした。
- 3 イベント・モニターのターゲット・パスへのアクセスが拒否されました。
- 4 イベント・モニターのターゲット・パスがパイプの名前ではありません。
- 5 読み取りのために、イベント・モニターのターゲット・パイプをオープンしているプロセスがありません。
- 6 予期しない入出力エラーが起きました。
- 7 ターゲット・パイプが、メッセージ・モードでオープンされていません。(この理由コードは、OS/2 のみに適用されません。)
- 8 ターゲット・パイプ・バッファが小さすぎます。インバウンド・パイプ・バッファは、少なくとも 4096 バイトのサイズでなければなりません。(この理由コードは、OS/2 のみに適用されます。)

ユーザーの処置: 可能であれば、理由コードで示されている問題を修正して、SET EVENT MONITOR ステートメントの再実行依頼を行ってください。

sqlcode: -1614

sqlstate: 58030

SQL1615W 指定されたイベント・モニターは、すでに要求された状態にあります。

説明: すでに活動状態のイベント・モニターを活動化しようとしたか、またはすでに非活動状態のイベント・モニターを非活動化しようとした。SET EVENT MONITOR ステートメントは無視されました。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

sqlcode: +1615

sqlstate: 01598

SQL1616N 活動イベント・モニターの最大数の制限に、すでに達しています。

説明: 1 つのデータベースごとに、最大 32 のイベント・モニターを同時に活動状態にすることができます。この制限にすでに達しています。指定されたイベント・モニターは活動化できません。

ユーザーの処置: 可能であれば、活動イベント・モニターの 1 つを非活動化して、SET EVENT MONITOR ステートメントを再実行依頼してください。

sqlcode: -1616

sqlstate: 54030

SQL1617N 指定されたイベント・モニターは、すでに **MAXFILES** と **MAXFILESIZE** 制限に達していません。

説明: 指定されたイベント・モニターは、イベント・モニターのターゲット・ディレクトリーに許されるデータ容量の制限を使用して作成されています。この制限にすでに達しています。指定されたイベント・モニターは活動化できません。

ユーザーの処置: 可能であれば、いくつかのイベント・モニター・データ・ファイルをターゲット・ディレクトリーから削除して、SET EVENT MONITOR ステートメントの再実行依頼を行ってください。

sqlcode: -1617

sqlstate: 54031

SQL1618N 指定されたイベント・モニターのターゲット・パスは、他のイベント・モニターで使用中です。

説明: 指定されたイベント・モニターが、他のイベント・モニターと同じターゲット・パスを使用して、作成されています。この別のイベント・モニターは少なくとも 1 回は活動化され、ターゲット・パスに .evt または .ctl ファイル、あるいはその両方を残しています。これらのファイルは、入っている通知を読み取っているアプリケーションによって使用中である可能性があります。

ユーザーの処置: ほかのイベント・モニターが現在活動中の場合は、非活動化にしてください。アプリケーションが、ターゲット・パスで作成されたファイルを使用していないことを確認してから、ファイルを除去して、SET EVENT MONITOR ステートメントを再実行してください。

または、異なるターゲット・パスを指定して必要なイベント・モニターを作成し、SET EVENT MONITOR ステートメントの再実行依頼を行ってください。

sqlcode: -1618

sqlstate: 51026

SQL1619N 活動イベント・モニターは **DROP** できません。

説明: 指定されたイベント・モニターは現在活動状態のため、ドロップすることができません。

ユーザーの処置: イベント・モニターを非活動化して、DROP EVENT MONITOR ステートメントの再実行依頼を行ってください。

sqlcode: -1619

sqlstate: 55034

SQL1620N イベント・モニターをフラッシュできません。理由コード “<rc>”

説明: イベント・モニターをフラッシュできませんでした。考えられる理由は以下のとおりです。

1. イベント・モニターが開始されていない。
2. イベント・モニターはバージョン 6 よりも前の出力で実行されていて、フラッシュが使用可能ではない。

ユーザーの処置: イベント・モニターが開始されていることを確認してください。イベント・モニターがバージョン 6 よりも前の出力で実行されている場合は、フラッシュを試みないでください。

sqlcode: -1620

sqlstate: 55034

SQL1621N 指定されたイベント・モニターが作成されたトランザクションは、まだコミットされていません。イベント・モニターは活動化できません。

説明: イベント・モニターが作成されたトランザクションがコミットされるまで、そのイベント・モニターは活動化できません。

ユーザーの処置: イベント・モニターを作成したトランザクションをコミットして、SET EVENT MONITOR ステートメントの再発行を行ってください。

sqlcode: -1621

sqlstate: 55033

SQL1622N SET EVENT MONITOR STATE ステートメントに指定された STATE 値が無効です。

説明: SET EVENT MONITOR STATE ステートメントに指定された STATE 値が、有効な値の範囲外か、または値が、標識変数の結果としてヌルになっています。

Event Monitor State の有効な値は、以下のとおりです。

- 0 イベント・モニターを非活動化します。
- 1 イベント・モニターを活動化します。

ステートメントは処理されません。

ユーザーの処置: event monitor state の値と標識変数の両方、またはいずれかを訂正して、ステートメントを再実行してください。

sqlcode: -1622

sqlstate: 42815

SQL1623N sqlma 入力構造に指定されたオブジェクトが多すぎる sqlmonsz または sqlmonss API が呼び出されました。

説明: sqlma 入力構造に許されているオブジェクト数の制限を超えました。

ユーザーの処置: sqlma パラメーターのオブジェクト数を減らして、もう一度呼び出しを行ってください。

SQL1624N sqlmonsz または sqlmonss API が参照するすべてのデータベースは、同じノードに位置する必要があります。

説明: sqlma パラメーターに、別のノードに存在するデータベースに対する参照が入っていました。

ユーザーの処置: すべてのデータベース・オブジェクトが同じノードを参照するように、sqlma パラメーターを修正して、もう一度呼び出しを行ってください。

SQL1625W このモニターはコード・ページ "`<source>`" からコード・ページ "`<target>`" へ変換できません。この変換は、タイプ "`<type>`" に付随するデータに対して試行されました。

説明: 次が使用可能なタイプです。

1. ステートメント・テキスト
2. dcs アプリケーション
3. アプリケーション
4. 表
5. ロック
6. 表スペース

ソース・コード・ページからターゲット・コード・ページへの変換はサポートされていません。このエラーは、以下の状態で起きる可能性があります。

1. ソースとターゲット・コード・ページの組み合わせを、データベース・マネージャーがサポートしていません。
2. ソースとターゲット・コード・ページの組み合わせは、サーバー・ノードのオペレーティング・システム文字変換ユーティリティによってサポートされていません。

モニター・アプリケーションのコード・ページに互換性があるコード・ページのデータベースに関連するデータの変換をモニターが試行するときこの状態が発生する可能性があります。

ユーザーの処置: サポートされている変換機能のリストについては、オペレーティング・システムの資料をチェックし、適切な変換機能がインストールされておりデータベース・マネージャーに対してアクセス可能なことを確認してください。

可能ならば、モニターされているデータベースとモニター・アプリケーションが同じコード・ページにあることを確認してください。

SQL1626W コード・ページ "`<source>`" からコード・ページ "`<target>`" への変換中にオーバーフローが発生しました。ターゲット域の最大サイズは "`<max-len>`" です。タイプ "`<type>`" に関連するデータおよび最初の 8 文字は "`<data>`" です。

説明: 次が使用可能なタイプです。

1. ステートメント・テキスト
2. dcs アプリケーション
3. アプリケーション
4. 表
5. ロック
6. 表スペース

モニターは、表制約のためデータを変換できません。このデータはそのオリジナル形式に保存されています。

ユーザーの処置: 可能ならば、モニターされているデータベースとモニター・アプリケーションが同じコード・ページにあることを確認してください。

SQL1627W スナップショット api 要求が自己記述データ・ストリーム・レベルで出されましたが、サーバーは固定サイズ構造形式のスナップショットのみしか返せませんでした。

説明: スナップショット要求を発行するアプリケーションが `SQLM_DBMON_VERSION6` 以降のレベルで要求を出したのに対して、スナップショットを返すサーバーはデータの低レベルの視点を返しました。

ユーザーの処置: スナップショットの自己記述データ形式 (DB2 バージョン 6 以降) では、収集情報は、サーバー・レベルを含めて、スナップショット・データ・ストリームの一部として返されます。DB2 のバージョン 6 よりも前のレベルでは、スナップショット収集情報は `sqlm_collected`

構造で返されます。このスナップショット・データ・ストリームを解析するためには、`sqlm_collected` 構造と古いデータ・ストリーム処理方式を使用しなければなりません。

SQL1628W 出力バッファがいっぱいなので、リモートのスイッチ獲得操作が結果の一部だけを返しました。結果をすべて取り出すには、最小バッファ・サイズ “<size>” バイトを使用してください。

説明: 与えられた出力バッファは、スイッチ・データをすべて返すために十分な大きさではありませんでした。モニターは、この出力バッファによって可能なだけのデータを返しました。

ユーザーの処置: より大きなデータ・バッファを割り振ってから、スイッチ要求を出し直してください。

SQL1629W リモートのスナップショット操作がノード “<node-list>” で失敗しました。理由コード “<reason-list>”

説明: 以下のいずれかの理由 <reason-code> で、リモート・ノードでの操作中に障害が起きました。

- 1 ノード障害または通信エラーのため、FCM がターゲット・ノードと通信を行うことができませんでした。
- 2 スナップショット操作がターゲット・ノードで完了しませんでした。特定の `sqlca` については `db2diag.log` を参照してください。

ユーザーの処置: エラーの原因がノード障害または通信エラーであれば、その通信エラーを解決するか、またはエラーを訂正できなかったノードを再始動する必要があります。

エラーの原因がリモート・ノードでのスナップショット操作エラーであれば、失敗した操作による `sqlca` について `db2diag.log` を調べ、そのコードに

ついでにの指示を参照して問題を訂正してください。

SQL1650N 呼び出された関数は、すでにサポートされていません。

説明: このバージョンのデータベース・マネージャーではすでにサポートされていない API を呼び出そうとしました。

ユーザーの処置: 必要な関数は、別の API 呼び出しでサポートされている可能性があります。関数が別の API 呼び出しでサポートされているかどうかを判別するには、*管理 API 解説書* および *アプリケーション開発の手引き* を参照してください。

SQL1651N DB2 サーバーのバージョンがこの機能をサポートしていないため、この要求を実行できません。

説明: 新規機能のいくつかは、古い DB2 サーバーのバージョンに対してサポートされていません。また、このエラーの原因として、サーバー・バージョンがサポートしていない長さの修飾子を持つ参照オブジェクトの要求も考えられます。

ユーザーの処置: 最新 DB2 サーバー・バージョンがインストールされている、またはサーバーが最新 DB2 サーバー・バージョンにアップグレードされている DB2 サーバーに対し、要求を実行してください。

SQL1652N ファイル入出力エラーが発生しました。

説明: ファイルのオープン、読み取り、書き込みまたはクローズのいずれかでエラーが発生しました。

ユーザーの処置: 詳細については `db2diag.log` をチェックしてください。また、ディスク・フル条件、ファイル許可およびオペレーティング・システム・エラーもチェックしてください。

SQL1653N 無効なプロファイル・パスが指定されました。

説明: 生成されるサーバー情報があるファイルへの全パスを指定しなくてはなりません。

ユーザーの処置: 指定されたプロファイル・パスが正しく、ヌルでないことを確認してください。

SQL1654N インスタンス・パスのエラーを検出しました。

説明: インスタンス・パスを戻すことができませんでした。

ユーザーの処置: DB2INSTANCE パスが正しく指定されているかを確認してください。指定された完全なパスの長さが、オペレーティング・システムによってサポートされている最大長に近くないかをチェックしてください。

SQL1660N サーバー情報を収集するためにディスカバリーで使用するサーバーのジェネレーターが失敗しました。

説明: サーバー・システム障害が起きました。

ユーザーの処置: この障害を DB2 サーバー管理担当者に報告してください。障害の詳細は、サーバーの db2diag.log ファイルにあります。

SQL1670N DISCOVER 構成パラメーターデータベース・マネージャーで指定された発見タイプが、発見が使用不可であると示しています。

説明: DISCOVER データベース・マネージャー構成ファイルの DISABLE 値が無効です。

ユーザーの処置: DISCOVER 機能が要求される場合、発見タイプを KNOWN または SEARCH に変更してください。

SQL1671N 検索ディスカバリー要求が失敗しました。詳細については db2diag.log をチェックしてください。

説明: 次のいずれかの理由で、検索ディスカバリー要求が失敗しました。

1. 初期化の失敗
(sqlcCommonInitializationForAPIs)
2. クライアント・インスタンス・パスを検索できない (sqlinstancepath)
3. 出力ファイルのオープンができない (sqlofopn)
4. 出力ファイルへの書き込みができない (sqlofprt)
5. メモリーを獲得できない (sqlogmbblk)
6. データベース・マネージャー構成を検索できない (sqlfcsys)
7. NetBIOS 呼び出しが失敗した
8. DB2 内部システム機能が失敗した (sqlogpid, sqlogmt)

詳細については db2diag.log をチェックしてください。

ユーザーの処置:

1. 初期化が失敗した場合、マシンのリポートか製品の再インストールをしてください。
2. インスタンス・パスの障害の場合、DB2INSTANCE の値が正しく設定されているか確認してください。
3. ファイルのオープンあるいは書き込みができない場合、Intel マシンの場合は <sqllib path>%<instance>%tmp ディレクトリーに、UNIX マシンの場合は <instance path>/sqllib/tmp ディレクトリーにあるファイルのオープンおよび書き込みを行うためのアクセスがあるかどうか、調べてください。
4. メモリー獲得の失敗の場合、マシンの使用可能メモリーを調べてください。

5. DBM 構成検索が失敗した場合、マシンのリブートか製品の再インストールをしてください。
6. NetBIOS 呼び出しが失敗した場合は、次のようにしてください。
 - Add Name が戻りコード 13 で失敗した場合、DBM 構成で構成されている nname がネットワーク上の、別の DB2 クライアント / サーバーの構成に使用されていないか、調べてください。
 - NetBIOS が適切にインストールされて、正しく機能しているか調べてください。
 - 問題に応じてネットワークを調べてください。
7. DB2 内部システム機能が失敗した場合、マシンのオペレーティング・システム機能が正しく機能しているか、調べてください。

DB2 サービスは、上記の機能から返され、db2diag.log に書き込まれているエラー・コードに関する詳細を提供することができます。

SQL1673N インターフェースを発見するのに入力として指定されたアドレス・リストが無効です。

説明: このアプリケーション・プログラムは無効な入力アドレス・リスト・ポインターを使用しました。このアドレス・リストは何も指していません。

ユーザーの処置: 有効なアドレス・リスト・ポイ

SQL1700 - SQL1799

SQL1700N データベースのマイグレーション中に、予約済みスキーマ名 "<name>" がデータベースで見つかりました。

説明: データベースに、現在のデータベース・マネージャーによって予約されているスキーマ名 "<name>" を使用する、1 つ以上のデータベース・オブジェクトが入っています。

インターがこのアプリケーション・プログラムに指定され、ヌル値でないことを確認してください。

SQL1674N インターフェースを発見するのに入力として指定されたサーバー・アドレスが無効です。

説明: このアプリケーション・プログラムは無効な入力サーバー・アドレス・ポインターを使用しました。このサーバー・アドレスは何も指していません。

ユーザーの処置: 有効なサーバー・アドレスがこのアプリケーション・プログラムに指定され、ヌル値でないことを確認してください。

SQL1675N 検索機能は DB2 管理サーバーに対してのみ使用できます。与えられた通信情報は管理サーバーにアクセスしていません。

説明: KNOWN 検索要求は DB2 管理サーバーでない DB2 サーバーに対して発行されました。指定の通信情報が間違っています。

ユーザーの処置: DB2ADMINSERVER がアクセス中の DB2 サーバー・インスタンスに設定されているか検証してください。このインスタンスは、サーバー・インスタンスが DB2 管理サーバーであることを示します。正しい通信情報を指定して KNOWN 検索要求を再試行してください。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 予約済みスキーマ名を使用するすべてのデータベース・オブジェクトがドロップされていることを確認し、別のスキーマ名を使用して、オブジェクトを再作成してください。この修正は、データベースが最初に作成されたりリースのデータベース・マネージャーで行う必要があります。もう一度マイグレーションを行う前

に、予約済みスキーマ名が使用されていないことを確認してください。その後で、現在のリリースのデータベース・マネージャーを使用して、database migration コマンドを再発行してください。

SQL1701N 最後のセッションが異常終了したために、データベースは移行できません。

説明: 最後のデータベース操作が、前のデータベース・マネージャーの下で、異常終了 (たとえば、電源障害) しました。データベースが再始動されるまでは、データベースのマイグレーションを行うことはできません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: データベースを再始動する必要があります。データベースが最後にアクセスしたリリースのデータベース・マネージャーを使用する RESTART DATABASE コマンドを実行する必要があります。その後で、現在のリリースのデータベース・マネージャーを使用して、database migration コマンドを再発行してください。

SQL1702W “<protocol>” 接続マネージャーが、正常に始動しました。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL1703W データベースのマイグレーション中は、db2event ディレクトリーを作成することはできません。

説明: データベースは正常にマイグレーションされましたが、db2event ディレクトリーは作成できませんでした。

これは警告です。

ユーザーの処置: イベント・モニターを使用する場合は、db2event ディレクトリーを作成する必要があります。db2event ディレクトリーは、マイグレーション済みデータベースが常駐するデータベース・ディレクトリーに作成する必要があります。

す。マイグレーション済みデータベースのデータベース・ディレクトリーは、LIST DATABASE DIRECTORY を呼び出すことによって判別できます。

SQL1704N データベースのマイグレーションが失敗しました。理由コードは “<reason-code>”。

説明: データベースのマイグレーションが失敗しました。理由コードは以下のとおりです。

- 1 無効なスキーマ名が見つかりました。
- 2 データベースがマイグレーション可能ではありません。データベースが、以下のいずれかの状態であった可能性があります。
 - バックアップ保留状態
 - ロールフォワード保留状態
 - トランザクション不整合状態
- 3 データベース・ログがいっぱいです。
- 4 ディスク・スペースが足りません。
- 5 データベース構成ファイルを更新できません。
- 6 データベースを再配置できません。
- 7 データベース・サブディレクトリーまたはデータベース・ファイルのいずれかにアクセスできません。
- 8 データベース・コンテナ・タグを更新できません。
- 9 表スペースのアクセスは使用できません。
- 10 無効なタイプ名が見つかりました。
- 11 構造化タイプと関数の名前が同じです。
- 12 構造化タイプ / 表に無効な属性があります。
- 13 構造化タイプが見つかりました。

- 14 表に無効な 1 次キーがあるか、またはユニーク制約があります。
- 15 表には、REF IS 列の固有索引がありません。
- 16 表がログ記録されていないか、ファイルリンク制御を使用した DATALINK 列があります。
- 17 DMS システム・カタログ表スペースから新規ページを割り振ることができません。

ユーザーの処置: 理由コードに基づいた解決策は、以下のとおりです。

- 1 予約済みのスキーマ名は SYSIBM、SYSCAT、SYSSTAT、および SYSFUN です。これらのスキーマ名を 1 つ以上使用するすべてのデータベース・オブジェクトがドロップされていることを確認し、別のスキーマ名を使用して、オブジェクトを再作成してください。この修正は、現在のリリースの前に使用していたリリースのデータベース・マネージャーで行う必要があります。現在のリリースの下で、database migration コマンドを再発行してください。
- 2 現在のリリースの前に使用していたリリースのデータベース・マネージャーに戻ることによって、データベースの状態を訂正して、データベースに必要な訂正処置を実行してください。現在のリリースの下で、database migration コマンドを再発行してください。
- 3 データベース構成パラメーター *logfilesiz* または *logprimary* を大きな値に増やしてください。データベース・マイグレーション・コマンドを再発行してください。
- 4 十分なディスク・スペースがあることを確認して、database migration コマンドを再発行してください。

- 5 データベース構成ファイルも更新に問題がありました。データベース構成ファイルが他のユーザーによって排他的に保持されておらず、更新可能であることを確認してください。データベース・マイグレーション・コマンドを再発行してください。問題が続く場合は、IBM 技術員に連絡してください。
- 6 データベース・バックアップからデータベースを復元してください。
- 7 データベース・バックアップからデータベースを復元してください。
- 8 データベース・マイグレーション・コマンドを再発行してください。問題が続く場合、IBM サービス担当者に連絡してください。
- 9 現在のリリースの前に使用していたリリースのデータベース・マネージャーに戻ることによって、表スペースを訂正してください。表スペースの訂正に必要な処置についてはメッセージ SQL0290N を参照してください。
- 10 タイプ名がシステムで予約済みです。タイプと、そのタイプを使用するデータベース・オブジェクトがドロップされ、予約済みではないタイプ名を使用して再作成されたことを確認してください。この修正は、現在のリリースの前に使用していたリリースのデータベース・マネージャーで行う必要があります。現在のリリースの下で、database migration コマンドを再発行してください。
- 11 同じスキーマに所属する構造化タイプと関数 (引き数なし) を同じ名前にすることはできません。タイプまたは関数と、タイプまたは関数を使用するデータベース・オブジェクトがドロップされて、別の名前を使用して再作成されたことを確認してください。この修正は、現在のリリースの前に使用していたリリースの

データベース・マネージャーで行う必要があります。現在のリリースの下で、database migration コマンドを再発行してください。

- 12 属性がデフォルトを持つか、長い varchar または長い vargraphic として定義されているか、またはヌル制約を備えています。属性はドロップされ、CREATE TYPE ステートメントの属性定義規則に従って再びタイプに追加される必要があります。
- 13 データベース・バックアップからデータベースを復元してください。すべての構造化タイプ (タイプ付き表、タイプ付き視点などの関連オブジェクト) をドロップします。データベース・マイグレーション・コマンドを再発行してください。
- 14 表に、1 次キーまたはユニーク制約によって、誤って使用された索引があります。索引を使用している 1 次キーまたはユニーク制約をドロップしてください。これは、現行リリースの前に、使用されたデータベース・マネージャーのリリースで実行してください。現行リリースでデータベース・マイグレーション・コマンドを実行依頼し、次に 1 次キーまたはユニーク制約を再作成します。
- 15 現行リリースの前に、使用されたデータベース・マネージャーのリリースを使用して、入力表の REF IS 列にある固有索引を作成してください。現在のリリースの下で、database migration コマンドを再発行してください。
- 16 表をドロップして、ログ記録されていないプロパティなしで、表を作成します。これは、現行リリースの前に、使用されたデータベース・マネージャーのリリースで実行してください。現在のリ

リースの下で、database migration コマンドを再発行してください。

- 17 前のデータベース・マネージャー・システムに、データベース・バックアップを復元してください。表スペースにさらにコンテナを追加してください。データベースのマイグレーション用に 70% のフリー・スペースを割り振らなければなりません。現行リリースに戻ってから、データベースをマイグレーションします。

SQL1705W データベース・ディレクトリー項目を、現在のリリース・レベルに更新できません。

説明: 1 つ以上のデータベース別名が、前のリリースからマイグレーションされたばかりのデータベースのデータベース・ディレクトリーで更新できませんでした。

ユーザーの処置: マイグレーション済みデータベースのデータベース別名をアンカタログし、同じ情報を使用してデータベース別名を再カタログしてください。

SQL1706W ワード・サイズ・インスタンス・マイグレーション中に、このインスタンスのノード・ディレクトリーでローカルではないデータベースが少なくとも 1 つ見つかりました。

説明: ワード・サイズ・インスタンス・マイグレーションの実行中、このインスタンスで作成されていないデータベースが少なくとも 1 つ見つかりました。マイグレーションを正しく完了するには、このようなデータベースが、このインスタンスと同じワード・サイズを持っていないければなりません。

ユーザーの処置: インスタンスでカタログされたデータベースがすべて、同じワード・サイズを持つようにしてください。

SQL1707N インスタンス・ワード・サイズを移行できません。

説明: インスタンスのワード・サイズをマイグレーションしようと試みているときに、エラーがありました。IBM サービス技術員に連絡してください。

ユーザーの処置: IBM サービス技術員に連絡してください。

SQL1708W データベース・マイグレーションが完了しましたが、警告コード“<warning-code>”が出されています。

説明: データベースのマイグレーションが完了しましたが、警告があります。警告コードは次のとおりです。

1 いくつかのノードをマイグレーションできなかった

ユーザーの処置: 警告コードに基づく解決方法:

1 db2diag.log ファイルをチェックして、マイグレーションに失敗したノードを判別してください。そのノードに対してデータベース・マイグレーション・コマンドを出し直してください。

SQL1749N NOT LOGGED INITIALLY 属性は、NOT LOGGED INITIALLY と一緒に作成されていないため、表“<table-name>”に対して活動化されません。

説明: 表“<table-name>”が指定された NOT LOGGED INITIALLY 属性と一緒に作成されなかったため、この属性は ALTER TABLE を使用して活動化できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: NOT LOGGED INITIALLY 文節を ALTER TABLE ステートメントから除去してください。

sqlcode: -1749

sqlstate: 429AA

SQL1750N 外部キーは NOT LOGGED INITIALLY 文節で作成された親キーの表“<table-name>”を参照できません。

説明: NOT LOGGED INITIALLY 文節で作成された表は外部キーで参照できません。

ユーザーの処置: ALTER または CREATE TABLE ステートメントの“<table-name>”へ外部キーを除去してください。

sqlcode: -1750

sqlstate: 429A0

SQL1751N ノード・グループの結果に区分化マップで使用可能なノードが入っている可能性があります。

説明: ノード・グループには、少なくとも 1 つは区分化マップで使用可能なノードが入っていません。ノードが ノード・グループ WITHOUT TABLESPACES に追加される場合、そのノードにノード・グループで定義された表スペース用のコンテナがないため、区分化マップ内にこのノードを組み込むことはできません。ノードがほかのノードに追加され、ほかのノードにノード・グループの表スペース用のコンテナがない場合は、ノードを区分化マップに組み込むことができます。

ユーザーの処置: 少なくとも 1 つのノードも追加しないで、すべてのノード・グループのノードをドロップしないでください。表スペースがノード・グループにすでに定義されているが表がない場合、少なくとも 1 つのノードがすべての表スペースに入っていることを確認してください。

sqlcode: -1751

sqlstate: 428C0

SQL1752N この表スペースをノード・グループ “<ngname>” で作成できません。

説明: 表スペースがシステム一時表スペースの場合のみ、ノード・グループ IBMTEMPGROUP を指定できます。

ユーザーの処置: システム一時表スペースの場合、ノード・グループ IBMTEMPGROUP を指定してください。そのほかの表スペースの場合、IBMTEMPGROUP 以外のノード・グループを指定してください。

sqlcode: -1752

sqlstate: 429A1

SQL1753N ノード “<node-number>” には、ノード・グループ **IBMTEMPGROUP** に定義されたすべてのシステム一時表スペースのコンテナがありません。

説明: ノードが、このデータベースのノード・グループ IBMTEMPGROUP に定義されている、すべてのシステム一時表スペースにコンテナを定義していなければ、そのノードをノード・グループに組み込むことはできません。

ユーザーの処置: ALTER TABLESPACE ステートメントを発行し、このデータベースのシステム一時表スペースのノードごとにコンテナを追加してください。

sqlcode: -1753

sqlstate: 57052

SQL1754N この索引表スペースまたはログ表スペースが 1 次表スペースと同じノード・グループ内にありません。

説明: CREATE TABLE ステートメントで指定されたすべての表スペースは、同じノード・グループに属していなくてはなりません。

ユーザーの処置: CREATE TABLE ステートメントで指定されたすべての表スペースは、同じノード・グループに属していることを確認してください。

ド・グループに属していることを確認してください。

sqlcode: -1754

sqlstate: 42838

SQL1755N ノード “<node-number>” は、ノード・グループ “<ngname>” で定義されたすべての表スペースのコンテナを持っていません。

説明: ノードは、ノードがノード・グループの再配布操作に組み込まれる前に、ノード・グループで定義されたすべての表スペースを定義したコンテナがなくてはなりません。

ユーザーの処置: ALTER TABLESPACE ステートメントを発行し、このノード・グループで定義されたすべての表スペース用のノードのコンテナを追加してください。

SQL1756N 複数の文節は、**ON NODES** 文節を使用せずにコンテナを指定します。

説明: CREATE TABLESPACE の場合、ON NODES 文節を使用しない USING 文節を一度のみ指定できます。

ALTER TABLESPACE の場合、ON NODES 文節を使用しない ADD 文節を一度のみ指定できます。

このステートメントは処理されませんでした。

ユーザーの処置: ステートメントを訂正して、もう一度やり直してください。

sqlcode: -1756

sqlstate: 428B1

SQL1757N **ON NODES** 文節を使用しない **USING** 文節がなくなっています。

説明: CREATE TABLESPACE ステートメントで、各 USING 文節が ON NODES 文節を指定し

ます。しかし、すべてのノードがノード・グループに組み込まれていない場合、すべてのノード・グループはコンテナがありません。

このステートメントは処理されません。

ユーザーの処置: ON NODES 文節を使用しない USING 文節が指定されているまたは、ノード・グループの各ノードが一回 ON NODES 文節に組み込まれているかを確認してください。

sqlcode: -1757

sqlstate: 428B1

SQL1758W 特定ノードに指定されていないコンテナは、ほかのノードの表スペースで使用されません。

説明: ALTER TABLESPACE および CREATE TABLESPACE ステートメントには、このノード・グループのすべてのノードに対するコンテナ指定が組み込まれています。ON NODES 文節が後に続かないコンテナの指定は、冗長であるため無視されています。

このステートメントは処理されていません。

ユーザーの処置: 複数ノードでコンテナが必要な場合、ALTER TABLESPACE ステートメントを発行し、必要なコンテナを追加してください。

sqlcode: -1758

sqlstate: 01589

SQL1759W 再配布されたノード・グループはノード・グループ “<nodegroup-name>” のオブジェクトの区分化データを変更し、複数ノードを追加して組み込みまたはドロップしてドロップする必要があります。

説明: この警告は ALTER NODEGROUP または ALTER TABLESPACE ステートメントを使用する変更が、変更されるノード・グループのマップ

の区分化の原因になっていないことを示しています。ノード・グループの区分化マップを、ノード・グループで定義された表スペースまたは区分化マップにないドロップされるノードを使用して定義された表がない場合、次のステートメントで即時に変更のみします。

この警告は次の場合に発行されます。

- 1 つまたは複数のノードが ALTER NODEGROUP ADD NODE を使用して追加された
- 1 つまたは複数のノードが ALTER NODEGROUP DROP NODE を使用してドロップされた
- コンテナが表スペースに対して追加され、それ以降コンテナは使用されるノードは要求されません。

これらのすべての場合、表はすでにノード・グループ内の表スペースを使用して定義されています。

ユーザーの処置: データ区分化のためにノードを組み込みまたは除外したい場合、REDISTRIBUTE NODEGROUP コマンドまたは API を発行してください。それに代わる方法として、すべての表をドロップするには、ノード・グループの表スペースを使用してください。

sqlcode: +1759

sqlstate: 01618

SQL1760N ストアド・プロシージャ “<procedure-name>” に対する CREATE ステートメントは有効な LANGUAGE 文節、EXTERNAL 文節および PARAMETER STYLE 文節を持っていなければなりません。

説明: プロシージャ “<procedure-name>” の CREATE に、必須の文節がありません。LANGUAGE、EXTERNAL および PARAMETER STYLE を指定しなければなりません。

ユーザーの処置: 足りない文節を追加した後で、もう一度やり直してください。

sqlcode: -1760

sqlstate: 42601

SQL1761N ノード・グループ “<nname>” がバッファ・プール “<bpname>” に定義されていません。

説明: 表スペースのノード・グループがバッファ・プールに定義されていません。表スペースは、このノード・グループとバッファ・プールの組み合わせを使用するために作成したり更新したりできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 可能な処置は以下のとおりです。

- 表スペースのノード・グループを定義しているバッファ・プールを指定する
- バッファ・プールを更新して表スペースのノード・グループを追加する
- CREATE TABLESPACE の場合、バッファ・プールに定義されているノード・グループを指定する

sqlcode: -1761

sqlstate: 42735

SQL1762N アクティブ・ログ・ファイルに割り振るだけの十分なスペースがないため、データベースに接続することができません。

説明: アクティブ・ログ・ファイルに割り振るだけの十分なスペースがありません。

ユーザーの処置: LOGPRIMARY または LOGFILSIZ データベース構成パラメーター、あ

るいはこの両方の値を減らして、アクティブ・ログ・ファイルの設定を小さくして使用するようしてください。

SQL1763N ALTER TABLESPACE ステートメントに、複数のコンテナー処置があります。

説明: ALTER TABLESPACE ステートメントに、複数のタイプのコンテナー処置 (ADD、EXTEND、RESIZE) があります。1 つの ALTER TABLESPACE ステートメントでは、1 つのタイプの処置のみしか指定できません。しかし、ステートメント内の異なるコンテナーで同じ処置を複数回指定することはできます。

ユーザーの処置: ALTER TABLESPACE ステートメントでは、1 つのタイプのコンテナー処置のみを指定してください。

sqlcode: -1763

sqlstate: 429BC

SQL1764N ALTER TABLESPACE で、RESIZE 処置用に指定されたサイズが、現在の表スペースの大きさより小さくなっています。

説明: ALTER TABLESPACE ステートメントの RESIZE 処置を使用して指定したサイズが、現在の表スペースの大きさより小さくなっています。コンテナーのサイズのみを大きくすることができます。

ユーザーの処置: 表スペース・コンテナーの現在のサイズの値よりも大きなサイズを指定してください。

sqlcode: -1764

sqlstate: 560B0

SQL1800 - SQL1899

SQL1800N 構造体 `sqlc_request_info` の無効なポインターがカタログ管理コマンド/API に渡されました。

説明: 構造体 `sqlc_request_info` へ渡されたポインターはカタログ管理コマンド/API として無効です。クライアント構成援助要求のためには、このポインターはヌルであってはなりません。

ユーザーの処置: 有効なポインターを `sqlc_request_info` に指定し、コマンドを再実行依頼してください。

SQL1801N 無効な要求タイプです。

説明: 指定された要求タイプはこのコマンドでサポートされていません。

ユーザーの処置: この要求タイプが、次のサポートされている要求タイプの 1 つであることを確認してください。

1. `SQLC_CCA_REQUEST` - CCA カタログ・ノードはカタログに対して要求し、走査コマンドをオープンします
2. `SQLC_DAS_REQUEST` - DAS カタログ・ノードはカタログに対して要求し、走査コマンドをオープンします
3. `SQLC_CND_REQUEST` - CCA および DAS カタログ項目の走査コマンドをオープンします

SQL1802N この要求タイプに属する項目がありません。

説明: 提供された要求タイプによってカタログ化されたノード・ディレクトリーの項目がありません。

ユーザーの処置: 同じ要求タイプを使用して項目をカタログ化し、コマンドを再実行依頼してください。

SQL1803N 要求された操作は、“パッケージ・ロックなし” モードでは実行されません。影響を受けるパッケージは “<package-name>” です。

説明: データベース・マネージャーは、現在 “パッケージ・ロックなし” モードで作動しています。このモードは、`DB2_NO_PKG_LOCK` レジストリー環境変数を “ON” に設定して活動状態となっています。

このモードでは、次のクラスの操作は、パッケージでの影響のために実行できなくなります。

- パッケージを無効にする操作
- パッケージを作動不能にする操作
- パッケージのバインド、再バインド (明示的あるいは暗黙的) またはドロップ

要求された操作で、この 3 つの方法のいずれかでパッケージ “<package-name>” に影響があったために、操作は認められません。

ユーザーの処置: “パッケージ・ロックなし” モードで許可されない操作を実行しないでください。要求された操作を実行するには、“パッケージ・ロックなし” モードを終了する必要があります。これは、`DB2_NO_PKG_LOCK` 環境レジストリー変数の設定を解除することで実行されます。変数の変更を有効にするには、データベース・マネージャーを一度停止して、再始動してください。

sqlcode: -1803

sqlstate: 57056

SQL1816N ラッパー “<wrapper-name>” は、
連合データベースに定義を試みている
データ・ソース
 (“<server-type>”
 “<server-version>”) の
 “<type-or-version>” にアクセスす
 るために使用できません。

説明: 指定したラッパーは、定義したいデータ・
ソースのタイプまたはバージョンをサポートして
いません。

ユーザーの処置: 資料を調べて、そのデータ・ソ
ースのタイプおよびバージョンをサポートするラ
ッパーを見つけてください。 CREATE
WRAPPER ステートメントによって、ラッパーは
連合データベースに登録されていなければなりま
せん。そのラッパーが指定されるよう CREATE
SERVER ステートメントを再コーディングし、も
う一度 CREATE SERVER ステートメントを実行
してください。

sqlcode: -1816

sqlstate: 560AC

SQL1817N CREATE SERVER ステートメン
トは、連合データベースに定義した
いデータ・ソースの
 “<type-or-version>” を識別してい
ません。

説明: 指定したラッパーを CREATE SERVER
ステートメントが参照している場合、そのステ
ートメントは、連合データベースに定義されるデ
ータ・ソースの “<type-or-version>” を識別していな
ければなりません。

ユーザーの処置: CREATE SERVER ステートメ
ントで、定義されるデータ・ソースの
 “<type-or-version>” が指定されるよう、
 “<type-or-version>” オプションをコーディングし
てください。その後、もう一度 CREATE
SERVER ステートメントを実行してください。

sqlcode: -1817

sqlstate: 428EU

SQL1818N 実行依頼した ALTER SERVER ス
テートメントを処理できませんでした。

説明: ALTER SERVER ステートメントが参照し
ているデータ・ソース (またはデータ・ソースの
カテゴリー) 内の表または視点のニックネームを
参照する SELECT ステートメントによる作業単
位で、その ALTER SERVER ステートメントは
処理されます。

ユーザーの処置: 作業単位を終了させた後、
ALTER SERVER ステートメントを再実行依頼し
てください。

sqlcode: -1818

sqlstate: 55007

SQL1819N 実行依頼した DROP SERVER ス
テートメントを処理できませんでした。

説明: DROP SERVER ステートメントが参照し
ているデータ・ソース (またはデータ・ソースの
カテゴリー) 内の表または視点のニックネームを
参照する SELECT ステートメントによる作業単
位で、その DROP SERVER ステートメントは処
理されます。

ユーザーの処置: 作業単位を終了させた後、
DROP SERVER ステートメントを再実行依頼し
てください。

sqlcode: -1819

sqlstate: 55006

SQL1820N LOB 値に対するアクションが失敗
しました。理由コード =
 “<reason-code>”

説明: 理由コードには、以下のものがあります。

1. LOB 値を格納するのに十分なバッファース
ペースがありませんでした。

- このリモート・データ・ソースは LOB データ・タイプの現行アクションをサポートしていません。
- 内部プログラム制限を超えているものがあります。

ユーザーの処置: LOB のサイズを削減し、LOB データ・タイプで適用されている関数を置換してください。最後に、ステートメントから LOB データ・タイプを除去してください。

sqlcode: -1820

sqlstate: 560A0

SQL1821W 検索された LOB 値は変更している可能性があります。

説明: LOB 値は、据え置き検索基盤で評価されます。LOB 値は最初にアクセスされたときと、実際に検索されたときの間が変更している可能性があります。

ユーザーの処置: "deferred_lob_retrieval" を "N" in SYSSERVEROPTIONS にセットし、照会を再実行依頼するか、警告を無視してください。

sqlcode: +1821

sqlstate: 01621

SQL1822N データ・ソース "`<data-source-name>`" から予期しないエラー・コード "`<error-code>`" を受け取りました。 関連するテキストおよびトークンは "`<tokens>`" です。

説明: データ・ソースを参照中に、連合サーバーは DB2 と同等のものにマップしないデータ・ソースから予期しないエラー・コードを受け取りました。

考えられるエラー・コードには以下が含まれます。

- 4901 15 よりも多いカーソルをオープンしようとしています

- 4902 行サイズが 32K の制限を超えました

このエラーは、データ・ソースが利用不能の場合にも返される可能性があります。

ユーザーの処置: このデータ・ソースで指定された適切なメッセージの位置およびエラーの訂正可能な処置により、問題の根本の原因を識別し、訂正してください。

SQL1823N サーバー "`<server-name>`" からデータ・タイプ "`<data-type-name>`" に存在するデータ・タイプ・マッピングがありません。

説明: 試行は、オブジェクトのニックネームを作成させました。オブジェクトの 1 つ以上の列のタイプが現在連合サーバーにとって不明です。不明タイプの名前はこのメッセージにリストされています。

ユーザーの処置: CREATE TYPE MAPPING ステートメントを使用して指定されたサーバーのタイプ名を指定したマップを作成してください。

sqlcode: -1823

sqlstate: 428C5

SQL1824W この UNION ALL のオペランドにある基礎表のいくつかは同じ表である可能性があります。

説明: ニックネームはリモート基礎表、リモート視点、リモート別名またはリモート・ニックネームを参照することができます。UNION ALL 視点の 2 つのオペランドが異なるニックネームを参照する場合、これらのオペランドは同じ表を指している可能性があります (両方がリモート基礎表として知られている場合)。このメッセージはユーザーに、1 つのリモート・データ表が 2 つのオペランドを介して更新または削除によって 2 回更新または削除をしている可能性があることを警告するのに発行されます。

ユーザーの処置: すべてのオペランドが異なるリモ

ート表を示していることを確認してください。2つのオペランドが同じリモート基礎表を指している場合、更新または削除操作を反転するロールバックを発行していると見なします。

sqlcode: +1824

sqlstate: 01620

SQL1825N この SQL ステートメントを連合環境で取り扱うことはできません。

説明: いくつかの制限のため、現行 SQL ステートメントを連合環境で取り扱うことができません。制限として推定されるものは以下のとおりです。

- カーソル更新または削除ステートメントが、カーソル選択ステートメントでフェッチされていない列の連合サーバーへの再フェッチを伴う。
- 内部プログラム制限を超えているものがある。

ユーザーの処置: それぞれの原因について、次のように対処してください。

- カーソル選択ステートメントでフェッチされない列の再フェッチに関連するカーソル更新 / 削除である場合、必要な列がフェッチされるようにするため、カーソル選択ステートメントを修正してください。
- 内部プログラミング制限を超えているものがある場合、複合していると思われるステートメント、(たとえば式のような) 一部を単純化または明示的に試行してください。

sqlcode: -1825

sqlstate: 429A9

SQL1826N システム・カタログ・オブジェクト “<object-name>” で、“<column-name>” 列に対して無効な “<value>” 値が列に対して指定されました。

説明: システム・カタログ・オブジェクト “<object-name>” で、“<column-name>” 列に対し

て無効な “<value>” 値が列に対して指定されました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 指定されたシステム・カタログ・オブジェクトの指定された列の有効な値については、*SQL 解説書* を参照してください。ステートメントを訂正して、もう一度やり直してください。

sqlcode: -1826

sqlstate: 23521

SQL1827N サーバー “<server-name>” に対するローカル許可 ID “<auth-ID>” で定義されるユーザー・マッピングはありません。

説明: 定義されていないユーザー・マッピングを削除あるいは更新しようとした。

ユーザーの処置: ALTER USER MAPPING ステートメントの場合、まず、CREATE USER MAPPING ステートメントを使用しているユーザー・マッピングを作成してください。それから、ユーザー・マッピングを更新します。DROP USER MAPPING ステートメントの場合、ユーザー・マッピングがないため、これ以上の処置は必要ありません。

sqlcode: -1827

sqlstate: 42704

SQL1828N リモート・サーバー
"**<server-name>**" あるいは、サーバー・タイプ "**<server-type>**"、バージョン "**<server-version>**"、およびプロトコル "**<server-protocol>**" の、リモート・サーバーのグループに対して定義されているサーバー・オプション "**<option-name>**" はありません。

説明: 定義されていないサーバー・オプションを削除あるいは更新しようとした。

ユーザーの処置: ALTER SERVER ステートメントの場合は、まず、CREATE SERVER ステートメントを使用してサーバー・オプションを作成してください。それから、サーバー・オプションを更新します。DROP SERVER ステートメントの場合は、サーバーのサーバー・オプションが存在しないため、これ以上の処置は必要ありません。

sqlcode: -1828

sqlstate: 42704

SQL1830N RETURNS 文節は **EXPRESSION AS** 文節を使用して、述部を指定する前に指定する必要があります。

説明: RETURNS 文節が、EXPRESSION AS 文節の入った PREDICATE 文節の前に指定されていません。RETURNS 文節が述部指定の後に組み込まれているか、または欠落している可能性があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: PREDICATE 文節の前に RESULTS 文節を置いて CREATE FUNCTION ステートメントを指定してください。

sqlcode: -1830

sqlstate: 42627

SQL1831N 副表 "**<subtable-name>**" の表統計は更新できません。

説明: ステートメントは、副表として定義されている表 "**<subtable-name>**" に対して NPAGES、FPAGES、または OVERFLOW の統計値を更新しようとしています。タイプ付き表の場合、これらの統計は表階層のルート表を使用して更新することしかできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 副表の代わりに、表階層のルート表に対するカタログ統計を更新してください。

sqlcode: -1831

sqlstate: 428DY

SQL1832N SQL 関数として定義されているため、ルーチン "**<routine-name>**" をフィルターを定義するために使用できません。

説明: ルーチン (関数またはメソッド)

"**<routine-name>**" が、ユーザー定義の述部指定または索引拡張子定義として FILTER 文節に指定されています。このルーチンを LANGUAGE SQL で定義することはできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: LANGUAGE SQL で定義されていない関数を指定してください。

sqlcode: -1832

sqlstate: 429B4

SQL1881N "**<option-name>**" は、"**<object-name>**" に対して有効な "**<option-type>**" ではありません。

説明: 指定されたオプションが存在しないか、あるいは操作している特定のデータ・ソース、データ・ソース・タイプ、またはデータベース・オブジェクトに対して有効ではないと思われます。

ユーザーの処置: SQL 解説書を参照して、必要

なオプションを調べてください。次に、実行したいステートメントを訂正して再実行依頼してください。

sqlcode: -1881

sqlstate: 428EE

SQL1882N “<option-type>” オプション
“<option-name>” は、
“<object-name>” に対して
“<option-value>” に設定できません。

説明: 指定した値に正しい区切り文字が欠落しているか、または値が無効です。

ユーザーの処置: SQL 解説書を参照して、必要な値を調べてください。次に、実行したいステートメントを訂正して再実行依頼してください。値は必ず単一引用符で区切ってください。

sqlcode: -1882

sqlstate: 428EF

SQL1883N “<option-name>” は、
“<object-name>” に対して必須
“<option-type>” オプションです。

説明: 実行依頼したステートメントを処理するために DB2 が必要とするオプションを指定しませんでした。

ユーザーの処置: 実行したいステートメントに必要なオプションを見つけるには、資料を参照してください。次に、このステートメントを訂正して再実行依頼してください。

sqlcode: -1883

sqlstate: 428EG

SQL1884N “<option-name>”
（“<option-type>” オプション）が
複数回指定されました。

説明: 同じオプションを複数回参照するステートメントが入力されました。

ユーザーの処置: ステートメントを再びコーディングして、必要なオプションの参照を 1 回のみに行います。次に、ステートメントの再実行依頼を行ってください。

sqlcode: -1884

sqlstate: 42853

SQL1885N “<option-type>” オプション
“<option-name>” はすでに定義
されています。

説明: すでに値を持っているオプションの値を入力しました。

ユーザーの処置: 該当するカタログ視点に照会を行って、オプションが現在設定されている値を判別してください。この値が必要な値と違う場合は、ステートメントを再びコーディングして SET キーワードを OPTIONS キーワードの後にしてください。このオプションの値の入ったカタログ視点を見つけるには、SQL 解説書を参照してください。

sqlcode: -1885

sqlstate: 428EH

SQL1886N “<option-type>” オプション
“<option-name>” が定義されてい
ないため、“<operation-type>” 操
作が無効です。

説明: 操作しているデータ・ソース、データ・ソース・タイプ、またはデータベース・オブジェクトに定義されているオプションの値を変更または削除しようと試みました。

ユーザーの処置: 実行したいステートメントに SET を指定した場合は、ステートメントを再びコ

ーディングして、SET を省略するか、SET を ADD で置き換えます (ADD がデフォルトです)。次に、ステートメントの再実行依頼を行ってください。DROP を指定した場合は、何も行わないでください。

sqlcode: -1886

sqlstate: 428EJ

SQL1887N SPECIFICATION ONLY 文節が必要です。

説明: ニックネームに対する CREATE INDEX ステートメントには、SPECIFICATION ONLY 文節が必要です。

SQL1900 - SQL1999

SQL1900N コマンドは正常に終了しました。

説明: コマンド行ユーティリティが、コマンドを正常に終了しました。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL1901N コマンドの構文が誤りです。

説明: コマンド行ユーティリティがコマンドを処理できませんでした。

SQL2000 - SQL2099

SQL2000N ユーティリティ・コマンドに指定されたドライブは、有効なディスク・ドライブまたはハード・ディスクではありません。

説明: ユーティリティ・コマンドに指定された入出力ドライブが存在しません。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 正しいドライブ名を使用して、ユーティリティ・コマンドを再発行してください。

ユーザーの処置: SPECIFICATION ONLY 文節を追加して、ステートメントを再実行依頼してください。

sqlcode: -1887

sqlstate: 42601

ユーザーの処置: コマンドの訂正と再発行を行ってください。

SQL2001N ユーティリティへの割り込みが起きました。出力データが不完全の可能性あります。

説明: 割り込みキー・シーケンスが押されたか、または呼び出し側終了アクションでユーティリティが呼び出されています。

このメッセージは、データベース・カタログ・ノードがダウンしている時の、データベースでのバックアップまたは復元処理中に DB2 エンタープライズ拡張エディションからも返されます。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 必要に応じて、アプリケーション

ンを再始動するか、またはコマンドを再発行してください。割り込まれたコマンドからの出力データは不完全な可能性があるため、使用するべきではありません。

SQL2002N 指定されたデータベース・ユーティリティ・コマンドはリモート・データベースに対して無効です。コマンドで指定されたデータベースはローカル・ワークステーションになければなりません。

説明: データベース・ユーティリティ・コマンドはローカル・データベースにのみ有効です。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: ユーティリティをローカルで実行してください。

SQL2003C システム・エラーが発生しました。

説明: オペレーティング・システム・エラーが起きました。戻りコードは SQLCA の「SQLERRD[0]」フィールドにあります。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: SQLCA 内の「SQLERRD[0]」フィールドにあるエラー戻りコードを調べてください。可能であれば、エラーを修正して、コマンドを再発行してください。

SQL2004N 処理中に、SQL エラー “<sqlcode>” が起きました。

説明: エラーが起きたときに、ユーティリティが SQL ステートメントを使用していました。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 詳細な情報については、メッセージの SQLCODE (message number) を参照してください。変更を行って、コマンドを再発行してください。

SQL2005C 読み取り処理中に、入出力エラーが起きました。データが不完全な可能性があります。

説明: 入出力操作中に、不完全なデータが読み取られました。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 修正可能な入出力エラーかどうか判別して、コマンドを再発行してください。

SQL2006C 書き込み処理中に入出力エラーが起きました。データが不完全な可能性があります。

説明: 入出力操作中に、不完全なデータが書き込まれました。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 修正可能な入出力エラーかどうか判別して、コマンドを再発行してください。

SQL2007N 指定されたバッファ・サイズ “<bufferize>” 4K バッファは、“<pagesize>” ページ・サイズオブジェクトには小さすぎます。

説明: “<pagesize>” ページ・サイズのオブジェクトのバックアップを行うには、ページ・サイズよりも大きいバッファが必要です。データベースをバックアップすると、データはまず内部バッファにコピーされます。バッファがいっぱいになると、データがこのバッファからバックアップ・メディアに書き込まれます。指定されたバッファ・サイズ “<bufferize>” 4K バッファは不適當です。

ユーザーの処置: より大きいバッファ・サイズを使用してください。

SQL2008N **callerac** パラメーターが有効な範囲内ではないか、または要求されたアクションの順序が正しくありません。

説明: *callerac* パラメーターの値が受け入れ可能な値ではないか、または要求されたアクションの順序が正しくありません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 各ユーティリティは、有効な *callerac* の値の固有なリストを持っています。使用中のユーティリティの *callerac* の有効な値については、アプリケーション開発の手引きをチェックしてください。有効な *callerac* パラメーターを使用して、コマンドを再発行してください。

SQL2009C ユーティリティの実行に使用できる十分なメモリがありません。

説明: 指定されたユーティリティを実行するには、メモリが十分ではありません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 解決策は以下の通りです。

- **UTIL_HEAP_SZ** データベース構成パラメーターを増やしてください。バックアップおよび復元の場合、この値は、少なくともバッファ数 * バッファ・サイズと同じ大きさをなければなりません。バッファの復元とバックアップの詳細は、**コマンド解説書** を参照してください。
- システムに十分な実メモリおよび仮想メモリがあることを確認してください。
- バックグラウンド処理を終了してください。
- **DBHEAP** データベース構成パラメーターを増やしてください。

SQL2010N ユーティリティがデータベースに接続するときに、エラー "**<error>**" が起きました。

説明: ユーティリティはデータベースに接続できませんでした。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージのエラー番号を調べてください。変更を行って、コマンドを再発行してください。

SQL2011N ユーティリティがデータベースから切断するときに、エラー "**<error>**" が起きました。

説明: ユーティリティはデータベースから切断できませんでした。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージのエラー番号を調べてください。変更を行って、コマンドを再発行してください。

SQL2012N 割り込み処理が使用できませんでした。

説明: ユーティリティが割り込み処理を使用できませんでした。実際の戻りコードは、SQLCA の「SQLERRD[0]」フィールドにあります。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: SQLCA 内の「SQLERRD[0]」フィールドにあるエラー戻りコードを調べてください。可能であれば、エラーを修正して、コマンドを再発行してください。

SQL2013N ユーティリティが、データベース・ディレクトリーにアクセスできませんでした。エラー “<error>” が返されました。

説明: ユーティリティがデータベース・ディレクトリーにアクセスしているときに、エラーが起きました。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: *database* パラメーターのパスがデータベース・ディレクトリーのパスでない場合は、正しいパスを使用して、コマンドを再発行してください。そうでない場合は、詳細について、メッセージのエラー番号を調べてください。変更を行って、コマンドを再発行してください。

SQL2014N データベース環境エラーが起きました。

説明: ユーティリティが、*database environment* コマンドからエラーを受け取りました。データベース・マネージャー構成ファイルと当該データベース構成ファイルに、互換性のない値が入っている可能性があります。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: データベース・マネージャー構成ファイルとデータベース構成ファイルの矛盾している値をチェックしてください。コマンドを再発行してください。

SQL2015N *database* パラメーターが無効です。データベース名が長すぎるか、指定されていないか、または名前前のアドレスが無効です。

説明: データベース名は必須です。データベース名は 1 から 8 までのデータベース・マネージャー基本文字セットから選択しなければなりません。表名は、有効なアプリケーション・アドレスに位置している必要があります。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 有効なデータベース名を使用して、コマンドを再発行してください。

SQL2016C “<program-name>” のパスが、**PATH** コマンドに含まれていません。

説明: ユーティリティがオペレーティング・システムの *Select Path* を使用して、要求されたプログラムを見つけることができませんでした。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: **PATH** コマンドを更新して、示されたプログラム名へのパスを組み込んでください。

SQL2017N すでに開始しているセッションが多すぎるか、または **OS/2 Start Session** が正常に終了していません。

説明: 以下に示す理由のために、**BACKUP** または **RESTORE** ユーティリティが新しいセッションを始動できませんでした。

- すでに開始されているセッションの数が最大値に達しています。
- **OS/2 Start Session** プログラムがエラーを返しました。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: いくつかの現行セッションが処理を停止するまで待って、コマンドを再発行してください。または、詳細について、**SQLCA** の「**SQLERRD[0]**」フィールドを参照して、コマンドを再発行してください。

SQL2018N ユーティリティが、ユーザーの許可 **ID** またはデータベース許可を検査しようとしたときに、エラー “<error>” が起きました。

説明: ユーティリティを実行しようとしたますが、以下のいずれかのエラーが起きました。

- ユーザー許可 ID が無効。
- データベースに対するユーザーの許可にアクセスしようとしたときに、エラーが起きた。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージのエラー番号を調べてください。変更を行って、コマンドを再発行してください。

SQL2019N ユーティリティのデータベースへのバインド中に、エラーが起きました。

説明: 実行されている現在のレベルのユーティリティは、データベースにバインドされていないため、システムが、すべてのユーティリティをデータベースにバインドしようとしたのですが、このバインド・プロセスが失敗しました。エラーの原因には、以下が含まれます。

- システムがディスク・スペースを使い果たしている可能性があります。
- オープンされているファイルが多すぎるなどのシステム・リソースの問題。
- バインドされるユーティリティ・プログラムのリスト (db2ubind.lst) がないか、または無効です。
- いずれかのユーティリティのバインド・ファイル (db2uxxxx.bnd) がないか、または無効です。
- ユーザーがユーティリティをバインドするために必要な許可を取っていません。必要な特権は以下のとおりです。
 - ユーティリティ・プログラムに対する BIND 特権
 - システム・カタログに対する SELECT 特権

RESTORE ユーティリティの場合、データベースは復元されますが、少なくとも 1 つのユーティリティがデータベースにバインドされません。他のユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: システム・リソースを競合して

いる可能性があるすべての活動を完了させて、ユーティリティ・コマンドを再発行してください。エラーが続く場合は、以下のいずれかの処置を実行してください。

- SYSADM または DBADM 権限を持つユーザーに、コマンドの再発行を依頼してください。
- データベース・マネージャーを再インストールするか、または最新の更新処理を再適用するか、あるいはその両方を行ってください。
- 問題を分離するためと、可能な場合に、いくつかのユーティリティを正常に処理させるために、ユーティリティ・プログラム (db2uxxxx.bnd ファイル) を、データベースに個別にバインド (形式オプションを使用しないで) してください。

SQL2020N ユーティリティが、データベースに正しくバインドされていません。

説明: ユーティリティがデータベースにバインドされなかったか、またはデータベースにバインドされたユーティリティのパッケージがインストールされたバージョンのデータベース・マネージャーと互換でないために、すべてのユーティリティがデータベースに再バインドされましたが、依然としてインストールされたバージョンのデータベース・マネージャーとパッケージの間には、ユーティリティとバインド・ファイルが互換でないというタイム・スタンプの矛盾があります。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーを再インストールするか、または最新の更新処理を再適用するか、あるいはその両方を行ってください。ユーティリティ・コマンドを再発行してください。

SQL2021N ドライブに正しいディスクセットが入っていません。

説明: Backup Database または Restore Database に使用するディスクセットが、ドライブに入ってい

ないか、または無効です。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 正しいディスクがドライブに挿入されていることを確認するか、または新しいディスクを挿入してください。

SQL2023N ログ制御ファイルにアクセス中に、ユーティリティで入出力エラー “<code>” が起きました。

説明: ログ制御ファイルに対する読み取りまたは書き込み操作が失敗しました。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: エラー戻りコードの値を記録してください。入出力エラーが修復可能かどうかを判別してください。

SQL2024N ユーティリティがファイル・タイプ “<file-type>” へのアクセス中に、入出力エラー “<code>” が起きました。

説明: 指定されたファイルにアクセス中に、入出力エラーが起きました。

復元処理が異常終了したかどうかを判別するには、“BRG” ファイルを使用します。このファイルは、復元操作の対象であったデータベースのローカル・データベース・ディレクトリー内に置かれます。

拡張子 “.BRI” の付いたファイルは、増分 RESTORE 操作の進行状況に関する情報を保管します。このファイルは、復元増分操作の対象となったデータベースのローカル・データベース・ディレクトリー内に置かれます。

このファイルの名前は、データベース・トークンにファイル・タイプ拡張子を連結して作成されます。たとえば、データベース “SAMPLE” にデータベース・トークン “SQL00001” が割り当てられると、BRI ファイルには

“instance/NODE0000/sqlbdir/SQL00001.BRI” という名前が付きます。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: エラー戻りコードを記録してください。入出力エラーが修復可能かどうかを判別してください。

SQL2025N 入出力エラー “<code>” が、メディア “<dir/devices>” で起きました。

説明: 示されたメディア上のファイルのアクセス中に、入出力エラーが起きました。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: エラー戻りコードを記録してください。入出力エラーが修復可能かどうかを判別してください。

SQL2026N データベースからの内部的切断中に、エラー “<sqlcode>” が起きました。

説明: internal disconnect コマンドが失敗しました。SQLCODE がメッセージに返されています。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 詳細な情報については、メッセージの SQLCODE (message number) を参照してください。変更を行って、コマンドを再発行してください。

SQL2027N データベースへの内部接続中に、エラー “<sqlcode>” が起きました。

説明: 内部接続が失敗しました。SQLCODE がメッセージに返されています。データベース・マネージャー構成ファイルと当該データベース構成ファイルに、互換性のない値が入っている可能性があります。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 詳細な情報については、メッセージの SQLCODE (message number) を参照してください。変更を行って、コマンドを再発行してください。データベース・マネージャー構成ファイルの値と、バックアップ・イメージのデータベース・マネージャー構成ファイルの値が互換であることをチェックしてください。

SQL2028N 割り込みハンドラーのインストール中に、エラー “<sqlcode>” が起きました。

説明: ユーティリティが、割り込みハンドラーを使用できませんでした。SQLCODE がメッセージに返されています。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 詳細な情報については、メッセージの SQLCODE (message number) を参照してください。変更を行って、コマンドを再発行してください。

SQL2029N “<command-file-name>” の処理中に、エラー “<error>” が起きました。

説明: 指定されたコマンド・ファイル、またはオペレーティング・システムからエラーが返されました。

ユーザーの処置: ROLLFORWARD リカバリーで使用可能なデータベースの『変更部分のみのバックアップ』、またはユーザー出口の使用を要求中に、『変更部分のみのバックアップ』を要求してください。

SQL2030N “<name>” ドライブがいっぱいです。このドライブには、少なくとも “<number>” バイトの空きスペースが必要です。

説明: 指定されたドライブに、内部で使用するサブディレクトリーと情報ファイルを作成するための十分なスペースがありません。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 指定したドライブに示されたスペースを確保して、コマンドを再発行してください。

SQL2031W 警告！装置 “<device>” に、ターゲットまたはソースのメディアを取り付けてください。

説明: データベース・ユーティリティ・プロセスは、指定された装置上のメディアとの間で、データの書き込みまたは読み取りのいずれかを行います。ユーティリティは、操作に適したメディアを取り付けられるように、制御を戻します。

ユーティリティは、続行の応答を待ちます。

ユーザーの処置: メディアを取り付けて、処理を続行するか終了するかを示す *callerac* パラメーターを指定して、ユーティリティに戻ってください。

SQL2032N “<parameter>” パラメーターが無効です。

説明: パラメーターの指定が正しくありません。値が範囲外か、または正しくありません。

ユーザーの処置: パラメーターに正しい値を指定して、コマンドを再実行してください。

SQL2033N TSM エラー “<error>” が起こりました。

説明: データベース・ユーティリティの処理中に TSM が呼び出され、エラーが起こりました。

ユーザーの処置: エラーの説明について TSM の資料を調べ、リカバリー処置を取った後でコマンドを出し直してください。

SQL2034N “<parm>” パラメーターのアドレスが無効です。

説明: アプリケーション・プログラムが、このパラメーターに無効なアドレスを使用しました。

そのアドレスが割り振られていないバッファを指しているか、またはそのバッファ内の文字ストリングにヌル終止符がありません。

ユーザーの処置: 有効なアドレスがアプリケーション・プログラムで使用され、入力ストリングがヌルで終了していることを確認してください。

SQL2035N ユーティリティが非割り込みモードで実行中に、警告状況 "**<warn>**" が発生しました。

説明: 呼び出し中のアプリケーションが、非割り込みモードでユーティリティを呼び出しました。その操作中に、警告状況が発生しました。

ユーザーの処置: 非割り込み条件を *callerac* パラメーターに指定せずに操作をやり直すか、警告を回避する処置を取って操作をやり直してください。

SQL2036N ファイルまたは装置 "**<path/device>**" のパスが無効です。

説明: ユーティリティを呼び出しているアプリケーションが、無効なソースまたはターゲット・パスを指定しました。指定されたパスまたは装置が存在しないか、または正しく指定されていません。

ユーザーの処置: 正しいパスまたは装置を表すパスを使用して、ユーティリティ・コマンドを再発行してください。

SQL2037N TSM をロードできませんでした。

説明: データベース・ユーティリティへの呼び出しが、バックアップのターゲットまたはソースとして TSM を指定していました。TSM クライアントのロードが試みられました。TSM クライアントがシステムで使用できないか、またはロード・プロシージャでエラーが起きました。

ユーザーの処置: TSM がシステムで使用できることを確認してください。TSM が使用可能にな

った後でコマンドを再実行依頼するか、または TSM を使用せずにコマンドを再実行依頼してください。

SQL2038N 処理中に、データベース・システム・エラー "**<errcode>**" が起きました。

説明: いずれかのユーティリティを処理中に、データベース・システム・エラーが起きました。

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージのエラー・コードを調べてください。リカバリー処置を取った後で、コマンドを再発行してください。

SQL2039N ユーティリティを呼び出しているアプリケーションが終了しました。

説明: ユーティリティを呼び出しているアプリケーションが終了しました。ユーティリティのアプリケーション側が、呼び出し中のアプリケーションと同じプロセスにあるので、アプリケーションとともに終了しました。その結果、ユーティリティのエージェント側も終了しました。

ユーザーの処置: アプリケーションが終了した理由を判別した後で、コマンドを再発行してください。

SQL2040N データベース別名パラメーター "**<dbalias>**" が無効か、または指定されていません。

説明: バックアップまたは復元ユーティリティを呼び出しているアプリケーションが、無効なデータベース別名パラメーターを指定しました。別名は 1 から 8 バイトで、文字はデータベース・マネージャー基本文字セットから選択する必要があります。

ユーザーの処置: 有効なデータベース別名を使用して、Backup または Restore コマンドを再発行してください。

SQL2041N 指定されたバッファー・サイズ・パラメーターが無効です。 バッファー・サイズは、0 または 8 から 16384 (0 と 16384 を含む) の間で指定する必要があります。

説明: ユーティリティを呼び出しているアプリケーションが、無効な buffer size パラメーターを指定しました。 バッファー・サイズは、内部バッファー・サイズの決定に使用されます。 値は、このバッファー用に獲得される 4K ページの数です。 値は、0 または 16 から 16384 (16 と 16384 を含む) 間で指定する必要があります。

バックアップまたは復元ユーティリティの実行では、0 を指定すると、データベース・マネージャー構成に定義されているデフォルト・バッファー・サイズが使用されます。

ターゲットのメディアがディスクの場合、buffer size はディスクのサイズより小さくなるようにしてください。

SQL2042W 警告！ 装置 "<device>" のアクセスで入出力エラー "<error>" が起きました。 追加情報 (使用可能な場合) は "<additional_information>" です。メディアが正しくマウントされ、位置指定されていることを確認してください。

説明: ユーティリティを呼び出しているアプリケーションが、テープ装置に対する読み取りまたは書き込みを行っているときに、入出力エラーが起きました。 ユーティリティは、テープを正しい位置に取り付けられるように、制御を戻します。

このメッセージには問題の診断をする手助けとなる追加情報が入っています。

ユーティリティは、続行の応答を待ちます。

ユーザーの処置: テープを正しい位置に取り付けた後、処理の続行または終了を示しているユーティリティに戻ってください。

エラー、装置および追加情報 (ある場合) は、問題を診断し訂正するのに使用することができません。

SQL2043N 子プロセス、またはスレッドが開始できません。

説明: データベース・ユーティリティの処理中に要求された子プロセスまたはスレッドを開始できません。新しいプロセスまたはスレッドを作成するためのメモリーが不十分だと思われます。

AIX ベースのシステムでは、chdev コマンドによって設定された maxuproc 値が小さすぎると思われる。

OS/2 ベースのシステムでは、CONFIG.SYS に設定されている THREADS 値が小さすぎると思われる。ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: プロセスまたはスレッドの数のシステム制限に達していないことを確認してください (制限を増やすか、あるいはすでに実行されているプロセスまたはスレッドの数を減らしてください)。新しいプロセスまたはスレッドに対する十分なメモリーが存在することを確認してください。 ユーティリティ・コマンドを再発行してください。

SQL2044N メッセージ・キューのアクセス中に、エラーが起きました。 理由コード: "<reason-code>"。

説明: データベース・ユーティリティの処理中に、いずれかのメッセージ・キューに関して、予期しないエラーまたは間違ったメッセージを受け取りました。以下が理由コードのリストです。

- 1 メッセージ・キューを作成できません。メッセージ・キューの許容数に達しました。
- 2 メッセージ・キューからの読み取り中に、エラーが起きました。
- 3 メッセージ・キューへの書き込み中に、エラーが起きました。

- 4 メッセージ・キューから、無効なメッセージを受け取りました。
- 5 メッセージ・キューのオープン中に、エラーが起きました。
- 6 メッセージ・キューのクローズ中に、エラーが起きました。
- 7 メッセージ・キューの照会中に、エラーが起きました。
- 8 メッセージ・キューの削除中に、エラーが起きました。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: メッセージ・キューの許容数に達していないことを確認してください。必要に応じて、使用中のメッセージ許容数を減らして、ユーティリティ・コマンドを再発行してください。

SQL2045W 警告！メディア “<media>” に書き込み中に、“<error>” が起こりました。

説明: データベース・ユーティリティ・プロセスがメディア “<media>” に書き込み中に、“<error>” を検出しました。ユーティリティは、ユーザーが問題の解決またはその操作の取り消しを試みることができるように、制御を戻します。

ユーティリティは、続行の応答を待ちます。

ユーザーの処置: オペレーティング・システムに対する障害追及の資料を調べて、“<error>” 条件を訂正してください。処理を続行または終了すべきであることを示す、正しい caller action パラメータを指定して、ユーティリティに戻ってください。

SQL2048N オブジェクト “<object>” のアクセス中に、エラーが起きました。理由コード：“<reason-code>”

説明: データベース・ユーティリティの処理でのオブジェクトのアクセス時に、エラーが起きました。

以下が理由コードのリストです。

- 1 無効なオブジェクト・タイプが見つかりました。
- 2 オブジェクトのロック処理が失敗しました。ロック待ちが、データベース構成に指定されているロック・タイムアウト限界に達した可能性があります。
- 3 データベース・ユーティリティの処理中に、オブジェクトのロック解除処理が失敗しました。
- 4 オブジェクトに対するアクセスが失敗しました。
- 5 データベース内のオブジェクトが壊れています。
- 6 アクセス中の対象は表スペースであり、この表スペースは、操作が許されない状態になっているか、あるいは表スペースの 1 つまたは複数のコンテナが使用不能な状態になっています。(LIST TABLESPACES には現在の表の状態がリストされます。)
- 7 オブジェクト削除操作が失敗しました。
- 8 この区分に定義されていない表へのロード / 静止を試行しました。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: オブジェクトのロック処理が失敗した場合は、データベース構成のロック・タイムアウト限界が適切であることを確認して、ユーティリティ・コマンドを再発行してください。アクセスを確実にするために、データベースを静止状態にするために、QUIESCE コマンドを使用することも考慮してください。

バックアップ中にエラーが起きた場合は、データベースをリカバリーする処置を取って、ユーティリティ・コマンドを再発行してください。

復元またはロード・リカバリー中にエラーが起きた場合は、バックアップまたはコピー・イメージが正しいことを確認して、ユーティリティ・コ

マンドを再発行してください。

オブジェクトが表スペースで、復元中にエラーが起きた場合は、ユーティリティー・コマンドを再発行する前に、`set table space container api` を使用して、表スペースを変更することが必要になる場合があります。

SQL2054N バックアップまたはコピー・イメージが壊れています。

説明: 使用中のバックアップまたはコピー・イメージが壊れています。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: 有効なイメージではないイメージを廃棄してください。有効なイメージを使用して、ユーティリティー・コマンドを再発行してください。

SQL2055N メモリー・セット “<memory-heap>” のメモリーにアクセスできません。

説明: 処理中に、データベース・ユーティリティーがメモリーにアクセスできませんでした。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーを停止して再始動し、ユーティリティー・コマンドを再発行してください。

SQL2056N メディア “<media>” で無効なメディア・タイプが見つかりました。

説明: データベース・ユーティリティーの処理中に、無効なメディア・タイプが見つかりました。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: 使用しているメディアが、ユーティリティーによってサポートされているタイプのメディアであることを確認してください。有効なメディア・リストを使用して、コマンドを再発行してください。

SQL2057N メディア “<media>” は、すでに他のプロセスによってオープンされています。

説明: データベース・ユーティリティーの処理中に指定されたソースまたはターゲットのメディアは、すでに他のプロセスによってオープンされています。ユーティリティーは、処理のための共有アクセスを許しません。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: 使用しているメディアが現在使用されていないことを確認してください。有効なメディア・リストを使用して、コマンドを再発行してください。

SQL2058W メディア “<media>” でメディア終了の警告が出されました。

説明: データベース・ユーティリティーの処理中に、メディア終了の警告が出されました。このエラーは、無効な磁気テープ装置ブロック・サイズが指定された場合にも発生します。

ユーティリティーは、続行の応答を待っています。

ユーザーの処置: メディア終了状況を訂正して、処理を続行または終了するべきであることを示す、正しい `caller action` パラメーターを指定して、ユーティリティーに戻ってください。

復元時刻で使用される磁気テープ装置ブロック・サイズ (あるいはブロック化因数) は、バックアップ中に使用されるものと同一である必要があります。変数ブロック・サイズが使用されている場合、使用バッファー・サイズの方が小さいか、あるいは磁気テープ装置の最大ブロック・サイズと同じである必要があります。

SQL2059W メディア “<device>” で、装置が
いっぱいであるという警告が出され
ました。

説明: データベース・ユーティリティの処理中
に、装置がいっぱいであるという警告が出されま
した。

ユーティリティは、続行の応答を待っていま
す。

ユーザーの処置: 装置がいっぱいである状況を訂
正して、処理を続行または終了するべきであるこ
を示す、正しい caller action パラメーターを指
定して、ユーティリティに戻ってください。

SQL2060W 装置 “<device>” が空です。

説明: データベース・ユーティリティの処理中
に、空の装置が見つかりました。ユーティリティ
は、続行の応答を待っています。

ユーザーの処置: メディアを取り付けて、処理を
続行または終了するべきであることを示す、caller
action パラメーターを指定して、ユーティリ
ティに戻ってください。

SQL2061N メディア “<media>” へのアクセス
が拒否されました。

説明: データベース・ユーティリティの処理中
に、装置、ファイル、TSM、またはベンダー共用
ライブラリーへのアクセスが拒否されました。ユ
ーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: ユーティリティが使用してい
る装置、ファイル、TSM、またはベンダー共用ラ
イブラリーによって、要求されたアクセスが許可
されていることを確認し、ユーティリティ・コマ
ンドを再実行依頼してください。

SQL2062N メディア “<media>” のアクセス中
に、エラーが起きました。理由コー
ド: “<reason-code>”。

説明: データベース・ユーティリティの処理中
に、ファイル、TSM、またはベンダー共用ライブ
ラリーにアクセスしているとき、予期しないエラー
が起きました。以下が理由コードのリストで
す。

- 1 装置、ファイル、TSM、またはベンダー
共用ライブラリーの初期設定に失敗しま
した。
- 2 装置、ファイル、TSM、またはベンダー
共用ライブラリーを終了できませんで
した。

その他 TSM を使用している場合、これは TSM
から返されるエラー・コードです。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: ユーティリティが使用してい
る装置、ファイル、TSM、またはベンダー共用ラ
イブラリーが使用可能なことを確認し、ユーティ
リティ・コマンドを再実行依頼してください。
コマンドがまだ失敗する場合は、技術サービス担
当者に連絡してください。

SQL2065W 指定されたメディア “<media>” が
ユーティリティに接続された唯一
のメディアである場合、指定された
呼び出し側アクション
“<caller-action>” は許されませ
ん。

説明: データベース・ユーティリティに接続さ
れているメディアが 1 つだけなので、指定され
た呼び出し側アクションは許されません。

ユーザーの処置: 処理を続行または終了するべ
きであることを示す、正しい caller action パラメ
ーターを指定して、ユーティリティに戻ってくだ
さい。

SQL2066N 指定された表スペース名 "`<name>`" がデータベースに存在しないか、またはバックアップ・ユーティリティーに使用できません。

説明: 指定された表スペース名は構文的に正しくても、データベースに存在しないか、またはユーティリティー処理で使用できません。使用中のユーティリティーがバックアップ操作であれば、表スペースがシステムまたはユーザー一時表スペースであるか、あるいは不整合状態であるため、その表スペースが許可されていないと思われます。

ユーザーの処置: 表スペース名をチェックして、正しい表スペース名を使用し、ユーティリティー・コマンドを再実行依頼してください。

SQL2068N メディア "`<media>`" で、無効なイメージが見つかりました。メディア・ヘッダーがありません。

説明: データベース・ユーティリティーの処理中に、無効なイメージが見つかりました。ユーティリティーが、有効なメディア・ヘッダーを見つけることができませんでした。ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: 正しいバックアップまたはコピー・イメージを使用して、コマンドを再発行してください。

SQL2069N メディア "`<media>`" で、無効なイメージが見つかりました。イメージは、データベース別名 "`<dbalias>`" 用に作成されていません。

説明: データベース・ユーティリティーの処理中に、無効なイメージが見つかりました。イメージは、異なるデータベース別名から作成されています。ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: 正しいバックアップまたはコピー・イメージを使用して、コマンドを再発行してください。

SQL2070N メディア "`<media>`" で、無効なイメージが見つかりました。イメージにタイム・スタンプ "`<timestamp>`" が含まれていません。

説明: データベース・ユーティリティーの処理中に、無効なイメージが見つかりました。イメージは、異なるタイム・スタンプを持つバックアップまたはコピーから作成されています。ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: 正しいバックアップまたはコピー・イメージを使用して、コマンドを再発行してください。

SQL2071N 共用ライブラリー "`<shr-lib-name>`" のアクセス中に、エラーが起きました。理由コード: "`<reason-code>`"。

説明: データベース・ユーティリティーの処理でのベンダーの共用ライブラリーのアクセス中に、予期しないエラーが起きました。以下が理由コードのリストです。

- 1 無効な共用ライブラリー・パスが見つかりました。
- 2 バックアップ共用ライブラリーのロードが失敗しました。
- 3 共用ライブラリーのアンロード中に、エラーが起きました。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: 提供されている共用ライブラリーが有効なことを確認して、ユーティリティー・コマンドを再発行するか、または別のサポートされているメディアを使用してください。

SQL2072N 共有ライブラリー
“<shr-lib-name>”をバインドできません。理由コード:
“<reason-code>”

説明: データベース・ユーティリティの処理での共有ライブラリーのバインド中に、エラーが起きました。ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 理由コードが、バンダー・ユーティリティからメッセージに返されていることに注意して、可能であれば、リカバリー処置を取ってください。有効な共有ライブラリーまたは別のサポートされているメディアを使用して、コマンドを再発行してください。

SQL2073N DATALINK 処理が、データベース・サーバーまたは DB2 データ・リンク・マネージャーでの内部問題のため失敗しました。

説明: DATALINK 値を処理中に、予期しないエラーが起きました。

ユーザーの処置: コマンドを再発行してください。問題がまだ続く場合は、DB2 および DB2 データ・リンク・マネージャーをシャットダウンして再始動した後に、コマンドを再発行してください。

復元ユーティリティでは、WITHOUT DATALINK を指定することで DATALINK 処理を避けることができます。

SQL2074N DATALINK 処理は、データベース・サーバーの内部問題のため失敗しました。

説明: DATALINK 値を処理中に、予期しないエラーが起きました。

ユーザーの処置: コマンドを再発行してください。問題がまだ続く場合は、DB2 をシャットダウンおよび再始動してからコマンドを再発行してください。

復元ユーティリティでは、WITHOUT DATALINK を指定することで DATALINK 処理を避けることができます。

SQL2075N DATALINK 処理が DB2 データ・リンク・マネージャーでの内部問題のため失敗しました。

説明: DATALINK 値を処理中に、予期しないエラーが起きました。

ユーザーの処置: コマンドを再発行してください。問題がまだ続く場合は、DB2 データ・リンク・マネージャーをシャットダウンして再始動した後に、コマンドを再発行してください。

復元ユーティリティでは、WITHOUT DATALINK を指定することで DATALINK 処理を避けることができます。

SQL2076W DB2 データ・リンク・マネージャー “<server-name>” がデータベースに登録されませんでした。

説明: DB2 データ・リンク・マネージャー “<server-name>” が ADD DATALINKS MANAGER コマンドでデータベースに登録されませんでした。

ユーザーの処置: ADD DATALINKS MANAGER コマンドが失敗した理由の詳細については、診断ログ・ファイル db2diag.log を調べてください。

SQL2077W 使用可能だった DB2 データ・リンク・マネージャーで調整処理が完了しました。調整処理は、使用可能でない DB2 データ・リンク・マネージャーでは保留されています。詳細については db2diag.log をチェックしてください。

説明: 表データで参照されている DB2 データ・リンク・マネージャーの一部またはすべてが、調整処理中に使用可能ではありませんでした。使用可能だった DB2 データ・リンク・マネージャー

で調整処理が完了しました。調整処理が使用可能でない DB2 データ・リンク・マネージャーで保留されているため、表はデータ・リンク調整保留状態に置かれています。

ユーザーの処置: 表データで参照されているすべての DB2 データ・リンク・マネージャーで調整が正常に完了したときに、表はデータ・リンク調整保留状態から抜けます。使用可能でなかった DB2 データ・リンク・マネージャーを始動して、もう一度調整を実行してください。

SQL2078N DB2 データ・リンク・マネージャーを正常に追加またはドロップできませんでした。理由コード = “<reason-code>”

説明: 以下の理由コードで示されたいずれかの理由で、DB2 データ・リンク・マネージャーを追加またはドロップできませんでした。

- 01** DB2 データ・リンク・マネージャーがすでにデータベースに登録されています。
- 02** ドロップしている DB2 データ・リンク・マネージャーがデータベースに登録されていません。

SQL2100 - SQL2199

SQL2150W バックアップ・イメージに含まれている表スペースが復元されました。呼び出し側の要求に応じて、これらの表スペースのいくつかがスキップされていることがあります。

説明: RESTORE DATABASE コマンドが出されました。バックアップ・イメージ内の表スペースの一部のみを復元するよう、ユーザーが指示しました。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

03 データベース・マネージャー構成パラメーター DATALINK が NO に設定されています。

04 データベースに許可された最大数の DB2 データ・リンク・マネージャーがすでに登録されています。

ユーザーの処置: 理由コードに応じた処置は以下の通りです:

- 01** DB2 データ・リンク・マネージャーを複数回追加しないでください。
- 02** 登録されていない DB2 データ・リンク・マネージャーをドロップしないでください。
- 03** UPDATE DATABASE MANAGER CONFIGURATION コマンドを使用してデータベース・マネージャー構成パラメーター DATALINKS を YES に設定し、操作を再試行してください。
- 04** 許可された最大数より多くの DB2 データ・リンク・マネージャーを追加しないでください。

SQL2154N RESTORE が正常に終了しませんでした。表スペースの復元に使用されたバックアップが、データベースの現在のログ順序に関連していません。

説明: 表スペースの復元の場合は、バックアップが、データベースの現在のログ順序中に取られている必要があります。ログ・ファイルの順序は、前に復元されたデータベース、または処理されたログ・ファイルによって決定されます。さらに、ロールフォワード・リカバリーに対してデータベースが最後に可能になった後に、バックアップを取る必要があります。

表スペース復元は停止しました。

ユーザーの処置: 正しいバックアップ・イメージを使用して、コマンドを再発行してください。

SQL2155W open scan が発行されたために、リカバリー・ヒストリー・ファイルが変更されました。

説明: ファイルが捜査のためにオープンされたので、リカバリー・ヒストリー・ファイルが変更されました。読み取ったデータに不整合がある可能性があります。

ユーザーの処置: 捜査から整合性のあるデータを得ることが必要な場合は、リカバリー・ヒストリー・ファイルをクローズして、コマンドを再発行してください。

SQL2157N すでに 8 つのリカバリー・ヒストリー・ファイル操作がオープンしています。

説明: このプロセスでは、8 つのリカバリー・ヒストリー・ファイルがすでにオープンされています。8 つ以上の捜査のオープンは許されていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 1 つ以上の CLOSE RECOVERY HISTORY FILE SCAN コマンドを実行して、コマンドを再発行してください。

SQL2160W 損傷を受けたリカバリー・ヒストリー・ファイルは置換されました。処理は続行されます。

説明: リカバリー・ヒストリー・ファイルへのアクセス中に、エラーが起きました。ユーティリティーは、代替コピーからファイルをリカバリーできます。ユーティリティーは処理を続けます。

ユーザーの処置: ユーティリティーは正常に処理を続けます。リカバリー・ヒストリー・ファイルが再び損傷を受けないように、適切な予防策をこうじる必要があります。

SQL2161N 損傷を受けたリカバリー・ヒストリー・ファイルが修復できませんでした。指定されたアクションが失敗しました。

説明: リカバリー・ヒストリー・ファイルへのアクセス中に、エラーが起きました。ユーティリティーがファイルをリカバリーできません。ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: 処理を続けるには、リカバリー・ヒストリー・ファイルを除去して、コマンドを再発行してください。ユーティリティーが新しいファイルを再生成します。壊れたファイルのデータは失われます。使用可能な情報が存在するかどうかをチェックするには、壊れたファイルを調べてください。リカバリー・ヒストリー・ファイルが再び損傷を受けないように、適切な予防策をこうじる必要があります。

SQL2165W SQLUHINFO 構造が、十分な TABLESPACE 項目を提供しませんでした。

説明: SQLUHINFO 構造が、戻される項目 (すべての TABLESPACES を含む) を保持するのに十分な大きさを持っていませんでした。

SQLUHINFO 構造の「SQLN」フィールドは、少なくとも戻される「SQLD」フィールドと同じ大きさでなければなりません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: SQLUHINFO 構造の「SQLN」フィールドの値を、「SQLD」フィールドによって示されている値まで増やして (SQLUHINFO 構造が、その容量を十分にサポートする大きさになるように)、コマンドを再発行してください。

SQL2170N ユーティリティがリカバリー・ヒストリー・ファイルで、同じ ID を持つ項目を検出しました。書き込みできません。

説明: ユーティリティがリカバリー・ヒストリー・ファイルで、書き込み中に同じ ID (秒単位のタイム・スタンプ) を持つ項目を検出しました。リカバリー・ヒストリー・ファイルへの書き込みが終了します。データベース・マネージャーがリカバリー・ヒストリー・ファイルの ID の固有性を確認し、1 秒単位で複数の要求に対して準備をします。ただし、数秒の間に要求が多数ある場合には失敗する可能性があります。

ユーザーの処置: 追加情報については、First Failure Service Log (db2diag.log) を調べてください。アプリケーションがヒストリー・ファイルに多数の項目を生成するユーティリティ (backup、quiesce、load) を実行している場合この問題を防ぐためにユーティリティの要求を調整してください。

SQL2171N 指定されたオブジェクト・パーツがファイルに存在しなかったために、リカバリー・ヒストリー・ファイルの更新が失敗しました。

説明: リカバリー・ヒストリー・ファイルの更新が指定された項目が、ファイルに存在しません。ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 有効な項目を使用して、コマンドを再発行してください。

SQL2172W このユーティリティは完了していますが、エラー "<error>" のため、リカバリー・ヒストリー・ファイルでイベントをログできません。

説明: このユーティリティはリカバリー・ヒストリー・ファイルを書き込み中、エラーを検出し

ています。この警告は処理に影響を与えません。

ユーザーの処置: 追加情報については、First Failure Service Log (db2diag.log) を調べてください。エラー条件を訂正し、この警告がこれから起きないようにしてください。

SQL2180N フィルター指定に不正な構文または不正なパスワード・キーが使用されました。

説明: 与えられたフィルター指定が、不正な構文または不正なパスワード・キーのいずれか、あるいは両方を使用しています。システム・エラー・ログまたはデータベース・マネージャーのエラー・ログのいずれか、あるいは両方に詳細があります。

ユーザーの処置: 診断情報を保管しておき、IBM サービスに連絡してください。

SQL2181N フィルター付きリカバリーを行っているとときに内部エラーが起きました。

説明: フィルター付きリカバリーを行っているとときに内部エラーが起きました。リカバリーは終了します。システム・エラー・ログまたはデータベース・マネージャーのエラー・ログのいずれか、あるいは両方に詳細があります。

ユーザーの処置: 表の状態を変更するよう試みているときにエラーが起こった場合、表スペース全体にフィルターを掛けてください。診断情報を保管しておき、IBM サービスに連絡してください。

SQL2200 - SQL2299

SQL2200N 表または索引名の修飾子が長すぎるか、表または索引名の一部として指定されていません。

説明: 表または索引は、完全修飾を行う必要があります。形式は *authid.name* で、ここで *authid* は 1 から 30 文字、表の *name* は 1 から 128 文字、索引の *name* は 1 から 18 文字 (MBCS 環境の場合はバイト) でなければなりません。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 正しい修飾子の入った完全修飾名を指定して、コマンドを再発行してください。

SQL2203N **tablename** パラメーターが無効です。表名が長すぎる、許可 ID しか指定されていない、表名が指定されていない、名前前のアドレスが無効、のいずれかです。

説明: 表名は必須です。完全修飾でなければならず、形式 *authid.name* で、ここで *authid* は 1 から 30 文字、*name* は 1 から 128 文字 (MBCS 環境ではバイト) でなければなりません。表名は、有効なアプリケーション・アドレスに位置している必要があります。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 正しい表名を使用して、コマンドを再発行してください。

SQL2204N **iname** パラメーターが無効です。索引名が長すぎるか、許可 ID しか指定されていないか、または索引名のアドレスが無効です。

説明: 索引を指定する場合、完全修飾しなければならず、形式は *authid.name* で、ここで *authid* は 1 から 30 文字、*name* は 1 から 18 文字 (MBCS 環境の場合はバイト) でなければなりません。索引は、有効なアプリケーション・アドレスに位置している必要があります。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 有効な索引名を使用して、コマンドを再発行してください。

SQL2205N 指定された索引は無効です。理由コード: “<reason-code>”

説明: 指定された索引パラメーターは、要求された操作には無効です。理由コードの説明は以下のとおりです。

- 1 指定された “<schema>”.“<table-name>” または “<schema>”.“<index-name>” に、指定された索引が存在しません。
- 2 指定された索引は拡張索引です。表の再編成ユーティリティは、索引拡張子に基づいて索引をサポートしていません。

連合システム・ユーザー: この状態はデータ・ソースによっても検出できます。

ユーティリティまたは操作が処理を停止しました。

ユーザーの処置: 有効な索引で、または索引を指定せずにコマンドを再実行依頼してください。

SQL2207N **datafile** パラメーターで指定されたファイル・パスが無効です。

説明: *datafile* パラメーターが、デフォルト・ファイル・パスを示す値ではありません。また、*datafile* パラメーターは、有効なデフォルト値ではありません。以下のいずれかが適用される可能性があります。

- ポインターが無効です。
- ポインターが、ファイル・パスの宛先に対して長すぎるストリングを指しています。
- 指定されたパスの値が無効です (サーバー・マシン上で)。

- ・ サーバー・マシンのファイル・パスが、適切な区切り文字で終了していません。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: 有効な `datafile` パラメーターを使用して、コマンドを再発行してください。

SQL2208N table space パラメーターで指定された表スペースが無効です。

説明: `table space` パラメーターに、有効な値が入っていません。下記のいずれかの状態が存在する可能性があります。

- ・ ポインターが無効です。
- ・ ポインターが、表スペース名に対して長すぎるストリングを指しています。
- ・ 指定された表スペースが存在しません。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: 有効な `table space` パラメーターを指定してコマンドを再発行するか、または `table space name` パラメーターを使用しないでください。後者の場合は、表再編成ユーティリティーが、表自体が存在する表スペースを使用します。

SQL2211N 指定された表が存在しません。

説明: 表がデータベースに存在しません。表名または許可 ID が正しくありません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効な表名を使用して、コマンドを再発行してください。

SQL2212N 指定された表は視点です。表再編成ユーティリティーを視点に対して実行することはできません。

説明: 表再編成ユーティリティーを視点に対して実行することはできません。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: 有効な表名を使用して、コマンドを再発行してください。

SQL2213N 指定された表スペースは、システム一時表スペースではありません。

説明: 表の再編成ユーティリティーでは、指定される表スペースがシステム一時表スペースでなければなりません。与えられた表スペース名は、システム一時表を保持するために定義されている表スペースではありません。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: システム一時表スペースの名前を使用してコマンドを再実行依頼するか、あるいは表スペース名パラメーターを使用しないでください。後者の場合は、表再編成ユーティリティーが、表自体が存在する表スペースを使用します。

SQL2214N 表 “<name>” で、表再編成ユーティリティーを実行する権限がありません。

説明: 適切な権限 (SYSADM または DBADM 権限、あるいはその表での CONTROL 特権) を持たずに、指定された表を再編成しようとした。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: 適切な権限または特権を持つユーザーとしてログオンして、`reorganize table` ユーティリティー・コマンドを再発行してください。

SQL2215N データベースへこれまでの作業をコミットしている間に、SQL エラー “<sqlcode>” が起きました。

説明: ユーザーは、`Reorganize Table` コマンドに指定されたデータベースにすでに接続されています。これまでの作業をデータベースに対してコミットしているときに、エラーが起きました。

ユーティリティーは、ロールバックもデータベース接続の切断も行わずに、処理を停止します。

ユーザーの処置: 詳細な情報については、メッセージの SQLCODE (message number) を参照してください。変更を行って、コマンドを再発行してください。

SQL2216N データベースの表の再編成中に、SQL エラー “<sqlcode>” が起きました。

説明: データベース表の再編成中に、エラーが発生しました。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 詳細な情報については、メッセージの SQLCODE (message number) を参照してください。変更を行って、コマンドを再発行してください。

SQL2217N REORG ユーティリティによって使用されているシステム一時表スペースのページ・サイズは、表データが存在する (LONG または LOB 列データ、あるいはその両方を含む) 表スペースのサイズに一致していなければなりません。

説明: システム一時表が REORG ユーティリティに明示的に指定されている場合、REORG ユーティリティによって使用されているシステム一時表スペースのページ・サイズは、表データが存在する (LONG または LOB 列データ、あるいはその両方を含む) 表スペースのサイズに一致していなければなりません。以下のいずれかが、この制約事項に違反しています。

- 表のデータが、指定されたシステム一時表スペースのページ・サイズとは異なるページ・サイズを持つ表スペースに存在しています。

- システム一時表スペースおよび表の通常データのページ・サイズとは異なるページ・サイズを持つ表スペースにデータが存在する LONG または LOB 列、あるいはその両方が表に入っています。

システム一時表スペースが REORG ユーティリティに指定されていなかった場合、このユーティリティは内部的にシステム一時表スペースを検索していました。表データと同じページ・サイズを使用するシステム一時表スペースがデータベースに存在しなかったか、あるいはその時点で使用可能ではありませんでした。

ユーザーの処置: 表の LONG または LOB データ、あるいはその両方が存在する表スペースのページ・サイズとは異なるページ・サイズを持つ表スペースに、再編成される表が存在している場合、システム一時表スペースを REORG ユーティリティに与えることはできません。システム一時表スペースを指定せずに REORG 要求を出し直してください。

表データと同じページ・サイズを使用するシステム一時表スペースがデータベースに存在しない場合、その表データのページ・サイズに一致するページ・サイズでシステム一時表スペースを作成してください。

表データと同じページ・サイズを使用するシステム一時表スペースがデータベースに存在していても、コマンドを出したときに使用可能ではなかった場合、システム一時表スペースが使用可能になってからコマンドを出し直してください。

SQL2300 - SQL2399

SQL2300N 表名の修飾子が長すぎるか、または表名の一部として指定されていません。

説明: 表名は完全修飾を行う必要があります。形式は *authid.tablename* で、ここで *authid* は 1 から 30 文字、*tablename* は 1 から 128 文字 (MBCS 環境の場合はバイト) でなければなりません。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 正しい修飾子の入った完全修飾表名を指定して、コマンドを再発行してください。

SQL2301N *tablename* パラメーターが無効です。パラメーターが長過ぎるか、許可 ID しか指定されていないか、または名前前のアドレスが無効です。

説明: 完全修飾でなければならず、形式 *authid.name* で、ここで *authid* は 1 から 30 文字、*name* は 1 から 128 文字 (MBCS 環境ではバイト) でなければなりません。また有効なアプリケーション・アドレスでなければなりません。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 正しい表名を使用して、コマンドを再発行してください。

SQL2302N 索引リストは無効です。リストのアドレスが無効か、リストの項目数が指定された索引の数より少ないか、またはリスト内の索引のアドレスが無効です。

説明: リストのアドレスが無効か、リストの項目数が指定された索引の数より少ないか、またはリスト内の索引のアドレスが無効です。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 有効な索引リストを指定して、コマンドを再発行してください。

SQL2303N *statsopt* パラメーターが無効です。

説明: Run Statistics コマンドの *statsopt* パラメーターは、以下のいずれかでなければなりません。

- T (基礎表のみ)
- I (基本索引のみ)
- B (基礎表と基本索引の両方)
- D (表と分散)
- E (表、分散、基本索引)
- X (拡張索引のみ)
- Y (拡張索引と基礎表)
- A (すべて)

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 有効な *statsopt* パラメーターを使用して、コマンドを再発行してください。

SQL2304N *sharelev* パラメーターが無効です。参照の場合は 'R'、変更の場合は 'C' でなければなりません。

説明: RUN STATISTICS コマンドの *sharelev* パラメーターは、参照の場合は R、変更の場合は C でなければなりません。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 有効な *sharelev* パラメーターを使用して、コマンドを再発行してください。

SQL2305N 指定された表は視点です。ユーティリティを視点に対して実行することはできません。

説明: 指定された *tname* パラメーターが、表以外の視点です。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 有効な *tname* パラメーターを使用して、コマンドを再発行してください。

SQL2306N 表または索引 “<name>” が存在しません。

説明: “<name>” で示された表または索引がデータベースに存在しないか、または “<name>” で示された索引が、指定された表に定義されていません。表またはいずれかの索引の修飾子が正しくない可能性があります。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 有効な表名および索引を使用して、コマンドを再発行してください。

SQL2307N 指定された表はシステム表です。
Runstats ユーティリティをシステム表に対して実行することはできません。

説明: Run Statistics ユーティリティ・コマンドは、システム表に対して実行されていない可能性があります。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 有効な表名を使用して、コマンドを再発行してください。

SQL2308N 索引名 “<name>” の修飾子が長すぎるか、または索引名の一部として指定されていません。

説明: 索引名は完全修飾名でなければなりません。形式は *authid.name* で、*authid* は 1 から 30 文字で、*name* は 1 から 18 文字 (MBCS 環境ではバイト) でなければなりません。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 正しい修飾子の入った完全修飾名を指定して、コマンドを再発行してください。

SQL2309N 索引名 “<name>” が無効です。名前が長すぎるか、または修飾子だけが指定されています。

説明: 索引名は完全修飾名でなければなりません。形式は *authid.name* で、*authid* は 1 から 30 文字で、*name* は 1 から 18 文字 (MBCS 環境ではバイト) でなければなりません。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 有効な索引を指定して、コマンドを再発行してください。

SQL2310N ユーティリティが統計を生成できませんでした。エラー “<sqlcode>” が返されました。

説明: ユーティリティが統計の収集中に、エラーが起きました。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージ・エラー番号を調べてください。変更を行って、コマンドを再発行してください。

SQL2311N **Run Statistics** ユーティリティを、表 “<name>” で実行する権限がありません。

説明: 適切な権限 (SYSADM または DBADM 権限、あるいはその表での CONTROL 特権) を持たずに、指定された表の統計を実行しようとしました。RUNSTATS で指定されている表が、階層のルート表である場合、メッセージで返される表名は、指定されたルート表の副表である可能性があります。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 適切な権限を取得しないようには、Run Statistics ユーティリティ・コマンドを呼び出さないようにしてください。

SQL2312N 操作を実行するためには、統計ヒープ・サイズが小さすぎます。推奨されるヒープ・サイズは "**<num>**" ページです。

説明: データベース構成パラメーター *stat_heap_sz* の設定が、表で 非均等分散統計を収集するには十分な大きさではありません。

ユーザーの処置: データベース構成パラメーター *stat_heap_sz* を推奨値に更新して、もう一度やり直してください。

SQL2313W 統計ヒープ内で使用可能なメモリーのすべてで使用されています。統計は合計 "**<n2>**" 行のうち最初の "**<n1>**" 行について収集されます。

説明: データベース構成パラメーター *stat_heap_sz* の設定が、表で 非均等分散統計を収集するには十分な大きさではありません。 **<n2>** 行の内、 **<n1>** 行のみが処理できました。

ユーザーの処置: データベース構成パラメーター *stat_heap_sz* を 20% に更新して、もう一度やり直してください。

SQL2314W いくつかの統計が不整合な状態になっています。最新の収集された "**<object1>**" 統計は、既存 "**<object2>**" 統計と矛盾していません。

説明: 表で RUNSTATS を発行すると、表レベルの統計が貴人の索引レベルと矛盾する状態にな

る可能性があります。たとえば、索引レベルの統計が特定の表で収集された場合、またこの表から重要な行数が削除された場合は、表で RUNSTATS を発行すると、カーディナリティー表が不整合状態にある FIRSTKEYCARD よりも小さくなる結果となります。同様に、索引に RUNSTATS を発行すると、すでに存在している表レベルの統計を不整合な状態にしてしまいます。たとえば、表レベルの統計が特定の表で収集された場合、またこの表から重要な行数が削除された場合は、索引に対して表で RUNSTATS を発行すると、いくつかの列の COLCARD が表カーディナリティーよりも大きい結果となります。

ユーザーの処置: 索引のみに RUNSTATS を発行する場合は、表でも RUNSTATS を発行し、表レベルと索引レベルの統計が整合性を保つようにしてください。同様に、表のみで RUNSTATS を発行した場合は、索引にも RUNSTATS を発行してください。

SQL2400 - SQL2499

SQL2400N **BACKUP** コマンドで指定されたタイプが無効です。データベース全体のバックアップする場合は **0**、変更部分だけをバックアップする場合は **1** のいずれかです。

説明: タイプは、データベース全体をバックアップする場合は **0** に、変更のみをバックアップする場合は **1** に設定する必要があります。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 正しいタイプを使用して、ユーティリティ・コマンドを再発行してください。

SQL2401N “変更のみバックアップ” は、データベース全体のバックアップが完了するまで実行できません。タイプは **0** でなければなりません。

説明: 最初にデータベース全体のバックアップが要求されないで、変更部分のみバックアップが要求されたか、または内部ファイルが壊れているために、**BACKUP** ユーティリティが、取得済みの全バックアップを判別できません。変更部分のみバックアップは、データベース全体のバックアップの後まで、使用できません。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 正しいタイプを使用して、ユーティリティ・コマンドを再発行してください。

SQL2403N データベースに対してユーティリティを実行する権限がありません。

説明: **SYSADM** または **DBADM** 権限を持たずに、データベース・ユーティリティを実行しようとした。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 適切な権限を取得しないうちは、ユーティリティ・コマンドを呼び出さないようにしてください。

SQL2404N バックアップのターゲット・メディアがいっぱいです。ターゲット・メディアには、少なくとも “<number>” バイトの空きが必要です。

説明: バックアップのターゲット・メディアに、内部サブディレクトリと情報ファイルを作成するための十分なスペースがありません。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 少なくとも示されたバイト数のフリー・スペースを持つバックアップ・メディアを準備して、コマンドを再発行してください。

SQL2405N 前の **RESTORE** が不完全であるために、**BACKUP** が実行できません。

説明: 復元処理中のシステム障害、または異常終了した **RESTORE** のために、データベースが不整合状態にあります。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: **RESTORE** コマンドを再発行してください。

SQL2406N データベースのロールフォワードが必要なために、**BACKUP** が実行できません。

説明: データベースが不整合状態にあるために、バックアップが失敗しました。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: **ROLLFORWARD** コマンドを使用して、データベースを使用可能にしてください。その後で、**BACKUP** コマンドを再発行してください。

SQL2407N ファイル “<name>” の読み取りで、入出力エラーが起きました。
RESTORE が完了したかどうかを判断できないために、**BACKUP** が実行できません。

説明: 示されたファイルが、入出力エラーのために読み取れません。このファイルが存在するために、**BACKUP** または **RESTORE** コマンドが終了できません。このファイルが削除されると、処理は正常に終了します。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 前に実行されたプロセスを判別してください。示されているファイルを削除して、前のコマンドを再発行してください。

SQL2408W データベースはバックアップされましたが、ファイル “<name>” の削除中に入出力エラー “<error>” が起きました。

説明: **BACKUP** コマンドは正常に実行されました。示されているファイルは、入出力エラーのために削除されませんでした。

ユーティリティは処理を完了します。

ユーザーの処置: メッセージに示されたファイルを削除してください。

SQL2409N 変更部分のみの **BACKUP** を行うときは、最新のバックアップ・イメージを使用する必要があります。

説明: 変更部分のみのバックアップを行おうとしましたが、指定されたバックアップ・イメージが最新のバックアップではないか、または前回の変更部分のみのバックアップが失敗しています。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 最新のバックアップ・イメージを使用して、コマンドを再発行してください。最新のバックアップ・イメージを利用できないか、または前回の変更部分のみのバックアップが

失敗している場合は、変更部分のみのバックアップではなく、全データベースのバックアップを要求するコマンドを再発行してください。

SQL2410N “変更部分のみバックアップ” は、データベースの **ROLLFORWARD** が可能な場合、または **BACKUP** がユーザー出口によって行われている場合は実行できません。

説明: ロールフォワード可能なデータベースに変更部分のみのバックアップを要求したか、またはユーザー出口プログラムを使用して変更部分のみのバックアップを要求しました。

ユーザーの処置: 解決策は以下の通りです。

- データベースがロールフォワード可能な場合は、全データベースのバックアップを要求する **BACKUP** ユーティリティ・コマンドを再発行してください。
- データベース構成ファイルの **SQL_ENABLE_LOG_RETAIN** フラグと **SQL_ENABLE_USER_EXIT** フラグの切り換えによって、ロールフォワードを使用不可にします。その後で、変更部分のみのバックアップを要求する **BACKUP** ユーティリティ・コマンドを再発行してください。
- ユーザー出口プログラムを使用してバックアップが要求された場合は、ユーザー出口プログラムを使用せずに変更部分のみのバックアップを行うように、**BACKUP** ユーティリティ・コマンドを再発行してください。
- 標準装置に対して、ユーザー出口プログラムを使用してバックアップが要求された場合は、ユーザー出口プログラムを使用せずに変更部分のみのバックアップを行うように、**BACKUP** ユーティリティ・コマンドを再発行してください。

SQL2411C ユーティリティの実行中に、入出力エラーが起きました。物理的にディスクに書き込めないか、またはディスクがいっぱいです。

説明: ユーティリティがディスクまたはディスクセットへの書き込み中に、オペレーティング・システム・エラーが起きました。実際の戻りコードは、SQLCA の「SQLERRD[0]」フィールドにあります。

ユーザーの処置: SQLCA 内の「SQLERRD[0]」フィールドにあるエラー戻りコードを調べてください。可能であれば、エラーを修正して、コマンドを再発行してください。

SQL2412C データベース・ユーティリティの実行中に、壊れたデータベース・ページが見つかりました。

説明: ユーティリティの処理中に、壊れたデータベース・ページが見つかりました。データベースは予測不能状態になり、ユーティリティは続行できません。

ユーザーの処置: メッセージ番号 (SQLCODE) を記録してください。

トレースが活動状態の場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから、独立トレース機能を呼び出してください。この機能の使用法については、*問題判別の手引き* の独立トレース機能を参照してください。以下の情報を用意して、技術サービス担当者に提供してください。

- 問題記述
- SQLCODE またはメッセージ番号
- SQLCA (可能であれば)
- トレース・ファイル (可能であれば)

SQL2413N ロールフォワードの **logretain** または **userexit** が活動状態になっていないか、またはデータベースに対するバックアップ保留条件が有効になっているために、オンライン・バックアップが許されません。

説明: リカバリー時に、正方向リカバリーが要求されている場合に、データベースが正方向リカバリー用にロギングされていないと、オンライン・バックアップは実行できません。正方向リカバリーは、データベース構成の **logretain** パラメーター、または **userexit** パラメーターのどちらかを設定することで効果をもち、それによって、データベースのオフライン・バックアップが実行されます。

ユーザーの処置: オフライン・バックアップを行うか、またはロールフォワード・リカバリーのためにデータベースを再構成してオフライン・バックアップを発行し、以後のオンライン・バックアップを可能にしてください。

SQL2414W 警告！ 装置 "**<device>**" には、バックアップ制御情報が入る十分なスペースがありません。このメディアにはバックアップ情報が含まれません。

説明: バックアップ処理中に、1 つ以上のメディアがいっぱいになった後で、新しいメディアが取り付けられました。このメディアにはバックアップ制御情報を含むための十分なスペースがないので、復元操作中は使用するべきではありません。

ユーザーの処置: 新しいメディアを取り付けるか、現在のメディアの位置付けを変えて、このヘッダーに必要なスペースを提供できるようにした後で、操作を続行するかどうかを **callerac** パラメーターに指定して、ユーティリティに戻ってください。

**SQL2416W 警告！装置 “<device>” がいっぱい
です。新しいメディアをマウン
トしてください。**

説明： ユーティリティーが使用しているテープが
いっぱいになりました。

ユーザーの処置： 別のテープを取り付けて、処理
を続行するかどうかを *callerac* パラメーターに指
定して、処理を続けてください。

**SQL2417N アーカイブ・ログは回復不能データ
ベース上では許可されません。**

説明： アーカイブ・ログ・コマンドは、リカバリ
ー可能モードにあるデータベースでのみ使用でき
ます。LOGRETAIN または USEREXIT が使用可
能になっている場合、データベースはリカバリ
ー可能モードにあります。

ユーザーの処置： 指定されたデータベースがリカ
バリー可能モードにあることを確認して、コマン
ドを再発行してください。

**SQL2418N バックアップ用に指定されたデータ
ベースが存在しません。**

説明： Database Backup コマンドの *dbase* パラメ
ーターに指定されたデータベースが見つかりませ
ん。

ユーザーの処置： データベース・バックアップ・
ユーティリティーに正しいデータベース別名が指
定されており、この別名に対するデータベースが
存在することを確認してください。正しい別名
を指定して、コマンドを再発行してください。

**SQL2419N ターゲット・ディスク “<disk>” が
いっぱいになりました。**

説明： データベース・ユーティリティーの処理中
に、ターゲット・ディスクがいっぱいになりまし
た。ユーティリティーは停止し、ターゲットは
削除されます。

ユーザーの処置： ユーティリティーが使用できる

十分なディスク・スペースが存在することを確認
するか、またはターゲットを、テープなどの他の
メディアに変更してください。

unix ベース・システムでは、カレント・ユーザー
ID に許可されている最大ファイル・サイズを超
えたために、このディスク・フル状態になる場合
があります。 *chuser* コマンドを使用して、*fsize*
を更新してください。リブートが必要になる場
合があります。

unix ベース・システム以外では、オペレーティン
グ・システムに許可されている最大ファイル・サ
イズを超過したために、このディスク・フル状態
になる場合があります。ターゲットをテープな
どの別のメディアに変更するかあるいは複数のメ
ディアを使用してください。

**SQL2420N 装置 “<device>” には、初期バック
アップ制御情報が入る十分なスペ
ースがありません。**

説明： バックアップ処理中に、バックアップ・イ
メージの先頭に初期バックアップ・ヘッダーを作
成する必要があります。このヘッダーは、テー
プにバックアップするときは、1本のテープに収
まらなくてはなりません。このテープには、こ
のヘッダーを含むのに十分なスペースがありませ
ん。

ユーザーの処置： バックアップ操作を再実行し、
出力を新しいテープに変更するか、またはこのヘ
ッダーに十分なスペースが提供できるように、現
在のテープの位置付けを変更してください。

**SQL2421N ロールフォワード・リカバリーが使
用できないために、表スペース・レ
ベルのバックアップが許されませ
ん。**

説明： リカバリー時に、正方向リカバリーが要求
されている場合に、データベースが正方向リカバ
リー用にロギングされていないと、表スペース・
レベルのバックアップは実行できません。正方
向リカバリーは、データベース構成の *logretain*

パラメーター、または userexit パラメーターのどちらかを設定することによって効果をもち、それによって、データベースのオフライン・バックアップが実行されます。

ユーザーの処置: データベース全体のバックアップを実行するか、またはロールフォワード・リカバリー用にデータベースを再構成して、以降の表スペース・レベルのバックアップが実行できるように、オフライン・バックアップを実行してください。

SQL2422N 互換性のない表スペースが存在するため、バックアップ・レベルのバックアップ API では、データベースがバックアップできません。

説明: このデータベースには、データベース・サブディレクトリー以外のロケーションに定義されている表スペースが入っています。これは、使用中の API と互換性がありません。

ユーザーの処置: 現在のバックアップ API を使用して、データベースをバックアップしてください。

SQL2423N 一部の索引ファイルが脱落しているために、データベースをバックアップすることはできません。

説明: バックアップに必要な一部の索引ファイルが脱落しています。データベースをバックアップする前に、これらの索引ファイルを再作成しなければなりません。

ユーザーの処置: 'db2recr1' プログラムを実行し、脱落している索引ファイルを再作成してから、バックアップ・コマンドを再発行してください。

SQL2424N データ・リンク・マネージャーでの非同期コピー操作が完了していないため、バックアップは正常に終了しませんでした。

説明: TSM またはベンダー提供のアーカイブ・サーバーが操作可能状態でない可能性があります。

ユーザーの処置: TSM またはベンダー提供のアーカイブ・サーバーが操作可能状態であることを確認し、バックアップ・コマンドを再発行してください。

SQL2425W オンライン・バックアップ用のログ・ファイルが切り捨てられませんでした。

説明: オンライン・バックアップの間、バッファされたログ・レコードはすべて強制的にディスクに送られ、最後のアクティブ・ログ・ファイルは切り捨てられます。現在のバックアップでは、最後のアクティブ・ログ・ファイルの切り捨てに失敗しました。この結果、新しいログ・レコードは、バックアップ中に使用されていた最後のログ・ファイルに書き込まれ続けます。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。バックアップ中に使用されていた最後のアクティブ・ログ・ファイルは、いっぱいになった時点で非活動状態になります。

SQL2426N このデータベースでは、増分バックアップは使用できません。変更の追跡が活動状態であることを確認し、このデータベースの全バックアップを実行してください。

説明: 増分バックアップは、変更の追跡がデータベースに対して活動状態にされるまで使用できないため、全データベース・バックアップが実行されました。全データベース・バックアップは、以降の増分バックアップのいずれかを復元するとき必要になります。

ユーザーの処置: このデータベースの増分バックアップを使用可能にするには、次のコマンドを発行してこのデータベースの変更の追跡を活動状態にしてください。

```
UPDATE DB CFG FOR database-name USING TRACKMOD ON
```

次に全データベース・バックアップを実行してください。

SQL2500 - SQL2599

SQL2501C データベースは復元されましたが、復元されたデータベース内のデータは使用できません。

説明: RESTORE ユーティリティーが、復元されたデータベースからデータを読み出すことができなかったか、またはデータベースの一部のみが復元されました。両方の原因が、復元されたデータベースが使用できないことを示しています。

データベースは使用できず、RESTORE ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: RESTORE コマンドを再発行してください。

SQL2502C バックアップ・ファイルの読み取り中に、エラーが起きました。物理的にディスクの読み取りができないか、または指定されたディスクに有効なバックアップ・ファイルが入っていません。

説明: RESTORE ユーティリティーがディスクまたはディスクセットを読んでいるときに、オペレーティング・システム・エラーが起きたか、そのディスクまたはディスクセットに、データベース・ディレクトリーのバックアップが入っていないか、あるいは以前のバックアップの結果が入っていません。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: 指定した入力ドライブがディスクセット・ドライブの場合は、現在使用中のディスクセットをチェックしてください。入力ドライブがハード・ディスク・ドライブの場合は、それが正しいハード・ディスクであることを確認してください。上記が適用可能であれば、正しい入力ドラ

イブとディスクセットを使用して、コマンドを再発行してください。

SQL2503N **RESTORE** が正常に終了しませんでした。データベースの復元に使用したバックアップに、不適切なデータベースが含まれています。

説明: バックアップ・ディスクに入っているデータベースの名前が、RESTORE コマンドに指定されたデータベース名と一致しません。前のリリースのバックアップ・イメージが復元されたために、RESTORE ユーティリティーは、データベースが復元されるまでその名前を判別できません。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: 間違ったデータベース名をコマンドで使用した場合は、正しいデータベース名を使用して、コマンドを再発行してください。指定した入力ドライブがディスクセット・ドライブの場合は、現在使用中のディスクセットをチェックしてください。入力ドライブがハード・ディスク・ドライブの場合は、それが正しいハード・ディスクであることを確認してください。上記が適用可能であれば、正しい入力ドライブとディスクセットを使用して、コマンドを再発行してください。

SQL2504W 最初のバックアップ・ディスクセットを、ドライブ “<drive>” に挿入してください。

説明: RESTORE ユーティリティーは最初のバックアップ・ディスクセットを読んで、バックアップされたデータベース・ディレクトリーのパスを決定します。バックアップ・メディアがディスクセットで、そのディスクセットが、指定された入力ドライブ内で見つからない場合には、ユーティリティ

ーが呼び出し側へこの指示を返します。呼び出し側プログラムは、ユーザーに対して照会を行い、ユーザーからの応答を受け取ってユーティリティーへ戻ります。

ユーティリティーは呼び出し側からの応答を待ちます。

ユーザーの処置: ディスケットの挿入をユーザーに促して、処理を継続するか終了するかを指示する *callerac* パラメーターを使用して、ユーティリティーへ戻ってください。

SQL2505W 警告！ データベース “<name>” が “<drive>” に存在します。このデータベースのファイルが削除されることとなります。

説明: 復元中のデータベースがすでに存在する場合は、復元プロセスが開始される前に、そのファイルが削除されます。ユーティリティーは、この警告を呼び出し側に戻します。呼び出し側は、ユーザーに対して照会を行い、ユーザーからの応答を受け取ってユーティリティーに戻ります。一度データベースがドロップされると、二度とアクセスできません。

ユーティリティーは呼び出し側からの応答を待ちます。

ユーザーの処置: ユーザーにデータベースが消去されることを警告し、処理を継続するかまたは終了するかを指示する *callerac* パラメーターを使用して、ユーティリティーへ戻ってください。

SQL2506W データベースは復元されましたが、データベースに余分なファイルがある可能性があります。

説明: 変更部分のみバックアップが実行され、バックアップ間でデータベース・ファイルが削除されていた場合は、RESTORE ユーティリティーが、それらの削除されたファイルをデータベースに追加します。入出力エラー、または内部的に停止したデータベースへの内部接続の失敗のため

に、復元プロセスが余分なファイルを削除できませんでした。

ユーティリティーは正常に終了します。

ユーザーの処置: データベースをそのまま使用するか、またはもう一度復元してください。

RESTORE ユーティリティーを再実行する前に、DB2 構成がリカバリされたデータベース構成と互換であることを確認してください。

SQL2507W RESTORE ユーティリティーが、データベースに正しくバインドされていません。

説明: RESTORE ユーティリティーがデータベースにバインドされなかったか、またはデータベースにバインドされたユーティリティーのパッケージが、インストールされているバージョンの DB2 と互換ではないために、すべてのユーティリティーがデータベースに再バインドされました。ただし、インストールされているバージョンの DB2 とパッケージの間には、ユーティリティーとバインド・ファイルが互換ではないという、タイム・スタンプの矛盾が存在しています。

データベースは復元されていますが、ユーティリティーが正しくバインドされていません。

ユーザーの処置: DB2 をインストールするかまたは最新の更新を再適用して、ユーティリティー・コマンドを再発行してください。

SQL2508N Database Restore のタイム・スタンプ・パラメーター “<timestamp>” が無効です。

説明: nul または有効なタイム・スタンプの一部、タイム・スタンプの完全なコンポーネントから構成される部分のいずれかが timestamp パラメーターに入っていない限りなりません。

ユーザーの処置: 有効なタイム・スタンプの値を使用して、復元処理を再実行してください。

SQL2509N database drive パラメーターが無効です。

説明: 指定されたドライブが存在していないか、あるいはデータベースが指定されたドライブ上に存在しないか、または指定されたドライブにカタログされていません。RESTORE は *db2uexit* コマンドを使用して、データベースの復元を実行する必要があります。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 有効なドライブを使用して、ユーティリティ・コマンドを再発行してください。

SQL2510N オペレーティング・システムのセマフォ・エラーが起きました。

説明: wait または post セマフォで、エラーが起きました。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーを停止して再始動し、ユーティリティ・コマンドを再発行してください。

SQL2511N ユーティリティが、データベースのドロップ中に、エラー “<error>” を見つけました。

説明: ユーティリティがデータベースをドロップできませんでした。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージのエラー番号を調べてください。変更を行って、コマンドを再発行してください。

SQL2512N ユーティリティが、データベースの作成中に、エラー “<error>” を見つけました。

説明: ユーティリティがデータベースを作成できませんでした。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージのエラー番号を調べてください。変更を行って、コマンドを再発行してください。

SQL2513N ユーティリティが、データベースの名前変更中に、エラー “<error>” を見つけました。

説明: ユーティリティがデータベース名を変更できませんでした。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージのエラー番号を調べてください。変更を行って、コマンドを再発行してください。

SQL2514N RESTORE が正常に終了しませんでした。データベースの復元に使用したバックアップには、インストールされているデータベース・マネージャーのバージョンと互換性のないリリース番号を持つデータベースが含まれています。

説明: 復元されたデータベースのリリース番号が、インストールされているバージョンのデータベース・マネージャーのリリース番号と互換性がありません。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーのリリース・レベルと互換性のあるバックアップを使用して、コマンドを再発行してください。

SQL2515N データベースに対して RESTORE ユーティリティを実行する権限がありません。

説明: SYSADM 権限を持たずに、RESTORE ユーティリティを実行しようとした。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 適切な権限を取得しないうち

は、RESTORE ユーティリティ・コマンドを呼び出さないようにしてください。

SQL2516N ワークステーション上の少なくとも 1 つのデータベースが使用中なので、RESTORE ユーティリティは完了できません。

説明: いくつかの状況においては、RESTORE ユーティリティは、データベースに関連するディレクトリー名を変更することによって、データベースを異なったディレクトリーへ移動することができます。ただし、ワークステーション上のプロセスがデータベースを使用している場合には、上記の処理を行うことはできません。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: ワークステーション上のデータベースが使用中でなくなるまで待って、コマンドを再発行してください。

SQL2517W 復元されたデータベースは現在のリリースに移行されました。

説明: 復元されているデータベースは、前のリリースの DB2 を使用してバックアップされていました。RESTORE ユーティリティが、データベースを現在のリリース形式にマイグレーションしました。

RESTORE コマンドを発行したユーザーには、データベースに対する DBADM 権限が与えられます。他のユーザーがそのデータベースを使用する場合には、DBADM 権限を持つデータベース管理者は、そのデータベースの特定ユーザーに対して授与特権を与える必要があります。

RESTORE ユーティリティは正常に終了します。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL2518N RESTORE が正常に終了しませんでした。データベース構成ファイルの復元中に、入出力エラーが起きました。

説明: 入出力エラーのために、データベース構成ファイルが復元できませんでした。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 入出力エラーが修復可能かどうかを判別してください。コマンドを再発行してください。

SQL2519N データベースは復元されましたが、復元されたデータベースは現在のリリースに移行されませんでした。エラー “<sqlcode>” がトークン “<tokens>” で戻されました。

説明: バックアップ・イメージは、前のリリースのデータベースです。データベース・ファイルが復元された後で、そのデータベースを現在のリリースにマイグレーションしようとしていました。マイグレーションは失敗しました。

ユーティリティは処理を完了しましたが、データベースはマイグレーションされませんでした。

ユーザーの処置: 詳細な情報については、メッセージの SQLCODE (message number) を参照してください。データベースを使用する前に、変更を行い、Migrate コマンドを発行してください。

SQL2520W データベースが復元されました。構成ファイルのバックアップ・バージョンが使用されました。

説明: データベースが復元されるときに、現在のデータベース構成ファイルが、必ずしもそのバックアップ・バージョンで置き換えられるわけではありません。現在のデータベース構成ファイルは使用不可能でした。したがって、バックアップ・バージョンで置き換えられました。

ユーティリティは正常に終了しました。

ユーザーの処置: 復元プロセスの後で、データベース構成ファイルのいくつかの値が異なる可能性があります。その構成パラメーターが期待どおりの値に設定されているか調べてください。構成パラメーターが必要な値に設定されていることをチェックしてください。

SQL2521W データベースは復元されましたが、“<file-type>”ファイルの削除中に、入出力エラー“<code>”が起きました。

説明: 復元プロセスは正常に実行されました。指定されたファイルは、入出力エラーのために削除されませんでした。

復元処理が異常終了したかどうかを判別するには、“.BRG”ファイルを使用します。このファイルは、復元操作の対象であったデータベースのローカル・データベース・ディレクトリー内に置かれます。

拡張子“.BRI”の付いたファイルは、増分RESTORE 操作の進行状況に関する情報を保管します。このファイルは、復元増分操作の対象となったデータベースのローカル・データベース・ディレクトリー内に置かれます。

このファイルの名前は、データベース・トークンにファイル・タイプ拡張子を連結して作成されます。たとえば、データベース“SAMPLE”にデータベース・トークン“SQL00001”が割り当てられると、BRI ファイルには“instance/NODE0000/sqlldbidir/SQL00001.BRI”という名前が付きます。

ユーティリティーは正常に終了しました。

ユーザーの処置: .BRG または .BRI ファイルを手動で削除してください。ファイルが削除できない場合は、技術サービス担当者に連絡してください。

SQL2522N バックアップされたデータベース・イメージに指定されたタイム・スタンプの値と一致するバックアップ・ファイルが、複数存在します。

説明: バックアップ・イメージ・ファイルのファイル名は、データベース別名とタイム・スタンプのコンポーネントで構成されています。ファイル名は、ソース・データベース別名と、Database Restore 呼び出しに指定されたタイム・スタンプ・パラメーターから作成されます。タイム・スタンプの部分が、複数のバックアップ・イメージのファイル名が見つかるように、指定されていた可能性があります。

ユーザーの処置: 一致するバックアップ・ファイルが 1 つだけになるようにタイム・スタンプを指定して、操作をやり直してください。

SQL2523W 警告！ 名前は一致していても、バックアップ・イメージのデータベースとは異なる既存のデータベースに復元しようとしています。ターゲット・データベースは、バックアップ・バージョンによって上書きされます。ターゲット・データベースに関連するロールフォワード・リカバリー・ログは、削除されます。

説明: ターゲット・データベースのデータベース別名と名前が、バックアップ・イメージ・データベースの別名と名前と同じです。データベース・シードが、データベースが同じでないことを示しています。ターゲット・データベースは、バックアップ・バージョンによって上書きされません。ターゲット・データベースに関連するロールフォワード・リカバリー・ログは、削除されません。現在の構成ファイルは、バックアップ・バージョンで上書きされます。

ユーザーの処置: 処理の続行または終了を示している *callerac* パラメーターを指定して、ユーティリティーに戻ってください。

SQL2524W 警告！同じだと思われる既存のデータベースに復元しようとしていますが、既存のデータベースの別名 "`<dbase>`" はバックアップ・イメージの別名 "`<dbase>`" に一致していません。ターゲット・データベースは、バックアップ・バージョンによって上書きされます。

説明: ターゲット・データベースとデータベース・イメージのシードは同じなので、これらは同じデータベースであることを示していますが、データベース名は同じですが、データベース別名が異なります。ターゲット・データベースは、バックアップ・バージョンによって上書きされません。

ユーザーの処置: 処理の続行または終了を示している *callerac* パラメーターを指定して、ユーティリティーに戻ってください。

SQL2525W 警告！バックアップ・イメージのデータベースとは異なる既存のデータベースに復元しようとしていますが、既存のデータベースの別名 "`<dbase>`" はバックアップ・イメージの別名 "`<dbase>`" に一致していませんが、データベース名は同じです。ターゲット・データベースは、バックアップ・バージョンによって上書きされます。ターゲット・データベースに関連するロールフォワード・リカバリー・ログは、削除されます。

説明: ターゲット・データベースとデータベース・イメージの別名が異なり、データベース名が同じで、データベース・シードが同じではないので、これらは異なるデータベースであることを示しています。ターゲット・データベースは、バックアップ・バージョンによって上書きされません。ターゲット・データベースに関連するロールフォワード・リカバリー・ログは、削除されます。現

在の構成ファイルは、バックアップ・バージョンで上書きされます。

ユーザーの処置: 処理の続行または終了を示している *callerac* パラメーターを指定して、ユーティリティーに戻ってください。

SQL2526W 警告！バックアップ・イメージ・データベースと同じ既存のデータベースに復元しようとしています。別名は同じですが、既存のデータベースのデータベース名 "`<dbname>`" はバックアップ・イメージのデータベース名 "`<dbname>`" に一致していません。ターゲット・データベースは、バックアップ・バージョンによって上書きされます。

説明: ターゲット・データベースとデータベース・イメージのデータベース別名は同じで、データベース・シードも同じですが、データベース名が異なります。これらは同じデータベースです。ターゲット・データベースは、バックアップ・バージョンによって上書きされません。

ユーザーの処置: 処理の続行または終了を示している *callerac* パラメーターを指定して、ユーティリティーに戻ってください。

SQL2527W 警告！バックアップ・イメージ・データベースとは異なる既存のデータベースに復元しようとしています。既存のデータベースのデータベース名 "<dbname>" はバックアップ・イメージのデータベース名 "<dbname>" に一致していませんが、別名は同じです。ターゲット・データベースは、バックアップ・バージョンによって上書きされます。ターゲット・データベースに関連するロールフォワード・リカバリー・ログは、削除されます。

説明: ターゲット・データベースとデータベース・イメージの別名が同じで、データベース名が同じでなく、データベース・シードが同じではないので、これらは異なるデータベースであることを示しています。ターゲット・データベースは、バックアップ・バージョンによって上書きされません。ターゲット・データベースに関連するロールフォワード・リカバリー・ログは、削除されません。現在の構成ファイルは、バックアップ・バージョンで上書きされます。

ユーザーの処置: 処理の続行または終了を示している *callerac* パラメーターを指定して、ユーティリティーに戻ってください。

SQL2528W 警告！バックアップ・イメージ・データベースと同じ既存のデータベースに復元しようとしています。既存のデータベースの別名 "<dbase>" は、バックアップ・イメージの別名 "<dbase>" に一致しておらず、また既存のデータベースのデータベース名 "<dbname>" はバックアップ・イメージのデータベース名 "<dbname>" に一致していません。ターゲット・データベースは、バックアップ・バージョンによって上書きされます。

説明: ターゲット・データベースとデータベース・イメージの別名が異なり、データベース名が異なり、データベース・シードが同じなので、これらは異なるデータベースであることを示しています。現在のデータベースは、バックアップ・バージョンによって上書きされません。

ユーザーの処置: 処理の続行または終了を示している *callerac* パラメーターを指定して、ユーティリティーに戻ってください。

SQL2529W 警告！バックアップ・イメージ・データベースとは異なる既存のデータベースに復元しようとしています。既存のデータベースの別名 "<dbase>" はバックアップ・イメージの別名 "<dbase>" に一致しておらず、既存のデータベースのデータベース名 "<dbname>" はバックアップ・イメージのデータベース名 "<dbname>" に一致していません。ターゲット・データベースは、バックアップ・バージョンによって上書きされます。ターゲット・データベースに関連するロールフォワード・リカバリー・ログは、削除されません。

説明: ターゲット・データベースとデータベース・イメージの別名が異なり、データベース名が

異なり、データベース・シードが同じではないので、これらは異なるデータベースであることを示しています。現在のデータベースは、バックアップ・バージョンによって上書きされます。ターゲット・データベースに関連するロールフォワード・リカバリー・ログは、削除されます。現在の構成ファイルは、バックアップ・バージョンで上書きされます。

ユーザーの処置: 処理の続行または終了を示している *callerac* パラメーターを指定して、ユーティリティに戻ってください。

SQL2530N バックアップ・イメージが壊れています。このバックアップ・イメージからのデータベースの復元は不可能です。

説明: 復元中のバックアップ・イメージは壊れていて、データベースの復元を行うことはできません。

ユーザーの処置: 使用不可能なので、このバックアップ・イメージは廃棄してください。可能であれば、前のバックアップから復元してください。

SQL2531N 復元のために選択されたバックアップ・イメージは、無効なデータベース・バックアップ・イメージです。

説明: 復元のために選択されたファイルは、有効なバックアップ・イメージではありません。選択されたファイルが壊れているか、またはバックアップ・テープが正しく位置付けられていません。

ユーザーの処置: 正しいバックアップ・イメージ・ファイルの位置を判別して、Restore コマンドを再実行してください。

SQL2532N バックアップ・ファイルには、タイム・スタンプ “<timestamp>” にバックアップが行われた、データベース “<dbalias>” のイメージが含まれています。これは、要求されたバックアップ・イメージではありません。

説明: 復元のために選択されたファイルに、要求されたバックアップ・イメージが入っていません。イメージは、要求されたデータベースとは別のデータベースです。

ユーザーの処置: テープを使用している場合は、正しいテープが取り付けられていることを確認してください。復元またはロードをディスクから行っている場合は、ファイル名を変更する必要があります。ファイル名を、データベース名とタイム・スタンプに一致する正しいファイル名に変更してください。適切な処置を取った後で、コマンドを再発行してください。

SQL2533W 警告！装置 “<device>” のバックアップ・ファイルには、タイム・スタンプ “<timestamp>” にバックアップまたはアンロードが行われたデータベース “<database>” のイメージが含まれています。これは、要求されたバックアップ・イメージではありません。

説明: テープの位置から読み取られたバックアップ・イメージに、バックアップ・ファイルの最初のイメージのヘッダーと一致しないメディア・ヘッダーが入っています。

ユーザーの処置: テープが正しいバックアップ・ファイルに位置付けられていることを確認して、処理を続行するかどうかを示す *callerac* パラメーターを指定して、ユーティリティに戻ってください。

SQL2534W 警告！ 装置 "<device>" のメディアが、有効なバックアップ・メディア・ヘッダーに置かれていません。

説明: テープ位置から読み取られたデータに、有効なバックアップ・メディア・ヘッダーが入っていません。

ユーザーの処置: テープが正しい位置に取り付けられていることを確認して、処理を続けるかどうかを示す *callerac* パラメーターを指定して、ユーティリティに戻ってください。

SQL2535W 警告！ 装置 "<device>" のメディアが終わりに達しました。 次のソース・メディアをマウントしてください。

説明: テープの終わりに到達し、処理されるべきデータがまだ残っています。バックアップまたはロード・ソースの残りが、他の 1 つまたは複数のテープに存在しています。

ユーザーの処置: ソース・イメージの入った次の順番のテープを取り付けて、処理の続行または終了を示す *callerac* パラメーターを指定して、Restore または Load コマンドを再発行してください。

SQL2536W 警告！ 装置 <device> のバックアップ・イメージには、間違った順序番号が含まれています。正しい順序番号は <number> です。

説明: テープが、順序の異なるバックアップ・イメージ・ファイルに位置付けられています。バックアップ・イメージの入ったテープは、バックアップ・イメージの順序番号 "<sequence>" のファイルに位置付ける必要があります。

ユーザーの処置: バックアップ・イメージの入ったテープを正しいファイルに位置付け、処理の続行または終了を示す *callerac* パラメーターを指定して、Restore コマンドを再発行してください。

SQL2537N 復元後のロールフォワードが必要です。

説明: 復元されたデータベースを使用可能にするためのロールフォワードが必要ないことを示す SQLUD_NOROLLFWD が、データベース復元ユーティリティの *rst_type* パラメーターに指定されました。復元するデータベースはオンライン・モードでバックアップされているので、データベースを使用可能にするには、ロールフォワード処理が必要です。

ユーザーの処置: *rst_type* パラメーターに SQLUD_NOROLLFWD を指定せずに、Database Restore コマンドを再発行してください。

SQL2538N メディア "<media>" でバックアップ・イメージの予期しないファイルの終わりに達しました。

説明: バックアップ・イメージ・ファイルからの読み取りおよび復元を行っているときに、予期しないファイルの終わりに達しました。バックアップ・イメージは使用不能で、復元処理は終了します。

ユーザーの処置: 使用可能なバックアップ・イメージ・ファイルを使用して、Database Restore コマンドを再発行してください。

SQL2539W 警告！ バックアップ・イメージ・データベースと同じ既存データベースを復元します。データベース・ファイルは削除されます。

説明: ターゲット・データベースとデータベース・イメージの別名、名前、シードが同じなので、これらは同一のデータベースであることを示しています。現在のデータベースは、バックアップ・バージョンによって上書きされます。

ユーザーの処置: 処理の続行または終了を示している *callerac* パラメーターを指定して、ユーティリティに戻ってください。

SQL2540W 復元は成功しましたが、非割り込みモードでデータベースを復元中に、警告 "<warn>" が出力されました。

説明: データベース復元ユーティリティは非割り込みモードで (たとえば、SQLUB_NO_INTERRUPT または SQLUD_NO_INTERRUPT が指定されて) 呼び出されました。処理中に警告が見つかりましたが、その時点では戻りませんでした。復元は正常に完了し、見つかった警告メッセージはこのメッセージの後で表示されます。

ユーザーの処置: この警告の原因が、処理結果に影響を及ぼしていないことを確認してください。

SQL2541W ユーティリティは成功しましたが、バックアップ・イメージの入ったファイルをクローズできませんでした。

説明: ユーティリティは成功しましたが、バックアップ・イメージの入ったファイルをクローズできません。

ユーザーの処置: バックアップ・イメージの入ったファイルのクローズを試みてください。

SQL2542N 指定されたソース・データベースの別名 "<database-alias>" とタイム・スタンプ "<timestamp>" に一致する、データベース・イメージ・ファイルがありません。

説明: バックアップ・イメージ・ファイルのファイル名は、データベース別名とタイム・スタンプのコンポーネントで構成されています。ファイル名は、ソース・データベース別名と、Database Restore 呼び出しに指定されたタイム・スタンプ・パラメーターから作成されます。指定されたソース・データベースの別名とタイム・スタンプに一致するファイル名が、ソース・ディレクトリに存在しません。このエラーが自動増分復元操作から出されたものである場合、データベース・

ヒストリー内のタイム・スタンプとロケーションに基づいて必要イメージが見つかりませんでした。

ユーザーの処置: データベース・バックアップ・イメージが、メディア・ソースに存在することを確認してください。結果的に一致する正しいタイム・スタンプを指定して、操作をやり直してください。

このエラーが自動増分復元操作から出されたものである場合、データベース・ヒストリーを調べて対応するバックアップ・エントリを確かめてから、リストされているロケーションがバックアップ・イメージの実際のロケーションに一致することを確認してください。データベース・ヒストリーを更新して、結果が一致するように操作をやり直すか、または RESTORE INCREMENTAL ABORT コマンドを発行して、処理中に作成されたリソースをすべてクリーンアップしてください。

SQL2543N データベースに指定されたターゲット・ディレクトリが無効です。

説明: 復元ユーティリティを呼び出しているアプリケーションが、作成する新しいデータベースのターゲット・ディレクトリを指定しました。このディレクトリが存在しないか、またはデータベースの作成に有効なディレクトリでないかのどちらかです。データベースの作成に無効なディレクトリとは、長さが 255 文字を超えるディレクトリです。

ユーザーの処置: 有効なターゲット・ディレクトリを指定して、Backup または Restore コマンドを再発行してください。

SQL2544N データベースを復元しているディレクトリがいっぱいになりました。

説明: データベースの復元中に、復元先のディレクトリがいっぱいになりました。復元されるデータベースは使用できません。復元は終了し、復

元中のデータベースが新しいデータベースの場合は、削除されます。

ユーザーの処置: 復元するデータベースのために十分なディレクトリーのスペースを解放して、Restore を再発行するか、または新しいデータベースに復元する場合は、復元するデータベースを収容するのに十分なスペースがあるディレクトリーを指定してください。

SQL2545W 警告！ TSM サーバー上のバックアップ・イメージは、取り付け可能なメディアに保管されています。使用可能になるまでに必要な時間は不明です。

説明: バックアップ・イメージは、TSM サーバーによってすぐにはアクセスできません。復元プロセスは続行可能で、サーバーにデータの取り出しを要求します。ただし、必要な時間は不明です。

ユーザーの処置: 処理の続行または終了を示す callerac パラメーターを指定して、ユーティリティーに戻ってください。

SQL2546N メディア “<media>” のイメージは、バックアップまたはコピーの一番目ではありません。

説明: 復元またはロード復元中は、バックアップまたはコピーの最初のイメージを、最初に処理する必要があります。メディアで見つかったイメージは、最初のイメージではありません。

ユーティリティーは、続行の応答を待ちます。

ユーザーの処置: 正しいバックアップまたはコピーを持つメディアを取り付けて、処理を続行または終了するべきであることを示す、正しい calleraction パラメーターを指定して、ユーティリティーに戻ってください。

SQL2547N バックアップ・イメージが前のリリースで作成され、それがオンライン・バックアップであるため、データベースは復元されませんでした。

説明: 物理ログ・ファイル形式が、これらのリリースの間で、ロールフォワードを使用不能にするように変更されました。

ユーザーの処置: データベースの作成に使用したバージョンの DB2 を使用して、データベースを復元し、ログの最後までロールフォワードしてください。このときに、オフラインのフル・データベース・バックアップを取得してください。この新しいバックアップ・イメージは、新しいリリースの DB2 に復元できます。

SQL2548N バックアップ・イメージで示されたデータベース・コード・ページ “<codepage1>” は現在のディスク上のデータベースのコード・ページ “<codepage2>” とは異なります。復元操作は失敗しました。

説明: バックアップ・イメージに入っているデータベースにはデータが復元されるデータベースのコード・ページとは異なるコード・ページで格納されたデータが入っています。

この問題は以下のいずれかの条件によって発生する可能性があります。

- 1 復元しようとしているデータベースがバックアップ・イメージ内のデータベースのコード・ページと異なるコード・ページをもっています。
- 2 ユーザーがバックアップとは異なるコード・ページのセッションから新しいデータベースに復元しようとしています。
- 3 バックアップ・イメージが壊れていて、無効な文字セット情報が入っています。

ユーザーの処置:

- 1 既存のデータベースに復元する場合、既

存のデータベースのコード・ページがバックアップ・イメージのコード・ページと一致するか確認してください。

- 2 新規のデータベースに復元する場合、復元コマンドが実行されたセッションのコード・ページがバックアップ・イメージのコード・ページと同じであることを確認してください。
- 3 IBM サービスに連絡してください。

SQL2549N バックアップ・イメージの表スペースのすべてがアクセス不可能または、復元する表スペース名のリストの 1 つまたは複数の表スペース名が無効であるかのいずれかで、このデータベースは復元されていません。

説明: 使用可能でないバックアップ・イメージの表スペースによって使用されたコンテナはすでに使用中であるか、または復元コマンドのリストで指定された 1 つまたは複数の表スペース名がバックアップ・イメージに存在していません。

ユーザーの処置: リダイレクトされた復元を使用してバックアップ・イメージの表スペースのコンテナを再定義するか、復元する有効な表スペース名のリストを指定してください。

SQL2550N ノード "<node1>" のデータベース・バックアップをノード "<node2>" に復元できません。

説明: 復元に対して使用されるバックアップ・イメージは、異なるノードからデータベースをバックアップします。同じノードでのみバックアップを復元できます。

ユーザーの処置: ノードの正しいバックアップ・イメージがあることを確認し、要求を再度発行してください。

SQL2551N カタログ・ノード "<node1>" を伴うデータベースをカタログ・ノード "<node2>" を伴うデータベースに復元できません。

説明: カタログ・ノードは、1 つのノードだけに存在するため、バックアップ・イメージと復元されたノード間に相違があります。これは、次の場合発生します。

1. バックアップ・イメージはカタログ・ノード "<node1>" を指定し、復元はカタログ・ノードがノード "<node1>" である既存のデータベースに試行しました。
2. 復元を新規データベースで試行して、カタログ・ノードは先に復元されませんでした。

ユーザーの処置: 正しいバックアップ・イメージが復元されたことを検証してください。

既存のデータベースに復元していて、カタログ・ノードを "<node2>" に変更したい場合は、先に既存のデータベースをドロップする必要があります。

新規データベースに復元している場合は、カタログ・ノード "<node1>" を先に復元してください。

SQL2552N 無効な報告書ファイル名が復元コマンドに指定されました。

説明: 報告書のファイル名の長さは、許可される 255 の制限を超えました。

ユーザーの処置: 強化された範囲内の長さの報告書のファイル名を指定してから、復元コマンドを再発行してください。

SQL2553I RECONCILE ユーティリティは正常に完了しました。

説明: ユーティリティは正常に終了しました。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL2554N RECONCILE ユーティリティーは理由コード "**<reason-code>**" で失敗しました。 "**<component>**" に問題がある可能性があります。

説明: 理由コードは次のとおりと考えられます。

- 1 DB2 データ・リンク・マネージャーへの接続が不明である。
- 2 表または DATALINK 列が DB2 データ・リンク・マネージャーで定義されていない。
- 3 DB2 Data Links Manager がダウンしている可能性がある。
- 4 入出力問題。
- 5 例外表に、ファイル・リンク制御で定義されているデータ・リンク列が入っている。
- 6 表が“データ・リンク調整不可”状態である。
- 7 例外表は、タイプ付き表での調整には許可されていない。
- 8 ALTER TABLE が、表を“データ・リンク調整保留”または“データ・リンク調整不可”状態にすることができなかったか、あるいは“データ・リンク調整保留”または“データ・リンク調整不可”状態から解除することができなかった。
- 9 データ・リンク・サポートがオンになっていない。
- 10 表が検査保留状態のままになっている。
- 11 例外の処理中に、必要な DB2 データ・リンク・マネージャーが使用可能になっていなかった。表がデータ・リンク調整保留中の状態である。

ユーザーの処置: 可能な解決方法:

- 1 DB2 データ・リンク・マネージャーが稼働中で、ADD DATALINKS MANAGER コマンドによってデータベースに登録さ

れていることを確認してください。データベースの接続を試行して、データ・リンク・マネージャーで該当する接続が確立したことを確認してください。

- 2 表が DB2 データ・リンク・マネージャーに存在していないようです。調整するものではありません。
- 3 DB2 データ・リンク・マネージャーがダウンしている可能性があります。DB2 データ・リンク・マネージャーの開始を試みてください。
- 4 レポート・ファイルのファイル許可および十分なスペースがあることを確認してください。DLREPORT パラメーターには完全修飾パスが必要です。調整される表が損傷を受けていないことを確認してください。
- 5 例外表のデータ・リンク列をすべて“NO LINK CONTROL”として再定義してください。
- 6 SET INTEGRITY コマンドを使用して、表を“データ・リンク調整不可”状態から解除してください。調整コマンドを繰り返ししてください。
- 7 例外表を指定しないでください。
- 8 SET INTEGRITY コマンドを使用して、表を“データ・リンク調整保留”状態にするか、あるいは“データ・リンク調整保留”または“データ・リンク調整不可”状態をリセットするよう試みてください。
- 9 データベース・マネージャー構成パラメーター DATALINKS の値が NO に設定されています。RECONCILE を使用するには、パラメーター DATALINKS の値を YES に設定しなければなりません。
- 10 表で調整を実行するためには、その表が検査保留状態になってはなりません。

ん。検査保留状態を除去するには、SET INTEGRITY コマンドを使います。

11 もう一度調整を実行します。

SQL2560N 表スペース・レベル・バックアップからの復元のターゲット・データベースが、ソース・データベースと同一ではありません。

説明: 表スペース・レベル・バックアップからの復元の場合、ターゲット・データベースは、バックアップが取得されたオリジナル・データベース、または新しいデータベースでなければなりません。

ユーザーの処置: 正しいターゲット・データベースを指定して、ユーティリティ・コマンドを再発行してください。

SQL2561W 警告！表スペース・レベル・バックアップから、存在しないデータベースに復元しようとしています。バックアップ内で同じ属性を使用するデータベースが作成されます。

説明: 表スペース・レベル・バックアップからの復元の場合、ターゲット・データベースは、ソース・データベースと同じ属性（データベース名、別名、シード）を持つ必要があります。まだデータベースが存在しない場合は、データベースが作成されます。

ユーザーの処置: 処理の続行または終了を示している *callerac* パラメーターを指定して、ユーティリティに戻ってください。

SQL2562N データベース全体のバックアップからの表スペース・レベル回復は許されていません。

説明: データベース全体のバックアップからの復元の場合、復元タイプに表スペース・レベルを使用できません。

ユーザーの処置: 正しい復元タイプを使用する

か、または正しいバックアップ・イメージを使用して、ユーティリティ・コマンドを再発行してください。

SQL2563W 復元プロセスは正常に終了しましたが、1 つ以上の表スペースがバックアップから復元されませんでした。

説明: 復元処理は正常に終了しました。以下の理由から、バックアップ内の 1 つ以上の表スペースが復元されません。

- 表スペースのコンテナにアクセス中にエラーが起きました。バックアップが取られた後で、表スペースがドロップされている場合、処置は必要ありません。
- バックアップの表スペースのサブセットのみを復元するために復元コマンドが表スペースのリストで呼び出されました。処置は必要ありません。

ユーザーの処置: このメッセージがサブセット復元で発生したものでない場合、表スペースの照会関数を使用して、表スペースの状態をチェックしてください。表スペースが「ストレージ定義保留」状態の場合は、表スペースのストレージ定義を、復元が正常に完了するように訂正する必要があります。表スペースの復元に関する詳細については、管理の手引きを参照してください。

SQL2564N バックアップ・イメージでの 1 つまたは複数の表スペースのページ・サイズが、該当のあて先表スペースのページ・サイズと一致しません。

説明: ターゲットの表スペースのページ・サイズは、バックアップ・イメージでの表スペースのページ・サイズと一致しなければなりません。別のページ・サイズの表スペースの復元はサポートされません。デフォルト・ページ・サイズは 4K です。

ユーザーの処置: 復元された表スペースは、バックアップ・イメージでの表スペースのページ・サ

イズと同じページ・サイズがあることを確認してください。

SQL2565N RESTORE に指定されたオプションは、提供されたバックアップ・イメージでは使用できません。

説明: バックアップ・イメージに入っているデータベースが、既存のデータベースで、復元されるデータベースと一致しません。復元に指定されたオプションには、復元されるデータベースが新規であるか、またはバックアップ・イメージのデータベースと同じであることが必要です。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: 正しいデータベース名を指定して、コマンドを再発行してください。

SQL2566W この復元プロセスは正常に終了していますが、1 つまたは複数の表スペースの表が **DRP/DRNP** 状態になっています。詳細については **db2diag.log** ファイルを調べてください。

説明: 次のいずれかの理由のため、1 つまたは複数の表スペースには、「データ・リンク調整保留 (DRP)」または「データ・リンク調整不可 (DRNP)」に表があります。

- バックアップ・イメージとは別のデータベース名、別名、ホスト名、あるいはインスタンスがあるデータベースに復元している。ロールフォワードが復元に続く場合、DATALINK 列を指定した任意の表が、DRNP 状態になります。
- WITHOUT DATALINK オプションを指定して復元を行い、復元のあとにロールフォワードがない。DATALINK 列を指定した表は DRP 状態となります。
- 使用不能になったバックアップ・イメージから復元している。ロールフォワードが復元に続く場合、DATALINK 列を指定した任意の表が、DRNP 状態になります。

- DATALINK 列情報が DB2 データ・リンク・マネージャーに存在していない。影響を受ける表は DRNP 状態になります。

- データ・リンク・マネージャーでのファイルの再リンクの試行中に、高速調整を伴う復元が失敗した。影響を受ける表は DRNP 状態になります。

ユーザーの処置: db2diag.log ファイルで、どの表が DRP/DRNP 状態に書き込まれているかを確認してください。DRP/DRNP 状態になっている表の調整についての情報は、管理の手引きを参照してください。

SQL2570N バックアップ・イメージが作成されたプラットフォームに一致しないプラットフォームでは、データベースを復元できません。

説明: あるプラットフォームでバックアップ・イメージを作成し、異なるプラットフォームに復元しようと試みました。ただしバックアップ・イメージは、そのバックアップ・イメージが作成されたシステムに一致する、マシン・タイプとオペレーティング・システムを持つシステムに復元されなければなりません。

ユーザーの処置: この特定のバックアップ・イメージを使用するには、そのバックアップがとられたシステムに対応するシステムに復元してください。

あるタイプのプラットフォームから別のプラットフォームにデータベースを移動するには、データ移動ユーティリティー手引きおよび解説書に記述されている db2move ユーティリティーを使用してください。

SQL2571N 自動増分リストアを続けられません。理由コード: <reason-code>

説明: 自動増分リストア処理中にエラーが検出されました。ユーティリティーは予定通り完了できませんでした。ユーティリティーは処理を停止します。このエラーは初期定義がリストアされた後

に返され、必要な増分リストア・セットの処理は以下の理由で正常に完了できません。

- 1 指定したタイム・スタンプに対応するバックアップ・イメージがデータベース・ヒストリーに見つかりません。
- 2 リストアする表スペースを判別しようとしたときにエラーが起きました。
- 3 必要なバックアップ・イメージがデータベース・ヒストリーに見つかりません。

ユーザーの処置: RESTORE INCREMENTAL ABORT コマンドを発行して、処理中に作成されたリソースをすべてクリーンアップしてください。手操作による増分復元を実行して、このバックアップ・イメージからデータベースをリストアしてください。

SQL2572N 古いイメージの増分復元を行おうとしました。タイム・スタンプ “<timestamp-value>” のバックアップ・イメージが、復元が試行されたイメージの前に復元されていないため、表スペース “<tablespace-name>” にエラーが起きました。

説明: 増分バックアップ・ストラテジーで作成されたイメージを復元するときは、イメージを以下の順序で復元してください。

1. データベースを復元したい増分を DB2 に指示するために、まず最終イメージを復元します。
2. 増分イメージのセット以前にとられた全データベースまたは表スペースを復元します。
3. 増分およびデルタ・イメージのセットを、作成日時順に復元します。
4. もう一度最終イメージを復元します。

バックアップ・イメージ内の表スペースはそれぞれ、失敗したバックアップ・イメージが正常に復元されるために復元される必要のあるバックアップ・イメージを認識しています。このメッセージ

を呼び出したイメージを正常に復元するためには、このメッセージに示されたタイム・スタンプを持つイメージを復元する必要があります。示されたイメージの前に他のイメージの復元が必要になる場合がありますが、これはエラーの起きた最初の表スペースです。

ユーザーの処置: 増分バックアップ・イメージのセットの順序が正しいかを確認し、増分復元プロセスを継続してください。

SQL2573N 増分バックアップ・イメージは増分 RESTORE 操作の一部としてリストアされなければなりません。

説明: 増分バックアップ・イメージを使用して RESTORE 操作を行おうとしました。増分バックアップ自体をリストアすることはできません。これは増分 RESTORE 操作の一部としてのみリストアできます。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: このバックアップ・イメージをリストアするには、INCREMENTAL 修飾子を使用して RESTORE コマンドを再発行してください。非増分 RESTORE 操作を実行するには、非増分バックアップ・イメージを指定してください。

SQL2574N 増分 RESTORE 操作の一部としてリストアされたバックアップ・イメージがターゲット・イメージより新しくはいけません。

説明: ターゲット・イメージは増分 RESTORE 操作の一部として最初にリストアされるイメージです。このイメージには、表スペース定義その他、リストア中のデータベースの制御構造が入っています。RESTORE ユーティリティは、データベースを破壊する恐れがあるため、増分 RESTORE 操作中にターゲット・イメージより新しいイメージをリストアすることはできません。

増分 RESTORE 操作は、ターゲット・イメージより新しいタイム・スタンプを持つバックアップ・

イメージをリストアしようとしたために失敗しました。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: ターゲット・イメージより古いタイム・スタンプを持つバックアップ・イメージを指定して、コマンドを再発行してください。

SQL2575N 指定した増分バックアップ・イメージのタイム・スタンプが、表スペース “<tablespace-number>” についてリストアされた最後のイメージのタイム・スタンプより古くなっています。最後のバックアップ・イメージのタイム・スタンプは “<timestamp>” です。

説明: 増分 RESTORE 操作を実行するには、バックアップ・イメージは各表スペースについて、最も古いものから最も新しいものへと日時順にリストアしなければなりません。増分 RESTORE 操作が、指定した表スペースについてリストアされた前のイメージのタイム・スタンプより古いタイ

SQL2600 - SQL2699

SQL2600W 許可ブロックへの入力パラメーター・ポインターが無効か、またはブロック・サイズが正しくありません。

説明: 許可構造パラメーターへのポインターがヌルか、許可構造へのポインターが「構造の長さ」フィールドに指定された長さより小さい領域を指しているか、または「許可構造の長さ」フィールドが正しい値にセットされていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 入力パラメーターの値を訂正して、コマンドを再発行してください。

ム・スタンプを持つバックアップ・イメージを指定していました。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 表スペースについてリストアされた最後のイメージのタイム・スタンプより新しいタイム・スタンプを持つバックアップ・イメージを指定して、コマンドを再発行してください。

SQL2576N 表スペース “<tablespace-name>” を増分 RESTORE 操作の一部としてリストア中ですが、RESTORE コマンドに INCREMENTAL 文節が指定されていません。

説明: 増分的に表スペースをリストアするには、各 RESTORE コマンドが INCREMENTAL 文節を指定していなければなりません。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: INCREMENTAL 文節を指定して、RESTORE コマンドを再発行してください。

SQL2650N 無効なパラメーターが、asynchronous read log API に渡されました。理由コード = “<reason-code>”。

説明: 無効なパラメーターが、asynchronous read log API に渡されました。理由コードは以下の通りです。

- 01** 無効なアクションが指定されています。
- 02** ログの開始順序番号が、現在のデータベースのアクティブ・ログの順序番号より大きいです。
- 03** ログの開始順序番号と終了順序番号によってバインドされたログの順序番号範囲が、ログ・レコードのスパンに対して十分な大きさではありません。

- 04 ログの開始順序番号が、実際のログ・レコードの開始を表していません。
- 05 ログの開始順序番号の位置が判別できません。
- 06 ログの終了順序番号が、ログの開始順序番号より小さいか、または同じです。
- 07 バッファ어가、示されたサイズには無効です。
- 08 バッファ어가、ログ・レコードを格納するのに十分なサイズではありません。
- 09 ポインターが無効です。

ユーザーの処置: 理由コード 01 の場合は、アクションが `SQLU_RLOG_QUERY`、`SQLU_RLOG_READ`、または `SQLU_RLOG_READ_SINGLE` のいずれかであることを確認してください。

理由コード 02 の場合は、ログの開始順序番号が、読み取りログ情報構造に戻される現在活動状態のログ順序番号より小さいことを確認してください。

理由コード 03 の場合は、ログの終了順序番号が、ログの開始順序番号より十分に大きいことを確認してください。

理由コード 04 の場合は、ログの開始順序番号が、ログの初期順序番号、または読み取りログ情報構造に戻される最後の読み取りログ順序番号より 1 つ大きい番号であることを確認してください。

理由コード 05 の場合は、ログの開始順序番号が、データベース・ログ・ファイル・パスのログ・エクステンツに存在することを確認してください。

理由コード 06 の場合は、ログの終了順序番号が、ログの開始順序番号より大きいことを確認してください。

理由コード 07 の場合は、バッファ어가 `log buffer size` パラメータに指定されたサイズで割り振られていることを確認してください。

理由コード 08 の場合は、割り振られているバッファ어의サイズを増やしてください。

理由コード 09 の場合は、メモリーが正しく割り振られており、ポインターが適切に初期化されていることを確認してください。

SQL2651N データベースに関連するログ・レコードは、非同期で読み取ることができません。

説明: `asynchronous read log API` が、`LOG RETAIN` または `USER EXITS ON` を持たない接続されたデータベースに対して使用されました。正方向リカバリーが可能なデータベースのみが、関連するログ読み取りを行うことができます。

ユーザーの処置: データベースのデータベース構成を更新して、`LOG RETAIN` と `USER EXITS ON` のいずれか、または両方を使用することを、`asynchronous read log API` に示してください。

SQL2652N 非同期ログ・リーダーを実行するメモリーが足りません。

説明: `asynchronous read log API` が使用する内部バッファ어의割り振りが失敗しました。

ユーザーの処置: プロセスが使用可能なメモリーの容量を増やす (実メモリーまたは仮想メモリーを増やすか、あるいは不要なバックグラウンド・プロセスを取り除く) か、または `asynchronous read log API` に指定したログ順序番号の範囲を小さくしてください。

SQL2653W 復元、正方向、または破損リカバリーが、ログの順序番号の範囲を再利用している可能性があります。理由コードは "`<reason-code>`"。

説明: 復元、正方向、または破損リカバリーが、ログの順序番号の範囲を再利用している可能性があります。理由コードは以下の通りです。

- 01 - 復元が行われました。

- 02 - 正方向リカバリー (ROLLFORWARD) が行われました。
- 03 - 破損リカバリーが行われました。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL2654W 現行アクティブ・ログの終わりで、データベース・ログが非同期で読み取られました。

説明: データベース・アクティブ・ログのすべてのログ・レコードが、非同期ログ・リーダーによって読み取られました。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL2655N 非同期に読み取られているデータベースに関連しないログ・ファイル“<name>”を、非同期ログ・リーダーが見つめました。

説明: 非同期ログ・リーダーが、指定されたログ・ファイルからログ・レコードを読み取ろうとしました。指定されたログ・ファイルは、非同期に読み取られているデータベースに関連していません。

ユーザーの処置: このログ・ファイルを、データベース・ログ・ディレクトリーから取り除いてください。正しいログ・ファイルを、データベース・ログ・ディレクトリーに移動して、Asynchronous Read Log API の呼び出しを再実行してください。

SQL2700 - SQL2799

SQL2701N “<progname>” のコマンド行が無効です。理由コード: “<reason-code>”。

説明: データ分割ユーティリティーのコマンド行オプションが無効です。次が有効なオプションです。

- -c “構成ファイル名”
- -d “分配ファイル名”

SQL2656N 読み取れないログ・ファイル“<name>”を、非同期ログ・リーダーが見つめました。

説明: 非同期ログ・リーダーが、指定されたログ・ファイルからログ・レコードを読み取ろうとしました。指定されたログ・ファイルは壊れていて、読み取ることができません。

ユーザーの処置: ログの読み取り開始順序を大きくして、指定したログ・ファイルの後から読み取りが始まるように、Asynchronous Read Log API の呼び出しを再実行してください。

SQL2657N 非同期ログ・リーダーによって、データベース・ログ・ディレクトリーに現在存在しないログ・ファイル“<name>”が要求されています。

説明: 非同期ログ・リーダーが、指定されたログ・ファイルからログ・レコードを要求しました。指定されたログ・ファイルは、現在データベース・ログ・ディレクトリーに存在していません。

ユーザーの処置: 指定したログ・ファイルを、非同期に読み取られているデータベースのデータベース・ログ・ディレクトリーに移動してください。データベース・ログ・パスが変更された場合、古いログ・パスにログ・ファイルが見つかることがあります。Asynchronous Read Log API の呼び出しを再実行してください。

- -i “入力ファイル名”
- -o “出力ファイル接頭部”
- -h 使用法メッセージ

ユーザーの処置: 与えられる理由コードは、以下の通りです。

- 1 ‘.’ で始まるオプションがありません。
- 2 ‘h’ (または ‘H’) を除く各オプションは、引き数が続かなくてはなりません。

- 3 無効なオプションがありました。
- 4 オプションの引き数が長すぎます (最大 80 文字)。

SQL2702N 構成ファイル "<config-file>" のオープンに失敗しました。

説明: このユーティリティは構成ファイル "<config-file>" を読み取ることができません。

ユーザーの処置: 構成ファイルが存在し、読み取り可能かを確認してください。

SQL2703N ログ・ファイル "<log-file>" のオープンに失敗しました。

説明: このユーティリティはログ・ファイル "<log-file>" を書き込みまたは追加するのにオープンできません。

ユーザーの処置: ログ・ファイルが存在し、読み取り可能かを確認してください。

SQL2704N 入力ファイル "<input-data-file>" のオープンに失敗しました。

説明: このユーティリティは入力ファイル "<input-data-file>" を読み取れません。

ユーザーの処置: 入力ファイルが存在し、読み取り可能かを確認してください。

SQL2705N 入力区分化マップ・ファイル "<in-map-file>" のオープンに失敗しました。

説明: このユーティリティは入力区分化マップ・ファイル "<in-map-file>" を読み取れません。

ユーザーの処置: 入力区分化マップ・ファイルが存在し、読み取り可能かを確認してください。

SQL2706N 出力区分化マップ・ファイル "<out-map-file>" のオープンに失敗しました。

説明: このユーティリティは出力区分化マップ・ファイル "<out-map-file>" を書き込みまたは追加するのにオープンできません。

ユーザーの処置: 出力区分化マップ・ファイルが存在し、読み取り可能かを確認してください。

SQL2707N 分散ファイル "<dist-file>" のオープンに失敗しました。

説明: このユーティリティは分散ファイル "<dist-file>" を書き込みまたは追加するのにオープンできません。

ユーザーの処置: 分散ファイルが書き込み可能かを確認してください。

SQL2708N 出力データ・ファイル "<out-data-file>" のオープンに失敗しました。

説明: このユーティリティは出力データ・ファイル "<out-data-file>" を書き込みまたは追加するのにオープンできません。

ユーザーの処置: 出力データ・ファイルが書き込み可能かを確認してください。

SQL2709N 構成ファイルの行 "<line>" で構文エラーがありました。

説明: キーワードおよびその引き数の仕様が構文エラーがあります。

ユーザーの処置: キーワードおよびその引き数は、'=' サインで区切る必要があります。

SQL2710N 構成ファイルの行 "<line>" のキーワードが無効です。

説明: 構成ファイルに未定義のキーワードがあります。

ユーザーの処置: 有効なキーワード (大文字小文字を区別) は次のとおりです。

- DESCRIPTION、 CDELIMITER、 SDELIMITER、 NODES、 TRACE、 MSG_LEVEL、 RUNTYPE、 OUTPUTNODES、 NODES、 OUTPUTNODES、 OUTPUTTYPE、 PARTITION、 MAPFILE、 INFILE、 MAPFILE、 OUTFILE、 DISTFILE、 LOGFILE、 NEWLINE、 HEADER、 FILETYPE

SQL2711N 構成ファイルの行 "`<line>`" の列区切り文字 (CDELIMITER) が無効です。

説明: 構成ファイルで指定された列区切り文字 (CDELIMITER) が無効です。

ユーザーの処置: 列区切り文字 (CDELIMITER) が単一バイト文字であるようにしてください。

SQL2712N 構成ファイルの行 "`<line>`" のストリング区切り文字 (SDELIMITER) が無効です。

説明: 構成ファイルで指定されたストリング区切り文字 (SDELIMITER) が無効です。

ユーザーの処置: ストリング区切り文字 (SDELIMITER) にピリオドがあってはけません。

SQL2713N 構成ファイルの行 "`<line>`" の実行タイプが無効です。

説明: 構成ファイルで指定された実行タイプ (RUNTYPE) が無効です。

ユーザーの処置: 有効な実行タイプ (RUNTYPE) は PARTITION か ANALYZE (大文字小文字を区別) です。

SQL2714N 構成ファイルの行 "`<line>`" のメッセージ・レベル (MSG_LEVEL) が無効です。

説明: 構成ファイルで指定されたメッセージ・レベル (MSG_LEVEL) の値が無効です。

ユーザーの処置: 有効なメッセージ・レベル (MSG_LEVEL) は CHECK または NOCHECK (大文字小文字を区別) です。

SQL2715N 構成ファイルの行 "`<line>`" のチェック・レベル (CHECK_LEVEL) が無効です。

説明: 構成ファイルで指定されたチェック・レベル (CHECK_LEVEL) の値が無効です。

ユーザーの処置: 有効なチェック・レベル (CHECK_LEVEL) は CHECK または NOCHECK (大文字小文字を区別) です。

SQL2716N 構成ファイルの行 "`<line>`" のレコード長 (RECLLEN) が無効です。

説明: 構成ファイルで指定されたレコード長 (RECLLEN) の "`<reclen>`" 値が無効です。

ユーザーの処置: レコード長 (RECLLEN) は 1 から 32767 までの間でなくてはなりません。

SQL2717N 構成ファイルの行 "`<line>`" のノード仕様 (NODES) が無効です。理由コードは "`<reason-code>`"。

説明: 構成ファイルで指定されたノード仕様 (NODES) が無効です。

ユーザーの処置: 与えられる理由コードは、以下の通りです。

- 1 NODES はすでに定義されています。
- 2 この形式は無効です。有効な例:
NODES=(0,30,2,3,10-15,57)
- 3 各エントリーは 0 と 999 の間の数値でなくてはなりません。

- 4 範囲仕様は低い数値から高い数値を指定しなくてはなりません。

SQL2718N 構成ファイルの行 "`<line>`" の出力ノード仕様 (**OUTPUTNODES**) が無効です。理由コードは "`<reason-code>`"。

説明: 構成ファイルで指定された出力ノード仕様 (OUTPUTNODES) が無効です。

ユーザーの処置: 与えられる理由コードは、以下の通りです。

- 1 OUTPUTNODES はすでに定義されています。
- 2 この形式は無効です。有効な例:
OUTPUTNODES=(0,30,2,3,10-15,57)
- 3 各エントリーは 0 と 999 の間の数値でなくてはなりません。
- 4 範囲仕様は低い数値から高い数値を指定しなくてはなりません。

SQL2719N 構成ファイルの行 "`<line>`" の出力タイプ (**OUTPUTTYPE**) が無効です。

説明: 構成ファイルで指定された出力タイプ (OUTPUTTYPE) が無効です。

ユーザーの処置: 有効な出力タイプ (OUTPUTTYPE) は W (write) または S (stdin) で、大文字小文字を区別します。

SQL2720N 区分化キーの数が最大 "256" を超えました。構成ファイルの行 "`<line>`" でエラーを検出しました。

説明: 定義された区分化キー数は、最大制限 256 を超えることはできません。

ユーザーの処置: 構成ファイルで定義された区分化キーを 1 つまたは複数除去してください。

SQL2721N 構成ファイルの行 "`<line>`" の区分化キー仕様 (**PARTITION**) が無効です。理由コードは "`<reason-code>`"。

説明: 構成ファイルで指定された区分化キー仕様 (PARTITION) が無効です。有効な形式は以下のとおりです。

PARTITION=`<key name>`,`<position>`,`<offset>`,
`<len>`,`<nullable>`,`<datatype>`

区切られたデータ・ファイルの場合は `<position>` を定義し、そうでない場合は `<offset>` および `<len>` を定義しなくてはなりません。

ユーザーの処置: 与えられる理由コードは、以下の通りです。

- 1 フィールドは '、' 文字で区切られなくてはなりません。
- 2 `<position>`、`<offset>`、および `<len>` は正の整数でなくてはなりません。
- 3 `<nullable>` は {N,NN,NNWD} から値を使用しなくてはなりません。
- 4 有効 `<data type>` には以下のものがあります。SMALLINT、INTEGER、CHARACTER、VARCHAR、FOR_BIT_CHAR、FOR_BIT_VARCHAR、FLOAT (2 進数値のみ)、DOUBLE (2 進数値のみ)、DATE、TIME、TIMESTAMP、DECIMAL(x, y)。
- 5 DECIMAL データ・タイプの場合、精度 (x) および位取り (y) を必ず指定し、正の整数でなくてはなりません。
- 6 CHARACTER または VARCHAR データ・タイプの場合、`<len>` を指定しなくてはなりません。

SQL2722N 構成ファイルの行 "`<line>`" のログ・ファイル仕様 (LOGFILE) が無効です。

説明: 構成ファイルで指定されたログ・ファイル仕様 (LOGFILE) が無効です。

ユーザーの処置: このログ・ファイル仕様 (LOGFILE) は次の形式のいずれかでなくてはなりません。

- LOGFILE=`<log file name>`,`<log type>`
- LOGFILE=`<log file name>`

`<log type>` には W (書き込み) または A (付加) のみが使用でき、大文字小文字は区別されません。

SQL2723N 構成ファイルの行 "`<line>`" のトレース仕様 (TRACE) が無効です。

説明: 構成ファイルで指定されたトレース仕様 (TRACE) が無効です。

ユーザーの処置: トレース仕様 (TRACE) は必ず 0 から 65536 (含まない) までの正の整数でなくてはなりません。

SQL2724N ノード・リスト仕様が無効です。

説明: このノード・リスト仕様が無効です

ユーザーの処置: 1 つまたは 2 つのパラメータのうち 1 つ: NODES および MAPFILI (入力区分化マップ) は構成ファイル内で指定されなくてはなりません。

SQL2725N 出力区分化マップのファイル名が指定されていませんでした。

説明: 実行タイプが ANALYZE の場合、出力区分化マップの名前を定義しなくてはなりません。

ユーザーの処置: 出力区分化マップのファイル名を指定してください。

SQL2726N 定義された区分化キーがありません。

説明: 少なくとも 1 つの区分化キーを定義しなくてはなりません。

ユーザーの処置: 区分化キーを 1 つまたは複数指定してください。

SQL2727N 区分化キー "`<key-name>`" がレコード長 "`<reclen>`" を超えています。

説明: 非区切りデータの場合、キーの開始位置はレコード長以下でなくてはなりません。

ユーザーの処置: キーの開始位置をレコード長以下にしてください。

SQL2728N 出力ノード "`<out-node>`" がノード・リストに定義されていません。

説明: 出力ノード・リストは NODES または入力区分化マップ・ファイルから渡されたものでなくてはなりません。

ユーザーの処置: すべての出力ノード・リストがノード・リストに定義されていることを確認してください。

SQL2729N 入力区分化マップが無効です。

説明: 入力区分化マップ・ファイルに少なくとも 1 つのエラーがあります。

ユーザーの処置: この入力区分化マップは、4096 ほどのデータ・エントリーを含み、各データ・エントリーは 0 から 999 までの間でなくてはなりません。

SQL2730N 出力データ・ファイル "`<out-data-file>`" へヘッダーを書き込み中のエラーです。

説明: 出力データ・ファイルへヘッダーを書き込み中に入出力エラーが発生しました。

ユーザーの処置: ファイルの入出力エラーに関するオペレーティング・システム (OS) の資料をチェックし、出力装置に十分なスペースがあることを確認してください。

SQL2731N 入力データ・ファイル
"`<filename>`" からの読み取り中に
入出力エラーが発生しました。

説明: 入力データ・ファイルから読み取り中に入出力エラーが発生しました。

ユーザーの処置: ファイルの入出力エラーに関するオペレーティング・システム (OS) の資料をチェックしてください。

SQL2732N 入力データ・ファイルの行
"`<line>`" はバイナリー・データが
入っています。

説明: バイナリー・データはこのユーティリティ
・プログラムのホスト・バージョンで許可されて
いません。

ユーザーの処置: ご使用の入力ファイル・データ
をチェックしてください。

SQL2733N 実行タイプ (RUNTYPE) は構成フ
ァイル内で定義されていません。

説明: 実行タイプ (RUNTYPE) は PARTITION
または ANALYZE として定義されなくてはなり
ません。

ユーザーの処置: 構成ファイル内で実行タイプ
(RUNTYPE) を指定してください。

SQL2734N 構成ファイルの行 "`<line>`" のパラ
メーター 32KLIMIT の仕様が無効
です。

説明: 構成ファイルのパラメーター 32KLIMIT
の仕様が無効です。

ユーザーの処置: パラメーター 32KLIMIT は

YES または NO の大文字小文字区別なしでもあ
ります。

SQL2735W 入力データ・ファイルのレコード
"`<rec-no>`" が空だったので廃棄さ
れました。

説明: 入力データのレコード "`<rec-no>`" がスペ
ースしか内容がなかったため廃棄されました。

ユーザーの処置: 入力データ・ファイルのレコー
ド "`<rec-no>`" を検査してください。

SQL2736N sqlugrpi_api が入力データ・ファ
イルの行 "`<line>`" のレコードを処
理中にエラーを戻しました。

説明: 区分化キー・フィールドに無効なデータが
入っています。

ユーザーの処置: 行 "`<line>`" の入力データをチ
ェックしてください。

SQL2737N 入力データ・ファイルの行
"`<line>`" のレコードを処理中に、
出力ノード "`<out-node>`" の出力
データ・ファイルの書き込みに失敗
しました。

説明: ノード "`<out-node>`" の出力データ・ファ
イルにレコードを書き込み中に入出力エラーが発
生しました。

ユーザーの処置: ファイルの入出力エラーに関す
るオペレーティング・システム (OS) の資料をチ
ェックし、出力装置に十分なスペースがあること
を確認してください。

SQL2738W ノード "`<out-node>`" の出力データ・ファイルへ書き込み中に、入力データ・ファイルの行 "`<line>`" のレコードが切り捨てられていました。実際の書き込み長が "`<real-len>`" の間、予期される書き込み長は "`<reclen>`" です。

説明: 予期される書き込み長 (RECLEN) が実際の書き込み長と一致しません。

ユーザーの処置: 構成ファイルで定義されたレコード長の値を調整してください。

SQL2739N このレコード長はバイナリー数値データ・ファイルで指定されていません。

説明: バイナリー数値入力データ・ファイルの場合、レコード長を定義する必要があります。

ユーザーの処置: ご使用の構成ファイルでレコード長を指定してください。

SQL2740N 浮動データ・タイプは非バイナリー入力データ・ファイルでは許可されていません。

説明: 浮動データ・タイプは、ファイル・タイプが BIN (バイナリー) のときにのみ、サポートされます。

ユーザーの処置: データ・タイプおよび入力データ・ファイルが一致していることを確認してください。

SQL2741N 構成ファイルの行 "`<line>`" のファイル・タイプ仕様が無効です。

説明: 構成ファイル内のファイル・タイプ仕様 (FILETYPE) が無効です。

ユーザーの処置: ファイル・タイプ・パラメータの有効な値は、以下のとおりです。

- ASC (定位置 ASCII データ・ファイル)
- DEL (区切り ASCII データ・ファイル)

- BIN (すべての数値データをバイナリー形式にする ASC ファイル)
- PACK (すべての 10 進データをパック 10 進数形式にする ASC ファイル)
- IMPLIEDDECIMAL (10 進データを暗黙の 10 進形式にする DEL ファイル)

すべての値は大文字小文字の区別をします。

SQL2742N 区分化キー "`<partition-key>`" の長さが、その精度と一致しません。

説明: バイナリー入力データ・ファイル内で、10 進データ・タイプの使用する区分化キーの長さは同一化に従わなくてはなりません。

LENGTH=(PRECISION+2)/2 (整数除法)、これはパック 10 進によるためです。

ユーザーの処置: 入力データ・ファイルがバイナリー・データ・ファイルの場合、10 進タイプ区分化キーの長さをその精度と一致させてください。

SQL2743N 区分化キー "`<partition-key>`" の長さが、そのデータ・タイプと一致しません。

説明: バイナリー入力データ・ファイルでは、整数、小整数、浮動およびダブル・データ・タイプを使用する区分化キーの長さは、事前定義された定数でなくてはなりません。たとえば整数の 4、小整数の 2、浮動の 4、およびダブルの 8 です。

ユーザーの処置: 構成ファイルの区分化キーの定義をチェックしてください。

SQL2744N 構成ファイルの行 "`<line>`" に "`<file>`" の不正なファイル名仕様があります。

説明: ファイル名の最大長は 80 バイトです。

ユーザーの処置: 構成ファイルをチェックしてください。

SQL2745N 構成ファイルの行 "`<line>`" に無効な **NEWLINE** フラグがあります。

説明: NEWLINE フラグは YES または NO のいずれかでなくてはならず、ない場合は NO になります。

ユーザーの処置: 構成ファイルの NEWLINE フラグの仕様をチェックしてください。

SQL2746N 未完了なレコードが、入力ファイルからレコード "`<record-number>`" を読み取り中に見つかりました。

説明: 固定長定位置 ASC ファイルまたはバイナリー数値データ・ファイルの場合、各レコードは、構成ファイルの RECLEN パラメーターの値と同じ長さを持っている必要があります。

ユーザーの処置: 入力データ・ファイルを完了してください。

SQL2747N 入力データ・ファイルからレコード "`<rec-no>`" を読み取り中に、長すぎるレコードがありました。

説明: 定位置 ASC 入力データ・ファイルまたは 32KLIMIT を超えるパラメーターの未制限データ・ファイルの場合、最大レコード長は 32 キロバイトの制限を超えることはできません。

ユーザーの処置: 入力データ・ファイルをチェックし、レコード長が 32 キロバイトを超えないようにしてください。

SQL2748N レコード "`<record-number>`" は "`<length>`" バイトの長さがあり、これは区分化キー "`<key>`" を保留するには短すぎます。

説明: 固定長定位置 ASC ファイルまたはバイナリー数値データ・ファイルの場合、各レコードは、すべての区分化キーを保留するのに十分な長さがある必要があります。

ユーザーの処置: ご使用の入力データ・ファイル

のレコード長をチェックしてください。

SQL2749N レコード "`<rec-no>`" の区分化キー "`<key-no>`" がレコードの最初の 32キロバイトにありませんでした。

説明: 未制限データ・ファイルのレコードが 32k バイトより大きい場合、それぞれのレコードのすべての区分化キーがレコードの最初の 32k バイト内になければなりません。

ユーザーの処置: 入力データ・ファイルのレコード "`<rec-no>`" を検査してください。

SQL2750N 構成ファイル内の行 "`<line-number>`" の長さが 255 バイトを超えました。

説明: 構成ファイル内の行の最大長は 255 バイト以下でなくてはなりません。

ユーザーの処置: 構成ファイルファイルをチェックし、すべての行が 255 バイト以下であるようにしてください。

SQL2751N レコード "`<rec-no>`" の実際の "`<actual-reclen>`" 長さが予期された "`<exp-reclen>`" 長さと一致しませんでした。

説明: 固定長 ASC データ・ファイル (NEWLINE パラメーターが YES で、RECLEN パラメーターがゼロではない) に対して新規行検査が必要で、それぞれのレコードの実際の長さが予期されたレコードと一致しなければなりません。

ユーザーの処置: 入力データ・ファイルのレコード "`<rec-no>`" を検査してください。

SQL2752N 構成ファイルの行 "`<line>`" に "`<codepage>`" の不正なコード・ページ指定があります。

説明: コード・ページの指定が無効です。正の整数を指定してください。

ユーザーの処置: 構成ファイルのコード・ページの指定をチェックしてください。

SQL2753N アプリケーションに対する国別コードおよびコード・ページが入手できません。関数 "`<function-name>`" からの戻りコードは "`<rc>`" です。

説明: プログラム環境の国別コードとコード・ページを入手できませんでした。

ユーザーの処置: データベース・システム管理者とチェックしてください。

SQL2754N コード・ページ "`<source-cp>`" は、コード・ページ "`<target-cp>`" に変換できません。

説明: データベースはこの 2 つのコード・ページ間のコード・ページ変換をサポートしません。

ユーザーの処置: データが変換可能なコード・ページになっているか確認してください。

SQL2755N **IMPLIEDDECIMAL** および **PACKEDDECIMAL** 形式には、10 進データがありません。

説明: 有効な 10 進データの形式は、相互排他である `SQL_PACKEDDECIMAL_FORMAT`、`SQL_CHARSTRING_FORMAT`、または `SQL IMPLIEDDECIMAL_FORMAT` のいずれかです。

ユーザーの処置: 10 進データの形式を確認し、値を訂正して、コマンドを再実行してください。

SQL2761N 表名またはノード・グループの 1 つのみを指定できます。

説明: 表名またはノード・グループのいずれかを指定してください。両方を指定してはいけません。

ユーザーの処置: コマンド行オプションをチェックしてください。

SQL2762N このユーティリティはデータベース・インストール・パスの検索に失敗しました。

説明: このユーティリティはデータベース・マネージャーがインストールされている場所を知っている必要があります、そのバインド・ファイルを検索できます。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーが正しくインストールされていることを確認してください。

SQL2763N 表 "`<tbl-name>`" が見つかりませんでした。

説明: 表 "`<tbl-name>`" を `sysibm.systables` に置くことができません。

ユーザーの処置: 表がこのデータベースに存在することを確認してください。

SQL2764N ノード・グループ "`<nodegroup>`" が見つかりませんでした。

説明: ノード・グループ "`<nodegroup>`" を `sysibm.sysnodegroupdef` に置くことができません。

ユーザーの処置: ノード・グループがこのデータベースに存在することを確認してください。

SQL2765W このユーティリティーは出力区分化マップ・ファイル "`<out-map-file>`" のオープンに失敗しました。

説明: このユーティリティーは出力区分化マップ・ファイルを書き込みまたは追加するのにオープンできません。stdout への出力に書き込みます。

ユーザーの処置: ファイル・アクセス許可をチェックしてください。

SQL2766N この区分化マップは正しいサイズ "`<map-size>`" ではありません。

説明: 区分化マップのサイズが誤っています。このデータベースのデータは破壊されます。

SQL2800 - SQL2899

SQL2800N CREATE、DROP、あるいは CHANGE NODE が失敗しました。理由コードは "`<reason-code>`"。

説明: 指定された入力パラメーターが次の理由コードで示されるように無効であるため、ユーティリティーは、ノードの追加、削除、あるいは変更ができませんでした。

- (1) ノード番号が指定されていません。
- (2) TCP/IP ホスト名が指定されていません。
- (3) コンピューター名が指定されていません。
- (4) ノード番号が無効です。
- (5) ポート番号が無効です。
- (6) TCP/IP ホスト名が無効です。
- (7) サービス・ファイル内のインスタンスのポート値が定義されていません。
- (8) ポート値が、サービス・ファイル内のインスタンスに定義されている有効範囲内にありません。
- (9) ノード番号が固有番号ではありません。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡し、この問題を解決してください。

SQL2767N コマンド行オプションが有効ではありません。

説明: 無効なコマンド行オプションがあります。

ユーザーの処置: 正しいコマンド行オプションを指定してください。

- (10) ホストの名前とポートの対が固有のものではありません。
- (11) ホスト名の値に、対応するポート 0 がありません。

ユーザーの処置: 理由コードに対応する処置は、次のとおりです。

- (1) ノード番号を指定したことを確認してください。
- (2) TCP/IP ホスト名を指定したことを確認してください。
- (3) コンピューター名を指定したことを確認してください。
- (4) ノード番号が 0~999 であることを確認してください。
- (5) ポート番号が 0~999 であることを確認してください。
- (6) 指定したホスト名は、システムで定義済みであり、操作可能であることを確認してください。

- (7) システムの TCP/IP サービスには、インスタンス用の項目が入っていることを確認してください。
- (8) システムのサービス・ファイルに指定されているポート値のみを使用していることを確認してください。
- (9) 指定したノード番号は固有番号であることを確認してください。
- (10) db2nodes.cfg ファイルで、新規のホスト名とポートの対がまだ定義されていないことを確認してください。
- (11) 指定したホスト名用に、ポート値 0 が定義されていることを確認してください。

SQL2801N DB2NCRト コマンドの構文に誤りがあります。

説明: DB2NCRト ユーティリティーは区分データベース・システムに新規のノードを作成します。

```
DB2NCRト /n:node /u:username,password
          [/i:instance]
          [/h:host]
          [/m:machine]
          [/p:port]
          [/o:instance owning machine]
          [/g:netname]
```

コマンド引き数の意味は、次のようになっています。

- /n ノード番号を指定してください。
- /u DB2 サービスに対してアカウント名およびパスワードを指定します。

コマンド・オプションは次のとおりです。

- /i デフォルト / 現行インスタンス名と異なる場合、インスタンス名を指定してください。
- /h ホスト名がマシンのデフォルト TCP/IP でない場合は、TCP/IP のホスト名を指定してください。
- /m ノードがリモート・マシンで作成された場合は、ワークステーション名を指定してください。

- /p これがマシンの最初のノードでない場合は、論理ポート番号を指定してください。
- /o マシンの最初のノードを作成する時に、インスタンス所有マシンのコンピューター名を指定してください。
- /g ネットワーク名あるいは IP アドレスを指定します。

ユーザーの処置: 有効なパラメーターを使用してコマンドを再入力してください。

SQL2802N DB2NCHG コマンドの構文に誤りがあります。

説明: DB2NCHG ユーティリティーは区分データベース・システムで与えられたノードに対するノード構成を変更あるいは更新します。

```
DB2NCHG /n:node [/h:host]
           [/m:machine]
           [/p:port]
           [/i:instance]
           [/u:username,password]
           [/g:netname]
```

コマンド・オプションは次のとおりです。

- /h TCP/IP ホスト名を変更します。
- /m ワークステーション名を変更します。
- /p 論理ポート番号を変更します。
- /i デフォルト / 現行インスタンス名と異なる場合、インスタンス名を指定してください。
- /u ログオン・アカウント名とパスワードを変更します。
- /g ネットワーク名あるいは IP アドレスを指定します。

ユーザーの処置: 上記の有効なコマンド・オプションのいずれかを指定して DB2NCHG コマンドを実行してください。

SQL2803N DB2NDROP コマンドの構文に誤りがあります。

説明: DB2NDROP ユーティリティーは区分システムからノードを削除します。


```
DB2NDR0P /n:node [/i:instance]
```

コマンド・オプションは次のとおりです。

- /i デフォルト / 現行インスタンス名と異なる場合、インスタンス名を指定してください。

ユーザーの処置: 上記の有効なコマンド・オプションのいずれかを指定して DB2NDR0P コマンドを実行してください。

SQL2804N DB2NLIST コマンドの構文に誤りがあります。

説明: DB2NLIST ユーティリティは区分システムのすべてのノードをリストします。

```
DB2NLIST [/i:instance]
[/s]
```

コマンド・オプションは次のとおりです。

- /i デフォルト / 現行インスタンス名と異なる場合、インスタンス名を指定してください。
- /s ノードの状況を表示します。

ユーザーの処置: 上記の有効なコマンド・オプションのいずれかを指定して DB2NLIST コマンドを実行してください。

SQL2805N サービス・エラーが起きました。理由コードは "<reason-code>"。

説明: CREATE、DROP あるいは ADD NODE 処理中に、以下の理由コードで示すサービス・エラーが起きました。

- (1) サービスを登録できません。
- (2) 要求されたユーザー権ポリシーを設定できません。
- (3) サービスのログオン・アカウントを設定できません。
- (4) サービスを削除できません。

ユーザーの処置: 理由コードに対応する処置は、次のとおりです。

- (1) ワークステーション名が DB2NCRT 中に指定されている場合、ワークステーション名が正しいか確認する。
- (2) 指定ユーザー名が正しいか確認する。
- (3) 指定ユーザー名およびパスワードが有効か確認する。
- (4) ノードが別のマシンにある場合、そのマシンが作動中であるか確認する。

問題が続く場合、問題判別情報については db2diag.log を調べ、IBM サービス担当者にも連絡してください。

SQL2806N ノード "<node>" がインスタンス "<instance>" で見つかりません。

説明: ノードがないため、DB2NDR0P が失敗しました。

ユーザーの処置: ノード番号が正しいか確認してコマンドを再発行してください。

SQL2807N ノード "<node>" が "<instance>" にすでに存在しています。

説明: ノードがすでにあるため、DB2NCRT は失敗しました。

ユーザーの処置: ノード番号が正しいか確認してコマンドを再発行してください。

SQL2808W インスタンス "<instance>" のノード "<node>" が削除されています。

説明: DB2NDR0P 処理は正常に完了しました。

ユーザーの処置: 必要な処置はありません。

SQL2809W ノード : "<node>" がインスタンス : "<instance>" {ホスト : "<host-name>" マシン : "<machine-name>" ポート : "<port-num>"} に追加されました。

説明: DB2NCRT 処理は正常に完了しました。

ユーザーの処置: 必要な処置はありません。

SQL2810W ノード : "<node>" がインスタンス : "<instance>" {ホスト : "<host-name>" マシン : "<machine-name>" ポート : "<port-num>"} で変更されました。

説明: DB2NCHG 処理は正常に完了しました。

ユーザーの処置: 必要な処置はありません。

SQL2811N インスタンスが区分データベース・インスタンスでないためコマンドは無効です。

説明: インスタンスが区分データベース・インスタンスの場合にのみコマンドが有効です。

ユーザーの処置: 指定されたインスタンス名が有効であることを確認してください。 インスタンス名がコマンド行で指定されていない場合、DB2INSTANCE 環境が有効な区分データベース・インスタンスに設定されているか確認してください。

SQL2812N db2drvmp コマンドに対して無効な引き数が入力されました。

説明: 使用法:

```
db2drvmp add      node_number
                  from_drive to_drive
              drop      node_number
                  from_drive
              query    [ node_number ]
```

```
reconcile [ from_drive ]
           [ node_number ]
           [ from_drive ]
```

このコマンドの有効な引き数は以下のとおりです。

add 新規データベース・ドライブ・マップを発行します。

drop 既存のデータベース・ドライブ・マップを除去します。

query データベース・マップを照会します。

reconcile
レジストリーの内容が破壊されたときに、データベース・マップ・ドライブを修理します。

node_number
ノード番号。追加および除去の操作にはパラメーターが必要です。

from_drive
マップされるためのドライブ文字。追加および除去の操作には、このパラメーターが必要です。

to_drive
マップ先のドライブ名。このパラメーターは、加算操作のみに必要です。これは、他の操作には適用できません。

ユーザーの処置: 有効な引き数を使用してコマンドを再入力してください。

SQL2813I ドライブ "<drive-1>" からドライブ "<drive-2>" までのドライブ・マッピングはノード "<node>" に追加されました。

説明: ドライブ・マッピングは正常に加算されました。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL2814I ドライブ "<drive>" からのドライブ・マッピングはノード "<node>" に対して削除されました。

説明: ドライブ・マッピングは正常に削除されました。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL3000 - SQL3099

SQL3001C 出力ファイルのオープン中に、入出力エラー (理由 = "<reason>") が起きました。

説明: 出力ファイルをオープンしているときに、システム入出力エラーが起きました。

コマンドは処理されません。データは処理されません。

ユーザーの処置: IMPORT/LOAD の場合は、出力ファイルが存在することを確認してください。EXPORT の場合は、出力メディアに、十分なフリー・スペースがあることを確認してください。正しいパスの入った、有効な出力ファイル名を使用して、コマンドの再発行をしてください。追加情報については、メッセージ・ファイルを調べてください。

SQL3002C 出力データ・ファイルへの書き込み中に、入出力エラーが起きました。

説明: 出力データ・ファイルへ書き出しているときに、システム入出力エラーが起きました。出力が完了していないか、またはディスクがいっぱいの可能性があります。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 出力データ・ファイルが完全でない場合には、それを消去して、コマンドの再実行依頼をしてください。

SQL2815I ノード "<node>" のドライブ・マッピングは、"<drive-1>" - "<drive-2>" です。

説明: 通知メッセージ。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL3003C 出力データ・ファイルのクローズ中に、入出力エラーが起きました。

説明: 出力データ・ファイルをクローズしているときに、システム入出力エラーが起きました。

ファイルはクローズされません。

ユーザーの処置: 出力データ・ファイルが完全でない場合には、それを消去して、コマンドの再実行依頼をしてください。

SQL3004N filetype パラメーターが無効です。

説明: *filetype* パラメーターは、コマンドについては、DEL、ASC、IXF、WSF、または DB2CS でなければなりません。

EXPORT コマンドの *filetype* パラメーターは、DEL、IXF、または WSF でなければなりません。

filetype パラメーターは、LOAD コマンドでは ASC、DEL、IXF、あるいは DB2CS である必要があります。

IXF ファイルは、複数のノード・グループで定義されている表にロードするために使用されません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効な *filetype* パラメーターを指定して、コマンドを再発行してください。

SQL3005N 処理は中断されました。

説明: 処理中に割り込みがありました。ユーザーが割り込みキー・シーケンスを押した可能性があります。

ユーティリティーは処理を停止します。コミットされていないデータベースの更新は、ロールバックされます。

ユーザーの処置: コマンドを再発行してください。インポートを行っている場合は、`commitcount` および `restartcount` パラメーターの使用法について、*DB2 コマンド解説書* を参照してください。ロードを行っている場合は、ロードの再始動方法について、*DB2 コマンド解説書* を参照してください。

SQL3006C メッセージ・ファイルのオープン中に、入出力エラーが起きました。

説明: メッセージ・ファイルをオープンしているときに、システム入出力エラーが起きました。このエラーは、クライアントまたはサーバーに関する問題を示している可能性があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 正しいパスの入った、有効なメッセージ・ファイル名を使用して、コマンドを再発行してください。

SQL3007C メッセージ・ファイルへの書き込み中に、入出力エラーが起きました。

説明: メッセージ・ファイルへ書き出しているときに、システム入出力エラーが起きました。

処理は完了しない可能性があります。

ユーザーの処置: メッセージ・ファイルが不完全な場合には、それを消去して、コマンドを再発行してください。

SQL3008N ユーティリティーがデータベースに接続するときに、エラー "<error>" が起きました。

説明: `IMPORT` または `EXPORT` ユーティリティーが、データベースに接続できませんでした。

データはインポートまたはエクスポートされません。

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージのエラー番号を調べてください。変更を行って、コマンドを再発行してください。

SQL3009N *Action String* パラメーターが無効です。

説明: コマンドの *Action String* (たとえば "REPLACE into ...") パラメーターが無効です。*Action String* ポインタが誤っている可能性があります。*Action String* が示している構造が誤っている可能性があります。*Action String* 構造に、無効な文字が入っている可能性があります。コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: *Action String* ポインタと、これが示す構造を調べてください。有効な *Action String* を指定して、コマンドを再実行してください。

SQL3010N *METHOD* パラメーターが無効です。

説明: コマンドの *METHOD* パラメーターが無効です。*METHOD* ポインタが誤っている可能性があります。*METHOD* が示している構造が誤っている可能性があります。*METHOD* 構造に、無効な文字が入っている可能性があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: *METHOD* ポインタとそれが指す構造を調べてください。有効な *METHOD* を指定して、コマンドを再発行してください。

SQL3011C コマンドの処理に十分な大きさのストレージがありません。

説明: メモリーの割り振りエラーが起きました。コマンドの処理に十分なメモリーが使用できないか、またはストレージの解放エラーが起きました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: アプリケーションを停止してください。解決策は以下の通りです。

- システムに十分な実メモリーおよび仮想メモリーがあることを確認してください。
- バックグラウンド処理を終了してください。
- データベースの *util_heap_sz* を増やしてください。
- LOAD で使用するバッファのサイズを減らしてください。
- *util_heap_sz* が LOAD、BACKUP、および RESTORE ユーティリティによって共用されている場合は、実行中のこれらのユーティリティの並列インスタンスを少なくしてください。

SQL3012C システム・エラーが発生しました。

説明: オペレーティング・システム・エラーが起きました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: メッセージ・ファイルを調べて問題を訂正し、コマンドを再発行してください。

SQL3013N filemod の長さが許容範囲を超えています。0 以上 8000 以下にしてください。

説明: 指定された *filemod* が、許容範囲 (ゼロ以上 8000 以下) を超えています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: *filemod* ポインターとそれが指す構造を調べてください。有効な *filemod* を指定

して、コマンドを再発行してください。

SQL3014C メッセージ・ファイルのクローズ中に、入出力エラーが起きました。

説明: メッセージ・ファイルをクローズしているときに、システム入出力エラーが起きました。

メッセージ・ファイルはクローズされません。

ユーザーの処置: メッセージ・ファイルが不完全な場合は、コマンドを再発行してください。

SQL3015N 処理中に、SQL エラー “<sqlcode>” が起きました。

説明: ユーティリティの呼び出し中に、SQL エラーが起きました。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 詳細な情報については、メッセージの SQLCODE (message number) を参照してください。変更を行って、コマンドを再発行してください。

SQL3016N ファイル・タイプの filemod パラメーターで、予期しないキーワード “<keyword>” が検出されました。

説明: ユーティリティのファイル・タイプに適用されないキーワードがファイル・タイプ修飾子で検出されました (*filemod* パラメーターまたは CLP コマンドの *MODIFIED BY* の後の句)。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: ファイル・タイプ修飾子を除去するか、あるいはファイル・タイプ修飾子に少なくとも 1 つの有効なキーワードを指定してください。ファイル・タイプ修飾子の詳細については、コマンド解説書を参照してください。

SQL3017N 区切り文字が無効であるか、または 2 回以上使用されています。

説明: 区切り文字付き ASCII (DEL) ファイルの場合は、次の 2 つのエラーのいずれかが起きました。

- 列区切り文字、文字ストリング区切り文字、または小数点に指定された文字が無効です。
- 上記の複数の項目に、同一の文字が指定されています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 指定した区切り文字を調べて、その妥当性と固有な使用を確認してください。有効な区切り文字オーバーライドを使用して、コマンドを再発行してください。

SQL3018N ピリオドが、文字ストリング区切り文字として指定されました。

説明: 区切り文字付き ASCII (DEL) の場合、ピリオドは文字ストリング区切り文字として指定できません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効な区切り文字オーバーライドを使用して、コマンドを再発行してください。

SQL3019N コマンドに **Action String** パラメーターが指定されていません。

説明: このユーティリティー呼び出しには *Action String* (たとえば "REPLACE into ...") パラメーターが指定されていません。このパラメーターは必須です。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: *Action String* パラメーターを指定してコマンドを再実行してください。

SQL3020N 指定された **Export** コマンドを実行する権限がありません。

説明: 適切な権限 (SYSADM または DBADM 権限)、またはエクスポートに関連する各表に対する CONTROL または SELECT 特権を取得せずに、データをエクスポートしようとしてしました。

エクスポート処理は実行されません。

ユーザーの処置: 表からデータをエクスポートする前に、適切な権限を取得してください。

SQL3021N 指定された **import** コマンドを、表 "**<name>**" に対して実行する権限がありません。

説明: 指定されたオプションと表に対する適切な権限を取得せずに、データをインポートしようとしてしました。

INSERT オプションを使用するインポートには次のいずれかが必要です。

- SYSADM または DBADM 権限
- 表、視点、または階層全体に対する CONTROL 特権
- 表、視点、または階層全体に対する INSERT および SELECT 特権

注: 階層全体とは、階層にある副表あるいはオブジェクト視点を示します。

INSERT_UPDATE、REPLACE、または REPLACE_CREATE オプションを使用して既存の表または視点にインポートを行うには、次のいずれかが必要です。

- SYSADM または DBADM 権限
- 表、視点、または階層全体に対する CONTROL 特権

注: 階層全体とは、階層にある副表あるいはオブジェクト視点を示します。

CREATE または REPLACE_CREATE オプションを使用して存在しない表にインポートを行うには、次のいずれかが必要です。

- SYSADM または DBADM 権限
- データベースに対する CREATETAB 権限および次のいずれか
 - 表のスキーマ名が存在しない場合、データベースでの IMPLICIT_SCHEMA 権限
 - 表のスキーマ名が存在する場合、スキーマでの CREATEIN 特権

インポート処理は実行されません。

ユーザーの処置: インポート処理を実行する権限がユーザーにあるか確認してください。

SQL3022N Action String パラメーターの SELECT 処理中に、SQL エラー “<sqlcode>” が起きました。

説明: IMPORT または EXPORT で、Action String (たとえば "REPLACE into ...") 構造の SELECT ストリングを処理しているときに、SQL エラーが起きました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 詳細な情報については、メッセージの SQLCODE (message number) を参照してください。変更を行って、コマンドを再発行してください。

SQL3023N database name パラメーターが無効です。

説明: database name パラメーターが無効です。詳細については、SQLCA の「SQLERRD[0]」フィールドを参照してください。

データベース名は、1 から 8 文字でなければならず、文字はデータベース・マネージャー基本文字セットから使用する必要があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効な database name パラメ

ーターを使用して、ステートメントの再実行依頼を行ってください。

SQL3025N ファイル名またはパスを指定するパラメーターが無効です。

説明: パラメーターに、無効なパス、ディレクトリー、またはファイル名が入っています。

IMPORT および EXPORT の場合は、*datafile* パラメーターを確認してください。

LOAD の場合は、タイプが *sqlu_media_list* : のパラメーターの項目 *datafile* が、有効なファイル名を持ち、項目 *lobpaths*、*copytarget*、*workdirectory* が、最終区切り文字およびヌル終止符の入った、サーバー上の有効なパスを持っていることを確認してください。

lobpaths、*copytarget*、および *workdirectory* へのポインターは、有効なポインターまたはヌルでなければなりません。

これらの構造のターゲットへのポインターは、有効なポインターでなければなりません。

sessions および *media_type* が正しく指定されていることをチェックしてください。

また、*lobpaths* パラメーターを指定する場合は、*media_type* がデータベース構造に指定されているものと同じであることをチェックしてください。

filetype が IXF の場合は、ファイル名の長さが長すぎる可能性があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なパラメーターを使用して、ステートメントの再実行依頼を行ってください。

SQL3026N msgfile または tempfiles path パラメーターが無効です。

説明: IMPORT または EXPORT の場合は、*msgfile* パラメーターに、無効なパス、ディレクトリー、またはファイル名が入っています。

LOAD の場合は、*msgfile* パラメーターに、クライアントで無効なパス、ディレクトリー、ファイル名が入っているか、*tempfiles path* がサーバーで無効です。

アプリケーションが接続されているデータベースがリモート・データベースの場合は、*msgfile* は完全修飾されている必要があります。ローカル・データベースの場合、まだ完全修飾されていない場合は、ユーティリティが *msgfile* の完全修飾を行います。*msgfile* へのポインターが有効なことも確認してください。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効な *msgfile* または *tempfiles path* パラメーター、あるいはその両方を指定して、ステートメントの再実行依頼を行ってください。

SQL3028N export 方法標識が無効です。'N' または 'D' でなければなりません。

説明: *export* 方法標識は、名前の場合は 'N'、デフォルトの場合は 'D' でなければなりません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効な方法標識を使用して、ステートメントの再実行依頼を行ってください。

SQL3029N filetype パラメーターが指定されていません。

説明: *filetype* パラメーターが指定されなかったか、またはヌルです。システムが、データ・ファイルに使用する形式を判別できません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効な *filetype* を使用して、ステートメントの再実行依頼を行ってください。

SQL3030C 入力ファイルのオープン中に、入出力エラー (理由 = "<reason>") が起きました。

説明: 入力ファイルをオープンしているときに、システム入出力エラーが起きました。このエラーは、クライアントまたはサーバーに関する問題を示している可能性があります。

エラーの原因として考えられるものは、入力ファイルが別のアプリケーションで使用されているということです。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: パスの入った入力ファイルが有効で、このファイルが別のアプリケーションで使用されていないか、確認してください。追加情報については、メッセージ・ファイルを調べてください。

コマンドを再発行してください。追加情報については、診断ログ・ファイルを調べてください。

SQL3031C 入力ファイルの読み取り中に、入出力エラーが起きました。

説明: 入力ファイルを読み取っているときに、システム入出力エラーが起きました。このエラーは、クライアントまたはサーバーに関する問題を示している可能性があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 入力ファイルが読み取り可能であることを確認してください。

SQL3032N 指定された filetype では、LOAD/IMPORT 方法の標識が無効です。これは 'N'、'P'、あるいは 'default' である必要があります。

説明: IXF および WSF *filetype* を使用する場合、LOAD/IMPORT 方法の標識は、名前の場合は N、位置の場合は P、あるいはデフォルトの D のいずれかにしてください。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効な方法の標識を使用して、コマンドを再発行してください。

SQL3033N ターゲット指定に **INSERT、REPLACE、CREATE、INSERT_UPDATE、REPLACE_CREATE** などのキーワードが抜けているか、またはキーワードのつづりが間違っています。

説明: *IMPORT* の場合、*Action String* (たとえば、"REPLACE into ...") パラメーターにキーワード **INSERT、REPLACE、CREATE、INSERT_UPDATE**、または **REPLACE_CREATE** が入っていません。LOAD の場合には *Action String* パラメーターには、キーワード **INSERT、REPLACE**、あるいは **RESTART** が含まれません。キーワードの後には、少なくとも 1 つの空白が必要です。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効な *Action String* パラメーターを指定して、コマンドを再実行してください。

SQL3034N ターゲット指定からキーワード **INTO** が抜けているか、またはつづりが間違っています。

説明: **INTO** キーワードが指定されていないか、またはそのつづりが誤っています。**INTO** の後には、少なくとも 1 つの空白が必要です。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効な *Action String* パラメーター (たとえば、"REPLACE into...") を指定して、許可されていません。

SQL3035N ターゲット指定の **tablename** パラメーターが無効です。

説明: *IMPORT* の場合、*Action String* (たとえば、"REPLACE into ...") の **tablename** パラメーターが無効です。LOAD では、*Action String* の

tablename あるいは 例外表名 が無効です。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効な **tablename** を指定して、コマンドを再発行してください。すべてのコマンド・キーワードおよびパラメーターが正しい順序で入力されているか確認してください。

SQL3036N ターゲット指定の **tcolumn-list** に、右括弧がありません。

説明: **tcolumn-list** は、括弧で区切る必要があります。リストが右括弧で終了していません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: *Action String* (たとえば "REPLACE into ...") パラメーターに有効で完全な列リストを指定して許可されていません。

SQL3037N インポート処理中に、SQL エラー "**<sqlcode>**" が起きました。

説明: *Action String* (たとえば、"REPLACE into ...") パラメーターの許可されていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 詳細な情報については、メッセージの **SQLCODE** (message number) を参照してください。変更を行って、コマンドを再発行してください。

SQL3038N *Action String* パラメーターに予期しない文字が含まれています。

説明: *IMPORT* では、*Action String* (たとえば、"REPLACE into ...") パラメーターの列リストの右小括弧の後ろに、許可されていません。LOAD では、*Action String* パラメーターの列リストの右小括弧か、例外表名、あるいはその両方の後ろに、空白以外の文字があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効な *Action String* パラメー

ターを指定して、コマンドを再実行してください。

SQL3039W DATA BUFFER の LOAD で使用可能なメモリーは全 LOAD 並列処理を禁止します。“<value>” のロード並列処理が使用されます。

説明: LOAD ユーティリティが、システム構成に基づいて SMP 活用の CPU 並列の最適レベルを判別しようとしたか、またはユーザーがユーティリティを呼び出したときに、LOAD 並列に対して値を指定しました。そのときに、以下のいずれかの制限が発生しました。

1. ユーティリティ・ヒープの空きメモリーの量によって、この並列処理度が禁止される。
2. DATA BUFFER パラメーターが、指定された並列処理または使用可能な並列処理には小さすぎる値で指定された。

より少ないメモリーを必要とする、より低い並列処理度が使用される。

ユーザーの処置:

1. このメッセージを無視すれば、LOAD が並列に対して小さい値を使用して、正常に完了します。ただし、ロード・パフォーマンスは最適ではない可能性があります。
2. ユーティリティを呼び出すときに LOAD に対して小さい値を指定してください。
3. ユーティリティ・ヒープのサイズを増やしてください。
4. データ・バッファ・パラメーターのサイズを増やすか、パラメーターをブランクのままにして LOAD ユーティリティがユーティリティ・ヒープの空きスペースに基づいてデフォルトを判別できるようにします。

SQL3040N lobpath/lobfile パラメーターは、以下に示されたように使用できません。理由コード: “<reason-code>”

説明: ユーティリティが、“<reason-code>”で示された理由で、lobpath または lobfile パラメーターを使用できません。コードは以下にリストされています。

ユーザーの処置: 与えられる理由コードは、以下の通りです。

1. lobpath が有効な sqlu_media_list でないか、または提供された値が無効です。media_type は SQLU_LOCAL_MEDIA でなければならず、すべてのパス名は有効なパス区切り文字で終了している必要があります。
2. lobfile が有効な sqlu_media_list でないか、または提供された値が無効です。media_type は SQLU_LOCAL_MEDIA でなければなりません。
3. 提供された lobpath 名が十分ではありません。エクスポートの場合は、提供されたパスに、すべての lob を保持するのに十分なスペースがありません。
4. 提供された lobfile 名が十分ではありません。エクスポートの場合は、提供された lobfile 名の数に SQLU_MAX_SESSIONS を掛けた数よりも多くの lob があります。
5. lobpath 名と lobfile 名の組み合わせが、lobfile 名の最大サイズ (255 バイト) を超えています。
6. ファイルのアクセス中に、エラーが起きました。

SQL3042N DATALINK 列に指定された LINKTYPE が無効です。

説明: DATALINK 列の LINKTYPE に指定された値が無効です。

ユーザーの処置: 指定された LINKTYPE をチェックします。値を訂正して、コマンドを再実行してください。

SQL3043N DATALINK 列の DATALINK SPECIFICATION が無効です。

説明: DATALINK 列の DATALINK SPECIFICATION が、以下のいずれかの理由で無効です。

- DL_URL_REPLACE_PREFIX に値が指定されていない。
- DL_URL_DEFAULT_PREFIX に値が指定されていない。
- DL_URL_SUFFIX に値が指定されていない。
- DL_URL_REPLACE_PREFIX または DL_URL_DEFAULT_PREFIX または DL_URL_SUFFIX 以外のキーワードが入っている。

ユーザーの処置: 指定を訂正してコマンドを再実行してください。

SQL3044N DATALINK 列の DATALINK SPECIFICATION に接頭部の重複指定が存在します。

説明: DATALINK 列の DATALINK SPECIFICATION に DL_URL_REPLACE_PREFIX または DL_URL_DEFAULT_PREFIX の重複指定が存在します。

ユーザーの処置: 重複指定を除去してコマンドを再実行依頼してください。

SQL3045N METHOD パラメーターの dcolumn 位置が、1 より小さいか、または区切り文字付き ASCII ファイルでの列の最大数 (1024) より大きくなっています。

説明: dcolumn 位置が、1 より小さいか、または区切り文字付き文字での最大列数 (1024) より大きくなっています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効な dcolumn 位置を指定して、コマンドを再発行してください。

SQL3046N METHOD パラメーターの列数が、1 より小さくなっています。

説明: デフォルト以外の METHOD 方法の場合、指定された列数は正の数 (0 より大きい) でなければなりません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: METHOD パラメーターで有効な列数を指定して、コマンドを再実行してください。

SQL3047N METHOD で指定された LOAD/IMPORT 方法は区切り文字付き ASCII ファイルでは無効です。これは 'P' あるいは 'default' である必要があります。

説明: 区切り文字付き ASCII ファイルに対して唯一有効な LOAD/IMPORT 方法は、位置の場合は P、またはデフォルトの場合は D です。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なインポート方法を使用して、コマンドを再発行してください。

SQL3048N 入力ファイルから指定された列が、データベースの列より少なくなっていますが、データベースのいずれかの列をヌルにすることはできません。

説明: ターゲット表に指定された列数よりも少ない列数が METHOD リストに指定されている場合は、欠落している入力列の値がヌルとしてロードされます。1 つ以上のこれらの入力列に対応するターゲット表の列がヌルにすることができないので、ヌルは挿入できません。

ファイルはロードされません。

ユーザーの処置: 入力ファイルと同数の列を持つか、またはヌル値化可能な列を持つ新しい表を定義してください。コマンドを再発行してください。

SQL3049N データベースの列 “<name>” のデータ・タイプ “<type>” が、この形式ファイルと互換ではありませんが、データベースの列はヌルにすることができません。

説明: データベースの列タイプがこのファイルには無効です。データベースの列がヌルにできないために、ユーティリティは終了しました。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: データベース表を再定義して、列がファイルからロードされる列と互換になるようにしてください。

SQL3050W データの変換は、IXF ファイル・コード・ページとアプリケーション・コード・ページの間で行われます。

説明: IXF データ・ファイルの IMPORT が発行され、IXF ファイルの文字データのコード・ページが、インポート処理を呼び出しているアプリケーションのコード・ページと異なる場合は、データ・ファイルのコード・ページから、アプリケーションのコード・ページへの変換が行われ、処理は続けられます。

IXF データ・ファイルの LOAD が発行され、IXF ファイルの文字データのコード・ページが、データベースのコード・ページと異なる場合は、データ・ファイルのコード・ページから、データベースのコード・ページへの変換が行われ、処理は続けられます。

ユーザーの処置: 変換を実行したくない場合は、FORCEIN オプションを使用して、ユーティリティを呼び出し、それ以外の場合、処置は必要ありません。

SQL3051W “<column_name>” にロードされるデータがロードされましたが、IXF コード・ページからアプリケーション・コード・ページへの変換が実行されませんでした。

説明: CLOB または DBCLOB カラムへロードされたデータは分離ファイルに保管され、その中で何の変換も実行されませんでした。

適切なデータをロードするためには、IXF ファイルと同じコード・ページをもつアプリケーションからユーティリティを呼び出してください。

ユーザーの処置: これは警告です。

SQL3053N ワークシート形式ファイルにエクスポートされる行が、8191 行を超えています。

説明: ワークシート形式 (WSF) スプレッドシートに入れられる行の最大数は 8191 です。

EXPORT ユーティリティは、ファイルに 8191 行を書き込むと処理を停止します。

ユーザーの処置: このエラーを防ぐには、SELECT ステートメントを使用して、エクスポートされる行数を減らし、コマンドを再発行してください。

SQL3054N 入力ファイルが、有効な PC/IXF ファイルではありません。このファイルは、有効な H レコードを含むには小さすぎます。

説明: 予期される最初のレコードの終わりが検出される前に、ファイルの終わりに達しました。ファイルが PC/IXF ファイルではない可能性があります。

LOAD/IMPORT ユーティリティの処理を停止します。データはインポートされません。

ユーザーの処置: 入力ファイルが正しいことを確認してください。

SQL3055N 入力ファイルが、有効な PC/IXF ファイルではありません。最初のレコードの「長さ」フィールドが、数値に変換できません。

説明: 最初のレコードの「長さ」フィールドにある値が、ASCII 表現の数値ではありません。ファイルが PC/IXF ファイルではない可能性があります。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: 入力ファイルが正しいことを確認してください。

SQL3056N 入力ファイルが、有効な PC/IXF ファイルではありません。H レコードの「長さ」フィールドの値が、小さすぎます。

説明: H レコードの「長さ」フィールドの値が、有効な H レコードに対する十分な大きさになっていません。ファイルが PC/IXF ファイルではない可能性があります。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: 入力ファイルが正しいことを確認してください。

SQL3057N 入力ファイルが、有効な PC/IXF ファイルではありません。最初のレコードの「タイプ」フィールドが H ではありません。

説明: 最初のレコードの「タイプ」フィールドが H ではありません。最初のレコードは有効な H レコードではありません。ファイルが PC/IXF ファイルではない可能性があります。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: 入力ファイルが正しいことを確認してください。

SQL3058N H レコードの「ID」フィールドが IXF ではありません。

説明: H レコードの「ID」フィールドが、ファイルを PC/IXF ファイルとして識別していません。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: H レコードの「ID」フィールドを調べてください。

SQL3059N H レコードの「バージョン」フィールドが無効です。

説明: H レコードの「バージョン」フィールドに、無効な値が入っています。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: H レコードの「バージョン」フィールドを調べてください。

SQL3060N H レコードの「HCNT」フィールドが数値に変換できないか、または値が範囲を超えています。

説明: H レコードの「Heading-record-count」フィールドが、ASCII 表現の数字ではないか、またはこのフィールドには無効な数字になっていません。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: H レコードの「HCNT」フィールドを調べてください。

SQL3061N H レコードの「1 バイト・コード・ページ」と「2 バイト・コード・ページ」フィールドの両方、またはいずれかが数値に変換できないか、または値が範囲を超えています。

説明: H レコードの「1 バイト・コード・ページ」と「2 バイト・コード・ページ」フィールドが、ASCII 表現の数値ではないか、またはこのフィールドには無効な数値になっています。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: H レコードの「1 バイト・コード・ページ」と「2 バイト・コード・ページ」フィールドを調べて、アプリケーション開発の手引きに指定されているとおりに該当する値に変更します。

SQL3062N H レコードの「2 バイト・コード・ページ」フィールドが数値に変換できないか、または値が範囲を超えています。

説明: H レコードの「2 バイト・コード・ページ」フィールドが、ASCII 表現の数字ではないか、またはこのフィールドには無効な数字になっています。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: H レコードの「2 バイト・コード・ページ」フィールドを調べて、アプリケーション開発の手引きに指定されているとおりに該当する値に変更します。

SQL3063N H レコードの 1 バイト・コード・ページの値 “<value 1>” が、アプリケーションの 1 バイト・コード・ページの値 “<value 2>” と互換性がありません。**FORCEIN** オプションは指定されていません。

説明: H レコードの単一バイトのコード・ページの値がアプリケーション・コード・ページの値と互換性がありません。**FORCEIN** オプションが使用されていないとき、値 1 から 2 への変換がサポートされていないと、データのロードはできません。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: このデータをロードするには、**FORCEIN** オプションを指定して、コマンドを再実行してください。

SQL3064N H レコードの 2 バイト・コード・ページの値 “<value 1>” が、アプリケーションの 2 バイト・コード・ページの値 “<value 2>” と互換性がありません。**FORCEIN** オプションは指定されていません。

説明: H レコードの 2 バイトのコード・ページの値がアプリケーション・コード・ページの値と互換性がありません。**FORCEIN** オプションが使用されていないとき、値 1 と 2 が同一でないと、データのロードはできません。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: 2 バイト・コード・ページの値が一致しないデータをロードするには、**FORCEIN** オプションを指定してコマンドを再実行してください。

SQL3065C アプリケーションのコード・ページの値が判別できません。

説明: アプリケーションのコード・ページの判別中に、システムがエラーを見つけました。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードまたはアンロードされません。

ユーザーの処置: 技術サービス担当者に連絡してください。

SQL3066N T レコードの読み取り中または探索中に、ファイルの終わりに達しました。

説明: システムが T レコードを探索しているとき、または T レコードを読み取っているときに、ファイルの終わりに達しました。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: 入力ファイルの T レコードを調べてください。PC/IXF ファイルをあるメディアから別のメディアにコピーしている場合は、コピーをオリジナルと比較するか、またはコピー・プロセスを繰り返してください。

SQL3067N T レコードの「長さ」フィールドが、数値に変換できません。

説明: T レコードの「長さ」フィールドが、ASCII 表現の数字ではありません。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: T レコードの「長さ」フィールドを調べてください。

SQL3068N T レコードの「長さ」フィールドの値が、小さすぎます。

説明: T レコードの「長さ」フィールドの値が十分に大きくないので、T レコードは無効です。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: T レコードの「長さ」フィールドを調べてください。

SQL3069N H レコードに続く、A レコード以外の最初のレコードが、T レコードではありません。

説明: H レコードの後の A レコードではない最初のレコードが、T レコードでもありません。H レコードの後には、すぐに T レコードが続く必要がありますが、T レコードの前に A レコードが存在する可能性があります。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: H レコードに続くレコードを調べてください。

SQL3070N A レコードの「長さ」フィールドの値が範囲を超えています。

説明: A レコードの「長さ」フィールドが、このフィールドには無効な数字です。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: A レコードの「長さ」フィールドを調べてください。

SQL3071N T レコードの「データ変換」フィールドが C ではありません。

説明: T レコードの「データ変換」フィールドが C 以外の値です。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: T レコードの「データ変換」フィールドを調べてください。

SQL3072N T レコードの「データ形式」フィールドが M ではありません。

説明: T レコードの「データ形式」フィールドが M 以外の値です。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: T レコードの「データ形式」フィールドを調べてください。

SQL3073N T レコードのマシン形式フィールドが PCbbb (b はブランク) ではありません。

説明: T レコードのマシン形式フィールドが、PCbbb 以外の値です。それぞれの b はブランクです。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: T レコードのマシン形式フィールドを調べてください。

SQL3074N T レコードの「データ位置」フィールドが I ではありません。

説明: T レコードの「データ位置」フィールドが I 以外の値です。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: T レコードの「データ位置」フィールドを調べてください。

SQL3075N T レコードの CCNT が数値に変換できないか、または値が範囲を超えています。

説明: T レコードの「C レコード・カウント」フィールドが、ASCII 表現の数字になっていないか、またはこのフィールドには無効な数字になっています。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: T レコードの「CCNT」フィールドを調べてください。

SQL3076N T レコードの「名前の長さ」フィールドが数値に変換できないか、または値が範囲を超えています。

説明: T レコードの「名前の長さ」フィールドが、ASCII 表現の数字ではないか、またはこのフィールドには無効な数字になっています。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: T レコードの「名前の長さ」フィールドを調べてください。

SQL3077N T レコードの「CCNT」フィールドに指定された C レコードの数 “<value>” が、許される最大値 “<maximum>” を超えています。

説明: T レコードの「CCNT」フィールドの値が、このリリースの示された最大許容値を超えています。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: T レコードの「CCNT」フィールドを調べてください。

SQL3078N A レコードの「長さ」フィールドが、数値に変換できません。

説明: A レコードの「長さ」フィールドが、ASCII 表現の数字ではありません。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: A レコードの「長さ」フィールドを調べてください。

SQL3079N C レコードの「長さ」フィールドが、数値に変換できません。

説明: C レコードの「長さ」フィールドが、ASCII 表現の数字ではありません。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: C レコードの「長さ」フィールドを調べてください。

SQL3080N C レコードの「長さ」フィールドの値が、小さすぎます。

説明: C レコードの「長さ」フィールドの値が十分に大きくないので、C レコードは無効です。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: C レコードの「長さ」フィールドを調べてください。

SQL3081N C レコードが足りません。

説明: (正しい位置で) 見つかった C レコードの数が、T レコードの C レコード・カウント (CCNT) に指定された数より少なくなっています。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: T および C レコードを調べてください。

SQL3082N C レコードの読み取り中または探索中に、ファイルの終わりに達しました。

説明: システムが C レコードを探索しているとき、または C レコードをまだ読み取っているときに、ファイルの終わりに達しました。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: 入力ファイルの C レコードを調べてください。PC/IXF ファイルをあるメディアから別のメディアにコピーしている場合は、コピーをオリジナルと比較するか、またはコピー・プロセスを繰り返してください。

SQL3083N 列 “<name>” に対する C レコードの「D レコード ID」フィールドの値が、数値に変換できません。

説明: 示された列に対する C レコードの「D レコード ID」フィールドが、ASCII 表現の数字ではありません。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: C レコードの「D レコード ID」フィールドを調べてください。

SQL3084N 列 “<name>” に対する C レコードの「D レコード位置」フィールドの値が、数値に変換できません。

説明: 示された列に対する C レコードの「D レコード位置」フィールドが、ASCII 表現の数字ではありません。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: C レコードの「D レコード位置」フィールドを調べてください。

SQL3085N 列 “<name>” に対する C レコードの「D レコード ID」、および「D レコード位置」フィールドの値が範囲を超えているか、または前の C レコードと矛盾しています。

説明: 示された列に対する C レコードの「D レコード ID」、および「D レコード位置」フィールドに、範囲を超えているか、または前の C レコードとの関連で正しくない値が入っています。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: C レコードの「D レコード ID」および「D レコード位置」フィールドを調べてください。

SQL3086N データベースの列 “<name>” へのロードを指定されたソース列がないか、または存在しないソース列が指定されていますが、データベースの列はヌルにすることはできません。

説明: 示された列にエクスポートされるように指定された PC/IXF 列がないか、または指定された PC/IXF ソース列が存在しません。データベースの列がヌルにできないために、ヌルは挿入することができません。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: *METHOD* パラメーターを、誤りのある名前または位置についてチェックするか、*Action String* (たとえば、“REPLACE into...”) パラメーターが明示または暗黙に指定する項目よりも *METHOD* パラメーターの項目が少ない場合についてチェックしてください。

SQL3087N データベースの列 “<name>” へのロードを指定されたソース列が無効か、またはデータベースの列はヌルにすることができません。

説明: PC/IXF 列は、示された列にロードすることができず、その理由はメッセージ・ログの前のメッセージに示されています。データベースの列がヌルにできないために、ヌルは挿入することができません。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: 前のメッセージを読んで、列が無効な理由を理解してください。

SQL3088N データベースの列 “<name>” へのロードが指定されたソース列が、データベースの列と互換ではありませんが、データベースの列はヌルにすることができません。

説明: ソース PC/IXF 列が、ターゲット・データベースの列と互換性がありません。列のタイプまたは長さが、互換でない可能性があります。データベースの列がヌルにできないために、ヌルは挿入することができません。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: ソース PC/IXF ファイルの列を、データベースの列と比較してください。

SQL3089N D レコードが予期されている位置に、D レコードではないレコードがあります。

説明: D レコードがあるべき位置に、D レコード以外のレコードがあります。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: ファイル内の D レコードを調べてください。

SQL3090N D レコードの「長さ」フィールドが、数値に変換できません。

説明: D レコードの「長さ」フィールドが、ASCII 表現の数字ではありません。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: D レコードの「長さ」フィールドを調べてください。

SQL3091N D レコードの「長さ」フィールドの値が範囲を超えています。

説明: D レコードの「長さ」フィールドが、このフィールドには無効な数字です。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: D レコードの「長さ」フィールドを調べてください。

SQL3092N D レコードの「ID」フィールドに、予期されていない値が含まれています。

説明: D レコードの「ID」フィールドが無効です。1 つ以上の D レコードが、間違った順序で書き込まれた可能性があります。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: D レコードの「ID」フィールドを調べてください。

SQL3093N 入力ファイルは、有効な WSF ファイルではありません。

説明: ワークシート形式 (WSF) ファイルの最初のレコードが、ファイルの開始 (BOF) レコードではないか、または WSF ファイルのバージョンがサポートされていません。

IMPORT ユーティリティは処理を停止します。データはインポートされません。

ユーザーの処置: ファイルが有効な WSF ファイルであり、その名前が正しく入力されていることを確認してください。

SQL3094N 入力列 “<name>” が見つかりませんが、対応するデータベースの列はヌルにすることができません。

説明: 示された列が、入力ファイルに存在しません。対応するデータベースの列がヌルにすること

ができないために、データが列にロードできません。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。エラーが起きる前に処理された列は、データベース内に存在します。

ユーザーの処置: 入力ファイルに指定した列名があることを確認してください。

SQL3095N 指定された列の位置 “<position>” が、1 から 256 までの有効範囲を超えています。

説明: 1 から 256 の有効範囲にない列の位置が指定されました。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。エラーが起きる前に処理された列は、データベース内に存在します。

ユーザーの処置: 指定した列の位置が 1 から 256 の範囲内にあることを確認してください。

SQL3096N データベースの列 “<name>” のデータ・タイプ “<type>” が、WSF 列タイプと互換ではありませんが、データベースの列はヌルにすることができません。

説明: 示されたデータベースの列と互換であるワークシート形式 (WSF) 列タイプがありません。データベースの列がヌルにできないために、IMPORT ユーティリティは処理を停止します。データはインポートされません。

ユーザーの処置: データベース表を再定義して、その列が WSF ファイルからインポートされる列と互換になるようにしてください。コマンドを再発行してください。

SQL3097N WSF レコードの「レコード長」フィールドが、このレコード・タイプには無効です。

説明: ワークシート形式 (WSF) レコードは、予期された固定長または可変長の範囲です。ただし、レコードに固定長が入っていないか、または可変長が範囲を超えています。WSF ファイルが損傷を受けたか、または間違っ生成されました (Lotus 製品のレベルが、データベース・マネージャーによってサポートされていない可能性があります)。

IMPORT ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: サポートされているレベルの Lotus 製品を使用して、WSF ファイルを再生成してください。

SQL3098N 入力ファイルの行番号が、1 から 8192 までの有効範囲を超えています。

説明: ワークシート形式 (WSF) スプレッドシートが含むことができる行の最大数は 8192 です。セル調整に、有効範囲外の値が入っています。WSF ファイルが損傷を受けたか、または間違っ

SQL3100 - SQL3199

SQL3100W 出力 DEL 形式ファイルの列番号 “<column-number>” (“<name>” で識別される) が、254 バイトより長くなっています。

説明: 示された出力列の長さまたは最大長が 254 バイト以上になっています。254 バイトより大きな列は、他のいくつかの製品ではサポートされていません。

フィールド全体が切り捨てられずにエクスポートされます。

ユーザーの処置: 出力ファイルが他の製品で処理できない場合は、正しくない列のサブストリングのみをエクスポートするか、表を再定義するか、

て生成されました (Lotus 製品のレベルが、データベース・マネージャーによってサポートされていない可能性があります)。

IMPORT ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: サポートされているレベルの Lotus 製品を使用して、WSF ファイルを再生成してください。

SQL3099N 入力ファイルの列番号が、1 から 256 までの有効範囲を超えています。

説明: ワークシート形式 (WSF) スプレッドシートが含むことができる列の最大数は 256 です。セル調整に、有効範囲外の値が入っています。WSF ファイルが損傷を受けたか、または間違っ生成されました (Lotus 製品のレベルが、データベース・マネージャーによってサポートされていない可能性があります)。

IMPORT ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: サポートされているレベルの Lotus 製品を使用して、WSF ファイルを再生成してください。

または DEL 列内のデータを手操作で切り捨ててください。

SQL3101W 行 “<row-number>” の列 “<column-number>” に、文字ストリング区切り文字があります。

説明: システムは、エクスポートされる文字ストリングの両側に文字ストリング区切り文字を置きますが、文字ストリング内にすでに区切り文字を持つ文字ストリングが見つかりました。

区切り文字は文字ストリングの両側に置かれます。そのストリングを後で使用すると、切り捨て処理が行われます。処理は続行されます。

ユーザーの処置: 出力表またはファイルの指示された列および行のデータを検討してください。データの損失を防ぐには、区切り文字をデータ内にはない文字に変更してください。

SQL3102W METHOD パラメーターの列数が、**Action String** (たとえば **"REPLACE into..."**) パラメーターの許可されていません。

説明: 入力ファイルまたは表から取り出される列数が、出力表またはファイルに置かれる列数より大きくなっています。

出力表またはファイルに指定された列のデータのみが処理されます。余った入力列のデータは処理されません。

ユーザーの処置: 出力表またはファイルのデータを検討してください。

SQL3103W METHOD パラメーターの列数が、**Action String** (たとえば、**"REPLACE into..."**) パラメーターの列数よりも許可されていません。

説明: 入力ファイルまたは表から取り出される列数が、出力表またはファイルに置かれる列数より小さくなっています。

入力表またはファイルに指定された列のデータのみが処理されます。余った出力列のデータは処理されません。

ユーザーの処置: 出力表またはファイルのデータを検討してください。

SQL3104N エクスポート・ユーティリティーが、ファイル **"<name>"** へのエクスポートを開始しています。

説明: これは通常の開始メッセージです。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL3105N エクスポート・ユーティリティーが、**"<number>"** 行のエクスポートを終了しました。

説明: これは、メッセージ・ファイルの最後に印刷される、エクスポート・ユーティリティーの要約メッセージです。このメッセージは、エクスポート・ユーティリティーが終了する前に SELECT ステートメントから処理された行数を示します。

ユーザーの処置: 0 の sqlcode がユーティリティーから返された場合は、処置を行う必要はありません。3107 の sqlcode が返された場合は、エクスポート中に出された警告について、メッセージ・ファイルをチェックして、必要に応じて、コマンドを再発行してください。負の sqlcode が返された場合は、エクスポート中にエラーが起き、データ・ファイルには、要求したすべてのデータが入っていない可能性があります。エラーを訂正して、コマンドを再発行する必要があります。

SQL3106N メッセージ・ファイルへのメッセージのフォーマット中に、エラーが起きました。

説明: エラー・メッセージが不完全か、または形式が正しくない可能性があります。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL3107W メッセージ・ファイルに、少なくとも 1 つの警告メッセージがあります。

説明: 処理中に少なくとも 1 つの警告を受け取りました。

この警告は処理に影響を与えません。

ユーザーの処置: メッセージ・ファイルの警告を検討してください。

SQL3108W 行 “<row-number>” と列 “<column-number>” の **DATALINK** 値によって参照されているファイルにアクセスできません。理由コード = “<reason-code>”

説明: このメッセージが表示される考えられる原因は、次の “<reason-code>” の値に依存します。

- 1 **DATALINK** 値データ・ロケーション形式は無効です。
- 2 **DATALINK** 値 DB2 データ・リンク・マネージャーがデータベースに登録されていません。
- 3 **DATALINK** リンク・タイプ値が無効です。
- 4 DB2 データ・リンク・マネージャーで **DATALINK** 値参照ファイルを検出できません。
- 5 **DATALINK** 値参照ファイルはすでにデータベースにリンクされています。
- 6 **DATALINK** 値参照ファイルはリンクのためにアクセスできません。設定ユーザー ID (SUID) または設定グループ (SGID) の許可ビットがオンになっている、記号リンクまたはファイルである可能性があります。
- 7 **DATALINK** 値 URL または注釈が長過ぎます。

ユーザーの処置: 処置は次のように <reason-code> に基づいています。

- 1 データ・ロケーション形式を訂正してください。ホスト名が指定されていなければ、FILE LINK CONTROL のサポートが使用可能である場合のみ、DB2 はローカル・ホスト名をデフォルトとして使用することができます。このサポートの使用可能にする際の情報については、「管理の手引き」を参照してください。

- 2 正しい DB2 データ・リンク・マネージャーが指定されていることを確認して、正しい場合はデータベースに登録してください。登録された DB2 データ・リンク・マネージャーは、FILE LINK CONTROL のサポートが使用可能でない場合は無視されます。このサポートの使用可能にする際の情報については、「管理の手引き」を参照してください。
- 3 リンク・タイプ値を訂正してください。
- 4 正しいファイルが指定されているかどうか、そのファイルが存在するかどうか検査してください。
- 5 ファイルの既存の参照をリンク解除するか、またはこのステートメントでファイルを指定しないようにしてください。
- 6 ディレクトリーのリンクは許可されていません。記号リンクではなく、実際のファイル名を使用してください。SUID または SGID がオンの場合は、**DATALINK** タイプを使用してこのファイルをリンクできません。
- 7 データ・ロケーション値または注釈の長さを小さくしてください。

SQL3109N ユーティリティが、ファイル “<name>” からデータのロードを開始しています。

説明: これは通常の開始メッセージです。このメッセージは、ソース・ファイルの代わりに、サーバーに作成された一時ファイルの名前を示す可能性があります。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL3110N ユーティリティーが処理を完了しました。“<number>”行が、入力ファイルから読み取られました。

説明: これは正常な終了メッセージです。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL3111C 入力データ・ファイルのクローズ中に、入出力エラーが起きました。

説明: 入力データ・ファイルをクローズしているときに、システム入出力エラーが起きました。このエラーは、クライアントまたはサーバーに関する問題を示している可能性があります。

ファイルはクローズされません。

ユーザーの処置: 入出力エラーについて、入力ファイルを調べてください。

SQL3112W 指定された入力ファイルの列が、データベースの列より少なくなっています。

説明: 入力ファイルの指定された列が、出力ファイルの列より少なくなっています。表の余分な列はヌル値可能として定義されているので、その列内の値はヌルで埋められます。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL3113W データベース列“<name>”のデータ・タイプ“<type>”が、この形式ファイルと互換性がありません。ヌル値が列に挿入されます。

説明: データベース列タイプがこのファイルには無効です。列はヌルにすることができるので、ヌルが挿入されます。

ヌル値が、示された列にロードされます。

ユーザーの処置: 列がヌルを受け付けない場合には、以下のいずれかを行ってください。

- 表のデータを編集してください。

- 可能であれば、データベース表の別の互換列をターゲット列として使用して、コマンドを再発行してください。

- データベース表を再定義して、列がロードされる列と互換になるようにして、コマンドを再発行してください。
-

SQL3114W 行“<row-number>”、列“<column-number>”の“<text>”の後のデータが、ロードされていません。

説明: おそらく、以下のようなデータが列に入っているために、行と列に示されたデータがロードされません。

- 終了ストリング区切り文字
- 分離復帰文字または行送り制御文字
- 区切り文字のないストリング値

ロードされたテキストは、“<text>”トークンに示されています。

フィールドの内容が不完全な可能性があります。

ユーザーの処置: 出力表の値を入力ファイルの値と比較してください。必要に応じて、入力ファイルを訂正してコマンドを再発行するか、または表のデータを編集してください。

SQL3115W 行“<row-number>”、列“<column-number>”の“<text>”で始まるフィールドの値が、最長許容表列よりも長すぎます。値は切り捨てられました。

説明: フィールドの値が 32700 バイトより長くなっています。

32700 バイトより後の値は、切り捨てられました。

ユーザーの処置: 出力表の値を入力ファイルの値と比較してください。必要に応じて、入力ファイルを訂正してコマンドを再発行するか、または表のデータを編集してください。不一致の文字スト

リング区切り文字をチェックしてください。

SQL3116W 行 “<row-number>”、列 “<column-number>” のフィールドの値が抜けていますが、ターゲット列はヌルにできません。

説明: 入力ファイルにヌルのフィールド値が見つかりました。表のターゲット列はヌルにできないので、ロードすることができません。

ASCII ファイル以外のファイルの場合は、列番号の値が、欠落データの行内のフィールドを示します。ASCII ファイルの場合は、列番号の値が、欠落データの行内のバイト位置を示します。

行はロードされません。

ユーザーの処置: 必要に応じて、入力ファイルを訂正してコマンドを再発行するか、または表のデータを編集してください。

SQL3117W 行 “<row-number>”、列 “<column-number>” のフィールドの値が **SMALLINT** 値に変換できません。ヌルがロードされました。

説明: 示されたフィールドの値が、**SMALLINT** 値に変換できません。データ・タイプが不一致である可能性があります。値が 2 バイトの整数よりも大きい可能性があります。

区切り文字付き ASCII (DEL) ファイルの場合、列番号の値が問題の値の入った行内のフィールドを示しています。ASCII ファイルの場合は、列番号の値が、問題の値が始まる行内のバイト位置を示します。

ヌル値がロードされます。

ユーザーの処置: 入力値を調べてください。必要に応じて、入力ファイルを訂正してコマンドを再発行するか、または表のデータを編集してください。

SQL3118W 行 “<row-number>”、列 “<column-number>” のフィールドの値が **SMALLINT** 値に変換できませんが、ターゲット列はヌルにすることができません。行はロードされません。

説明: 示されたフィールドの値が、**SMALLINT** 値に変換できません。データ・タイプが不一致である可能性があります。値が 2 バイトの整数よりも大きい可能性があります。表の出力列をヌルにできないために、ヌルがロードできません。

区切り文字付き ASCII (DEL) ファイルの場合、列番号の値が問題の値の入った行内のフィールドを示しています。ASCII ファイルの場合は、列番号の値が、問題の値が始まる行内のバイト位置を示します。

行はロードされません。

ユーザーの処置: 入力ファイルを訂正してコマンドを再発行するか、または表のデータを編集してください。

SQL3119W 行 “<row-number>”、列 “<column-number>” のフィールドの値が **INTEGER** 値に変換できません。ヌルがロードされました。

説明: 示されたフィールドの値が **INTEGER** 値に変換できないために、データ・タイプの不一致が存在する可能性があります。

区切り文字付き ASCII (DEL) ファイルの場合、列番号の値が問題の値の入った行内のフィールドを示しています。ASCII ファイルの場合は、列番号の値が、問題の値が始まる行内のバイト位置を示します。

ヌル値がロードされます。

ユーザーの処置: 入力値を調べてください。必要に応じて、入力ファイルを訂正してコマンドを再発行するか、または表のデータを編集してください。

SQL3120W 行 “<row-number>”、列 “<column-number>” のフィールドの値が **INTEGER** 値に変換できませんが、ターゲット列はヌルにすることができません。行はロードされません。

説明: 示されたフィールドの値が **INTEGER** 値に変換できないために、データ・タイプの不一致が存在する可能性があります。表の出力列をヌルにできないために、ヌルがロードできません。

区切り文字付き ASCII (DEL) ファイルの場合、列番号の値が問題の値の入った行内のフィールドを示しています。ASCII ファイルの場合は、列番号の値が、問題の値が始まる行内のバイト位置を示します。

行はロードされません。

ユーザーの処置: 入力ファイルを訂正してコマンドを再発行するか、または表のデータを編集してください。

SQL3121W 行 “<row-number>”、列 “<column-number>” のフィールドの値が **FLOAT** 値に変換できません。ヌルがロードされました。

説明: 示されたフィールドの値が **FLOAT** 値に変換できません。データ・タイプが不一致である可能性があります。

区切り文字付き ASCII (DEL) ファイルの場合、列番号の値が問題の値の入った行内のフィールドを示しています。ASCII ファイルの場合は、列番号の値が、問題の値が始まる行内のバイト位置を示します。

ヌル値がロードされます。

ユーザーの処置: 入力値を調べてください。必要に応じて、入力ファイルを訂正してコマンドを再発行するか、または表のデータを編集してください。

SQL3122W 行 “<row-number>”、列 “<column-number>” のフィールドの値が **FLOAT** 値に変換できませんが、ターゲット列はヌルにすることができません。行はロードされません。

説明: 示されたフィールドの値が **FLOAT** 値に変換できません。データ・タイプが不一致である可能性があります。表の出力列をヌルにできないために、ヌルがロードできません。

区切り文字付き ASCII (DEL) ファイルの場合、列番号の値が問題の値の入った行内のフィールドを示しています。ASCII ファイルの場合は、列番号の値が、問題の値が始まる行内のバイト位置を示します。

行はロードされません。

ユーザーの処置: 入力ファイルを訂正してコマンドを再発行するか、または表のデータを編集してください。

SQL3123W 行 “<row-number>”、列 “<column-number>” のフィールドの値が **PACKED DECIMAL** 値に変換できません。ヌルがロードされました。

説明: 示されたフィールドの値が **PACKED DECIMAL** 値に変換できません。データ・タイプが不一致である可能性があります。

区切り文字付き ASCII (DEL) ファイルの場合、列番号の値が問題の値の入った行内のフィールドを示しています。ASCII ファイルの場合は、列番号の値が、問題の値が始まる行内のバイト位置を示します。

ヌル値がロードされます。

ユーザーの処置: 入力値を調べてください。必要に応じて、入力ファイルを訂正してコマンドを再発行するか、または表のデータを編集してください。

SQL3124W 行 “<row-number>”、列 “<column-number>” のフィールドの値が **PACKED DECIMAL** 値に変換できませんが、ターゲット列はヌルにすることができません。行はロードされません。

説明: 示されたフィールドの値が **PACKED DECIMAL** 値に変換できません。データ・タイプが不一致である可能性があります。表の出力列をヌルにできないために、ヌルがロードできません。

区切り文字付き ASCII (DEL) ファイルの場合、列番号の値が問題の値の入った行内のフィールドを示しています。ASCII ファイルの場合は、列番号の値が、問題の値が始まる行内のバイト位置を示します。

行はロードされません。

ユーザーの処置: 入力ファイルを訂正してコマンドを再発行するか、または表のデータを編集してください。

SQL3125W データがターゲット・データベースの列より長いために、行 “<row-number>”、列 “<column-number>” の文字データが切り捨てられました。

説明: 入力ファイルのフィールド・データの長さが、ロードされる先であるデータベース・フィールドの長さより長くなっています。

文字データは切り捨てられました。

ユーザーの処置: 出力表の値を入力ファイルの値と比較してください。必要に応じて、入力ファイルを訂正してコマンドを再発行するか、または表のデータを編集してください。データベースの列の幅は増やすことができません。必要に応じて、もっと幅の広い列で表を定義して、プロセスを繰り返してください。

SQL3128W “<data>” を行 “<row-number>”、列 “<column-number>” に持っているフィールドが、データがデータベースの列より長いいため、**DATE** フィールドに合わせて切り捨てられます。

説明: 示されたフィールドの日付値が、日付のストリング表現の長さより長くなっています。

日付値は、表に合うように切り捨てられます。

ユーザーの処置: 出力表の値を入力ファイルの値と比較してください。必要に応じて、入力ファイルを訂正してコマンドを再発行するか、または表のデータを編集してください。

SQL3129W 行 “<row-number>”、列 “<column-number>” の “<text>” を持つ日付、時刻、またはタイム・スタンプのフィールドがブランクで埋められました。

説明: 入力ファイルのフィールド・データが、データベースの列より短くなっていました。

データの右側がブランクで埋められます。

ユーザーの処置: 出力表の値を入力ファイルの値と比較してください。必要に応じて、入力ファイルを訂正してコマンドを再発行するか、または表のデータを編集してください。

SQL3130W データがデータベースの列より長いために、行 “<row-number>”、列 “<column-number>” に “<text>” を持つフィールドが、「**TIME**」フィールドに合わせて切り捨てられます。

説明: 示されたフィールドの時刻値が、時刻のストリング表現の長さより長くなっています。

時刻値は、表に合うように切り捨てられます。

ユーザーの処置: 出力表の値を入力ファイルの値と比較してください。必要に応じて、入力ファイル

ルを訂正してコマンドを再発行するか、または表のデータを編集してください。

SQL3131W データがデータベースの列より長い
ために、行 “<row-number>”、列
“<column-number>” に “<text>”
を持つフィールドが、
「TIMESTAMP」フィールドに合わ
せて切り捨てられます。

説明: 示されたフィールドのタイム・スタンプの
値が、タイム・スタンプのストリング表現の長さ
より長くなっています。

タイム・スタンプの値は、表に合うように切り捨
てられます。

ユーザーの処置: 出力表の値を入力ファイルの値
と比較してください。必要に応じて、入力ファイ
ルを訂正してコマンドを再発行するか、または表
のデータを編集してください。

SQL3132W 列 “<column>” の文字データはサ
イズ “<size>” に切り捨てられま
す。

説明: 文字データ列に、エクスポートできるデフ
ォルトの最大文字列より長い定義サイズがあり、
各値は、指定されたサイズに切り捨てられます。

たとえば、デフォルト値によって、LOB 列の最
初の SQL_LONGMAX バイトがエクスポートさ
れます。LOB 列全体が必要な場合には、ファイ
ル・タイプ修飾子に *LOB*SINFILE キーワードを
指定しなければなりません。LOB の各列が別個
のファイルに保管されます。

ユーザーの処置: これは警告です。処置は必要
ありません。

SQL3133W 行 “<row-number>” と列
“<column-number>” のフィール
ドに無効な DATALINK 値が含まれ
ています。ヌルがロードされまし
た。

説明: 指定されたフィールドの DATALINK 値
は無効です。区切り文字付き ASCII (DEL) ファ
イルの場合、列番号の値が問題の値の入った行内
のフィールドを示しています。ASCII ファイル
の場合は、列番号の値が、問題の値が始まる行内
のバイト位置を示します。

ヌル値がロードされます。

ユーザーの処置: 入力値を調べてください。必
要に応じて、入力ファイルを訂正してコマンドを
再発行するか、または表のデータを編集してくだ
さい。

SQL3134W 行 “<row-number>” と列
“<column-number>” のフィール
ドに無効な DATALINK 値が含まれ
ていますが、ターゲット列はヌルに
できません。行はロードされませ
ん。

説明: 指定されたフィールドの DATALINK 値
は無効です。区切り文字付き ASCII (DEL) ファ
イルの場合、列番号の値が問題の値の入った行内
のフィールドを示しています。ASCII ファイル
の場合は、列番号の値が、問題の値が始まる行内
のバイト位置を示します。

ユーザーの処置: 入力値を調べてください。必
要であれば、入力ファイルを訂正してコマンドの
再実行依頼を行ってください。

SQL3135N METHOD パラメーターの列数が、
ターゲット表の列数よりも大きくな
っています。

説明: METHOD パラメーターのデータ列の数
は、実際の表のデータ列の数と同じか、またはそ
れより小さくなければなりません。

ユーザーの処置: 入力列の正しい数を METHOD パラメーターに指定して、コマンドを再実行依頼してください。

SQL3137W 行 “<row-number>” が短すぎます。ヌルにできないデータベースの列にロードされる入力値のうち、少なくとも 1 つが足りません。行はロードされません。

説明: 区切り文字付き ASCII ファイルからロードしている場合は、行に入っているフィールドが少なすぎます。区切り文字付き ASCII ファイル以外のファイルからロードしている場合は、行に入っているデータのバイト数が少なすぎます。少なくとも 1 つのヌルにできないターゲット列に対する入力値がありません。

行はロードされません。

ユーザーの処置: 入力ファイルとターゲット表の内容を調べてください。入力ファイルを訂正してコマンドを再発行するか、または表のデータを編集してください。

SQL3138W 入力データ・ファイルが終わるまでに、文字ストリングの終了区切り文字が見つかりませんでした。

説明: 文字ストリングの終了区切り文字が検出される前に、入力データ・ファイルの終わりに達しました。

文字ストリングの終了区切り文字が、データの終わりに想定されます。

ユーザーの処置: 出力表の値を入力ファイルの値と比較してください。必要に応じて、入力ファイルを訂正してコマンドを再発行するか、または表のデータを編集してください。

SQL3139W ユーティリティによるデータベースからの切断中に、エラー “<error>” が起きました。

説明: IMPORT または EXPORT ユーティリティは、データベースから切断することができませんでした。

出力データが不完全の可能性があります。

ユーザーの処置: メッセージのエラー番号を使用して、エラーを正確に判別してください。

SQL3142W 列 “<column-number>” の列ヘッダーは、240 バイトに切り捨てられます。

説明: ロータス 1-2-3 および Symphony プログラムは、ラベル・レコードに対して 240 バイトの制限を持っています。エクスポートに対して、240 バイトを超える列ヘッダーが指定された場合は、240 バイトに切り捨てられます。

列ヘッダーは切り捨てられます。処理は続行されます。

ユーザーの処置: 列ヘッダーが 240 バイトまたはそれ以下であることを確認してください。出力ワークシート形式 (WSF) ファイルの列に、名前を指定したときに起きる可能性があるエラーについてチェックしてください。

SQL3143W 可変長の列 “<column-number>” の最大長が 240 バイトの制限を超えています。240 バイト目以降の列データは切り捨てられる場合があります。列からのデータは切り捨てられる場合があります。

説明: ロータス 1-2-3 および Symphony プログラムは、ラベル・レコードに対して 240 バイトの制限を持っています。240 バイトを超える長さの文字フィールドが、ワークシート形式 (WSF) ファイルに書き込まれる場合は、常に 240 バイトに切り捨てられます。

処理は続行されます。列に対する後続のデータ入力項目は、切り捨てられる可能性があります。

ユーザーの処置: 出力を確認してください。切り捨て処理のために列の重要なデータが失われている場合には、さまざまなフィールドに対して、サブストリング処理を行うことによって、列のデータを選択して調べるか、またはデータベースを再設計してください。

SQL3144W 固定長の列 “<column-number>” の最大長が 240 バイトの制限を超えています。列からのデータは切り捨てられる場合があります。

説明: ロータス 1-2-3 および Symphony プログラムは、ラベル・レコードに対して 240 バイトの制限を持っています。240 バイトを超える長さの文字フィールドが、ワークシート形式 (WSF) ファイルに書き込まれる場合は、常に 240 バイトに切り捨てられます。

列のすべてのデータ項目は切り捨て処理されますが、メッセージ・ログには追加メッセージは書き込まれません。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: 出力を確認してください。切り捨て処理のために列の重要なデータが失われている場合には、さまざまなフィールドに対して、サブストリング処理を行うことによって、列のデータを選択して調べるか、またはデータベースを再設計してください。

SQL3145W 行 “<row-number>”、列 “<column-number>” のデータが 240 バイトに切り捨てられます。

説明: ロータス 1-2-3 および Symphony プログラムは、ラベル・レコードに対して 240 バイトの制限を持っています。240 バイトを超える長さの文字フィールドが、ワークシート形式 (WSF) ファイルに書き込まれる場合は、常に 240 バイトに切り捨てられます。このメッセージは、その

列に関連するメッセージ SQL3143 の後に続きます。

処理は続行されます。データは切り捨てられません。

ユーザーの処置: 出力を確認してください。切り捨て処理のために列の重要なデータが失われている場合には、さまざまなフィールドに対して、サブストリング処理を行うことによって、列のデータを選択して調べるか、またはデータベースを再設計してください。

SQL3146N 行 “<row-number>”、列 “<column-number>” の DATE または TIMESTAMP の値が、範囲を超えています。

説明: 日付またはタイム・スタンプの値が無効です。ワークシート形式 (WSF) ファイルに有効な日付の値は、01-01-1900 から 12-31-2099 までです。

セル・レコードは作成されません。

ユーザーの処置: 出力ファイルの値を入力表の値と比較してください。必要に応じて、入力値を訂正してコマンドを再発行するか、または表のデータを編集してください。

SQL3147W ワークシート形式ファイルにエクスポートした行が、2048 を超えています。

説明: エクスポートされた行数が 2048 を超えています。第 1 世代の製品は 2048 を超える行をサポートしません。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: 2048 を超える行は、第 2 世代または第 3 世代の製品によってのみ読み取ることができます。

SQL3148W 入力ファイルからの行が表に挿入されませんでした。 **SQLCODE** “<sqlcode>” が戻されます。

説明: 入力ファイルから読み取った行のデータを挿入するデータベース処理が失敗しました。入力ファイルの 1 つ以上のフィールドが、データベース内の挿入先のフィールドと互換でない可能性があります。

入力データの次の行から処理が継続されます。

ユーザーの処置: 挿入されなかった行の行番号については、メッセージ・ファイルの次のメッセージを参照してください。入力ファイルとデータベースの内容を調べてください。必要に応じて、データベースまたは入力ファイルを変更して、もう一度やり直してください。

SQL3149N “<number-1>” 行が、入力ファイルから処理されました。
“<number-2>” 行が、正常に表に挿入されました。“<number-3>” 行が、拒否されました。

説明: この要約メッセージで、入力ファイルから読み取られた行データの数、データベース表に挿入された行数、または拒否された行数を知ることができます。INSERT_UPDATE オプションを使用している場合、更新された行数は、挿入された数と拒否された数を処理された行数から引いた数です。

ユーザーの処置: これは要約メッセージなので、ありません。詳細メッセージが行うべき正しい処置を示します。

SQL3150N PC/IXF 形式ファイルの H レコードには、製品 “<product>”、日付 “<date>”、および時刻 “<time>” を持っています。

説明: PC/IXF ファイルを作成した製品と作成日時に関する情報が与えられます。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL3151N FORCEIN オプションが指定されているために、H レコードの 1 バイト・コード・ページ値 “<code-page>” から、アプリケーションの 1 バイト・コード・ページ値 “<code-page>” への変換は行われません。

説明: FORCEIN オプションが指定されているために、IXF のコード・ページからアプリケーションのコード・ページへの変換は行われません。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。IXF ファイルのコード・ページからアプリケーションのコード・ページへの変換を、データベース・マネージャーがサポートしている場合は、FORCEIN オプションなしで操作をやり直すことができ、データが変換されます。

SQL3152N H レコードの 2 バイト・コード・ページの値 “<value>” が、アプリケーションの 2 バイト・コード・ページの値 “<value>” と互換性がありません。FORCEIN オプションが指定されているため、データの挿入が行われます。

説明: レコードの 2 バイト・コード・ページとアプリケーションの 2 バイト・コード・ページが互換性がありません。FORCEIN オプションが使用されていたために、データは挿入されました。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL3153N PC/IXF ファイルの T レコードに名前 “<name>”、修飾子 “<qualifier>”、およびソース “<source>” が存在します。

説明: データが抽出された表の名前、表を作成した製品、およびデータのオリジナル・ソースに関するオプション情報が与えられます。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL3154W H レコードの HCNT 値と T レコードの CCNT 値が、互換性がありません。T レコードの CCNT 値が使用されます。

説明: H レコード内の HCNT 値と T レコード内の CCNT 値が、一致しません。

T レコードの CCNT 値が使用されます。

ユーザーの処置: CCNT 値が正しいことを確認してください。値が正しくない場合、HCNT または CCNT 値に必要な変更を行って、コマンドを再発行してください。

SQL3155W 列 “<name>” の C レコードの「名前の長さ」フィールドが無効です。列からのデータはロードされません。

説明: 示された列に対する C レコードの「名前の長さ」フィールドの値が無効です。

示された列のデータはロードされません。

ユーザーの処置: C レコードの「名前の長さ」フィールドを変更して、コマンドを再発行してください。

SQL3156W 列 “<name>” に対する C レコードの NULL フィールドが無効です。列からのデータはロードされません。

説明: 示された列に対する C レコードの null フィールドが無効です。

示された列のデータはロードされません。

ユーザーの処置: C レコードの null フィールドを変更して、コマンドを再発行してください。

SQL3157W 列 “<name>” に対する C レコードの「タイプ」フィールドが無効です。列からのデータはロードされません。

説明: 示されている列に対する C レコードの「タイプ」フィールドが無効です。コード・ページの値と列タイプが互換でない可能性があります。

示された列のデータはロードされません。

ユーザーの処置: C レコードの「タイプ」フィールドを変更して、コマンドを再発行してください。

SQL3158W 列 “<name>” に対する C レコードの「1 バイト・コード・ページ」フィールドが無効です。列からのデータはロードされません。

説明: 示された列に対する C レコードの「1 バイト・コード・ページ」フィールドが無効です。

示された列のデータはロードされません。

ユーザーの処置: C レコードの「1 バイト・コード・ページ」フィールドを変更して、コマンドを再発行してください。

SQL3159W 列 “<name>” に対する C レコードの「2 バイト・コード・ページ」フィールドが無効です。列からのデータはロードされません。

説明: 示された列に対する C レコードの「2 バイト・コード・ページ」フィールドが無効です。

示された列のデータはロードされません。

ユーザーの処置: C レコードの「2 バイト・コード・ページ」フィールドを変更して、コマンドを再発行してください。

SQL3160W 列 “<name>” に対する C レコードの「列の長さ」フィールドが無効です。列からのデータはロードされません。

説明: 示された列に対する C レコードの「列の長さ」フィールドが無効です。

示された列のデータはロードされません。

ユーザーの処置: C レコードの「列の長さ」フィールドを変更して、コマンドを再発行してください。

SQL3161W 列 “<name>” に対する C レコードの「精度」フィールドが無効です。列からのデータはロードされません。

説明: 示された列に対する C レコードの「精度」フィールドが無効です。

示された列のデータはロードされません。

ユーザーの処置: C レコードの「精度」フィールドを変更して、コマンドを再発行してください。

SQL3162W 列 “<names>” に対する C レコードの「位取り」フィールドが無効です。列からのデータはロードされません。

説明: 示された列に対する C レコードの「位取り」フィールドが無効です。

示された列のデータはロードされません。

ユーザーの処置: C レコードの「位取り」フィールドを変更して、コマンドを再発行してください。

SQL3163W 浮動小数点の列 “<name>” に対する C レコードの「列の長さ」フィールドがブランクです。00008 の値が使用されます。

説明: 示されている列に対する C レコードの「列の長さ」フィールドがブランクです。

列の長さとして 00008 が使用されます。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL3164W 浮動小数点の列 “<name>” に対する C レコードの「列の長さ」フィールドが無効です。列からのデータはロードされません。

説明: 示された列に対する C レコードの「列の長さ」フィールドが無効です。示された列は浮動小数点の列です。

示された列のデータはロードされません。

ユーザーの処置: C レコードの「列の長さ」フィールドを変更して、コマンドを再発行してください。

SQL3165W 列 “<name>” に対する C レコードの「列タイプ」フィールド “<type>” が無効です。列からのデータはロードされません。

説明: 示された列に対する C レコードの列タイプが無効です。

示された列のデータはロードされません。

ユーザーの処置: C レコードの「列タイプ」フィールドを変更して、コマンドを再発行してください。

SQL3166W データベースの列 “<name>” へのロードが指定された PC/IXF 列がないか、または存在しない PC/IXF を指定しました。ヌルが挿入されません。

説明: 示された列へのロードが指定された PC/IXF が存在しないか、または指定した PC/IXF ソース列が存在しません。

ヌル値が、示された列にロードされます。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。この列がヌルを受け入れない場合、*METHOD* パラメーターを名前または位置の誤りについて、または *Action String* (たとえば、“REPLACE into ...”) パラメーターで明示的あるいは暗黙的に指定された列よりも *METHOD* パラメーターの項目が許可されていません。

SQL3167W データベースの列 “<name>” へのロードが指定された PC/IXF 列が無効です。ヌルが挿入されます。

説明: PC/IXF 列の値は、示されたデータベースの列にロードすることができず、理由はログ内の前のメッセージに示されています。

ヌル値が、示された列にロードされます。

ユーザーの処置: 前のメッセージを読んで、列が無効な理由を理解してください。

SQL3168W データベースの列 “<name>” へのロードが指定された PC/IXF 列が、データベース列と互換ではありません。ヌルが挿入されます。

説明: ソース PC/IXF とターゲット・データベースの列タイプまたは長さが、互換性がありません。

ヌル値が、示された列にロードされます。

ユーザーの処置: ソース PC/IXF ファイルの列とデータベースを比較してください。

SQL3169N *FORCEIN* オプションが、PC/IXF 列 “<name>” をデータベースの列 “<name>” にロード可能にするために、使用されている可能性があります。

説明: これは単なる *FORCEIN* オプションの使用に関する情報です。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL3170W データ行の途中で、ファイルの終わりに達しました。データの不完全な行はロードされませんでした。

説明: 現在のデータ行が終わる前に、ファイルの終わりに達しました。ファイルには、予期されたデータの一部しか入っていない可能性があります。

不完全なデータ行はロードされません。

ユーザーの処置: PC/IXF ファイルをあるメディアから別のメディアにコピーしている場合は、コピーをオリジナルと比較するか、またはコピー・プロセスを繰り返してください。

SQL3171W 列のヘッダー行に、ラベルのないレコードがありました。レコードは処理されませんでした。

説明: *IMPORT* ユーティリティーは、ワークシート形式 (WSF) ファイルの列のヘッダー行 (1 行目) には、ラベル・レコードのみを予期しています。

システムは、そのレコードを処理せず、次のレコードの処理を続けます。

ユーザーの処置: スプレッドシート・ファイルの最初の行から、列のヘッダーを除くすべてのデータと情報を取り除いてください。コマンドを再発行してください。

SQL3172W 指定された入力列 “<name>” が見つかりませんでした。対応するデータベース列にヌル値が入ります。

説明: 指定された入力例が、入力スプレッドシート・ファイルで見つかりませんでした。データベースの列はヌル値を含むことが可能なので、ヌルになりました。

ユーザーの処置: 指定した入力列名を確認してください。

SQL3173N 列 “<name>” に挿入されたデータは、常に列の幅より文字数が少なくなります。

説明: データベースの列の幅が、ワークシート形式 (WSF) ラベル・レコードの最大値を超えています。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL3174W データベースの列 “<name>” のデータ・タイプ “<type>” が、WSF の列タイプと互換性がありません。ヌル値が、この列に挿入されます。

説明: データベースの列タイプが、ワークシート形式 (WSF) ファイルには有効ではありません。列はヌルにすることができるので、ヌルが列にインポートされます。

ユーザーの処置: 列がヌルを受け付けない場合には、以下のいずれかを行ってください。

- 表のデータを編集してください。
- 可能であれば、データベース表の別の互換列をターゲット列として使用して、コマンドを再発行してください。
- データベース表を再定義して、その列が WSF ファイルからインポートされる列と互換になるようにして、コマンドを再発行してください。

SQL3175W データベースの行 “<row>”、列 “<column>” に対する入力レコードが無効です。

説明: スプレッドシート・ファイルのレコードが、データベースの列のデータ・タイプと互換ではありません。データベースの列が漢字データ・タイプの場合は、入力データに奇数バイトが入っている可能性があります。

列をヌルにすることができる場合は、ヌルが挿入されます。列をヌルにできない場合は、行がインポートされません。

ユーザーの処置: 表のデータを編集するか、またはデータベース・マネージャーのデータベースにインポートするスプレッドシート・ファイルのデータが有効であることを確認して、コマンドを再発行してください。

SQL3176W WSF ファイルの行 “<row>”、列 “<column>” に対する値が、日付の値の範囲を超えています。

説明: スプレッドシート・ファイルのレコードに、有効なワークシート形式 (WSF) の日付を表現するには大きすぎるかまたは小さすぎる値が入っています。有効な WSF の日付は 1 から 73050 (1 と 73050 を含む) です。

列をヌルにすることができる場合は、ヌルが挿入されます。列をヌルにできない場合は、行がインポートされません。

ユーザーの処置: 表のデータを編集するか、またはデータベース・マネージャーのデータベースにインポートするスプレッドシート・ファイルのデータが有効であることを確認して、コマンドを再発行してください。

SQL3177W WSF 形式ファイルの行
“<row>”、列 “<column>” に対す
る値が、時刻の値の範囲を超えてい
ます。

説明: スプレッドシート・ファイルのレコード
に、有効なワークシート形式 (SF) の時刻を表現
するには大きすぎるかまたは小さすぎる値が入っ
ています。WSF の時刻はゼロ以上の値ですが、
1 よりも小さくなっています。

列をヌルにすることができる場合は、ヌルが挿入
されます。列をヌルにすることができない場合
は、行がインポートされません。

ユーザーの処置: 表のデータを編集するか、また
はインポートされる値が、入力スプレッドシ
ート・ファイルの時刻の値であることを確認して、
コマンドを再発行してください。

SQL3178W データベースの行
“<row-number>”、列
“<column-number>” に対する
WSF ファイルのレコード・タイプ
は、時刻の値の表現には無効です。

説明: 入力値が整数値です。時刻の値は、浮動小
数点数または、ワークシート形式 (WSF) スプレ
ッドシート・ファイルの日付の一部でなければな
りません。

列をヌルにすることができる場合は、ヌルが挿入
されます。列をヌルにすることができない場合
は、行がインポートされません。

ユーザーの処置: 表のデータを編集するか、また
はインポートされる値が、入力スプレッドシ
ート・ファイルの時刻の値であることを確認して、
コマンドを再発行してください。

SQL3179W 入力ファイルの行 “<row>” に、デ
ータベースのヌルにできない列に挿
入するデータがありません。この行
は挿入されません。

説明: 入力ファイルの行データには、ヌルにでき
ない列に対するデータがないか、または無効なデ
ータが入っています。その行の残りのデータベ
ース列の値は挿入されていません。

処理は次の行から続けられます。行は挿入されま
せん。

ユーザーの処置: 表のデータを編集するか、スプレ
ッドシート・ファイルのデータがデータベ
ース・マネージャー・データベースへの挿入に有効
であることを確認してください。

SQL3180W ディスケット “<number>” をドラ
イブ “<drive>” に挿入してくださ
い。

説明: これは、示されたドライブに示されたディ
スケットを挿入するためのプロンプトを表示す
る、アプリケーションの要求です。

ユーティリティーは、ディスクがドライブに
挿入されるまで、再呼び出しを待ちます。

ユーザーの処置: ディスケットの挿入をユーザー
に促して、処理を継続するか終了するかを指示す
る *callerac* パラメーターを使用して、ユーティリ
ティーへ戻ってください。

SQL3181W 予期された終了レコードが見つから
ないうちに、ファイルの終わりに達
しました。

説明: データベース・マネージャーによって作成
された PC/IXF ファイルのロード中に、最後の A
レコードとして予期されたサブタイプ E の A レ
コードが見つかりませんでした。

入力ファイルが壊れている可能性があります。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: ロードされなかったデータをチ

チェックしてください。データが欠落している場合は、表を編集するか、または入力ファイルを変更して、コマンドを再発行してください。PC/IXF ファイルがあるメディアから別のメディアにコピーしている場合は、コピーをオリジナルと比較するか、またはコピー・プロセスを繰り返してください。

SQL3182W ディスケット “<number>” をドライブ “<drive>” に挿入してください。現在挿入されているディスクレットが正しいディスクレットでないか、あるいは継続ディスクレットが無効です。

説明: 複数ディスクレットに入っている PC/IXF ファイルのロード中に、ディスクレットの挿入の要求がアプリケーションに送られ、ディスクレットがドライブに存在するという確認が戻されましたが、継続のディスクレットが存在しないか、または有効ではありません。このアクションは、最初のディスクレットには適用されません。

ユーティリティーは、アプリケーションからの応答を待ち、処理を続けるか、または停止します。

ユーザーの処置: 正しいディスクレットがドライブに入っていることをユーザーに確認してください。正しいディスクレットがドライブに入っている場合は、処理の終了に設定された *callerac* パラメーターを指定して、もう一度ユーティリティーを呼び出してください。

SQL3183W *filetmod* パラメーターの複数の区切り文字オーバーライドが、ブランクで区切られていません。

説明: *filetmod* パラメーターの少なくとも 1 つの COLDEL、CHARDEL、DECPT キーワードが、*filetmod* パラメーターの先頭になく、その後にブランク (スペース) が続いています。この状態は、区切り文字付き ASCII (DEL) ファイルの LOAD/IMPORT またはエクスポート中に発生する可能性があります。

ユーティリティーは処理を停止します。誤りのある区切り文字オーバーライドは無視されます。

ユーザーの処置: 正しい *filetmod* パラメーターを指定して、コマンドを再発行してください。

SQL3185W 入力ファイルの行 “<row-number>” からのデータの処理中に、前出のエラーが発生しました。

説明: このメッセージは、メッセージ・ファイル内にリストされている前のメッセージ (たとえば、SQL3306) に対して、エラーが起きた行の識別用に提供されます。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL3186W ログがいっぱいのために、データがデータベースにロードされませんでした。SQLCODE “<sqlcode>” が戻されます。コミットが試みられ、コミットが成功すれば、操作が続行されます。

説明: データベース・トランザクション・ログがいっぱいのために、ユーティリティーが行データをデータベースに挿入できませんでした。

完了したデータベース・トランザクションがコミットされ、もう一度挿入が試みられます。再試行の挿入処理でもログがいっぱいの場合、ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: 引き続きユーティリティーの処理が失敗すると、データベースは最後のコミット後の状態にロールバックされ、ユーティリティーが最初に呼び出される前の状態ではありませんので注意してください。

SQL3187W 索引の作成中に、エラーが起きました。SQLCODE “<sqlcode>” が戻されます。

説明: エラーが起きたときに、IMPORT ユーティリティーが索引を作成していました。いくつか

の表には、索引がすでに存在している可能性があります。

このエラーは、PC/IXF ファイルのインポート中にのみ起きます。

ユーティリティーは処理を続けます。ファイルはインポートされましたが、索引は表に作成されていません。

連合システム・ユーザー: 直前にリストされた原因に加えて、このエラーは、CREATE NICKNAME ステートメントが連合サーバーで発行され、またデータ・ソース表の索引に列が多過ぎるとき、あるいは合計索引行サイズが連合サーバー・カタログで表示できないときに発生します。メッセージの“<sqlcode>”は検出された問題について詳細情報を提供します。

ユーザーの処置: 作成されなかった索引の名前については、メッセージ・ログ内の次のメッセージ (SQL3189) を読んでください。CREATE INDEX コマンドを使用して、索引を作成してください。

連合システム・ユーザー: 連合サーバーで作成されたまたは作成されていない索引を判別するにはデータ・ソース・カタログおよび連合サーバー・カタログから選択してください。次のいずれかを行ってください。

- CREATE INDEX コマンドを使用して、索引を作成してください。列の切り捨ては、索引の作成を妨げないために制限に違反しないように適切に行ってください。
- なにもしないで、連合サーバーが索引情報なしで機能することを許可します。

直前の両方のリストされたオプションが可能なパフォーマンス含意を持っています。

SQL3188N 表の内容の削除中に、エラーが起きました。

説明: REPLACE オプションを使用して LOAD/IMPORT 処理を実行している場合は、データを表に挿入し直す前に、指定されたデータバ

ス表が切り捨てられます。切り捨て処理中に、エラーが起きました。

ユーティリティーはエラーで終了します。

ユーザーの処置: コマンドを再発行してください。

SQL3189N 前のメッセージは、列“<column list>”の索引“<name>”を示しています。

説明: 索引の作成中にエラーが起きたときは、常にこのメッセージがメッセージ SQL3187 の後に続きます。“<name>”は、作成が失敗した索引の名前です。“<column list>”は、索引列名のストリングです。ストリングの各列の前には、昇順または降順を示す正 (+) または負 (-) 符号が付けられます。

ユーティリティーは処理を続けます。

ユーザーの処置: CREATE INDEX コマンドを使用して、手操作で索引を作成してください。

SQL3190N indexxf オプションは、このインポート操作には無効です。

説明: INDEXXF が IMPORT コマンドの *filemod* パラメーターで使用されている場合は、以下も必要になります。

- IMPORT 処理は、表の内容を置き換える必要があります。
- METHOD パラメーターをヌルにする必要があります。
- 各 IXF 列は、同名のデータベースの列をターゲットにしている必要があります。

ユーティリティーは処理を停止します。データはインポートされません。

ユーザーの処置: INDEXXF オプションを使用しないか、または INDEXXF オプションで有効な他のパラメーターを使用して、コマンドを再発行してください。

SQL3191N “<string>” で始まる行
“<row-number>”、列
“<column-number>” のフィールドが、ユーザー指定の
DATEFORMAT、**TIMEFORMAT**、
または **TIMESTAMPFORMAT** に
一致していません。この行は拒否され
れます。

説明: データがユーザー指定の形式に一致していません。フィールドの欠落、列区切り文字の不一致、または範囲外の値が原因だと思われます。

ユーザーの処置: 入力値を調べてください。入力ファイルを訂正するか、あるいはデータに一致する **DATEFORMAT**、**TIMEFORMAT**、または **TIMESTAMPFORMAT** を指定し、コマンドを再実行依頼してください。

SQL3192N **filemod** で、ストリング
“<string>” で始まるユーザー指定
の形式 “<keyword>” が無効で
す。

説明: 複数指定されているか、または無効な文字を含んでいるため、ユーザー指定の形式は無効です。

形式は 2 重引用符で囲まなければなりません。

有効な **DATEFORMAT** 指定子は
“YYYY”、“M”、および “D” 文字です。

有効な **TIMEFORMAT** 指定子は
“AM”、“PM”、“TT”、および “H”、“M”、および
“D” 文字です。

有効な **TIMESTAMPFORMAT** 指定子は
“UUUUUU”、および **DATEFORMAT** と
TIMEFORMAT の指定子すべてです。ただし、日付形式指定子と時刻形式指定子の両方のとなりに
“M” を置くことはできません。

データ・ファイル内の対応する値が可変長である場合、フィールド区切り文字が必要です。

ユーザーリテーターは処理を停止します。

ユーザーの処置: 形式指定子を調べてください。形式を訂正し、コマンドを再実行依頼してください。

SQL3193N 指定された視点あるいは要約表は更新されません。この視点に対する
LOAD/IMPORT またはこの要約表
に対する **LOAD** ができません。

説明: **LOAD/IMPORT** ユーティリテーターは、視点が更新可能な場合にのみ、その視点に対して実行することができます。指定された視点は、その中のデータの変更を許さないように定義されています。**LOAD** ユーティリテーターは、要約表が複製されていない場合のみ、要約表に対して実行されます。指定された表は複写された要約表です。

LOAD/IMPORT ユーティリテーターの処理を停止します。挿入されるデータはありません。

ユーザーの処置: 更新可能なまたは視点の名前を使用して、コマンドを再発行してください。

SQL3194N 指定された表はシステム表です。システム表はロードできません。

説明: ユーティリテーターは、システム表に対して実行できません。

ユーザーリテーターは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: 有効な表名を使用して、コマンドを再発行してください。

SQL3195W ドライブ “<drive>” のディスクレット “<number>” は、出力ファイルには使用できません。書き込み可能なフリー・スペースがあるフォーマット済みディスクレットを挿入してください。

説明: **EXPORT** ユーティリテーターは、以下のいずれかの理由のために、**PC/IXF** ファイルへのエクスポートに現在のディスクレットを使用できません。

- 出力ファイルをディスク上でオープンできません。ディスクがフォーマット (初期化) されていない可能性があります。
- ディスクの使用可能なフリー・スペースが十分ではありません。

この警告コードは、指定されたドライブに別のディスクを挿入するためのプロンプトを表示する、アプリケーションの要求です。

ユーティリティーは、ディスクがドライブに挿入されるまで、再呼び出しを待ちます。

ユーザーの処置: ディスクの挿入をユーザーに促して、処理を継続するか終了するかを指示する *callerac* パラメーターを使用して、ユーティリティーへ戻ってください。

SQL3196N 入力ファイルが見つかりませんでした。

説明: データベースにロードされるソース・ファイルが、*datafile* パラメーターで示されているパスに見つかりません。

SQL3200 - SQL3299

SQL3201N 指定された表は、他の表がそれに依存しているために置換できません。

説明: 他の表との関係において親である表は、置き換えることができません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: INSERT などの別のオプションを選択するか、またはユーティリティー操作に対して別のターゲットを選択してください。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 入力ファイルが存在し、そのファイルへのパスが正しいことを確認してください。

SQL3197N インポートまたはエクスポートの複数コピーを実行しようとしてしました。

説明: システムで、インポートまたはエクスポート・ユーティリティーの複数インスタンスを実行しようとしてしましたが、これはサポートされていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 他のプロセスが同じユーティリティーを実行しようとしていないときに、2 次操作の再発行を行ってください。

SQL3203N 指定されたターゲットが基本キーを持っていないか、またはすべての列が基本キーになっているために、そのターゲットに対して **INSERT_UPDATE** オプションを使用することはできません。

説明: INSERT_UPDATE オプションは、ターゲット表が基本キーを持っていて、ターゲット列に、基本キーのすべての列が入っている場合のみ有効です。さらに、ターゲット表には、1 次キーの一部ではない列が少なくとも 1 つは入っている必要があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: INSERT などの別のオプションを選択するか、またはユーティリティー操作に対して別のターゲットを選択してください。

SQL3204N INSERT_UPDATE オプションが、視点に対して適用されない場合があります。

説明: INSERT_UPDATE オプションは視点には無効ですが、ユーティリティー操作のターゲットとして視点が選択されています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: INSERT などの別のオプションを選択するか、またはユーティリティー操作に対して別のターゲットを選択してください。

SQL3205N 指定された視点は、基礎表がそれに依存しているために置換できません。

説明: 基礎表が他の表 (それ自体を含みます) との関係で親表である視点は、置き換えることができません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: INSERT などの別のオプションを選択するか、またはユーティリティー操作に対して別のターゲットを選択してください。

SQL3206N 指定された視点は、定義に副照会が含まれているために置換できません。

説明: 定義に副照会が入っている視点は、置き換えることができません。視点定義が他の視点の定義に依存している場合、他の視点は副照会を持つことはできません。ターゲット視点が基づいている視点の定義で副照会を使用する場合は、REPLACE オプションを使用することはできません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: INSERT などの別のオプションを選択するか、またはユーティリティー操作に対して別のターゲットを選択してください。

SQL3207N 無効な表のリストが指定されました。理由コードは "**<reason-code>**"。

説明: 指定の traversal-order-list/subtable-list は無効です。理由コードの説明は以下のとおりです。

1. traversal-order-list で指定された表が PRE-ORDER 様式でない。
2. traversal-order-list で指定された表が接続されていない。
3. スキーマ名の不一致が traversal-order-list/subtable-list にある。
4. REPLACE オプションで、traversal-order-list で欠落している副表がある。
5. Subtable-list が等しくないか、あるいは traversal-order-list のサブセットである。

ユーザーの処置: 理由コードに基づいて、ユーザー処置は以下のようになります。

1. traversal-order-list を PRE-ORDER 様式にする。
2. traversal-order-list のすべての表を接続する。
3. スキーマ名を同じにする。
4. REPLACE オプションが使用されている場合、階層にあるすべての副表が入っているか確認する。
5. subtable-list が等しいか、traversal-order-list の副表にする。

SQL3208W タイプ付き表から regular 表へデータをインポートしています。

説明: ユーザーは、タイプ付き表から regular 表へのデータ・インポートを指定しました。object_id 列はインポート中にキャストされないことに注意してください。

ユーザーの処置: この操作は意図的なものであるか、確認してください。

SQL3209N CREATE オプションを指定したインポートでは、副表名および属性名の変更をすることができません。

説明: CREATE オプションが使用されている場合、副表名および属性名の変更はできません。

ユーザーの処置: IMPORT コマンドをチェックして、subtable-list の指定がないことを確認してください。

SQL3210N オプション "<option>" は、"<command-name>" の階層と互換性がありません。

説明: "<option>" は EXPORT、IMPORT、あるいは LOAD の階層と互換性がありません。

ユーザーの処置: 階層サポートのコマンド構文をチェックしてください。

SQL3211N LOAD はタイプ付き表をサポートしません。

説明: LOAD はタイプ付き表をサポートしません。IMPORT を使用するようにしてください。

ユーザーの処置: IMPORT を使用して階層データをデータベースに入れてください。

SQL3212N DATALINK 列を持つ表または削除保留状態の表スペースの **LOAD** コマンドの **TERMINATE** オプションは現在サポートされていません。

説明: DATALINK 列の入った表、または削除保留状態の表スペースに存在する表に対する、破壊、割り込み、または強制された LOAD 操作の終了が試行されました。これは現在サポートされていません。

ユーザーの処置: 破壊、割り込み、または強制された LOAD 操作をリカバリーするために、LOAD コマンドの **RESTART** オプションを使用してください。

SQL3213I 索引付けモードは "**<mode>**" です。

説明: 索引付けモード値は以下のとおりです。

REBUILD

索引は完全に再作成されます

INCREMENTAL

索引は拡張されます

DEFERRED

索引は更新されませんが、次にアクセスする前に最新表示が必要だとしてマークされます。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL3214N LOAD ユーティリティは、固有の索引を持つ表の据え置き索引付けをサポートしていません。

説明: 固有の索引を持つ表に索引付けモード **DEFERRED** が指定されました。これは有効ではありません。

ユーザーの処置: 索引付けモード **AUTOSELECT**、**REBUILD**、または **INCREMENTAL** を指定してコマンドを再発行してください。

SQL3215W ロード・ユーティリティは現在、他のターゲット表のオブジェクトと同じ表スペースに表の索引オブジェクトが存在する表の **DMS** 表スペースにロードを行い、**COPY** オプションもともに指定されている場合の **INCREMENTAL** 索引付けをサポートしていません。 **REBUILD** 索引付けモードが代わりに使用されます。

説明: **INCREMENTAL** 索引付けモードはこの操作ではサポートされていません。 **REBUILD** 索引付けモードが代わりに使用されます。

ユーザーの処置: ユーザーは、ロードされる表内

他のオブジェクトと共用されていない表スペースに索引を定義することによって、この警告を回避できます。または COPY オプションの使用を避けてください。COPY オプションの代わりに全リストについては、DB2 の資料を参照してください。

SQL3216W 表の索引オブジェクトがロード・ユーティリティの開始時に不整合でした。**INCREMENTAL** 索引付けは、このロード・ユーティリティ操作中には実行できません。**REBUILD** 索引付けモードが代わりに使用されます。

説明: INCREMENTAL 索引付けは、整合性のある索引オブジェクトをロード・ユーティリティの開始時に持つ表のみで使用できます。索引付けモード REBUILD を使用してロードを行うと、整合性のある方法で表索引が再作成されます。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL3217W INCREMENTAL 索引モードは、**INSERT INTO** アクションを使用してデータを付加するために **LOAD** を使用するときのみサポートされません。現在の **LOAD** アクションは“<action>”です。ユーティリティは索引付けモード“<mode>”を代わりに使用します。

説明: INCREMENTAL 索引付けは、ロード INSERT アクションを使用して表にデータを付加するときのみ使用できます。REPLACE、RESTART、または TERMINATE アクションとともにロードを行うときは、この機能はサポートされません。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL3218C 損傷を受けた索引ファイルを見つけたため、**LOAD** ユーティリティは操作を続行できません。データベースを再始動し、**LOAD** コマンドを再発行してください。

説明: ターゲット表でディスク・データ構造の索引が不整合状態にあるため、LOAD ユーティリティは操作を続行できません。

ユーザーの処置: アプリケーションをすべて終了し、影響を受けたデータベースに RESTART DATABASE コマンドを出して、損傷を受けた索引を再作成してください。その後、LOAD コマンドを再発行してください。

SQL3219N **LOAD** ユーティリティは、ターゲット表の制約検査を使用不可にできませんでした。

説明: ターゲット表の制約検査を使用不可にしようと試みているときに、LOAD ユーティリティが問題を見つけました。

ユーザーの処置:

- ターゲット表に SET INTEGRITY OFF コマンドを出してから、LOAD ユーティリティを実行してください。
- 前に失敗した LOAD 操作の後、REPLACE モードで LOAD を試みている場合、LOAD TERMINATE コマンドを使用して表スペースにアクセス可能状態にしてから、LOAD REPLACE コマンドを出してください。

SQL3220W ボリューム <volume-name> が <directory-name> ディレクトリーで見つかりませんでした。このディレクトリーにボリュームをコピーして、**LOAD/IMPORT** を続行してください。

説明: 複数の IXF ファイルの LOAD/IMPORT が試みられましたが、いずれかのファイルが指定されたディレクトリーにありません。

LOAD/IMPORT は、最初のファイルと同じディレクトリーで残りのファイルを探します。

インポートは終了します。

ユーザーの処置:

- 残りのファイルを見つけて、それを最初のファイルと同じディレクトリーに置いてください。その後で、*callerac* に `SQLU_CONTINUE` を指定して、もう一度 `LOAD/IMPORT` を呼び出してください。`LOAD/IMPORT` は、ファイルの処理を続けます。
- *callerac* に `SQLU_TERMINATE` を指定して `LOAD/IMPORT` を呼び出し、`LOAD/IMPORT` を終了します。

SQL3221W ...COMMIT WORK が開始されました。入力レコード数 = <count>

説明: インポートは処理済みの作業を `COMMIT` 中です。

ユーザーの処置: このメッセージの直後に `SQL3222W` メッセージが表示されない場合は、`COMMIT` が失敗しており、表または視点をチェックして、インポートされたレコードを調べる必要があります。その後で、正常にインポートされている行をスキップするために、そのレコード数を `RESTARTCOUNT` に設定してインポートを再開し、残りのファイルをインポートすることができます。(CREATE、REPLACE_CREATE または REPLACE を使用していた場合、次のインポートは `INSERT` オプションを指定して呼び出してください。)

SQL3222W データベース変更の ...COMMIT は成功しました。

説明: `COMMIT` は成功しました。

ユーザーの処置: このメッセージには、処置は必要ありません。

SQL3223N タイプ・ポインター <parameter> のパラメーターが、正しく指定されていません。

説明: タイプ <parameter> のパラメーターが適切に指定されていません。タイプは "struct `sqluimpt_in`"、"struct `sqluimpt_out`"、"struct `sqluexpt_out`"、"struct `sqluload_in`"、"struct `sqluload_out`"、"struct `sqluunld_in`"、"struct `sqluunld_out`" のいずれかです。ポインターは `NULL` ポインター、または適切な構造を指している必要があります、その「`sizeofStruct`」フィールドは、`SQLUIMPT_IN_SIZE` (struct `sqluimpt_in` の場合)、`SQLUIMPT_OUT_SIZE` (struct `sqluimpt_out` の場合)、`SQLUEXPT_OUT_SIZE` (struct `sqluexpt_out` の場合)、`SQLULOAD_IN_SIZE` (struct `sqluload_in` の場合)、`SQLULOAD_OUT_SIZE` (struct `sqluload_out` の場合)、`SQLUUNLD_IN_SIZE` (struct `sqluunld_in` の場合)、`SQLUUNLD_OUT_SIZE` (struct `sqluunld_out` の場合) のいずれかに初期設定される必要があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 正しいパラメーターを指定して、もう一度ユーティリティーを呼び出してください。

SQL3225N RESTARTCOUNT 値がファイルの行数より大きくなっています。行はロードされません。

説明: ユーティリティーが、行が表 / 視点にロードされない結果となる、入力ファイルの行数より大きな `RESTARTCOUNT` 値を指定して呼び出されました。

ユーザーの処置: `RESTARTCOUNT` 値が正しいことを確認するか、`REPLACE` または `INSERT` オプション、および正しい `RESTARTCOUNT` 値を指定して、もう一度ユーティリティーを呼び出してください。

SQL3227W レコード・トークン "<token1>"
はユーザー・レコード番号
"<token2>" を参照します。

説明: 表のロード、インポートあるいはエクスポート中にエラーあるいは警告が発生しました。CPU 並列処理が、問題が発生した時に複数個あり特定の固有なトークンを持つユーザー・レコードを識別する SQL メッセージが書き込まれます。このメッセージはソース・ユーザー・データのレコード番号に対して、固有のレコード・トークンをマップするために与えられます。

ユーザーの処置: 該当する処置については、オリジナルの SQL メッセージを参照してください。

SQL3228N DEFERRED INDEXING は、
DATALINK 列を持つ表ではサポート
されていません。

説明: ロード・ユーティリティの "indexing mode" オプションが "deferred" として指定されました。このオプションは、DATALINK 列を持つ表ではサポートされていません。

ユーザーの処置: 異なる索引付けモードを指定してロード・コマンドを出し直してください。

SQL3250N COMPOUND=<value> が無効な
値か、または他のインポート・パラ
メーターとの組み合わせで許されて
いません。

説明: インポート・ユーティリティに
COMPOUND=x オプションが指定されていま
すが、以下のいずれかの理由で処理できま
せん。

- INSERT_UPDATE オプションが使用されているときは、これは無効です。
- インポートされているデータベースが、前のリリースのサーバーまたはゲートウェイを通してアクセスされています。
- 値が許容範囲の 1 から 100 を超えています。(DOS または Windows の場合、最大値は 7 です)。

ユーザーの処置: filemod オプションを変更して、COMPOUND=x の使用法を訂正してください。

SQL3251N インポート中に、"number" 以上の
エラーが起きました。

説明: COMPOUND オプションの使用中に、ユーティリティが sqlca (最大値は 7) で置き換えることが可能なエラー以上のエラーを見つけました。これらのエラーのメッセージは、メッセージ・ファイルには出力されません。

ユーティリティは処理を続けます。

ユーザーの処置: インポート中に挿入された行ごとのすべてのエラー・メッセージが必要な場合は、COMPOUND オプションを使用しないか、または COMPOUND 値を 7 以下で使用してください。

SQL3260N LDAP ディレクトリーへのアクセ
ス時に予期しないエラーが発生しま
した。エラー・コードは
"<error-code>" です。

説明: LDAP ディレクトリーへのアクセス時に予期しないエラーが発生しました。コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: メッセージ番号 (SQLCODE) とエラー・コードを記録してください。独立トレース機能を使用して DB2 トレースを取得してください。この機能の使用法については、問題判別の手引きの「独立トレース機能」を参照してください。さらに IBM サービス技術員に連絡してください。

SQL3261N 必要な入力パラメーターが指定されなかったために、**REGISTER LDAP** コマンドが正常に完了しませんでした。理由コード = "**<reason-code>**"。

説明: 以下の理由コードに示されているとおりに必要なパラメーターが指定されなかったために、**REGISTER LDAP** コマンドが正常に完了しませんでした。

- 1 ネットワーク ID パラメーターが指定されていませんでした。
- 2 パートナー LU パラメーターが指定されていませんでした。
- 3 トランザクション・プログラム (TP) 名パラメーターが指定されていませんでした。
- 4 モード・パラメーターが指定されていませんでした。
- 5 Netbios NNAME パラメーターが指定されていませんでした。
- 6 TCP/IP ホスト名パラメーターが指定されていませんでした。
- 7 TCP/IP サービス名パラメーターが指定されていませんでした。
- 8 IPX アドレスが指定されていませんでした。
- 9 コンピューター名が指定されていませんでした。
- 10 インスタンス名が指定されていませんでした。

ユーザーの処置: 必要な入力パラメーターを指定して、コマンドを再発行してください。

SQL3262N TCP/IP サービス名 "**<name>**" が無効です。

説明: 指定された TCP/IP サービス名が無効です。

ユーザーの処置: TCP/IP サービス名が構成されていて、ローカル `etc/services` ファイルに予約済みであることを確かめてから、コマンドを再発行してください。または TCP/IP サービス名に割り当てられているポート番号を指定してください。

SQL3263N サポートされていないプロトコル・タイプです。

説明: 指定されたプロトコル・タイプはコマンドでサポートされていません。

ユーザーの処置: サポートされているプロトコル・タイプを使用してコマンドを再発行してください。

SQL3264N DB2 サービスが **LDAP** に登録されていません。

説明: DB2 サービスが **LDAP** に登録されていなかったために、コマンドは正常に完了しませんでした。

ユーザーの処置: **REGISTER LDAP** コマンドを使用して DB2 サーバーを **LDAP** に登録してください。次にコマンドを再発行してください。

SQL3265N **LDAP** 認証の途中で予期しないエラーが起きました。

説明: 予期しない **LDAP** システム・エラーのために **LDAP** ユーザーの認証ができませんでした。

ユーザーの処置: 独立トレース機能を使用して DB2 トレースを取得してください。この機能の使用法については、問題判別の手引きの「独立トレース機能」を参照してください。さらに IBM サービス技術員に連絡してください。

SQL3266N **LDAP** ユーザー・パスワードが間違っています。

説明: 指定されたパスワードは、指定されたユーザー識別名 (DN) の正しいパスワードではありません。

ユーザーの処置: 正しいパスワードを使用してコマンドを再発行してください。

SQL3267N "`<authid>`" は、要求されたコマンドを実行するために十分な権限を持っていません。

説明: LDAP ユーザーが、要求されたコマンドを実行するために十分な権限を持っていなかったために、コマンドが正常に完了しませんでした。

ユーザーの処置: LDAP ユーザーに操作を実行するための権限があることを確認してください。

SQL3268N LDAP スキーマには、現在の DB2 のリリースとの互換性がありません。

説明: サーバーに定義された LDAP スキーマに、現在の DB2 のリリースで使用されている DB2 オブジェクト・クラスまたは属性、あるいはその両方の定義が入っていません。

ユーザーの処置: LDAP スキーマを DB2 オブジェクト・クラスおよび属性とともに拡張する方法については、DB2 管理の手引きを参照してください。

SQL3269N LDAP サーバーを使用できません。

説明: LDAP サーバーが使用できないために、DB2 は LDAP ディレクトリー内の情報にアクセスできませんでした。

ユーザーの処置: 以下の処置を実行してください。

1. LDAP サーバーが活動状態であることを確認してください。
2. TCP/IP がマシンに正常に構成されているかどうかを確認してください。
3. "`db2set DB2LDAPHOST`" コマンドを実行して、DB2LDAPHOST レジストリー変数が TCP/IP ホスト名と LDAP サーバーのポート番号に設定されているかどうかを確認してく

ださい。DB2LDAPHOST が設定されていない場合、"`db2set`

`DB2LDAPHOST=<host-name>:<port-number>`" コマンドを使用して設定できます。

`<host-name>` は LDAP サーバーの TCP/IP ホスト名で、`<port-number>` は LDAP サーバーの TCP/IP ポート番号です。デフォルト・ポート番号は 389 です。

SQL3270N LDAP ユーザーの識別名 (DN) が無効です。

説明: LDAP ユーザーの識別名 (DN) が無効です。

ユーザーの処置: 有効な LDAP ユーザー DN を使用してコマンドを再発行してください。

SQL3271N LDAP ユーザーの識別名 (DN) またはパスワード、あるいはその両方が現在のログオン・ユーザーについて定義されていません。

説明: CLI 構成または DB2 レジストリー変数などのユーザー・プリファレンスの設定時に、LDAP ユーザーの DN およびパスワードが現在のログオン・ユーザーに定義されていなければなりません。

ユーザーの処置: 現在のログオン・ユーザーについての LDAP ユーザーの DN およびパスワードの構成方法については、IBM eNetwork LDAP 文書を参照してください。

SQL3272N ノード "`<node-name>`" が LDAP ディレクトリーに見つかりませんでした。

説明: ノード "`<node-name>`" が LDAP ディレクトリーに見つからなかったため、コマンドが正常に完了しませんでした。

ユーザーの処置: ノード名が正しいことを確認してから、コマンドを再発行してください。

SQL3273N データベース "`<database-alias>`" が LDAP ディレクトリーに見つかりませんでした。

説明: データベース "`<database-alias>`" が LDAP ディレクトリーに見つからなかったため、コマンドが正常に完了しませんでした。

ユーザーの処置: データベース名が正しいことを確認してから、コマンドを再発行してください。

SQL3274W データベースは正常に作成されました。ただし、データベースは LDAP ディレクトリーにカタログ化されませんでした。 **SQLCODE** = "`<sqlcode>`"

説明: データベースは正常に作成されました。ただし操作中にエラーが発生したため、データベースを LDAP ディレクトリーにカタログ化できませんでした。

ユーザーの処置: SQLCODE に示されているとおりにエラーを訂正してください。次に CATALOG LDAP DATABASE コマンドを使用して、データベースを LDAP ディレクトリーにカタログ化してください。

SQL3275W データベースは正常にドロップされました。ただしデータベースは LDAP ディレクトリーでアンカタログされませんでした。 **SQLCODE** = "`<sqlcode>`"

説明: データベースは正常にドロップされました。ただし操作中にエラーが発生したため、データベースを LDAP ディレクトリーでアンカタログできませんでした。

ユーザーの処置: SQLCODE に示されているとおりにエラーを訂正してください。次に UNCATALOG LDAP DATABASE コマンドを使用して、データベースを LDAP ディレクトリーでアンカタログしてください。

SQL3276N LDAP 命名コンテキストを取得できませんでした。

説明: LDAP サーバーで LDAP 命名コンテキストを照会できませんでした。

ユーザーの処置: LDAP ディレクトリー管理者に連絡して、使用中の LDAP サーバーの LDAP 命名コンテキストを取得してください。IBM eNetwork Directory V2.1 を使用している場合、これは LDAP 接尾部の名前です。次に "`db2set DB2LDAP_BASEDN=< naming-context >`" コマンドを使用して、現在のマシンの命名コンテキストを設定してください。

SQL3277N データベース "`<database-alias>`" は LDAP ディレクトリーにすでに存在します。

説明: 同じ名前のデータベースが LDAP ディレクトリーにすでに存在するため、コマンドが正常に完了しませんでした。

ユーザーの処置: 他の別名を使用してコマンドを再発行してください。

SQL3278N ノード "`<node>`" は LDAP ディレクトリーにすでに存在します。

説明: 同じ名前のノードが LDAP ディレクトリーにすでに存在するため、コマンドが正常に完了しませんでした。

ユーザーの処置: 他の別名を使用してコマンドを再発行してください。

SQL3279N LDAP が使用できないため、コマンドが正常に完了しませんでした。

説明: LDAP サポートが現在のマシンで使用できないため、コマンドが正常に完了しませんでした。

ユーザーの処置: LDAP サポートがインストールされている場合、コマンド "`db2set DB2_ENABLE_LDAP=YES`" を実行して LDAP サ

ポートを使用可能にしてください。

LDAP サポートがインストールされていない場合は、セットアップ・プログラムを実行し、LDAP サポートのインストールを選択する必要があります。

SQL3280N DRDA サーバーへの接続に失敗しました。

説明: この DB2 クライアントに DB2 コネクトがインストールされておらず、この LDAP データベースをカタログするときにゲートウェイ・ノードが指定されなかったため、DRDA サーバーへの接続に失敗しました。

ユーザーの処置: この DB2 クライアントに DB2 コネクトをインストールするか、または有効なゲートウェイ・ノードでこの LDAP データベースを再カタログしてください。

SQL3281N OSTYPE パラメーターが無効です。

説明: 指定された OSTYPE が無効であったため、データベース・サーバーは LDAP に登録されませんでした。 OSTYPE パラメーターは、サーバーのオペレーティング・システム・タイプを記述します。

ユーザーの処置: DB2 によってサポートされているオペレーティング・システム・タイプ (OSTYPE) を指定してコマンドを再発行してください。

SQL3282N 与えられた認証は無効です。

説明: 指定されたユーザーの識別名 (DN) とパスワードのいずれか、あるいは両方が無効でした。

SQL3300 - SQL3399

ユーザーの処置: ユーザーの識別名 (DN) とパスワードの両方に有効な値を使用して、コマンドを再発行してください。

SQL3283W データベース・マネージャー構成が正しく更新されました。ただし、LDAP ディレクトリーでプロトコル情報は更新されていません。
SQLCODE = “<sqlcode-value>”

説明: データベース・マネージャー構成が正しく更新されました。ただし、LDAP 操作中にエラーが起こったため、LDAP ディレクトリーでプロトコル情報を更新できませんでした。

ユーザーの処置: SQLCODE に示されているとおりエラーを訂正してください。その後、UPDATE LDAP NODE コマンドを使用して LDAP ディレクトリーのプロトコル情報を更新してください。

SQL3284N nodetype パラメーターが無効です。

説明: 指定された nodetype パラメーターが無効であったため、データベース・サーバーは LDAP に登録されませんでした。

ユーザーの処置: データベース・サーバーを LDAP に登録するとき、有効な nodetype を使用してください。有効な nodetype パラメーターの値は SERVER、MPP、および DCS です。

SQL3300N 入力ファイルのレコードの順序に、誤りがあります。

説明: ワークシート形式 (WSF) ファイルのレコードは昇順 (行 1、列 1 ... 行 1、列 256; 行 2、列 1 ... 行 2、列 256 等々) であると予想されます。WSF ファイルが損傷を受けたか、または間違っ
て生成されました (Lotus 製品のレベルが、データベース・マネージャーによってサポートされていない可能性があります)。

IMPORT ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: サポートされているレベルの Lotus 製品を使用して、WSF ファイルを再生成してください。

SQL3301N 入力ファイルの途中で、BOF レコードが見つかりました。

説明: ファイルの開始 (BOF) レコードは、ワークシート形式 (WSF) ファイルの最初のレコードでなければなりません。それは、ファイルの他の位置に存在することはできません。WSF ファイルが損傷を受けたか、または間違っ
て生成されました (Lotus 製品のレベルが、データベース・マネージャーによってサポートされていない可能性があります)。

IMPORT ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: サポートされているレベルの Lotus 製品を使用して、WSF ファイルを再生成してください。

SQL3302N データを何もインポートしないうちに、EOF レコードが見つかりました。

説明: 入力ファイルは有効ですが、インポートで使用できるデータが入っていません。最初のワークシート行は、タイトル情報のために予約されています。2 番目のワークシート行は、列ラベルに使用されます。データは 3 番目の行から始まります。

IMPORT ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーがデータ用に使用する行に有効なデータを用意して、ワークシート形式 (WSF) ファイルを再生成してください。

SQL3303N Action String パラメーターに CREATE または REPLACE_CREATE キーワードを使用する場合、ファイル・タイプは IXF でなければなりません。

説明: IXF 以外のファイル・タイプは、Action String (たとえば "REPLACE into ...") パラメーターの CREATE または REPLACE_CREATE キーワードでは許可されていません。

IMPORT ユーティリティは処理を停止します。データはインポートされません。

ユーザーの処置: ファイル・タイプを IXF に変更するか、あるいは INSERT、INSERT_UPDATE、または REPLACE を使用してください。

SQL3304N 表が存在しません。

説明: コマンドに指定されたパラメーターには、存在する表が必要です。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを実行してください。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを実行してください。

- 既存の表名を使用して、コマンドを再発行してください。
- 入力ファイルが PC/IXF ファイルの場合は、CREATE オプションを使用して、コマンドを再発行してください。

SQL3305N この表はすでに存在しているので、作成できません。

説明: CREATE キーワードは、新しい表が作成されるべきであることを示しますが、指定された名前の表がすでに存在しています。

IMPORT ユーティリティは処理を停止します。データはインポートされません。

ユーザーの処置: 既存の表を消去するか、または CREATE 以外のキーワードを使用して、コマンドを再発行してください。

SQL3306N 行を表に挿入している間に、SQL エラー “<sqlcode>” が起きました。

説明: 表へ行を挿入しているときに、SQL エラーが起きました。

SQL エラーが重大でない場合、その行は拒否され、ユーティリティは処理を続けますが、それ以外の場合、ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 実際のエラーの詳細については、メッセージ・ファイル内の他のメッセージを調べ、必要に応じて、コマンドを再発行してください。

SQL3307N METHOD パラメーターの列数が Action String パラメーターの項目数と一致しないか、または METHOD パラメーターに指定された列が存在しません。

説明: IMPORT コマンドに CREATE または REPLACE_CREATE オプションが指定されています。次のいずれかを行ってください。

- NAMES または POSITIONS 方法標識が METHOD パラメーターに指定されている場合、METHOD に明示的に指定された列数が、

Action String (たとえば "REPLACE into ...") パラメーターに明示的に指定された列数と許可されていません。

- DEFAULT 方法標識が METHOD パラメーターに指定されている場合は、PC/IXF ファイルの列数が、Action String パラメーターに指定された列数より小さくなっています。
- METHOD パラメーターに指定されたある列が、PC/IXF ファイルに存在しません。

IMPORT ユーティリティは処理を停止します。表は作成されません。

ユーザーの処置: METHOD と Action String パラメーターに指定した列を訂正するか、または METHOD パラメーターに指定した列を訂正してください。

SQL3308N PC/IXF の列 “<name>” のコード・ページの値が、アプリケーションのコード・ページの値と互換性がありません。FORCEIN パラメーターは指定されませんでした。

説明: 列とアプリケーションのコード・ページの値が互換性がありません。FORCEIN パラメーターが指定されていないと、IXF ファイルのコード・ページから、アプリケーションのコード・ページへの変換がサポートされていない場合は、データがロードできません。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: このようなコード・ページを持つデータをロードするには、FORCEIN オプションを指定して、コマンドを再発行してください。

SQL3309N PC/IXF ファイルの列 “<name>” が、グラフィック列として定義されています。FORCEIN パラメーターは指定されませんでした。

説明: PC/IXF ファイルのロード中に、漢字データ列が見つかりました。FORCEIN パラメーター

が使用されていないため、データがロードできません。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードされません。

ユーザーの処置: 漢字データを持つデータをロードする場合は、*FORCEIN* パラメーターを指定して、コマンドを再発行してください。

SQL3310N PC/IXF ファイルの列 “<name>” が無効です。

説明: *IMPORT* コマンドに *CREATE* または *REPLACE_CREATE* オプションが指定されています。PC/IXF ファイルのインポート中に、無効な C レコードを持つ列が見つかりました。

IMPORT ユーティリティは処理を停止します。表は作成されません。

ユーザーの処置: 入力ファイルの列定義情報を確認してください。

SQL3313N ディスクがいっぱいです。処理は終了しました。

説明: ディスクまたはディスクがいっぱいです。PC/IXF ファイルへのエクスポート中に、PC/IXF データ・ファイルがハード・ディスクに存在するか、PC/IXF データ・ファイルとデータベースが同じドライブに存在するか、または PC/IXF データ・ファイルとメッセージ・ファイルが同じドライブに存在しています。

EXPORT ユーティリティは処理を停止します。エクスポートされたデータは完全ではありません。

ユーザーの処置: ディスクまたはディスクにもっと多くのスペースを確保するか、あるいはデータベースまたはメッセージ・ファイルとは別のドライブに、データ・ファイルが置かれるように指定して、コマンドを再発行してください。

SQL3314N A レコードの「日付と時刻」フィールドが、H レコードの「日付と時刻」フィールドと一致しません。

説明: PC/IXF ファイルのロード中に、ヘッダー (H) レコードの実行識別情報 (「日付と時刻」フィールド内) とは異なる実行識別情報を持つ A レコードが、PC/IXF ファイルで見つかりました。このアクションは、継続ファイルの先頭にある A レコードには適用されません。

入力ファイルが壊れている可能性があります。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 壊れたファイルを再作成するか、または壊れたファイルを修復して、可能な限りのデータをリカバリーしてください。コマンドを再発行してください。

SQL3315N サブタイプ C の A レコードの「ボリューム」フィールドが無効です。

説明: データベース・サービスによって作成された PC/IXF ファイルのロード中に、無効なボリューム情報 (「ボリューム」フィールド内) を持つ A レコードが、PC/IXF ファイルで見つかりました。

入力ファイルが壊れている可能性があります。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 壊れたファイルを再作成するか、または壊れたファイルを修復して、可能な限りのデータをリカバリーしてください。コマンドを再発行してください。

SQL3316N 入力ファイルの一部をクローズ中に、入出力エラーが起きました。

説明: 複数 PC/IXF ファイルのロード中に、システムが入力 PC/IXF ファイルを構成しているファイルのいずれかをクローズしているときに、入出力エラーが起きました。このアクションは、PC/IXF ファイルを構成するファイルのグループ

の最後のファイルには適用されません。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: コマンドを再発行してください。

SQL3317N **filetmod** パラメーターで示された
ストリングに、矛盾する情報が含ま
れています。

説明: *filetmod* ストリングが、出力 WSF ファイルに対して世代と製品ファミリーを定義していません。複数の世代または製品ファミリーが、ストリングに定義されています。

ユーティリティは処理を停止します。出力ファイルは作成されませんでした。

ユーザーの処置: *filetmod* ストリングを変更して、1 つの世代および製品ファミリーのみを定義してください。コマンドを再発行してください。

SQL3318N **filetmod** パラメーターで、キーワ
ードが重複しています。

説明: COLDEL、CHARDEL、または DECPT キーワードが、*filetmod* パラメーターに複数回現れます。この状態は、区切り文字付き ASCII (DEL) ファイルを使用している際に発生する可能性があります。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードまたはエクスポートされません。

ユーザーの処置: 正しい *filetmod* パラメーターを指定して、コマンドを再発行してください。

SQL3319N 表の作成中に、SQL エラー
“<sqlcode>” が起きました。

説明: 表を作成しているときに、SQL エラーが起きました。

IMPORT ユーティリティは処理を停止します。表は作成されませんでした。データはインポートされませんでした。

ユーザーの処置: 詳細な情報については、メッセージの SQLCODE (message number) を参照してください。変更を行って、コマンドを再発行してください。

SQL3320N **filetmod** パラメーターのキーワ
ードの後に、区切り文字または小数点
がありません。

説明: COLDEL、CHARDEL、または DECPT キーワードが、*filetmod* パラメーターの最後にあります。キーワードに続く区切り文字または小数点がありません。この状態は、区切り文字付き ASCII (DEL) ファイルを使用している際に発生する可能性があります。

ユーティリティは処理を停止します。データはロードまたはエクスポートされません。

ユーザーの処置: 正しい *filetmod* パラメーターを指定して、コマンドを再発行してください。

SQL3321C ログがいっぱいなので、データはデ
ータベースへインポートされません
でした。リカバリーは失敗しまし
た。SQLCODE “<sqlcode>” が
戻されます。

説明: データベース・トランザクション・ログがいっぱいのため、IMPORT ユーティリティがデータ行をデータベースに挿入できませんでした。すべての作業はコミットされましたが、データベース・トランザクション・ログがいっぱいなので、ユーティリティは行を挿入することができませんでした。

ユーティリティは処理を停止します。それまでのすべての変更はコミットされましたが、現在の行はインポートされませんでした。

ユーザーの処置: データベース・ファイルの入ったファイル・システムに残っているスペースをチェックしてください。データベース構成ファイル内の最大ログ・サイズを増やすことを考慮してください。

SQL3322N オペレーティング・システムのセマフォール・エラーが起きました。

説明: wait/post セマフォールで、エラーが起きました。

ユーティリティは処理を停止します。EXPORT ユーティリティの場合は、メディア上のデータが不完全になっている可能性があります。

IMPORT ユーティリティの場合は、まだコミットされていないデータがロールバックされます。

ユーザーの処置: DB2 の停止と再始動を行って、ユーティリティの再実行依頼を行ってください。

SQL3324N 列 “<name>” に、認識されないタイプの “<type>” があります。

説明: SQL ステートメントから戻されるデータの列はサポートされません。

連合システム・ユーザー: 必要なデータのデータ・タイプは、連合サーバー、またはアクセスしたいデータ・ソースによってサポートされていません。

ユーザーの処置: エラーを訂正して、コマンドを再発行してください。

連合システム・ユーザー: サポートされているデータ・タイプを指定してプログラムを再実行依頼してください。

SQL3325W 行 “<row-number>” のすべての列の値がヌルなので、行は WSF データ・ファイルには含まれません。

説明: WSF ガジェットのエクスポート中で、SELECT ステートメントがすべてヌル値の行になった場合、行は WSF ファイルに追加されません。SQL3105N メッセージに示される行の合計は、SELECT ステートメントから返された行数であって、WSF ファイル内の行数ではありません。

コマンドの処理は続けられます。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。これは通知メッセージです。

SQL3326N Action String パラメーターの表名に続く列リストが無効です。

説明: 表名の後に列リストがある Action String (たとえば “REPLACE into …”) パラメーターを指定して IMPORT または LOAD を呼び出しても、これが無効だった場合、このメッセージが出されます。たとえば、以下の Action String パラメーターは失敗します。

tablea() に挿入
括弧内に列が無い

tablea(2 語) に挿入
無効な列名

tablea(grant.col1) に挿入
列名は修飾できない

tablea(x1234567890123456789) に挿入
長すぎる列名

tablea(col1,col2) に挿入
列名の欠落

コマンドは続行されません。

ユーザーの処置: 有効な列リストで Action String パラメーターを変更して、もう一度ユーティリティを呼び出してください。

SQL3327N システム・エラーが起きました (理由コード 1 = “<reason-code-1>”、理由コード 2 = “<reason-code-2>”)。

説明: 処理中にシステム・エラーが起きました。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 可能であれば、SQLCA からすべてのエラー情報を記録してください。メッセージ・ファイルを保存してください。データベースを使用しているすべてのアプリケーションを終了してください。システムをリブートしてく

ださい。データベースを再始動してください。
コマンドをやり直してください。

十分なメモリー・リソースがあってもこの問題が続く場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトで、独立トレース機能呼び出してしてください。この機能の使用法については、*問題判別の手引き*の独立トレース機能を参照してください。

SQL3330W 行 “<row-number>” の文字フィールドの長さが奇数ですが、ターゲット・データベースの列はグラフィック列です。行はロードされません。

説明: 偶数の長を持つ文字フィールドのみが、データベースのグラフィック列にロードされます。

行はロードされません。

ユーザーの処置: IMPORT コマンドに CREATE オプションを使用して、データを新しい表にロードするか、またはこの列はこの表にロードしないでください。

SQL3331C 指定されたアクセスは、ファイル (またはディレクトリー) の許可設定で許されていません。

説明: これは、他のエラー・メッセージをとまなう場合があります。このメッセージは、ファイル属性が一致していないにもかかわらず、ファイルまたはディレクトリーにアクセスしようとしたことを示しています。このメッセージは、以下に示す処理が実行されようとしたときに出力される可能性があります。

- 書き込み処理のための読み取り専用装置上のファイルのオープン
- 書き込み処理のための読み取り専用ファイルのオープン
- ファイルではなくディレクトリーのオープン
- ロックまたは共用違反の検出

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ファイルが使用されていない時にユーティリティーを再実行するか、または書き込みが許可されているパスとファイルへ出力を切り替えて、ユーティリティーを再実行してください。

SQL3332C オープンできるファイルの最大数に達しました。

説明: このメッセージは、他のエラー・メッセージをとまなう場合があります。このメッセージは、オープンできるファイルの数が最大値に達していることを示しています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 他のアプリケーションを終了させて、オープンされているファイルの数を減らし、ユーティリティーを再実行してください。

SQL3333C ファイルまたはディレクトリーが存在しません。

説明: このメッセージは、他のエラー・メッセージをとまなう場合があります。このメッセージは、アクセスするファイルまたはディレクトリーが存在しないか、または見つからないことを示しています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なパスの入った正しいファイル名を使用して、コマンドを再発行してください。

SQL3334C 使用できる十分なストレージがありません。

説明: このメッセージは、他のエラー・メッセージをとまなう場合があります。このメッセージは、ファイルをオープンするために使用できる十分なストレージがないことを示しています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: アプリケーションを停止してく

ださい。 解決策は以下の通りです。

- システムに十分な実メモリーおよび仮想メモリーがあることを確認してください。
- バックグラウンド処理を終了してください。

SQL3335C ファイル・システムがいっぱいです。

説明: このメッセージは、他のエラー・メッセージをとまなう場合があります。 このメッセージは、書き込み処理に使用できるスペースが装置にないことを示しています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 装置に使用可能なスペースを確保するには、不要なファイルを削除するか、または使用可能なスペースがある装置に出力データの宛先を変更してください。

SQL3337N サーバーへのデータの書き込み中に、入出力エラーが起きました。

説明: サーバー上の一時ファイルへデータを書き込もうとしたときに、入出力エラーが起きました。(一時ファイルは、データベース・マネージャ

SQL3400 - SQL3499

SQL3400N METHOD に指定された方法は、非区切り文字付き ASCII ファイルには無効です。これはロケーションの 'L' である必要があります。

説明: 非区切り文字付き ASCII ファイルからロードしている場合、列はファイル内の位置によって選択される必要があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ソース・ファイルの列に対する有効な位置のセットを指定して、コマンドを再発行してください。

一のインスタンスの `sqllib` ディレクトリーの下にある `tmp` ディレクトリーに作成されます。) サーバー上のファイル・システムが、いっぱいになっている可能性があります。

ユーティリティーは処理を停止します。データベースは変更されません。

ユーザーの処置: サーバーのシステム管理者に連絡して、サーバー上のスペースを使用可能にし、コマンドを再発行してください。

SQL3338N サーバー上の一時メッセージ・ファイルの読み取り中に、入出力エラーが起きました。

説明: サーバー上の一時メッセージ・ファイルを読み取ろうとしたときに、システム入出力エラーが起きました。

IMPORT 処理は完了しますが、データベース・クライアント上のメッセージ・ファイルが空、または不完全となっている可能性があります。

ユーザーの処置: リモート・データベースへ照会して、ユーティリティーの処理が正常に終了しているかどうかを確かめてください。

SQL3401N METHOD に指定された方法は、どのような filetype にも無効です。

説明: ファイルの列の選択方法が、*filetype* に許されていない値です。以下のいずれかの方法の標識を選択してください。

- P (位置の場合)
- N (名前の場合)
- L (場所の場合)
- D (デフォルトの場合)

これ以上の制約は、*filetype* に基づきます。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効な方法の標識を使用して、

コマンドを再発行してください。

SQL3402N ゼロの値を持つ一組の開始位置と終了位置が、ヌルにはできない列 “<name>” に指定されました。

説明: 開始位置と終了位置がゼロに設定されている一組の位置が、示されている列に指定されましたが、列はヌルにすることができません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ソース・ファイルの列に対する有効な位置のセットを指定して、コマンドを再発行してください。

SQL3403N 列 “<name>” への挿入のための、開始位置と終了位置のペアが無効です。

説明: 入力の非区切り文字付き ASCII ファイル内の示されているデータベース列に対して、入力データを位置づけるフィールド指定が無効です。フィールド指定に、以下のいずれかのエラーがあります。

- 開始位置が 0 未満です。
- 終了位置が 0 未満です。
- 終了位置が開始位置より小さくなっています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ソース・ファイルの列に対する有効な位置のセットを指定して、コマンドを再発行してください。

SQL3404N 列 “<name>” への挿入のための開始位置と終了位置のペアが、無効な数です。

説明: 入力の非区切り文字付き ASCII ファイル内の示されているデータベース列に対して、データを位置づけるフィールド指定が無効です。位置の対が、50 バイト以上のフィールドを定義しています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ソース・ファイルの列に対する有効な位置のセットを指定して、コマンドを再発行してください。

SQL3405N 列 “<name>” への挿入のための、開始位置と終了位置のペアが、無効な日付です。

説明: 非区切り文字付き ASCII ファイル内の示されているデータベース列に対して、データを位置づけるフィールド指定が無効です。位置の対が、日付の外部表現には無効なフィールド長を定義しています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ソース・ファイルの列に対する有効な位置のセットを指定して、コマンドを再発行してください。

SQL3406N 列 “<name>” への挿入のための開始位置と終了位置のペアが、無効な時間です。

説明: 入力の非区切り文字付き ASCII ファイル内の示されているデータベース列で、データを位置づけているフィールド指定が無効です。位置の対が、時刻の外部表現には無効なフィールド長を定義しています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ソース・ファイルの列に対する有効な位置のセットを指定して、コマンドを再発行してください。

SQL3407N 列 “<name>” への挿入のための開始位置と終了位置のペアが、無効タイム・スタンプです。

説明: 入力の非区切り文字付き ASCII ファイル内の示されているデータベース列に対して、データを位置づけるフィールド指定が無効です。位置の対が、タイム・スタンプの外部表現には無効なフィールド長を定義しています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ファイルの列に対する有効な位置のセットを指定して、コマンドを再発行してください。

SQL3408W 列 “<name>” への挿入のための開始位置と終了位置のペアが、ターゲット列よりも長いフィールドを定義しています。データは切り捨てられる可能性があります。

説明: 入力の非区切り文字付き ASCII ファイルからのデータを含むためのフィールド指定が、ターゲット・データベースのサイズ (または最大サイズ) よりも大きいフィールドを定義しています。

ユーティリティは処理を続けます。必要に応じて、切り捨てが行われます。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL3409W 列 “<name>” への挿入のための開始位置と終了位置のペアが、ターゲット固定長列よりも短いフィールドを定義しています。データは埋め込まれます。

説明: 示されたデータベースの列は固定長列です。入力の非区切り文字付き ASCII ファイルからのデータを含むためのフィールド指定が、ターゲット・データベースの列のサイズより小さいフィールドを定義しています。

ユーティリティは処理を続けます。示されたデータベースの列へ入力される値は、必要に応じて、右側にスペースが埋め込まれます。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL3410N 列 “<name>” への挿入のための開始位置と終了位置のペアが、無効グラフィック列です。

説明: 示されたデータベース列に挿入される、ASCII ファイルの入力データを位置付けるフィー

ルド指定が、奇数バイトのフィールドを定義しています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ソース・ファイルの列に対する有効な位置のセットを指定して、コマンドを再発行してください。

SQL3411W 行 “<row-number>”、列 “<column-number>” のフィールドの値が、グラフィック列には無効です。ヌルが挿入されます。

説明: 示されたフィールドの値が、受け入れ可能なグラフィック列の値ではありません。値に、奇数バイトが入っている可能性があります。DEL ファイルの場合は、列番号の値が、示された行のフィールドを示します。ASCII ファイルの場合は、列番号の値が、値が始まる行内のバイト位置を示します。

行は挿入されません。

ユーザーの処置: NULL が受け付けられない場合は、入力ファイルを修正して、コマンドを再発行するか、または表のデータを編集してください。

SQL3412W 行 “<row-number>”、列 “<column-number>” のフィールドの値がグラフィック列には無効ですが、ターゲット列はヌルにすることができません。この行は挿入されません。

説明: 示されたフィールドの値が、受け入れ可能なグラフィック列の値ではありません。値に、奇数バイトが入っている可能性があります。ターゲット列がヌルにできないために、ヌルが挿入できません。DEL ファイルの場合は、列番号の値が、示された行のフィールドを示します。ASCII ファイルの場合は、列番号の値が、値が始まる行内のバイト位置を示します。

行は挿入されません。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。その行が必要な場合には、入力ファイルを修正して、コマンドを再発行するか、または表のデータを編集してください。

SQL3413W 行 “<row-number>”、列 “<column-number>” のフィールドの値が、ターゲット列には短すぎます。ヌルが挿入されます。

説明: 示されたフィールドの値は、ターゲット列には短すぎるので、受け付けられません。列番号の値が、フィールドが始まる行内のバイト位置を示しています。

ヌルの値が挿入されます。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。NULL が受け付けられない場合は、内部フィールドを修正して、コマンドを再発行するか、または表のデータを編集してください。

SQL3414N 一時ファイル “<filename>” を検出することはできません。

説明: ロード・フェーズの終わりで、ロードを再始動するために、一時ファイルが必要な情報を指定して作成されます。この時点の前にロードに割り込みが行われると、このファイルは作成されません。

このメッセージは、ロードの再始動時にこのファイルを検出できなかったことを表します。

ユーティリティーは停止します。

ユーザーの処置: 割り込みが行われる時点によっ

SQL3500 - SQL3599

SQL3500W ユーティリティーが、“<timestamp>” に “<phase>” フェーズを開始しました。

説明: これは、フェーズが開始されつつあることと、前のフェーズが終了したことを示す情報メッ

セージです。フェーズは、(現れる順序で) 以下のとおりです。

SQL3415W 行 “<row-number>” および列 “<column-number>” のフィールド値を、入力データ・ファイルのコード・ページから、データベースのコード・ページへ変換できません。ヌル値がロードされました。

説明: 示されたフィールドの値が、入力データ・ファイルのコード・ページからデータベースのコード・ページへ変換できません。

ユーザーの処置: ヌルが受け付けられない場合は、入力データ・ファイルを修正して、コマンドを再発行するか、または表のデータを編集してください。

SQL3416W 行 “<row-number>” および列 “<column-number>” のフィールド値を、入力データ・ファイルのコード・ページから、データベースのコード・ページへ変換できません。行はロードされません。

説明: 示されたフィールドの値が、入力データ・ファイルのコード・ページからデータベースのコード・ページへ変換できません。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。その行が必要な場合には、入力データ・ファイルを修正して、コマンドを再発行するか、または表のデータを編集してください。

セージです。フェーズは、(現れる順序で) 以下のとおりです。

- LOAD
- BUILD
- DELETE

LOAD フェーズ中に、データが表にロードされます。作成すべき索引がある場合は、BUILD フェーズが LOAD フェーズに続きます。固有索引で重複キーが見つかった場合は、DELETE フェーズが BUILD フェーズに続きます。

LOAD の完了前に、LOAD が終了した場合は、LOAD を再始動するフェーズを判別する必要があります。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL3501W 正方向リカバリーがデータベースに対して使用できないため、表が存在する表スペースが、バックアップ保留状態に置かれません。

説明: データベースに対して正方向リカバリーが不可能な場合を除いて、バックアップ保留状態に置かれる、表が存在する表スペースとなる LOAD の呼び出しに、COPY NO が指定されました。

ユーティリティは処理を続けます。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL3502N 許される警告の合計数を越える "`<number>`" の警告を、ユーティリティが見つめました。

説明: コマンドの実行中に出力された警告の数が、ユーティリティの呼び出しで指定された警告の合計数を超えました。

ユーティリティは終了します。

ユーザーの処置: 適切なオプションで、正しいデータがロードされていることを確認するか、または許容警告数を増やしてください。コマンドを再発行してください。

SQL3503W 指定された合計数と等しい "`<number>`" 行を、ユーティリティがロードしました。

説明: ロードされた行数は、ユーティリティの呼び出しで指定された行の合計数と同じでした。

ユーティリティは正常に終了しました。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

SQL3504W 整合点を確立中です。

説明: 以下の場合には、呼び出し時の SAVECOUNT パラメーターに指定された通常間隔以外の時点で、整合点が確立されます。

- メモリーまたは一時ファイルに保持されているメタデータの容量のしきい値に達した場合。
- コピー・イメージおよびロードに対して、終了しなければならない装置エラーが起きた場合。

ユーザーの処置: このメッセージの後も LOAD が継続される場合、処置は必要ありません。

LOAD が終了した場合は、すべてのエラーを訂正(装置を活動化するか、または整合点が確立される間隔を減らしてください)した後で、再始動することができます。

SQL3505N RECLEN オプションの `filetmod` に指定された長さが、1 から 32767 までの有効範囲内ではありません。

説明: `filetmod` パラメーターに、ASC ファイルに対する RECLEN オプションが指定されています。指定された長さが無効です。

ユーザーの処置: 指定した長さを訂正して、コマンドを再発行してください。

SQL3506W 行 "`<row-number>`"、列 "`<column-number>`" のヌル標識に指定された値が無効です。'N' が値として使用されます。

説明: ASC ファイルの場合、ヌル標識列は、データ列ごとに指定することができ、'Y' または 'N' を持っている必要があります。'Y' は、列がヌル値であることを示し、'N' は、列がデータを含んでいることを示します。上記のいずれの値もヌル標識列にない場合、'N' が値として想定され、データが列にロードされます。

ユーザーの処置: データまたはヌル標識が正しくない場合は、入力ファイルを修正して、コマンドを再発行してください。

SQL3507N ヌル標識に指定された列番号が 0 から 32767 までの有効な範囲にないか、または null indicator パラメーターが無効です。

説明: `null_ind` パラメーターで、ヌル標識の列が ASC ファイルに対して指定されましたが、いずれかの列が有効でないか、またはヌル標識に渡されるポインターが有効ではありません。

ユーザーの処置: パラメーターを訂正して、コマンドを再発行してください。

SQL3508N ロードまたはロード照会中に、タイプ “<file-type>” のファイルまたはパスへのアクセスでエラー。理由コード: “<reason-code>” パス: “<path/file>”。

説明: ロードまたはロード照会の処理中に、ファイルにアクセスしようとしてエラーが起きました。ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: ロードを実行していて、表スペースがロード・ペンディング状態にない場合には、その問題を修正して、ロード・ユーティリティーをもう一度呼び出してください。表スペースがロード・ペンディング状態にある場合には、RESTART または REPLACE モードでロード・ユーティリティーを呼び出すか、あるいは 1 つまたは複数の表スペースのバックアップを復元してください。表スペースの状態は、LIST TABLESPACES コマンドを使用して判別することができます。

以下が理由コードのリストです。

- 1 ファイルを開くことはできません。

これは、ファイル名が正しくないか、あるいはファイル / ディレクトリーに対し

て十分な権限がないためと考えられます。問題を訂正して、ロードを再始動または再実行してください。

- 2 ファイルの読み取り / 走査を行うことができません。

これは、ハードウェア・エラーの結果と考えられます。ハードウェア・エラーであれば、そのハードウェア問題について、問題判別の手引き で示されている適切な処置を取り、ロードを再始動または再実行してください。

- 3 ファイルへの書き込みまたはサイズ変更ができません。

これは、ディスクがいっぱいの状態であるか、あるいはハードウェア・エラーと考えられます。下記のファイル・タイプ・リストを参照して、ロードの実行に十分なスペースがあることを確認するか、あるいは別の位置を使用するように指定してください。ロードを再始動または再実行してください。ハードウェア・エラーであれば、そのハードウェア問題について、問題判別の手引き で示されている適切な処置を取り、ロードを再始動または再実行してください。

- 4 ファイルに無効なデータが入っています。

ロードに必要なファイルに、無効なデータが入っています。TEMPFILES_PATH に記述されている処置を参照してください。

- 5 ファイルをクローズすることができません。

ロードを再始動または再実行できない場合には、IBM 技術員に連絡してください。

- 6 ファイルを削除することができません。

ロードを再始動または再実行できない場合には、IBM 技術員に連絡してください。

- 7 パラメーターが間違っ て指定されています。ファイル・タイプのリストを参照し、エラーのあるパラメーターを判別し、正しいパラメーターを指定してロードを再実行してください。

以下がファイル・タイプのリストです。

SORTDIRECTORY

workdirectory パラメーターが正しく指定されていることを確認してください。ロードされるデータの索引キーの 2 倍のサイズが入る、十分な結合スペースがすべてのディレクトリー内になければなりません。また、ロード挿入およびロード再始動では、表内の既存のデータの索引キーの 2 倍の余裕がなければなりません。

MSGFILE

messagefile パラメーターが適切に指定されている、ことを確認してください。ロード中に出されるメッセージを書き込むのに十分なディスク・スペースがなければなりません。

これがロード照会の場合には、ローカル・メッセージ・ファイル・パラメーターが、その状態が照会中であるロードに使用された messagefile パラメーターと同じでない、ことを確認してください。

TEMPFILES_PATH

tempfiles path パラメーターが正しく指定されているかどうか確認してください。このパラメーターの詳細については、データ移動ユーティリティー手引きおよび解説書を参照してください。

SQL3509W ユーティリティーが、表から "**<number>**" 行を削除しました。

説明: 固有索引を持つ表がロードされている場合は、削除フェーズ中に、索引の固有性に違反する行が表から削除されます。このメッセージは、削除された行数に関する情報を提供します。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL3510N ソート・フェーズ用の作業ディレクトリーがアクセスできません。

説明: ソート・フェーズ用に指定された 1 つ以上の作業ディレクトリーが、存在しないか、または読み / 書き許可を持っていません。

ユーザーの処置: 指定した作業ディレクトリーが存在し、読み / 書き許可が正しくセットアップされていることを確認して、コマンドを再発行してください。

SQL3511W 行 "**<row-number>**"、列 "**<column-number>**" に指定されたファイルが見つかりません。ヌルがロードされました。

説明: 示されたフィールドのファイル名が見つかりません。データ・タイプが不一致である可能性があります。

区切り文字付き ASCII (DEL) ファイルの場合、列番号の値が問題の値の入った行内のフィールドを示しています。ASCII ファイルの場合は、列番号の値が、問題の値が始まる行内のバイト位置を示します。

ヌル値がロードされます。

ユーザーの処置: 入力値を調べてください。必要に応じて、入力ファイルを訂正してコマンドを再発行するか、または表のデータを編集してください。

SQL3512W 行 “<row-number>”、列 “<column-number>” に指定されたファイルが見つかりませんが、ターゲット列はヌルにすることができません。行はロードされません。

説明: 示されたフィールドのファイル名が見つかりません。表の出力列をヌルにできないために、ヌルがロードできません。

区切り文字付き ASCII (DEL) ファイルの場合、列番号の値が問題の値の入った行内のフィールドを示しています。ASCII ファイルの場合は、列番号の値が、問題の値が始まる行内のバイト位置を示します。

行はロードされません。

ユーザーの処置: 入力ファイルを訂正してコマンドを再発行するか、または表のデータを編集してください。

SQL3513N ファイルのコード・ページが、データベースのコード・ページと一致しません。ファイルはロードされません。

説明: オリジナル・データベースとは異なるコード・ページを持つ DB2CS ファイルは、そのデータベースにロードできません。

ユーザーの処置: データベースのコード・ページを変更してコマンドを再発行するか、または別のファイル・タイプ (PC/IXF など) を使用して、データをオリジナル・データベースから新しいデータベースに移してください。

SQL3514N ユーティリティ・システム・エラーが起きました。機能コード: “<function>”、理由コード: “<reason-code>” エラー・コード: “<error-code>”

説明: データベース・ユーティリティの処理中に、システム・エラーが起きました。

ユーザーの処置: “<function>” の値に応じて、以下の異なる処置が必要です。

可能な機能コードは次の通りです。

- 1 - ロードのソート中にエラーが発生しました。

ロードの再始動をやり直してください。エラーが続いて起こる場合には、関数、理由コード、およびエラー・コードを技術サービス担当者に連絡してください。

- 2 - ベンダーのソート・ユーティリティの使用中にエラーが起きました。

ベンダーのソートの代わりに、DB2 クライアント / サーバー・ソート・ユーティリティを使用して、ロードをやり直してください。これを実行するためには、サーバーのプロファイル・レジストリーの値をブランクに設定してください。新規プロファイルの値をピックアップするためには、データベース・マネージャーを再始動しなければならないことがあります。エラーが続いて起こる場合には、関数、理由コード、およびエラー・コードをベンダー・ソート技術サービス担当者に連絡してください。

SQL3515W ユーティリティが、“<timestamp>” に “<phase>” フェーズを終了しました。

説明: これは、フェーズが終了したことを示す情報メッセージです。フェーズは、(現れる順序で) 以下のとおりです。

- LOAD
- BUILD
- DELETE

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL3516N ユーティリティは、指定されたロードを再始動できませんでした。

説明: 障害が起きる前に、ロード・ユーティリティが、ロードによって実行された最後の整合点に矛盾を見つけました。この状態は、システム・

エラーまたは無効なログ・ファイルによって発生する可能性があります。

ユーザーの処置: Build フェーズからロードを再始動して、表を整合状態に戻し、索引を作成 (可能であれば) するか、または REPLACE オプションを指定して、ロードを実行してください。

SQL3517N 予期しないレコードが、入力ソースから読み取られました。

説明: ユーティリティが、無効な形式のレコードを見つけました。オリジナル・ソースからコピーしたときに、ソースが壊れていた可能性があります。

処理は終了しました。

ユーザーの処置: オリジナル・ソースから 2 進形式でコピーして、LOAD を再始動してください。

SQL3518N ソースの出力が、ロードする表と互換性がありません。

説明: 以下のいずれかの理由で、ソースがこの表のロードに使用できません。

- 表定義が、ソースの表定義と一致しません。
- ソースが、ロードされる表とは異なるプラットフォームで作成されています。
- ソースが、ロードされる表とは異なるコード・ページを持つ表から作成されています。

ユーザーの処置: 表とソースの両方が正しく指定されていることを確認してください。異なる定義の表から、あるいは異なるプラットフォームまたはコード・ページからデータをロードする場合は、IXF または DEL などの別のファイル・タイプを使用してください。

SQL3519W ロード整合点が開始されました。入力レコード・カウント = "`<count>`"。

説明: ロード・ユーティリティが、すでにロードされている表データをコミットするために、整合点を実行しようとした。

ユーザーの処置: このメッセージのすぐ後に、メッセージ SQL3520W が表示されない場合は、整合点が失敗しました。表が整合状態まで戻され、すべての索引 (複数の場合) が作成されたことを確認するために、ロードを Build フェーズから再始動する必要があります。そうすると、ロードされたレコードのチェックが可能になります。ロードが成功したレコードをスキップして、ファイルの残りのレコードをロードするために、その数を設定した RESTARTCOUNT を使用して、もう一度ロードを始動します。

このメッセージの後にメッセージ SQL3520W が続く場合、このメッセージは情報のみで、処置は必要ありません。

SQL3520W ロード整合点が成功しました。

説明: ロードによって実行された整合点が成功しました。

ユーザーの処置: これは単なる情報メッセージです。応答は必要ありません。

SQL3521N 入力ソース・ファイル "`<sequence-num>`" が提供されませんでした。

説明: 複数入力ファイルを使用するロードが呼び出されましたが、すべてのファイルが提供されたわけではありませんでした。DB2CS ファイル・タイプの場合は、固有に作成されたすべての入力ソース・ファイルを提供する必要があります。IXF ファイル・タイプの場合は、すべての入力ソース・ファイルを正しい順序で提供する必要があります。

ユーティリティは終了します。

ユーザーの処置: すべての入力ソース・ファイルを提供し、すでにロードされたデータに対して RESTARTCOUNT を適切に設定したユーティリティーを再始動してください。

SQL3522N ログ・リテインとユーザー出口の両方が使用できないときに、コピー・ターゲットが提供できませんでした。

説明: ログ・リテインとユーザー出口の両方が使用不可になっているデータベースのロードの呼び出しに、コピー・ターゲットが指定されました。このようなデータベースには、コピー・ターゲットは無効です。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: データベースがログ・リテインとユーザー出口を使用不可にする必要を確認して、コピー・ターゲットを指定せずにロードを呼び出してください。

SQL3523W メッセージ・ファイルから取り出すメッセージがありません。理由コードは "<rc>" です。

説明: LOAD 一時メッセージ・ファイルの照会からメッセージが返されませんでした。考えられる戻りコードは以下のとおりです。

- 1 LOAD 一時メッセージ・ファイルが存在しません。
- 2 LOAD 一時メッセージ・ファイルにメッセージが存在しません。

ユーザーの処置: 有効な表名が指定されているかどうか確認してください。表名が正しく指定されていて、メッセージが予期される場合、データベース・モニターをチェックし、ユーティリティーが活動状態で、ロックなどのリソースを待機していないことを確かめてください。LOAD ユーティリティーが進行中になるまで LOAD 一時メッセージ・ファイルは作成されず、LOAD ユーティ

リティーの完了の後で削除されることに注意してください。

SQL3524N オプション "<option>" が無効な値 "<value>" を持っています。

説明: 指定する値は整数でなければなりません。オプションごとの範囲は、以下のようになります。

1. TOTALFREESPACE : 値は、0 から 100 の範囲にある必要があり、フリー・スペースとしての表の最後に付加される表の合計ページのパーセントとして解釈されます。
2. PAGEFREESPACE : 値は、0 から 100 までの範囲にある必要があり、空きスペースとして残されるデータ・ページごとのパーセントとして解釈されます。
3. INDEXFREESPACE : 値は、0 から 99 までの範囲にある必要があり、索引のロード時に、フリー・スペースとして残される索引ページのパーセントとして解釈されます。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: 値を訂正して、コマンドを再実行してください。

SQL3525W "<option-1>" オプションが "<option-2>" オプションと矛盾しています。

説明: 非互換オプションがユーティリティーに対して提供されました。

ユーザーの処置: オプションの 1 つを除去または修正して、コマンドを再発行してください。有効なオプションの詳細については、「コマンド解説書」を参照してください。

SQL3526N 修飾子文節 “<clause>” は現行ロード・オプションに矛盾しています。理由コードは “<reason-code>” です。

説明: 指示されたこのロード・ファイル・タイプ・モード (修飾子) は、ご使用のロード / インポート / エクスポート・コマンドに互換性がありません。これは次のいずれかの理由によります。

1. 現行のオプションでは、RECLEN および NOEOFCHAR ファイル・タイプ修飾子を指定する必要があります。1 つまたは複数のオプションが、コマンドからなくなっている。
2. 指示されたオプション (DEL または ASC など) が入力または出力データ・ファイルの形式と矛盾している。
3. 生成された、または識別関連ファイル・タイプ修飾子が指定されていても、このような列がターゲット表に入っていない。
4. CREATE INDEX ステートメントの INCLUDE 文節で列が指定されているか、GENERATEDOVERRIDE ファイル・タイプ修飾子が使用されている場合を除き、固有索引で識別列ではない生成列を持つ表をロードすることはできません。
5. GENERATEDOVERRIDE ファイル・タイプ修飾子が使用されていないかぎり、区分化キーで識別列ではない生成列を持つ表をロードすることはできません。

ユーザーの処置: 使用しているオプションの必要項目をチェックしてください。一致する修飾子文節 (ファイル・タイプ・モード) およびユーティリティ・オプションを使用してコマンドを再発行してください。

SQL3527N **CODEPAGE** オプションに対して **FILETMOD** パラメーターで指定された数は無効です。

説明: FILETMOD パラメーターの CODEPAGE オプションは無効です。

ユーザーの処置: コード・ページの数で訂正し、コマンドを再発行してください。

SQL3528W **CLP** コマンドで指定した区切り文字 (列区切り文字、ストリング区切り文字、あるいは小数点) が、アプリケーション・コード・ページからデータベースコード・ページに変換される可能性があります。

説明: CLP コマンドがクライアントからサーバーに送信されると、コード・ページが異なる場合、このコマンドは、クライアントのコード・ページから、サーバーのコード・ページへ変換される可能性があります。

ユーザーの処置: 区切り文字が変換されていないかどうか確認するには、16 進の形式で指定する必要があります。

SQL3529N “<operation-name>” 操作が、サポートされていないデータ・タイプ “<data-type>” を列 “<column-number>” で見つめました。

説明: “<operation-name>” 操作は、列 “<column-number>” にあるデータ・タイプ “<data-type>” をサポートしていません。

ユーザーの処置: サポートされているデータ・タイプについては、表定義およびデータ移動の手引きを調べてください。

SQL3530I ロード照会ユーティリティが、ノード “<node>” のロード進行をモニターしています。

説明: ロード照会ユーティリティが MPP 環境で呼び出されました。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL3531I **LOAD RESTART** が行われました。

説明: 現在照会されているロードに RESTART オプションが与えられました。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL3532I ロード・ユーティリティーは現在 “<phase>” フェーズです。

説明: これは、現在照会されているロードのフェーズを示す情報メッセージです。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL3533I ロード・ユーティリティーは現在、索引 “<number>” の “<number>” を作成中です。

説明: これは、現在照会されているロードが BUILD フェーズである場合に返される情報メッセージです。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL3534I ロードの **DELETE** フェーズのおよそ “<number>” パーセントが完了しています。

説明: これは、現在照会されているロードが DELETE フェーズである場合に返される情報メッセージです。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL3535W **LOAD** コマンド・パラメーター “<parameter-name>” は、現在サポートされていません。この値は **LOAD** ユーティリティーによって無視されます。

説明: LOAD コマンドに、現在はサポートされていないパラメーターが入っています。

ユーザーの処置: LOAD のための一時ソート・スペースの情報および LOAD パフォーマンス調

整に関する指示については、DB2 資料を参照してください。

SQL3536N システム一時表スペース “<table-space-name>” がいっぱいです。

説明: 索引キーをソートしているときに、LOAD ユーティリティーは表スペースがいっぱいの状態であることを検出しました。

ユーザーの処置: システム一時表スペース “<table-space-name>” に割り振られているスペースが、作成される索引全体のサイズの少なくとも 2 倍であることを確認してください。LOAD ユーティリティーを再始動してください。

SQL3537N **LOAD** ユーティリティーの実行中に、ソート・メモリーを割り振ることができませんでした。

説明: ソート処理のために、LOAD ユーティリティーで使用可能な処理仮想メモリーが十分にありません。

ユーザーの処置: このメッセージを受け取ったアプリケーションを終了してください。ソート処理のために使用可能な仮想メモリーが十分にあるかどうか確認してください。

解決策は以下の通りです。

- すべてのアプリケーションをデータベースから切断し、対応するデータベース構成ファイルのソート・ヒープ・パラメーター (sortheap) のサイズを小さくします。
- バックグラウンド処理を中止、または現在実行中の他のアプリケーションを終了、あるいはその両方を行います。
- 使用可能な仮想メモリーの量を増やします。

SQL3538N 複数の **LOAD** で同じ一時ファイル・パスを使用しているため、**LOAD QUERY** ユーティリティが失敗しました。

説明: 少なくとも 1 つの他の **LOAD** が、照会された **LOAD** として同じ **TEMPFILES PATH** を使用して呼び出され、現在も進行中です。**LOAD QUERY** ユーティリティは、照会する **LOAD** を一意的に決定できません。

ユーザーの処置: 代わりに、**LOAD QUERY** の **TABLE** パラメーターを使用してください。

SQL3539N **LOAD TERMINATE** が少なくとも 1 回試行されているため、**LOAD RESTART** を実行できません。

説明: **LOAD TERMINATE** は、**LOAD TERMINATE** の完了後でなければ実行できません。

ユーザーの処置: ユーザーは **LOAD TERMINATE** のみ実行することができます。

SQL3550W 行 “<row-number>”、列 “<column-number>” のフィールド値はヌルではありませんが、ターゲット列は **GENERATED ALWAYS** として定義されていません。

説明: 入力ファイルにヌルではないフィールド値が見つかりました。ターゲット列がタイプ **GENERATED ALWAYS** であるため、値をロードできません。column-number は、データが欠落し

ている行のフィールドを示しています。

ユーザーの処置: **LOAD** では、identityoverride ファイル・タイプ修飾子が使用されている場合のみ、明示的にヌルではないフィールド値を **GENERATED ALWAYS** 識別列にロードできません。識別列ではない **GENERATED ALWAYS** 列の場合、明示的にヌルではない値を行にロードするために generatedoverride ファイル・タイプ修飾子を使用できます。これらの修飾子の使用が適切でなければ、**LOAD** が行を受け入れる場合、フィールド値をヌルで置き換えなければなりません。

IMPORT の場合、**GENERATED ALWAYS** 列を上書きする方法はありません。ユーティリティが行を受け入れる場合、フィールド値を除去してヌルで置き換えなければなりません。

SQL3551W ユーティリティが上書きする **GENERATED ALWAYS** 列が少なくとも 1 つ、表に含まれていません。

説明: “override” ファイル・タイプ修飾子 (たとえば **IDENTITYOVERRIDE** または **GENERATEDOVERRIDE**) が指定されています。

IDENTITYOVERRIDE の場合、**GENERATED ALWAYS** として定義された識別列の固有性に違反する可能性があります。

GENERATEDOVERRIDE の場合、その列定義に対応しない値の入った、識別列ではない **GENERATED ALWAYS** 列が生じる可能性があります。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL3600 - SQL3699

SQL3600N 表 “<table-name>” が検査保留状態にないため、**SET INTEGRITY** ステートメントの **IMMEDIATE CHECKED** オプションは無効です。

説明: データは、表が検査保留状態に置かれている場合にのみ、制約違反をチェックされます。

ユーザーの処置: OFF オプションで **SET INTEGRITY** ステートメントを使用し、表を検査保留状態にしてください。

sqlcode: -3600

sqlstate: 51027

SQL3601W ステートメントが 1 つまたは複数の表を自動的に検査保留状況にしました。

説明: 以下の 2 つの状況で、このエラーが起きます。

1. 参照構造の親表の設定には、検査保留に設定される従属表と下位表が必要です。これは、参照保全制約を実施するために必要です。親表が検査保留状態にあるときに、外部キーを追加するには、自動的に検査保留に置かれる親表の新しいすべての従属表と下位表が必要です。
2. 従属の即時最新表示の要約表を持つ基礎表を設定するには、それらの従属要約表を検査保留に設定する必要があります。基礎表と従属要約表との間のデータ関係を強制するには、この設定が必要です。

ユーザーの処置: これは警告メッセージです。すべての従属表と下位表の保全性を妥当性検査するには、**IMMEDIATE CHECKED** オプションを指定し、**SET INTEGRITY** ステートメントを実行する必要があります。

sqlcode: +3601

sqlstate: 01586

SQL3602W データ検査処理で制約違反が見つかり、それらは例外表に移動されました。

説明: **SET INTEGRITY** ステートメントの実行でチェックされるように指定された制約に違反する行が存在します。それらの表は、例外表に移動されます。

ユーザーの処置: 制約に違反した行については、例外表をチェックしてください。行は、オリジナル表から削除されますが、訂正することが可能で、例外表から戻すことができます。

sqlcode: +3602

sqlstate: 01603

SQL3603N **SET INTEGRITY** ステートメントによるデータ検査処理が、名前 “<name>” の制約に関係する保全性違反を見つけました。

説明: **SET INTEGRITY** ステートメントによってチェックされるよう指定された表に定義されている制約に違反する行が見つかりました。名前 “<name>” は、制約名か、または生成された列の名前です。

ユーザーの処置: **FOR EXCEPTION** オプションが使用されていないため、行は表から削除されませんでした。

データをチェックする場合、**FOR EXCEPTION** オプションを使用し、**SET INTEGRITY** ステートメントを実行するようお勧めします。例外表の情報を使用した、データの訂正が必要になる可能性があります。

sqlcode: -3603

sqlstate: 23514

SQL3604N SET INTEGRITY ステートメント
または **LOAD ユーティリティー**の
表 “<table-name>” に対応する例
外表 “<excp-table-name>” が正しい
構造になっていないか、固有の索引、
制約、生成された列、またはトリ
ガーを使用して定義されている
か、またはそれ自体が検査保留状態
にあります。

説明: 表に対応する例外表は、オリジナル表の定義と同様な定義を持っている必要があります。ユーティリティーのオプション列は、例外表を記述している資料の関連するセクションに指定されています。生成された列が例外表にないと思われま
す。例外表には、制約またはトリガーを定義することはできません。例外表自体は、検査保留状態にすることはできません。

ユーザーの処置: 資料内の関連するセクションに示されているように例外表を作成し、ステートメントまたはユーティリティーを再実行してください。

sqlcode: -3604

sqlstate: 428A5

SQL3605N SET INTEGRITY ステートメント
に指定されている表
“<table-name>” が、チェックのため
にリストされていないか、または
2 回以上指定されている例外表で
す。

説明: FOR EXCEPTION 文節が SET INTEGRITY ステートメントに指定されている場合は、以下のいずれかのよって、このエラーが起きた可能性があります。

- 表が、チェックされる表のリストにありませんでした。
- チェックされる表が、例外表と同じでした。
- 例外表が、チェックされる複数の表に指定されています。

ユーザーの処置: 表名を訂正して、コマンドを再発行してください。

sqlcode: -3605

sqlstate: 428A6

SQL3606N 検査中の表の数が、SET INTEGRITY ステートメントに指定されている例外表の数に一致しません。

説明: リストに指定されたオリジナル表と例外表は、一対一で対応する必要があります。

ユーザーの処置: 足りない例外表をまだ作成していない場合は、それを作成して、コマンドを再実行するために、その例外表をリストに指定してください。

sqlcode: -3606

sqlstate: 428A7

SQL3608N 親表 “<par-table-name>” が検査保留状態の間は、SET INTEGRITY ステートメントを使用して、従属表 “<dep-table-name>” の検査保留状態の検査またはリセットを行うことはできません。

説明: 以下を行うには、親表は正しい状態 (検査保留状態ではない)、または呼び出しリストに入っている必要があります。

- 従属表の検査保留状態のリセット
- 従属表の検査

ユーザーの処置: SET INTEGRITY ステートメントを実行して親表を検査し、その親表が検査保留に置かれていないことを確認してください。

最初に親表を検査することが推奨されます。従属表を検査することも、親表を呼び出しリストに組み込むことも可能です。この場合、親表に制約違反があり、それが削除されていなければ、コマンドは失敗する可能性があります。これは、FOR EXCEPTION オプションが使用されていない場合

に起こることがあります。

参照サイクルの場合は、すべての表を呼び出しリストに含む必要があります。

SQL3700 - SQL3799

SQL3700W 装置 “<device>” がいっぱいです。他の活動装置には “<active-devices>” があります。新しいメディアを取り付けるか、または適切な処置を行ってください。

説明: 指定された装置上のメディアがいっぱいです。この装置は、いずれかの “<active-devices>” + データがアンロードされるターゲット装置の 1 つです。

ユーザーの処置: 以下のいずれか 1 つの処置を取ってください。

- 指定した装置に新しいターゲット・メディアを取り付け、呼び出し側処置 1 (SQLU_CONTINUE) を使用してアンロードを呼び出すことで、アンロードを続けてください。
または
- “<active-devices>” がゼロ以外の場合は、呼び出し側処置 4 (SQLU_DEVICE_TERMINATE) を指定して UNLOAD ユーティリティを呼び出すことによって、この装置を使用しないでアンロードを続けてください。
または
- 呼び出し側処置 2 (SQLU_TERMINATE) を指定して、UNLOAD ユーティリティを呼び出すことによって、アンロードを続けてください。

SQL3701W lobpaths パラメーターが指定されましたが、表に LOB または長いデータが含まれていません。このパラメーターは無視されます。

説明: lobpaths パラメーターが、LOB および長いデータに対して独立したターゲットを指定して

sqlcode: -3608

sqlstate: 428A8

います。表に LOB または長いデータが入っていないために、lobpaths パラメーターによって指定されているターゲットは使用されません。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL3702W 警告。装置 “<device>” に関する SQLCODE “<sqlcode>” を受け取りました。アンロードは、この装置なしで続けられます。

説明: SQLCODE “<sqlcode>” が、アンロードのターゲットの 1 つである指定された装置に対して出されました。アンロードは続けられますが、この装置は無視されます。

ユーザーの処置: 指定された装置上のロードされたメディアは、アンロードされたデータを含まず、アンロードされたデータをロードするときに、LOAD ユーティリティに指定するメディアに含んではなりません。装置に関する問題を修正するには、返された SQLCODE を「メッセージ解説書」で調べてください。

SQL3703W タイプ “<type>” の “<yyy>” ページ中の “<xxx>” ページがアンロードされ、ターゲット・メディアへの書き込みのために送信されました。

説明: アンロードされる表は、示されたタイプのデータの “<yyy>” ページで構成されています。“<xxx>” ページが、UNLOAD ユーティリティによって処理され、データをターゲット・メディアに書き込むメディア書き出しプログラムに送信されました。

“<type>” は以下のいずれかです。

- 0 (通常データ)
- 2 (長いデータおよび割り振り情報)

- 3 (LOB データ)
- 4 (LOB 割り振り情報)

長いデータと LOB データの場合は、未使用スペースはアンロードされませんが、データが再ロードされるときに再作成されるために、“<xxx>”が“<yyy>”より小さくなる可能性があることに注意してください。

さらに通常データの場合は、“<xxx>” = “<yyy>”のときは、最終メッセージが出されない可能性があります。代わりに、メッセージ 3105 が、アンロードが正常に終了したことを示すために使用されます。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。処置は必要ありません。

SQL3704N 指定された num_buffers パラメーターが無効です。

説明: num_buffers パラメーターは、ユーティリティが使用するバッファの数を決定します。最小値は、lobpaths パラメーターが指定されていない場合は 2 で、lobpaths パラメーターが指定されている場合は 3 です。これは、ユーティリティが作業するために最低限必要な値です。ただし、このパラメーターが指定されないと、最適なバッファ数をユーティリティが使用します。この最適な数は、ユーティリティが実行される内部プロセスの数、および lobpaths パラメーターが指定されているかどうかによって異なります。指定されたバッファの数が最適な数より小さい場合は、いくつかのプロセスが、使用するためにバッファを待つこととなります。したがって、このパラメーターに 0 を指定して、ユーティリティにバッファ数を選択させることが推奨されます。このパラメーターのみを指定する場合は、ユーティリティ・ストレージ・ヒープのサイズのために、ユーティリティが使用するメモリの容量を制限する必要があります。

ユーザーの処置: 有効な num_buffers パラメーターを使用して、コマンドを再発行してください。

SQL3705N 指定されたバッファ・サイズ・パラメーターが無効です。バッファ・サイズは、0 または 8 から 16384 (0 と 16384 を含む) の間で指定する必要があります。複数バッファの場合は、バッファ・サイズの合計が 16384 を超えてはいけません。

説明: ユーティリティを呼び出しているアプリケーションが、無効な buffer size パラメーターを指定しました。バッファ・サイズは、内部バッファ・サイズの決定に使用されます。値は、このバッファ用に獲得される 4K ページの数です。値は、0 または 8 から 16384 (16 と 16384 を含む) 間で指定する必要があります。複数バッファの場合は、バッファ数にバッファ・サイズをかけた値が 16384 を超えてはいけません。

0 が指定された場合は、以下のようになります。

- 通常データがデータベース管理記憶表スペースに存在する表の場合は、表スペースに対して、デフォルト・バッファ・サイズが、表スペースのエクステント・サイズまたは 8 の大きい方になります。
- 通常データがシステム管理ストレージ表スペースに存在する表の場合は、デフォルト・バッファ・サイズが 8 になります。

ユーザーの処置: 有効なバッファ・サイズを指定して、コマンドを再発行してください。

SQL3706N “<path/file>” で、ディスク・フル・エラーが起きました。

説明: データベース・ユーティリティの処理中に、ディスク・フル・エラーが起きました。ユーティリティは停止します。

ユーザーの処置: ユーティリティで使用可能な十分なディスク・スペースがあることを確認するか、または出力をテープなどの別のメディアに変更してください。

SQL3707N "`<size1>`" を指定した `sort memory size` パラメーターが無効です。最小許容値は "`<size2>`" です。

説明: ソート・メモリー・サイズが、索引のキーのソートに十分な大きさではありません。

ユーザーの処置: 有効なソート・メモリー・サイズを指定して、コマンドを再発行してください。

最小ストレージ容量のみを使用させるには、0 (これをデフォルトにします) を指定してください。ただし、最小値以上を使用すると、ソートのパフォーマンスに影響を与えます。

SQL3783N コピー位置ファイルのオープン中に、エラーが起きました。ファイルのオープンのエラー・コードは "`<errcode>`" です。

説明: ロード・リカバリーでコピー位置ファイルのオープン中に、エラーが起きました。オペレーティング・システムのファイルのオープンの戻りコードが返されます。

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージのエラー・コードを調べてください。可能であれば、エラーを修正して、コマンドを再発行してください。

SQL3784W コピー位置ファイルからの読み取り中に、エラーが見つかりました。行 "`<line-no>`" で、エラー・タイプ "`<errtype>`" の障害が起きました。

説明: ロード・リカバリーでコピー位置ファイルの読み取り中に、無効なデータが見つかりました。行番号とエラー・タイプが返されます。ユーティリティーは、続行の応答を待ちます。

ユーザーの処置: コピー位置ファイルのデータを訂正して、処理を継続または終了するべきであることを示す正しい caller action パラメーターを指定して、ユーティリティーに戻ってください。

SQL3785N 追加情報 "`<additional-info>`" をともなうエラー "`<sqlcode>`" のために、表 "`<schema.tablename>`" のロード・リカバリーがノード "`<node-number>`" の "`<timestamp>`" に失敗しました。

説明: ロード・リカバリー中に、重大エラーが起きました。ユーティリティーは処理を停止します。

(注: 区分データベース・サーバーを使用している場合、ノード番号は、エラーを起こしているノードを示しています。そうでない場合、これは関係のないものなので無視してください。)

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージのエラー・コードを調べてください。リカバリー処置を取った後で、コマンドを再発行してください。

SQL3798W ロールフォワード・リカバリー API を呼び出してロード・リカバリーを継続するためのパラメーター "`<parameter>`" に、無効な値が使用されています。

説明: ロード・リカバリーが進行中に、渡されたパラメーターのいずれかが、ロード・リカバリーの現在の状態には無効でした。

ユーザーの処置: エラーの値を訂正して、処理を継続または終了するべきかを示す正しい caller action パラメーターを指定して、ユーティリティーに戻ってください。

SQL3799W 追加情報 “<additional-info>” をともなう警告 “<sqlcode>” のために、表 “<schema.tablename>” のロード・リカバリーがノード “<node-number>” の “<timestamp>” に保留になっています。

説明: ロード・リカバリー中に、警告状態が見つかりました。ユーティリティは、続行の応答を待ちます。

SQL3800 - SQL3899

SQL3802N 無効な静止モード “<quiesce-mode>” が見つかりました。

説明: 無効な静止モードが quiesce API に渡されました。

ユーザーの処置: 正しいパラメーターを使用して、コマンドを再発行してください。

SQL3804N 索引が無効です。

説明: ユーティリティ・コマンドの処理中に、無効な索引が見つかりました。

ユーザーの処置: 管理の手引きを調べて、索引をもう一度妥当性検査する適切な方法を決め、状態を修復した後でコマンドを再発行してください。

SQL3805N アプリケーション、または指定された表の 1 つ以上の表スペースの状態が、loadapi アクションまたは quiescemode “<action>” を禁止しています。理由コード = “<reason-code>”

説明: load API に渡された loadapi アクション (quiescemode または callerac) が、アプリケーションの状態、または表の 1 つ以上の表スペースの状態と矛盾しています。

(注：区分データベース・サーバーを使用している場合、ノード番号は、エラーを起こしているノードを示しています。そうでない場合、これは関係のないものなので無視してください。)

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージのエラー・コードを調べてください。リカバリー処置を取った後で、処理を継続または終了するべきかを示す正しい caller action パラメーターを指定して、ユーティリティに戻ってください。

理由コードは以下の通りです。

- 01** 指定された表の 1 つ以上の表スペースが、loadapi アクションまたは quiescemode を禁止しています。
- 02** アプリケーションが、論理作業単位の開始になっていません。この状態は、指定された load アクションを禁止します。
- 03** アプリケーションの状態が、指定された load アクションを禁止しています。
- 04** 表の 1 つ以上の表スペースが、静止状態の最大数によって、すでに静止されています。
- 05** システム・カタログ表スペースを静止することができません。
- 06** 表スペースがバックアップ・ペンディング状態の時には、コピーのロードは許可されません。
- 07** 不正なフェーズでロードを再始動しようとしました。

ユーザーの処置: 上記のそれぞれの理由に対応して、以下を行ってください。

- 01** 正しい loadapi アクションまたは quiescemode を使用してコマンドを再発行するか、または表の表スペースの状態を修正してください。
- 02** 正しい load アクションでコマンドを再

発行するか、COMMIT または ROLLBACK のいずれかを発行して現行の作業単位を完了してください。

- 03 正しいロード・アクションを使用して、コマンドを再発行してください。
- 04 静止状態の最大数に達している表の表スペースを判別してください。これらの表スペースを QUIESCE RESET してください。
- 05 システム・カタログ表スペースに存在しない表を指定して、コマンドを再発行してください。
- 06 copy パラメーターを除去して、コマンドを再発行してください。

SQL3900 - SQL3999

SQL3901N 重大ではないシステム・エラーが発生しました。理由コード “<reason-code>”。

説明: 重大ではないシステム・エラーのために、処理が終了しました。

ユーザーの処置: トレースが活動状態の場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから、独立トレース機能呼び出ししてください。この機能の使用法については、*問題判別の手引き* の独立トレース機能を参照してください。以下の情報を用意して、技術サービス担当者に提供してください。

- 問題記述
- SQLCODE および組み込み理由コード
- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

- 07 ロードが再始動するフェーズを判別して正しいフェーズでコマンドを再発行してください。

SQL3806N 表の制約のすべてが、ロードされる表に対してオフになっているわけではありません。

説明: load API が呼び出されたときに、ロードされる表に対する 1 つ以上の制約がオンになっていました。

ユーザーの処置: すべての表コンテナがオフになった後で、コマンドを再発行してください。

SQL3902C システム・エラーが発生しました。これ以上の処理を行うことはできません。理由コード = “<reason-code>”

説明: システム・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: トレースが活動状態の場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから、独立トレース機能呼び出ししてください。この機能の使用法については、*問題判別の手引き* の独立トレース機能を参照してください。以下の情報を用意して、技術サービス担当者に提供してください。

- 問題記述
- SQLCODE および組み込み理由コード
- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

SQL3910I 同期セッションが正常に完了しました。

説明:

ユーザーの処置:

SQL3911I テスト同期セッションが正常に完了しました。

説明:

ユーザーの処置:

SQL3912I **STOP** が正常に完了しました。

説明:

ユーザーの処置:

SQL3913I **STOP** を発行しましたが、現在活動状態の同期セッションはありません。

説明:

ユーザーの処置:

SQL3914I ユーザー割り込みが行われました。同期セッションは正常に停止しました。

説明:

ユーザーの処置:

SQL3915I 結果がサテライト制御サーバーにアップロードされる前にユーザー割り込みが行われました。結果は、次の同期セッション時にアップロードされます。

説明:

ユーザーの処置:

SQL3916I **STOP** 要求を受け取りました。同期セッションは正常に停止しました。

説明:

ユーザーの処置:

SQL3917I 結果がサテライト制御サーバーにアップロードされる前に **STOP** 要求を受け取りました。結果は、次の同期セッション時にアップロードされます。

説明:

ユーザーの処置:

SQL3918I 同期進行情報を正常に取得しました。

説明:

ユーザーの処置:

SQL3919I サテライトがサテライト制御サーバーに接触する前に **STOP** 要求を受け取りました。同期は正常に停止しました。

説明:

ユーザーの処置:

SQL3920I このサテライトのアプリケーション・バージョンは、このサテライトのグループで使用可能なものと一致しません。同期を行うことはできません。

説明: サテライトによって報告されたアプリケーション・バージョンが、サテライト制御サーバーに存在しません。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3921I このサテライトは、サテライト制御サーバーで使用不可になっています。同期を行うことはできません。

説明: 使用不可のとき、サテライトは同期を行うことができません。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム

管理者に連絡してください。

SQL3930W 実行する同期スクリプトがありません。

説明: 同期スクリプトは、実行のためサテライトにダウンロードされませんでした。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡して、同期スクリプトがこのサテライトのためのサテライト制御データベースで使用可能であることを確認してください。

SQL3931W テスト同期セッションが正常に完了しました。ただし、サテライト ID をサテライト・コントロール・データベースで見つけられませんでした。

説明: サテライト ID がサテライトで正しく定義されていないか、このサテライトがサテライト制御データベースに定義されていません。

ユーザーの処置: DB2SATELLITEID レジストリ変数を使用する場合は、サテライトの固有の ID に設定されていることを確認してください。オペレーティング・システム・ログオン ID をサテライト ID として使用している場合、それを使ってログオンしてください。

SQL3932W テスト同期セッションが正常に完了しました。ただし、サテライトのアプリケーション・バージョンがローカルで設定されていないか、このサテライトのグループのものがサテライト制御サーバーに存在しません。

説明: サテライトのアプリケーション・バージョンが、このサテライトのグループで使用可能なものとは異なります。

ユーザーの処置: サテライトのアプリケーション・バージョンが正しい値に設定されていることを確認してください。

SQL3933W テスト同期セッションが正常に完了しました。ただし、サテライトのリリース・レベルは、サテライト制御サーバーのリリース・レベルにサポートされていません。

説明: サテライトのリリース・レベルは、サテライト制御サーバーのレベルの 1 つ上から 2 つ下までの範囲内でなければなりません。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3934W テスト同期セッションが正常に完了しました。ただし、このサテライトはサテライト制御サーバーで使用不可になっています。

説明: サテライトは、サテライト制御サーバーで使用不可の状態に置かれています。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3935W テスト同期セッションが正常に完了しました。ただし、このサテライトはサテライト制御サーバーで障害状態になっています。

説明: サテライトが制御サーバーで障害状態になっています。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3936W 進行情報がありません。

説明: 同期セッションが、進行情報が記録される段階に達していないか、このサテライトのための活動状態の同期セッションがありません。

ユーザーの処置: 同期セッションが活動状態であることを確認するか、後で進行情報を照会してください。

SQL3937W このサテライトのアプリケーション・バージョンが、このサテライトのグループで使用可能なものと一致しません。

説明: サテライトは、そのグループの特定のアプリケーション・バージョンとのみ同期を行うことができます。このサテライトのアプリケーション・バージョンは、制御サーバーでサテライトのグループのために使用できません。

ユーザーの処置: サテライトのアプリケーション・バージョンが正しい値に設定されていることを確認してください。

SQL3938W スクリプトの実行中に割り込みが行われました。同期セッションは停止しましたが、サテライトが不整合状態にある可能性があります。

説明: 同期化処理のスクリプト実行フェーズが実行されているときに、割り込みが行われました。同期セッションは停止しましたが、スクリプトが不適切な場所で停止された可能性があるため、不整合状態になっている場合があります。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3942I 同期セッション ID がサテライト用に正しく設定されました。

説明: セッション ID がサテライト用に正しく設定されました。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL3943N 同期セッション ID が、最大長である “<length>” 文字を超えています。

説明: 指定された同期セッション ID が、許可されている最大長 “<length>” 文字よりも長くなっています。

ユーザーの処置: ID が nnn 文字を超えないことを確認してください。

SQL3944I サテライトの同期セッション ID が正しくリセットされました。

説明: サテライトのセッション ID が正しくリセットされました。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL3945I サテライトの同期セッション ID が正しく検索されました。

説明: このサテライトのセッション ID が正しく検索され、返されました。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL3946N 同期セッション ID 操作が失敗しました。

説明: 同期セッション ID 操作が不明な理由で失敗しました。

ユーザーの処置: 製品が正しくインストールされていることを確認してください。問題が解決しない場合、DB2 サービスに連絡してください。

SQL3950N 同期セッションが活動状態になっています。活動状態にできる同期セッションは 1 つだけです。

説明: 一度に活動状態にできる同期セッションは 1 つだけです。

ユーザーの処置: 現在の同期セッションが正常に完了するのを待ってから、別のセッションを開始してください。

SQL3951N サテライト ID がローカルで見つかりません。

説明: オペレーティング・システム・ログオンが行われなかったか、または DB2SATELLITEID レジストリー変数が設定されていません。

ユーザーの処置: オペレーティング・システム・ログオン ID をサテライト ID として使用している場合、オペレーティング・システムにログオンしてください。DB2SATELLITEID レジストリー変数を使用する場合は、サテライトの固有の ID に設定されていることを確認してください。

SQL3952N サテライト ID をサテライト制御サーバーで見つけることができませんでした。

説明: サテライト ID がこのサテライトで正しく定義されていないか、このサテライトがサテライト制御サーバーで定義されていません。

ユーザーの処置: DB2SATELLITEID レジストリー変数を使用する場合は、サテライトの固有の ID に設定されていることを確認してください。オペレーティング・システム・ログオン ID をサテライト ID として使用している場合、それを使ってログオンしてください。それ以外の場合は、ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3953N このサテライトは、サテライト制御サーバーで使用不可になっています。

説明: サテライト ID がサテライト制御サーバーで使用不可になっています。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3954N このサテライトは、サテライト制御サーバーで障害状態になっています。

説明: 直前の同期セッションが失敗したため、サテライトが障害状態になっています。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3955N サテライト制御データベース名の別名が見つかりませんでした。

説明: サテライト制御データベースが正しくカタログされていません。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3956N このサテライトのアプリケーション・バージョンがローカルで定義されていません。

説明: アプリケーション・バージョンがこのサテライトでローカルに定義されていないか、または正しく定義されていません。

ユーザーの処置: アプリケーション・バージョンが正しい値に設定されていることを確認してください。

SQL3957N 通信障害のため、サテライト制御サーバーに接続できません:
SQLCODE="`<sqlcode>`"、
SQLSTATE="`<sqlstate>`"、
tokens="`<token1>`"、
"`<token2>`"、"`<token3>`"

説明: 通信サブシステムによって、エラーが見つけられました。詳細については、“`<sqlcode>`”を参照してください。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3958N 同期セッション時にエラーが起きました: **SQLCODE**="`<sqlcode>`"、
SQLSTATE="`<sqlstate>`"、
tokens="`<token1>`"、
"`<token2>`"、"`<token3>`"

説明: 通信サブシステムが不明なエラーを見つけました。詳細については、“`<sqlcode>`”を参照してください。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム

管理者に連絡してください。

SQL3959N 通信障害のため、同期セッションを開始できません:
SQLCODE=“<sqlcode>”、
SQLSTATE=“<sqlstate>”、
tokens=“<token1>”、
“<token2>”、 “<token3>”

説明: 通信サブシステムによって、エラーが見つけられました。詳細については、“<sqlcode>”を参照してください。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3960N 通信障害のため、サテライト制御サーバーに結果をアップロードできません: **SQLCODE**=“<sqlcode>”、
SQLSTATE=“<sqlstate>”、
tokens=“<token1>”、
“<token2>”、 “<token3>”

説明: 通信サブシステムによって、エラーが見つけられました。詳細については、“<sqlcode>”を参照してください。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3961N サテライト制御サーバーで認証を受けられません。

説明: サテライト制御データベースに接続中、認証エラーが見つかりました。

ユーザーの処置: サテライト制御データベースに接続するときに必要なリモート管理ユーザー ID またはパスワード、あるいはその両方が正しくありません。正しいユーザー ID およびパスワードを指定するか、ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3962N データベース・エラーのため、同期を開始できませんでした:
SQLCODE=“<sqlcode>”、
SQLSTATE=“<sqlstate>”、
tokens=“<token1>”、
“<token2>”、 “<token3>”

説明: サテライト制御サーバーで、同期を妨げるエラーが起きました。

ユーザーの処置: もう一度同期を行ってください。問題が解決しない場合、ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3963N データベース・エラーのため、結果をアップロードできません:
SQLCODE=“<sqlcode>”、
SQLSTATE=“<sqlstate>”、
tokens=“<token1>”、
“<token2>”、 “<token3>”

説明: サテライト制御サーバーに結果をアップロード中、エラーが起きました。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3964N サテライトのリリース・レベルがサテライト制御サーバーにサポートされていないため、同期が失敗しました。

説明: サテライトのリリース・レベルは、サテライト制御サーバーのレベルの 1 つ上から 2 つ下までの範囲内でなければなりません。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3965N サテライト制御サーバー障害のため、同期スクリプトをダウンロードできません。
SQLCODE="`<sqlcode>`"、
SQLSTATE="`<sqlstate>`"、
tokens="`<token1>`"、
`<token2>`"、"`<token3>`"

説明: サテライトが、サテライトとの同期に必要なスクリプトをダウンロードできません。この障害で考えられる原因の 1 つは、サテライトの属性を持つパラメーター化されたスクリプトを制御サーバーがインスタンス化できないことです。もう 1 つの原因として、リソース制約のため、サテライト制御サーバーが一時的に要求を完了できなかったことが考えられます。

ユーザーの処置: 要求を再度試行してください。問題が解決しない場合、ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3966N 同期セッションが失敗しました。理由コード "`<reason-code>`"。

説明: 同期セッションは、以下のいずれかの理由で完了できませんでした。

- (01) 認証情報がない。
- (02) 同期に必要ないくつかのスクリプトがない。
- (03) システム・ファイルがないか、または壊れている。
- (04) システム・エラーのため、スクリプトを実行できなかった。

ユーザーの処置: 要求を再度試行してください。問題が解決しない場合、ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3967N 進行情報が見つかりません。

説明: このサテライトの同期セッションの進行を調べることができません。データが壊れている

か、または存在しません。

ユーザーの処置: 同期セッションが活動状態で、進行情報がない場合、ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3968N スクリプト障害のため、同期を正しく完了できませんでした。ただし、実行の結果はサテライト制御サーバーに送られました。

説明: 同期スクリプトの 1 つが、実行中に失敗しました。戻りコードが定義された成功コード・セット内にはないか、またはスクリプトの実行に失敗しました。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3969N スクリプト実行中に割り込みを受け取ったため、同期が失敗しました。

説明: 割り込みを受け取ると、スクリプト実行は失敗します。システムが不整合状態にあると思われるため、このタイプの異常終了によって同期セッションは失敗します。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL3970N 同期セッションが **SQLCODE** "`<sqlcode>`" **SQLSTATE** "`<sqlstate>`" で失敗しました。このエラーはロケーション "`<location>`" で見つかりました。

説明: 不明なエラーのため、スクリプト実行が失敗しました。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SQL4000 - SQL4099

SQL4001N “<line>” 行目の “<column>” 列目の文字 “<character>” が無効です。

説明: 指定された文字は、SQL ステートメントでは有効な文字ではありません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 無効な文字を取り除くか、または置き換えてください。

SQL4002N “<token 1>” および “<token 2>” は未定義のホスト変数で、どちらも単一 SQL ステートメント内では記述子名として使用できません。

説明: 示された ID はホスト変数として宣言されていません。記述子名が使用前に宣言されていません。単一ステートメント内の複数の記述子名が無効なので、少なくともホスト変数の 1 つが無効です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメント内の記述子名または未宣言のホスト変数の使用を修正してください。ステートメントには、他の未宣言のホスト変数が入っている可能性があります。

SQL4003N “<line>” 行目の SQL ステートメントは、現在のバージョンのプリコンパイラーではサポートされていません。

説明: プリコンパイラーのリリース番号とデータベース・マネージャーのインストールされたバージョンが互換性がありません。指定されたステートメントはデータベース・マネージャーでサポートされていますが、プリコンパイラーでサポートされていません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 現行バージョンのプリコンパイ

ラーを使用して、プリコンパイル・プロセスを繰り返してください。

SQL4004N パッケージ名が無効です。

説明: パッケージ名に、無効な文字が入っています。名前が長すぎるか、または PACKAGE オプションを持つ名前が指定されていません。

パッケージは作成されません。

ユーザーの処置: 有効なパッケージ名を指定するか、または PACKAGE オプションを指定しないで、コマンドを再発行してください。

SQL4005N “<line>” 行目の位置 “<position>” で、無効なトークン “<token>” が見つかりました。

説明: SQL ステートメントの構文エラーが、指定されたトークン “<token>” で見つかりました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメント、特に示されたトークンの周辺を調べてください。構文を修正してください。

SQL4006N 構造のネストが深過ぎます。

説明: ネスト構造の数が、最大値 25 を超えています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ネスト構造の数を減らしてください。

SQL4007N ホスト構造 “<host-structure>” にフィールドがありません。

説明: ホスト構造 “<host-structure>” 内にはフィールドがありません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ホスト構造にフィールドを追加してください。

SQL4008N 完全修飾であっても、ホスト変数“<name>”を固有に参照できません。

説明: 完全修飾であっても、ホスト変数“<name>”が少なくとも 1 つの別の非修飾または部分修飾ホスト変数と一致しません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ホスト変数を名前変更してください。

SQL4009N データ長の式が無効です。

説明: データ長の式に構文エラーがあるか、または複雑すぎます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: サイズ式の構文を検査してください。

SQL4010N 複合 SQL ステートメントに不正なネストがあります。

説明: このエラーは、複合 SQL ステートメントのサブステートメントとして、BEGIN COMPOUND 文節が見つかった場合に返されません。

ユーザーの処置: ネストした BEGIN COMPOUND なしで、ステートメントの再実行依頼を行ってください。

SQL4011N 複合 SQL ステートメントに、無効な SQL サブステートメントがあります。

説明: このエラーは、複合 SQL ステートメントで、無効なサブステートメントが見つかったときに返されます。有効なステートメントは、以下のとおりです。

- ALTER TABLE

- COMMENT ON
- CREATE INDEX
- CREATE TABLE
- CREATE VIEW
- 位置付けられた DELETE
- 検索済み DELETE
- DROP
- GRANT
- INSERT
- LOCK TABLE
- REVOKE
- SELECT INTO
- 位置付けられた UPDATE
- 検索済み UPDATE
- COMMIT; 最後のサブステートメントとして指定された場合のみ
- RELEASE TO SAVEPOINT; 非自動複合 SQL の場合のみ
- ROLLBACK TO SAVEPOINT; 非自動複合 SQL の場合のみ
- SAVEPOINT; 非自動複合 SQL の場合のみ

ユーザーの処置: 無効なサブステートメントなしで、プリコンパイルの再実行依頼を行ってください。

SQL4012N 複合 SQL ステートメントで、COMMIT の使用法が無効です。

説明: このエラーは、COMPOUND SQL ステートメントの COMMIT の後に、サブステートメントが見つかったときに返されます。

ユーザーの処置: COMMIT サブステートメントを最後のサブステートメントにして、プリコンパイルの再実行依頼を行ってください。

SQL4013N 対応する **BEGIN COMPOUND** ステートメントのない **END COMPOUND** ステートメントが見つかりました。

説明: このエラーは、先行する **BEGIN COMPOUND** のない **END COMPOUND** ステートメントが見つかったときに戻されます。

ユーザーの処置: **END COMPOUND** を取り除くか、または **BEGIN COMPOUND** を追加して、プリコンパイルの再実行依頼を行ってください。

SQL4014N **SQL** 複合構文が正しくない。

説明: このエラーは、複合 **SQL** ステートメントに構文エラーが入っている時に戻されます。考えられる理由には、以下があります。

- **END COMPOUND** が脱落しています。
- サブステートメントの 1 つが空です (ゼロ長またはブランク)。

ユーザーの処置: 構文エラーを修正して、プリコンパイルをやり直してください。

SQL4015N プリプロセッサでエラーが起きました。

説明: 外部プリプロセッサが、1 つまたは複数のエラーで終了しました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 詳細については、対応するソース・ファイルの “.err” ファイルを参照してください。

SQL4016N 指定されたプリプロセッサが見つかりません。

説明: **PREPROCESSOR** オプションで指定されたプリプロセッサが見つかりません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: プリプロセッサを現在のディレクトリーから実行できることを確認し、

PREPROCESSOR オプションの構文も検査してください。

SQL4017W プリプロセッサが正しく完了しました。

説明: **PREPROCESSOR** オプションで指定した外部コマンドを使用して、入力ファイルのプリプロセッサを正常に完了しました。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL4018W プリプロセッサ済みファイル “<preprocessed-file>” の処理を開始しています。

説明: プリコンパイラーは現在、プリプロセッサ済みファイルを処理しています。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL4019W プリプロセッサ済みファイル “<preprocessed-file>” の処理を完了しました。

説明: プリコンパイラーが、プリプロセッサ済みファイルの処理を完了しました。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL4020N 'long' ホスト変数 “<token 1>” が無効です。代わりに 'sqlint32' を使用してください。

説明: プリコンパイル・オプション **LONGERROR YES** が有効か、あるいはプリコンパイル・オプション **LONGERROR** が指定されておらず、プラットフォームに 8 バイトの 'long' がある場合、**INTEGER** ホスト変数はデータ・タイプ 'long' ではなく 'sqlint32' で宣言されていなければなりません。

8 バイトの 'long' タイプを持つ 64 ビット・プラットフォームでは、'long' ホスト変数が **BIGINT** データ・タイプに使用されるよう指定するために **LONGERROR NO** を使用することができます。

マイグレーション性を最大にするには、INTEGER および BIGINT データ・タイプには、それぞれ 'sqlint32' と 'sqlint64' を使用するようお勧めします。

SQL4100 - SQL4199

SQL4100I “<sqlflag-type>” SQL 言語構文が、標識機能によってチェックされる構文に使用されています。

説明: プリコンパイラー・チェックを渡す SQL ステートメントは、示された構文に対する標識機能によるチェックを受けます。構文の逸脱がある場合は、ステートメントに対する警告メッセージが出されます。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: ありません。これは単なる情報メッセージです。

SQL4102W テキスト “<text>” で始まるトークンで、SQL 構文の逸脱が起きました。

説明: SQLFLAG プリコンパイラー・オプションに指定された SQL 言語構文から、標識機能が逸脱を見つけました。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4103W データ定義ステートメント (DD ステートメント) が CREATE SCHEMA ステートメント内にありません。

説明: FIPS 標準は CREATE SCHEMA ステートメント内に入っているすべてのデータ定義ステートメント (DD ステートメント) が必要です。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

ユーザーの処置: ホスト変数の現行のデータ・タイプを、メッセージに指定されたデータ・タイプと置き換えてください。

SQL4104W 非標準組み込み注釈があります。

説明: SQL ステートメントの組み込み注釈が、フラグが付けられる標準の必要性に合致していません。この注釈が、少なくとも 2 つの連続したハイフンから始まっていません。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4105W SQL 構文の逸脱が発生しました。このステートメントは完了していません。

説明: この SQL ステートメントはすべての必須エレメントが検索される前に終了していました。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4106W ID “<identifier>” が 18 文字以上あります。

説明: 許可 ID、表 ID、列名、相関名、モジュール名、カーソル名、手続き名、またはパラメータ一名が 18 文字以上の長さがあります。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4107W 列 “<column>” に無効な長さ、精度、または位取り属性があります。

説明: 以下のいずれかの条件に一致していません。

- 長さの値はゼロ以上の必要があります。
- 精度の値はゼロ以上の必要があります。
- 位取りの値は精度の値より大きくなってはいけません。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4108W 標識変数に正確な数値以外のデータ・タイプまたは、非ゼロの位取りがあります。

説明: 標識変数のデータ・タイプはゼロの位取りを伴う正確な数値である必要があります。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4109W SET FUNCTION SPECIFICATION は列 “<column>” を参照します。

説明: 以下のいずれかの条件に一致していません。

- DISTINCT SET FUNCTION の COLUMN REFERENCE は、SET FUNCTION SPECIFICATION から派生した列を参照しません。
- ALL SET FUNCTION の VALUE EXPRESSION 内の COLUMN REFERENCES は、SET FUNCTION SPECIFICATION から派生した列を参照できません。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4110W “<column>” が入っている VALUE EXPRESSION は、演算子を含むことはできません。

説明: VALUE EXPRESSION は OUTER REFERENCE COLUMN REFERENCE に演算子を含むことはできません。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4111W COLUMN REFERENCE がなくなっているか、ALL 列関数 “<function>” に対し無効です。

説明: ALL SET FUNCTION SPECIFICATION の VALUE EXPRESSION を COLUMN REFERENCE に組み込む必要があります。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4112W 列 “<column>” が固有または必須修飾ではありません。

説明: 指定された列は、現行スコープ内で固有ではありません。修飾は必須列を固有に識別するために提供されなくてはなりません。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4113W VALUE EXPRESSION に SET FUNCTION SPECIFICATION が入っていない可能性があります。

説明: ALL SET FUNCTION の VALUE EXPRESSION に SET FUNCTION SPECIFICATION が入っていない可能性があります。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4114W 列 “<column>” は現行スコープ内の表の列を識別しません。

説明: 以下のいずれかの条件に一致していません。

- 修飾子として使用される表または相関名が存在しません。
- 列名が現行スコープまたは修飾子のスコープ内に存在しません。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4115W 外部参照された列 “<column>” が入っている列関数は、HAVING 文節の副照会内にありません。

説明: 列関数は、OUTER REFERENCE COLUMN REFERENCE が入っている場合、HAVING 文節の副照会内に入っていないとはなりません。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4116W SUM または AVG 関数の結果は文字ストリングであることはできません。

説明: 文字ストリングは、SET FUNCTION SPECIFICATION の SUM または AVG の結果に対して無効です。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4117W 演算子 “<operator>” はこのコンテキストでは無効です。

説明: 以下のいずれかの条件に一致していません。

- DISTINCT SET FUNCTION が入っている VALUE EXPRESSION は 2 項演算子を含むことはできません。
- 単項演算子に続く最初の文字は、正または負符号であることはできません。
- 1 次が文字ストリング・タイプの場合、VALUE EXPRESSION が演算子を含まないようにしてください。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4118W “<exptype>” EXPRESSION は非互換データ・タイプと比較していません。

説明: 次のデータ・タイプのいずれかが一致していません (exptype によって識別される)。

- exptype = COMPARISON - 比較演算子は一致してはなりません
- exptype = BETWEEN - 3 つの VALUE EXPRESSION が一致してはなりません
- exptype = IN - VALUE EXPRESSION、副照会およびすべての VALUE SPECIFICATION が一致してはなりません
- exptype = QUANTIFIED - VALUE EXPRESSION および副照会が一致してはなりません

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4119W LIKE 述部のオペランドが文字スト
リングではありません。

説明: 以下のいずれかの条件に一致していません。

- LIKE 述部の列のデータ・タイプが文字スト
リングではありません
- LIKE 述部のパターンのデータ・タイプが文字
ストリングではありません

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正し
てください。

SQL4120W ESCAPE 文字は、単一文字でなけ
ればなりません。

説明: LIKE 述部の ESCAPE 文字は長さ 1 を伴
う文字ストリングのデータ・タイプを持っている
必要があります。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正し
てください。

SQL4121W WHERE 文節、**GROUP BY** 文
節、または **HAVING** 文節は、グル
ープ化された視点
“<schema-name>”.“<view>”に対
しては無効です。

説明: FROM 文節の識別された表が GROUP 視
点の場合、TABLE EXPRESSION には WHERE
文節、GROUP BY 文節、または HAVING 文節
が含まれないようにしてください。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正し
てください。

SQL4122W “<schema-name>”.<name>” は、
FROM 文節に複数回出現します。

説明: 以下のいずれかの条件に一致していま
せん。

- 表名は、FROM 文節で複数回発生します。
- 相関名は表名または FROM 文節の相関名と同
一です。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正し
てください。

SQL4123W 1 つの表参照のみが **GROUP** 視点
の **FROM** 文節で許可されていま
す。

説明: 表名によって識別された表が GROUP 視
点の場合、FROM 文節は確実に1つの表参照が入
っていないてはなりません。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正し
てください。

SQL4124W 列関数から派生した列
“<column>”の参照は、**WHERE**
文節内で無効です。

説明: WHERE 文節の SEARCH CONDITION に
直接入っている VALUE EXPRESSION は、列関
数から派生した列への参照を含んではいけませ
ん。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正し
てください。

SQL4125W WHERE 文節に列関数があるとき、HAVING 文節に WHERE 文節が入っていないとはなりません。

説明: SEARCH CONDITION に直接入っている VALUE EXPRESSION が列関数の場合、WHERE 文節は HAVING 文節に入っていないとはなりません。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4126W “<column>” の COLUMN REFERENCE は OUTER REFERENCE でなくてはなりません。

説明: SEARCH CONDITION に直接入っている VALUE EXPRESSION が関数の場合、列関数式内の COLUMN REFERENCE は OUTER REFERENCE でなくてはなりません。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4127W 列 “<column>” は現行スコープ内で重複しています。

説明: 指定された列が現行スコープ内で重複しています。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4128W “<column name>” の COLUMN REFERENCE はグループ化列または列関数内で指定されたものでなくてはなりません。

説明: HAVING 文節の SEARCH CONDITION 内の副照会に入っている各 COLUMN

REFERENCE は、GROUP 化列を参照するか列関数で指定されなくてはなりません。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4129W 表 “<schema-name>”.“<table>” の DEGREE は、* の SELECT LIST を使用中は 1 である必要があります。

説明: TABLE EXPRESSION の DEGREE は、* の SELECT LIST が EXISTS 述部以外で指定されている場合は 1 でなくてはなりません。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4130W この列関数は、表 “<schema-name>”.“<table>” で始まる TABLE EXPRESSION に対し無効です。

説明: 以下のいずれかの条件に一致していません。

- TABLE EXPRESSION が GROUP 視点の場合、副照会の SELECT LIST は SET FUNCTION SPECIFICATION を含むことができません。
- TABLE EXPRESSION が GROUP 視点の場合、QUERY SPECIFICATION の SELECT LIST は column function を含むことができません。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4131W “<column>” の COLUMN REFERENCE が無効です。

説明: 以下のいずれかの条件に一致していません。

- GROUP 表の場合、COLUMN REFERENCE は GROUP 列を参照または SET FUNCTION SPECIFICATION 内で指定されなくてはなりません。
- GROUP 表および SET FUNCTION SPECIFICATION の入った VALUE EXPRESSION の場合、各 COLUMN REFERENCE を SET FUNCTION SPECIFICATION で指定しなくてはなりません。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4132W DISTINCT が 2 回以上指定されています。

説明: 以下のいずれかの条件に一致していません。

- QUERY SPECIFICATION の副照会を除外するのに、DISTINCT を QUERY SPECIFICATION で複数回指定してはいけません。
- その副照会に入っているほかの副照会を除外するのに、DISTINCT を副照会で複数回指定してはいけません。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4133W COMPARISON PREDICATE 副照会は GROUP BY または HAVING 文節を含むことはできません。

説明: 副照会が COMPARISON PREDICATE で指定される場合、FROM 文節の TABLE EXPRESSION が GROUP BY または HAVING 文節を含んでいない表名を識別します。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4134W COMPARISON PREDICATE 副照会は GROUP 視点を識別できません。

説明: 副照会が COMPARISON PREDICATE で指定される場合、FROM 文節の TABLE EXPRESSION が GROUP 視点を含んでいない表名を識別します。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4135W AUTHORIZATION IDENTIFIER “<authid>” が無効です。

説明: 表名に接頭部として付ける AUTHORIZATION IDENTIFIER が無効です。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4136W 表または視点 “<schema-name>”.“<name>” はすでに存在しています。

説明: 指定された表名または視点名はすでにこのカタログ内に存在しています。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4137W COLUMN DEFINITION がありません。

説明: 少なくとも 1 つは COLUMN DEFINITION が CREATE TABLE に対して指定される必要があります。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4138W ターゲットのデータ・タイプ “<type1>” は、ソースのデータ・タイプ “<type2>” に互換性がありません。

説明: データ・タイプは一致する必要があります。

- FETCH ステートメントで、ソースおよびターゲット間のデータ・タイプ。
- SELECT ステートメントで、ソースおよびターゲット間のデータ・タイプ。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4139I “<schema-name>.”<table>” に対して VIEW COLUMN LIST を指定しなくてはなりません。

説明: QUERY SPECIFICATION によって指定された表のほかの 2 つの列が同じ列名を持っている場合、または表の列に命名されていない列がある場合、VIEW COLUMN LIST を指定しなくてはなりません。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4140W 標識機能を停止させるエラーが起きました。モジュール名 = “<module-name>”。内部エラー・コード = “<error code>”。

説明: 標識機能が内部エラーを見つけました。構文に、bindfile または package オプションも指定されている場合は、処理は継続されますが、標識機能の処理は続けられません。その他の場合は、処理が続けられます。

ユーザーの処置: メッセージ内のこのメッセージ番号 (SQLCODE)、モジュール名、およびエラー・コードを記録してください。技術サービス担当者に連絡し、記録した情報を提供してください。

SQL4141W モジュール “<module name>” でメッセージ “<message number>” の作成を試行中にエラーが発生しました。

説明: FLAGGER は未定義メッセージの作成を試行していました。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: メッセージ内のこのメッセージ番号 (SQLCODE)、モジュール名、およびエラー・コードを記録してください。技術サービス担当者に連絡し、記録した情報を提供してください。

SQL4142W 標識機能の操作に十分なメモリーがありません。内部エラー・コード = “<error code>”。

説明: 標識機能の処理に十分なメモリーがありません。構文に、bindfile または package オプションも指定されている場合は、処理は継続されますが、標識機能の処理は続けられません。その他の場合は、処理が続けられます。

ユーザーの処置: システムに十分な実メモリーと仮想メモリーがあることを確認して、不要なバックグラウンド・プロセスを取り除いてください。

SQL4143W 標識機能のメモリーの解放時に、エラーが起きました。内部エラー・コード = "<error code>"。

説明: 標識機能が、割り振られているメモリーを解放できません。構文に、bindfile または package オプションも指定されている場合は、処理は継続されますが、標識機能の処理は続けられません。その他の場合は、処理が続けられます。

ユーザーの処置: 標識機能が必要な場合は、プリコンパイルを再始動してください。

SQL4144W モジュール "<module-name>" 内で、FLAGGER への呼び出しで内部エラーが見つかりました。内部エラー・コードは "<error code>" です。

説明: FLAGGER が内部エラーを検出しました。プリプロセスは続行しますが、FLAGGER 操作は切断されます。

ユーザーの処置: メッセージ内のこのメッセージ番号 (SQLCODE)、モジュール名、およびエラー・コードを記録してください。技術サービス担当者に連絡し、記録した情報を提供してください。

SQL4145W システム・カタログに FLAGGER がアクセス中にエラーがありました。構文のみを検査するのにフラグを付けて続行します。SQLCODE = "<nnn>" SQLERRP = "<modname>" SQLERRD = "<nnnn>" 作成者 = "<creatorname>" 表 = "<tablename>"

説明: システム・カタログに FLAGGER がアクセス中に内部エラーがありました。

標識機能を使用した構文検査のみを続行します。

ユーザーの処置: メッセージ内のこのメッセージ

番号 (SQLCODE)、モジュール名、およびエラー・コードを記録してください。技術サービス担当者に連絡し、記録した情報を提供してください。

SQL4146W セマンティクス処理の停止が原因で内部エラーが発生しました。モジュール名は "<module name>" です。内部エラー・コードは "<error code>" です。

説明: FLAGGER はセマンティクス分析ルーチンで重大な内部エラーを検出しました。

標識機能を使用した構文検査のみを続行します。

ユーザーの処置: メッセージ内のこのメッセージ番号 (SQLCODE)、モジュール名、およびエラー・コードを記録してください。技術サービス担当者に連絡し、記録した情報を提供してください。

SQL4147W 標識機能のバージョン番号が無効です。

説明: 無効な標識機能のバージョン番号が、プリコンパイラー・サービス COMPILER SQL STATEMENT API に渡されました。構文に、bindfile または package オプションも指定されている場合は、処理は継続されますが、標識機能の処理は続けられません。その他の場合は、処理が続けられます。

ユーザーの処置: 有効な標識機能のバージョン番号を指定してください。コマンド解説書を参照してください。

SQL4170W NOT NULL として列 "<column>" を宣言しなくてはなりません。

説明: UNIQUE として識別された列は、NOT NULL オプションを使用して定義されなくてはなりません。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4171W 視点表

“<schema-name>”.“<table>”は更新可能でなくてはなりません。

説明: WITH CHECK OPTION 文節が指定されている場合、視点表は更新可能でなければなりません。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4172W 列名数が無効です。

説明: VIEW COLUMN LIST の列名数は、QUERY SPECIFICATION で指定された表の DEGREE と同じものである必要があります。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4173W 使用する前に、カーソル “<cursor>” を宣言しなくてはなりません。

説明: 指定されたこのカーソルは、DECLARE CURSOR ステートメントで宣言されていません。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4174W カーソル “<cursor>” はすでに宣言されています。

説明: 指定されたカーソルは、DECLARE CURSOR ステートメント内ですでに宣言されています。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4175W * または列名のみが、このコンテキストでは有効です。

説明: UNION を指定する場合、QUERY EXPRESSION および QUERY TERM で識別された 2 つの TABLE EXPRESSION の使用に対する SELECT LIST は、* または COLUMN REFERENCE を構成する必要があります。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4176W “<schema-name1>”.“<table1>”で始まる QUERY EXPRESSION および “<schema-name2>”.“<table2>”で始まる QUERY TERM で識別され、表の記述は、同一である必要があります。

説明: UNION を指定する場合、2 つの表の記述は列名以外、同一である必要があります。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4177W SORT SPECIFICATION “<number>” はカーソル “<cursor>” の DEGREE の外側にあります。

説明: SORT SPECIFICATION が無符号の整数を含んでいる場合、0 より大きく、および表の列数より大きくなくてはなりません。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4178W 表 “<schema-name>”.“<table>” は読み取り専用の表です。

説明: DELETE、INSERT、または UPDATE は読み取り専用の表で指定されました。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4179W 表 “<schema-name>”.“<table>” は SEARCH CONDITION に含まれるほかの副照会の FROM 文節で、識別される必要はありません。

説明: DELETE または UPDATE で指定される表を、SEARCH CONDITION に入っている副照会の文節内で使用できません。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4180W 表 “<schema-name1>”.“<table1>” は DECLARE CURSOR で指定された最初の表 “<schema-name2>”.“<table2>” ではありません。

説明: DELETE または UPDATE ステートメントで指定された表は、DECLARE CURSOR ステートメントの FROM 文節で指定された最初の表である必要があります。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4181W TARGET SPECIFICATION 数は、カーソル “<cursor>” の DEGREE と一致しません。

説明: FETCH ステートメントの TARGET SPECIFICATION 数が、指定された表の DEGREE と一致しません。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4182W INSERT ステートメントのターゲット表 “<schema-name>”.“<table>” はまた、FROM 文節またはこの副照会内にもあります。

説明: 命名された表は QUERY SPECIFICATION または QUERY SPECIFICATION に含まれるほかの副照会の FROM 文節で識別されなくてはなりません。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4183W 指定された列数は、指定された値数と一致しません。

説明: INSERT ステートメントで、指定された列数が指定された値数と一致しません。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4184W 指定された列数は、表 “<schema-name>”.“<table>” で始まる QUERY SPECIFICATION の DEGREE と一致しません。

説明: INSERT ステートメントで、指定された列数が QUERY SPECIFICATION で指定された表の

DEGREE と一致しません。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4185W データ・タイプまたは長さの不一致が列 “<column>” と INSERT または UPDATE 項目の間にあります。

説明: 以下のいずれかの条件に一致していません。

- 列名のデータ・タイプが文字ストリングの場合、INSERT または UPDATE ステートメントの対応する項目は、列名の長さと同様またはそれ以下の文字ストリングである必要があります。
- 列名のデータ・タイプが絶対数の場合、INSERT または UPDATE ステートメントの対応する項目は、絶対数である必要があります。
- 列名のデータ・タイプが近似数の場合、INSERT または UPDATE ステートメントの対応する項目は、近似数である必要があります。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4186W このコンテキスト内で、GROUP BY または HAVING 文節を使用または、GROUP 視点を識別できません。

説明: SELECT ステートメントの TABLE EXPRESSION の FROM 文節で指定された表は、GROUP BY または HAVING 文節を含む必要はなく、GROUP 視点を識別する必要もありません。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4187W SELECT LIST で指定されたエレメント数は、SELECT TARGET LIST の数と一致する必要はありません。

説明: SELECT LIST ステートメントで、SELECT LIST で指定されたエレメント数は、SELECT TARGET LIST のエレメント数と一致する必要はありません。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4188W 列関数は UPDATE ステートメントの SET 文節で許可されていません。

説明: UPDATE ステートメントの SET 文節内 VALUE EXPRESSION は、列関数を含む必要はありません。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4189W NOT NULL 列 “<column>” に対して NULL を指定できません。

説明: NULL が UPDATE ステートメントの SET 文節内で指定されている場合、対応する列が null 値を許可します。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4190W 認識されないデータ・タイプのホスト変数が参照されています。ホスト変数位置は “<position>” です。

説明: 位置 “<position>” のホスト変数参照は、標準で認識されないデータ・タイプです。

処理は続行されます。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4191W 列 “<column name>” のデータ・タイプが認識されていません。

説明: 列のデータ・タイプは標準で認識されません。

処理は続行されます。

SQL4300 - SQL4399

SQL4300N このプラットフォームには Java サポートがインストールされていないか、または正しく構成されていません。

説明: Java ストアード・プロシージャーおよびユーザー定義関数に対するサポートはこのサーバー上にインストールも構成もされていません。

ユーザーの処置: サーバー用互換 Java Runtime Environment あるいは Java Development Kit がインストールされています。“jdk11_path” 構成パラメーターが正しく設定されているかどうか確認してください。

sqlcode: -4300

sqlstate: 42724

SQL4301N Java 解釈プログラムの始動あるいは通信ができません。理由コード “<reason-code>”

説明: Java インタープリターを開始、停止または通信を試行中に、エラーが発生しました。理由コードには、以下のものがあります。

- 1 Java 環境変数あるいは Java データベース構成パラメーターが無効です。
- 2 Java インタープリターに対する 固有のインターフェースは失敗しました。
- 3 “db2java.zip” ファイルが壊れているか欠落しています。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを訂正してください。

SQL4192W 表 “<schema-name>”.“<table>” はカタログ内で検索されません。

説明: 命名された表または視点は、システム・カタログ内に存在していません。

-
- 4 Java インタープリターは自身を終了し、再始動できません。

ユーザーの処置: Java データベース構成パラメーター (jdk11_path および java_heap_sz) が正しく設定されているか確認してください。サポートされる Java Runtime Environment がインストールされていることを確認してください。内部 DB2 クラス (COM.ibm.db2) がユーザー・クラスで上書きされないことを確認してください。

sqlcode: -4301

sqlstate: 58004

SQL4302N Java ストアード・プロシージャーあるいはユーザー定義関数 “<name>” 特定名 “<spec-name>” が例外 “<string>” で異常終了しました。

説明: Java ストアード・プロシージャーあるいはユーザー定義関数が Java 例外で異常終了しました。First Failure Service Log (db2diag.log) に異常終了したメソッドの Java スタックのトレースバックが入っています。

ユーザーの処置: Java メソッドをデバッグして例外を除去してください。

sqlcode: -4302

sqlstate: 38501

SQL4303N Java ストアド・プロシージャ
あるいはユーザー定義関数
"`<name>`"、特定名
"`<spec-name>`" が外部名
"`<string>`" から認識できません。

説明: このストアド・プロシージャあるいは
ユーザー定義関数を宣言した CREATE
PROCEDURE あるいは CREATE FUNCTION ス
テートメントには誤った形式の EXTERNAL
NAME 文節があります。 外部名は次のように形
式化される必要があります：

"package.subpackage.class[method]"

ユーザーの処置: CREATE PROCEDURE あるいは
CREATE FUNCTION を訂正して再実行してく
ださい。

sqlcode: -4303

sqlstate: 42724

SQL4304N Java ストアド・プロシージャ
あるいはユーザー定義関数
"`<name>`"、特定名
"`<spec-name>`" が Java クラス
"`<class>`" をロードできません。理
由コード "`<reason-code>`"。

説明: CREATE PROCEDURE あるいは
CREATE FUNCTION ステートメントの
EXTERNAL NAME 文節で与えられた Java クラ
スがロードできません。 理由コードには、以下
のものがあります。

- 1 クラスが CLASSPATH で見つからない。
- 2 クラスが必須インターフェース
("COM.ibm.db2.app.StoredProc" または
"COM.ibm.db2.app.UDF") を実行しなかつ
たか、あるいは Java "public" アクセ
ス・フラグが欠落している。

- 3 デフォルトのコンストラクターが失敗し
たかあるいは使用できない。
- 4 "jdbc:default:connection" のドライバーを
ロードできなかった。
- 5 デフォルト・コンテキストを設定できな
かった。

ユーザーの処置: コンパイルした ".class" ファイルが
CLASSPATH たとえば "sqllib/function" の下
にインストールされているか確認してください。
必要な Java インターフェースを実行していて
"public" であることを確認してください。

sqlcode: -4304

sqlstate: 42724

SQL4306N Java ストアド・プロシージャ
あるいはユーザー定義関数
"`<name>`"、特定名
"`<spec-name>`" が Java メソッド
"`<method>`" シングニチャー
"`<string>`" を呼び出しできません。

説明: CREATE PROCEDURE あるいは
CREATE FUNCTION ステートメントの
EXTERNAL NAME 文節で与えられた Java メソ
ッドが見つかりません。 宣言された引き数リス
トがデータベースの予想するものと一致しない
か、あるいは "public" インスタンス・メソッドで
ない可能性があります。

ユーザーの処置: Java インスタンス・メソッド
が "public" フラグとこの呼び出しの引き数リスト
を指定しているか確認してください。

sqlcode: -4306

sqlstate: 42724

SQL4400 - SQL4499

SQL4400N “<authorization-ID>” には、DB2 管理サーバーでタスクを実行する権限がありません。

説明: ユーザーには DB2 管理サーバーで試行されたアクションを実行するのに必要な権限がありません。

ユーザーの処置: 必要な権限を持ったユーザー ID を使用して DB2 管理サーバーに接続してください。DB2 管理サーバーで実行されるほとんどのタスクには SYSADM 権限が必要です。

SQL4401C DB2 管理サーバーが起動中にエラーを検出しました。

説明: DB2 管理サーバーの起動中にエラーが検出されました。

ユーザーの処置: 追加情報については DB2 管理サーバーの First Failure Data Capture Log を参照してください。DB2 管理サーバーを再始動するには必要に応じて該当する処置をとってください。

問題が続く場合、技術サービス担当者に連絡してください。

SQL4402W DB2ADMIN コマンドが成功しました。

説明: すべての処理が正常終了しました。

ユーザーの処置: 必要な処置はありません。

SQL4403N コマンドの構文が無効です。

説明: コマンドは無効な引き数または無効な数のパラメーターを使用して入力されました。

ユーザーの処置: 有効な引き数でコマンドを再実行依頼してください。

SQL4404N DB2 管理サーバーが存在しません。

説明: DB2 管理サーバーがこのマシンで見つかりませんでした。

ユーザーの処置: マシン上に DB2 管理サーバーを作成してください。

- OS/2 または Windows 32 ビット オペレーティング・システムでは、次のコマンドを使用します。

```
db2admin create
```

- UNIX プラットフォームでは、root 権限を持っていることを確認し、DB2 ユニバーサル・データベース・インスタンスのパスにあるインスタンス・サブディレクトリーから次のコマンド (<ASName> は管理サーバーの名前) を出します。

```
dasicrt <ASName>
```

SQL4405W DB2 管理サーバーはすでに存在します。

説明: DB2 管理サーバーがすでにこのマシンに存在しています。

ユーザーの処置: 必要な処置はありません。

SQL4406W DB2 管理サーバーを正常に開始しました。

説明: すべての処理が正常終了しました。

ユーザーの処置: 必要な処置はありません。

SQL4407W DB2 管理サーバーを正常に停止しました。

説明: すべての処理が正常終了しました。

ユーザーの処置: 必要な処置はありません。

SQL4408N DB2 管理サーバーは活動状態のため消去されませんでした。

説明: 管理サーバーを、消去される前に停止してください。

ユーザーの処置: DB2 管理サーバーを停止するには、次のコマンドを入力してください。

```
DB2ADMIN STOP
```

SQL4409W DB2 管理サーバーはすでに活動状態です。

説明: DB2ADMIN START コマンドは DB2 管理サーバーがすでに活動状態のため処理されません。

ユーザーの処置: 必要な処置はありません。

SQL4410W DB2 管理サーバーは活動していません。

説明: DB2ADMIN STOP コマンドは DB2 管理サーバーが活動していないため、処理されません。

ユーザーの処置: 必要な処置はありません。

SQL4411N サーバー・インスタンスが DB2 管理サーバーでないため、要求された操作が許可されません。

説明: 要求された操作は、DB2 管理サーバーに対して発行されたときにのみ有効です。

ユーザーの処置: DB2 管理サーバーは DB2ADMIN コマンドを使用してセットアップします。DB2ADMIN コマンドの詳細については、概説およびインストール を参照してください。

SQL4412N DB2 管理サーバーに対するログオン・ユーザー・アカウントが無効です。

説明: 要求されたタスクを実行するためには、DB2 管理サーバーが有効なログオン・ユーザー・アカウントで実行されている必要があります。このエラーの発生原因は、アカウントがセットアップされていないか、またはログオン・ユーザー・アカウントに有効な DB2 ユーザー ID が入っていないかのいずれかです。

ユーザーの処置: ログオン・ユーザー・アカウントがセットアップされていた場合には、アカウントが有効な DB2 ユーザー ID を使用するように入力してください。

以下のコマンドを使用して DB2 管理サーバーのログオン・ユーザー・アカウントをセットアップすることができます。

```
DB2ADMIN SETID <userid> <password>
```

SQL4413W 使用法 : DB2ADMIN が DB2 管理サーバーの作成、ドロップ、開始、あるいは停止を行います。

説明: DB2ADMIN コマンドの構文は、次のとおりです。

```
DB2ADMIN CREATE [/USER:<username>
                  /PASSWORD:<password>]
DROP
START
STOP
SETID <username> <password>
/h
```

コマンド・オプションは次のとおりです。

CREATE

DB2 管理サーバーを作成する

DROP

DB2 管理サーバーを削除する

START

DB2 管理サーバーを開始する

STOP

DB2 管理サーバーを停止する

SETID

DB2 管理サーバーに対するログオン・アカウントを設定する

/USER

DB2ADMIN CREATE 中のログオン・アカウント名を指定する

/PASSWORD

DB2ADMIN CREATE 中のログオン・アカウント・パスワードを指定する

/h

使用情報を表示する

ユーザーの処置: 上記の有効なコマンド・オプションのいずれかを指定して DB2ADMIN コマンドを実行してください。

SQL4414N DB2 管理サーバーは活動していません。

説明: DB2 管理サーバーが活動状態でない場合、要求は処理されません。

SQL4900 - SQL4999

SQL4901N 前出のエラーのために、プリコンパイラー・サービスを再び初期設定する必要があります。

説明: 前に関数呼び出しで、エラーが起きました。要求された関数呼び出しは、プリコンパイラー・サービスが再び初期設定されるまで処理されません。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: sqlainit 関数を呼び出して、プリコンパイラー・サービスを再び初期設定してください。

SQL4902N 関数 “<function>” のパラメーター “<n>” の少なくとも 1 つの文字が無効です。

説明: 示された関数の示されたパラメーターには、少なくとも 1 つの無効な文字が入っています。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: 示されたパラメーターを修正して、再び関数を呼び出してください。

SQL4903N 関数 “<name>” のパラメーター “<n>” の長さが無効です。

説明: 示された関数の示されたパラメーターの長さが無効です。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: 示されたパラメーターを修正して、再び関数を呼び出してください。

ユーザーの処置: DB2 管理サーバーを、コマンド DB2ADMIN START を発行して開始し、要求を再発行してください。

SQL4904N 関数 “<function>” のパラメーター “<n>” へのポインターが無効です。

説明: 示された関数の示されたパラメーターへのポインターが無効です。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: 示されたパラメーターを修正して、再び関数を呼び出してください。

SQL4905N 関数 “<function>” のパラメーター “<n>” の値が、有効範囲内ではありません。

説明: 示された関数の示されたパラメーターの値が、そのパラメーターの有効な範囲を超えています。示されたパラメーターが構造の場合、有効範囲内の値が入っているかもしれませんが、全体として見たときには有効ではありません。いくつかの構造には、割り振られたサイズと使用されているサイズを示すヘッダーが入っています。割り振られたサイズが、使用されたサイズより小さいのは無効です。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: 示されたパラメーターを修正して、再び関数を呼び出してください。

SQL4906N 指定の表スペース名のリストはロールフォワード処理では不完全な設定です。

説明: 表スペースのリストは次の理由のいずれかで不完全です。

- 時刻の表スペース・リカバリーでは、表スペース・リストを指定する必要があります。
- 時刻の表スペース・リカバリーでは、表スペース名のリストに名前が入っている必要があります。リスト内の表スペースには、表スペースに含まれるすべての表のオブジェクト全部を入れてください。
- 時刻の表スペース・リカバリーはシステム・カタログでは許可されません。
- ログの終了表スペース・リカバリーはシステム・カタログで許可されていませんが、リスト内の唯一の表スペース名となります。
- 「ロールフォワード進行中」状態に表スペースがない場合、ロールフォワードの CANCEL オプションには表スペースが必要です。

ユーザーの処置: 表スペース・リストを調べて、完全な表スペースのリストでロールフォワード・コマンドの再実行を依頼してください。

SQL4907W データベース "`<name>`" が回復されましたがロールフォワード処理に含まれる表スペースのリストにある 1 つ以上の表が検査保留状態のままです。

説明: 時刻の表スペース・リカバリーに必要な 1 つ以上の表では、リカバリーで使用する表スペースのリストの外部にある表による参照制約があります。この表はすべて検査保留状態のままです。この表以外では、ロールフォワード処理は正常に完了します。

ユーザーの処置: 表スペースの表の状態を調べて、必要に応じて該当する処置をとってください。

SQL4908N データベース "`<name>`" でロールフォワード・リカバリーに指定された表スペース・リストは、ノード "`<node-list>`" では無効です。

説明: 新規表スペースのロールフォワードを開始している場合に、リストでロールフォワードの対象に指定された 1 つ以上の表スペースが指定されたノードでロールフォワード保留状態になっていません。すでに進行中の表スペースのロールフォワードを継続している場合に、リストでロールフォワードの対象に指定された 1 つ以上の表スペースが指定されたノードでロールフォワード進行状態になっていません。

"、..." がノード・リストの終わりに表示されている場合、完全なリストを見るには診断ログを調べてください。

ロールフォワード・リカバリーを停止します。

(注: 区分データベース・サーバーを使用している場合、ノード番号は、エラーを起しているノードを示しています。そうでない場合、これは関係のないものなので無視してください。)

ユーザーの処置: LIST TABLESPACES SHOW DETAIL コマンドを指定されたノードで使用して、どの表スペースでロールフォワードの準備が整っていないのかを検出してください。ロールフォワード・コマンドの QUERY STATUS オプションを使用して表スペースのロールフォワード状況を判別してください。ロールフォワード状況が「TBS 保留」の場合、新規表スペースのロールフォワードが開始できます。ロールフォワード状況が「TBS 作動」の場合、表スペースのロールフォワードがすでに進行中です。

新規表スペースのロールフォワードを開始している場合には、表スペースを復元してロールフォワード保留状態にしてください。

表スペースのロールフォワードを継続していて 1 つまたは複数の関連表スペースが復元されてロールフォワード保留状態にある場合、表スペースのロールフォワードが進行しているものは取り消さ

れます。CANCEL オプションを指定してロールフォワード・コマンドを再度実行し、同一の表スペースを処理してください。進行中のロールフォワードが取り消されると、表スペースは復元保留状態になります。表スペースを復元して、オリジナルのロールフォワードを再度実行してください。

SQL4909W **ロールフォワード・リカバリーは正常に終了していますが、1 つまたは複数の表スペースの表が DRP/DRNP 状態になっています。ノード "<node-list>" の詳細については、db2diag.log ファイルをチェックしてください。**

説明: 次のいずれかの理由に対し、1 つまたは複数の表スペースには、「DATALINK 調整保留 (DRP) 状態」または「DATALINK 調整不可 (DRNP) 状態」に表があります。

- WITHOUT DATALINK オプションを指定して復元し、復元の後に時刻指定のロールフォワードが続く。DATALINK 列を指定した表は DRP 状態となります。
- 別のデータベース名、別名、ホスト名、あるいはインスタンスを指定してバックアップ・イメージから復元し、ロールフォワードが続く。DATALINK 列を指定した表は DRNP 状態となります。
- 使用不能になったバックアップ・イメージから復元し、復元の後にロールフォワードが続く。DATALINK 列を指定した表は DRNP 状態となります。
- ロールフォワードに時刻指定で行われたが、ログの終わりまで行われなかった。この表スペースで、DATALINK 列を指定した表は DRP 状態となります。
- DATALINK 列情報が DB2 データ・リンク・マネージャーに存在していない。影響を受ける表は DRNP 状態になります。

- ロールフォワードは、「リカバリーなし」オプションで定義された DATALINK 列を含みません。影響を受ける表は DRP 状態になります。

"、..." がノード・リストの終わりに表示されている場合、完全なリストを見るには診断ログを調べてください。

(注: 区分データベース・サーバーを使用している場合、ノード番号は、エラーを起しているノードを示しています。そうでない場合、これは関係のないものなので無視してください。)

ユーザーの処置: db2diag.log ファイルで、どの表が DRP/DRNP 状態に書き込まれているかを確認してください。DRP/DRNP 状態になっている表の調整についての情報は、管理の手引きを参照してください。

SQL4910N **オーバーフロー・ログ・パス "<log-path>" が無効です。**

説明: ROLLFORWARD コマンドで指定されたオーバーフロー・ログ・パスは無効です。オーバーフロー・ログ・パスはファイル・システムのディレクトリーである必要があります。このディレクトリーは、インスタンス所有者 ID によるアクセスが可能でなければなりません。

ユーザーの処置: 有効なオーバーフロー・ログ・パスで、コマンドを再実行してください。

SQL4911N **ホスト変数のデータ・タイプが無効です。**

説明: ホスト変数のデータ・タイプが無効です。関数は完了しません。

ユーザーの処置: ホスト変数のデータ・タイプを訂正して、再び関数を呼び出してください。

SQL4912N ホスト変数のデータ長が範囲を超えています。

説明: ホスト変数の長さが無効です。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: ホスト変数の長さを訂正して、再び関数を呼び出してください。

SQL4913N ホスト変数のトークン ID は、すでに使用されています。

説明: ホスト変数のトークン ID がすでに使用済みです。トークン ID はモジュール内で固有でなければなりません。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: ホスト変数のトークン ID を訂正して、再び関数を呼び出してください。

SQL4914N ホスト変数のトークン ID が無効です。

説明: ホスト変数のトークン ID が有効ではありません。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: ホスト変数のトークン ID を訂正して、再び関数を呼び出してください。

SQL4915N “sqlainit” 関数は、すでに呼び出されています。

説明: プリコンパイラー・サービスは、すでに初期設定されています。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。処理は続行されます。

SQL4916N “sqlainit” 関数が、呼び出されていません。

説明: 要求された関数呼び出しが処理される前に、プリコンパイラー・サービスが初期設定されている必要があります。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: sqlainit 関数を呼び出して、プリコンパイラー・サービスを初期設定してください。

SQL4917N オプション配列のエレメント “<number>” が無効です。

説明: オプション配列に、無効な *option.type* または *option.value* を持つエレメントが入っています。メッセージ内のエレメント番号は、オプション配列のオプション部分の *n* 番目のエレメントです。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: オプション配列に格納されている値を訂正してください。再び関数を呼び出してください。

SQL4918N 関数 “sqlainit” の *term_option* パラメーターが無効です。

説明: *term_option* パラメーターが無効です。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: *term_option* パラメーターを訂正して、再び関数を呼び出してください。

SQL4919N 関数の “sqlacmpl” の *task_array* パラメーターが小さすぎます。

説明: sqlacmpl 関数呼び出しで、プリコンパイラー・サービスに渡されたタスク配列構造が、短すぎます。

関数は正常に処理されませんでした。

ユーザーの処置: プリコンパイラーによって割り振られるプリコンパイラー・タスク配列構造のサイズを増やしてください。アプリケーション・プログラムを再コンパイルしてください。

SQL4920N “sqlacmpl” 関数の token_id_array パラメーターの値が小さすぎます。

説明: sqlacmpl() 関数呼び出しで、プリコンパイラー・サービスに渡されたトークン ID 配列構造が小さすぎます。

関数は正常に処理されませんでした。

ユーザーの処置: プリコンパイラーによって割り振られるプリコンパイラー・トークン ID 配列構造のサイズを増やしてください。アプリケーション・プログラムを再コンパイルしてください。

SQL4930N バインドまたはプリコンパイル・オプション、あるいはオプションの値 “<option-name>” が無効です。

説明: “<option-name>” が無効なバインドまたはプリコンパイル・オプションか、あるいはこれらのオプションに指定された値が無効です。バインドまたはプリコンパイルは終了します。

ユーザーの処置: バインドまたはプリコンパイル・オプション、あるいはオプションの値を訂正して、バインドまたはプリコンパイル・コマンドを再発行してください。

SQL4940N “<clause>” 文節が許可されていないか、または必須です。

説明: 示された文節は、SQL ステートメント内に現れるコンテキストでは許されていないか、またはそれがステートメント内で必須とされています。

副照会、INSERT ステートメント、または CREATE VIEW ステートメントには、INTO、ORDER BY、または FOR UPDATE 文節を指定できません。組み込み SELECT ステートメントには、ORDER BY または FOR UPDATE 文節を指定できません。組み込み SELECT ステートメントには、副照会内を除いて、セット演算子を使用できません。カーソル宣言で使用される

SELECT ステートメントには、INTO 文節を指定できません。

組み込み SELECT ステートメントは、INTO 文節を使用する必要があります。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: 文節の除去または追加を行って、ステートメントを修正してください。

SQL4941N SQL ステートメントがブランクまたは空です。

説明: EXEC SQL に続くテキストがブランクまたは空です。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: EXEC SQL に続いて有効な SQL ステートメントが記述されていることを確認してください。

SQL4942N ステートメントが、ホスト変数 “<name>” に適さないデータ・タイプを選択しています。

説明: 組み込み SELECT ステートメントが、ホスト変数 “<name>” に対する選択を行いました。変数のデータ・タイプと対応する SELECT リスト・エレメントの互換性はありません。列のデータ・タイプが日付と時刻の場合は、変数のデータ・タイプは適切な最小の長さを持つ文字でなければなりません。両方ともに数値、文字、または漢字でなければなりません。たとえば、ユーザー定義のデータ・タイプの場合、ホスト変数は、ステートメントのトランスフォーム・グループに定義されている FROM SQL トランスフォーム関数の結果タイプと互換性のある、関連する組み込みデータ・タイプで定義されます。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: 表定義が現在のものであり、ホスト変数が正しいデータ・タイプであることを確認してください。

SQL4943W INTO 文節内のホスト変数の数が、SELECT 文節内の項目数と一致していません。

説明: INTO 文節と SELECT 文節の両方に指定されたホスト変数の数は同じでなければなりません。

関数は処理されます。

ユーザーの処置: アプリケーションを修正して、SELECT リスト式の数と同じ数のホスト変数を指定してください。

SQL4944N 更新または挿入する値は NULL ですが、対象の列は NULL 値を含むことができません。

説明: 以下のいずれかが起きました。

- 更新値または挿入値は NULL ですが、対象となる列が表定義で NOT NULL として宣言されています。したがって、NULL 値はその列に挿入することができず、その列の値は更新によって NULL に設定することができません。
- INSERT ステートメントの列名リストに、表定義で NOT NULL として宣言されている列がありません。
- INSERT ステートメントの視点に、基礎表定義で NOT NULL として宣言されている列がありません。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: 対象表の定義を調べて、NOT NULL 属性を持っている表を差別して、SQL ステートメントを修正してください。

SQL4945N パラメーター・マーカの用法が無効です。

説明: パラメーター・マーカは、動的 SQL ステートメント内でのみ使用できます。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: 静的 SQL ステートメントに対

しては、パラメーター・マーカの代わりにホスト変数を使用してください。

SQL4946N カーソルまたはステートメント名 “<name>” は定義されていません。

説明: ステートメントに指定されたカーソルまたはステートメント名 “<name>” が定義されていません。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: アプリケーション・プログラムをチェックして、カーソルまたはステートメント名が完全で、しかもつづりが間違っていないことを確認してください。

SQL4947W INCLUDE SQLDA ステートメントが見つかりましたが、無視されました。

説明: データベース・マネージャーによって提供される FORTRAN プリコンパイラーは、INCLUDE SQLDA ステートメントをサポートしません。

ステートメントは無視されます。処理は続行されます。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。このメッセージの出力を防ぐには、プログラムから INCLUDE SQLDA ステートメントを取り除いてください。

SQL4950N ユーザー定義 SQLDA が含まれている複合 SQL ステートメントは、この環境でサポートされていません。

説明: ユーザー定義 SQLDA が入っている複合 SQL ステートメントは、16 ビット・アプリケーションでサポートされていません。

ユーザーの処置: 複合 SQL ブロックの外にステートメントを移動するか、あるいは SQLDA の代わりに、ホスト変数を使用するステートメントと

これを置き換えてください。

SQL4951N 関数 “<name>” の `sqlda_id` パラメーターが無効です。

説明: アプリケーション・プログラム内の示された関数の `sqlda_id` パラメーターが無効です。
`sqlda_id` パラメーターは `null` にできません。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: アプリケーション・プログラムの `sqlda_id` パラメーターを訂正してください。

SQL4952N 関数 “<name>” の `sqlvar_index` パラメーターが無効です。

説明: アプリケーション・プログラム内の示された関数の `sqlvar_index` パラメーターが無効です。
`sqlvar_index` が、SQLDA の `sqlvar` エレメントの数より大きい可能性があります。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: アプリケーション・プログラムの `sqlvar_index` パラメーターを訂正してください。

SQL4953N 関数 “<name>” の `call_type` パラメーターが無効です。

説明: アプリケーション内の示された関数の `call_type` パラメーターが無効です。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: アプリケーション・プログラムの `call_type` パラメーターを訂正してください。

SQL4954N 関数 “<name>” の `section_number` パラメーターが無効です。

説明: アプリケーション・プログラム内の示された関数の `section_number` パラメーターが無効です。次の SQL ステートメントの場合は、関数 `sqlacall()` の `section_number` パラメーターが、ス

テートメント・タイプを渡すために使用されることに注意してください。

- CONNECT
- SET CONNECTION
- RELEASE
- DISCONNECT

関数は完了しません。

ユーザーの処置: アプリケーション・プログラムの `section_number` パラメーターを訂正してください。

SQL4970N ノード “<node-list>” のログ・ファイルがないため、データベース “<name>” のロールフォワード・リカバリーは、指定された停止ポイント (ファイルの終わりまたは、指定時間) に達することができません。

説明: このメッセージは次の状況の場合に返されます。

- 呼び出し元のアクション
`SQLUM_ROLLFWD_STOP`、`SQLUM_STOP`、`SQLUM_ROLLFWD_COMPLETE`、または `SQLUM_COMPLETE` を指定してロールフォワードの保留状態以外の指定されたデータベースで要求が実行されましたが、実行された要求は、ロールフォワード・データベース・ユーティリティはデータベース・ログ・ディレクトリで必要なアーカイブ、または前の `ROLLFORWARD DATABASE` コマンドから停止位置に達する指定されたノードのログ・ディレクトリのオーバーフローを検索できません。
- 複数ノードの環境で、ロールフォワード・データベースが、カタログ・ノードを伴う同期ノードをもたらすのに必要なアーカイブ・ログ・ファイルを検索できません。

”、...” がノード・リストの終わりに表示されている場合、完全なリストを見るには診断ログを調べてください。

ロールフォワード・リカバリーは停止しました。データベースはロールフォワード保留状態になったままです。

注: 区分データベース・サーバーを使用している場合、ノード番号は、エラーを起こしているノードを示しています。そうでない場合、これは関係のないものなので無視してください。

ユーザーの処置: ROLLFORWARD DATABASE コマンドと QUERY STATUS オプションを一緒に使用してどのログ・ファイルが欠落したかを判別してください。

以下のいずれかを実行してください。

- すべてのアーカイブ・ログ・ファイルがデータベース・ログ・ディレクトリーまたはオーバーフロー・ログ・パスで使用可能であることを確認し、ROLLFORWARD DATABASE コマンドを再度発行してください。
- 抜けているログ・ファイルを検索できない場合は、すべてのノードでデータベース / 表スペースを復元し、最も早期の欠落ログ・ファイルよりも前のタイム・スタンプを使用して時刻の復元を実行してください。

SQL4971N ノード “<node-number>” のデータベース “<name>” のロールフォワードのリカバリーは、前の停止中に失敗しました。ロールフォワード・リカバリーを停止する必要があります。

説明: 呼び出し元アクション

SQLUM_ROLLFWD の指定によって指定したデータベースのロールフォワードを続行する要求が出されました。直前のロールフォワード・リカバリーの反復は、停止中に失敗しました。データベース・レベルでのロールフォワードを行うと、ログ切り捨て中に失敗したことを意味します。このデータベースのロールフォワード・リカバリーは、呼び出し元アクション

SQLUM_ROLLFWD_STOP、SQLUM_STOP、SQLUM_ROLLFWD_COMPLETE、または

SQLUM_COMPLETE の指定で現在停止されています。

注: 区分データベース・サーバーを使用している場合、ノード番号は、エラーを起こしているノードを示しています。そうでない場合、これは関係のないものなので無視してください。

ユーザーの処置: 呼び出し元アクション

SQLUM_ROLLFWD_STOP、SQLUM_STOP、SQLUM_ROLLFWD_COMPLETE、または SQLUM_COMPLETE を使用して

ROLLFORWARD DATABASE コマンドを再発行してください。指定された停止時間は、以前の停止時間がすでに処理されているため無視されま

SQL4972N ノード “<node-number>” のログ・エクステント “<extent>” をデータベース・ログ・パスに移動できませんでした。

説明: ロールフォワード・ユーティリティーは STOP オプションで呼び出されました。ロールフォワード処理の一部として、ログ・エクステント “<extent>” は切り捨てられる必要があります。このエクステントはデータベース・ログ・パスに存在していなくてはなりません。現在、エクステントはオーバーフロー・ログ・パスに存在しています。オーバーフロー・ログ・パスからデータベース・ログ・パスへエクステントを移動させようとした。処理は失敗しました。ロールフォワード処理は停止されています。

注: 区分データベース・サーバーを使用している場合、ノード番号は、エラーを起こしているノードを示しています。そうでない場合、これは関係のないものなので無視してください。

ユーザーの処置: オーバーフロー・ログ・パスからデータベース・ログ・パスへエクステントを移動し、ROLLFORWARD DATABASE コマンドを再実行依頼してください。

SQL4973N データベース "`<name>`" の順方向リカバリーはノード "`<node-list>`" のログ情報がカタログ・ノードの対応するレコードに一致しないため、完了できません。

説明: ロールフォワード・ユーティリティは、それぞれのノードで見つかったログ・ファイル进行处理しましたが、指定されたノードとカタログ・ノードの対応レコードの停止点が一致しません。原因は、カタログ・ノードまたは指定されたノード・ファイルが欠落したか、またはカタログ・ノードがロールフォワードされるノード・リストに含まれることです。

ROLLFORWARD DATABASE 処理を停止します。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを実行してください。

- カatalog・ノードをロールフォワードする必要があるかをチェックしてください。その必要がある場合、ROLLFORWARD DATABASE コマンドを再度実行依頼し、カタログ・ノードを含めてください。
- ROLLFORWARD DATABASE コマンドと QUERY STATUS オプションを一緒に使用してどのログ・ファイルが欠落したかを判別してください。ログ・ファイルを検出したときは、それをログ・パスまたはオーバーフロー・ログ・パスに置き、順方向リカバリーを再開してください。
- 抜けているログ・ファイルを検索できない場合は、すべてのノードで最も早期の欠落ログ・ファイルよりも前の停止時間を使用して時刻の復元を実行してください。

SQL4974W ROLLFORWARD DATABASE QUERY STATUS コマンドが `sqlcode` "`<sqlcode>`" を検出しました。

説明: ROLLFORWARD DATABASE QUERY STATUS コマンドは、SQL コード "`<sqlcode>`" のエラーを検出しました。多数の原因で、いくつかのノードの照会が正常でない可能性があります。最も重大なエラーは "`<sqlcode>`" で指示されます。roll-forward status は正常なノードに対して戻ります。

ユーザーの処置: sqlcode "`<sqlcode>`" について、メッセージ解説書、またはオンラインを参照して、障害ノードの問題を判別してください。必要な訂正処置を実行して、これらのノードの前方リカバリーを継続してください。

SQL4975W ロールフォワード操作は正常にキャンセルされました。データベースまたは選択表スペースは、ノード "`<node-list>`" で復元される必要があります。

説明: ロールフォワード操作は正常終了する前に、キャンセルされました。データベースまたは選択表スペースは不整合状態で残されています。データベースまたは選択表スペースは、リストされたノードで、復元保留状態にあります。

"、..." がノード・リストの終わりに表示されている場合、完全なリストを見るには診断ログを調べてください。

注: 区分データベース・サーバーを使用している場合、ノード番号は、エラーを起こしているノードを示しています。そうでない場合、これは関係のないものなので無視してください。

ユーザーの処置: リストされたノードでデータベースまたは選択済み表を復元します。復元保留状態にあるこの表スペースは LIST TABLESPACES コマンドまたは db2dart ユーティリティによって指定されたノードで識別されます。

SQL4976N ROLLFORWARD DATABASE コマンドは、非カタログ・ノード上で実行依頼できません。

説明: ROLLFORWARD DATABASE コマンドは、カタログ・ノード上のみで実行可能です。

ユーザーの処置: コマンドをカタログ・ノードで実行依頼してください。

SQL4977N 除去された表のエクスポート・ディレクトリー "<directory>" が無効です。

説明: ROLLFORWARD コマンドで指定されたエクスポート・ディレクトリー・パスは無効です。エクスポート・ディレクトリー・パスはファイル・システムのディレクトリーである必要があります。このディレクトリーは、インスタンス所有者 ID によるアクセスが可能でなければなりません。

ユーザーの処置: 有効なディレクトリー・パスを指定して、コマンドを再実行してください。

SQL4978N ドロップした表にアクセスすることはできません。

説明: ドロップした表にアクセスすることはできません。コピーなしの LOAD または NOT LOGGED INITIALLY 操作のため、表が選択不可の状態になっていることが原因だと思われます。

ユーザーの処置: DROPPED TABLE RECOVERY オプションを使用して表をリカバリーすることはできません。

SQL4979W 除去された表データをエクスポートすることができません。

説明: コマンドはリカバリー処理が試みられている、除去された表のデータをエクスポートすることができませんでした。これは、ROLLFORWARD コマンドで指定された、除去された表の ID が無効であるか、またはログのすべ

てがロールフォワードで使用できるわけではない場合に発生します。この警告は、ROLLFORWARD ... AND STOP コマンドを使用して除去された表をリカバリーしている間に、エラーが発生した時に生成されます。

ユーザーの処置: 除去された表の ID が有効で、ログのすべてがロールフォワードで使用できることを確認してから、コマンドを再実行してください。

SQL4994N プリコンパイルは、ユーザーの割り込み要求によって終了されました。

説明: 割り込みが起きたために、プリコンパイルが終了しました。ユーザーが割り込みキー・シーケンスを押した可能性があります。

処理は終了しました。パッケージは作成されませんでした。

ユーザーの処置: 必要に応じて、プリコンパイルを再実行してください。

SQL4997N 許可 ID が無効です。

説明: アプリケーションに対する許可 ID が指定されましたが、その許可 ID が 8 文字より大きいか、または許可 ID には無効な文字を使用して定義されています。

許可 ID は PUBLIC (public) であってはならず、SYS (sys)、IBM (ibm) または SQL (sql) で始めることはできません。また、許可 ID に下線文字またはデータベース・マネージャー基本文字セットに含まれない文字を使用することはできません。

関数は処理されません。

ユーザーの処置: 有効な許可 ID を使用して、アプリケーションを再始動してください。

SQL4998C アプリケーションはエラー状態になり、データベースとの接続は失われました。

説明: データベースへの接続が切り離されました。

関数は処理されません。

ユーザーの処置: データベースに再接続してください。

SQL4999N プリコンパイラー・サービスまたは実行時サービスのエラーが起きました。

説明: プリコンパイラー・サービスおよび実行時サービスが、関数呼び出しを処理することができないデータベース・マネージャー・エラーが起きました。

プリコンパイラー・サービスまたは実行時サービス

SQL5000 - SQL5099

SQL5001N “<authorization-ID>” には、データベース・マネージャー構成ファイルを変更する権限がありません。

説明: データベース・マネージャー構成ファイルを SYSADM 権限を取得せずに、更新またはリセットしようとした。

要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: 適切な権限を取得せずに、データベース・マネージャー構成ファイルを変更しないようにしてください。変更が必要な場合には、SYSADM 権限を持つユーザーに連絡してください。

SQL5005C システム・エラー

説明: オペレーティング・システム・エラー、(入出力エラー) が構成ファイルのアクセス中に起きました。

コマンドは処理されません。

ス関数呼び出しは処理されません。

ユーザーの処置: メッセージ番号 (SQLCODE) と、可能であれば SQLCA のすべてのエラー情報を記録してください。

トレースが活動状態の場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから、独立トレース機能呼び出ししてください。この機能の使用法については、問題判別の手引きの独立トレース機能を参照してください。

- 環境: プリコンパイラー・サービス API を使用する外部プリコンパイラー
- 必要な情報は以下のとおりです。
 - 問題記述
 - SQLCODE
 - SQLCA の内容 (ある場合)
 - トレース・ファイル (可能であれば)

ユーザーの処置: コマンドを再発行してください。

エラーが解消されない場合、詳細については db2diag.log ファイルをチェックし、構成ファイルがアクセス可能であることを確認してください。それでも問題が解決しない場合には、IBM サービス技術員に連絡してください。

SQL5010N データベース・マネージャー構成ファイルのパス名が無効です。

説明: データベース・マネージャー構成ファイルへのパスを判別しているときに、エラーが起きました。データベース・マネージャー・ディレクトリ構造が、更新されている可能性があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: コマンドを再発行してください。それでも、エラーが続く場合は、データベース・マネージャーを再インストールしてください。

SQL5012N ホスト変数 “<host-variable>” が正しい数値データ・タイプではありません。

説明: ホスト変数 “<host-variable>” が指定されましたが、これは使用されたコンテキストでは有効ではありません。ホスト変数 “<host-variable>” は FETCH ステートメントの ABSOLUTE または RELATIVE の一部として指定されたか、FETCH または INSERT ステートメントの ROWS 文節に指定されました。ホスト変数が以下のいずれかの理由で使用できませんでした。

- ホスト変数が正しい数値データ・タイプではありません。位取りがゼロの 10 進データ・タイプと整数データ・タイプが正しい数値データ・タイプです。
- ホスト変数は 10 進データ・タイプですが、位取りがゼロではありません。10 進データ・タイプは、位取りをゼロにするには、ゼロの 10 進数字を持っていなければなりません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 正しいデータ・タイプになるようにホスト変数を変更してください。

sqlcode: -5012

sqlstate: 42618

SQL5018N データベース・マネージャー構成ファイル内の、ワークステーションへのリモート接続の数 (numrc) の最大値が有効範囲を超えています。

説明: ワークステーションへのリモート接続の最大値は、1 から 255 までの間でなければなりません。

要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: ワークステーションへのリモート接続に有効な値を指定して、コマンドを再発行してください。

SQL5020N データベース・マネージャー構成ファイル内のワークステーションのノード名 (nname) が無効です。

説明: configuration コマンドに指定されたノード名が無効です。ノード名は 1 から 8 文字でなければなりません。すべての文字は、データベース・マネージャー基本文字セットから選択する必要があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なノード名を使用して、コマンドを再発行してください。

SQL5021N データベース・マネージャー構成ファイル内の索引の再作成時間 (indexrec) が無効です。有効な値は、1 (索引アクセス中) と 2 (データベースの再始動中) です。

説明: 構成サービスに対して、データベース・マネージャー構成ファイル内の索引の再作成時間フラグ (indexrec) の無効な値が渡されました。無効な値は、コマンド行プロセッサまたはプログラム API 呼び出しを使用して入力された可能性があります。API 呼び出しに有効な値は、1 (索引アクセス中)、および 2 (データベースの再始動中) のみです。コマンド行プロセッサに有効な値は、ACCESS と RESTART です。

データベース・マネージャー構成ファイルに対する更新は拒否されました。

ユーザーの処置: 指定可能ないずれかの値を入力して、更新要求を再実行してください。

SQL5022N データベース構成ファイル内の索引の再作成時間 (indexrec) が無効です。指定可能な値は、0 (システム設定の使用)、1 (索引アクセス中)、および 2 (データベースの再始動中) です。

説明: 構成サービスに対して、データベース構成ファイル内の索引の再作成時間フラグ (indexrec)

の無効な値が渡されました。無効な値は、コマンド行プロセッサまたはプログラム API 呼び出しを使用して入力された可能性があります。API 呼び出しに有効な値は、0 (システム設定の使用)、1 (索引アクセス中)、および 2 (データベースの再始動中) のみです。

コマンド行プロセッサに有効な値は SYSTEM、ACCESS、RESTART です。

データベース構成ファイルに対する更新は拒否されました。

ユーザーの処置: 指定可能ないずれかの値を入力して、更新要求を再実行してください。

SQL5025C データベース・マネージャ構成ファイルが現行のものではありません。

説明: データベースに接続した後で、データベース・マネージャ構成ファイルが更新されました。データベース・マネージャ構成ファイルが、接続されたデータベースの構成と互換性がありません。

データベース・マネージャ構成ファイルへのアクセスは許可されません。

ユーザーの処置: すべてのアプリケーションが、そのデータベースから切断されるまで待ってください。stop database manager コマンドを実行した後で、start database manager コマンドを実行してください。

サンプル・データベースをインストールしている場合は、それをドロップしてサンプル・データベースを再インストールしてください。

SQL5028N sysadm_group の値は、インスタンス所有者の 1 次グループでなければなりません。

説明: データベース・マネージャ構成ファイルの sysadm_group を更新しようとして、Unix ベース・システム上の DB2 のバージョン 2 の場

合、インスタンス所有者の 1 次グループである値のみが使用できます。

ユーザーの処置: インスタンス所有者の 1 次グループを使用して、Unix ベース・プラットフォームのデータベース・マネージャ構成ファイルのこのフィールドを更新してください。

SQL5030C リリース番号が無効です。

説明: データベース・マネージャ構成ファイルまたはデータベース構成ファイルのリリース番号が無効です。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 使用中のデータベースと DB2 のリリース・レベルが一致していることを確認してください。

サンプル・データベースをインストールしている場合は、それをドロップしてサンプル・データベースを再インストールしてください。

sqlcode: -5030

sqlstate: 58031

SQL5035N データベースを現在のリリースにマイグレーションする必要があります。

説明: データベースが、低いレベルのシステム・リリースで作成されました。Migrate Database コマンドを使用して、データベースを現在のリリース・レベルに変換する必要があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 現在のシステム・リリースでデータベースを使用する前に、Migrate Database コマンドを実行してください。

復元中にこのメッセージを受け取った場合は、処理を続ける前に、既存のデータベースをドロップしてください。

sqlcode: -5035

sqlstate: 55001

SQL5040N TCP/IP サーバー・サポートに必要なソケット・アドレスのいずれかが、別の処理で使用されています。

説明: サーバーに必要なソケット・アドレスのいずれかは、別のプログラムで使用されているか、あるいはデータベース・マネージャーが停止してから、TCP/IP サブシステムで完全に終了していません。

ユーザーの処置: db2stop を発行したばかりの場合には、TCP/IP サブシステムがリソースを解除するのに数分お待ちください。そうでない場合には、ワークステーションで、/etc/services ファイルにあるサービス名で予約されているポート番号を使用しているプログラムがワークステーションにないか確認してください。ポート番号はソケット・アドレスのコンポーネントです。

SQL5042N 通信サーバー・サーバー・サポート処理のいずれかが開始できません。

説明: システム呼び出しができないため、あるいは通信サブシステムの呼び出しができないため、通信プロトコル・サーバー・サポート処理が正常に開始しません。

ユーザーの処置: 次のいずれかの方法で問題を調べることができます。

- システム・ログ・レコードを調べる
- トレースをオンにして、db2start を再度実行し、トレース・レコードを調べる

SQL5043N 1 つまたは複数の通信プロトコルに対するサポートが正常に開始できませんでした。ただし、コアのデータベース・マネージャーの機能は正常に開始されました。

説明: 通信プロトコル・サポートが、1 つ以上のプロトコルについて正常に開始されませんでした。理由として、以下が考えられます。

- 通信サブシステムの構成エラー
- 通信サブシステムの呼び出しエラー

- データベース・マネージャーの構成エラー
- システム呼び出しの障害
- データベース・マネージャーのライセンス・エラー

正常に開始された通信プロトコルを使用すれば、サーバーに接続することができます。ローカル・クライアントも、サーバーに接続することができます。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーが、DB2COMM 環境変数で指定されたすべての通信プロトコルを開始しようとした。

このエラーの詳細については、診断ログ (db2diag.log) をチェックしてください。ログには、エラーの原因に関するより詳細な情報と、正常に開始されなかった通信プロトコルも入っています。

このエラーは、DB2COMM 環境変数によって指定された通信プロトコルにのみ影響を与えます。

SQL5047C この関数を実行するためのメモリーが不足しています。

説明: この関数の実行に使用できる十分なメモリーがありません。

関数は完了しません。

ユーザーの処置: アプリケーションを停止してください。解決策は以下の通りです。

- 他のプロセスを終了してください。
- メモリー割り振りを定義する構成パラメーターの値を減らしてください。
- システムに十分な実メモリーおよび仮想メモリーがあることを確認してください。

SQL5048N データベース・クライアントのリリース・レベルが、データベース・サーバーのリリース・レベルでサポートされていません。

説明: データベース・クライアントは、クライアントより 1 つ低いレベルから 2 つ高いレベルまでの範囲のリリース・レベルをもつデータベース・サーバーしかアクセスできません。

ユーザーの処置: 以下の 1 つ以上を行ってください。

- 現在のサーバーのリリース・レベルでサポートされる範囲まで、クライアント・リリース・レベルをアップグレードしてください。
- 現在のクライアント・リリース・レベルでサポートできるレベルまで、サーバー・リリース・レベルをアップグレードしてください。

SQL5050C データベース・マネージャー構成ファイルの内容が無効です。

説明: データベース・マネージャー構成ファイルが無効です。ファイルが、テキスト・エディターまたはデータベース・マネージャー以外のプログラムで更新されている可能性があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーを再インストールしてください。

SQL5051N “<qualifier>” によって修飾されたオブジェクトは、スキーマ “<schema-name>” で作成されません。

説明: CREATE SCHEMA ステートメントで作成されたオブジェクトは、スキーマ名とは異なる “<qualifier>” によって修飾されています。

CREATE SCHEMA ステートメントで作成されたすべてのオブジェクトは、スキーマ名

“<schema-name>” によって修飾されたものか、修飾されていないものかのいずれかです。修飾され

ていないオブジェクトは暗黙的にスキーマ名によって修飾されます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 明示的にスキーマのオブジェクトを “<schema-name>” で修飾するか、オブジェクト名から “<qualifier>” を除去してください。

sqlcode: -5051

sqlstate: 42875

SQL5055C データベース構成ファイルの内容が無効です。

説明: データベースのデータベース構成ファイルが無効です。ファイルが、テキスト・エディターまたはデータベース・マネージャー以外のプログラムで更新されている可能性があります。

ユーザーの処置: データベースを再作成するか、またはバックアップ・バージョンから復元してください。

sqlcode: -5055

sqlstate: 58031

SQL5060N 指定された構成パラメーター・トークンが無効です。

説明: 構成サービス API に渡された sqlfupd 構造に指定されたトークン番号が無効です。それは、サポートされているどの構成パラメーターでもありません。また、UPDATE が試みられた場合には、指定されたトークンは、更新できない構成パラメーターのものであることがあります。

ユーザーの処置: アプリケーション開発の手引きの構成サービス API 記述に指定されているトークン番号から有効なものを選択してください。API に対する呼び出しを修正して、プログラムを再実行してください。

SQL5061N 構造 `sqlfupd` への無効なポインタ
ーが、構成サービスに渡されまし
た。

説明: ポインターとして、いずれかの構成サービ
ス API に渡された構造 `sqlfupd` へのポインタ
ーが無効です。それがヌルか、または `count` パラ
メーターで示されたサイズの割り振られたメモリ
のブロックを指していません。詳細について
は、 [アプリケーション開発の手引き](#) を参照して
ください。

ユーザーの処置: 構成サービス API を呼び出す
コードを修正して、API 呼び出しを再実行して
ください。

SQL5062N `sqlfupd` 構造内の無効なポインタ
ーが、構成サービスに渡されました。

説明: パラメーターとして、いずれかの構成サー
ビス API に渡された構造 `sqlfupd` に、無効なポ
インターが入っていました。ポインターがヌル
か、または割り振られたメモリのブロックを指
していません。構造内の渡される各トークンは、
API との間で受け渡されるフィールドに対応する
ポインターを持っている必要があります。詳細に
ついては、 [アプリケーション開発の手引き](#) を参
照してください。

ユーザーの処置: 構成サービスを呼び出すコード
を修正して、プログラムを再実行してください。

SQL5065C データベース・マネージャー構成フ
ァイルの `nodetype` 値が無効で
す。

説明: データベース・マネージャー構成ファイル
の `nodetype` パラメーターが無効です。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーを
再インストールしてください。

SQL5066W トークン “<token-name>” のデー
タベース構成パラメーター値が切り
捨てられています。

説明: データベース構成パラメーター値が、示さ
れているトークンが含むことができる大きさを超
えています。

新しいトークンがこのデータベース構成パラメ
ーター値を表し、古いトークンに含むことができ
る大きさを値が超えている場合にのみ使用されま
す。

ユーザーの処置: このデータベース構成パラメ
ーターとして新しいトークンを使用してください。

SQL5070N 構成コマンドの `count` パラメータ
ーが無効です。これは、0 より大き
くなければなりません。

説明: パラメーターとして、構成サービス API
に渡される `count` の値は、0 より大きくなれば
なりません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 構成サービスを呼び出すコード
を修正して、プログラムを再実行してください。

SQL5075N 構成ユーティリティーが中断されま
した。

説明: 構成ユーティリティーが割り込みを受けま
した。ユーザーが割り込みキー・シーケンスを押
した可能性があります。

コマンドは処理されませんでした。要求した変更
は行われません。

ユーザーの処置: コマンドを再発行してくださ
い。

SQL5081N データベース構成ファイル内の、バッファ・プールのサイズ (**buffpage**) が有効範囲を超えています。

説明: バッファ・プール・サイズの最小値は、活動プログラムの最大数 (maxappls) の 2 倍です。バッファ・プール・サイズの最大値は、524288 (4KB ページの数) で、オペレーティング・システムによって異なります。AIX での最大値は 51000 (DB2 エンタープライズ拡張エディションは 204000 です) (4KB ページ) です。HP-UX では、値が 16 から 150000 (4KB ページ) の間でなければなりません。

要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: バッファ・プールのサイズに有効な値を指定して、コマンドを再発行してください。

SQL5083N データベース構成ファイル内の、初期ログ・ファイル・サイズ (**logfile**) が有効範囲を超えています。

説明: 初期ログ・ファイル・サイズの値は、12 と $(2^{32} - 1)$ の間でなければなりません。

要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: 初期ログ・ファイル・サイズに有効な値を指定して、コマンドを再発行してください。

SQL5091N データベース構成ファイル内の、1 つのログ・ファイル拡張のサイズ (**logext**) が有効範囲を超えています。

説明: 1 つのログ・ファイル拡張のサイズの値は、4 から 256 の間でなければなりません。

要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: 1 つのログ・ファイル拡張のサイズに有効な値を指定して、コマンドを再発行してください。

SQL5092N データベース構成ファイル内の、ログ・ファイル拡張の最大許容数 (**logmaxext**) が有効範囲を超えています。

説明: ログ・ファイル拡張の最大許容数の値は、0 から $(2 * 10^{*6})$ の間でなければなりません。

要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: ログ・ファイル拡張の最大許容数に有効な値を指定して、コマンドを再発行してください。

SQL5093N データベース構成パラメーター内の、エージェント・ヒープのサイズ数が有効範囲を超えています。

説明: エージェント・ヒープのサイズの値は、2 から 85 の間でなければなりません。

要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: エージェント・ヒープのサイズに有効な値を指定して、コマンドを再発行してください。

SQL5099N データベース構成ファイルにある、ログへの新しいパス (**newlogpath**) が無効です。

説明: ログ・ファイルへのパスが、以下のいずれかの理由で無効です。

- パス・ストリングの長さが 242 バイト以上です。
- パスが存在しません。
- パスの 1 番目のディレクトリーに SQLNNNNN 形式の名前があります。(NNNNN は 00001 から 99999 までの値です)
- 正しい名前のファイルが指定されたパスに見つかりましたが、このデータベースのログ・ファイルではありませんでした。
- ログに対する新規パスは現在別のデータベースで使用されています。

- 新しいパスで指定されている装置が、1 次ログ・ファイルを保持するために十分な大きさではありません。

要求された変更は実行されません。

SQL5100 - SQL5199

SQL5100N データベース・マネージャー構成ファイル内の、並行して使用できるデータベースの数が大きすぎます。

説明: 要求した変更は、(1) 並行して使用可能なデータベースの許容数が大きくなりすぎるか、または (2) DB2 に許されているセグメント数が小さくなりすぎる原因になります。

並行して使用可能なデータベースの許容数は、DB2 に許される最大セグメント数によって制限されます。次の条件は常に真でなければなりません。

```
segments >= ((number of databases * 5) + 1)
```

要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを実行してください。

- DB2 に許される最大セグメント数を増やしてください。
- 並行して使用可能なデータベース数を減らしてください。

SQL5101N データベース構成ファイル内の項目が、有効範囲を超えたログ・ファイル・パラメーター (**logprimary** と **logsecond**) を定義しています。

説明: 要求した変更では、ログ・ファイルの合計数が範囲外になります。次の条件は常に真でなければなりません。

```
logprimary + logsecond <= 128
```

要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: ログへの新しいパスに有効な値を指定して、コマンドを再発行してください。

sqlcode: -5099

sqlstate: 08004

ユーザーの処置: 以下の 1 つあるいは両方を行ってください。

- 1 次ログ・ファイル数を減らしてください。
- 2 次ログ・ファイル数を減らしてください。

SQL5103N データベース構成ファイル内の、バッファ・プールのサイズ (**bufferpage**) が、活動アプリケーションの最大数 (**maxappls**) には小さすぎます。

説明: 要求した変更では、活動アプリケーションの最大数がバッファ・プールのサイズを超えてしまいます。次の条件は常に真でなければなりません。

```
bufferpool_size >  
(number of active_processes * 2)
```

要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: 以下の 1 つあるいは両方を行ってください。

- バッファ・プールのサイズを増やしてください。
- 活動プロセスの最大許容数を減らしてください。

SQL5112N 構成パラメーター "**<parameter>**" の値は、**0** または **1** のどちらかです。

説明: この要求は、"**<parameter>**" に与えられた値が無効のため、完了していません。

ユーザーの処置: "**<parameter>**" に指定された値が **0** または **1** であることを確認して、要求を再実行してください。

SQL5120N 新旧ログ・パラメーターは両方同時には変更できません。

説明: 前のログ・パラメーターと新しいパラメーターの両方を変更しようとしています。アプリケーションは、現行リリースのパラメーターのみをサポートするべきです。

要求は拒否されます。

ユーザーの処置: 現行リリースのパラメーターのみを修正して、コマンドを再試行してください。

SQL5121N データベース構成ファイルの構成オプションが無効です。

説明: データベース・オプション (SQLF_DETS) に設定された値が無効です。有効な設定は 0 から 15 までです。要求された変更は実行されません。

要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: 有効なデータベース・オプションの値を指定して、コマンドを再発行してください。

SQL5122N マシン依存のチェックによって、データベースへのアクセスは無効です。

説明: データベースおよびデータベース構成ファイルが、コピー・プロテクトのためにアクセスできません。

ユーザーの要求は拒否されます。

ユーザーの処置: オリジナル・データベースに戻って、構成ファイルを変更し、コピー・プロテクトをオフにした後で、データベースの復元に使用できる可能性がある新しいバックアップを作成してください。これは、個別の SYSADM 権限で実行する必要があります。オリジナル・データベースが使用できない場合は、サービス技術員に連絡してください。

SQL5123N ログ制御ファイルのアクセス中に入出力エラーが発生したために、データベース "<name>" を構成できません。

説明: 示されたデータベースの SQLOGCTL.LFH にアクセス中に、エラーが起きました。

要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: データベースをバックアップ・コピーから復元するか、またはデータベースを再作成してください。

SQL5126N "<node-type-code>" のノード・タイプに無効なデータベース・マネージャー構成パラメーター "<parm>" を変更しようとしてしました。

説明: 示されたノード・タイプに無効なデータベース・マネージャー構成パラメーターの変更が試みられました。"<node-type-code>" は、以下のよう
に定義されます。

- 1 ローカルトリモート・クライアントを持つデータベース・サーバー
- 2 クライアント
- 3 ローカル・クライアントを持つデータベース・サーバー
- 4 ローカルおよびリモート・クライアントを伴う、区分されたデータベース・サーバー
- 5 ローカル・クライアントを持つサテライト・データベース・サーバー

要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: 示されたノード・タイプに有効なパラメーターを指定して、要求の再実行依頼を行ってください。

SQL5130N 構成パラメーター "**<parameter>**" に指定された値が "**<start-of-range>**" から "**<end-of-range>**" の有効な範囲内にありません。

説明: "**<parameter>**" の値が有効な範囲内がないために、この要求は行われていません。

ユーザーの処置: "**<parameter>**" の指定された値が有効範囲内にあるかを確認し、要求を再試行してください。

SQL5131N 構成パラメーター "**<parameter>**" に指定した値が有効な範囲内にありません。有効な範囲は "**-1**"、または "**<start-of-range>**" から "**<end-of-range>**" までです。

説明: "**<parameter>**" の値が有効な範囲内がないために、この要求は行われていません。

ユーザーの処置: "**<parameter>**" の指定された値が有効範囲内にあるかを確認し、要求を再試行してください。

SQL5132N 構成パラメーターがヌルか、あるいは長すぎます。最大長は **<maximum length>** です。

説明: 構成パラメーターが設定されていないか、または長すぎます。

ユーザーの処置: 構成パラメーターの値を、示された最大長内に変更してください。

SQL5133N 構成パラメーター "**<parm>**" の値 "**<value>**" が無効です。有効な値のセットは "**<value_list>**" です。

説明: "**<value>**" は、構成パラメーター "**<parm>**" に指定されている値です。この値は、"**<value_list>**" に示されている有効な値の 1 つではありません。

これらの値の意味については、「アプリケーション

開発の手引き」(SQLFUPD 項目) および「管理の手引き」を調べてください。

ユーザーの処置: 構成パラメーターの値を、有効なリストに示されている値のいずれかに変更してください。

SQL5134N 構成パラメーター **tpname** に、無効な文字が含まれています。

説明: **tpname** の 1 つ以上の文字が、有効範囲内がありません。**tpname** の文字は、以下のいずれかでなければなりません。

- A - Z
- a - z
- 0 - 9
- \$
- #
- @
- . (ピリオド)

ユーザーの処置: **tpname** を変更して、コマンドまたは関数呼び出しを再実行してください。

SQL5135N 構成パラメーターの **maxlocks** と **maxappls** の設定は、ロック・リスト・スペースのすべてを使用するわけではありません。

説明: 活動プロセス数 (**maxappls**) に、アプリケーションごとのロック・リスト・スペースのパーセントの最大値 (**maxlocks**) を掛けた値は、100 以上でなければなりません。つまり、以下のようになります。

$\text{maxappls} * \text{maxlocks} \geq 100$

これで、割り振られたすべてのロック・リスト・スペースを使用できます。

ユーザーの処置: **maxappls**、**maxlocks**、またはその両方の設定を増やしてください。

SQL5136N データベース・マネージャ構成ファイル内の、デフォルトのデータベース・パス (**dftdbpath**) が無効です。

説明: *dftdbpath* によって無効な値が指定されました。UNIX ベース・システムのデフォルト・データベース・パスの規則は以下のとおりです。

1. パスはオペレーティング・システムの命名規則に従わなければならない。
2. パスは存在しなければならない。
3. パスは 215 文字以下でなければならない。

他のプラットフォーム (OS/2、Windows NT、Windows 95 など) の規則は次の通りです。

1. パスはドライブ名でなければなりません。
2. ドライブが存在しなければなりません。

ユーザーの処置: *dftdbpath* を変更して、コマンドまたは関数呼び出しを再実行してください。

SQL5137N データベース・マネージャ構成ファイル内の、診断ディレクトリー・パス (**diagpath**) が無効です。

説明: *diagpath* によって無効な値が指定されました。診断ディレクトリー・パスの規則は、以下のとおりです。

1. パスはオペレーティング・システムの命名規則に従わなければならない。
2. パスは存在しなければならない。
3. パスは 215 文字以下でなければならない。

ユーザーの処置: *diagpath* を変更して、コマンドまたは関数呼び出しを再実行してください。

SQL5140N データベース・マネージャ構成パラメーター “**authentication**” の項目は、**SERVER**、**CLIENT**、**DCS**、**DCE**、**KERBEROS**、**SERVER_ENCRYPT**、**DCS_ENCRYPT**、**DCE_SERVER_ENCRYPT**、または **KRB_SERVER_ENCRYPT** のいずれかでなければなりません。

説明: 構成パラメーター “*authentication*” として許可されている値は以下のとおりです。

- **SERVER** = 0
- **CLIENT** = 1
- **DCS** = 2
- **DCE** = 3
- **SERVER_ENCRYPT** = 4
- **DCS_ENCRYPT** = 5
- **DCE_SERVER_ENCRYPT** = 5
- **KERBEROS** = 7
- **KRB_SERVER_ENCRYPT** = 8

要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: “*authentication*” に有効な値を使用して、コマンドを再実行してください。

SQL5141N 構成パラメーター **avg_appls** が範囲を超えています。有効な範囲は **1** から **maxappls** の値までです。

説明: *avg_appls* の許容範囲は、1 から *maxappls* の値までです。

要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: 以下の 1 つ以上を行ってください。

- *avg_appls* の値を、有効な範囲の値に変更してください。
- *maxappls* の値をもっと大きな値にした後で、もう一度 *avg_appls* を設定してください。

SQL5142N 構成パラメーター **agentpri** が有効範囲にありません。

説明: *agentpri* の有効な値は -1 か、または 3 桁の数字で、最初の桁が 2 から 4 までの範囲の優先順位クラス、最後の 2 桁がクラス内の 00 から 31 までの範囲の優先順位レベルです。優先順位クラスは、以下のように定義されています。

- 2 REGULAR
- 3 TIMECRITICAL
- 4 FOREGROUNDSERVER

たとえば、番号 304 は、優先順位レベル 4 を持つ優先順位クラス 3 (TIMECRITICAL) に対応します。

ユーザーの処置: 構成パラメーターの値を、有効範囲内の値に変更してください。

SQL5150N 構成パラメーター "**<parameter>**" に指定された値は、"**<minimum value>**" の最小許可可能値以下です。

説明: この要求は、"**<parameter>**" に与えられた値が小さすぎるため、完了していません。

"**<parameter>**" は "**<minimum value>**" より小さくしてはいけません。

ユーザーの処置: "**<parameter>**" の指定された値が有効範囲内にあるかを確認し、要求を再試行してください。

SQL5151N 構成パラメーター "**<parameter>**" に指定された値は、"**<minimum value>**" の最小許可可能値以下および -1 ではありません。

説明: この要求は、"**<parameter>**" に与えられた値が無効のため、完了していません。-1 の許可可能値以外で、"**<parameter>**" は "**<minimum value>**" 以下であってはいけません。

ユーザーの処置: "**<parameter>**" の指定された値

が有効範囲内にあるかを確認し、要求を再試行してください。

SQL5152N 構成パラメーター "**<parameter>**" に対して指定された値が "**<maximum value>**" の最大許可値より大きくなっています。

説明: この要求は、"**<parameter>**" に与えられた値が大きすぎるため、完了していません。

"**<parameter>**" は "**<maximum value>**" 以上であってはいけません。

ユーザーの処置: "**<parameter>**" の指定された値が有効範囲内にあるかを確認し、要求を再試行してください。

SQL5153N 次の関係が違反している恐れがあるため更新を完了できません。
"**<condition>**"

説明: 有効な構成ファイルは次の関係を保守していなくてはなりません。

"**<condition>**"

更新要求は、構成の結果が関係に違反しているため、完了できませんでした。

ユーザーの処置: 要求を再実行依頼し、適切な関係であるかを確認してください。

SQL5154N "認証" と "**<parameter>**" に対する要求された構成値の結合は、許可されていません。

説明: このデータベース・マネージャー構成パラメーター "authentication" は、"**<parameter>**" の値が非デフォルトの場合、値 "CLIENT" がなくてはなりません。

要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: 有効な構成パラメーターの値の組み合わせを使用して、コマンドを再度実行してください。

SQL5155W 更新が正常に完了しました。
SORTHEAP の現行値がパフォーマンスに反対に影響を及ぼす可能性があります。

説明: SORTHEAP の値が、現在、データベース・マネージャー構成パラメーター SHEAPTHRES の値の半分より、大きくなっています。これは、パフォーマンスが最適状態より悪くなる原因となる可能性があります。

ユーザーの処置: データベース・マネージャー構成パラメーター SHEAPTHRES の値を増やすか、または SHEAPTHRES が少なくとも SORTHEAP の 2 倍の大きさになるように SORTHEAP の値を減らす、あるいはその両方を行ってください。

大きい方の比率が、たいいていの場合、望ましい値です。構成パラメーターの調整の推奨については、管理の手引きを参照してください。

SQL5156N データベース・マネージャー構成パラメーター **"trust_allclnts"** の値は、**NO**、**YES**、または **DRDAONLY** のいずれかでなければなりません。

説明: 構成パラメーター **"trust_allclnts"** として許可されている値は以下のとおりです。

- NO = 0
- YES = 1
- DRDAONLY = 2

要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: **"trust_allclnts"** に有効な値を使用して、コマンドを再実行してください。

SQL5180N DB2 は、統合構成ファイル **"<file-name>"** を読み取ることができません。

説明: 統合構成ファイルが見つからなかったか、または読み取りのためにオープンできませんでした。

ユーザーの処置: DB2_DJ_INI レジストリー変数に統合構成ファイルを指定してください。ファイルが存在し、読み取り可能であることを確認してください。

SQL5181N 統合構成ファイル **"<file-name>"** で、行 **"<line-number>"** の形式が無効です。

説明: 示されている行は正しい形式ではありません。形式は **<variable-name> = <value>** でなければなりません。

ユーザーの処置: ここで説明されている形式で指定してください。

SQL5182N 必須環境変数 **"<variable-name>"** が設定されていません。

説明: 統合構成ファイルにおいて、環境変数 **"<variable-name>"** がリストされていないか、あるいはリストされていても値がありません。

ユーザーの処置: 管理の手引きを参照して、環境変数 **"<variable-name>"** に割り当てることができる値について調べてください。さらに db2set コマンドを使用し、この値を目的の値に設定してください。

SQL5185N **"<server-type>"** データ・ソースへのパススルーはサポートされていません。

説明: パススルー機能は、**"<server-type>"** データ・ソースにアクセスするために使用できません。

ユーザーの処置: 必要ありません。

sqlcode: -5185

sqlstate: 428EV

SQL6000 - SQL6099

SQL6000N QMF データの DB2 変換。

説明: これは正常な終了メッセージです。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL6001N ファイル名に接頭部が指定されていません。

説明: SQLQMF 機能コマンドが使用されず、直接 SQLQMF 機能のモジュールが実行されました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 提供されている SQLQMF 機能コマンドを使用してください。

SQL6002N コミュニケーション・マネージャーで、ダウンロード・エラーが発生しました。

説明: コミュニケーション・マネージャーが、ホスト・ファイルをダウンロードしている時にエラーを見つけました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: コミュニケーション・マネージャー・メッセージ・ログを調べてください。

SQL6003N QMF からエクスポートされたファイルに、長すぎる行があります。その行の長さは“<number>”です。

説明: 計算された行のサイズ (計算された列のサイズの合計) が、最大値の 7000 バイトを超えています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: QMF ホスト・セッションに戻って、データ列の少ない照会を実行してください。再度データを EXPORT (エクスポート) し

た後で、SQLQMF 機能コマンドを発行してください。

SQL6004N “<function>” が予期しない戻りコード “<code>” を返しました。

説明: 処理中に、予期しないエラーが起きました。コミュニケーション・マネージャーまたは DB2 が、正しくインストールされていないか、または正しく構成されていない可能性があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: コミュニケーション・マネージャーがインストールされ、適切なホスト通信セッションが活動状態になっていることを確認してください。他のエラーの有無をチェックして、コマンドを再実行してください。問題が続く場合は、コミュニケーション・マネージャーのシステム管理者に連絡してください。

SQL6005N ダウンロードされた QMF ファイルの読み取り中に、エラーが発生しました。

説明: 次のいずれかの状態が発生しました。

- ファイルをオープンできません。
- 早すぎるファイルの終わりが見つかりました。
- ファイルの読み取り中に、入出力エラーが起きました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: コミュニケーション・マネージャー・メッセージ・ログを調べてください。コマンドを再発行してください。エラーが続く場合は、コミュニケーション・マネージャーのシステム管理者に連絡してください。

SQL6006N 出力ファイルへの書き込み中に、エラーが発生しました。

説明: 次のいずれかの状態が発生しました。

- データを書き込む C: ドライブに、十分なスペースがありません。
- 出力ファイルがオープンできませんでした。
- ファイルの書き込み中に、入出力エラーが起きました。
- ファイルをクローズするときに、入出力エラーが発生しました。
- ファイルが別の OS/2 プロセスで使用されています。

連合システム・ユーザー: db2djlink 出力を保持するために十分なスペースがありません。 db2djlink が作成し、使用する一時ファイルには、さらにスペースが必要です。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: C: ドライブ上に、十分なディスク・スペースがあることを確認してください。コマンドを再発行してください。

連合システム・ユーザー: 連合サーバーがインストールされているファイル・システムのサイズを増やしてください。 AIX オペレーティング・システムで db2djlink に必要なフリー・スペースの量を見積もるには、次のコマンドを実行します。

```
ls -e /install_directory/lib/libdb2euni.a
```

このコマンドはリストされたファイルに使用されているバイト数を返します。その数値を 3 倍にしてください。その結果が、ファイル・システムに必要なフリー・スペースの見積値です。必要に応じてファイルシステムのサイズを増加し、コマンドを再実行してください。

SQL6007N 行 “<row>”、列 “<column>” の 10 進数値を ASCII に変換できません。

説明: 示されている 10 進数フィールドが変換できませんでした。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ホスト列のデータ・タイプが

DECIMAL であることを確認してください。 QMF EXPORT を再実行した後で、再度 SQLQMF 機能 コマンドを発行してください。エラーが続く場合は、示された列を使用しないで QMF 照会を再実行してください。

SQL6008N コマンドに指定されたファイルは QMF データ形式ではありません。

説明: filename パラメーターによって指定されたファイルが、予期された QMF 形式ではありません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 名前を正しくタイプしたことを確認してください。名前が正しい場合は、QMF ホスト・セッションに戻って、コマンド EXPORT DATA TO filename を再発行してください。 QMF データ形式を使用して、エクスポートする必要があります。

SQL6009N QMF からエクスポートされたファイルに、長すぎる幅 “<width>” の列 “<name>” があります。列の最大幅は 4000 バイトです。

説明: ダウンロードされた QMF ファイルが、4000 バイトを超す幅を持つ列を含んでいます。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: QMF ホスト・セッションに戻り、示された列を指定せずに QMF 照会を再実行して、もう一度データをエクスポートしてください。その後で、SQLQMF 機能コマンドを再実行してください。

SQL6010N ダウンロードされた QMF ファイルには、255 を超えるデータ列があります。

説明: 処理されているファイルには、255 以上のデータ列が入っています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: QMF ホスト・セッションに戻り、データ列を 255 以下にして照会を再実行してください。再びデータを EXPORT (エクスポート) して、SQLQMF 機能コマンドを再実行してください。

SQL6011N 列 “<name>” (“<number>” 桁目) のデータ・タイプ “<number>” (“<type-text>”) は処理できません。

説明: QMF ファイルに、サポートされていないデータ・タイプの列が入っています。

SQLQMF 機能は以下のデータ・タイプをサポートしていません。

- LONG VARCHAR
- LONG VARGRAPHIC

SQLQMF 機能 SQLQMFDB のみが、グラフィック・データ・タイプをサポートします。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: QMF ホスト・セッションに戻り、示された列を選択しないで照会を再実行してください。その後で、SQLQMF 機能コマンドを再実行してください。

SQL6012N コマンドに指定したパラメーターが多すぎます。

説明: コマンドに指定したパラメーターが多すぎます。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 正しい数のパラメーターを指定して、コマンドを再発行してください。

SQL6013N ホスト・ファイル名 “<host filename>” が長すぎるか、または英字で始まっていません。

説明: *host filename* が英字で始まっていないか、またはホストが VM システムの場合は *host*

filename、*filetype*、または *filemode* が長すぎます。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 正しい *host filename* 構文を使用して、コマンドを再発行してください。

SQL6014N 無効なコマンド構文、コロンの (':') をキーワードの後に続ける必要があります。

説明: オペランドを持つキーワード・パラメーターには、すぐ後に “:” 文字が続き、その後にオペランドが続くキーワードが必要です。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: コマンド構文を確認して、コマンドを再発行してください。

SQL6015N キーワードが認識されません。

説明: キーワード・パラメーター標識 (“/”) の後に、キーワードではない値が続いています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 別のキーワードの値を使用して、コマンドを再発行してください。

SQL6016N システム/370 ファイル名 “<name>” のオペランドが多すぎます。

説明: ホストが VM システムの場合は、ホスト・ファイル名に、3 つ以上のスペース分離トークンが入っています。ホストが MVS システムの場合は、ホスト・ファイル名に、組み込みブランクが入っています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 別のキーワードの値を使用して、コマンドを再発行してください。

SQL6017N 追加情報が、インポート・メッセージ・ログ “<name>” に含まれている可能性があります。

説明: データベースの IMPORT 操作が、警告またはエラー・メッセージとともに終了しました。

コマンドは作業ファイルを割り振ったまま残しています。

ユーザーの処置: このメッセージに先行するメッセージと、存在する場合は、IMPORT メッセージ・ログを使用して、IMPORT が成功したかどうかを判別し、リカバリー処置を決定してください。インポートが成功した場合は、DEL、CRE、COL、IML ファイルを消去してください。

SQL6018N S/370 ファイル名が指定されていません。

説明: S/370 ファイル名は必須パラメーターです。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ホスト・ファイル名を指定して、コマンドを再発行してください。

SQL6019N 通信簡略セッション ID “<ID>” が長すぎるか、または無効です。

説明: 通信簡略セッション ID に指定された値が、1 バイトより長い、または英字ではありません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効な値を使用して、コマンドを再発行してください。

SQL6020N データベース名を指定せずに、インポート・オプションが指定されました。

説明: データベース名が指定されずに、インポート・オプションが指定されました。

コマンドは終了します。

ユーザーの処置: データベース名を指定して、コマンドを再発行してください。

SQL6021N データのインポートが成功しました。

説明: これは、SQLQMF 機能がデータをデータベースにインポートしたときの通常の終了メッセージです。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

SQL6022N システム・データベース・ディレクトリは、すべてのノードによって共有されていません。

説明: すべてのノードが、システム・データベース・ディレクトリーの 1 つの物理コピーにアクセスする必要があります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: sqllib ディレクトリーに常駐するすべてのノードがシステム・データベース・ディレクトリーにアクセスしていることを確認して、要求を再試行してください。

SQL6023N このユーザーは、表 “<name>” で **Get Table Partitioning Information** ユーティリティーを実行する権限を持っていません。

説明: ユーザーは、適切な権限がないのに (SYSADM、DBADM または CONTROL または表の SELECT 特権) 指定された表で区分情報を検索しようとした。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: 適切な権限なしで、GET Table Partitioning 情報ユーティリティーを呼び出そうとしないでください。操作については、システム管理者に連絡してください。

SQL6024N 表または索引 <name> がノード <node-number> で定義されていません。

説明: アプリケーションはノード "<node-number>" に接続しており、表または索引 "<name>" が定義されていません。

原因は以下のいずれかです。

- アプリケーションが接続しているノードは、表または索引が作成されたノード・グループのメンバーではありません。
- そのノード・グループはノードを使用していません。

ユーティリティーは処理を停止します。

ユーザーの処置: アプリケーション、表または索引が定義されたノードに接続してください。表が作成されたノード・グループを判別して、NODEGROUPDEF カタログ・ビューから適切な行を選択して、ノードのリストを獲得してください。IN_USE 値が Y に設定されるノードは、表または索引を定義するノードです。

SQL6025N ノード "<node1>" のデータベース・バックアップをノード "<node2>" に復元できません。

説明: 復元に使用されるバックアップ・イメージは、データベースの別のノードでのバックアップです。

ユーザーの処置: ノードの正しいバックアップ・イメージがあるかを確認して、要求を再試行してください。

SQL6026N カタログ・ノード "<node1>" を伴うデータベースをカタログ・ノード "<node2>" を伴うデータベースに復元できません。

説明: カタログ・ノードは、1 つのノードだけに存在するため、バックアップ・イメージと復元さ

れたノード間に相違があります。これは、次の場合発生します。

- バックアップ・イメージ指定のカタログ・ノード "<node1>" および復元を、カタログ・ノードが ノード "<node2>" の既存のデータベースで試行しようとしてしました。
- 復元を新規データベースで試行して、カタログ・ノードは先に復元されませんでした。(すべてのノードでデータベースを作成するため、先にカタログ・ノードを復元してください。)

ユーザーの処置: 正しいバックアップ・イメージが復元されたことを検証してください。

既存のデータベースに復元していて、カタログ・ノードを "<node2>" に変更したい場合は、先に既存のデータベースをドロップする必要があります。

新規データベースに復元している場合は、カタログ・ノード "<node1>" を先に復元してください。

SQL6027N データベース・ディレクトリーのパス "<path>" が無効です。

説明: CREATE DATABASE または CATALOG DATABASE コマンドに指定されたパス "<path>" が文字 '.' で始まっているか、または文字ストリング './' を含んでいます。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 指定されたパスが完全修飾パスで、最初の文字が '.' ではなく、文字ストリング './' を含んでいないことを確認してください。そのあと要求を再試行してください。

SQL6028N カタログ・データベースはデータベース "<dbname>" がローカル・データベース・ディレクトリーに見つからないため失敗しました。

説明: システム・データベース・ディレクトリーにローカル・データベースをカタログするとき、コマンド/API はデータベースが常駐するサーバー上のノードから発行される必要があります。

ユーザーの処置: データベースが常駐するノードから、コマンド/API を再度発行してください。

SQL6030N START または STOP DATABASE MANAGER が失敗しました。理由コードは "<reason-code>"。

説明: 理由コードはエラーの起きたことを示しています。ステートメントは処理できません。

- (1) インスタンスの sqllib ディレクトリーにアクセスできません。
- (2) プロファイル・ファイル名に追加した全パス名が長すぎます。
- (3) そのプロファイル・ファイルをオープンできません。
- (4) nodenum パラメーター値が、sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルに定義されていません。
- (5) nodenum パラメーターは、コマンド・オプションが指定されるときに指定するようにしてください。
- (6) ポート・パラメーター値が無効です。
- (7) 新規のホスト名 / ポートの対が固有なものではありません。
- (8) FORCE オプションを NODENUM オプションが指定されるときに、指定できません。
- (9) ホスト名およびポート・パラメーターは、ADDNODE オプションを使用しているときに、指定されなくてはなりません。
- (10) ADDNODE または RESTART オプションに対し sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルを更新できません。
- (11) ホスト名パラメーターの値が無効です。
- (12) sqledbstrtopt または sqledbstopopt 構造のポインターが無効です。
- (13) ポートの値が、ご使用の DB2 インスタンス ID (UNIX 基底システムの /etc/services ファイル) に定義されていません。
- (14) ポートの値が、ご使用の DB2 インスタンス ID (UNIX 基底システムの /etc/services ファイル) の有効ポート範囲に定義されていません。
- (15) ホスト名の値は、sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルに定義されている対応するポート 0 がありません。
- (16) このコマンドまたはパラメーターに指定された値が無効です。
- (17) NODENUM オプションが指定されないときは、DROP オプションを指定できません。
- (18) callerac パラメーターに対して指定された値が無効です。
- (19) UNIX ソケット・ディレクトリー /tmp/db2_<ver>_<rel>/\$DB2INSTANCE を作成できません。
- (20) ADDNODE オプション付きで指定されたノード番号は、db2nodes.cfg ファイルにすでに存在しているか、あるいは最後にデータベース・マネージャーの停止コマンドが実行されてから、ノードがすでに追加されているかのどちらかです。
- (21) ADDNODE オプション付きで指定された表スペースのタイプは無効です。
- (22) ADDNODE 付きで指定された表スペースのノードは範囲外です。
- (23) コンピューター名パラメーターを ADDNODE オプションで指定する必要があります。
- (24) ユーザー名パラメーターを ADDNODE オプションで指定する必要があります。
- (25) コンピューター名が無効です。
- (26) ユーザー名が無効です。

- (27) パスワードが無効です。
- (28) パスワードが期限切れです。
- (29) 指定されたユーザー・アカウントが、使用不可か、期限切れか、または制限付きです。

ユーザーの処置: 理由コードに対応する処置は、次のとおりです。

- (1) \$DB2INSTANCE ユーザー ID に そのインスタンスの sqllib ディレクトリーにアクセスする必須許可があるかを確認してください。
- (2) プロファイル名に追加される完全修飾パスの合計が、ファイル sqlelv.h で定義された SQL_PROFILE_SZ より小さくするために、プロファイル名を短い名前に変更してください。
- (3) プロファイル・ファイルが存在しているかを確認してください。
- (4) sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルに nodenum 値が定義されており、その値が 0 と 999 の間であることを確認してください。
- (5) nodenum パラメーターを指定して、コマンドを再度実行してください。
- (6) ポート値が 0 と 999 の間にあることを確認してください。値が指定されない場合、そのポート値は デフォルト値の 0 にセットされます。
- (7) sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルに新規のホスト名 / ポートの対がすでに定義されているかを確認してください。
- (8) NODENUM オプションを指定するときに FORCE オプションを指定しないでください。
- (9) ホスト名およびポート値が、ADDNODE オプションを指定するときに指定されていることを確認してください。
- (10) \$DB2INSTANCE ユーザー名にそのインスタンスの sqllib ディレクトリーへの書き込みアクセス、十分なディスク・スペースがあり、ファイルが存在しているかを確認してください。
- (11) 指定されたホスト名がシステムに定義されているかを確認してください。
- (12) ポインターがヌルで sqlepstr() API の sqleldbstrtopt を指しているまたは、sqlepstr() API の sqleldbstrtopt 構造を指しているかを確認してください。
- (13) サービス・ファイル (UNIX 基底システムの /etc/services) にご使用の DB2 インスタンス ID の項目が入っているかを確認してください。
- (14) ご使用のインスタンスのサービス・ファイル (UNIX 基底システムの /etc/services) に定義されているポート値のみを使用しているかを確認してください。
- (15) すべてのホスト名値が、再始動オプションの入った sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルに定義されているポート 0 を持っているかを確認してください。
- (16) オプション・パラメーターの指定された値が有効範囲内にあるかを確認してください。
- (17) DROP オプションを指定するときに NODENUM オプションを指定してください。
- (18) callerac パラメーターに対して指定された値が有効範囲内にあるかを確認してください。
- (19) すべての中間ディレクトリー /tmp/db2_<ver>_<rel>/\$DB2INSTANCE を作成できるかどうか確認するために、/tmp ファイル・システムの許可を検査してください。

- (20) 正しいノード番号を指定しているかどうか確認してください。 データベース・マネージャーを停止して、db2nodes.cfg ファイルを、前のデータベース・マネージャー停止コマンドからシステムに追加されたノードを使用して更新してください。
- (21) 表スペース・タイプに対して指定された値が有効範囲内にあるかを確認してください。
- (22) db2nodes.cfg ファイルに表スペース・ノード値が定義されており、その値が 0 と 999 の間であることを確認してください。
- (23) COMPUTER オプションを使用して、新規ノードを作成するシステムのコンピューター名を指定してください。
- (24) USER および PASSWORD オプションを使用して、新規ノードの有効なドメイン・アカウント・ユーザー名とパスワードを指定してください。
- (25) 有効なコンピューター名を使用して、コマンドを再発行してください。
- (26) 有効なユーザー名を使用して、コマンドを再発行してください。
- (27) 有効なパスワードを指定して、コマンドを再発行してください。
- (28) アカウント・パスワードを変更 / 更新して、コマンドを再発行してください。
- (29) 有効なユーザー・アカウントを使用して、コマンドを再発行してください。

テートメントを処理できません。

- (1) インスタンスの sqllib ディレクトリーにアクセスできません。
- (2) db2nodes.cfg ファイル名に追加した全パス名が長すぎます。
- (3) sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルをオープンできません。
- (4) sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルの行 "<line>" に構文エラーが存在しています。
- (5) sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルの行 "<line>" の nodenum 値が無効です。
- (6) sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルの行 "<line>" の nodenum 値が順序外です。
- (7) sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルの行 "<line>" の nodenum 値が固有ではありません。
- (8) sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルの行 "<line>" のポート値が無効です。
- (9) sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルの行 "<line>" のホスト名 / ポートの対が固有ではありません。
- (10) sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルの行 "<line>" のホスト名が無効です。
- (11) sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルの行 "<line>" のポートの値がサービス・ファイル (UNIX 基底システムの /etc/services) の DB2 インスタンスに対して定義されていません。
- (12) sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルの行 "<line>" のポートの値がサービス・ファイル (UNIX 基底システム

SQL6031N db2nodes.cfg ファイルの行番号 "<line>" で エラーがありました。
理由コードは "**<reason code>**" です。

説明: 以下の理由コードによって示されているような db2nodes.cfg ファイルの問題のため、このス

の /etc/services) の DB2 インスタンスに対して有効なポート範囲に定義されていません。

- (13) sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルの行 "<line>" のホスト名の値が対応するポート 0 を持っていません。
- (14) 複数の項目を伴う db2nodes.cfg ファイルが存在しますが、データベース・マネージャ構成は MPP ではありません。
- (15) sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg ファイルの行 "<line>" にあるネット名が無効です。

ユーザーの処置: 理由コードに対応する処置は、次のとおりです。

- (1) \$DB2INSTANCE ユーザー ID に そのインスタンスの sqllib ディレクトリーにアクセスする必須許可があるかを確認してください。
- (2) インスタンス・ホーム・ディレクトリーのパス名を短くしてください。
- (3) db2nodes.cfg ファイルが sqllib ディレクトリーに存在し、空でないことを確認してください。
- (4) 少なくとも 2 つの値が db2nodes.cfg ファイルの行ごとに定義され、そのファイルに空白行がないことを確認してください。
- (5) db2nodes.cfg ファイルに nodenum 値が定義されており、その値が 0 と 999 の間であることを確認してください。
- (6) db2nodes.cfg ファイルに定義されているすべての nodenum 値が昇順であることを確認してください。
- (7) db2nodes.cfg ファイルに定義されている各 nodenum 値が固有であることを確認してください。
- (8) ポート値が 0 と 999 の間にあることを確認してください。

- (9) db2nodes.cfg ファイルに新規のホスト名 / ポートの対がすでに定義されているかを確認してください。
- (10) 行 "<line>" の db2nodes.cfg に定義されているホスト名の値がシステムに定義され、操作可能であることを確認してください。
- (11) サービス・ファイル (UNIX 基底システムの /etc/services) にご使用の DB2 インスタンス ID の項目が入っているかを確認してください。
- (12) ご使用のインスタンスのサービス・ファイル (UNIX 基底システムの /etc/services) に定義されているポート値のみを使用しているかを確認してください。
- (13) ポート値 0 が db2nodes.cfg ファイルのホスト名に対応して定義されているかを確認してください。
- (14) 以下のいずれかの処置を実行してください。
 - db2nodes.cfg ファイルを除去する。
 - db2nodes.cfg ファイルを更新し、項目を 1 つだけ入れる。
 - DB2 エンタープライズ拡張エディション・サーバーをインストールする。
- (15) db2nodes.cfg の行 "<line>" に定義されているネット名の値がシステムに定義され、操作可能であることを確認してください。

SQL6032W 開始コマンド処理を
"`<total_number>`" ノードで試行
しました。"`<number_started>`" ノ
ードは正常に開始されました。
"`<number_already_started>`" ノ
ードはすでに開始されています。
"`<number_not_started>`" ノード
は開始することができませんで
した。

説明: このデータベース・マネージャーはすべてのノードで正常に開始しませんでした。このデータベースのすべてのデータがアクセス可能でないかもしれません。正常に開始されている、あるいはすでに実行していたノードのデータがアクセス可能です。

ユーザーの処置: どのノードが開始していないか調べるインスタンスに関して、`sqllib` ディレクトリーのログ・ディレクトリーで作成されるログ・ファイルをチェックしてください。

SQL6033W 停止コマンド処理を
"`<total_number>`" で試行しまし
た。"`<number_stopped>`" ノード
は正常に停止しました。
"`<number_already_stopped>`" は
すでに停止されていました。
"`<number_not_stopped>`" ノード
は停止することができませんで
した。

説明: このデータベース・マネージャーはすべてのノードで正常に停止しませんでした。このデータベース・マネージャーは、停止できなかったノードで活動状態のままです。

ユーザーの処置: どのノードが停止していないか調べるインスタンスに関して、`sqllib` ディレクトリーのログ・ディレクトリーで作成されるログ・ファイルをチェックしてください。

SQL6034W ノード "`<node>`" は、ほかのデー
タベースによって使用されていま
せん。

説明: DROP NODE VERIFY 処理中に、すべてのデータベースを走査して、このノードが、どのデータベースのノード・グループにも存在せず、イベント・モニターも定義されていないか調べてください。

ユーザーの処置: このノードは、'`db2stop drop nodenum <node>`' コマンドを実行して、システムから除去することができます。

SQL6035W ノード "`<node>`" はデータベース
"`<database>`" によって使用されて
います。

説明: DROP NODE VERIFY 処理中に、データベースを走査して、このノードが、どのデータベースのノード・グループにも存在せず、イベント・モニターも定義されていないか調べてください。ノード "`<node>`" はデータベース "`<database>`" で使用中のため、ドロップできません。

ユーザーの処置: ノードをドロップする前に、以下を行う必要があります。

1. データを再分配し、REDISTRIBUTE NODEGROUP コマンドを使用してノードからデータを除去してください。REDISTRIBUTE NODEGROUP コマンドの DROP NODE オプションあるいは、ALTER NODEGROUP ステートメントを使用して、ノード・グループからノードを削除してください。ドロップするノードがメンバーに含まれるすべてのノード・グループに対して、これを実行してください。
2. ノードで定義されているイベント・モニターを削除してください。
3. '`db2stop drop nodenum <node>`' コマンドを実行してノードをドロップしてください。

SQL6036N START または STOP DATABASE MANAGER コマンドはすでに進行中です。

説明: START DATABASE MANAGER または STOP DATABASE MANAGER コマンドはすでにシステム上で進行中です。

ユーザーの処置: 進行中のコマンドの終了を待ち、要求を再試行してください。

SQL6037N START または STOP DATABASE MANAGER タイムアウト値は到達しました。

説明: データベース・マネージャー構成で定義された `start_stop_time` 値がこのノードに達しました。この値は分単位での時間を指定し、ここでは、ノードは Start Database Manager、Stop Database Manager あるいは Add Node コマンドに対応している必要があります。

ユーザーの処置: 次のいずれかを行ってください。

- First Failure Service Log (db2diag.log) で、タイムアウトになったノードについてエラー・メッセージが記録されているかを調べてください。エラーの記録がなく、タイムアウトの問題が残っている場合、データベース・マネージャー構成ファイルで指定された `start_stop_time` の値を増やす必要がある可能性があります。
- タイムアウトが Start Database Manager コマンド中に起きた場合、タイムアウトを起こしているノードすべてに対して、Stop Database Manager コマンドを実行してください。
- タイムアウトが Stop Database Manager コマンド中に起きた場合、タイムアウトを起こしているノードすべてに対して、あるいはすべてのノードに対して Stop Database Manager コマンドを実行してください。既に停止されているノードは、ノードが停止しているという旨のメッセージを戻します。

SQL6038N 区分化キーが定義されていません。

説明: ユーザーが、区分化キーを指定せずに「行区分情報の取得」ユーティリティの使用を試行しました。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 区分化キーを指定し、要求を再試行してください。

SQL6039N 区分列 "<column-number>" は現在ヌル値可能として定義されていません。

説明:ヌル可能ではない区分列 "<column-number>" にヌル値を割り当てようとしてしました。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 非ヌル値を割り当てるか、ヌル可能にするために区分化キーのタイプを変更してください。

SQL6040C FCM バッファは使用可能ではありません。

説明: FCM バッファは使用可能ではありません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 要求を再度試行してください。

エラーが持続する場合、データベース・マネージャー構成ファイルで指定された FCM バッファ (`fcm_num_buffers`) 数を増やし、要求を再試行してください。

sqlcode: -6040

sqlstate: 57011

SQL6041C FCM 接続項目が使用可能ではありません。

説明: FCM 接続項目が使用可能ではありません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 要求を再度試行してください。

エラーが持続する場合、データベース・マネージャー構成ファイルで指定された FCM 接続項目 (*fcm_num_connect*) 数を増やし、要求を再試行してください。

sqlcode: -6041

sqlstate: 57011

SQL6042C FCM メッセージ・アンカーが使用可能ではありません。

説明: FCM メッセージ・アンカーが使用可能ではありません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 要求を再度試行してください。

エラーが持続する場合、データベース・マネージャー構成ファイルで指定された FCM メッセージ・アンカー (*fcm_num_anchors*) 数を増やし、要求を再試行してください。

sqlcode: -6042

sqlstate: 57011

SQL6043C FCM 要求ブロックは使用可能ではありません。

説明: FCM 要求ブロックは使用可能ではありません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 要求を再度試行してください。

エラーが持続する場合、データベース・マネージャー構成ファイルで指定された FCM 要求ブロック (*fcm_num_rqb*) 数を増やし、要求を再試行してください。

sqlcode: -6043

sqlstate: 57011

SQL6044N データ・タイプ "`<datatype-value>`" および長さ "`<length>`" の値を伴うストリング表示構文 "`<string>`" が正しくありません。

説明: 指定されたストリングをターゲット・データベースとして認識できません。(アプリケーション開発の手引きにはデータ・タイプについての情報が記載されています。) 構文が無効か、値が範囲外のいずれかです。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: ストリング表示またはデータ・タイプが正しいことを確認し、要求を再試行してください。

SQL6045N 長さ "`<datatype-length>`" のデータ・タイプ "`<datatype-value>`" はサポートされていません。

説明: このデータ・タイプおよび長さは区分化キーをサポートしていません。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: データ・タイプについては、管理の手引きを参照してください。行区分情報 API の取得についての情報を得るには、API 解説書を参照してください。

SQL6046N 指定された DROP NODE アクションは有効ではありません。

説明: DROP NODE コマンドのアクション・パラメーターに対する指定された値が無効です。確認モードのみが DROP NODE コマンドに対してサポートされています。このパラメーターは、値 SQL_DROPNODE_VERIFY にセットされなくてはなりません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: アクションが SQL_DROPNODE_VERIFY にセットされることを確認し、要求を再試行してください。

SQL6047N 表 “<name>” が区分化キーを持っていないため、ノード・グループを再分配できません。

説明: 単一ノードのノード・グループ内で、少なくとも 1 つの表が区分化キーを持っています。ノード・グループを複数ノードのノード・グループに再分配できるようになる前に、単一ノードのノード・グループ内で、すべての表は区分化キーを持っていないではありません。

操作は実行されません。

ユーザーの処置: ALTER TABLE コマンドを使用して、持っていない表の区分化キーを指定してください。そのあと要求を再実行してください。

SQL6048N START または STOP DATABASE MANAGER 処理中に通信エラーが発生しました。

説明: sqllib/db2nodes.cfg ファイルで定義されたすべてのノードを使用して、START または STOP DATABASE MANAGER コマンドの確立を試行中に TCP/IP コミュニケーション・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 次のいずれかを行ってください。

- ノードが、.rhosts または host.equiv ファイルの正しい権限を持っていることを確認してください。
- このアプリケーションが同時に (500 + (1995 - 2 * total_number_of_nodes)) 以上のファイル記述子を使用していないことを確認してください。
- すべての DB2 エンタープライズ拡張エディション環境変数がプロファイル・ファイルで定義されていることを確認してください。
- プロファイル・ファイルが Korn シェルのスクリプト形式で記述されていることを確認してください。
- すべてのホスト名値が、再始動オプションの入った sqllib ディレクトリーの db2nodes.cfg フ

ァイルに定義されているホスト名を持っているかを確認してください。

SQL6049N データベース “<name>” のログの制御ファイルをノード “<node-list>” で検索できませんでした。

説明: データベースに対する SQLOGCTL.LFH ファイルは指定ノードのデータベース・ディレクトリーにありません。

データベースが開始していません。

“、...” がノード・リストの最後に表示された場合、完全なノード・リストについては、syslog ファイルを参照してください。

ユーザーの処置: 指定ノード上のバックアップからデータベースを復元するか、データベースを作成し直してください。

SQL6050N ノード “<node-list>” のデータベース “<name>” のログ制御ファイルにアクセス中に入出力エラーが発生しました。

説明: 指定ノードのデータベースに対して SQLOGCTL.LFH ファイルにアクセス中にエラーが発生しました。

データベースは使用することができません。

“、...” がノード・リストの最後に表示された場合、完全なノード・リストについては、syslog ファイルを参照してください。

ユーザーの処置: 指定ノード上のバックアップからデータベースを復元するか、データベースを作成し直してください。

SQL6051N データベース "`<name>`" がノード "`<node-list>`" のロールフォワード・リカバリー用に構成されません。

説明: 指定のデータベースが、示されているノードでロールフォワード・リカバリー用に構成されていません。

データベースはすべてのノードでロールフォワードされません。

"、..." がノード・リストの最後に表示された場合、完全なノード・リストについては、syslog ファイルを参照してください。

ユーザーの処置: 指定ノードでリカバリーが必要か確認して、次にこのノードのデータベースのバックアップで最新のバージョンを復元してください。

SQL6052N ノード "`<node list>`" でロールフォワード保留状態にないため、データベース "`<name>`" をロールフォワードできません。

説明: 指定のデータベースは指定ノードでロールフォワード保留状態にありません。これはデータベースが復元されていないか WITHOUT ROLLING FORWARD オプションで復元されたか、ロールフォワード・リカバリーがこのノードで完了したために起こる場合があります。

データベースはロールフォワードされません。

"、..." がノード・リストの最後に表示された場合、完全なノード・リストについては、syslog ファイルを参照してください。

ユーザーの処置: 次のいずれかを行ってください。

1. 指定ノードでリカバリーが必要か確認してください。
2. このノードのデータベースのバックアップ・バージョンを復元してください。

3. ROLLFORWARD DATABASE コマンドを実行してください。

SQL6053N エラーがファイル "`<file>`" にあります。理由コード = "`<reason-code>`" 。

説明: 次に示すように指定ファイルでエラーが起きました。

- (1) 区分化マップ・ファイルの値の数が 1 または 4,096 ではありません。
- (2) 定義ファイルの値の数が 4,096 ではありません。
- (3) 定義ファイルのデータが有効な形式ではありません。
- (4) 区分化マップのノード番号が 0 と 999 の間にありません。
- (5) 定義ファイルの値の合計が 4,294,967,295 より大きくなっています。
- (6) 指定のターゲット区分化マップには指定のノード・グループに対して SYSCAT.NODEGROUPDEF で定義されていないノード番号が含まれます。

ユーザーの処置: 理由コードに対応する処置は、次のとおりです。

- (1) 区分化マップには単一の値のみ、あるいは (結果的にノード・グループが単一ノードのノード・グループの場合) または 4,096 ちょうどの値 (結果的にノード・グループが複数ノードのノード・グループの場合) が入っていることを確認してください。
- (2) 分散ファイルにはハッシュ区分ごとに 4,096 ちょうどの値が入っていることを確認してください。
- (3) 分散ファイルの値が 0 より大きいか等しい整数で、すべての分散値の合計が 4,294,967,295 以下であることを確認してください。

- (4) ノード番号が 0 より大きいか等しい、あるいは 999 と等しいか少ない範囲にあることを確認してください。
- (5) 4,096 区分に対するすべての分散値の合計は 4,294,967,295 より大きいか同じです。
- (6) ALTER NODEGROUP を発行して抜けているノードを追加するか、あるいは区分化マップ・ファイルを変更して sysibm.sysnodegroupdef で定義されていないノードを排除してください。

SQL6054N アーカイブ・ファイル "`<name>`" はノード "`<node-number>`" のデータベース "`<name>`" のログ・ファイルは有効ではありません。

説明: アーカイブ・ログ・ファイルが指定ノードのログ・ディレクトリーにあります。有効ではありません。

ROLLFORWARD DATABASE 処理を停止します。

ユーザーの処置: 正しいアーカイブ・ログ・ファイルを判別するには、QUERY STATUS オプションを付けて、ROLLFORWARD DATABASE コマンドを実行してください。正しいアーカイブ・ログ・ファイルをデータベース・ログ・ディレクトリーに移動するか、あるいは、データベースが整合状態にある場合、ログ・パスを正しいアーカイブ・ファイルを示すように変更して再び ROLLFORWARD DATABASE コマンドを実行してください。

SQL6055N アーカイブ・ファイル "`<name>`" はノード "`<node-number>`" のデータベース "`<name>`" に属していません。

説明: 指定ノードにあるログ・ディレクトリーのアーカイブ・ログ・ファイルは、指定のデータベースに属していません。

ROLLFORWARD DATABASE 処理を停止します。

ユーザーの処置: 正しいアーカイブ・ログ・ファイルを判別するには、QUERY STATUS オプションを付けて、ROLLFORWARD DATABASE コマンドを実行してください。正しいアーカイブ・ログ・ファイルをデータベース・ログ・ディレクトリーに移動するか、あるいは、データベースが整合状態にある場合、ログ・パスを正しいアーカイブ・ファイルを示すように変更して再び ROLLFORWARD DATABASE コマンドを実行してください。

SQL6056N ノード・グループを再配布できません。理由コード = "`<reason-code>`"。

説明: 処理は実行できません。理由コードはエラーの起きたことを示しています。

- (1) ノード・グループの指定が正しくありません。再分散後の結果ノード・グループにはノードが入っていません。
- (2) 前の再分散処理が正常に完了していませんでした。
- (3) 再分散処理がすでに進行中です。
- (4) CONTINUE または ROLLBACK に対して前に異常終了した再分散コマンドはありません。
- (5) ノード・グループのデータが指定されたようにすでに再分散されているため、データの再分散は実行されません。
- (6) REDISTRIBUTE NODEGROUP コマンドはカタログ・ノードから再実行依頼されていません。
- (7) REDISTRIBUTE NODEGROUP コマンドは製品の非区分バージョンでは使用可能でないか、適用できません。
- (8) 既存の宣言された一時表を持つノード・

グループにユーザー一時表スペースが存在する場合、再分散は許可されていません。

ユーザーの処置: 理由コードに対応する処置は、次のとおりです。

- (1) 再分散中にノード・グループのすべてのノードをドロップしないでください。
- (2) 前の再分散が失敗した原因を調べ、必要な訂正処置をとります。CONTINUE または ROLLBACK オプションを使用して、REDISTRIBUTE NODEGROUP コマンドを実行してください。CONTINUE で、前に異常終了した再分散処理を完了し、ROLLBACK で前に異常終了した処理の影響を取り消します。
- (3) 現行コマンド終了後に、次の REDISTRIBUTION NODEGROUP コマンドを実行します。
- (4) 失敗した再分散処理に関係のないノード・グループで CONTINUE または ROLLBACK オプションを使うことはできません。
- (5) 別のターゲット区分化マップあるいは再分散ファイルを使用してみてください。使用しない場合、再分散は不要です。
- (6) カタログ・ノードからコマンドを再発行してください。
- (7) 製品のこのバージョンを使用する REDISTRIBUTE NODEGROUP コマンドを実行しないでください。
- (8) ユーザー一時表スペースを使用している宣言された一時表がノード・グループに存在しない状態で、再分散をもう一度要求してください。

SQL6057N アーカイブ・ファイル "`<name>`" は復元されたデータベース "`<name>`" または前もってノード "`<node-number>`" で処理されたログ・ファイルに関係付けられていません。

説明: アーカイブ・ログ・ファイルは、指定ノードのログ・ディレクトリで見つかりません。

ROLLFORWARD DATABASE 処理を停止します。

ユーザーの処置: 正しいアーカイブ・ログ・ファイルを判別するには、QUERY STATUS オプションを付けて、ROLLFORWARD DATABASE コマンドを実行してください。正しいアーカイブ・ログ・ファイルをデータベース・ログ・ディレクトリに移動するか、あるいは、データベースが整合状態にある場合、ログ・パスを正しいアーカイブ・ファイルを示すように変更して再び ROLLFORWARD DATABASE コマンドを実行してください。

SQL6058N ノード "`<node-number>`" のデータベース "`<name>`" のログ・ファイル "`<name>`" を検索中に、エラー "`<error>`" のためロールフォワード・リカバリーが停止しました。

説明: ロールフォワード処理は、`db2uexit` を呼び出して、指定ノードのデータベースに対するログ・ファイルを検索します。このエラーは `db2uexit` で起きた可能性があります。

ROLLFORWARD DATABASE 処理を停止します。

ユーザーの処置: 管理の手引きにあるユーザー出口文書のエラー記述を調べて、ロールフォワード・リカバリーを再開または終了してください。

SQL6059N ノード "`<node-list>`" のデータベース "`<name>`" が指定された時間より後の情報を含んでいるために、ロールフォワード・ユーティリティに渡された指定時刻は、"`<timestamp>`" より大きいか同等でなくてはなりません。

説明: 拡張仮想タイム・スタンプがデータベース・バックアップにあります。

"、..." がノード・リストの最後に表示された場合、完全なノード・リストについては、syslog ファイルを参照してください。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを実行してください。

- "`<timestamp>`" より大きいか等しい時刻でコマンドを再発行します。
- ノードの前のバックアップを復元して、ROLLFORWARD DATABASE コマンドを再発行します。

SQL6061N ノード "`<node-list>`" のログ・ファイルがないため、データベース "`<name>`" のロールフォワード・リカバリーは、指定された停止ポイント (ファイルの終わりまたは、指定時間) に達することができません。

説明: ロールフォワード・データベース・ユーティリティが、ログ・パスに必要なログ・ファイルで見つかりません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを実行してください。

- ROLLFORWARD DATABASE コマンドと QUERY STATUS オプションを一緒に使用してどのログ・ファイルが欠落したかを判別してください。ログ・ファイルが見つかったとき、それらをログ・パスに入力して、前方リカバリーを再開してください。
- ログ・ファイルが見つからない場合、すべてのノードのデータベースを復元して、最も早く欠

落したログ・ファイルより早いタイム・スタンプを使用して、時間点リカバリーを実行してください。

SQL6062N データベース "`<name>`" のロールフォワード・リカバリーは、ノード "`<node-list>`" のログ情報がカタログ・ノードの対応レコードと一致しないため、完了できません。

説明: ロールフォワード・ユーティリティは、それぞれのノードで見つかったログ・ファイルを処理しましたが、指定されたノードとカタログ・ノードの対応レコードの停止点が一致しません。原因は、カタログ・ノードまたは指定されたノード・ファイルが欠落したか、またはカタログ・ノードがロールフォワードされるノード・リストに含まれることです。

ROLLFORWARD DATABASE 処理を停止します。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを実行してください。

- カatalog・ノードをロールフォワードする必要があるかをチェックしてください。必要がある場合、ROLLFORWARD コマンドを再び実行依頼して、カタログ・ノードを追加してください。
- ROLLFORWARD DATABASE コマンドと QUERY STATUS オプションを一緒に使用してどのログ・ファイルが欠落したかを判別してください。ログ・ファイルが見つかったとき、それらをログ・パスに入力して、前方リカバリーを再開してください。
- ログ・ファイルが見つからない場合、すべてのノードのデータベースを復元して、最も早く欠落したログ・ファイルより早いタイム・スタンプを使用して、時間点リカバリーを実行してください。

SQL6063N データベース "`<name>`" でのロールフォワード・リカバリーがログ・ファイル・サイズの変更のため、ノード "`<node-list>`" で停止しました。

説明: ロールフォワード・データベース・ユーティリティは、ログ・ファイルのサイズに変更があったため、ロールフォワードを停止しました。新規のログ・ファイル・サイズを設定するために、再始動する必要があります。

"、..." がノード・リストの終わりに表示されている場合、完全なリストを見るには診断ログを調べてください。

ロールフォワード・リカバリーは停止しました。

(注: 区分データベース・サーバーを使用している場合、ノード番号は、エラーを起しているノードを示しています。そうでない場合、これは関係のないものなので無視してください。)

ユーザーの処置: 処理を続行するには ROLLFORWARD コマンドを再発行してください。

SQL6064N データの再配布中に SQL エラー "`<sqlcode>`" が発生しました。

説明: データの再配布中にエラーが発生しました。

ユーティリティは処理を停止します。

ユーザーの処置: 詳細な情報については、メッセージの SQLCODE (message number) を参照してください。必要とされる変更を実行して、要求を再試行してください。

SQL6065N ファイル "`<file>`" への書き込み中にエラーが検出されました。

説明: 次のいずれかの状態が発生しました。

- ファイルをオープンできません。

- ファイルを書き込み中に、入出力エラーが発生しました。
- ファイルをクローズするときに、入出力エラーが発生しました。

コマンドまたはユーティリティを処理できません。

ユーザーの処置: ファイルが存在すること、およびファイルの書き込みアクセスの許可があることを確認してください。コマンドまたはユーティリティを再試行してください。

SQL6067W ROLLFORWARD DATABASE QUERY STATUS コマンドが SQL コード "`<sqlcode>`" を検出しました。

説明: ROLLFORWARD DATABASE QUERY STATUS コマンドは、SQL コード "`<sqlcode>`" のエラーを検出しました。多数の原因で、いくつかのノードの照会が正常でない可能性があります。最も重大なエラーは "`<sqlcode>`" で指示されます。roll-forward status は正常なノードに対して戻ります。

ユーザーの処置: SQL コード "`<sqlcode>`" について、DB2 メッセージ解説書、またはオンラインを参照して、失敗したノードの問題を判別してください。必要な訂正処置を実行して、これらのノードの前方リカバリーを継続してください。

SQL6068W ロールフォワードの操作は正常に取り消されました。データベースをノード "`<node-list>`" で復元する必要があります。

説明: ロールフォワード操作は、正常に完了する前に取り消されたため、データベースが不整合状態です。リストされたノードの復元ペンディング・フラグがオンの状態です。

"、..." がノード・リストの最後に表示された場合、完全なノード・リストについては、syslog ファイルを参照してください。

ユーザーの処置: リストされたノードのデータベースを復元してください。

SQL6069N ROLLFORWARD DATABASE コマンドは、非カタログ・ノード上で実行依頼できません。

説明: ROLLFORWARD DATABASE コマンドは、カタログ・ノード上のみで実行可能です。

ユーザーの処置: コマンドをカタログ・ノードで実行依頼してください。

SQL6071N 要求された処理は新規ノードがシステムに追加されていないため、処理できません。この処理が実行される前にシステムを停止し、開始し直してください。

説明: 以下のいずれかとなります:

- 新規ノードから要求が出されましたが、このノードは他のノードと通信できません。
- すべてのノードを停止し、再始動して、新規ノードを追加する前に、CREATE または DROP DATABASE 処理が要求されました。

ユーザーの処置: db2stop を発行してすべてのノードを停止してください。すべてのノードが正常に停止した時に、db2start を発行して新規ノードが含まれるすべてのノードを開始し、要求された処理の再試行をしてください。

sqlcode: -6071

sqlstate: 57019

SQL6072N RESTART オプションを伴う **DB2START** は指定したノードがすでに活動状態になっているため、続行できません。

説明: 再始動に指定されたノードは、すでにシステムで活動中です。

ユーザーの処置: 必要に応じて、DB2STOP を発行して指定ノードを停止し、再び DB2START コ

マンドを実行して、ノードを再始動します。

SQL6073N ノードの追加操作に失敗しました。
SQLCODE = "<sqlcode>"

説明: ノード追加処理が sqlcode "<sqlcode>" で失敗しました。

ユーザーの処置: DB2 メッセージ解説書 またはオンラインで返される sqlcode に関係しているメッセージを調べてください。

必要な訂正処置をとり、要求の再試行をします。

SQL6074N データベースの作成あるいは消去が現在実行中のため、ノードの追加処理に失敗しました。

説明: ノード追加処理は、データベースの作成あるいはドロップ処理と同時に実行できません。

ユーザーの処置: データベースの作成あるいはドロップ処理が完了するまで待機し、要求を再試行します。

SQL6075W 「データベース・マネージャーの開始」操作は正常にノードを追加しました。このノードは、すべてのノードを再び停止および開始するまで活動状態になりません。

説明: db2nodes.cfg ファイルは、すべてのノードが STOP DATABASE MANAGER (db2stop) コマンドで同時に停止するまでは、新規ノードが含まれるように更新されません。ファイルが更新されるまで、既存のノードは新規ノードと通信できません。

ユーザーの処置: db2stop を発行してすべてのノードを停止してください。すべてのノードが正常に停止したら、db2start を発行して、新規のノードを含むすべてのノードを開始してください。

SQL6076W 警告！このコマンドは、このインスタンスのノードのすべてのデータベース・ファイルを除去します。処理を続行する前に、**DROP NODE VERIFY** コマンドの実行して、このノードにユーザー・データがないか確認してください。

説明: このプロシージャは、指定ノードからデータベース区画を除去します。

ユーザーの処置: DROP NODE VERIFY コマンドが、このノードをドロップする前に実行されているか確認してください。API を使用している場合、callerac パラメーターが正しく指定されているか確認してください。

SQL6077W db2stop DROP NODENUM プロシージャが正常に終了しましたがすべてのファイルを消去できませんでした。詳しくはファイル "`<file>`" を参照してください。

説明: db2stop DROP NODENUM プロシージャは正常に終了しましたが、ユーザー・ファイルのいくつかは、ノードに残っています。

ユーザーの処置: ファイル "`<file>`" の情報は、削除できなかったファイルからのディレクトリ構造を示しています。

SQL6078N db2stop DROP NODENUM プロシージャはデータベース "`<dbname>`" のデータベース情報を更新できませんでした。

説明: db2stop DROP NODENUM プロシージャはデータベース "`<dbname>`" のカタログ・ノードにアクセスできませんでした。

ユーザーの処置: 要求を再度試行してください。問題が続く場合、サービス担当者に連絡してください。

SQL6079W db2stop DROP NODENUM コマンドは正常に取り消されました。

説明: db2stop DROP NODENUM コマンドは処理を開始する前に停止しました。

ユーザーの処置: ありません。

SQL6080W 「データベース・マネージャーの開始」操作はこのノードに正常に追加しましたが、データベース区画がこのノードで作成されていません。このノードは、すべてのノードを再び停止および開始するまで活動状態になりません。

説明: db2nodes.cfg ファイルは、すべてのノードが STOP DATABASE MANAGER (DB2STOP) コマンドで同時に停止するまでは、新規ノードが含まれるように更新されません。ファイルが更新されるまで、既存のノードは新規ノードと通信できません。

ユーザーの処置: DB2STOP を発行してすべてのノードを停止してください。すべてのノードが正常に停止したら、DB2START を発行して、新規のノードを含むすべてのノードを開始してください。すべてのノードが正常に開始したら、データベース・システムが使用できます。

SQL6081 通信エラーが、このノードでタイムアウトになる **DB2STOP FORCE** コマンドを呼び出しました。

説明: 1 つまたは複数のデータベース・ノードで、コミュニケーション・エラーが発生し、DB2STOP FORCE コマンドが現行ノード上タイムアウトを起こしたか、あるいは 1 つまたは複数のノードでの FORCE 中にサーバーで重大にエラーが起り、DB2STOP FORCE が終了しました。コミュニケーション・エラーが発生した任意のノードは、SQL6048N メッセージを受信しません。

ユーザーの処置: 次のいずれかを行ってください。

1. SQL6048N メッセージを受信した、1 つまたはそれ以上のノードの通信エラーを訂正してください。
2. DB2START コマンドを実行して、SQL6048N メッセージを受信していたすべてのノードが正常に開始したかを確認してください。

3. 任意のノードから再び DB2STOP FORCE コマンドを実行してください。
4. db2diag.log ファイルを参照してエラーを見つけ、可能なら修正して、任意のノードから DB2STOP FORCE コマンドを再発行してください。

SQL6100 - SQL6199

SQL6100N データ・ファイルの区分化マップおよびデータベースの区分化マップが同じではありません。

説明: ロードしようとしているデータは、区分化していないか、または、表が所有する現行のノード・グループ以外の区分化マップで区分化されました。データをロードできません。

ユーザーの処置: データが区分化されていない場合、db2split プログラムを使用して、データを区分化して、区分化されたデータをロードしてください。

データが区分化された場合、以下のいずれかを行ってください。

- データ・ファイルのヘッダーより、表が所有するノード・グループを再配布してください。そのあと要求を再試行してください。
- 現行のノード・グループの区分化マップでデータを再区分化してください。その後、新しく区分化されたデータをロードするために、要求を再試行してください。

SQL6101N このデータ・ファイルは、ノード “<node-1>” のデータが入っていますが、ロード・ユーティリティがノード “<node-2>” に接続されています。

説明: ロードしようとしているデータは、アプリケーションが接続しているノードのノード番号と

異なるノード番号に関連しています。データをロードできません。

ユーザーの処置: このノードに関連するデータ・ファイルを見つけて要求を再試行するか、または、このデータ・ファイルに関連するノードに接続して、そのノードで要求を発行してください。

SQL6102W パラメーター “<name>” はこれからの使用のために予約されています。値は “<default-value>” に設定してください。

説明: 将来の機能のために予約済みのパラメーターが、正しくないデフォルト値に設定されました。将来の互換性を保証するデフォルト値に設定する必要があります。

ユーザーの処置: パラメーター “<name>” が “<default-value>” 値に設定されたかを確認して、要求を再試行してください。

SQL6103C 予期しないユーティリティ・エラーが発生しました。理由コード = “<reason-code>”

説明: 予期しないユーティリティ・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: メッセージ番号 (SQLCODE) とメッセージの理由コードを記録してください。

トレースが活動状態の場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから、独立トレース機能を呼び出してください。この機能

の使用についての情報は、**管理の手引き** を参照してください。技術サービス担当者に、以下の情報を知らせてください。

- 問題記述
- SQLCODE および組み込み理由コード
- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

SQL6104N ロード・ユーティリティーは索引の作成をサポートしていません。

説明: ロード・ユーティリティーは索引の作成をサポートしませんが、ロードしようとしている表には少なくとも 1 つの定義された索引があります。索引は明示的に CREATE INDEX ステートメントによって、または暗示的に、表の 1 次キーが定義された時に、作成された可能性があります。

ユーザーの処置: 表で定義されたすべての索引を DROP INDEX ステートメントで除去してください。1 次キーを ALTER TABLE ステートメントで除去してください。コマンドを再発行してください。

ロードが正常に完了したら、要求通り CREATE INDEX および ALTER TABLE を使用して、索引および 1 次キーを再作成してください。

SQL6105W ロード・ユーティリティーの処理は完了しました。ロード後の時刻で完了したロールフォワードは成功しません。データベースリカバリー機能が要求された場合にデータベース・バックアップを即時に実行します。

説明: ロード・ユーティリティーはログオンしていません。ロードする前にとったバックアップでロールフォワードしようとする、ロードされたデータの参照を検出するときに、操作は失敗します。

ユーザーの処置: ロード後のデータリカバリー機能を確認するため、データを修正する前にバック

アップを取ってください。

SQL6106N このファイル・タイプ修飾子 "NOHEADER" を指定しましたが、定義されているこの表のノード・グループが単一ノード・グループではありません。

説明: ロードされるデータは、ヘッダー情報を持たないように指定されています。ただし、示されたターゲット表は、単一ノード表ではありません。データをロードできません。

ユーザーの処置: データを db2split を使用して分割してください。次に "NOHEADER" オプションなしでロードしてください。

SQL6107N データ・ファイルの区分化キー情報が正しくありません。

説明: データが db2split で分割されていないか、あるいは db2split 処理が成功していません。

ユーザーの処置: db2split プログラムを使用してデータを区分化して、区分化したデータで要求を再度試行してください。列挿入のオプションが使用されている場合、区分列のすべてが列リストで指定されていることを確認してください。

問題が続く場合、技術サービス担当者と連絡をとって、次の情報を知らせてください。

- 問題記述
- SQLCODE および組み込み理由コード
- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

SQL6108N データ・ファイル・ヘッダーで定義されている区分化キーの番号 (“<number-1>”) が、表で定義されている区分化キーの番号 (“<number-2>”) と一致しません。

説明: db2split 構成ファイルで指定された区分別が正しくありません。データが正しく分割されていません。

ユーザーの処置: 次のいずれかを行ってください。

1. 正しい区分別が db2split 構成ファイルで指定されていることを確認します。
2. データを分割します。
3. 新しく区分されたデータでロード処理を発行します。

SQL6109N ユーティリティは区分別 “<column-name-1>” を予期しましたが、区分別 “<column-name-2>” を検索しました。

説明: db2split 構成ファイルで、次のいずれかが起きました。

- 表で定義された区分別のいずれかが、指定されていません。
- 区分別の順序が正しくありません。
- 表の区分別でない列が指定されています。

ユーザーの処置: 次のいずれかを行ってください。

1. db2split 構成ファイルが正しいことを確認します。
2. データを分割します。
3. 新しく区分されたデータでロード処理を発行します。

SQL6110N ユーティリティは、列 “<column-name-1>” の区分別タイプ “<column-type-1>” を予想していましたが、データ・ファイルは、タイプ “<column-type-2>” としてリストしています。

説明: db2split 構成ファイルが正しくありません。

ユーザーの処置: 次のいずれかを行ってください。

1. db2split 構成ファイルが正しいことを確認します。
2. データを分割します。
3. 新しく区分されたデータでロード処理を発行します。

SQL6111N newlogpath で指定されたパスの下に、サブディレクトリーを作成できません。

説明: 新規ログ・パス・パラメーターが更新された時、システムは、ノード名をサブディレクトリー名として使用して、指定されたパスの下にサブディレクトリーを作成しようとします。以下のいずれかのオペレーティング・システム・エラーのため、サブディレクトリーを作成できませんでした。

- ファイル・システムまたはパスにはファイルを作成するための適切な許可がありません。
- ファイル・システムには十分なディスク・スペースがありません。
- ファイル・システムには十分なファイル・ブロックまたはノードがありません。

要求された変更は実行されません。

ユーザーの処置: 次のいずれかを実行してから、要求を再試行してください。

- 指定されたパスが存在し、ファイル・システムおよびパスには読み取り / 書き込み許可があることを確認してください。

- 別の新規ログ・パスを指定してください。

問題が続く場合、システム管理担当者に連絡してください。

SQL6112N 要求された変更を終了することができません。構成パラメーター設定の結果が有効ではありません。理由コードは "`<reason-code>`"。

説明: 構成パラメーターによっては、3 つの設定規則があります。規則が正しくないと

SQL6500 - SQL6599

SQL6500W ロード・コマンドの **RESTARTCOUNT** で問題が起きる可能性があります。

説明: 同一の表での複数のロード処理は、完全に独立しているため、これらの複数のロード処理に対して、同一の `restartcount` を有することはほとんど不可能です。

ユーザーの処置: 構成ファイルに正しいロード・コマンドがあるか確認してください。

SQL6501N データベース名が構成ファイルに与えられていません。

説明: データベース名が構成ファイルで指定されていません。

ユーザーの処置: データベース名を指定してコマンドをやり直してください。

SQL6502N データ・ファイルに対するパス名 (パラメーター: `data_path`) が指定されていません。

説明: 入力データ・ファイルがリモートの場合、ファイルはローカルに転送されます。リモート・マシンでのファイルへのパスを提供してください。

ユーザーの処置: リモート・データ・ファイルに

"`<reason-code>`" が表示されます。

- (1) `max_coordagents + num_initagents <= maxagents`
- (2) `num_initagents <= num_poolagents`
- (3) `maxdari <= max_coordagents`

ユーザーの処置: 指定された値が以上の規則に準じていることを確認して、要求を再試行してください。

パス名を指定して、コマンドをやり直してください。

SQL6504N 構成ファイルの出力ノード・リスト指定 (パラメーター: `outputnodes`) にエラーがあります。

説明: 出力ノード・リスト指定が無効です。

ユーザーの処置: サンプル構成ファイルを調べて、出力ノード・リスト指定を訂正し、コマンドをやり直してください。

SQL6505N 構成ファイルの分割ノード・リスト指定 (パラメーター: `splitnodes`) にエラーがあります。

説明: 分割ノード・リスト指定が無効です。

ユーザーの処置: サンプル構成ファイルを調べて、分割ノード・リスト指定を訂正し、コマンドをやり直してください。

SQL6506N プログラムは、システム・カタログ表から、表 "`<table-name>`" の区分化キー情報を取り出すことができません。

説明: 表が定義されていないか、あるいは MPP 環境で定義されていないかのどちらかです。

ユーザーの処置: 表が正しく定義されているか確認してください。

SQL6507N 構成ファイル内の検査レベル (パラメーター: **check_level**) が無効です。

説明: 検査レベル (パラメーター: **check_level**) **CHECK** あるいは **NOCHECK** のいずれかです。デフォルトは **CHECK** です。

ユーザーの処置: 構成ファイル内のパラメーターを訂正して、コマンドをやり直してください。

SQL6508N プログラムが、**ftp** 処理に対する出力パイプを作成できません。

説明: 入力データ・ファイルがリモートの場合、ローカル・パイプに転送されます。このローカル・パイプがすでに存在している場合、処理ができません。

ユーザーの処置: ワークスペースが空であるかどうか確認してください。

SQL6509N プログラムが、スプリッター処理に対する入力パイプを作成できません。

説明: プログラムが、スプリッター処理に対する一時入力パイプを作成できません。

ユーザーの処置: ワークスペースが空であるかどうか確認してください。

SQL6510N プログラムが、ノード "**<node-num>**" のローカルな非 **NFS** スペースで、一時ディレクトリを作成できません。

説明: プログラムには、分割および出力ノードすべてについて、ローカルな非 **NFS** スペースに一時作業ディレクトリが必要です。

ユーザーの処置: ワークスペースが空であるかどうか確認してください。

SQL6511N プログラムが、ノード "**<node-num>**" のスプリッター処理の出力を作成できません。

説明: プログラムが、ノード "**<node-num>**" のスプリッターに対する一時出力パイプを作成できません。

ユーザーの処置: ワークスペースが空であるかどうか確認してください。

SQL6512N プログラムが、ノード "**<node-num>**" のマージ処理の入力パイプを作成できません。

説明: プログラムが、ノード "**<node-num>**" のマージ処理に対する一時入力パイプを作成できません。

ユーザーの処置: ワークスペースが空であるかどうか確認してください。

SQL6513N プログラムが、ノード "**<node-num>**" のロード処理の入力パイプを作成できません。

説明: プログラムが、ノード "**<node-num>**" のロード処理に対する一時入力パイプを作成できません。

ユーザーの処置: ワークスペースが空であるかどうか確認してください。

SQL6514N プログラムが、ノード構成ファイル "**<node-cfg-file>**" を読み取りできません。

説明: ファイルが存在しないか、または読み取りができないかのいずれかです。

ユーザーの処置: ノード構成ファイルが存在しているか、またファイルの許可についても調べてください。

SQL6515N プログラムが、構成ファイルでロード・コマンドを検出できません。

説明: CLP ロード・コマンドは構成ファイルで提供される必要があります。

ユーザーの処置: 構成ファイルで CLP ロード・コマンドを指定してください。

SQL6516N プログラムがデータベース "`<db-name>`" に接続できません。

説明: データベース・マネージャーがまだ開始していないか、または問題が発生しているかのどちらかです。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーの状況を調べてください。

SQL6517N プログラムは、表 "`<tbl-name>`" が定義されているノード・リストをシステム・カタログ表から取り出すことができません。

説明: 表が定義されていないか、あるいは MPP 環境で定義されていないかのどちらかです。

ユーザーの処置: 表がデータベースでどのように定義されていたか調べてください。

SQL6518N レコード長 (ロード・コマンドの `reclen`) が無効です。

説明: 有効なレコードは 1 から 32768 の間です。

ユーザーの処置: レコード長を訂正して、コマンドをやり直してください。

SQL6519N 構成ファイルのモード (パラメーター: モード) "`<mode>`" が無効です。

説明: このプログラムの実行モードは以下のいずれかです。SPLIT_ONLY、LOAD_ONLY、

SPLIT_AND_LOAD (デフォルト)、あるいは ANALYZE

ユーザーの処置: 構成ファイルのモードを訂正してください。

SQL6520N プログラムが、分割ファイルに対するヘッダー情報を生成する処理に対する出力パイプを作成できません。

説明: プログラムが、分割ファイルに対するヘッダー情報を生成する処理に対する出力パイプを作成できません。

ユーザーの処置: ワークスペースが空であるかどうか確認してください。

SQL6521N このプログラムの構成ファイル "`<cfg-file>`" がありません。

説明: プログラムには構成ファイルが必要です。

ユーザーの処置: 構成ファイルを作成してください。

SQL6522N プログラムがロード・コマンドの入力データ・ファイルに対するパス名を検出しました。

説明: ロード・コマンドで入力データ・ファイルにパス名を入れることはできません。このためには、分離パラメーター (`data_path`) があります。

ユーザーの処置: 構成ファイルを訂正してください。

SQL6523N 分割ノード・リスト (パラメーター: `SplitNodes`) のエレメント "`<node-num>`" がノード構成ファイル (`db2nodes.cfg`) で定義されていません。

説明: 分割ノード・リストのすべてのノードには、ノード構成ファイルで入力が必要です。

ユーザーの処置: 分割ノード・リストを訂正してください。

SQL6524N 出力ノード・リスト (パラメーター: **Outputnodes**) のエレメント "**<node-num>**" が表が定義されているノード・リストのメンバーではありません。

説明: 出力ノード・リストのすべてのノードは、表が定義されているノード・リストのメンバーである必要があります。

ユーザーの処置: 出力ノード・リストを訂正してください。

SQL6525N プログラムは入力データ・ファイル "**<file-name>**" を読み取りできません。

説明: 入力データ・ファイルが見つからないか、あるいは読み取りできないかのいずれかです。

ユーザーの処置: 入力データ・ファイルが存在しているか、またファイルの許可についても調べてください。

SQL6526N プログラムが現行作業ディレクトリー "**<cwd>**" に書き込みできません。

説明: 現行作業ディレクトリーが書き込み可能ではありません。

ユーザーの処置: 現行作業ディレクトリーの許可を調べてください。

SQL6527N 静的データが収集されるノード (パラメーター: **run_stat_node**) は出力ノード・リストのメンバーではありません。

説明: 静的データが収集されるノードは出力ノード・リストのメンバーである必要があります。

ユーザーの処置: **run_stat_node** パラメーターを訂正してください。

SQL6528N レコード長がロード・コマンドで指定されていません。

説明: **BINARYNUMERIC** あるいは **PACKEDDECIMAL** 修飾子がロード・コマンドで指定されている場合、レコード長 (**reclen**) もロード・コマンドで指定してください。

ユーザーの処置: ロード・コマンドを訂正してください。

SQL6529N ヘッダーなしオプション (**NOHEADER**) がロード・コマンドで指定されていません。

説明: 表が単一ノード **nodegroup** で指定されている場合、**NOHEADER** 修飾子はロード・コマンドで指定されている必要があります。

ユーザーの処置: ロード・コマンドを訂正してください。

SQL6530N 区分化キーのデータ・タイプが浮動あるいは倍精度です。

説明: 入力ファイルが 2 進以外のデータ・ファイルである場合、浮動あるいは倍精度の列は、区分化キーとして定義されません。

ユーザーの処置: 2 進データ・ファイルを提供するか、あるいは表の定義を変更してください。

SQL6531N プログラムが表スペースの静止をリセットできません。

説明: 処理中のロード処理がある可能性があります。前のロード処理がすべて完了していなければ、別のオートローダー・セッションを開始することはできません。

ユーザーの処置: マシンの処理状況を調べてください。

SQL6532N ロード・コマンドの **savecount** はゼロ以外にはセットできません。

説明: ロード・コマンドの **savecount** は、複数の分割ノードがあり、モードが **SPLIT_AND_LOAD** でコマンドが **REPLACE INTO** あるいは **INSERT INTO** ロード・コマンドのいずれかの場合、ゼロ以外にはセットできません。

ユーザーの処置: ロード・コマンドを訂正してください。

SQL6533N ロード・コマンドの **restartcount** はゼロ以外にはセットできません。

説明: 複数の分割ノードによって、ロード処理に対して、ランダムな順序のレコードを生成するため、**restartcount** のついた **RESTART INTO** を使用すると、リカバリー処理が正常に終了するとは保証できません。

ユーザーの処置: ロード・コマンドを訂正してください。

SQL6534N **netrc** ファイル "**<netrc-file>**" でエラーがあります。

説明: **netrc** ファイルが見つからないか、あるいはリモート・ホスト "**<machine>**" に入力がないか、またはファイルの許可が誤っているかのいずれかです。

ユーザーの処置: **netrc** ファイルが存在しているか、またファイルの許可についても調べてください。

SQL6535N モード **SPLIT_ONLY** または **ANALYZE** は無効です。

説明: 表が単一ノード **nodegroup** で指定されている場合、分割あるいは分析は必要ありません。

ユーザーの処置: モードを **LOAD_ONLY** または **SPLIT_AND_LOAD** に変更してください。

SQL6536N プログラム "**<progname>**" が読み取り用ファイル "**<filename>**" をオープンできません。

説明: オートローダー処理は、読み取り用ファイルまたはパイプを正常にオープンできません。

ユーザーの処置: 構成ファイルがすべて正しいか、確認してください。

SQL6537N プログラム "**<progname>**" が書き込み用ファイル "**<filename>**" をオープンできません。

説明: オートローダー処理は、書き込み用ファイルまたはパイプを正常にオープンできません。

ユーザーの処置: 構成ファイルがすべて正しいか、確認してください。

SQL6538N プログラムは分割ファイル "**<split-file>**" を読み取りできません。

説明: プログラムが **LOAD_ONLY** モードで呼び出されると、入力データ・ファイルはすでに分割されている必要があり、すべての分割ファイルはプログラムで読み取り可能である必要があります。

ユーザーの処置: 入力データ・ファイルが分割されているかどうか、およびプログラムの結果の分割ファイルのアクセス許可のチェックをしてください。

SQL6539N 作業環境で検出されない "**<cmd-list>**" には少なくとも 1 つのコマンドがあります。

説明: このプログラムの実行は共通 Unix コマンドに依存します。コマンドのいずれかが作業環境で使用できない場合、処理は失敗します。

ユーザーの処置: ご使用のシステムに必要なコマンドがすべて正しくインストールされているか確認してください。

SQL6540N ロード・コマンドで指定されたファイル・タイプ "`<file-type>`" が無効です。

説明: 有効なファイル・タイプは ASC (定位置 ASCII) あるいは DEL (区切り付き ASCII) です。

ユーザーの処置: 構成ファイルのロード・コマンドを訂正してください。

SQL6550N 区分化マップ・ファイル "`<map-file-name>`" を書き込み用にオープンできません。

説明: 区分化マップのファイル名およびファイル・パスをオープンできません。エラーが起きました。

ユーザーの処置: 区分化マップのファイル名およびファイル・パスが正しく指定されており、ファイルを書き込み用にオープンできることを確認してください。

SQL6551N 区分化マップ・ファイルに書き込み中に、エラーが発生しました。

説明: 区分化マップ・ファイルに書き込み中にファイル・システム・エラーが起きました。

ユーザーの処置: ファイル・パスが正しく、ターゲット装置に区分化マップの出力を保持するだけの十分なスペースがあることを確認してください。

SQL6552N 書き込み用に、一時構成ファイル "`<filename>`" を開くときにエラーが発生しました。

説明: 一時ファイルのファイル名およびファイル・パスをオープンできません。エラーが起きました。

ユーザーの処置: ユーティリティ一時ファイルのストレージ・パスが正しく指定されており、そのパスでファイルを書き込み用にオープンできる

ことを確認してください。

SQL6553N 一時構成ファイル "`<filename>`" を書き込み中に、エラーが発生しました。

説明: 一時ファイルに書き込み中にファイル・システム・エラーが起きました。

ユーザーの処置: ファイル・パスが正しく、ターゲット装置にファイル・データ用の十分なスペースがあることを確認してください。

SQL6554N 処理をリモート実行しようとしたときに、エラーが発生しました。

説明: ユーティリティが異なるデータベース区画で子プロセスを開始しようとしたましたが、エラーが起きました。

ユーザーの処置:

- ユーザー ID やパスワードがリモート・アクセス用にユーティリティで提供されていない場合、ユーティリティを呼び出すユーザー ID にターゲット・ノードのプログラムを実行する権限があることを確認してください。
- ユーザー ID やパスワードがユーティリティに提供されている場合は、正しく提供されていることを確認してください。
- NT で実行している場合、すべてのノードでスプリッター操作の NT サービスが DB2 インストールで定義されていることを確認してください。
- 問題を解決できない場合は、DB2 サービス担当者に連絡してください。

SQL6555N オートローダー・ユーティリティが、予期しない通信エラーを見つけました。

説明: ユーティリティが、以下の 1 つの処理を試みている間に、エラーが検出されました。

- TCP/IP ソケットに接続中です。

- TCP/IP メッセージの読み取りまたは書き込み中です。
- TCP/IP 通信を初期化中です。
- 完全ホスト名を検索中です。
- 活動 TCP/IP ソケットを選択中です。
- 活動ソケットをクローズ中です。
- ポート番号を検索中です。

ユーザーの処置:

- 使用しているオートローダーのバージョンにサービス名セットアップが必要であった場合、サービス名が正しく定義されていることを確認してください。
- 並列オートローダー・ジョブを実行している場合、並列ユーティリティー・ジョブ間でのサービス名の競合を避けるよう、資料にあるセットアップ要件に従っていることを確認してください。
- 問題が解決しない場合は DB2 サービス技術員に連絡してください。

SQL6556W ファイル "<filename>" の最後に不完全なレコードが検出されました。

説明: ユーザーによってユーティリティーに提供されているデータ・ファイルの終わりで、不完全なデータ・レコードが検出されました。

ユーザーの処置: ソース・データを調べて構文を修正してください。

SQL6557N デフォルト・ノード番号の検索に失敗しました。

説明: ユーティリティーがデフォルト・ノード番号を判別しようとしたましたが、できませんでした。

ユーザーの処置: ユーティリティー構成ファイルでソースおよびターゲットのノード番号を明確に示すか、DB2 サービス技術員に連絡してください。

SQL6558N ユーティリティーは現行作業ディレクトリーまたはドライブあるいはその両方を判別できません。

説明: ユーティリティーが、現行作業ディレクトリーおよび / またはドライブを判別しようとしたましたが、エラーが起きました。

ユーザーの処置: DB2 サービス技術員に連絡してください。

SQL6559N オートローダー・ユーティリティーに無効なコマンド行オプションが与えられました。

説明: サポートされていないか、または古いコマンド行オプションをオートローダー・ユーティリティーに指定しました。

ユーザーの処置: サポートされているオプションおよび機能については、オートローダーの資料あるいはオンライン・ヘルプを参照してください。

SQL6560N 分割用の実行であるノード "<node-number>" が db2nodes.cfg ファイルにありません。

説明: 分割のための実行ノードとして指定されたノードが、db2nodes.cfg ファイルのメンバーとしてありません。このノードを完了する作業を開始できません。

ユーザーの処置: ノードを db2nodes.cfg ファイルのノード・リスト定義に追加するか、またはノード構成のメンバーである分割操作の代替ノードを指定してください。

SQL6561N ロード用のターゲット・ノード "<node-number>" がノード・グループにありません。

説明: ノードがロード用にターゲット・ノードとして指定されましたが、明らかにロードされているノード・グループのメンバーではありません。

ユーザーの処置: ノード・グループ定義を検査して、ロード用に指定されたターゲット・ノードがこのノード・グループの一部であることを確認してください。ノードがノード・グループの一部でない場合は、ノードの訂正リストを含むよう、ユーティリティー・ターゲット・ノード指定を訂正してください。ノードがノード・グループの一部である場合は、DB2 サービス技術員に連絡してください。

SQL6562N ユーティリティーがインスタンス名を検索できません。

説明: ユーティリティーがインスタンス名を検索しようとしたのですが、エラーが起きました。

ユーザーの処置: ユーティリティーが DB2 がインストールされているノードで実行されており、実行中のインスタンスが有効であることを確認してください。さらに詳しくは、DB2 サービス技術員に連絡してください。

SQL6563N 現行ユーザー ID を検索できません。

説明: ID に対して現行ユーザー ID を検索しようとしたのですが、エラーが起きました。

ユーザーの処置: DB2 サービス技術員に連絡してください。

SQL6564N 提供されたパスワードは無効です。

説明: ユーザーによってユーティリティーに明示パスワードが提供されましたが、パスワードが無効です。

ユーザーの処置: 有効なパスワードを提供してください。

SQL6565I 使用法: db2atld [-config config-file] [-restart] [-terminate] [-help]

説明:

- '-config' オプションはユーザー指定の構成ファイル (デフォルトは autoload.cfg) を使用して、このプログラムを実行します。
- '-restart' オプションは、このプログラムを再起動モードで実行します。完了しなかった最後のオートローダー・ジョブの後、構成ファイルを変更しないでください。
- '-terminate' オプションは、このプログラムを終了モードで実行します。完了しなかったオートローダー・ジョブの後、構成ファイルを変更しないでください。
- '-help' オプションはこのヘルプ・メッセージを生成します。

オートローダー構成ファイルは、実行される LOAD コマンド、ターゲット・データベース、およびユーザーが指定できるいくつかのオプション・パラメーターの入ったユーザー提供のファイルです。サンプル・ディレクトリーで提供されるサンプル構成ファイル 'AutoLoader.cfg' には、使用できるオプションやそれらのデフォルト値についてのインライン注釈が入っています。このプログラムを '-restart' および '-terminate' オプションで実行するときは、完了しなかった最後のジョブの後、構成ファイルを変更しないでください。

ユーザーの処置: オートローダー・ユーティリティーの詳細については、DB2 の資料を参照してください。

SQL6566N LOAD コマンドがオートローダー構成ファイルから欠落しています。

説明: LOAD コマンドがオートローダー構成ファイルから欠落しています。パラメーターを指定する必要があります。

ユーザーの処置: オートローダー用の正しい構成ファイルを指定しており、LOAD コマンドがその中で指定されていることを確認してください。

SQL6567N オートローダー構成ファイルに、複数の "`<option-name>`" オプションがあります。

説明: オートローダー構成ファイルの中で、オプション・パラメーターが複数回指定されました。

ユーザーの処置: 構成ファイルを訂正して、各オプションが多くても 1 つしか存在しないようにしてください。

SQL6568I オートローダーは現在、すべてのロード要求を出しています。

説明: オートローダーは、ターゲット・ロード区分のそれぞれにおいてロード操作を開始中です。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。

SQL6569I オートローダーは現在、すべての分割要求を出しています。

説明: オートローダーは、ターゲット分割区分のそれぞれにおいて分割操作を発行中です。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。

SQL6570I オートローダーは、すべてのスプリッターの完了を待機しています。

説明: オートローダーは、すべてのスプリッターの完了を待機しています。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。

SQL6571I オートローダーは、すべての **LOAD** 操作の完了を待機しています。

説明: オートローダーは、LOAD 操作の完了を待機しています。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。

SQL6572I ロード操作が区分 "`<node-number>`" で開始しています。

説明: ロード操作が指定された区分で開始しています。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。

SQL6573I 区分 "`<node-number>`" のスプリッター・ユーティリティーのリモート実行が、リモート実行コード "`<code>`" で終了しました。

説明: 指定された区分のスプリッター・ユーティリティーのリモート実行が完了しました。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。

SQL6574I ユーティリティーはソース・データから "`<MB-count>`" メガバイトを読み取りました。

説明: この情報は定期的に生成され、大きなオートローダー・ジョブの進行についてユーザーに状況を提供します。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。

SQL6575I ユーティリティーはユーザー・データからの "`<MB-count>`" メガバイトの読み取りに完了しました。

説明: このメッセージはオートローダー実行の完了時に書き込まれ、処理されたユーザー・データの合計量を示します。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。

SQL6576N オートローダー・ユーティリティーがスレッド化エラーを見つけました。理由コードは "`<reason-code>`" で、戻りコードは "`<ret-code>`" です。

説明: 以下は、理由コード "`<reason-code>`" の説明です。

- 1 - オートローダー・ユーティリティーがスレッドを作成しようと試みましたが、戻りコード "`<ret-code>`" で失敗しました。
- 2 - オートローダー・ユーティリティーがスレッドの完了を待機しようと試みましたが、戻りコード "`<ret-code>`" で失敗しました。

ユーザーの処置: スレッド・アプリケーションをサポートするオペレーティング・システムで実行中であること、プロセス単位のスレッドの限度が十分であることを確認してください。スレッドの要件は以下のとおりです。

- 各ロード・プロセスに 1 つのスレッドが開始している、
- すべてのスプリッター・プロセスに 1 つのスレッド、
- スプリッター・プロセスへのデータ送りに 1 つのスレッド。

SQL6577N オートローダー・ユーティリティーは、ロード・コマンドの **ROWCOUNT** オプションをサポートしていません。

説明: ロード・コマンドの **ROWCOUNT** オプションは、オートローダー・ユーティリティーではサポートされていません。

ユーザーの処置: オートローダー構成ファイルにあるロード・コマンドを訂正して、コマンドを再実行依頼してください。

SQL6578N 無効なオートローダー・オプションです。**RESTART/TERMINATE** オプションは、**SPLIT_AND_LOAD** または **LOAD_ONLY** モードのみで指定できます。

説明: オートローダーの **RESTART/TERMINATE** オプションは、**SPLIT_AND_LOAD** または **LOAD_ONLY** モードのみで使用できます。

ユーザーの処置: オートローダー構成ファイルまたはオートローダー・オプション・フラグを検査してください。

SQL6579N オートローダー構成ファイルの **LOAD** コマンドが無効です。オートローダーの **RESTART** および **TERMINATE** オプションはそれぞれ、**LOAD RESTART** および **LOAD TERMINATE** 操作を実行するために使用されます。

説明: **LOAD** コマンドに **RESTART** または **TERMINATE** を指定しないでください。代わりに、オートローダーの **RESTART** および **TERMINATE** オプションを使用してください。

ユーザーの処置: オートローダー構成ファイルを変更しない場合、オプション **RESTART** または **TERMINATE** で `db2atld` を開始しなければなりません。

SQL6580I **LOAD** はフェーズ "`<restarting-phase>`" のノード "`<node-num>`" で再始動されています。

説明: オートローダーは、**LOAD** が **LOAD/BUILD/DELETE** フェーズのいずれかで再始動していることを確認しました。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。

SQL6581I ロードをノード "`<node-num>`" で再始動することはできません。

説明: オートローダーは、示されているノードで LOAD を再始動できないことを確認しました。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。

SQL6582I ノード "`<node-num>`" で LOAD の再始動は必要ありません。

説明: オートローダーは、示されているノードで LOAD を再始動する必要がないことを確認しました。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。

SQL7000 - SQL7099

SQL7001N 不明なコマンド "`<command>`" が要求されました。

説明: REXX に対して実行依頼されたコマンドが認識できませんでした。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: コマンドが有効な SQL ステートメントであることを確認して、プロシーチャーを再実行してください。すべてのコマンドは大文字でなければならないことに注意してください。

SQL7002N カーソル名が無効です。

説明: 正しくないカーソル名が指定されました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: カーソル名が、"`c1`" から "`c100`" の形式のいずれかであることを確認してください。

SQL7003N ステートメント名が無効です。

説明: 正しくないステートメント名が指定されました。

コマンドは処理されません。

SQL6583N 区分化キー定義が、区分化データベース・ロード・モード "`<load-mode>`" と非互換です。

説明: 識別列が区分化キー定義の一部として定義されましたが、指定したロード・モードが PARTITION_AND_LOAD ではなく、identityoverride 修飾子が指定されていませんでした。

ユーザーの処置: ロード・モードを PARTITION_AND_LOAD に変更するか、identityoverride 修飾子を指定するか、または識別列を区分化キー定義から除去してください。

ユーザーの処置: ステートメントが、"`s1`" から "`s100`" の形式のいずれかであることを確認してください。

SQL7004N 要求の構文が無効です。

説明: REXX が、実行依頼されたコマンド・ストリングを解析できませんでした。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 正しいコマンド構文を使用してください。

SQL7005W この OPEN ステートメントで使用するカーソルが宣言されていません。

説明: OPEN ステートメントが実行されようとしたが、カーソルが宣言されていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: OPEN ステートメントの前に DECLARE ステートメントを挿入して、プロシーチャーを再実行してください。

SQL7006N 無効なキーワード “<keyword>” が “<request>” に与えられました。

説明: ステートメントに、無効なキーワード “<keyword>” が入っています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 正しいキーワード形式で指定してください。

SQL7007N REXX 変数 “<variable>” が存在しません。

説明: REXX 変数プールに存在しない REXX 変数が渡されました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 失敗したコマンドの前に、ホスト変数リストのすべての変数名が割り当てられていることを調べてください。プロシージャを再実行してください。

SQL7008N REXX 変数 “<variable>” に、矛盾するデータが含まれています。

説明: 矛盾するデータを含んだ変数が、REXX に渡されました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 変数が SQLDA の場合は、「データ」と「長さ」フィールドが正しく割り当てられていることを確認してください。REXX 変数の場合は、データのタイプが使用されるコマンドに適していることを確認してください。

SQL7009N REXX 変数 “<variable>” は切り捨てられました。

説明: REXX に渡された変数 “<variable>” に、不整合データが入っています。“<variable>” からのデータ・ストリングは、切り捨てられました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: データ長が、入力 SQLDA に指定された長さと一致することを確認して、プロシージャを再実行してください。

SQL7010N 走査 ID “<ID>” が無効です。

説明: REXX に渡された走査 ID “<variable>” が存在しないか、矛盾を含んでいるか、またはデータが欠落しています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 走査 ID に入っているデータが正しく割り当てられていることを確認して、プロシージャを再実行してください。

SQL7011N 必須パラメーター “<parameter>” が指定されていません。

説明: パラメーター “<parameter>” は REXX コマンド構文に必須であるのに、指定されていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 必須パラメーター値を指定して、プロシージャを再実行してください。

SQL7012N データベースに接続中に、ISL 変更を試みました。

説明: データベースに接続されているときは、分離レベル (ISL) が変更されない場合があります。

コマンドは無視されます。

ユーザーの処置: 分離レベルの変更が必要な場合は、現在のデータベースから切断した後で、分離レベルを設定してそのデータベースに再接続してください。

SQL7013N カーソルおよびステートメント名が一致しないか、または属性が保留になっています。

説明: REXX では、カーソルとステートメント名の形式は、'cnn' と 'snn' ('nn' は 1 から 100

の数字) でなければなりません。一組のカーソルとステートメントの数字は、同じでなければなりません。また、c1 から c50 は hold なしで宣言され、c51 から c100 は hold 付きで宣言されます。

コマンドは無視されます。

ユーザーの処置: カーソルとステートメント番号の一致を確認して、プロシーチャーを再実行してください。

SQL7014N ホスト変数のコンポーネントの数が誤りです。

説明: REXX の場合、複合ホスト変数の最初のコンポーネントが、実際に定義されているコンポーネントの数と等しくない数をリストします。

コマンドは無視されます。

ユーザーの処置: 最初のコンポーネントの数が、実際に定義されている要素数と一致していることを確認して、プロシーチャーを再実行してください。

SQL7015N 変数名 “<variable>” は、REXX では無効です。

説明: 示された変数名は、REXX では無効です。名前は、言語の要求を満たしていなければなりません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 名前を REXX の要求に合った名前に変更して、コマンドを再発行してください。

SQL7016N 無効な構文が SQLDB2 インターフェースに指定されました。関連エラーは “<db2_error>” です。コマンドは処理されません。

説明: SQLDB2 インターフェースに無効な構文が提供されました (例: 入力ファイルとコマンドが両方とも指定されているなど)。

ユーザーの処置: 詳細情報については、関連するエラー・コードを参照してください。

SQL7032N SQL プロシーチャー “<procedure-name>” は作成されていません。診断ファイルは “<file-name>” です。

説明: SQL プロシーチャー “<procedure-name>” は作成されませんでした。以下のいずれかが起こりました。

- SQL ストアード・プロシーチャーのサポートは、このサーバーでインストールも構成もされていません。SQL プロシーチャーを作成するには、DB2 アプリケーション開発クライアントおよび C コンパイラーをサーバーにインストールしておく必要があります。DB2 レジストリー変数 DB2_SQLROUTINE_COMPILER_PATH を、プラットフォーム上の C コンパイラー用の環境設定が入っているスクリプトまたはバッチ・ファイルを指すように設定しなければならない場合もあります。
- DB2 は、SQL ストアード・プロシーチャーをプリコンパイルまたはコンパイルできませんでした。DB2 は、組み込み SQL の入った C プログラムとして SQL プロシーチャーを作成します。プリコンパイルまたはコンパイルの実行中、CREATE PROCEDURE ステートメントの初期解析中にエラーが見つからなかったと報告されることがあります。

UNIX プラットフォームの場合、診断情報が入っているファイルの全パスは以下のとおりです。

```
$DB2PATH/function/routine/sqlproc/ ¥  
$DATABASE/$SCHEMA/tmp/“<file-name>”
```

ここで \$DATABASE はデータベースの名前を表し、\$SCHEMA は SQL プロシーチャーのスキーマ名を表します。

OS/2 および Windows 32 ビット オペレーティング・システムの場合、診断情報が入っているファイルの全パスは以下のとおりです。

```
%DB2PATH%¥function¥routine¥sqlproc¥ ¥
%DATABASE%¥¥SCHEMA%¥tmp¥“<file-name>”
```

ここで %DATABASE% はデータベースの名前を表し、%SCHEMA% は SQL プロシージャのスキーマ名を表します。

ユーザーの処置: 互換性のある C コンパイラーおよび DB2 アプリケーション開発クライアントの両方がサーバーにインストールされていることを確認してください。プリコンパイルまたはコンパイル・エラーが起こる場合、診断ファイル“<file-name>”で、プリコンパイラーまたはコンパイラーからのメッセージについて調べてください。

DB2 レジストリー変数

DB2_SQLROUTINE_COMPILER_PATH が、C コンパイラー環境をセットアップしているスクリプトまたはバッチ・ファイルを指していることを確認してください。UNIX オペレーティング・システムの場合、たとえば“sr_cpath”という名前のスクリプトを

/home/DB2INSTANCE/sqllib/function/routine ディレクトリーに作成することができます。ここで DB2 レジストリー変数

DB2_SQL_ROUTINE_COMPILER_PATH を設定するには、以下のコマンドを使用してください。

```
db2set DB2_SQLROUTINE_COMPILER_PATH = ¥
"/home/DB2INSTANCE/sqllib/function/ ¥
routine/sr_cpath"
```

sqlcode: -7032

sqlstate: 42904

SQL8000 - SQL8099

SQL7035W SQL プロシージャ
“<procedure-name>”の実行可能プログラムはデータベース・カタログに保管されません。

説明: SQL プロシージャの実行可能プログラムは 2 メガバイトの制限を超えているので、データベース・カタログに保管されません。そのため、データベース復元時、または DROP PROCEDURE ステートメントの ROLLBACK の実行時にも、自動的にはリカバリーされません。

ユーザーの処置: CREATE PROCEDURE ステートメントで警告が出された場合には、SQL プロシージャ“<procedure-name>”と関連した実行可能ファイルのバックアップが保管されていることを確認してください。この警告が復元操作または DROP PROCEDURE ステートメントの ROLLBACK で出された場合には、“<procedure-name>”と関連した実行可能ファイルは、カタログで定義されている SQL プロシージャに手操作で同期化される必要があります。

sqlcode: +7035

sqlstate: 01645

SQL7099N 無効なエラー“<error>”が発生しました。

説明: REXX 内部エラーが起きました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: REXX が正しくインストールされていることを確認して、プロシージャを再実行してください。エラーが続く場合は、エラー番号を記録して販売業者に連絡してください。

SQL8000N DB2START 処理が失敗しました。
有効な製品ライセンスが見つかりませんでした。

説明: 有効なライセンス・キーが見つかりません。評価期間が満了しました。

ユーザーの処置: 製品の完全許可版があるバージョンのライセンス・キーをインストールしてください。製品のライセンス・キーの取得に関しては、弊社または販売店でお訪ねください。

SQL8001N DB2 接続処理は失敗しました。有効な製品ライセンスが見つかりませんでした。

説明: 有効なライセンス・キーが見つかりません。評価期間が満了しました。

ユーザーの処置: 製品の完全許可版があるバージョンのライセンス・キーをインストールしてください。製品のライセンス・キーの取得に関しては、弊社または販売店でお訪ねください。

sqlcode: -8001

sqlstate: 42968

SQL8002N DRDA 接続処理は失敗しました。
有効な製品ライセンスが見つかりませんでした。

説明: 有効なライセンス・キーが見つかりません。評価期間が満了しました。

ユーザーの処置: 製品の完全許可版があるバージョンのライセンス・キーをインストールしてください。製品のライセンス・キーの取得に関しては、弊社または販売店でお訪ねください。

sqlcode: -8002

sqlstate: 42968

SQL8006W この製品 "`<product-name>`" には、有効なライセンス・キーがインストールされていません。この製品のライセンスを取得した場合、ライセンス・キーが適切にインストールされているかどうか、お確かめください。ライセンス・キーがインストールされていない場合も、評価期間の "`<number>`" 日間はこの製品が使用できます。評価期間の間製品をご使用いただければ、次のディレクトリー "`<directory-name>`" にある **EVALUATE.AGR** ファイルにまとめられた **IBM** の評価協約をご承諾いただけるはずです。

説明: この製品の有効なライセンス・キーがインストールされていません。一定の評価期間のあいだは、この製品が試用できます。評価期間は時間制の使用停止装置 (TIME DISABLING DEVICE) がコントロールします。

ユーザーの処置: この製品の完全許可版を購入なさった場合は、製品のインストール・ドキュメントの説明にしたがってライセンス・キーをインストールしてください。ライセンス・キーがすでにインストール済みの場合は、ライセンス・ファイルをチェックして内容が正しいかどうか確認してください。

EVALUATE.AGR の **IBM** の評価協約に、評価期間内の試用が記載されています。評価期間のあいだご試用いただければ、**IBM** の評価協約をご承諾いただけるはずです。

IBM の評価協約をご承諾いただけない場合は、製品の使用権限がありませんので、インストールした製品を消去してください。**IBM** の担当者または販売店にご連絡いただければ、この製品と一緒にプログラムに完全許可を授与するライセンス・キーが取得できます。

SQL8007W 製品 "`<text>`" の評価期間はあと "`<number>`" 日で満了します。評価ライセンスの契約条件については、"`<text>`" ディレクトリーにある **EVALUATE.AGR** ファイルの評価協約を参照してください。

説明: この製品の有効なライセンス・キーがインストールされていません。評価期間は所定の日数で満了します。

ユーザーの処置: この製品は現在、評価モードで実行されており、一定期間のあいだけ試用できます。評価期間が満了すると、この製品の完全許可版のライセンス・キーがインストールされるまで、実行しなくなります。

製品のライセンス・キーの取得に関しては、弊社または販売店でお訪ねください。

SQL8008N この製品 "`<text>`" にはインストールされた有効なライセンス・キーがありません。評価期間が満了します。この製品に固有な関数は使用可能ではありません。

説明: 有効なライセンス・キーが見つかりません。評価期間が満了しました。

ユーザーの処置: 製品の完全許可版があるバージョンのライセンス・キーをインストールしてください。製品のライセンス・キーの取得に関しては、弊社または販売店でお訪ねください。

SQL8009W **DB2** ワークグループ製品の並列ユーザー数が、"`<number>`" の定義された権利を超えています。並列ユーザー数は "`<number>`" です。

説明: 並列ユーザーの数が、定義された **DB2** 並列ユーザー権利の数を超えています。

ユーザーの処置: **IBM** 担当者または販売店に連絡して、追加の **DB2** ユーザー権利を取得し、ライセンス・センターで **DB2** ライセンス情報を更新してください。

sqlcode: +8009

sqlstate: 01632

SQL8010W **DB2** サーバー製品の並列ユーザーの数が、"`<number>`" の定義された権利を超えています。並列ユーザー数は "`<number>`" です。

説明: 並列ユーザーの数が、定義された **DB2** 並列ユーザー権利の数を超えています。

ユーザーの処置: **IBM** 担当者または販売店に連絡して、追加の **DB2** ユーザー権利を取得し、ライセンス・センターで **DB2** ライセンス情報を更新してください。

sqlcode: +8010

sqlstate: 01632

SQL8011W 1 つまたは複数のデータベース区画には "`<product-name>`" 製品にインストールされた有効な **DB2** ライセンス・キーはありません。詳しくは **db2diag.log** を参照してください。

説明: すべてのデータベース区画で、この製品の有効なライセンス・キーがインストールされていません。一定の評価期間のあいだは、この製品が試用できます。評価期間は時間制の使用停止装置 (**TIME DISABLING DEVICE**) がコントロールします。

ユーザーの処置: どのデータベース区画でライセンス上の問題が起きたかを示す情報の詳細については **db2diag.log** を調べてください。この製品の完全許可版を購入なさった場合は、製品のインストール・ドキュメントの説明にしたがってライセンス・キーをインストールしてください。ライセンス・キーがすでにインストール済みの場合は、ライセンス・ファイルをチェックして内容が正しいかどうか確認してください。

EVALUATE.ARG の **IBM** の評価協約に、評価期間内の試用が記載されています。評価期間のあ

いだご試用いただければ、IBM の評価協約をご承諾いただけるはずです。

IBM の評価協約をご承諾いただけない場合は、製品の使用権限がありませんので、インストールした製品を消去してください。IBM の担当者または販売店にご連絡いただければ、この製品と一緒にプログラムに完全許可を授与するライセンス・キーが取得できます。

SQL8012W DB2 エンタープライズ製品の並列ユーザー数が、"<number>" の定義された権利を超えています。並列ユーザー数は "<number>" です。

説明: 並列ユーザーの数が、定義された DB2 並列ユーザー権利の数を超えています。

ユーザーの処置: IBM 担当者または販売店に連絡して、追加の DB2 ユーザー権利を取得し、ライセンス・センターで DB2 ライセンス情報を更新してください。

sqlcode: +8012

sqlstate: 01632

SQL8013W DB2 コネクト製品の並列ユーザー数が、"<number>" の定義された権利を超えています。データベース接続数は "<number>" です。

説明: 使用している DB2 コネクト製品のライセンスは同時データベース接続の制限数をサポートします。この制限を超えた接続数を要求しました。

ユーザーの処置: 同時更新する接続の制限を高くして、DB2 コネクト製品のバージョンにアップグレードしてください。

DB2 コネクト エンタープライズ・エディションのユーザー: 追加のユーザー・パックをお求めいただき、追加ユーザーのライセンスを取得してください。

sqlcode: +8013

sqlstate: 01632

SQL8014N 使用している DB2 コネクト製品のバージョンが、TCP/IP プロトコルで使用できるようにライセンスされていません。TCP/IP を使用できるように、DB2 コネクト製品の全機能をアップグレードしてください。

説明: DB2 コネクトのこのバージョンは SNA 接続に限定されています。TCP/IP 接続はサポートされていません。

ユーザーの処置: TCP/IP を使用できるように、DB2 コネクト パーソナル・エディションまたは DB2 コネクト エンタープライズ・エディションのように、DB2 コネクト製品の全機能をアップグレードしてください。

sqlcode: -8014

sqlstate: 42968

SQL8015N 使用している DB2 コネクト製品のバージョンが同一トランザクションにある複数のデータベースをアップグレードするようにライセンスされていません。

説明: DB2 コネクトのこのバージョンは、トランザクションのシングルデータベースで動作するように限定されています。2 フェーズ・コミット・プロトコルをサポートしません。

ユーザーの処置: 単一トランザクションで複数のデータベースを使用できるように、DB2 コネクト パーソナル・エディションまたは DB2 コネクト エンタープライズ・エディションのように、DB2 コネクト製品の全機能をアップグレードしてください。

sqlcode: -8015

sqlstate: 42968

SQL8016N ユーザー “<user-name>” は、製品 “<product-name>” の登録済みユーザーとして定義されていません。

説明: ユーザーは、この製品を使用できるように登録されていません。

ユーザーの処置: IBM 担当者または販売店に連絡して、追加の DB2 登録済みユーザー権利を取得し、ライセンス・センターでこの製品のための登録済みユーザー・リストを更新してください。

SQL8017W このマシンのプロセッサ数が、製品 “<product-name>” について定義されている権利 “<licensed-quantity>” を超えています。このマシンのプロセッサ数は “<processor-quantity>” です。IBM 担当員または販売店からプロセッサ許可をさらに購入し、ライセンス・センターあるいは **db2licm** コマンド行ユーティリティーを使用してライセンスを更新してください。プロセッサ・ライセンスの更新に関する詳細については、使用しているプラットフォーム用の「概説およびインストール」マニュアルを参照してください。**db2licm** ユーティリティーの詳細については、『コマンド解説書』を参照してください。

ユーザーの処置: **sqlcode:** +8017

SQL8018W この製品の並列ユーザー数が、定義されている権利 “<number>” を超えています。並列ユーザー数は “<number>” です。

説明: 並列ユーザーの数が、定義されている並列ユーザー数の権利を超えています。

ユーザーの処置: IBM 担当者または販売店に連

絡してユーザー権利をさらに取得し、ライセンス・センターで DB2 ライセンス情報を更新してください。

sqlcode: +8018

sqlstate: 01632

SQL8019N OLAP スターター・キットのライセンスを更新しているときにエラーが起きました。RC = “<reason-code>”。

説明: 不明なエラーが生じたため、ライセンス・ユーティリティーは OLAP スターター・キットのライセンスを更新できませんでした。

ユーザーの処置: コマンドをやり直してください。問題が解決しない場合、IBM サービス担当者に連絡してください。

sqlcode: -8019

SQL8020W 1 つのサーバーに対する非 DB2 データ・ソースの並列数が、定義されている権利 “<number-sources>” を超えています。非データ・ソースの現行数は “<number-entitled>” です。

説明: 非 DB2 データ・ソースの並列数が、定義された権利の数を超えています。

ユーザーの処置: IBM 担当者または販売店に連絡して権利をさらに取得し、ライセンス・センターで DB2 ライセンス情報を更新してください。

sqlcode: +8020

SQL8021W データ・ソース “<source-name>” は、“<product-name>” の登録データ・ソースとして定義されていません。

説明: データ・ソースが登録済みデータ・ソースとして構成されていません。すべての非 DB2 デ

ータ・ソースに関する権利を購入する必要があります。

ユーザーの処置: IBM 担当者または販売店に連絡して、追加のデータ・ソース権利を取得し、ラ

イセンス・センターでこの製品のための登録済みデータ・ソースを更新してください。

sqlcode: +8021

SQL8100 - SQL8199

SQL8100N 表がいっぱいです。

説明: データベースの作成時に、以下のパラメーターが指定された可能性があります。

- 各ファイルのセグメントで指定できるページの最大数
- セグメントの数

現在、各表の部分がデータベース・セグメント内で複数ファイルを持っている可能性があります。ファイルは、セグメントの最大サイズ (セグメントごとの最大ページ数) まで拡張可能で、さらにデータを加えると、次のセグメントに移されます。これが、構成されたすべてのセグメントについて、セグメントごとの最大ページを使い果たすまで繰り返された後で、表がいっぱいになります。

したがって、データベース部分ごとのスペースの合計量は、最大ページ数と最大セグメント数の積によって求められます。表の中に構成済みのスペース全体を使用する部分があるときには、表がいっぱいになります。

連合システム・ユーザー: この状態は、データ・ソースによっても検出されることもあります。

ユーザーの処置:

- 表から行を削除してください。
- もっと大きいスペースを持つように、表を再構成してください。
- 最大ページ数および最大セグメント数を大きくした新しいデータベースを作成し、オリジナル・データベースをバックアップして、新しいデータベースに復元してください。

連合システム・ユーザー: 要求が失敗したデータ・ソースに問題を分離します (問題判別の手引きを参照して、SQL ステートメント処理を失敗させるデータ・ソースを判別してください)。それから、以下のことを行ってください。

- データ・ソースで表のスペースを増加するステップをとってください。
- 表が連合サーバー上にある場合には、セグメント当たりの最大ページ数およびセグメント数を大きくした新しいデータベースを作成してください。オリジナル・データベースをバックアップして、新しいデータベースを復元してください。

SQL8101N データベース・セグメントが間違っている可能性があります。

説明: このエラーは、以下の 2 つの状況で起こる可能性があります。

1. すべてのデータベース・セグメントは、ID ファイルを持っています。そのファイルが無くなったか、またはファイルの内容が正しくない可能性があります。
2. 以前に割り振られたデータベース・セグメントのいくつかが失われました。

ユーザーの処置:

- ファイル・システムが正しく取り付けられていることを確認してください。
- バックアップからデータベースを復元してください。
- IBM 担当者に連絡してください。

SQL9300 - SQL9399

SQL9301N 無効なオプションが指定されているか、オプション・パラメーターがありません。

説明: 指定されたオプションが無効か、またはオプション・パラメーターが指定されていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: オプションを訂正して、コマンドを再発行してください。

SQL9302N 無効なオプション・パラメーター: “<option-parameter>”。

説明: 示されているオプション・パラメーターが無効です。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: オプション・パラメーターを訂正して、コマンドを再発行してください。

SQL9303N <option> が指定されていません。

説明: 必須オプション “<option>” が指定されていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 必須オプションを指定して、コマンドを再発行してください。

SQL9304N 書き込みのためにファイル “<filename>” をオープンできません。

説明: コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: システムがそのファイルにアクセスできることを確認してください。

SQL9305N <name> が長すぎます。最大長は <max-length> です。

説明: <name> が最大長 <max-length> よりも長くなっています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: <name> が最大長を超えていないことを確認してください。

SQL9306N 1 つまたは複数のフィールド名が長すぎます。最大長は <max-length> です。

説明: フィールド名の合計の長さは、指定した接頭部か列接尾部、またはその両方を含みます。接頭部または接尾部は、名前または数字のいずれでもかまいません。この長さの合計が最大長を超えないようにしてください。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: すべてのフィールド名が最大長を超えていないことを確認してください。

SQL9307N 注釈をデータベースで検索できません。エラー・コード = “<sqlcode>”。

説明: 列の注釈をデータベースから検索しているときに、エラーが起きました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 詳細については、エラー・コードを調べてください。

SQL9308W 列 “<colname>” の SQL データ・タイプ “<sqltype>” はサポートされていません。

説明: SQL データ・タイプ “<sqltype>” は、指定されているホスト言語ではサポートされていません。

この列の宣言は生成されません。

ユーザーの処置: これが目的の表であるかどうか確認してください。

SQL9320I データベース “<database>” に接続しています...

説明: ユーティリティがデータベース “<database>” に接続しようと試みています。

ユーザーの処置: 失敗した場合は、詳細についてエラー・メッセージを参照してください。

SQL9321I ユーティリティを自動的にバインドしています...

説明: ユーティリティがデータベースにバインドしようと試みています。

ユーザーの処置: 失敗した場合は、詳細についてエラー・メッセージを参照してください。

SQL9322I 表 “<table>” で列情報を検索しています...

説明: ユーティリティが、表 “<table>” で列情報を検索しようと試みています。

SQL10000 - SQL10099

SQL10002N 指定されたパスワードが長すぎます。

説明: パスワードの長さは 18 文字以下です。ただし、パスワードが APPC 対話で検査される場合は、8 文字以下でなければなりません。

ユーザーの処置: パスワードが許容限界より長いことを確認してください。

sqlcode: -10002

sqlstate: 28000

ユーザーの処置: 失敗した場合は、詳細についてエラー・メッセージを参照してください。

SQL9323I ファイル “<filename>” への宣言を生成しています...

説明: ユーティリティが、ファイル “<filename>” への宣言を生成しようと試みています。

ユーザーの処置: 失敗した場合は、詳細についてエラー・メッセージを参照してください。

SQL9324I データベース “<database>” を切断しています...

説明: ユーティリティがデータベース “<database>” を切断しようと試みています。

ユーザーの処置: 失敗した場合は、詳細についてエラー・メッセージを参照してください。

SQL10003C 要求を処理するための十分なシステム・リソースがありません。要求は処理できません。

説明: データベース・マネージャーが、システム・リソースが不十分なために、要求を処理できませんでした。この問題の原因となるリソースには、以下が含まれます。

- システムのメモリー量
- システムで使用可能なメッセージ・キュー ID の数

ユーザーの処置: アプリケーションを停止してください。解決策は以下の通りです。

- バックグラウンド処理を終了してください。

- 上記のリソースを使用する他のアプリケーションを終了してください。
- リモート・データ・サービスを使用している場合は、アプリケーションごとに少なくとも 1 ブロックが使用されるので、サーバーとクライアント構成でリモート・データ・サービスのヒープ・サイズ (rsheapsz) を増やしてください。

注: これは、Version 2 以前の DB2 のリリースにのみ適用されます。

- UDF が失敗しているステートメントに関連する場合、`udf_mem_sz` の入ったメモリーの割り振りを定義する構成パラメーターの値を減らしてください。

sqlcode: -10003

sqlstate: 57011

SQL10004C データベース・ディレクトリーにアクセス中に入出力エラーが発生しました。

説明: システム・データベース・ディレクトリーまたはローカル・データベース・ディレクトリーにアクセスできません。このエラーは、システムがデータベースをカタログまたはアンカタログしているときのみでなく、ディレクトリーにカタログされているデータベースにアクセスしているときにも起きる可能性があります。

このエラーが戻されるのは、32 ビットと 64 ビットのプラットフォームをつなぐ接続を確立しようとした場合です。32 ビットと 64 ビットのプラットフォームをつなぐ接続はサポートされていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 解決策は以下の通りです。

- ローカル・データベース・ディレクトリーが壊れた場合は、そのディレクトリーにカタログされていたデータベースを、バックアップ・バージョンから復元して、それをカタログしてください。

サンプル・データベースをインストールしている場合は、それをドロップしてサンプル・データベースを再インストールしてください。

sqlcode: -10004

sqlstate: 58031

SQL10005N CONNECT TO ステートメントのモード・パラメーター
“<parameter>” が無効です。これは、共用アクセスの場合の SHARE、排他使用の場合の EXCLUSIVE、または単一ノードで排他使用の場合の EXCLUSIVE MODE ON SINGLE NODE でなければなりません。DB2 コネクトの場合には、SHARE モードのみサポートされます。EXCLUSIVE MODE ON SINGLE NODE は、MPP 構成でのみサポートされています。

説明: CONNECT TO ステートメントの *mode* パラメーターは、共用の場合は SHARE、排他使用の場合は EXCLUSIVE、単一ノードでの排他使用の場合には EXCLUSIVE MODE ON SINGLE NODE にしてください。DB2 コネクトを使用してデータベースに接続している場合には、共用アクセスのみが許可されています。EXCLUSIVE MODE ON SINGLE NODE は、MPP 構成でのみサポートされています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効な *mode* パラメーターを指定して、コマンドを再実行してください。

SQL10007N メッセージ “<msgno>” が検索できませんでした。理由コード: “<code>”

説明: 要求されたメッセージ <msgno> が、メッセージ・ファイルから検索できませんでした。理由コード <code> は以下のいずれかです。

1. 環境変数 “DB2INSTANCE” が設定されていないか、または無効なインスタンスに設定されています。それを訂正して、もう一度やり直してください。
2. メッセージ・ファイルは見つかりましたが、許可がないためにオープンできませんでした。メッセージ・ディレクトリー下のファイルに対するファイル許可をチェックしてください。
3. メッセージ・ファイルが見つかりませんでした。ファイルが存在しないか、またはメッセージ・ファイルが存在するべきディレクトリーが存在しません。 ’1 次’ ディレクトリー (デフォルト)、またはメッセージ・ディレクトリー下にある ’LANG’ 環境変数と同じ名前のディレクトリーをチェックしてください。
4. 要求されたメッセージがメッセージ・ファイルに存在しません。メッセージ・ファイルが古い、正しいファイルではありません。
5. LC_CTYPE が、データベースがサポートしないロケールに設定されています。それを訂正して、もう一度やり直してください。
6. 予期しないシステム・エラーが発生しました。もう一度実行してください。問題が続く場合は、IBM 担当者に連絡してください。
7. 十分なメモリーがありません。専用メモリーの獲得に失敗しました。もう一度やり直してください。

ユーザーの処置: 以下を確認した後で、コマンドを出し直してください。

- DB2INSTANCE 環境変数が、このコマンドを発行したユーザー名を表す正しいリテラル・ストリングに設定されていること確認してください。
- このコマンドを発行したユーザー名に正しいホーム・ディレクトリーが指定されていることを確認してください (たとえば、/etc/passwd ファイル内)。
- このコマンドを発行したユーザー名で、LANG 環境変数が、インストールされた言語に対する

正しい値、または ’C’ (’1 次’ ディレクトリーに対するデフォルト) にセットされていることを確認してください。

上記のすべてが正しくても、エラーが続く場合は、DB2 を再インストールしてください。

SQL1009N 指定されたコード・セット

“<codeset>” または領域
“<territory>”、あるいはその両方が無効です。

説明: このバージョンのデータベース・マネージャーは、Create Database コマンドで指定された活動コード・セットまたは領域、またはその両方をサポートしていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーにサポートされている有効なコード・セットと領域の詳細については、管理の手引きの Create Database コマンドを参照してください。

SQL10010N 指定されたライブラリー

“<name>” はロードされましたが、関数 “<function>” は実行できませんでした。

説明: ライブラリー内に関数ルーチンが見つかりません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置:

1. DARI ライブラリーの場合は、DARI ライブラリーが正しく作成されていることを確認してください。関数ルーチンが ’ファイルのエクスポート’ を使用して、エクスポートされていることを確認してください。
2. その他のライブラリーについては、データベース・マネージャー・インスタンスまたはデータベース・マネージャー製品の再インストールが必要になる可能性があります。

sqlcode: -10010

sqlstate: 42724

SQL10011N 指定された DARI ライブラリー
“<name>” のロード中に、割り込
みを受けました。

説明: DARI ライブラリーのロード中に、コマン
ドが割り込みを受けたので、割り込みキー（通常
Ctrl+Break または Ctrl+C）が押された可能性があ
ります。

処理は停止します。

ユーザーの処置: コマンドを再発行してくださ
い。

sqlcode: -10011

sqlstate: 42724

SQL10012N 指定されたライブラリー “<name>”
のロード中に予期しないオペレーテ
ィング・システム・エラーを受け取
りました。

説明: 「プログラム名」フィールドに指定された
ライブラリー・モジュールをロードしようと
して、予期しないエラーが起きました。

ユーザーの処置: 現在のコマンドを再発行してく
ださい。エラーが続く場合は、データベース・
マネージャーを停止して、再始動してください。
それでも、エラーが続く場合は、データベース・
マネージャーを再インストールしてください。

インストールがエラーを修正しない場合は、メッ
セージ番号 (SQLCODE) と、可能であれば、
SQLCA 内のすべての情報を記録してください。

トレースが活動状態の場合は、オペレーティ
ング・システムのコマンド・プロンプトから、独立
トレース機能呼び出ししてください。この機能
の使用法については、問題判別の手引きの独立
トレース機能を参照してください。その後で、
このガイドに記述されているように IBM に連絡
してください。

sqlcode: -10012

sqlstate: 42724

SQL10013N 指定されたライブラリー “<name>”
がロードできませんでした。

説明: ライブラリー・モジュールが見つかりませ
んでした。

ユーザーの処置: DARI ユーザーの場合は、指定
したライブラリーが使用可能であることを確認し
てください。

- クライアント・アプリケーションが、DARI ラ
イブラリーの指定に完全修飾パス名を使用する
場合は、DARI ライブラリーが指定されたデ
ィレクトリー・パスに格納されている必要があ
ります。クライアント・アプリケーションがパ
ス名を使用しない場合は、DARI ライブラリー
が、デフォルト・ディレクトリー
(<InstanceHomeDir>/sqllib/function) に格納され
ている必要があります。<InstanceHomeDir>
は、データベース・マネージャー・インスタ
ンスのホーム・ディレクトリーです。
- データベース・マネージャーの始動時に、この
エラー・メッセージが出された場合は、DB2
インスタンスまたはデータベース・マネージャ
ー製品のインストールが必要になる可能性があ
ります。

連合システム・ユーザー: 連合システムで
db2start を発行した結果、エラー・メッセージが
出され、その “<name>” が “DB2_DJ_COMM” か
らのものであれば、DB2_DJ_COMM 環境変数で
識別されたラッパー・モジュールの 1 つをロー
ドしているときに連合サーバーが問題を見つけ
ています。DB2_DJ_COMM 環境変数を更新して、
有効なラッパー・モジュールだけが組み込まれる
ようにしてください。

連合システムで db2start を発行した結果、エラ
ー・メッセージが出され、その “<name>” が
“DB2_DJ_COMM” からのものであれば、ユーザ
ーは連合インスタンスを再インストールしなけれ
ばなりません。

ライブラリーがラッパー・モジュールを識別している場合、モジュールをインストールし、(必要に応じて) リンク・エディットして、正しいディレクトリーで使用できるようにする必要があります。ラッパー・モジュールの構成の詳細については、インストールおよび構成 補足 を参照してください。

sqlcode: -10013

sqlstate: 42724

SQL10014N 指定された DARI プログラム名 “<name>” の呼び出しが無効です。

説明: DARI ライブラリー・モジュールまたは DARI プログラム名の構文が間違っています。

ユーザーの処置: DARI ライブラリーまたはプログラム名が正しく指定されていることを確認してください。

sqlcode: -10014

sqlstate: 42724

SQL10015N 指定されたライブラリー “<name>” のロードに十分なシステム・リソースがありません。

説明: ライブラリー・モジュールのロードに十分なメモリーがありません。

ユーザーの処置: アプリケーションを停止してください。解決策は以下のとおりです。

- バックグラウンド処理を終了してください。
- メモリー割り振りを定義する構成パラメーターの値を減らしてください。
- メモリーを増やしてください。

sqlcode: -10015

sqlstate: 42724

SQL10017N データベース・アプリケーション・リモート・インターフェース (DARI) プロシージャー内では、**SQL CONNECT RESET** ステートメントは使用できません。

説明: リモート・プロシージャーに、SQL CONNECT RESET ステートメントが入っています。

ユーザーの処置: SQL CONNECT RESET ステートメントを取り除いて、リモート・プロシージャーを再実行してください。

sqlcode: -10017

sqlstate: 38003

SQL10018N ディスクがいっぱいです。処理は終了しました。

説明: ディスクがいっぱいです。PC/IXF ファイルへのエクスポート中に、PC/IXF データ・ファイルがハード・ディスクに存在するか、PC/IXF データ・ファイルとデータベースが同じドライブに存在するか、または PC/IXF データ・ファイルとメッセージ・ファイルが同じドライブに存在しています。

EXPORT ユーティリティーは処理を停止します。エクスポートされたデータは完全ではありません。

ユーザーの処置: ディスクにもっと多くのスペースを確保するか、データベースまたはメッセージ・ファイルとは別のファイル・システムにデータ・ファイルが置かれるように指定して、コマンドを再発行してください。

SQL10019N 指定されたパスでは、データベースにアクセスできません。

説明: データベースは、以下のいずれかの理由からアクセスできません。

- パスにデータベース・イメージが入っていません。

- パスのアクセス許可が正しくありません。

ユーザーの処置: パスが有効なデータベースを示していること、および許可が正しいことを確認してください。

sqlcode: -10019

sqlstate: 58031

SQL10021N データベースへの書き込みアクセスが、ファイル許可によって許されません。

説明: 書き込みアクセスが認められていないファイル・システムに常駐するデータベースに対し

SQL20000 - SQL20099

SQL20005N 内部 ID 制限 “<limit>” がオブジェクト・タイプ “<object-type>” で超過しました。

説明: 内部 ID は、タイプ “<object-type>” のオブジェクトを固有に識別します。このタイプのオブジェクトの内部 ID の制限を超えました。これは、CREATE DISTINCT TYPE、CREATE FUNCTION、CREATE PROCEDURE、CREATE SEQUENCE ステートメントか、識別列を定義する ALTER TABLE または CREATE TABLE ステートメントで発生します。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 現在使用されていないタイプ “<object-type>” のオブジェクトをドロップしてください。

sqlcode: -20005

sqlstate: 54035

て、書き込み操作が行われました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: データベースが常駐するファイル・システムに対するファイル許可が、書き込みアクセスを許可していることを確認してください。

SQL20010N 構造化タイプのインスタンスが NULL の場合、変形メソッド “<method-ID>” は許可されていません。

説明: メソッド “<method-ID>” は、構造化タイプがヌルのインスタンスで指定されている変形メソッドです。変形メソッドをヌル・インスタンスで処理することはできません。メソッド名を使用できない場合もあります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 変形メソッドで使用されるヌル・インスタンスを判別してください。構成機能を使用して、インスタンスで変形メソッドを使用する前に構造化タイプの非ヌル・インスタンスを作成してください。

“<method-ID>” に関連しているメソッド名を判別するには、以下の照会を使用してください。

```
SELECT FUNCHEMA, FUNCNAME, SPECIFICNAME
FROM SYSCAT.FUNCTIONS
WHERE FUNCID = INTEGER("<method-ID>")
```

sqlcode: -20010

sqlstate: 2202D

SQL20011N トランスフォーム・グループ
“<group-name>” は、すでにデー
タ・タイプ “<type-name>” のサ
ブタイプまたはスーパータイプとし
て定義されています。

説明: トランスフォーム・グループ
“<group-name>” は、すでに “<type-name>” と同
じ階層のタイプとして存在しています。
“<type-name>” のスーパータイプまたはサブタイ
プとして定義されていると思われます。構造化タイ
プの中で、トランスフォーム・グループ名を使用
できるのは 1 度だけです。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: トランスフォーム・グループの
名前を変更してください。

sqlcode: -20011

sqlstate: 42739

SQL20012N タイプ “<type-name>” には、ド
ロップする関連トランスフォーム・
グループがありません。

説明: “<type-name>” にトランスフォームに定義
されていません。ドロップする対象はありませ
ん。

ステートメントは、トランスフォーム・グループ
をドロップしませんでした。

ユーザーの処置: タイプ名 (必須の修飾子を含
む) が SQL ステートメントに正しく指定されて
おり、そのタイプが存在することを確認してくだ
さい。

sqlcode: -20012

sqlstate: 42740

SQL20013N オブジェクト
“<super-object-name>” は、オブ
ジェクト “<sub-object-name>”
のスーパータイプ、スーパーテー
ブル、あるいはスーパービューとして
無効です。

説明: エラーになったステートメントがタイプを
作成している場合、“<super-object-name>” はユー
ザー定義の構造化タイプではないので、
“<sub-object-name>” のスーパータイプではないタイ
プです。

エラーになったステートメントが表を作成してい
る場合、“<super-object-name>” は、表
“<sub-object-name>” のスーパーテーブルではない
表です。なぜなら、タイプ付き表として定義され
ていないか、“<super-object-name>” が表
“<sub-object-name>” の定義に使用されているタイ
プの直接のスーパータイプではないからです。

エラーになったステートメントが視点を作成して
いる場合、“<super-object-name>” は、視点
“<sub-object-name>” のスーパービューではない視
点です。これは、タイプ付き視点として定義され
ていないか、視点 “<super-object-name>” のタイ
プが視点 “<sub-object-name>” の定義に使用され
ているタイプの直接のスーパータイプではないた
めです。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: CREATE ステートメントの
UNDER 文節に、有効なタイプ、表、あるいは視
点を指定してください。

sqlcode: -20013

sqlstate: 428DB

SQL20014N タイプ “<type-name>” のトランスフォーム・グループ “<group-name>” “<transform-type>” トランスフォーム関数は無効です。理由コード = “<reason-code>”

説明: トランスフォーム・グループ “<group-name>” の “<transform-type>” トランスフォーム関数は無効です。原因は、以下の “<reason-code>” で示されています。

- 1 FROM SQL トランスフォーム関数に許可されているパラメーターは 1 つだけです。
- 2 FROM SQL トランスフォーム関数のパラメーターは、タイプ “<type-name>” でなければなりません。
- 3 TO SQL トランスフォーム関数の RETURNS データ・タイプは、タイプ “<type-name>” でなければなりません。
- 4 スカラーを返す FROM SQL トランスフォーム関数の RETURNS タイプは、DECIMAL 以外の組み込みデータ・タイプでなければなりません。
- 5 スカラーを返す FROM SQL トランスフォーム関数の RETURNS タイプはすべて、DECIMAL 以外の組み込みデータ・タイプでなければなりません。
- 6 TO SQL トランスフォーム関数には、パラメーターが少なくとも 1 つ必要です。
- 7 TO SQL トランスフォーム関数のパラメーター・タイプはすべて、DECIMAL 以外の組み込みデータ・タイプでなければなりません。
- 8 TO SQL トランスフォーム関数はスカラー関数でなければなりません。
- 9 FROM SQL トランスフォーム関数は LANGUAGE SQL で作成されていなければ

ならないか、あるいは LANGUAGE SQL で作成された別の FROM SQL トランスフォーム関数を使用しなければなりません。

- 10 TO SQL トランスフォーム関数は LANGUAGE SQL で作成されていなければならず、あるいは LANGUAGE SQL で作成された別の TO SQL トランスフォーム関数を使用しなければなりません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置:

- 1 パラメーターが 1 つしかないシグニチャーで FROM SQL トランスフォーム関数を指定してください。
- 2 パラメーターのタイプが “<type-name>” と同じである FROM SQL トランスフォーム関数を指定してください。
- 3 RETURNS タイプが “<type-name>” と同じである TO SQL トランスフォーム関数を指定してください。
- 4 DECIMAL 以外の組み込みデータ・タイプである RETURNS タイプで FROM SQL トランスフォーム関数を指定してください。
- 5 行の要素がそれぞれ、DECIMAL 以外の組み込みデータ・タイプである RETURNS タイプを持つ、FROM SQL トランスフォーム関数を指定してください。
- 6 少なくとも 1 つのパラメーターを持つシグニチャーで TO SQL トランスフォーム関数を指定してください。
- 7 パラメーター・タイプがすべて、DECIMAL 以外の組み込みデータ・タイプである、TO SQL トランスフォーム関数を指定してください。

- 8 スカラー関数である TO SQL トランスフォーム関数を指定してください。
- 9 LANGUAGE SQL で作成された、または LANGUAGE SQL で作成された別の FROM SQL トランスフォーム関数を使用する FROM SQL トランスフォーム関数を指定してください。
- 10 LANGUAGE SQL で作成された、または LANGUAGE SQL で作成された TO SQL トランスフォーム関数を使用する TO SQL トランスフォーム関数を指定してください。

sqlcode: -20014

sqlstate: 428DC

SQL20015N トランスフォーム・グループ “<group-name>” は、データ・タイプ “<type-name>” に定義されていません。

説明: 示されているトランスフォーム・グループ “<group-name>” は、データ・タイプ “<type-name>” に定義されていません。データ・タイプ “<type-name>” がステートメントに明示的に指定されているか、またはそのデータ・タイプのトランスフォーム・グループが存在していることを必要とする構造化タイプの使用に暗黙的に基づいていると思われる。

“<group-name>” が空である場合、TRANSFORM GROUP バインド・オプションか CURRENT DEFAULT TRANSFORM GROUP 特殊レジスタのいずれかが指定されなかったため、“<type-name>” のトランスフォームがありませんでした。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: CREATE TRANSFORM ステートメントを使用して、データ・タイプ “<type-name>” のトランスフォーム・グループ “<transform-type>” を定義してください。トラン

スフォームをドロップしているときにエラーが起こった場合、トランスフォーム・グループがデータ・タイプに存在していないため、処置は必要ありません。

“<group-name>” が空である場合、TRANSFORM GROUP バインド・オプションを CURRENT DEFAULT TRANSFORM GROUP 特殊レジスタに指定してください。

sqlcode: -20015

sqlstate: 42741

SQL20016N タイプ “<type-name>” に関連するインライン長の値が小さすぎます。

説明: 構造化タイプ “<type-name>” の定義が、constructor 関数 (32 + 10 * number_of_attributes) によって返されるサイズよりも小さく、また 292 に満たない INLINE LENGTH 値を指定しています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 少なくともタイプの constructor 関数によって返されるサイズ、あるいは少なくとも 292 である INLINE LENGTH 値を指定してください。タイプ (またはこのタイプのスーパータイプ) を更新して属性を追加しているときにエラーが起こった場合、その属性を追加することができないか、あるいはタイプをドロップして、より大きな INLINE LENGTH 値で再作成しなければなりません。

sqlcode: -20016

sqlstate: 429B2

SQL20017N このサブタイプの追加はタイプ階層のレベルの最大数を超過しています。

説明: タイプ階層のレベル最大数は 99 です。このタイプを追加すると最大を超過してしまいます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: このタイプ階層へこれ以上サブ

タイプを追加しないでください。

sqlcode: -20017

sqlstate: 54045

SQL20018N 行関数 “<function-name>” は 1 行までしか返すことができません。

説明: この関数は単一行を返すよう定義されるものです。関数を処理した結果が複数行あります。

ユーザーの処置: 1 行までしか返せないような方法で関数が定義されていることを確認してください。

sqlcode: -20018

sqlstate: 21505

SQL20019N 関数本体から返される結果タイプは **RETURNS** 文節で定義されたデータ・タイプに割り当てられません。

説明: 関数本体から返される各列のデータ・タイプは、**RETURNS** 文節に定義されている対応する列に割り当てる必要があります。関数がスカラー関数の場合は、1 列しかありません。

ユーザーの処置: 対応する列のデータ・タイプが割り当て可能になるよう、**RETURNS** タイプまたは関数本体から返されるタイプを変更してください。

sqlcode: -20019

sqlstate: 42866

SQL20020N 操作 “<operation-type>” がタイプ付き表で無効です。

説明: “<operation-type>” で識別された操作を、タイプ付き表で実行することはできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: **ALTER** ステートメントから **ADD COLUMN** 文節または **SET DATATYPE** 文節を除去してください。属性として新規列の入っ

た構造化タイプの表を再定義してのみ、列を追加することができます。つまり、列のデータ・タイプは異なるデータ・タイプの列の入ったタイプの表を再定義してのみ変更できます。

sqlcode: -20020

sqlstate: 428DH

SQL20021N 継承された列あるいは属性 “<name>” の変更あるいはドロップはできません。

説明: “<name>” の値は、ステートメント・コンテキストによって、列名または属性名を識別します。それは、表、視点またはタイプ階層の上記のタイプ付き表、タイプ付き視点、または構造化タイプから継承されています。

- **CREATE TABLE** ステートメントでは、**WITH OPTIONS** 文節を **CREATE TABLE** ステートメントの列 “<name>” に指定することはできません。表階層のスーパーテーブルから継承しているためです。
- **ALTER TABLE** ステートメントでは、**SET SCOPE** 文節を列 “<name>” に指定することはできません。表階層のスーパーテーブルから継承しているためです。
- **CREATE VIEW** ステートメントでは、**WITH OPTIONS** 文節を **CREATE VIEW** ステートメントの列 “<name>” に指定することはできません。視点階層のスーパービューから継承しているためです。
- **ALTER TYPE** ステートメントでは、**DROP ATTRIBUTE** 文節を属性 “<name>” に指定することはできません。タイプ階層のスーパータイプから継承しているためです。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 列のオプションは、列が導入されているタイプ付き表階層またはタイプ付き視点階層の表または視点にのみ、設定または更新することができます。属性は、属性が導入されている

タイプ階層のデータ・タイプからのみ、ドロップすることができます。

sqlcode: -20021

sqlstate: 428DJ

SQL20022N 参照列 "`<column-name>`" の有効範囲はすでに定義されています。

説明: 参照列 "`<column-name>`" の有効範囲はすでに定義されているので追加できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ADD SCOPE 文節を ALTER TABLE ステートメントから除去できません。

sqlcode: -20022

sqlstate: 428DK

SQL20023N 外部あるいはソース関数のパラメーター "`<parm-number>`" に定義済みの有効範囲があります。

説明: 参照タイプ・パラメーターは、外部またはソースのユーザー定義関数を使用するときは有効範囲を定義してはいけません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 有効範囲指定をパラメーターの定義から除去してください。

sqlcode: -20023

sqlstate: 428DL

SQL20024N 有効範囲表あるいは視点 "`<target-name>`" は、構造化タイプ "`<type-name>`" で定義されていません。

説明: 有効範囲表あるいは視点 "`<target-name>`" は、以下の理由からこの参照の有効範囲としての使用では無効です。

- タイプ付き表以外
- タイプ付き視点以外

- REF タイプのターゲット・タイプとは異なる表あるいは視点のタイプ

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: REF タイプのターゲット・タイプと同じタイプ付き表あるいはタイプ付き視点を使用して、参照の有効範囲を指定してください。

sqlcode: -20024

sqlstate: 428DM

SQL20025N SCOPE が外部関数の RETURNS 文節で指定されていないか、ソース関数の RETURNS 文節で定義されているかのいずれかです。

説明: 2 つの原因が考えられます。

- 参照タイプは、ユーザー定義の外部関数の結果として使用される場合は有効範囲を定義する必要があります。
- 参照タイプは、ユーザー定義のソース関数の結果として使用される場合は有効範囲を定義できません。関数はソース関数の有効範囲を使用します。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 外部関数を参照タイプと一緒に戻りタイプとして定義する場合は、SCOPE 文節が指定されていることを確認してください。参照を戻りタイプとして、SOURCED 関数を定義する場合には、SCOPE 文節が指定されていないことを確認してください。

sqlcode: -20025

sqlstate: 428DN

SQL20026N タイプ "`<type-name>`" は構造化タイプではないか、またはインスタンス化が可能な構造化タイプではありません。

説明: ステートメントには、インスタンス化することができる構造化タイプが必要です。タイプ "`<type-name>`" は以下のいずれかです。

- 構造化タイプではない
- インスタンス化できないよう定義されている構造化タイプである

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 正しいタイプ名がステートメントに使用されていることを確認してください。

sqlcode: -20026

sqlstate: 428DP

SQL20027N 副表あるいは副視点 "`<sub-object-name>`" は、タイプ "`<type-name>`" を指定した副表あるいは副視点 "`<object-name>`" がすでに存在するために作成されませんでした。

説明: タイプ付き表階層あるいは視点階層内では、1つの階層あるいは副視点のみが、特定のサブタイプに存在します。すでに定義されているタイプ "`<type-name>`" の表または視点があるので、表または視点 "`<sub-table-name>`" を作成できませんでした。すでに存在している表または視点は "`<object-name>`" です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 副表あるいは副視点正しいタイプで作成されていること、副表あるいは副視点正しいスーパーテーブルの下で作成されていることを確認してください。

sqlcode: -20027

sqlstate: 42742

SQL20028N 表または視点 "`<table-name>`" は、同じ階層にある他の表または視点と異なるスキーマ名を持つことはできません。

説明: タイプ付き表階層にある表すべてが、同じスキーマ名を持つ必要があり、タイプ付き視点階層にある視点すべてが同じスキーマ名を持つ必要があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 表または視点のスキーマ名が正しいことを確認してください。階層名が指定されている場合は、そのスキーマ名がルート表またはルート視点と一致していることを確認してください。副表を作成する場合は、正しいスーパーテーブルの下で作成されることを確認してください。副視点を作成する場合は、正しい副視点の下で作成されることを確認してください。

sqlcode: -20028

sqlstate: 428DQ

SQL20029N "`<operation>`" は副表に適用されません。

説明: 操作 "`<operation>`" が、表階層のルートでない表に適用されました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 操作で、表階層のルート表を指定してください。

sqlcode: -20029

sqlstate: 428DR

SQL20030N タイプ付き表、タイプ付き視点、または索引拡張子 “<object-name>” がタイプに従属している場合、構造化タイプ “<type-name>” を追加またはドロップすることはできません。

説明: 構造化タイプのタイプ付き表またはタイプ付き視点、あるいはそのサブタイプが存在する場合、構造化タイプの属性を追加またはドロップすることはできません。また直接的に、あるいは間接的に “<type-name>” を使用している表に列が存在する場合も、構造化タイプの属性を追加またはドロップできません。さらにタイプ “<type-name>”、またはそのサブタイプのいずれかが索引拡張子で使用されている場合も、構造化タイプの属性を追加またはドロップできません。表、視点、または索引拡張子 “<object-name>” が、構造化タイプ “<type-name>” に従属する表、視点、あるいは索引拡張子になっています。タイプ、またはその適切なサブタイプに従属する、その他の表、視点、または索引拡張子が存在する可能性があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 正しいタイプが更新されることを確認し、構造化タイプ “<type-name>” に従属する表、視点、および索引拡張子をドロップしてください。

sqlcode: -20030

sqlstate: 55043

SQL20031N “<Object>” は副表で定義されていない可能性があります。

説明: 1 次キーおよび固有制約はタイプ付き表階層のルート表にのみ定義できます。同様に、固有索引はタイプ付き表階層のルート表にのみ定義できます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 固有索引、1 次キーまたは固有

制約は、表階層のルート表にのみ定義してください。

sqlcode: -20031

sqlstate: 429B3

SQL20032N 指定された列の索引は、副表 “<table-name>” で定義されません。

説明: 索引に指定された列はすべて、副表 “<table-name>” ではなくタイプ付き表階層の高いレベルで導入されました。よって、索引をこの副表に作成することはできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: まずすべての列が入っている表階層の表を判別してください。その名前を、索引を作成するとき表名として使用してください。

sqlcode: -20032

sqlstate: 428DS

SQL20033N “<partial-expression>” を組み込んでいる式に有効範囲の参照が含まれていません。

説明: “<partial-expression>” の入った式が、有効範囲を定義した参照タイプのオペランドを要求しています。式が Deref 関数を含む場合、関数の引き数は有効範囲を定義した参照タイプである必要があります。

参照解除演算子 (->) の場合、左のオペランドは有効範囲を定義した参照タイプである必要があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: SQL ステートメント構文を修正して、オペランドまたは引き数が有効範囲を定義した参照タイプとなるようにしてください。

sqlcode: -20033

sqlstate: 428DT

SQL20034N データ・タイプ

"<list-type-name>" は、TYPE 述部の左側のオペランドのデータ・タイプ "<left-type-name>" が含まれる構造化データ・タイプ階層に含まれていません。

説明: TYPE 述部にリストされているすべてのデータ・タイプが、TYPE 述部の左オペランドのデータ・タイプの入ったタイプ階層に含まれる必要があります。データ・タイプ "<left-type-name>" が構造化データ・タイプ (タイプ階層の一部でない) ではないか、またはデータ・タイプ "<list-type-name>" が "<left-type-name>" が含まれるデータ・タイプ階層に入っていないか。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 式のデータ・タイプと TYPE 述部にあるリストされたデータ・タイプのすべてが同じデータ・タイプ階層内の構造化データ・タイプであるか、確認してください。

"<left-type-name>" が SYSIBM.REFERENCE の場合、DEREF を使用して、式の結果データ・タイプを構造化データ・タイプにしてください。

sqlcode: -20034

sqlstate: 428DU

SQL20035 参照解除演算子の左側オペランドが無効です。パスの式は "<expression-string>" で開始します。

説明: パス式の別の演算子の左オペランドが無効です。考えられる原因は以下のとおりです。

- 左オペランドに、引き数としての列関数を使用している列関数が入っています。
- 左オペランドの式に、列関数と GROUP BY 文節にない列の参照が入っています。

ユーザーの処置: "<expression-string>" で開始するパス式の参照解除演算子のオペランドを修正してください。

sqlcode: -20035

sqlstate: 428DV

SQL20036N オブジェクト ID の列

"<column-name>" を、参照解除演算子を使用して参照されません。

説明: 参照解除演算子が右オペランドとして "<column-name>" と一緒に使用されています。この列は参照解除のターゲット表のオブジェクト ID の列です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 参照解除操作で列の名前を修正してください。

sqlcode: -20036

sqlstate: 428DW

SQL20037N オブジェクト ID の列はタイプ付き表または視点階層のルート表またはルート視点 "<object-name>" を作成するために必要です。

説明: タイプ付き表階層のルート表を作成するときに、オブジェクト ID (OID) 列が (REF IS 文節を使用して) CREATE TABLE ステートメントに定義される必要があります。

タイプ付き視点階層のルート視点を作成するときに、オブジェクト ID (OID) 列が (REF IS 文節を使用して) CREATE VIEW ステートメントに定義される必要があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 必要な OID 列 (REF IS 文節) を CREATE TABLE または CREATE VIEW ステートメントに追加してください。

sqlcode: -20037

sqlstate: 428DX

SQL20038N “<keywords>” 文節を EXTEND USING 文節とともに使用することはできません。

説明: CREATE INDEX ステートメントの EXTEND USING 文節を “<keywords>” 文節とともに指定することはできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: “<keywords>” 文節の指定を除去するか、あるいは EXTEND USING 文節を CREATE INDEX ステートメントから除去してください。

sqlcode: -20038

sqlstate: 42613

SQL20039N 索引 “<index-name>” の定義が索引拡張子 “<index-ext-name>” の定義に一致しません。

説明: 索引定義と索引拡張子定義が一致しません。どこの定義が合っていないかを次にリストします。

- EXTEND USING 文節の索引拡張子名に続く引き数の数が、索引拡張子のインスタンス・パラメーターの数と一致していません。
- EXTEND USING 文節の索引拡張子名のデータ・タイプが、対応する索引拡張子のインスタンス・パラメーターのデータ・タイプと (長さ、精度および位取りを含めて) 正確に一致していません。
- 索引に指定されている列の数が、索引拡張子のソース・キー・パラメーターの数と一致していません。
- 索引列のデータ・タイプが、対応する索引拡張子のソース・キー・パラメーターのデータ・タイプと (長さ、精度および位取りを含めて) 正確に一致していません。サブタイプの文字のデータ・タイプの正確な一致の例外です。索引の列が、ソース・キー・パラメーターに対応する

ように指定されたデータ・タイプのサブタイプである可能性があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 索引拡張子が一致するように修正してください。

sqlcode: -20039

sqlstate: 428E0

SQL20040N 範囲生成表関数

“<range-function-name>” の結果の数あるいはタイプが索引拡張子 “<index-ext-name>” のキー・トランスフォーメーション表関数 “<transform-function-name>” の数あるいはタイプと一致しません。

説明: 範囲生成関数には以下の条件があります。

- キー・トランスフォーメーション関数として返される列の 2 倍までの列を戻す
- 偶数の列を持つ (戻り列の最初の半分は開始キーで、戻り列の残りの半分は停止キー)
- 各開始キー列が停止キー列に対応する同じタイプを持つ
- 各開始キー列のタイプが対応するトランスフォーメーション関数列と同じである

つまり、 $a_1:t_1, \dots, a_n:t_n$ を関数結果列とキー変換関数のデータ・タイプにしてください。範囲生成関数の関数結果列は、 $b_1:t_1, \dots, b_m:t_m, c_1:t_1, \dots, c_m:t_m$ であればなりません。ここで $m \leq n$ および “b” 列は開始キー列、“c” 列は停止キー列です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: キー・トランスフォーメーション表関数と一緒に範囲生成表関数を指定してください。

sqlcode: -20040

sqlstate: 428E1

SQL20041N ターゲット・キー・パラメーターの数あるいはタイプが索引拡張子“<index-ext-name>”のキー・トランスフォーム関数“<function-name>”の数あるいはタイプと一致しません。

説明: ターゲット・キー・パラメーターの数は、キー・トランスフォーム関数から戻された結果の数と一致する必要があります。さらに、ターゲット・キー・パラメーターのタイプは、対応する関数結果タイプと完全に一致する必要があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ターゲット・キー・パラメーターに、正しい数とタイプのパラメーターを指定してください。

sqlcode: -20041

sqlstate: 428E2

SQL20042N 最大許可“<parm-type>”パラメーターが索引拡張子“<index-ext-name>”内で超過しています。最大数は“<max-value>”です。

説明: 指定されたパラメーターが多すぎます。“<parm-type>”が索引拡張子の場合、“<max-value>”までのインスタンス・パラメーターを指定できます。“<parm-type>”が索引キーの場合、“<max-value>”までのキー・ソース・パラメーターを指定できます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: パラメーターの最大数より少ない数を指定してください。

sqlcode: -20042

sqlstate: 54046

SQL20043N ルーチン“<routine-name>”の引き数が無効です。理由コード = “<reason-code>”

説明: ルーチン“<routine-name>”はトランスフォーマー関数、範囲指定関数、または FILTER USING 文節で参照されているルーチン(関数またはメソッド)です。reason-code は、引き数が無効である理由を示しています。

- 1 キー・トランスフォーマー関数の場合、引き数は observer メソッドまたは索引拡張子インスタンス・パラメーターではありません。
- 2 引き数として使用されている式が、LANGUAGE SQL を指定するルーチンを使用しています。
- 3 引き数として使用されている式が副照会です。
- 4 引き数として使用されている式のデータ・タイプを構造化タイプにすることはできません。
- 5 キー・トランスフォーマー関数の引き数を構造化データ・タイプ、LOB、DATALINK、LONG VARCHAR、または LONG VARCHAR のデータ・タイプにすることはできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 関数に有効な引き数を指定してください。

sqlcode: -20043

sqlstate: 428E3

SQL20044N ルーチン “<routine-name>” または **CASE** 式は、**CREATE INDEX EXTENSION** または **CREATE FUNCTION** ステートメントでは無効です。理由コード = “<reason-code>”

説明: CREATE INDEX EXTENSION または CREATE FUNCTION ステートメントで使用されている場合、ルーチン (関数またはメソッド) “<routine-name>” は無効です。“<routine-name>” が空である場合、フィルターののために使用されている CASE 式が無効です。理由コードは次の理由を示しています。

- 1 キー・トランスフォーメーション関数は表関数ではありません。
- 2 キー・トランスフォーメーション関数は外部関数ではありません。
- 3 キー・トランスフォーメーション関数は可変関数です。
- 4 キー・トランスフォーメーション関数は外部アクション関数です。
- 5 範囲生成関数は表関数ではありません。
- 6 範囲生成関数は外部関数ではありません。
- 7 範囲生成関数は可変関数です。
- 8 範囲生成関数は外部処理関数です。
- 9 索引フィルター関数は外部関数ではありません。
- 10 索引フィルター関数は可変関数です。
- 11 索引フィルターは外部処理関数です。
- 12 フィルター関数または CASE 式の結果タイプが数字データ・タイプではありません。
- 13 副照会が CASE 式で、またはフィルター関数の引き数として使用されています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: “<routine-name>” が空である場合、CREATE INDEX EXTENSION または CREATE FUNCTION ステートメントの特定の文節に指定されている関数またはメソッドの規則に従うルーチンを指定してください。空ではない場合、FILTER USING 文節の CASE 式の規則に従う CASE 式を指定してください。

sqlcode: -20044

sqlstate: 428E4

SQL20045N インスタンス・パラメーター “<parameter-name>” のデータ・タイプは索引拡張子 “<index-ext-name>” で無効です。

説明: インスタンス・パラメーターは次のデータ・タイプのいずれかです。 VARCHAR、VARGRAPHIC、INTEGER、DECIMAL、または DOUBLE

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: インスタンス・パラメーター “<parameter-name>” に有効なデータ・タイプを指定してください。

sqlcode: -20045

sqlstate: 429B5

SQL20046N “<predicate-string>” に続く **SELECTIVITY** 文節は、有効なユーザー定義述部にのみ指定できます。

説明: SELECTIVITY 文節が、有効なユーザー定義関数を含んでいない述部とともに指定されています。有効なユーザー定義関数は、述部に一致する WHEN 文節とともに PREDICATES 文節を含んでいます。ユーザー定義述部の場合を除き、SELECTIVITY 文節を指定することはできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 述部に続く SELECTIVITY 文節を除去してください。

sqlcode: -20046

sqlstate: 428E5

SQL20047N 探索メソッド “<method-name>” は索引拡張子 “<index-ext-name>” で見つかりません。

説明: ユーザー定義の述部の指数規則に参照されているメソッド “<method-name>” は、索引拡張子 “<index-ext-name>” で指定されている検索メソッドの 1 つに一致する必要があります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 索引拡張子で定義されているメソッドを指定してください。

sqlcode: -20047

sqlstate: 42743

SQL20048N メソッド “<method-name>” の検索引き数が索引拡張子 “<index-ext-name>” で対応する検索メソッドの検索引き数と一致しません。

説明: メソッド “<method-name>” に提供された検索引き数が索引拡張子 “<index-ext-name>” で対応する検索メソッドの引き数と一致しません。引き数の数または引き数のタイプが定義されているパラメーターの数またはタイプと一致しません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 索引拡張子に定義されたパラメーターに一致する検索引き数を指定してください。

sqlcode: -20048

sqlstate: 428E6

SQL20049N AS PREDICATE WHEN 文節にある比較演算子に続くオペランドのタイプは RETURNS タイプと一致しません。

説明: ユーザー定義の述部の定義が有効ではありません。AS PREDICATE WHEN 文節で、比較演算子に続くオペランドのタイプが関数の RETURNS タイプと一致しません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 正しいデータ・タイプのオペランドを指定してください。

sqlcode: -20049

sqlstate: 428E7

SQL20050N 検索ターゲットまたは検索引き数 “<parameter-name>” が、作成されている関数にある名前に一致していません。

説明: 索引指数規則の検索ターゲットはそれぞれ、作成されている関数のパラメーター名に一致していなければなりません。また索引指数規則の検索引き数はそれぞれ、EXPRESSION AS 文節内の式名、または作成されている関数のパラメーター名に一致していなければなりません。関数のパラメーター・リストにパラメーター名が指定されていないければなりません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 検索ターゲットまたは検索引き数に、有効な関数の名前だけを指定してください。

sqlcode: -20050

sqlstate: 428E8

SQL20051N 引き数 “<parameter-name>” は同一の指数規則中で検索ターゲットおよび検索引き数の両方として出現しません。

説明: 指数文節で、関数パラメーターを、KEY に続く引き数、および USE キーワードに続いて指定される引き数として指定することはできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: パラメーター名は、検索ターゲットまたは検索引き数の 1 つで指定してください。

sqlcode: -20051

sqlstate: 428E9

SQL20052N 列 “<column-name>” は更新されないオブジェクト ID の列ではありません。

説明: UPDATE ステートメントにはオブジェクト ID (OID) 列である列の設定が入っています。OID 列は更新できません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: “<column-name>” の SET を UPDATE ステートメントから除去してください。

sqlcode: -20052

sqlstate: 428DZ

SQL20053N タイプ付き視点での全選択 “<view-name>” は無効です。理由コード = “<reason-code>”

説明: タイプ付き視点 “<view-name>” の定義で指定された全選択は、規則に従っていません。理由コードとして、以下のものが推定されます。

1 副表定義に共通の表の式が入っているか、副表定義のブランチが単一の表、視点、ニックネーム、または別名に及んでいません。

2 表階層のブランチの行設定を、タイプ付き視点階層の残りにある同じ表階層のすべてのブランチの行設定と区別できるようにするため、データベース・マネージャーによって証明できません。

3 ルート視点の階層のブランチの最初の式が、以下の状態になっています。

- FROM 文節で参照されるタイプ付き表またはタイプ付き視点のオブジェクト ID 列ではありません。REF IS 文節の UNCHECKED オプションが OR になっていません。
- FROM 文節の表が入力されていない場合、列がヌル可能ではないか、またはその列のみで定義された固有索引を持っていません。REF IS 文節の UNCHECKED オプションが OR になっていません。
- 副表内の同じ階層のブランチの表と同一ではありません。

4 副視点のブランチの範囲が及ぶ表または視点が、スーパービューのブランチで参照されている表または視点の副表または副視点ではありません。副視点が EXTEND AS を使用しているか、ルート視点では REF IS 文節の UNCHECKED オプションがオンになっていません。

5 全選択には、NODENUMBER あるいは PARTITION 関数、非 deterministic 関数、あるいは外部アクションを行うように定義された関数への参照が含まれません。

6 スーパービューのブランチの範囲が、OUTER を使用せずに同じ階層の表または視点に及んでいる場合、その副表のブランチは OUTER 表または視点に及びません。

7 副表の範囲が、自身の視点階層の視点に及んでいます。

8 副視点が、その定義の中の UNION ALL

以外の設定操作を使用しているか、ルート視点の REF IS 文節の UNCHECKED オプションを指定せずに UNION ALL が定義の中で使用されています。

- 9 同じ表階層または視点階層に範囲が及ぶ UNION ALL の 2 つのブランチが副表に入っています。
- 10 副視点定義に GROUP BY または HAVING 文節が入っています。

ユーザーの処置: “<reason-code>” に基づいて、視点定義の全選択を変更してください。

- 1 FROM 文節の表あるいは表示を使用します。ルート表の REF IS 文節の UNCHECKED オプションを使用して範囲に含むことができるタイプ付き視点に複合選択をカプセル化してください。
- 2 視点階層ですでに使用されているものとは異なる FROM 文節で、異なる表または視点を指定するか、それぞれのブランチの行の設定を、タイプ付き視点階層にある別のブランチの行の設定と区別して比較できるように明確に定義する述部を使用します。
- 3 ルート視点の最初の列が、タイプ付き視点に対する有効なオブジェクト ID の列である規則に従っているかどうか、確認してください。REF IS 文節で UNCHECKED オプションを使用することを検討してください。
- 4 スーパービューのブランチの FROM 文節で指定された表または視点の副表あるいは副視点を指定してください。または、副視点定義の AS (EXTEND なし) 文節との組み合わせでルート視点定義の UNCHECKED オプションを使用してください。
- 5 全選択から関数への参照を除去してください。
- 6 これが、この階層のブランチの OUTER

を使用するための最初の副視点である場合、OUTER が使用されないように FROM を変更してください。スーパービューが OUTER を使用する場合、副視点の FROM 文節に OUTER を組み込んでください。

- 7 副視点の基本を同じ階層の他の視点にしないでください。
- 8 UNION ALL が使用された場合、ルート視点の REF IS 文節で UNCHECKED オプションを使用して、副視点定義の複数のブランチを許可します。他の設定操作の場合、設定操作を視点にカプセル化し、副視点の UNCHECKED オプションを使用して、共通の視点でのソース化を可能にします。
- 9 ブランチを統一して、共通のスーパーテーブルまたはスーパービューを選択し、述部 (たとえば、type 述部) を使用して、目的の行のためにフィルターをかけます。
- 10 GROUP BY および HAVING 文節を視点にカプセル化し、ルート視点の UNCHECKED オプションを使用して、共通の視点でのソース化を可能にします。

sqlcode: -20053

sqlstate: 428EA

SQL20054N 表 “<table-name>” が無効な状態にあるため、操作できません。理由コード = “<reason-code>”

説明: 表は、操作を許可しない状態になっています。理由コードは、この操作ができない表の状態を示します。

- 21 表がデータ・リンク調整保留 (DRP) 状態あるいはデータ・リンク (DRNP) 状態になっている。

22 関数は、生成された列で使用されません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 処置は次のように理由コードに基づきます。

21 データ・リンク調整保留 (DRP) およびデータ・リンク調整不可 (DRNP) 状態で該当する処置を取るための情報については、管理の手引きを参照してください。

22 表を更新する前に SET INTEGRITY FOR <table-name> OFF を使用してください。次に表を更新し、SET INTEGRITY FOR <table-name> IMMEDIATE CHECKED FORCE GENERATED を使用して、新規または更新された列の値を生成してください。

sqlcode: -20054

sqlstate: 55019

SQL20055N 選択リストの結果列データ・タイプは、列 "**<column-name>**" の定義済みのデータ・タイプと互換性がありません。

説明: "**<column-name>**" に対応する選択リスト式のデータ・タイプは、構造化タイプの属性に対するデータ・タイプと互換性がありません。両方が、以下のデータ・タイプでなければなりません。

- 数値
- 文字
- 漢字
- 日付または文字
- 時刻または文字
- タイム・スタンプまたは文字
- データ・リンク
- 同一の特殊タイプ

- 選択リスト式のターゲット・タイプが、属性のターゲット・タイプのサブタイプである参照タイプ

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 表の現在の定義と、関連する構造化タイプを調べてください。指定された列の選択リスト式のデータ・タイプが互換タイプかどうか、確認してください。

sqlcode: -20055

sqlstate: 42854

SQL20056N DB2 データ・リンク・マネージャー "**<name>**" の処置で、エラーが見つかりました。理由コード = "**<reason-code>**"

説明: ステートメントを DB2 データ・リンク・マネージャーが処理しているときに、以下の理由コードに示されているようなエラーが見つかりました。

- 01 DB2 データ・リンク・マネージャーのデータと表の DATALINK 値の間で不整合が検出されました。
- 02 DB2 データ・リンク・マネージャーが処理中にリソースの限界に達しました。
- 99 DB2 データ・リンク・マネージャーが内部処理エラーを見つけました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 処置は次のように理由コードに基づきます。

- 01 表で調整ユーティリティを実行してください。
- 02 DB2 データ・リンク・マネージャー管理者が診断ログからのリソースを識別し、訂正処置を行わなければなりません。
- 99 DB2 データ・リンク・マネージャーおよ

びデータベース・マネージャーからの診断ログを保管し、IBM サービスに連絡してください。

sqlcode: -20056

sqlstate: 58004

SQL20057N 副視点 "`<view-name>`" の列 "`<column-name>`" は、対応する列が副視点で更新可能な場合に、読取専用として定義することができません。

説明: 副視点 "`<view-name>`" の列 "`<column-name>`" で示される列は、読み取り専用として (暗黙的に) 定義されています。"`<view-name>`" のスーパービューには、更新可能な対応列が含まれます。列は、更新可能から、タイプ付き視点階層での読み取り専用へと変更されません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: CREATE VIEW ステートメントを変更して、副視点 "`<view-name>`" の列が更新可能にするか、あるいはスーパービューをドロップしてから READ ONLY 文節を使用して再作成し、列を強制的に読み取り専用にします。

sqlcode: -20057

sqlstate: 428EB

SQL20058N 要約表 "`<table-name>`" で指定した全選択が無効です。

説明: 要約表定義には、全選択の内容に関して特定の規則があります。要約表のオプション (REFRESH DEFERRED あるいは REFRESH IMMEDIATE) に基づいた規則もあり、別の規則は、表が複製されているかどうかに基づいています。この条件を返す CREATE TABLE ステートメントにある全選択は、SQL 解説で記述されている規則のいずれかに違反しています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: CREATE TABLE ステートメントの全選択を変更して、要約表のオプションに基づいた規則に従うようにするか、要約表が複製されたかどうか確認します。

sqlcode: -20058

sqlstate: 428EC

SQL20059W 要約表 "`<table-name>`" は、照会の処理を最適化するため使用されない可能性があります。

説明: 照会処理を最適化するとき、要約表は REFRESH DEFERRED で定義され、全選択はデータベース・マネージャーによって現在サポートされていません。規則は、要約表オプション (REFRESH DEFERRED あるいは REFRESH IMMEDIATE) に基づいています。この条件を返す CREATE TABLE ステートメントにある全選択は、SQL 解説で記述されている規則のいずれかに違反しています。

要約表は正常に作成されました。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。要約表が照会処理の最適化で使用されることを意図している場合、全選択が、GROUP BY 文節が含まれる副選択になるように再定義してください。

sqlcode: +20059

sqlstate: 01633

SQL20060N "`<tblspace-id>`" にある表 "`<table-id>`" の索引 "`<index-id>`" の索引拡張子によって使用されているキー・トランスフォーム表関数が、重複する行を生成しました。

説明: 索引 "`<index-id>`" によって使用されている索引拡張子の GENERATE USING 文節で指定されたキー・トランスフォーム表関数が、重複する行を生成しました。キー・トランスフォーム表関数の呼び出しの場合、重複する行は作成されません。このエラーは、表スペース "`<tblspace-id>`" にある表 "`<table-id>`" の索引 "`<index-id>`" のキー

値を挿入または更新しているときに起こります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 重複する行が作成されないよう、索引“<index-id>”の索引拡張子によって使用されているキー・トランスフォーム表関数のコードを変更しなければなりません。

索引名を判別するには、以下の照会を使用してください。

```
SELECT IID, INDSHEMA, INDNAME
FROM SYSCAT.INDEXES AS I,
     SYSCAT.TABLES AS T
WHERE IID = <index-id>
      AND TABLEID = <table-id>
      AND TSPACEID = <tbspace-id>
      AND T.TBASHEMA = I.TBASHEMA
      AND T.TABNAME = I.TABNAME
```

sqlcode: -20060

sqlstate: 22526

SQL20062N タイプ“<type-name>”のトランスフォーム・グループ
“<group-name>”にあるトランスフォーム関数“<type-name>”は、関数またはメソッドとして使用できません。

説明: タイプ“<type-name>”のトランスフォーム・グループ“<group-name>”に定義されている関数は SQL で作成 (LANGUAGE SQL で定義) されていないため、関数またはメソッドとして使用することができません。この関数またはメソッドにトランスフォーム・グループを使用することはできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: LANGUAGE SQL で定義されたトランスフォーム関数を持つ、タイプ“<type-name>”のトランスフォーム・グループを指定してください。

sqlcode: -20062

sqlstate: 428EL

SQL20063N TRANSFORM GROUP 文節をタイプ“<type-name>”に指定しなければなりません。

説明: 関数またはメソッドに、トランスフォーム・グループが指定されていないパラメーターまたは戻りデータ・タイプ“<type-name>”が入っています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: “<type-name>”に定義されているトランスフォーム・グループ名で TRANSFORM GROUP 文節を指定してください。

sqlcode: -20063

sqlstate: 428EM

SQL20064N トランスフォーム・グループ
“<group-name>”は、パラメーターまたは戻りデータ・タイプとして指定されたデータ・タイプをサポートしていません。

説明: TRANSFORM GROUP 文節に指定されているトランスフォーム・グループ“<group-name>”は、パラメーター・リスト、あるいは関数またはメソッドの RETURNS 文節に組み込まれているデータ・タイプに定義されていません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 関数またはメソッド定義からトランスフォーム・グループを除去してください。

sqlcode: -20064

sqlstate: 428EN

SQL20065N データ・タイプ “<type-name>” のトランスフォーム・グループ “<type-name>” は、クライアント・アプリケーション用の構造化タイプをトランスフォームするために使用できません。

説明: データ・タイプ “<type-name>” のトランスフォーム・グループ “<group-name>” は、クライアント・アプリケーションでのトランスフォーム実行時に使用できないトランスフォーム関数を定義しています。考えられる原因は、クライアント・アプリケーション用にサポートされていないトランスフォーム関数の定義に基づいています。サポートされていないトランスフォーム関数として、以下が考えられます。

- ROW 関数である FROM SQL 関数
- 複数のパラメーターを持つ TO SQL 関数

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 静的組み込み SQL の場合、TRANSFORM GROUP バインド・オプションを使用して異なるトランスフォーム・グループを指定してください。動的 SQL の場合、SET DEFAULT TRANSFORM GROUP ステートメントを使用して異なるトランスフォーム・グループを指定してください。

sqlcode: -20065

SQL20066N “<transform-type>” トランスフォーム関数は、データ・タイプ “<type-name>” のトランスフォーム・グループ “<group-name>” に定義されていません。

説明: 関数またはメソッド定義で使用されているトランスフォーム・グループには、データ・タイプ “<type-name>” のトランスフォーム・グループ “<group-name>” の “<transform-type>” トランスフォーム関数が必要です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 関数またはメソッドを作成している場合、その関数またはメソッド定義に異なるトランスフォーム・グループを指定してください。動的 SQL ステートメントで構造化タイプを参照している場合、CURRENT DEFAULT TRANSFORM GROUP 特殊レジスターに異なるトランスフォーム・グループを指定してください。あるいは、“<transform-type>” トランスフォーム関数をデータ・タイプ “<type-name>” のトランスフォーム・グループ “<group-name>” に追加してください。

sqlcode: -20066

sqlstate: 42744

SQL20067N 複数の “<transform-type>” トランスフォーム関数が、データ・タイプ “<type-name>” のトランスフォーム・グループ “<group-name>” に定義されています。

説明: TO SQL または FROM SQL トランスフォーム関数は、トランスフォーム・グループに 1 つだけ指定できます。データ・タイプ “<type-name>” のトランスフォーム・グループ “<group-name>” には、少なくとも 2 つの FROM SQL または TO SQL トランスフォーム関数 (あるいは両方) が定義されています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: それぞれ 1 つずつになるよう、TO SQL または FROM SQL 定義をトランスフォーム定義の “<group-name>” から削除してください。

sqlcode: -20067

sqlstate: 42628

SQL20068N その属性タイプが直接または間接的にそれ自身を使用するよう、構造化タイプ “<type-name>” を定義することはできません。属性 “<attribute-name>” によって、直接または間接使用が生じています。

説明: 直接使用: 以下のいずれかが真であれば、タイプ A はタイプ B を直接的に使用します。

- タイプ A はタイプ B の属性を持っている
- タイプ B は A のサブタイプ、または A のスーパータイプである

間接使用: 以下のいずれかが真であれば、タイプ A はタイプ B を間接的に使用します。

- タイプ A がタイプ C を使用し、タイプ C がタイプ B を使用している

その属性タイプのいずれかが直接または間接的にそれ自身を使用するよう、タイプを定義することはできません。直接または間接使用の原因は、属性 “<attribute-name>” のタイプです。

ユーザーの処置: タイプを調べて、直接または間接使用の原因である属性タイプを除去してください。

sqlcode: -20068

sqlstate: 428EQ

SQL20069N “<routine-type>” “<routine-name>” の RETURNS タイプが、サブジェクト・タイプと同じではありません。

説明: メソッド “<method-name>” が SELF AS RESULT を指定しています。このメソッドの RETURNS データ・タイプは、サブジェクト・データ・タイプに一致していなければなりません。

ユーザーの処置: サブジェクト・タイプに一致するよう、メソッド “<method-name>” の RETURNS タイプを変更してください。

sqlcode: -20069

sqlstate: 428EQ

SQL20075N “<column-name>” の長さが 255 バイトを超えているため、索引または索引拡張子 “<index-name>” を作成または更新することはできません。

説明: キー列の長さが 255 を超えているため、索引を作成または更新できませんでした。

- “<index-name>” は索引名です。
- “<column-name>” はキー列の名前です。このエラーが ALTER TABLE 操作から返された場合、 “<column-name>” の値は列番号です。

GENERATE KEY 関数によって返された列が 255 バイトを超えているため、索引拡張子を作成できませんでした。

- “<index-name>” は索引拡張子名です。
- “<column-name>” は、GENERATE KEY 関数によって返された列名です。

ステートメントを処理できませんでした。示されている索引または索引拡張子を作成できなかったか、または表を更新できませんでした。

ユーザーの処置: 索引を作成する場合、索引定義から列を除去してください。表を更新する場合は、新しい列の長さを許可されている最大長まで短くしてください。索引拡張子を作成する場合、異なる GENERATE KEY 関数を指定するか、または列を除去するよう関数を再定義してください。

sqlcode: -20075

sqlstate: 54008

SQL20076N データベースのインスタンスは、指定されたアクションまたは操作のために使用可能ではありません。理由コード = “<reason-code>”

説明: エラーがインスタンス・レベルで検出されました。指定された機能エリアがインストールさ

れなかったか、指定された機能エリアがそのインスタンスに使用されなかったため、要求された操作を完了できません。

以下のリストは、インスタンス・レベルで使用可能にできる理由コードおよび関連した機能領域を示します。

1. 単一ステートメント内の複数のデータ・ソースに対する分散要求操作を実行する機能。

ユーザーの処置: 要求されたアクションまたは操作のインスタンスを使用可能にします。まず、指定された機能エリアがない場合、それをインストールします。次に、指定された機能エリアを使用可能にします。使用可能にするための手順は、“<reason-code>”によって異なります。

1. DBM 変数 <DREQ> を ON に設定して、データベース・マネージャーを再始動します。連合サーバーの場合は、DBM 変数 <FEDERATED> を YES に設定して、データベース・マネージャーを再始動します。

sqlcode: -20076

sqlstate: 0A502

SQL20077N データ・リンク・タイプ属性を持つ構造化タイプ・オブジェクトは構成できません。

説明: データ・リンクまたは Reference タイプ属性、あるいはその両方を持つ構造化タイプのコンストラクターを呼び出そうとしました。この機能は現在サポートされていません。6.1 またはそれ以前のバージョンでは、Reference タイプ属性を持つ構造化タイプ・オブジェクトの場合にもこのエラーが起こることがあります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを行うことによってエラーを訂正することができます。

1. このタイプのコンストラクターの呼び出しをプログラムから除去します。

2. データ・リンク (あるいは Reference) タイプ属性を構造化タイプの定義から除去します。(そのタイプに従属している表があると、可能ではない場合もあります。)

sqlcode: -20077

sqlstate: 428ED

SQL20078N タイプ “<object-type>” の階層オブジェクト “<object-name>” を操作 “<operation-type>” で処理できません。

説明: 操作 “<operation-type>” はタイプ “<object-type>” の “<object-name>” という名前の階層オブジェクトを使用して試行されました。この操作は、階層オブジェクトの処理をサポートしません。

ステートメントを処理できませんでした。

ユーザーの処置: 正しいオブジェクト名が使用されたかどうか確認してください。オブジェクト・タイプ TABLE または VIEW の場合、オブジェクトは表または視点階層の副表の名前でなければなりません。場合によっては、オブジェクトで明確にルート表を指定しなければなりません。索引タイプのオブジェクトの場合、名前は副表で作成された名前にしてください。

sqlcode: -20078

sqlstate: 42858

SQL20080N メソッド本体が存在しているため、“<method-name>” のメソッド指定をドロップできません。

説明: メソッド本体をドロップしなければ、メソッド指定をドロップすることはできませんが、メソッド指定 “<method-name>” にはメソッド本文が存在しています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 同じメソッド指定で DROP

METHOD ステートメントを使用してメソッド本文をドロップした後、もう一度 ALTER TYPE ステートメントを出してメソッド指定をドロップしてください。

sqlcode: -20080

sqlstate: 428ER

SQL20081N LANGUAGE “<language-type>”
メソッド指定 “<method-name>”
にメソッド本体を定義することはできません。

説明: メソッド指定 “<method-name>” が、LANGUAGE “<language-type>” で定義されています。LANGUAGE が SQL であれば、メソッド本体は SQL 制御ステートメントでなければなりません。その他の言語の場合、EXTERNAL 文節を指定しなければなりません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: メソッド指定の LANGUAGE に一致するよう、メソッド本体を変更してください。

sqlcode: -20081

sqlstate: 428ES

SQL20082N 式の動的タイプ
“<expression-type-id>” は、
TREAT 指定のターゲット・データ・タイプ “<target-type-id>” のサブタイプではありません。

説明: TREAT 指定に指定されている式の結果の動的データ・タイプは “<expression-type-id>” です。示されているターゲット・データ・タイプ “<target-type-id>” は “<expression-type-id>” の適正サブタイプですが、これは許可されていません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: TREAT 指定の “<target-type-id>” を “<expression-type-id>” のサブタイプに変更するか、あるいは結果の動的デー

タ・タイプが “<target-type-id>” のサブタイプになるよう、式を変更してください。

“<expression-type-id>” および “<target-type-id>” のデータ・タイプ名を判別するには、以下の照会を使用してください。

```
SELECT TYPEID, TYPESCHEMA, TYPENAME
FROM SYSCAT.DATATYPES
WHERE TYPEID IN INTEGER(
"<expression-type-id>"),
INTEGER("<target-type-id>")
```

sqlcode: -20082

sqlstate: 0D000

SQL20083N “<routine-type>” “<routine-id>”
によって返された値のデータ・タイプが、**RESULT** として指定されているデータ・タイプに一致していません。

説明: メソッド “<routine-id>” が SELF AS RESULT を指定しているため、返される値のデータ・タイプは、メソッドを呼び出すために使用されているサブジェクト・データ・タイプと同じでなければなりません。SQL メソッド本体にある、または外部メソッドのタイプの TO SQL トランスフォーム関数にある RETURN ステートメントによって、誤ったデータ・タイプが生じました。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: メソッドまたはトランスフォーム関数の RETURN ステートメントを変更して、戻りデータのデータ・タイプが常に、メソッドを呼び出すためのサブジェクト・タイプになることを確認してください。

“<routine-id>” に関連するルーチン名を判別するには、以下の照会を使用してください。

```
SELECT FUNCSHEMA, FUNCNAME, SPECIFICNAME
FROM SYSCAT.FUNCTIONS
WHERE FUNCID = INTEGER("<routine-id>")
```

sqlcode: -20083

sqlstate: 2200G

SQL20084N “<routine-type>”

“<routine-name>” が、既存のメソッドとの上書き関係を定義していません。

説明: 以下の条件すべてが真であれば、サブジェクト・タイプ T のメソッド MT は、サブジェクト・タイプ S の別のメソッド MS を上書きするよう定義されています。

- MT および MS が、同じ非修飾名と同じパラメーター数を持っている
- T が S の適正サブタイプである
- MT の非サブジェクト・パラメーター・タイプが、対応する MS の非サブジェクト・パラメーター・タイプと同じである (ここで “同じ” とは、長さや精度ではなく、VARCHAR のような基本タイプのことを指しています。)

メソッドは別のメソッドを上書きできず、また別のメソッドによって上書きされることもありません。さらに、関数およびメソッドを上書き関係にすることはできません。つまり、関数が、最初のパラメーターがサブジェクト S のメソッドである場合、スーパータイプ S の別のメソッドを上書きすることはできず、サブタイプ S の別のメソッドによって上書きされることはありません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 定義されているルーチンを変更して、“<routine-name>” とは異なるルーチン名を使用させるか、あるいはルーチンのパラメーターを変更してください。

sqlcode: -20084

sqlstate: 42745

SQL20085N PARAMETER STYLE JAVA で定義されたルーチンは、パラメーター・タイプまたは戻りタイプとして構造化タイプ “<type-name>” を持つことができません。

説明: ルーチンは PARAMETER STYLE JAVA で定義されていますが、パラメーター・タイプまたは戻りタイプが構造化タイプ “<type-name>” で定義されています。これは、この DB2 パージョンではサポートされていません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ルーチンのパラメーター・スタイルを変更するか、あるいは構造化タイプをルーチン定義から除去してください。

sqlcode: -20085

sqlstate: 429B8

SQL20086N 列の構造化タイプ値の長さがシステム制限を超えています。

説明: 構造化タイプ列の長さが、全体のサイズ (インスタンスの記述子データも含む) で 1 ギガバイトを超えています。この列は、直接挿入または更新されている列であるか、または生成されている列の場合もあります。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 列に割り当てる構造化タイプ値のサイズを小さくしてください。

sqlcode: -20086

sqlstate: 54049

SQL20087N DEFAULT または NULL を属性割り当てに使用することはできません。

説明: 構造化タイプ列に属性の値を設定するため、UPDATE ステートメントが属性割り当てを使用しています。この割り当てステートメントの形式は、割り当ての右側にキーワード DEFAULT

または NULL を使用することを許可していません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 属性割り当ての右側に式を指定するか、または属性割り当て構文を使用しないように割り当てを変更してください。

sqlcode: -20087

sqlstate: 428B9

SQL20089N 同じタイプ階層で、メソッドと構造化タイプを同じ名前にすることはできません。

説明: 指定されたメソッド名は、構造化タイプのスーパータイプまたはサブタイプのいずれかに定義されている構造化タイプの名前と同じです。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 異なる名前をメソッドに指定してください。

sqlcode: -20089

sqlstate: 42746

SQL20090W タイプ **DATALINK** の属性 “<attribute-name>” を持つ構造化タイプの使用は、タイプ付き表またはタイプ付き視点のタイプに制限されています。

説明: 属性 “<attribute-name>” は、タイプ **DATALINK** で、または **DATALINK** に基づく特殊タイプで定義されています。このような属性を含む構造化タイプは、表または視点のタイプとしてのみ使用できます。表または視点の列のタイプとして使用されている場合、ヌル値しか割り当てることができません。

ステートメントは処理を続行します。

ユーザーの処置: 構造化タイプ使用の意図を検討してください。このタイプが列データ・タイプとして使用される場合、属性 “<attribute-name>” を

構造化タイプから除去するか、あるいはデータ・リンク以外のデータ・タイプを属性に使用してください。

sqlcode: +20090

sqlstate: 01641

SQL20093N 表 “<table-name>” を要約表に、または要約表から変換することができません。理由コード = “<reason-code>”

説明: 表を要約表から **DEFINITION ONLY** に変更、または通常表を要約表に変換するため、**ALTER TABLE** ステートメントが使用されていません。以下の理由で、この **ALTER TABLE** ステートメントが失敗しました。

- 1 表はタイプ付き表または階層表です。
- 2 表は要約表ではありませんが、**DEFINITION ONLY** が指定されました。
- 3 表は複製済み要約表ですが、**DEFINITION ONLY** が指定されました。
- 4 表に少なくとも 1 つのトリガーが定義されています。
- 5 表に少なくとも 1 つの検査制約が定義されています。
- 6 表に少なくとも 1 つの固有制約または固有索引が定義されています。
- 7 表に少なくとも 1 つの参照制約が定義されています。
- 8 表は、既存の要約表の定義で参照されています。
- 9 表は、全選択で直接または間接的に (たとえば表を経由して) 参照されていません。
- 10 表はすでに要約表です。
- 11 既存の表の列数が、全選択の選択リストに定義されている列数に一致していません。

- 12 既存の表の列のデータ・タイプが、全選択の選択リストで対応する列に一致していません。
- 13 既存の表の列の列名が、全選択の選択リストで対応する列名に一致していません。
- 14 既存の表の列のヌル化可能特性が、全選択の選択リストで対応する列のヌル化可能特性に一致していません。
- 15 同じ ALTER TABLE ステートメントに別の表更新がある場合、変換を行うことはできません。

ユーザーの処置: 処置は次のように理由コードに基づきます。

- 1 表を要約表に変換できません。代わりに、新しい要約表を作成してください。
- 2 この表を変換する必要はありません。処置は必要ありません。
- 3 複製済み表は、要約表にすることしかできません。代わりに、新しい表を作成してください。
- 4 トリガーをドロップして、もう一度 ALTER TABLE ステートメントを試みてください。
- 5 検査制約をドロップして、もう一度 ALTER TABLE ステートメントを試みてください。
- 6 固有制約および固有索引をドロップして、もう一度 ALTER TABLE ステートメントを試みてください。
- 7 参照制約をドロップして、もう一度 ALTER TABLE ステートメントを試みてください。
- 8 表を参照している要約表をドロップして、もう一度 ALTER TABLE ステートメントを試みてください。
- 9 要約表がそれ自身を参照することはでき

ません。全選択を更新して、更新されている表への直接または間接的な参照を除去してください。

- 10 表はすでに要約表であるため、この操作は許可されていません。
- 11 全選択を変更して、正しい列数を選択リストに組み込んでください。
- 12 結果の列データ・タイプが対応する既存の列のデータ・タイプに一致するよう、全選択を変更してください。
- 13 結果の列名が対応する既存の列名に一致するよう、全選択を変更してください。
- 14 ヌル化可能特性が一致しないかぎり、表を要約表に変換することはできません。代わりに、新しい要約表を作成してください。
- 15 SET SUMMARY AS 文節を含んでいない ALTER TABLE ステートメントで、別の表更新を実行してください。

sqlcode: -20093

sqlstate: 428EW

SQL20094N 列 “<column-name>” は式によって生成されているため、**BEFORE** トリガー “<trigger-name>” で使用することはできません。

説明: 列 “<column-name>” の値は式によって生成されているため、BEFORE UPDATE トリガーの列名リストに指定、または BEFORE トリガーの新しい変換変数として参照することはできません。

ユーザーの処置: トリガー “<trigger-name>” にある “<column-name>” への参照を除去してください。

sqlcode: -20094

sqlstate: 42989

SQL20100 - SQL20199

SQL20108N 結果セットには、ストアド・プロシージャ “<procedure-name>” によってオープンされたカーソル “<cursor-name>” の位置 “<position-number>” にサポートされていないデータ・タイプが含まれています。

説明: 列の少なくとも 1 つ、列 position-number に DRDA アプリケーション・リクエスター (クライアント) または DRDA アプリケーション・サーバー (サーバー) のいずれかにサポートされていないデータ・タイプが入っているため、procedure-name で示されているストアド・プロシージャは、cursor-name で示されている照会結果の少なくとも 1 つを返すことができません。このようなストアド・プロシージャへの呼び出しは失敗します。

ユーザーの処置: サーバーのストアド・プロシージャ procedure-name のカーソル cursor-name のための OPEN ステートメント (およびその後の FETCH ステートメント) を変更して、列 position-number でサポートされていないデータ・タイプを選択しないようにしてください。ストアド・プロシージャを呼び出したクライアント・アプリケーションは、ストアド・プロシージャの変更を反映するように変更しなければならない場合があります。

sqlcode: -20108

sqlstate: 56084

SQL20109W DB2 デバッガー・サポートでエラーが起きました。理由コード: “<reason-code>”

説明: デバッガー・サポートで、デバッグを使用不可にするエラー状況になりましたが、通常の実行には影響ありません。以下が理由コードのリストです。

1. デバッガー・サポートがインストールされていません。
2. デバッガー表のデバッガー・クライアントの IP アドレスに構文エラーがあります。
3. デバッガー・バックエンドとデバッガー・クライアントとの通信でタイムアウトが起きました。
4. デバッガー表 DB2DBG.ROUTINE_DEBUG にアクセスしているときに、問題が起きました。

ユーザーの処置:

1. DB2 サーバー・マシンのデバッガー・オプションがインストールされているかどうか確認してください。
2. デバッガー表の IP アドレスが正しい構文になっていることを確認してください。
3. クライアントのデバッガー・デーモンが開始され、クライアントとサーバーのポートが一致していることを検査してください。
4. デバッガー表を正しいレイアウトで作成したことを確認してください。

sqlcode: +20109

sqlstate: 01637

SQL20111N このコンテキストでは **SAVEPOINT、RELEASE SAVEPOINT、または ROLLBACK TO SAVEPOINT** ステートメントを出すことができません。理由コード = “<reason-code>”

説明: 以下の理由コードによって示されている制限のため、ステートメントを処理できません。

1. 保管点をトリガー内で出すことはできません。
2. 保管点をグローバル・トランザクション内で出すことはできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: トリガーまたはグローバル・トランザクションにある SAVEPOINT、RELEASE SAVEPOINT、または ROLLBACK TO SAVEPOINT ステートメントを除去してください。

sqlcode: -20111

sqlstate: 3B503

SQL20112N SAVEPOINT がすでに存在し、ネストされた **SAVEPOINTS** はサポートされていないため、**SAVEPOINT** を設定することができません。

説明: SAVEPOINT またはアトミック複合 SQL ステートメントでエラーが起きました。保管点がすでに存在し、この環境ではネストされた保管点はサポートされていません。

ユーザーの処置: 既存の保管点名を再設定する必要がある場合、RELEASE SAVEPOINT ステートメントを出して既存の保管点を解放してから、SAVEPOINT ステートメントを出し直してください。アトミック複合 SQL の場合、複合ステートメントの終わりに達するまで、SAVEPOINT を設定することはできません。

sqlcode: -20112

sqlstate: 3B002

SQL20113N SELF AS RESULT で定義されたメソッド “<method-id>” からヌルを返すことはできません。

説明: メソッド ID “<method-id>” のメソッドが SELF AS RESULT で定義されています。このメソッドの呼び出しが構造化タイプのヌルではないインスタンスを使用していたため、ヌル・インスタンスを返すことはできません。

ユーザーの処置: メソッドの戻り値としてヌルが返されないよう、メソッド設定を変更してください。

い。1つの方法として、返される構造化タイプの属性をすべてヌルに変更することが可能です。障害のあったメソッドの名前を判別するには、以下の照会を使用してください。

```
SELECT FUNCSHEMA, FUNCNAME, SPECIFICNAME
FROM SYSCAT.FUNCTIONS
WHERE FUNCID = method-id
```

sqlcode: -20113

sqlstate: 22004

SQL20114W 表 “<table-name>” の列 “<column-name>” の長さは、USER デフォルト値の定義された長さに対して十分ではありません。

説明: 列 “<column-name>” が、128 バイトに満たない長さで定義されています。この列に文節 DEFAULT USER が指定されました。USER 特殊レジスターが VARCHAR(128) と定義されているため、列の長さを超えるユーザー ID を持つユーザーが “<table-name>” にデフォルト値を割り当てようとした場合、エラーが起きます。ユーザー ID が列の長さを超えているユーザーは、この列を挿入、あるいは列をデフォルト値に更新することができません。

ユーザーの処置: システム標準によって、列の長さを超える ID が許可されていない場合、この警告を無視できます。この警告が出されないようにするには、列の長さを少なくとも 128 バイトにしなければなりません。表をドロップしてから再作成することによって、またデータ・タイプが VARCHAR であれば、ALTER TABLE で列の長さを大きくすることによって、この列の長さを変更できます。

sqlcode: +20114

sqlstate: 01642

SQL20115N トランスフォーム・グループ
“<group-name>” で、
“<routine-type>”
“<routine-name>” を
“<transform-type>” トランスフォー
ム関数として使用することはでき
ません。

説明: “<routine-type>” が FUNCTION であれ
ば、“<routine-name>” によって定義されている関
数は組み込み関数であるため、これをトランスフ
ォーム関数として使用することはできません。
“<routine-type>” が METHOD であれば、
“<routine-name>” によって定義されているメソッ
ドはメソッドであるため、これをトランスフォー
ム関数として使用することはできません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: トランスフォーム・グループ
“<group-name>” の “<transform-type>” トランスフ
ォーム関数として、異なる関数を指定してくださ
い。

sqlcode: -20115

sqlstate: 428EX

SQL20116N 検索ターゲット
“<parameter-name>” のデータ・
タイプが、索引拡張子
“<index-extension-name>” に指
定されているソース・キーのデー
タ・タイプに一致していません。

説明: 検索ターゲットが組み込みまたは特殊デー
タ・タイプである場合、そのタイプは、索引拡張
子に指定されているソース・キーのデータ・タイ
プに一致していなければなりません。検索ターゲ
ットのデータ・タイプが構造化タイプであれば、
索引拡張子のソース・キーのデータ・タイプと同
じ構造化タイプ階層になければなりません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 索引拡張子のソース・キーに一

致するデータ・タイプで検索ターゲットを指定し
てください。

sqlcode: -20116

sqlstate: 428EY

SQL20117N OLAP 関数のウィンドウ指定は無
効です。理由コード =
“<reason-code>”

説明: OLAP 関数呼び出しのウィンドウ指定
(OVER 文節) が正しく指定されていません。
“<reason-code>” が、誤った指定について指示して
います。

- 1 ウィンドウ指定で、ORDER BY なしで
RANGE または ROWS が指定されてい
ます。
- 2 RANGE が指定されていますが、ウィン
ドウ ORDER BY 文節に複数の
sort-key-expression が入っています。
- 3 RANGE が指定されていますが、ウィン
ドウ ORDER BY 文節の
sort-key-expression のデータ・タイプを持
つ減算式に、範囲値のデータ・タイプを
使用することができません。
- 4 CURRENT ROW の後に UNBOUNDED
PRECEDING が、あるいは CURRENT
ROW の前に UNBOUNDED
FOLLOWING が指定されています。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ウィンドウ指定を変更して、
“<reason-code>” によって示されている無効な指定
を訂正してください。

- 1 RANGE または ROWS を指定している
ウィンドウ指定ごとにウィンドウ
ORDER BY 文節を追加します。
- 2 RANGE を備えたウィンドウ指定が、ウ
ィンドウ ORDER BY 文節ごとに
sort-key-expression を 1 つずつ持つよう
にします。

3 RANGE を備えたウィンドウ指定ごとに、ウィンドウ ORDER BY 文節の sort-key-expression から範囲値 (数値タイプまたは日付時刻タイプでなければなりません) を減算できることを確認してください。日付時刻 sort-key-expression の場合、範囲値は、適切な精度および位取りを持つ特定の日付時刻期間 DECIMAL タイプでなければなりません。

4 “BETWEEN” および “CURRENT ROW” を使用しているウィンドウ指定で、“UNBOUNDED PRECEDING” を “AND CURRENT ROW” の前に、または “UNBOUNDED FOLLOWING” を “CURRENT ROW AND” の後に指定してください。

sqlcode: -20117

sqlstate: 428EZ

SQL20118N 構造化タイプ “<type-name>”
で、属性の数が許可されている最大数を超えています。最大数は “<max-value>” です。

説明: 構造化タイプ “<type-name>” の定義で、構造化タイプごとに許可されている属性 (継承属性を含む) の最大数を超えています。継承属性を含む属性の最大数は “<max-value>” です。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 構造化タイプの属性の数が制限を超えないようにしてください。

sqlcode: -20118

sqlstate: 54050

SQL20119N ROW 関数は、少なくとも 2 つの列を定義していなければなりません。

説明: RETURNS 文節に ROW を指定する関数は、少なくとも 2 つの列がある列リストを備え

ていなければなりません。

ユーザーの処置: RETURNS 文節から ROW キーワードを除去してスカラー関数にするか、または RETURNS 文節の列リストに複数の列を指定してください。

sqlcode: -20119

sqlstate: 428F0

SQL20120N SQL TABLE 関数は表結果を返さなければなりません。

説明: RETURNS 文節に TABLE を指定する SQL 関数は、表である結果を返さなければなりません。スカラー全選択の場合は例外ですが、スカラー式は SQL TABLE 関数の結果として返されません。

ユーザーの処置: RETURNS 文節から TABLE キーワードを除去してスカラー関数にするか、または TABLE 関数本体の RETURNS ステートメントに全選択を指定してください。

sqlcode: -20120

sqlstate: 428F1

SQL20121N WITH RETURN または SCROLL はカーソル “<cursor-name>” にいずれか 1 つだけ指定できます。

説明: WITH RETURN と SCROLL の両方がカーソル “<cursor-name>” に指定されましたが、これは許されていません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: NO SCROLL を指定 (または SCROLL キーワードを除去) するか、または WITH RETURN 文節を除去するように DECLARE CURSOR ステートメントを変更してください。

sqlcode: -20121

sqlstate: 428F3

SQL20133N 操作 “<operation-name>” は外部ルーチン “<routine-name>” に対して実行できません。この操作は SQL ルーチンでのみ実行できます。

説明: 操作 “<operation-name>” を外部ルーチン “<routine-name>” に対して実行しようとした。しかし、この操作は SQL ルーチンに対してのみ実行が可能です。操作は正常に完了しませんでした。

ユーザーの処置: 指定した名前が SQL ルーチンであるかどうかを確認してください。

sqlcode: -20133

sqlstate: 428F7

SQL20134N ルーチン “<routine-name>” の SQL アーカイブ (SAR) ファイルがサーバーで作成できませんでした。

説明: DB2 が指定されたルーチンのライブラリまたはバインド・ファイルを見つけられないため、ルーチン “<routine-name>” の SQL アーカイブ (SAR) の作成が失敗しました。バインド・ファイルは DB2 バージョン 7.1 フィックスパック 2 以降で作成された SQL ルーチンでのみ使用可能です。

ユーザーの処置: DB2 バージョン 7.1 フィックスパック 2 以降を持つサーバーでプロシージャを再作成し、操作を再試行してください。

sqlcode: -20134

sqlstate: 55045

SQL20135N 指定された SQL アーカイブがターゲット環境に適合しません。理由コード = “<reason-code>”

説明: 指定された SQL アーカイブが、以下のいずれかの理由でターゲット環境に適合しません。

1 ターゲット環境のオペレーティング・シ

ステムが、SQL アーカイブが作成されたオペレーティング・システムと異なります。

2 ターゲット環境のデータベース・タイプおよびレベルが、SQL アーカイブが作成されたデータベース・タイプおよびレベルと異なります。

ユーザーの処置: SQL アーカイブが作成された環境がターゲット環境と一致しているかを確認して、コマンドを再発行してください。環境が一致しない場合は、ターゲット環境を使用して SQL ルーチンを手操作で作成する必要があります。

sqlcode: -20135

sqlstate: 55046

SQL20142N シーケンス “<sequence-name>” を指定されているようには使用できません。

説明: “<sequence-name>” が、使用されないコンテキストで参照されました。“<sequence-name>” は、識別列用のシステムで生成されたシーケンスではいけません。これらのシーケンスは、COMMENT ON SEQUENCE、DROP SEQUENCE、GRANT または REVOKE ステートメント、あるいは NEXTVAL か PREVVVAL 式では参照されません。

ユーザーの処置: このコンテキストに、ユーザー定義のシーケンス・オブジェクトの名前を指定してください。

sqlcode: -20142

sqlstate: 428FB

SQL20143N ENCRYPTION PASSWORD 値が設定されていないため、暗号化または暗号化解除関数が失敗しました。

説明: ENCRYPTION PASSWORD 値が設定されていません。

ユーザーの処置: SET ENCRYPTION

PASSWORD ステートメントを発行して、
ENCRYPTION PASSWORD 値を設定してください。
パスワードの長さは最小 6 バイトから最大
127 バイトまでです。

sqlcode: -20143

sqlstate: 51039

SQL20144N 指定されたパスワードの長さが 6
バイト未満か、または 127 バイト
を超えていたため、暗号化パスワード
が無効です。

説明: データは 6 バイトから 127 バイトの長さ
のパスワードで暗号化されなければなりません。

ユーザーの処置: パスワード長が 6 バイトから
127 バイトの範囲にあることを確認してくださ
い。

sqlcode: -20144

sqlstate: 428FC

SQL20145N 暗号化解除関数が失敗しました。暗
号化解除に使用されたパスワード
が、データの暗号化に使用されたパ
スワードと一致しません。

説明: データは、暗号化に使用されたものと同じ
パスワードを使用して暗号化解除されなければな
りません。

ユーザーの処置: データの暗号化と暗号化解除に
同じパスワードが使用されているかを確認してく
ださい。

sqlcode: -20145

sqlstate: 428FD

SQL20146N 暗号化解除関数が失敗しました。デ
ータは暗号化されません。

説明: データは ENCRYPT 関数の結果でなければ
なりません。

ユーザーの処置: データ・タイプが ENCRYPT

関数の結果であることを確認してください。

sqlcode: -20146

sqlstate: 428FE

SQL20147N ENCRYPT 関数が失敗しました。
複数回の暗号化はサポートされてい
ません。

説明: すでに暗号化されたデータを再び暗号化す
ることはできません。

ユーザーの処置: データが暗号化されていないこ
とを確認してください。

sqlcode: -20147

sqlstate: 55048

SQL20148N ルーチン “<routine-name>” (名前
“<specific-name>”) は、複合本体
の最後の SQL ステートメントとし
て RETURN ステートメントを持
っています。

説明: RETURN ステートメントは、SQL ROW
または TABLE 関数で複合本体の最後の SQL ス
テートメントでなければなりません。ルーチン本
体内では、他の RETURN ステートメントは許可
されていません。

ユーザーの処置: RETURN ステートメントが 1
つしか指定されていないこと、またそれが複合本
体の最後の SQL ステートメントであることを確
認してください。

sqlcode: -20148

sqlstate: 429BD

SQL20153N データベースの分割イメージが延期
状態にあります。

説明: データベースの分割イメージが延期状態に
ある間は使用できません。

ユーザーの処置: 次の 3 つのオプションのいず
れかを指定して db2inidb コマンドを発行し、こ

のデータベース分割イメージの入出力を再開してください。

- db2inidb <db-name> as mirror
- db2inidb <db-name> as snapshot
- db2inidb <db-name> as standby

マルチノード環境では、データベースを使用できるようにするためには、db2inidb ツールをノードごとに実行する必要があります。db2inidb ツールはマルチノード・データベースのノードごとに並行して実行することが可能です。

sqlcode: -20153

sqlstate: 55040

SQL20160W 許可は USER “<userid>” に対して認可されました。グループは、許可名が 8 バイトより長いために認識されませんでした。

説明: 許可名の長さが 8 バイトを超えています。特権は、一致する名前があるシステムで定義

SQL20200 - SQL20299

SQL20200N “<url>” が見つからなかったため、“<jar-id>” のインストールまたは置換が失敗しました。

説明: jar インストールまたは置換プロシージャで指定された URL が、有効な jar ファイルを表していませんでした。

ユーザーの処置: 有効な jar ファイルを識別する URL で、jar インストールまたは置換プロシージャを再実行してください。

sqlcode: -20200

sqlstate: 46001

されたグループを認識せずに、認可名 “<userid>” でユーザーに認可されています。処理は続行されます。

ユーザーの処置: 認可がユーザーに対してのものである場合、アクションは必要ありません。認可がグループに対してのものである場合、8 バイトを超えるグループ名はサポートされていないため、代替のグループ名を選択する必要があります。この警告メッセージを防ぐには、許可名の前に USER キーワードを指定してください。

sqlcode: 20160

sqlstate: 01653

SQL20201N jar 名が無効であるため、“<jar-id>” のインストール、置換または除去が失敗しました。

説明: jar インストール、置換または除去プロシージャに、無効な jar 名が指定されました。たとえば、jar ID が不適切な形式であるか、置換または除去の対象として存在しないか、あるいはすでに存在するためにインストールできない可能性があります。

ユーザーの処置: jar id が正しい形式であることを確認してください。jar id が存在する場合、インストールする前にそれを除去するようお勧めします。除去または置換プロシージャの場合は、jar id が存在することを確認してください。

sqlcode: -20201

sqlstate: 46002

SQL20202N “<class>” が使用中であるため、“<jar-id>” の置換または除去が失敗しました。

説明: jar ファイル内で指定されているクラスが定義済みプロシージャによって現在使用されているか、置換 jar ファイルにプロシージャが定義されている指定のクラスが入っていません。

ユーザーの処置: 除去されるクラスを参照しているすべてのプロシージャがドロップされていることを確認し、置換または除去プロシージャを再実行依頼してください。

sqlcode: -20202

sqlstate: 46003

SQL20203N ユーザー定義関数またはプロシージャ “<function-name>” が、無効なシングニチャーのある Java メソッドを持っています。

説明: 関数またはプロシージャを実装するために使用される java メソッドのシングニチャーが無効でした。たとえば、メソッドが対応する create ステートメントのパラメーターにマッピング可能でないパラメーターを持っているか、プロシージャのメソッドが戻り値を指定している可能性があります。

ユーザーの処置: Java メソッドに一致するパラメーターを指定して、対応する CREATE ステートメントを再発行するか、パラメーターまたは Java メソッドの戻り値を訂正してクラスを再作成してください。

sqlcode: -20203

sqlstate: 46007

SQL20204N ユーザー定義関数またはプロシージャ “<function-name>” が単一の Java メソッドにマッピングできませんでした。

説明: 示されている関数またはプロシージャが一致する Java メソッドを見つけられなかったか、複数の一致する Java メソッドを見つけました。

ユーザーの処置: Java メソッド、あるいは対応する create ステートメントを訂正して、関数またはプロシージャ呼び出しが 1 つの Java メソッドを決定できるようにしてください。

sqlcode: -20204

sqlstate: 46008

SQL20205N ユーザー定義関数またはプロシージャ “<function-name>” に、メソッドに渡すことができなかったヌル値を持つ入力引き数があります。

説明: “CALLED ON NULL INPUT” で作成された関数、またはプロシージャがヌル値を持つ入力パラメーターを持っていますが、この引き数の Java データ・タイプはヌル値をサポートしていません。ヌル値をサポートしていない Java データ・タイプの例は BOOLEAN、BYTE、SHORT、INT、LONG、または DOUBLE です。

ユーザーの処置: メソッドがヌル値で呼び出される場合は、入力 Java タイプがヌル値を受け入れ可能であることを確認してください。関数の場合、“RETURNS NULL ON NULL INPUT” で関数を作成することができます。

sqlcode: -20205

sqlstate: 39004

SQL20206W プロシージャ

“<function-name>” が返した結果セットが多すぎます。

説明: 示されているプロシージャが、CREATE PROCEDURE ステートメントで指定された数よりも多い結果セットを返しました。

ユーザーの処置: 返される結果セットが少なくなるようにプロシージャを変更するか、このプロシージャをドロップして再作成し、適切な数の結果セットを指定してください。

sqlcode: +20206

sqlstate: 0100E

SQL29000 - SQL29100

SQL29000N DYN_QUERY_MGMT に指定されている値が無効です。DB2 クエリー・パトローラーはこのサーバーにインストールされていません。

説明: データベース構成パラメーター DYN_QUERY_MGMT を ENABLE に更新しようとしたのですが、DB2 クエリー・パトローラーがインストールされていないため、更新に失敗しました。

ユーザーの処置: DB2 クエリー・パトローラー・サーバーをインストールしてください。

SQL29001N このデータベース・クライアント・レベルには、実行している DB2 クエリー・パトローラー・サーバーのレベルとの互換性がありません。

説明: クライアント・コードとサーバー・コードに互換性がありません。

SQL29002N DB2 クエリー・パトローラーはこのサーバーにインストールされていません。

説明: DB2 クエリー・パトローラー・サーバー表がサーバーに存在しません。

SQL20207N “<jar-id>” の jar インストールまたは除去プロシージャが、展開記述子の使用を指定しました。

説明: jar インストールまたは置換プロシージャの DEPLOY または UNDEPLOY パラメーターが非ゼロでした。このパラメーターはサポートされていないので、ゼロにしなければなりません。

ユーザーの処置: DEPLOY または UNDEPLOY パラメーターをゼロに設定して、プロシージャを再実行してください。

sqlcode: -20207

sqlstate: 46501

ユーザーの処置: DB2 クエリー・パトローラー・サーバーをインストールしてください。

SQL29003N DB2 クエリー・パトローラーは Java クラス “<class-name>” をロードできませんでした。理由コード: “<reason-code>”

説明: Java クラス “<class-name>” のロードを試みているときにエラーが起きました。理由コードには、以下のものがあります。

1 クラスが CLASSPATH で見つからない。

ユーザーの処置: “<class-name>” が CLASSPATH にインストールされていることを確認してください。

SQL29004N DB2 クエリー・パトローラー・クラス “<class-name>” は、シグニチャー “<signature>” のメソッド “<method-name>” を呼び出すことができません。

説明: Java メソッド “<method-name>” が見つかりません。

ユーザーの処置: 正しいバージョンの DB2 クエ

リー・パトローラー・クライアントがインストールされていることを確認してください。

SQL29005N ユーザー “<user-ID>” は、ユーザー・プロファイル表に定義されていません。

説明: ユーザー “<user-ID>” は、ユーザー・プロファイル表に定義されていません。ユーザー、またはユーザーが属しているグループは、ユーザー・プロファイル表に定義されていなければなりません。

ユーザーの処置: 照会アドミニストレーターを使用して、このユーザーをユーザー・プロファイル表に定義してください。

SQL29006N Java 例外 “<exception-string>” が起こりました。

説明: Java 例外 “<exception-string>” が起こりました。

ユーザーの処置: 詳細については、First Failure Data Service Log (db2diag.log) を調べてください。

問題が続く場合、技術サービス担当者に連絡してください。

SQL29007N DB2 クエリー・パトローラー・サーバーが使用できません。

説明: DB2 クエリー・パトローラー・サーバーは稼働していません。

ユーザーの処置: DB2 クエリー・パトローラー・サーバーを始動して、照会を再実行依頼してください。

SQL29008N ジョブ順序番号の生成でエラーが発生しました。

説明: ジョブ順序番号の生成中にエラーが起きました。

ユーザーの処置: 詳細については、First Failure

Data Service Log (db2diag.log) および DB2 クエリー・パトローラー・ログ・ファイル (syserr.log) を調べてください。

問題が続く場合、技術サービス担当者に連絡してください。

SQL29009N 新規ジョブの実行依頼でエラーが発生しました。理由コード “<reason-code>”。

説明: 新しいジョブの実行依頼中にエラーが見つかりました。

ユーザーの処置: 理由コードを調べて、照会を再実行依頼してください。

SQL29010N 照会が取り消されました。

説明: ユーザーが照会を取り消しました。

SQL29011I ジョブ “<job-ID>” が実行依頼されています。

説明: ジョブ “<job-ID>” が、DB2 クエリー・パトローラー・サーバーに実行依頼されています。

SQL29012N ジョブ “<job-ID>” が打ち切られました。

説明: ジョブ “<job-ID>” が打ち切られました。

ユーザーの処置: QueryMonitor または iwmm_cmd コマンドで打ち切られたジョブの原因を調べ、照会を再実行依頼してください。

SQL29013I ジョブ “<job-ID>” は保留されています。

説明: ジョブ “<job-ID>” は保留状態になっています。

SQL29014N DB2 レジストリー変数
“<registry-variable>” に指定され
ている値は無効です。

説明: “<registry-variable>” による以下の制限の
ため、“<registry-variable>” に指定されている値は
無効です。

DQP_NTIER

値は OFF、RUN[:timeout]、または
CHECK[:timeout] のいずれかでなければ
なりません。

DQP_LAST_RESULT_DEST

32 文字を超える長さは許可されていま
せん。

DQP_TRACEFILE

256 文字を超える長さは許可されていま
せん。

ユーザーの処置: db2set コマンドで DB2 レジス
トリー変数 “<registry-variable>” の値を訂正し、
照会を再実行依頼してください。

**SQL29015N ジョブを取り消しているときにエラ
ーが見つかりました。理由コード:**
“<reason-code>”

説明: ジョブの取り消しを試みているときに、エ
ラーが見つかりました。理由コードは SQL また
は DB2 メッセージをマップしています。

ユーザーの処置: 理由コードを調べ、エラーを訂
正し、操作を再試行してください。

**SQL29016N クライアント上のデータ・ソース
は、DB2 クエリー・パトローラ
ー・サーバー上のデータ・ソースに
一致していません。**

説明: クライアントが接続されているデータ・ソ
ースは、DB2 クエリー・パトローラー・サーバー

によって使用されているデータ・ソースに一致し
ていません。

ユーザーの処置: DB2 クエリー・パトローラ
ー・サーバー上の DB2DBDFT プロファイル変数
が、クライアント・データ・ソース名に一致して
いることを確認してください。

**SQL29017N ジョブ “<job-id>” が取り消されま
した。**

説明: ジョブ “<job-id>” が取り消されました。

ユーザーの処置: ありません。

**SQL29018N DB2 クエリー・パトローラー・ク
ライアントがインストールされてい
ません。**

説明: ユーザーは、データベース構成パラメータ
 DYN_QUERY_MGMT を使用可能にしたデー
タベースを照会しています。しかし、DB2 クエリ
ー・パトローラーのクライアント・コードがク
ライアント・マシンにインストールされていま
せん。

ユーザーの処置: DB2 クエリー・パトローラ
ー・クライアントの QueryEnabler コンポーネン
トをインストールしてください。

**SQL29019N ジョブは、DB2 クエリー・パトロ
ーラー・サーバーにスケジュールさ
れています。**

説明: ジョブは、DB2 クエリー・パトローラ
ー・サーバーにスケジュールされています。

ユーザーの処置: ありません。

SQL30000 - SQL30099

SQL30000N 後続のコマンドまたは SQL ステートメントの正常な実行に影響を与えない分散プロトコル・エラーのために実行が失敗しました。理由コード “<reason-code(subcode)>”

説明: 現在の環境コマンドまたは SQL ステートメントの正常な実行を妨げるシステム・エラーが起きました。このメッセージ (SQLCODE) は、ステートメントのコンパイル時、または実行時に出されます。

コマンドまたはステートメントは処理されません。現在のトランザクションはロールバックされず、アプリケーションはリモート・データベースに接続されたままです。

ユーザーの処置: メッセージ番号と理由コードを記録してください。可能であれば、SQLCA からすべてのエラー情報を記録してください。アプリケーションを再実行してください。

十分なメモリー・リソースがあってもこの問題が続く場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトで、独立トレース機能呼び出してください。この機能の使用法については、*問題判別の手引き* の独立トレース機能を参照してください。

必要な情報は以下のとおりです。

- 問題記述
- SQLCODE と理由コード
- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

sqlcode: -30000

sqlstate: 58008

SQL30002N 一連のステートメントでの前の条件のために、SQL ステータスを実行できません。

説明: SQL ステートメントは PREPARE にチェーンされていましたが、PREPARE ステートメントが、プログラムまたはエンド・ユーザーがチェーン・ステートメントを再発行する必要がある、または異なる SQL 要求を発行する必要がある警告 SQLCODE を受け取りました。このエラーは、クライアント / サーバー環境でのみ発生します。

- DRDA を使用している分散クライアントが OPEN ステートメントを PREPARE に連結しましたが、PREPARE ステートメントが SQLCODE +1140 を受け取りました。

ステートメントはチェーンして実行されません。

ユーザーの処置: ステートメントを別の要求としてもう一度送信する必要があります。

sqlcode: -30002

sqlstate: 57057

SQL30020N 後続のコマンドおよび SQL ステートメントの正常な実行に影響を与えない分散プロトコル・エラーのために実行が失敗しました。理由コード “<reason-code>”

説明: 後続のコマンドまたは SQL ステートメントと同様に、現在の環境コマンドまたは SQL ステートメントの正常な実行を妨げるシステム・エラーが起きました。

コマンドまたはステートメントは処理されません。現在のトランザクションはロールバックされ、アプリケーションはリモート・データベースから切断されます。

ユーザーの処置: メッセージ番号 (SQLCODE) および理由コードを記録してください。可能であ

れば、SQLCA からすべてのエラー情報を記録してください。リモート・データベースに接続して、アプリケーションを再実行してください。

十分なメモリー・リソースがあってもこの問題が続く場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトで、独立トレース機能呼び出してください。この機能の使用法については、問題判別の手引きの独立トレース機能を参照してください。

必要な情報は以下のとおりです。

- 問題記述
- SQLCODE と理由コード
- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

いくつかの考えられる理由コードは以下のとおりです。

121C ユーザーが、要求したコマンドを実行する権限を持っていないことを示しています。

1232 パラメーター・エラーのために、コマンドが完了できませんでした。ほとんどの場合、サーバーは異常終了のプロセスに入ります。

220A ターゲット・サーバーが、無効なデータ記述を受け取りました。ユーザー SQLDA を指定した場合は、フィールドが正しく初期化されていることを確認してください。また、その長さが、使用するデータ・タイプの最大許容長を超えていないことを確認してください。

下位レベル・クライアントを持つゲートウェイ・サーバー環境で DB2 コネクト製品を使用している場合、アプリケーションのホスト変数および照会した表の列の記述が一致しないときに、このエラーが発生する可能性があります。

sqlcode: -30020

sqlstate: 58009

SQL30021N 後続のコマンドおよび SQL ステートメントの正常な実行に影響を与える分散プロトコル・エラーのために実行が失敗しました。レベル “<level>” のマネージャー “<manager>” はサポートされていません。

説明: アプリケーションのリモート・データベースへの正常な接続を妨げるシステム・エラーが起きました。このメッセージ (SQLCODE) は、SQL CONNECT ステートメントに対して発生します。“<manager>” と “<level>” は、クライアントとサーバー間の非互換性を識別するための数値です。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: メッセージ番号、“<manager>”、“<level>” の値を記録してください。可能であれば、SQLCA からすべてのエラー情報を記録してください。もう一度、リモート・データベースへの接続を試みてください。

問題が続く場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトで、独立トレース機能呼び出してください。この機能の使用法については、問題判別の手引きの独立トレース機能を参照してください。その後で、サービス技術員に以下の情報を渡してください。

- 問題記述
- SQLCODE と理由コード
- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

sqlcode: -30021

sqlstate: 58010

SQL30040N 後続のコマンドおよび SQL ステートメントの正常な実行に影響を与えない使用不能なリソースのために実行が失敗しました。理由
“<reason>”、リソースのタイプ
“<resource-type>”、リソース名
“<resource-name>”、製品 ID
“<product-ID>”

説明: 示されたリソースが足りないため、アプリケーションがコマンドまたは SQL ステートメントを実行できません。現在のトランザクションはロールバックされず、アプリケーションはリモート・データベースに接続されたままです。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 示されたリソースのサイズを増やして、コマンドを再発行してください。

sqlcode: -30040

sqlstate: 57012

SQL30041N 後続のコマンドおよび SQL ステートメントの正常な実行に影響を与える使用不能なリソースのために実行が失敗しました。理由
“<reason>”、リソースのタイプ
“<resource-type>”、リソース名
“<resource-name>”、製品 ID
“<product-ID>”

説明: リモート・データベースでリソースが使用できないために、アプリケーションがコマンドまたは SQL ステートメントを処理できません。SQLCODE はステートメントのコンパイルまたは実行時に出されます。

連合システム・ユーザー: この状態は、データ・ソースによっても検出されることもあります。

“<resource name>” が“暗号化”または“暗号解読”の場合には、パスワードの暗号化または暗号解読のユーザー出口が使用できないか、またはエラーがあります。

コマンドまたはステートメントは処理されません。

ユーザーの処置: リモート・データベースのシステム環境を調べてください。

連合システム・ユーザー:

- パスワードの暗号化または暗号解読のユーザー出口が失敗した場合、“<reason>”はユーザー出口が呼び出されたときに連合サーバーが受け取った整数値です。暗号化および暗号解読が連合サーバーによってリンク・エディットされたときにエラーが発生していないかどうかを確認してください。

ユーザーが提供したユーザー出口を使用している場合には、ユーザー出口のソース・コードを調べて“<reason>”の返された原因を判別してください。ユーザー出口のソース・コードでエラーが見つかった場合、そのエラーを修正して連合サーバーでオブジェクト・コードをリンク・エディットし、失敗したコマンドまたはステートメントを再発行してください。

- その他の場合には、要求を失敗させたデータ・ソースに問題がある（問題判別の手引きを参照して、SQL ステートメントの処理に失敗したデータ・ソースを判別してください）と考え、データ・ソースの問題を訂正し、失敗したコマンドまたはステートメントを再発行してください。

sqlcode: -30041

sqlstate: 57013

SQL30050N バインドの進行中の“<number>”コマンドまたは SQL ステートメントは無効です。

説明: アプリケーションが、進行中のプリコンパイル / バインド時には無効なコマンドまたは SQL ステートメントを発行しようとしています。<number> は、エラーのあるコマンドまたは SQL ステートメントを識別する数値です。

コマンドまたはステートメントは処理されません。

ユーザーの処置: アプリケーションがデータベース・マネージャーのプリコンパイラー / バインド・プログラムでない場合は、コマンドおよび SQL ステートメントを出す前に、バインドが活動状態でないことを確認してください。

アプリケーションがデータベース・マネージャーのプリコンパイラー / バインダーの場合、メッセージ番号 (SQLCODE) と <number> の値を記録しておいてください。可能であれば、SQLCA からすべてのエラー情報を記録してください。もう一度バインド操作を行ってください。

十分なメモリー・リソースがあってもこの問題が続く場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトで、独立トレース機能呼び出してください。この機能の使用法については、*問題判別の手引き* の独立トレース機能を参照してください。

以下の情報を用意して、技術サービス担当者に提供してください。

必要な情報は以下のとおりです。

- 問題記述
- SQLCODE と理由コード
- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

sqlcode: -30050

sqlstate: 58011

SQL30051N 指定したパッケージ名と整合性トークンを持つバインド・プロセスが活動状態ではありません。

説明: プリコンパイル / バインドが活動状態でない場合に、プリコンパイル / バインド操作を実行しようとしたか、または活動状態のプリコンパイル / バインド操作中に、無効なパッケージ名と

整合性トークンのいずれか、またはその両方の使用が試みられました。

コマンドまたはステートメントは処理されません。

ユーザーの処置: アプリケーションがデータベース・マネージャーのプリコンパイラー / バインダーでない場合、プリコンパイル / バインドがバインド操作の前に活動状態になっており、正しい情報がバインド操作に渡されていることを確認してください。

アプリケーションがデータベース・マネージャーのプリコンパイラー / バインド・プログラムの場合は、メッセージ番号 (SQLCODE) と、可能であれば、SQLCA からのすべてのエラー情報を記録してください。もう一度やり直してください。

十分なメモリー・リソースがあってもこの問題が続く場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトで、独立トレース機能呼び出してください。この機能の使用法については、*問題判別の手引き* の独立トレース機能を参照してください。

以下の情報を用意して、技術サービス担当者に提供してください。

必要な情報は以下のとおりです。

- 問題記述
- SQLCODE と理由コード
- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

sqlcode: -30051

sqlstate: 58012

SQL30052N プログラム準備の前提事項に誤りがあります。

説明: コンパイルされている SQL ステートメントが、プリコンパイラーによって認識されないために、データベースによって処理されません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: ステートメントが正しいことを確認して、もう一度やり直してください。問題が続く場合は、プログラムからそのステートメントを取り除いてください。

sqlcode: -30052

sqlstate: 42932

SQL30053N OWNER の値が、リモート・データベースでの許可検査に合格しませんでした。

説明: プリコンパイル / バインドの OWNER オプションに指定した値が、リモート・データベースでの許可検査で拒否されました。この SQLCODE はプリコンパイル / バインド中に出されます。これは、データベース・マネージャーのプリコンパイラー / バインダーからは出されません。

プリコンパイル / バインド操作は処理されません。

ユーザーの処置: OWNER オプションに指定した ID を使用する権限を持っていることを確認するか、または OWNER オプションを使用しないでください。

sqlcode: -30053

sqlstate: 42506

SQL30060N “<authorization-ID>” は、操作 “<operation>” を実行する特権を持っていません。

説明: 許可 ID <authorization-ID> が適切な許可を持たずに、示されている <operation> を実行しようとした。SQLCODE はステートメントのコンパイルまたは実行時に出されます。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: <authorization-ID> が、必須の処理の実行に必要な許可を持っていることを確認してください。

sqlcode: -30060

sqlstate: 08004

SQL30061N データベース別名またはデータベース名 “<name>” が、リモート・ノードで見つかりません。

説明: データベース名は、リモート・データベース・ノードでの既存のデータベースではありません。

ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: 正しいデータベース名または別名でコマンドを再発行してください。

連合システム・ユーザー: SYSCAT.SERVERS の項目が、データ・ソースのデータベース名を正しく指定しているかどうか検査してください。

sqlcode: -30061

sqlstate: 08004

SQL30070N “<command-identifier>” コマンドはサポートされていません。

説明: リモート・データベースが、認識できないコマンドを受け取りました。現在の環境コマンドまたは SQL ステートメントは正常に処理されず、後続のコマンドまたは SQL ステートメントも正常に処理されません。

現在のトランザクションはロールバックされ、アプリケーションはリモート・データベースから切断されます。ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: メッセージ番号 (SQLCODE) およびコマンド ID を記録してください。可能であれば、SQLCA からすべてのエラー情報を記録してください。リモート・データベースに接続して、アプリケーションを再実行してください。

十分なメモリー・リソースがあってもこの問題が続く場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトで、独立トレース機能を呼び出して、この機能の使用法については、

問題判別の手引き の独立トレース機能を参照してください。

以下の情報を用意して、技術サービス担当者に提供してください。

必要な情報は以下のとおりです。

- 問題記述
- SQLCODE とコマンド ID
- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

sqlcode: -30070

sqlstate: 58014

SQL30071N “<object-identifier>” オブジェクトはサポートされていません。

説明: リモート・データベースが、認識できないデータを受け取りました。現在の環境コマンドまたは SQL ステートメントは正常に処理されず、後続のコマンドまたは SQL ステートメントも正常に処理されません。

現在のトランザクションはロールバックされ、アプリケーションはリモート・データベースから切断されます。 コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: メッセージ番号 (SQLCODE) およびオブジェクト ID を記録してください。可能であれば、SQLCA からすべてのエラー情報を記録してください。 リモート・データベースに接続して、アプリケーションを再実行してください。

メモリー・リソースが十分にあってこの問題が発生する場合には、以下の情報が必要になります。

トレースが活動状態の場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから、独立トレース機能を呼び出してください。 この機能の使用法については、 *問題判別の手引き* の独立トレース機能を参照してください。

以下の情報を用意して、技術サービス担当者に提供してください。

必要な情報は以下のとおりです。

- 問題記述
- SQLCODE とオブジェクト ID
- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

sqlcode: -30071

sqlstate: 58015

SQL30072N “<parameter-identifier>” パラメーターはサポートされていません。

説明: リモート・データベースが、認識できないデータを受け取りました。現在の環境コマンドまたは SQL ステートメントは正常に処理されず、後続のコマンドまたは SQL ステートメントも正常に処理されません。

コマンドは処理されません。現在のトランザクションはロールバックされ、アプリケーションはリモート・データベースから切断されます。

ユーザーの処置: メッセージ番号 (SQLCODE) およびパラメーター ID を記録してください。可能であれば、SQLCA からすべてのエラー情報を記録してください。 リモート・データベースに接続して、アプリケーションを再実行してください。

十分なメモリー・リソースがあってもこの問題が続く場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトで、独立トレース機能を呼び出してください。この機能の使用法については、 *問題判別の手引き* の独立トレース機能を参照してください。

以下の情報を用意して、技術サービス担当者に提供してください。

必要な情報は以下のとおりです。

- 問題記述
- SQLCODE とパラメーター ID

- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

sqlcode: -30072

sqlstate: 58016

SQL30073N “<parameter-identifier>” パラメーターの値 “<value>” はサポートされていません。

説明: リモート・データベースが、認識できないデータを受け取りました。現在の環境コマンドまたは SQL ステートメントは正常に処理されず、後続のコマンドまたは SQL ステートメントも正常に処理されません。

現在のトランザクションはロールバックされ、アプリケーションはリモート・データベースから切断されます。 コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: メッセージ番号 (SQLCODE) およびパラメーター ID を記録してください。可能であれば、SQLCA からすべてのエラー情報を記録してください。 リモート・データベースに接続して、アプリケーションを再実行してください。

メモリー・リソースが十分にあってもこの問題が発生する場合には、以下の情報が必要になります。

トレースが活動状態の場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから、独立トレース機能呼び出ししてください。 この機能の使用法については、 *問題判別の手引き* の独立トレース機能を参照してください。 以下の情報を用意して、技術サービス担当者に提供してください。

必要な情報は以下のとおりです。

- 問題記述
- SQLCODE、パラメーター ID、および値
- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

パラメーター ID の中には以下の入ったものがあります。

002F ターゲット・サーバーが、アプリケーション・リクエスターの要求するデータ・タイプをサポートしていません。たとえば、DB2 コネクト が DB2 2.3 への接続に使用されている場合、適切な PTF が DB2 2.3 に適用されていないかぎり、このエラーが返されます。サーバーのレベルが、リクエスターによってサポートされていることを確認してください。

119C, 119D, 119E

ターゲット・サーバーが、アプリケーション・リクエスターの要求する CCSID をサポートしていません。リクエスターの使用する CCSID が、サーバーによってサポートされていることを確認してください。

- 119C - 1 バイトの CCSID を検証します。
- 119D - 2 バイトの CCSID を検証します。
- 119E - 混合バイトの CCSID を検証します。

sqlcode: -30073

sqlstate: 58017

SQL30074N “<reply-identifier>” 応答はサポートされていません。

説明: クライアントが、認識できない応答を受け取りました。現在の環境コマンドまたは SQL ステートメントは正常に処理されず、後続のコマンドまたは SQL ステートメントも正常に処理されません。

現在のトランザクションはロールバックされ、アプリケーションはリモート・データベースから切

断されます。 ステートメントは処理できません。

ユーザーの処置: メッセージ番号 (SQLCODE) および応答 ID を記録してください。可能であれば、SQLCA からすべてのエラー情報を記録してください。 リモート・データベースに接続して、アプリケーションを再実行してください。

十分なメモリー・リソースがあってもこの問題が続く場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトで、独立トレース機能呼び出してください。この機能の使用法については、問題判別の手引きの独立トレース機能を参照してください。

以下の情報を用意して、技術サービス担当者に提供してください。

必要な情報は以下のとおりです。

- 問題記述
- SQLCODE と応答 ID
- SQLCA の内容 (ある場合)
- トレース・ファイル (可能であれば)

sqlcode: -30074

sqlstate: 58018

SQL30080N リモート・データベースとのデータの送受信で、通信エラー
“<reason-code>” が発生しました。

説明: “<reason-code>” には、コミュニケーション・マネージャーによって報告されたオリジナルのエラー・コードが入っています。

APPC エラー・コードの場合、形式は、*pppp-sssssss-ddddddd* で、*pppp* は 1 次戻りコード、*sssssss* は 2 次戻りコード、*ddddddd* はセンス・データです。これらのエラー・コードの値は、16 進数表記で行われます。1 次エラー・コードと 2 次エラー・コードには、データベース・サーバーとの対話が割り振れなかったこ

とを示す、0003-00000004 および 0003-00000005 が入っています。センス・データは、APPC ALLOCATE エラーに対してのみ表示されます。

コマンドは処理されません。 データベースへの接続が失敗するか、またはデータベースに接続されている現在のトランザクションがロールバックされ、アプリケーションがデータベースから切り離されます。

APPC 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの説明については、「*IBM Communications Manager 1.0 APPC Programming Guide and Reference (SC31-6160)*」を参照してください。 APPC センス・データの詳細については、*IBM Communications Manager 1.0 Problem Determination Guide (SC31-6156)* を参照してください。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーとコミュニケーション・マネージャーの両方が、データベース・サーバーで始動されていること、およびすべてのコミュニケーション・マネージャー構成パラメーターが正しいことを確認してください。さらに、詳細については、*コミュニケーション・マネージャー /2 拡張プログラム間通信 (APPC) プログラミングの手引きと解説書* を調べてください。

注: メッセージに組み込まれている理由コードが 0003-084C0001 である場合、サーバーではないワークステーションにリモート接続しようとしたことが、このメッセージの原因の 1 つと考えられます。リモート・ワークステーションがサーバーでありことを確認してください。それがサーバーでない場合は、データベース・マネージャーをサーバーとしてインストールしてください。

sqlcode: -30080

sqlstate: 08001

SQL30081N 通信エラーが検出されました。使用された通信プロトコル:
<protocol>。使用中の通信 API :
<interface>。エラーが検出された場所: <location>。エラーを検出した通信機能: <function>。プロトコル固有のエラー・コード: <rc1>、<rc2>, <rc3>。

説明: 通信サブシステムによって、エラーが見つけられました。

接続がすでに確立されている場合、考えられる原因は以下のとおりです。

- クライアント・ノードまたはサーバー・ノードの通信サブシステム・エラーのために、接続がダウンしてしまいました。
- SOCKS サーバーで通信サブシステムが使用されている場合には、そのエラーのために、接続がダウンしてしまいました。
- ネットワーク・エラーが接続を切断しました。
- サーバーのデータベース・エージェントが、システム管理者によって強制的にオフにされました。
- 主要データベース・マネージャー・プロセスの異常終了のために、サーバーのデータベース・エージェントが終了しました。

新しい接続の確立を試みていた場合、考えられる原因は以下のとおりです。

- リモート・データベース・サーバーが、クライアントで正しくカタログされていません。
- サーバーのデータベース・マネージャー構成ファイルが、正しい構成パラメーターで構成されていません。
- クライアント・ノードまたはサーバー・ノードの通信サブシステムが正しく構成されていないか、または正常に始動されていません。
- SOCKS サーバーで通信サブシステムが使用されている場合には、それが正しく構成されていないか、正常に開始されていません。

- サーバーの DB2COMM 環境変数に、クライアントが使用する通信プロトコルが指定されていません。
- サーバーのデータベース・マネージャーが始動されていないか、または正常に始動されていません。DB2COMM によって指定されている 1 つ以上の通信プロトコルの開始が、成功していない可能性があります。

詳細については、トークンの値を参照してください。 使用しているプロトコルと呼び出した通信関数によっては、いくつかのトークンが適用されない場合があります。以下は、トークンの値の説明です。

<protocol>

実際に使用されている通信プロトコル。有効なトークン値は、以下のとおりです。

- TCP/IP
- APPC
- NETBIOS
- IPX/SPX

<interface>

上記の通信プロトコル・サービスを呼び出すために使用したアプリケーション・プログラミング・インターフェース。有効なトークン値は、以下のとおりです。

- SOCKETS
- SOCKS
- CPI-C
- DLR または DD
- TLI または Connection/Bindery

<location>

エラーが見つかったノードを特定するプロトコル固有の ID。 使用中のプロトコルに応じて、以下のようになります。

- TCP/IP

ID の形式は、ドット表記による IP アドレスです。

- APPC

ID の形式は、完全修飾 LU 名 (networkID.LUname) です。

- NETBIOS

ID の形式は、ワークステーション名 (nname) です。

- IPX/SPX

ID の形式は、16 進数表記によるネットワーク・アドレスとノード・アドレス (network.node) です。

エラー発生時に location 情報が使用可能でない場合、このトークンは空のままです。

<function>

エラー・コードを戻した通信サブシステム関数の名前。

<rc1>、<rc2>、<rc3>

使用している各プロトコルに固有で使用可能なエラー・コードとサブコードのリスト。適用できないトークンは、"*" を備えています。

使用中のプロトコルに応じて、以下のようになります。

- TCP/IP

- 存在する場合、<rc1> には、TCP/IP ソケット関数呼び出しからのグローバル *errno* の値が入っています。Windows Sockets を使用しているときは、存在する場合、<rc1> には、WSAGetLastError() によって返された TCP/IP ソケット関数呼び出しからのエラーが入っています。
- 存在する場合、<rc2> には、TCP/IP ネーム・レゾリューション関数呼び出しからのグローバル *h_errno* の値が入っています。Windows Sockets を使用しているときは、存

在する場合、<rc2> には、

WSAGetLastError() によって返された TCP/IP データベース関数呼び出しからのエラーが入っています。

- <rc3> が存在し、"0" が入っている場合は、TCP/IP 接続がクローズされていることを意味します。この問題は以下のいずれかの条件によって発生する可能性があります。
 - サーバーのデータベース・エージェントが、システム管理者によって強制的にオフにされました。
 - *maxagents* データベース・マネージャ構成パラメーターを超えたために、データベース・エージェントが、サーバーで始動できませんでした。サーバーの First Failure Service Log (DB2DIAG.LOG) をチェックして、エラー・メッセージが記録されているかどうかを判別してください。
 - 接続は、TCP/IP レベルでリモート・サーバーによってクローズされたと考えられます。
 - 主要データベース・マネージャ・プロセスの異常終了のために、サーバーのデータベース・エージェントが終了しました。

注: Windows Sockets を使用している場合、<function> が WSAStartup で、<rc1> が 0 のときは、<rc2> には、DB2 が要求した Windows Sockets 仕様のバージョン・レベルが入っていて、<rc3> には、Windows Sockets DLL がサポートしている Windows Sockets 仕様のバージョン・レベルが入っています。

- APPC

<rc1> は、CPI-C 関数からの戻りコードを備えています。存在する場合、<rc2> は、CPI-C 関数呼び出しからのグローバル *errno* 値を備えています。<rc3> は適用されていません。

• NETBIOS

<rc1> は、NetBIOS に対する呼び出しからの戻りコードを備えています。
<rc2> および <rc3> は適用されていません。

• IPX/SPX

<rc1> は TLI サービスに対する呼び出しからのグローバル *t_errno* 値、あるいは NetWare 接続またはバインダリー・サービスに対する呼び出しからの戻りコードを備えています。<rc1> *t_errno* が TLOOK の場合は、<rc2> に、発生した TLI イベントが入っています。<rc2> イベントが T_DISCONNECT の場合には、切り離された理由コードが <rc3> に入っています。AIX では、<rc1> *t_errno* が TSYSERR の場合には、システム *errno* (*sys/errno.h* に定義される) が <rc3> に入っています。AIX NetWare 接続またはバインダリー・サービスに対する呼び出しからのエラー戻りコードが <rc1> に入っている場合には、エラー・ジェネレーターは <rc2> に入っています。

特定のコミュニケーション・エラー・コードに関する情報については、メッセージ解説書の付録の中のコミュニケーション・エラーを参照してください。

ユーザーの処置:

接続がすでに確立されている場合は、以下の項目について調べてください。

1. サーバーのデータベース・エージェントが強制的にオフにされました。

2. サーバーのデータベース・マネージャーが異常終了しました。
3. 通信サブシステムまたはネットワーク・エラーが起きました。特定のコミュニケーション・エラー・コードの詳細は、メッセージ解説書を参照してください。

新しい接続を試みている場合は、以下の項目について調べてください。

1. リモート・データベース・サーバーが、クライアント・ノードで正しくカタログされました。
2. サーバーのデータベース・マネージャー構成ファイルが、正しい通信関連パラメーターで構成されています。データベース・マネージャー構成パラメーターが、サーバーで更新された場合は、変更を反映するために、データベース・マネージャーの停止と再始動を行ってください。
3. クライアントとサーバーの両方のノードの通信サブシステムが、正しく構成されて始動されています。
4. サーバーの DB2COMM 環境変数に、クライアントが使用する通信プロトコルが指定されています。
5. サーバーのデータベース・マネージャーが正常に始動されました。サーバーでのデータベース・マネージャーの始動処理は、SQL1063 を返し、SQL5043 ではありません。SQL5043 が返された場合は、詳細については、First Failure Service Log (DB2DIAG.LOG) をチェックしてください。
6. 通信サブシステムまたはネットワーク・エラーが起きました。

問題が続く場合は、ネットワーク管理者または通信の専門家、もしくは両者に連絡し、提供されたトークンのセットを使用して、問題の原因を判別してください。

sqlcode: -30081

SQL30082N 接続を確立する試みは、セキュリティの理由 "<reason-code>" ("**<reason-string>**") で正常に実行されていません。

説明: リモート・データベース・サーバーの接続の試みは、セキュリティ情報が無効または正しくないために、拒否されました。セキュリティ・エラーの原因は、<reason-code> および対応する <reason-string> 値によって記述されています。

理由コードのリストおよび対応する理由のストリングは次の通りです。

0 (NOT SPECIFIED)

特定のセキュリティ・エラーは指定されません。

1 (PASSWORD EXPIRED)

要求に指定されたパスワードの有効期限が切れています。

2 (PASSWORD INVALID)

要求に指定されたパスワードが無効です。

3 (PASSWORD MISSING)

要求にパスワードが組み込まれていません。

4 (PROTOCOL VIOLATION)

要求がセキュリティ・プロトコルに違反しています。

5 (USERID MISSING)

要求にユーザー ID が組み込まれていません。

6 (USERID INVALID)

要求に指定されたユーザー ID が無効です。

7 (USERID REVOKED)

要求に指定されたユーザー ID が取り消されています。

8 (GROUP INVALID)

要求で指定されたグループが無効です。

9 (USERID REVOKED IN GROUP)

要求に指定されたユーザー ID がグループ内で取り消されています。

10 (USERID NOT IN GROUP)

要求で指定されたユーザー ID がグループ内にありません。

11 (USERID NOT AUTHORIZED AT REMOTE LU)

要求に指定されたユーザー ID がリモート論理装置で許可されていません。

12 (USERID NOT AUTHORIZED FROM LOCAL LU)

要求に指定されたユーザー ID はローカル論理装置から来る時に、リモート論理装置で許可されていません。

13 (USERID NOT AUTHORIZED TO TP)

要求に指定されたユーザー ID がトランザクション・プログラムへのアクセスで許可されていません。

14 (INSTALLATION EXIT FAILED)

インストール・システム出口が正常に実行されていません。

15 (PROCESSING FAILURE)

サーバーでのセキュリティ処理が失敗しました。

16 (NEW PASSWORD INVALID)

パスワード変更要求で指定されたパスワードは、サーバーの要件に合致しませんでした。

17 (UNSUPPORTED FUNCTION)

クライアントの指定したセキュリティ機構は、このサーバーでは無効です。

いくつかの典型例をあげます。

- クライアントが、DRDA パスワード変更機能をサポートしていないサーバーに、新規パスワードの値を送信しました。

- クライアントが、DCE をサポートしていないサーバーに、DCE 認証情報を送信しました。
- クライアントが、パスワードの暗号解読をサポートしていないサーバーに SERVER_ENCRYPT または DCS_ENCRYPT 認証情報を送信しました。
- クライアントが、ユーザー ID だけでは認証をサポートしていないサーバーにユーザー ID (パスワードなし) を送信しました。

18 (NAMED PIPE ACCESS DENIED)

セキュリティ違反のため、名前付きパイプにアクセスできません。

19 (USERID DISABLED または RESTRICTED)

ユーザー ID が使用不能であるか、あるいは今回の処理環境にはアクセスできないよう使用制限されています。

20 (MUTUAL AUTHENTICATION FAILED)

接続中のサーバーが、相互認証検査の受け渡しに失敗しました。サーバーが偽であるか、または送り返されてきたチケットが損傷を受けています。

21 (RESOURCE TEMPORARILY UNAVAILABLE)

リソースが一時的に使用不可であるため、サーバーでのセキュリティ処理が終了しました。たとえば AIX では、有効なユーザー・ライセンスがないと思われる。

ユーザーの処置: 適切なユーザー ID またはパスワード (あるいはこの両方) が提供されたことを確認してください。

ユーザー ID が使用できず、特定のワークステーションへのアクセスに制限があるか、あるいは一定の時間処理に制限があります。

理由コード 17 の場合、サポートされている認証タイプでコマンドを再実行してください。

理由コード 20 で、サーバーに対する認証機構が開始済みかどうかを確認してもう一度試してください。

sqlcode: -30082

sqlstate: 08001

SQL30083N ユーザー ID "`<uid>`" のパスワード変更がセキュリティ上の理由 "`<reason-code>`" ("`<reason-string>`") により、できません。

説明: パスワード変更は、無効あるいは誤ったセキュリティ情報のために、拒否されました。セキュリティ・エラーの原因は、"`<reason-code>`" および対応する "`<reason-string>`" 値によって記述されています。

理由コードのリストおよび対応する理由のストリングは次の通りです。

0 (NOT SPECIFIED)

特定のセキュリティ・エラーは指定されません。

1 (CURRENT PASSWORD INVALID)

要求に指定された旧パスワードが無効です。

2 (NEW PASSWORD INVALID)

要求に指定されたパスワードは、パスワードが変更されたシステムによって定められたパスワード規則の下では無効です。

3 (CURRENT PASSWORD MISSING)

要求に旧パスワードが組み込まれていません。

4 (NEW PASSWORD MISSING)

要求に新規パスワードが組み込まれていません。

5 (USERID MISSING)

要求にユーザー ID が組み込まれていません。

6 (USERID INVALID)

要求に指定されたユーザー ID が無効です。

7 (USERID REVOKED)

要求に指定されたユーザー ID が取り消されています。取り消されたユーザー ID に対して、パスワードを変更することができます。

14 (INSTALLATION EXIT FAILED)

インストール・セキュリティー出口が失敗しました。

15 (PROCESSING FAILURE)

サーバーでのセキュリティー処理が失敗しました。

17 (UNSUPPORTED FUNCTION)

パスワード変更機能は、システムによってサポートされていません。

19 (USERID DISABLED または RESTRICTED)

ユーザー ID が使用不能であるか、あるいは今回の処理環境にはアクセスできないよう使用制限されています。

23 (DCS エントリー内の CHGPWD_SDN は構成されていません。)

SNA を介して接続されたホスト・システムで MVS パスワードを変更するには、.....CHGPWD_SDN パラメーター・ストリングを使って DCS データベースをカタログしなければなりません。.....CHGPWD_SDN パラメーター・ストリングは、Password Expiration Management (PEM) の記号宛先名を識別します。

24 (USERNAME AND/OR PASSWORD INVALID)

指定されたユーザー名または指定されたパスワード、あるいはその両方が無効です。

ユーザーの処置: 正しいユーザー ID と、現行パ

スワードおよび新規パスワードが提供されているか、確認してください。

ユーザー ID が使用できず、特定のワークステーションへのアクセスに制限があるか、あるいは一定の時間処理に制限があります。

特定の理由コードに関する解説を以下に述べます。

14 発生した問題の詳細記述に関しては、インスタンス・サブディレクトリー (通常は "db2") の db2pem.log ファイルをチェックしてください。

23 DB2 コネクト 使用者の手引き に指定されているとおり、.....CHGPWD_SDN パラメーターを使って DCS データベースをカタログします。

sqlcode: -30083

sqlstate: 08001

SQL30090N 操作がアプリケーション実行環境で無効です。理由コード = "**<reason-code>**"

説明: 操作がアプリケーション実行環境で無効です。たとえば、ステートメントまたは API の特殊制約事項を持つアプリケーションでは操作が無効な可能性があります。そのアプリケーションは、XA 分散トランザクション処理環境で操作するものや、CICS や、CONNECT タイプ 2 接続設定で操作するものや、あるいは連合システムの機能性を使用して複数の異機種データ・ソースを更新するものです。処理は拒否されます。

理由コードには、以下のものがあります。

- 01 - データの変更を行う SQL 要求 (INSERT あるいは CREATE など) が読み取り専用データベースに対して発行されたか、または読み取り専用データベースに対してストアード・プロシージャが呼び出されました。読み取り専用データベースには、以下のタイプがあります。

- 同期点マネージャーが使用されていない時、あるいは遠隔 DRDA データベースがレベル 2 DRDA プロトコルをサポートしていない時に、接続設定 SYNCPOINT TWOPHASE を持ち、非 XA/DTP 環境で実行されている作業単位で操作されるときに、DRDA を使用してアクセスされるデータベース。
 - 同期点マネージャー・ゲートウェイが使用不能か、または DRDA データベースがレベル 2 DRDA プロトコルをサポートしない場合に、XA/DTP 環境の DRDA によってアクセスされるデータベース。
 - SYNCPOINT ONEPHASE 接続設定が作業単位に有効なときに、最初に更新されたデータベースではないデータベース。
- 02 - 内部コミットを出すプリコンパイル、バインド、表の再編成などの API が、CONNECT タイプ 2 の設定を持っているアプリケーション、または XA/DTP 環境で操作されているアプリケーション内で発行されました。
 - 03 - ENCINA または TUXEDO トランザクション処理モニターの使用中に、XA/DTP 環境にもかかわらず、保留カーソルに対する SQL OPEN が発行されました。
 - 04 - XA/DTP 環境なのに、DISCONNECT ステートメントが発行されました。
 - 05 - COMMIT ステートメントの入った複合 SQL ステートメントが、CONNECT タイプ 2 または XA/DTP 環境で発行されました。
 - 06 - SET CLIENT API が XA/DTP 環境で発行されました。
 - 07 - トランザクション・マネージャーによって、2 フェーズ・コミット調整が提供されていない作業単位内で、2 番目のデータベースがアクセスされています。データ保全性を確保するために、処理は許可されません。
 - 08 - 並行して接続されているデータベースとは異なるソースから、コミット調整を使用するために、データベースのアクセスが試みられました。2 つのタイプの調整は混合できず、現在のデータベースに対する処理は拒否されます。
 - 09 - 同期点マネージャー調整のもとにアクセスされるデータベースに対して、XA/DTP ローカル・トランザクションを実行しようとした。
 - 10 - 次のいずれかの場合に、保留カーソルに対する SQL OPEN が発行されました。
 - XA/DTP 環境あるいは
 - 連合サーバーが、2 フェーズ・コミット・データ・ソースに定義されているニックネームにアクセスしている
 カーソル保留は次の環境ではサポートされません。
 - 11 - パススルーに対して処理がサポートされない。
 - 12 - 挿入 / 更新 / 削除操作にはタイム・スタンプ列の存在、およびデータ・ソースの制限による固有の索引が必要である。データ・ソースにアクセスしている更新 / 削除処理に対して、
 - Fujitsu RDB2 では固有索引が必要です。
 - 13 - UPDATE あるいは DELETE 処理では、カーソルの SELECT リストに、列が必要ですが、この列がカーソルの SELECT リストにありません。
 - 14 - 更新可能カーソル、カーソル保留、および反復可能読み取りの分離レベルの組み合わせに誤りがあります。無効な組み合わせは、以下のとおりです。
 - 分離レベル反復可能読み取りと WITH HOLD カーソル
 - WITH HOLD カーソルと FOR UPDATE
 - 15 - 将来の利用のため予約
 - 16 - SYSCAT.SERVERS のタイプ列とプロトコル値の組み合わせが誤っています。
 - 17 - REORG ユーティリティーはニックネームに対して発行できません。

- 18 - 作業単位内の 1 つまたは複数のデータ・ソースが 1 フェーズ・コミットをサポートするだけのとき、更新要求 (あるいは、システム・カタログ表の更新となる DDL 操作) が発行されると、複数のデータ・ソースを更新する結果になります。考えられる原因は以下のとおりです。
 - 1 フェーズ・コミットのみサポートするデータ・ソースを更新しようとしたが、別のデータ・ソースが、同じ作業単位内にすでに存在している。
 - 2 フェーズ・コミットをサポートするデータ・ソースを更新しようとしたが、1 フェーズ・コミットをサポートのみする別のデータ・ソースが同じ作業単位内にすでに存在している。
 - ローカル連合サーバー表を更新しようとしたが、1 フェーズ・コミットをサポートのみするデータ・ソースが同じ作業単位内にすでに存在している。
 - CONNECT タイプ 2 接続設定でアプリケーションが動作しているときに、1 フェーズ・コミットをサポートするだけのデータ・ソースを更新しようとした。
 - 19 - アプリケーション・ホスト変数のデータ・タイプがパススルー・セッションのデータ・ソースでサポートされていません。
 - 20 - SET CLIENT INFORMATION が作業単位が進行中に発行されました。
 - 21 - 指定したデータ・ソースで実行したい操作が、DB2 がデータ・ソースにアクセスするためのラッパーによってサポートされていません。このラッパーがサポートしている操作については、資料を参照してください。
- ユーザーの処置:**
- 以下のいずれかを行って、問題を解決してください。
- 理由 01、02、03、04、06 または 19 の場合は、サポートされていないステートメントまたは API を取り除いてください。
 - 理由 01、02、03、04、または 06 の場合の別の方法として、失敗したステートメントまたは API をサポートする別の環境で、アプリケーションを実行してください。
 - 理由 05 の場合は、COMMIT 要求を複合ステートメントの外に始動してください。
 - 理由 07 の場合は、EXEC SQL COMMIT または EXEC SQL ROLLBACK が、外部トランザクション・マネージャーに対する同期点要求の代わりに発行される作業単位内で、アクセスされるデータベースがただ 1 つしかないことを確認してください。作業単位内で複数のデータベースにアクセスする必要がある場合は、外部トランザクション・マネージャー製品によって提供されるコミットメント制御インターフェースを利用してください。
 - 理由 08 の場合は、作業単位内でアクセスされているすべてのデータベースが、(CICS SYNCPOINT などの) 外部トランザクション処理モニターあるいはローカル COMMIT および ROLLBACK EXEC SQL などの要求と同じタイプの要求のコミットメント制御の下にあることを確認してください。
 - 理由 09 の場合、以下のステップのいずれかを行ってください。
 - トランザクションを XA/DTP グローバル・トランザクションとして実行します。
 - 非 XA/DTP 環境のデータベースにアクセスします。
 - トランザクションが読み取り専用の場合には、データベースの接続に対して同期点マネージャーのサービスを使用しないでください。
 - 理由 10 から 17 (連合サーバー・ユーザー) までの場合は、要求を失敗させたデータ・ソースが問題である (問題判別の手引きを参照してください) と考え、そのデータ・ソースの制約事項を調べてください。
 - 理由 18 の場合、以下のステップのいずれかを行ってください。

- 別のデータ・ソースに対する更新を発行する前に、COMMIT あるいは ROLLBACK を実行要求してください。
- 複数のデータ・ソースを作業単位内で更新する必要がある場合、更新の必要があるデータ・ソースすべてに対して 2 フェーズ・コミット・サーバー・オプションを 'Y' に設定しているか確認してください。2 フェーズ・コミット設定で使用する値を設定する際の情報については、*SQL 解説書* を参照してください。
- 更新されたデータ・ソースが、1 フェーズ・コミットのみサポートし、アプリケーション

が CONNECT タイプ 2 接続設定で動作している場合、アプリケーションを変更して、CONNECT タイプ 1 接続設定で動作できるようにしてください。

- 理由 20 の場合、API を呼び出す前にコミットまたはロールバックを実行してください。

sqlcode: -30090

sqlstate: 25000

SQL30100 - SQL30199

SQL30101W REBIND 要求に指定されたバインド・オプションは、無視されます。

説明: バインド・オプションが REBIND 要求に指定されましたが、データベース・サーバーは、バインド・オプションの再指定をサポートしていません。指定されたバインド・オプションは無視され、オリジナル BIND 要求のオプションが使用されます。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。これは単に警告状況です。

データベース・マネージャーが追加警告 SQLCA を戻した場合は、"sqlerrmc" トークンが、この追加 SQLCA に関する以下の情報を、以下の順序で示します。

- sqlcode (SQL 戻りコード)
- sqlstate (ユニバーサル SQL 戻りコード)
- sqlerrp (プロダクト名)
- sqlerrmc (SQL メッセージ・トークン)

sqlcode: +30101

sqlstate: 01599

第3章 SQLSTATE メッセージ

このセクションには、SQLSTATE とその意味がリストされています。SQLSTATE はクラス・コードによってグループ化されており、サブコードについては、対応する表をご覧ください。

表 1. SQLSTATE クラス・コード

クラス・コード	意味	サブコードについては、「...」を参照してください。
00	無条件正常終了	584ページの表2
01	警告	584ページの表3
02	データなし	588ページの表4
07	動的 SQL エラー	588ページの表5
08	接続例外	588ページの表6
09	トリガー・アクション例外	589ページの表7
0A	機能がサポートされていない	589ページの表8
0D	ターゲット・タイプ指定が無効	589ページの表9
0F	トークンが無効	590ページの表10
0K	RESIGNAL ステートメントが無効	590ページの表11
20	CASE ステートメントにケースが見つからない	590ページの表12
21	カーディナリティー違反	590ページの表13
22	データ例外	591ページの表14
23	制約違反	592ページの表15
24	カーソル状態が無効	593ページの表16
25	トランザクション状態が無効	593ページの表17
26	SQL ステートメント ID が無効	594ページの表18
28	許可指定が無効	594ページの表19
2D	トランザクション終了が無効	594ページの表20
2E	接続名が無効	594ページの表21
34	カーソル名が無効	595ページの表22
38	外部関数例外	595ページの表24
39	外部関数呼び出し例外	596ページの表25
3B	SAVEPOINT が無効	597ページの表26

表 1. SQLSTATE クラス・コード (続き)

クラス・コード	意味	サブコードについては、「...」を参照してください。
40	トランザクションのロールバック	597ページの表27
42	構文エラーまたはアクセス規則違反	598ページの表28
44	WITH CHECK OPTION 違反	610ページの表29
46	Java DDL	610ページの表30
51	アプリケーション状態が無効	610ページの表31
54	SQL または製品の限界を超過	611ページの表32
55	オブジェクトが前提条件の状態にない	612ページの表33
56	その他の SQL または製品エラー	614ページの表34
57	リソースが使用不能または操作員の介入	615ページの表35
58	システム・エラー	616ページの表36

クラス・コード 00 無条件正常終了

表 2. クラス・コード 00: 無条件正常終了

SQLSTATE 値	意味
00000	SQL ステートメントは正常に実行され、いかなるタイプの警告または例外状態も発生しませんでした。

クラス・コード 01 警告

表 3. クラス・コード 01: 警告

SQLSTATE 値	意味
01002	DISCONNECT エラーが起きました。
01003	NULL 値が、列関数の引き数から除去されました。
01004	ストリングの値が、ホスト変数に割り当てられたときに切り捨てられました。
01005	SQLDA の項目数が不足しています。
01007	特権が付与されていません。
0100C	1 つまたは複数の adhoc の結果セットが、プロシージャーから返されました。

表3. クラス・コード 01: 警告 (続き)

SQLSTATE 値	意味
0100D	クローズしていたカーソルが、連鎖内の次の結果セットで再度オープンしました。
0100E	プロシージャは結果セットを、最大許容数を超過して生成しました。最初の整数結果セットのみが呼び出し元に戻されました。
01503	結果列の数が、指定されたホスト変数の数よりも大きくなっています。
01504	UPDATE または DELETE ステートメントに、WHERE 文節がありません。
01506	算術演算の結果である無効な日付を訂正するため、DATE または TIMESTAMP の値が調整されました。
01509	ユーザーの仮想計算機に十分なストレージがないため、カーソルについてはブロック化が取り消されました。
01515	列の非 null 値がホスト変数の範囲外にあるため、null 値がホスト変数に割り当てられました。
01516	不適当な WITH GRANT OPTION が無視されました。
01517	変換できない文字を、置換文字で置き換えました。
01519	数値が範囲外であるため、null 値がホスト変数に割り当てられました。
01524	列関数の結果には、算術式を評価することで発生した null 値は含まれません。
01526	分離レベルが自動調整されました。
01539	接続は成功しましたが、SBCS 文字のみが使用できます。
01543	重複した制約が無視されました。
01545	修飾されていない列名が、相関参照として解釈されました。
01550	指定された記述を持つ索引がすでに存在しているため、索引が作成されませんでした。
01560	冗長 GRANT は無視されます。
01562	データベース構成ファイル内のログへの新たなパス (newlogpath) が無効です。
01563	ログ・ファイルへの現在のパス (logpath) が無効です。ログ・ファイル・パスはデフォルトにリセットされました。
01564	ゼロで割り算を行ったため、null 値がホスト変数に割り当てられました。
01586	参照構造の親表についての制約を OFF に設定したため、1 つ以上の下位表が自動的にチェック保留状態に置かれました。
01589	ステートメントに余分な指定があります。

表 3. クラス・コード 01: 警告 (続き)

SQLSTATE 値	意味
01592	<p>SOURCE 関数を参照する CREATE FUNCTION ステートメントが、以下のいずれかの状態になっています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 入力パラメーターの長さ、精度、または位取りが、対応するソース関数のそれよりも大きい。 • RETURNS または CAST FROM パラメーターの長さ、精度、または位取りが、ソース関数のそれよりも小さい。 • CREATE FUNCTION ステートメントの CAST FROM パラメーターの長さ、精度、または位取りが、RETURNS パラメーターのそれよりも大きい。 <p>実行時に切り捨てが実行される可能性があります (また、実行時にエラーが起きる可能性があります)。</p>
01594	ALL 情報のための SQLDA の項目数が不足しています (明確に区別された名前を返すために十分な記述子がありません)。
01595	視点が、既存の無効にされた視点と置き換えられました。
01596	長ストリング・データ・タイプに基づいた異なるタイプに対して、比較関数が作成されませんでした。
01598	活動状態のイベント・モニターを活動化しようとしたか、または非活動状態のイベント・モニターを非活動化しようとした。
01599	バインド・オプションが REBIND で無視されました。
01602	最適化レベルが低下しました。
01603	CHECK DATA 処理が制約違反を見つけ、それらを例外表に移動しました。
01604	SQL ステートメントが解釈されましたが、実行されませんでした。
01605	再帰共通表式に無限ループが入っている可能性があります。
01606	ノードまたはシステム・データベース・ディレクトリーが空です。
01607	読み取り専用トランザクションのノードの時間の間の違いが、定義されているしきい値を超えました。
01609	プロシージャーは結果セットを、最大許容数を超えて生成しました。最初の整数結果セットのみが呼び出し元に戻されました。
01610	1 つまたは複数の adhoc の結果セットが、プロシージャーから返されました。
01611	クローズしていたカーソルが、連鎖内の次の結果セットで再度オープンしました。
01616	見積もり CPU コストがリソースの限度を超過しています。

表 3. クラス・コード 01: 警告 (続き)

SQLSTATE 値	意味
01618	データの区分化を変更するには、ノード・グループの再配布が必要です。
01620	UNION ALL の基礎表の一部は、同一の表です。
01621	検索した LOB の値は変更されています。
01622	ステートメントは正常に完了しましたが、その後でシステム・エラーが発生しました。
01623	DEGREE の値は無視されます。
01626	データベースに活動バッファ・プールは 1 つだけです。
01627	表が調整保留または調整不能状態のため、 DATALINK 値は無効である可能性があります。
01632	同時接続の数が製品の公称定義の数を超えました。
01633	要約表を、照会の処理の最適化のために使うことはできません。
01636	非増分データの保全本性はデータベース・マネージャーによる確認がされないままになっています。
01637	デバッグは使用できません。
01639	呼び出し側がデータ・ソース・オブジェクトについて必要な権限を持っていることを、視点または要約表が必要としていると思われるか。
01641	データ・リンク・タイプ属性が、構造化タイプの使用を制限しています。
01642	列の長さは、許可されている USER デフォルト値の最大長のために十分ではありません。
01643	SQL ルーチンで SQLSTATE または SQLCODE 変数への割り当てが上書きされたと思われるため、ハンドラーを活動化しません。
01645	SQL プロシージャの実行可能プログラムはデータベース・カタログに保管されません。
01653	許可はユーザーに対して認可されました。グループは、許可名が 8 バイトより長いために考慮に入れられませんでした。
01H51	MQSeries アプリケーション・メッセージング・インターフェース・メッセージが切り捨てられました。
01HXX	有効な警告 SQLSTATE が、ユーザー定義関数または外部プロシージャ CALL によって返されました。

クラス・コード 02 データなし

表 4. クラス・コード 02: データなし

SQLSTATE 値	意味
02000	以下のいずれかの例外が起きました。 <ul style="list-style-type: none">• SELECT INTO ステートメントの結果、または INSERT ステートメントの副選択の結果が、データのない表になった。• 探索型の UPDATE または DELETE ステートメントで指定された行の数がゼロになった。• FETCH ステートメントで参照されたカーソルの位置が、結果表の最終行の後になった。
02501	カーソル位置が現在行の FETCH に対して無効です。

クラス・コード 07 動的 SQL エラー

表 5. クラス・コード 07: 動的 SQL エラー

SQLSTATE 値	意味
07001	ホスト変数の数が、パラメーター・マーカースの数と同じではありません。
07002	呼び出しパラメーター・リストまたは制御ブロックが無効です。
07003	EXECUTE ステートメントで識別されたステートメントが、選択ステートメントであるか、または準備された状態にありません。
07004	動的パラメーターに USING 文節が必要です。
07005	カーソルのステートメント名が、カーソルと関連付けられない準備されたステートメントを識別しました。
07006	データ・タイプが適切でないため、入力ホスト変数を使用できません。

クラス・コード 08 接続例外

表 6. クラス・コード 08: 接続例外

SQLSTATE 値	意味
08001	アプリケーション・リクエスターが接続を確立できません。
08002	接続がすでに存在します。
08003	接続が存在しません。

表 6. クラス・コード 08: 接続例外 (続き)

SQLSTATE 値	意味
08004	アプリケーション・サーバーが、接続の確立を拒否しました。
08007	不明なトランザクション解像度です。
08502	トランザクション・マネージャーが使用できないため、TWOPHASE の SYNCPOINT を使用して実行中のアプリケーション・プロセスによって発行された CONNECT ステートメントが失敗しました。

クラス・コード 09 トリガー・アクション

表 7. クラス・コード 09: トリガー・アクション例外

SQLSTATE 値	意味
09000	トリガー SQL ステートメントが失敗しました。

クラス・コード 0A サポートされていない機能

表 8. クラス・コード 0A: サポートされていない機能

SQLSTATE 値	意味
0A001	プロセスが接続可能状態にないため、CONNECT ステートメントは無効です。
0A502	このデータベース・インスタンスではアクションまたは操作ができません。

クラス・コード 0D ターゲット・タイプ指定が無効

表 9. クラス・コード 0D: ターゲット・タイプ指定が無効

SQLSTATE 値	意味
0D000	ターゲット構造化データ・タイプ指定は、ソース構造化データ・タイプの正しいサブタイプです。

クラス・コード 0F 無効なトークン

表 10. クラス・コード 0F: 無効なトークン

SQLSTATE 値	意味
0F001	LOB トークン変数は、現在何も値を表していません。

クラス・コード 0K RESIGNAL ステートメントが無効

表 11. クラス・コード 0K: RESIGNAL ステートメントが無効

SQLSTATE 値	意味
0K000	RESIGNAL ステートメントがハンドラー内にありません。

クラス・コード 20 CASE ステートメントにケースが見つからない

表 12. クラス・コード 20: CASE ステートメントにケースが見つからない

SQLSTATE 値	意味
20000	CASE ステートメント用のケースが見つかりませんでした。

クラス・コード 21 カーディナリティー違反

表 13. クラス・コード 21: カーディナリティー違反

SQLSTATE 値	意味
21000	SELECT INTO の結果が複数行の結果表になったか、または基本述部の副照会の結果が複数の値になっています。
21501	自己参照表への複数行の INSERT は無効です。
21502	1 次キーの複数行 UPDATE は無効です。
21504	RESTRICT または SET NULL の削除規則を持つ自己参照表からの複数行 DELETE は無効です。
21505	行関数は 1 行のみを戻さなければなりません。

クラス・コード 22 データ例外

表 14. クラス・コード 22: データ例外

SQLSTATE 値	意味
22001	文字データの右側が切り捨てられました。たとえば、更新または挿入の値が、列には長すぎるストリングである、またはホスト変数が小さすぎるため、日時の値をそのホスト変数に割り当てられない、などが考えられます。
22002	値が NULL、または標識パラメーターがないことが見つかりました。たとえば、標識変数が指定されていないため、NULL 値がホスト変数に割り当てられない、などが考えられます。
22003	数値が範囲を超えています。
22004	PARAMETER STYLE GENERAL と定義されているプロシージャから、またはヌルではない引き数で呼び出されているタイプ保護メソッドからヌル値を返すことはできません。
22007	無効な日時形式が検出されました。これは、無効なストリング表現または値が指定されたことが考えられます。
22008	日時フィールドにオーバーフローが起きました。たとえば、日付またはタイム・スタンプの算術演算の結果が、有効な日付の範囲内にないことが考えられます。
2200G	最も特定のタイプが一致しません。
22011	サブストリング・エラーが起きました。たとえば、SUBSTR の引き数が範囲内にないことが考えられます。
22012	0 による除算は無効です。
22018	CAST、DECIMAL、FLOAT、または INTEGER スカラー関数については、文字の値は無効です。
22019	LIKE 述部に無効なエスケープ文字があります。
22021	文字がコード化文字セットにありません。
22024	NUL で終了する入力ホスト変数またはパラメーターに、NUL がありません。
22025	LIKE 述部ストリング・パターンに、無効なエスケープ文字のオカレンスがあります。
2202D	NULL インスタンスは mutator メソッドで使用されます。
22501	可変長ストリングの長さ制御フィールドが、負の値になっているか、または最大値を超えています。
22504	混合データの値が無効です。

表 14. クラス・コード 22: データ例外 (続き)

SQLSTATE 値	意味
22506	TOD クロックが誤動作しているか、またはオペレーティング・システムの timezone パラメーターが範囲外であるため、日時特殊レジスターに対する参照が無効です。
22522	CCSID の値が、完全に無効であるか、データ・タイプまたはサブタイプに対して無効であるか、またはエンコード・スキーマに対して無効です。
22526	キー・トランスフォーム関数が行を生成しなかったか、または重複する行を生成しました。

クラス・コード 23 制約違反

表 15. クラス・コード 23: 制約違反

SQLSTATE 値	意味
23001	親キーの更新または削除が、RESTRICT 更新または削除の規則によって妨げられています。
23502	挿入または更新の値が NULL ですが、列に NULL 値を入れることはできません。
23503	外部キーの挿入または更新の値が無効です。
23504	親キーの更新または削除が、NO ACTION 更新または削除の規則によって妨げられています。
23505	固有索引または固有制約で定められている制約に対する違反が起きました。
23510	RLST 表によるコマンド使用時の制約違反が発生しました。
23511	検査制約が削除を制限しているため、親行を削除できません。
23512	表に制約定義を満たしていない行があるため、検査制約を追加できません。
23513	INSERT または UPDATE の結果の行が、検査制約定義に合いません。
23514	データ検査処理が制約違反を見つけました。
23515	表にある指定されたキーの値が重複しているため、固有索引を作成できないか、または固有制約を追加できませんでした。
23520	外部キーの値が、親表の親キーとすべて等しくないため、外部キーを定義できません。
23521	カタログ表の更新が、内部制約に違反します。
23522	識別列またはシーケンスの値の範囲を使い果たしました。

クラス・コード 24 無効なカーソル状態

表 16. クラス・コード 24: 無効なカーソル状態

SQLSTATE 値	意味
24501	識別されたカーソルがオープンしていません。
24502	OPEN ステートメントで識別されたカーソルが、すでにオープンしています。
24504	UPDATE、DELETE、SET、または GET ステートメントで識別されたカーソルが、行に位置付けられていません。
24506	PREPARE で識別されたステートメントは、オープン・カーソルのステートメントです。
24510	UPDATE または DELETE 操作が削除ホールまたは更新ホールに対して試行されました。
24512	結果表が基礎表と一致しません。
24513	カーソル位置が不明のため、FETCH NEXT、PRIOR、CURRENT、または RELATIVE は許可されません。
24514	以前のエラーによって、このエラーを使用できません。
24516	カーソルが結果セットにすでに割り当てられています。

クラス・コード 25 無効なトランザクション状態

表 17. クラス・コード 25: 無効なトランザクション状態

SQLSTATE 値	意味
25000	更新操作が、アプリケーション実行環境では無効です。
25001	ステートメントは、作業単位の最初のステートメントとしてのみ許可されます。
25501	ステートメントは、作業単位の最初のステートメントとしてのみ許可されます。

クラス・コード 26 無効な SQL ステートメント ID

表 18. クラス・コード 26: 無効な SQL ステートメント ID

SQLSTATE	意味
----------	----

26501	識別されたステートメントが存在しません。
-------	----------------------

クラス・コード 28 無効な許可指定

表 19. クラス・コード 28: 無効な許可指定

SQLSTATE	意味
----------	----

28000	許可名が無効です。
-------	-----------

クラス・コード 2D 無効なトランザクション終了

表 20. クラス・コード 2D: 無効なトランザクション終了

SQLSTATE	意味
----------	----

2D521	SQL COMMIT または ROLLBACK が、現在の操作環境では無効です。
-------	--

2D528	動的 COMMIT が、アプリケーション実行環境では無効です。
-------	---------------------------------

2D529	動的 ROLLBACK が、アプリケーション実行環境では無効です。
-------	-----------------------------------

クラス・コード 2E 無効な接続

表 21. クラス・コード 2E: 無効な接続名

SQLSTATE	意味
----------	----

2E000	接続名が無効です。
-------	-----------

クラス・コード 34 無効なカーソル名

表 22. クラス・コード 34: 無効なカーソル名

SQLSTATE 値	意味
34000	カーソル名が無効です。

クラス・コード 36 無効なカーソル指定

表 23. クラス・コード 36: 無効なカーソル指定

SQLSTATE 値	意味
36001	SENSITIVE カーソルは、指定した選択ステートメントには定義できません。

クラス・コード 38 外部関数例外

表 24. クラス・コード 38: 外部関数例外

SQLSTATE 値	意味
38XXX	有効なエラー SQLSTATE が、ユーザー定義関数、外部プロシージャ、またはトリガーによって返されました。
38001	外部関数は、SQL ステートメントの実行を許可されていません。
38002	外部関数がデータを変更しようとしたが、MODIFIES SQL DATA として定義されていませんでした。
38003	ステートメントが、関数またはプロシージャで許可されていません。
38004	外部関数がデータを読み取ろうとしたが、READS SQL DATA として定義されていませんでした。
38501	ユーザー定義の機能、外部プロシージャ、またはトリガー (SIMPLE CALL または SIMPLE CALL WITH NULLS を使用) の呼び出し中にエラーが発生しました。
38502	外部関数は、SQL ステートメントの実行を許可されていません。
38503	ユーザー定義関数が異常終了しました (ABEND)。
38504	ユーザーがループ状態を停止するために、ユーザーによってユーザー定義関数が中断されました。
38506	OLE DB Provider で、関数がエラーを起こして失敗しました。

表 24. クラス・コード 38: 外部関数例外 (続き)

SQLSTATE 値	意味
38552	SYSFUN スキーマの関数 (IBM 提供) が異常終了しました。 メッセージ・テキストで次の理由コードの 1 つを検出することができません。 01 数値が範囲外 02 ゼロによる除算 03 算術オーバーフローまたはアンダーフロー 04 無効なデータ形式 05 無効な時刻形式 06 無効なタイム・スタンプ形式 07 タイム・スタンプ期間の無効な文字表示 08 無効な間隔タイプ (1、 2、 4、 8、 16、 32、 64、 128、 256 のいずれかでなければならない。) 09 スtringが長すぎる 10 String関数の長さまたは位置が範囲外になっている 11 浮動小数点数では無効な文字表示である
38H01	MQSeries 関数が初期化に失敗しました。
38H02	MQSeries アプリケーション・メッセージング・インターフェースがセッションを終了できませんでした。
38H03	MQSeries アプリケーション・メッセージング・インターフェースがメッセージを正常に処理できませんでした。
38H04	MQSeries アプリケーション・メッセージング・インターフェースがメッセージを送信できませんでした。
38H05	MQSeries アプリケーション・メッセージング・インターフェースがメッセージの読み取りまたは受信に失敗しました。
38H06	MQSeries アプリケーション・メッセージング・インターフェース・サブスクリプション (サブスクリプション解除) 要求が失敗しました。

クラス・コード 39 外部関数呼び出し例外

表 25. クラス・コード 39: 外部関数呼び出し例外

SQLSTATE 値	意味
39001	ユーザー定義関数が無効な SQLSTATE を返しました。
39004	IN または INOUT 引き数ではヌル値は許可されません。

表 25. クラス・コード 39: 外部関数呼び出し例外 (続き)

SQLSTATE	意味
39501	引き数に関連する目印が修正されました。

クラス・コード 3B SAVEPOINT が無効

表 26. クラス・コード 3B: SAVEPOINT が無効

SQLSTATE	意味
3B001	保管点が無効です。
3B002	保管点が最大数に達しました。
3B501	重複する保管点名が削除されました。
3B502	RELEASE または ROLLBACK TO SAVEPOINT が指定されましたが、保管点は存在しません。
3B503	SAVEPOINT、RELEASE SAVEPOINT、または ROLLBACK TO SAVEPOINT は、トリガーまたはグローバル・トランザクションでは許可されていません。

クラス・コード 40 トランザクション・ロールバック

表 27. クラス・コード 40: トランザクション・ロールバック

SQLSTATE	意味
40001	自動ロールバックでデッドロックまたはタイムアウトが起きました。
40003	ステートメント完了が不明です。
40504	システム・エラーのため、作業単位がロールバックされました。
40506	現在のトランザクションは、SQL エラーのためロールバックしました。

クラス・コード 42 構文エラーまたはアクセス規則違反

表 28. クラス・コード 42: 構文エラーまたはアクセス規則違反

SQLSTATE 値	意味
42501	許可 ID に、識別されたオブジェクトに対して指定された操作を実行する権限がありません。
42502	許可 ID に、指定された操作を実行する権限がありません。
42504	指定された許可名から、指定された権限を除去できません。
42506	所有者の許可が失敗しました。
42508	指定されたデータベース権限は PUBLIC にはできません。
42509	SQL ステートメントは STATICRULES オプションのため許可されません。
42601	文字、トークン、または文節が、無効もしくは欠けています。
42602	名前に無効な文字が見つかりました。
42603	未終了ストリング定数が見つかりました。
42604	無効な数値またはストリング定数が見つかりました。
42605	スカラー関数に指定された引き数の数が無効です。
42606	無効な 16 進定数が見つかりました。
42607	列関数のオペランドが無効です。
42608	VALUES での NULL または DEFAULT の使用は無効です。
42609	演算子または述部のオペランドが、すべてパラメーター・マーカです。
42610	パラメーター・マーカは許可されていません。
42611	列または引き数の定義が無効です。
42612	ステートメント・ストリングが、示されているコンテキストでは受け入れられない SQL ステートメントです。
42613	文節が相互に排他的です。
42614	重複キーワードは無効です。
42615	無効な代替が見つかりました。
42617	ステートメント・ストリングがブランクまたは空です。
42618	ホスト変数は許可されていません。
42620	読み取り専用 SCROLL が UPDATE 文節で指定されました。
42621	検査制約が無効です。
42622	名前またはラベルが長すぎます。
42623	DEFAULT 文節を指定できません。

表 28. クラス・コード 42: 構文エラーまたはアクセス規則違反 (続き)

SQLSTATE 値	意味
42625	CASE 式が無効です。
42627	RETURNS 文節は EXPRESSION AS 文節を使用して、述部を指定する前に指定する必要があります。
42628	複数の TO SQL または FROM SQL トランスフォーム関数が、トランスフォーム定義に定義されています。
42629	SQL ルーチンにパラメーター名を指定しなければなりません。
42630	ネストされた複合ステートメントに SQLSTATE または SQLCODE 変数宣言を指定することはできません。
42631	SQL 関数またはメソッド内の RETURN ステートメントには、戻り値が入っていないなければなりません。
42701	INSERT または UPDATE ステートメントで重複する列名が見つかりました。
42702	重複する名前があるため、列の参照が未確定です。
42703	未定義の列、属性、またはパラメーター名がありました。
42704	未定義のオブジェクトまたは制約名が見つかりました。
42705	未定義のサーバー名が見つかりました。
42707	ORDER BY の列名が、結果表の列を識別していません。
42709	PRIMARY、UNIQUE、または FOREIGN KEY 文節で重複する列名が見つかりました。
42710	重複するオブジェクトまたは制約名が見つかりました。
42711	オブジェクト定義または ALTER ステートメントの中で、列名または属性名が重複していました。
42712	重複する表指定が FROM 文節で見つかりました。
42713	オブジェクトのリストで、重複オブジェクトが検出されました。
42720	リモート・データベースのノード名が、ノードのディレクトリーに見つかりませんでした。
42723	同じシグニチャーを持つ関数が、すでにスキーマに存在します。
42724	ユーザー定義関数またはプロシージャに使用される外部プログラムにアクセスできません。
42725	関数が直接参照 (シグニチャーまたは特定のインスタンス名を使用しない) されましたが、その関数の特定インスタンスは複数存在します。
42726	名前派生表に重複する名前が見つかりました。
42727	新しい表に、デフォルト 1 次表スペースがありません。

表 28. クラス・コード 42: 構文エラーまたはアクセス規則違反 (続き)

SQLSTATE 値	意味
42728	重複するノードが、ノード・グループ定義に見つかりました。
42729	ノードが定義されていません。
42730	コンテナ名が、別の表スペースによってすでに使用されています。
42731	コンテナ名が、この表スペースによってすでに使用されています。
42732	SET CURRENT PATH ステートメントで、重複スキーマ名が見つかりました。
42734	重複するパラメーター名、SQL 変数名、カーソル名、条件名、またはラベルが見つかりました。
42735	表スペースのノード・グループがバッファー・プールに定義されていません。
42736	LEAVE ステートメントに指定されているラベルが見つからないか、または無効です。
42737	ハンドラーに指定されている条件が定義されていません。
42738	重複する列名または名前のない列が、FOR ステートメントの DECLARE CURSOR ステートメントに指定されました。
42739	重複するトランスフォームが見つかりました。
42740	指定されたタイプのトランスフォームが見つかりませんでした。ドロップされたトランスフォームはありません。
42741	トランスフォーム・グループがデータ・タイプに定義されていません。
42742	タイプ付き表またはタイプ付き視点階層の中に、同じタイプの副表または副視点がすでに存在しています。
42743	索引拡張子の中に検索メソッドが見つかりません。
42744	TO SQL または FROM SQL トランスフォーム関数が、トランスフォーム・グループに定義されていません。
42745	ルーチンが、既存のメソッドとの上書き関係を定義しています。
42746	同じタイプ階層で、メソッドと構造化タイプを同じ名前にはできません。
42802	挿入値または更新値の数が、列の数と同じではありません。
42803	列がグループ列ではないため SELECT または HAVING 文節での列の参照が無効であるか、または GROUP BY 文節での列の参照が無効です。
42804	CASE 式の結果式に互換性がありません。
42805	ORDER BY 文節の整数が、結果表の列を識別していません。

表 28. クラス・コード 42: 構文エラーまたはアクセス規則違反 (続き)

SQLSTATE 値	意味
42806	データ・タイプに互換性がないため、ホスト変数に値を割り当てられません。
42807	INSERT、UPDATE、または DELETE は、このオブジェクトでは許可されません。
42808	INSERT または UPDATE ステートメントで識別された列が更新できません。
42809	識別されたオブジェクトは、ステートメントが適用するタイプのオブジェクトではありません。
42810	視点が FOREIGN KEY 文節で識別されました。
42811	指定された列数が、SELECT 文節の列数と同じではありません。
42813	指定された視点には、WITH CHECK OPTION を使用できません。
42815	データ・タイプ、長さ、位取り、値、または CCSID が無効です。
42816	式の日時の値または期間が無効です。
42818	演算子または関数のオペランドに互換性がありません。
42819	算術演算のオペランド、または数値を必要とする関数のオペランドが数値ではありません。
42820	数値制約が長すぎるか、またはそのデータ・タイプの範囲内にない値を持っています。
42821	更新または挿入の値に、列との互換性がありません。
42823	1 つの列しか許可されていない副照会から複数の列が返されました。
42824	LIKE のオペランドがストリングではないか、または最初のオペランドが列ではありません。
42825	UNION、INTERSECT、EXCEPT、または VALUES の行に、互換性のある列がありません。
42826	UNION、INTERSECT、EXCEPT、または VALUES の行が、同じ数の列を持っていません。
42827	UPDATE または DELETE で識別された表が、カーソルによって指定された表と同じではありません。
42828	UPDATE または DELETE ステートメントのカーソルによって指定された表を修正できないか、またはカーソルが読み取り専用です。
42829	カーソルによって指定された結果表を修正できないため、FOR UPDATE OF が無効です。
42830	外部キーが親キーの記述に適合しません。
42831	1 次キーまたは固有キーの列では、NULL 値は許可されていません。

表 28. クラス・コード 42: 構文エラーまたはアクセス規則違反 (続き)

SQLSTATE 値	意味
42832	操作がシステム・オブジェクトでは許可されていません。
42834	外部キーでは NULL 値が許可されていないため、SET NULL は指定できません。
42835	名前派生表の間では、循環参照は指定できません。
42836	再帰的な名前派生表の指定は無効です。
42837	列の属性が現在の列属性と非互換であるため、列を変更できません。
42838	無効な表スペースの使用が見つかりました。
42839	索引と長い列は、表から独立した表スペースには入れられません。
42840	無効な AS CAST オプションの使用が見つかりました。
42841	パラメーター・マーカは、ユーザー定義タイプまたは参照タイプにはできません。
42842	指定されたオプションが、列の記述と矛盾するため、列の定義が無効です。
42845	無効な VARIANT または EXTERNAL ACTION 関数の使用が見つかりました。
42846	ソース・タイプからターゲット・タイプへのキャストはサポートされません。
42852	GRANT または REVOKE で指定された権限が無効であるか、または矛盾しています。(たとえば、視点での GRANT ALTER など)
42853	オプションの代替が両方とも指定されていたか、または同じオプションが複数回指定されています。
42854	選択リスト内の結果列データ・タイプは、タイプ付き視点または要約表定義の中で定義されているタイプと互換性がありません。
42855	このホスト変数に対する LOB の割り当ては許可されません。このカーソルでの、この LOB のすべてのフェッチに対するターゲット・ホスト変数は、ロケータあるいは LOB 変数である必要があります。
42858	操作を指定オブジェクトに適用させることができません。
42863	REXX で未定義のホスト変数が見つかりました。
42866	CREATE FUNCTION ステートメントの中の CAST FROM 文節または RETURNS 文節に入っているデータ・タイプが、ソース関数から戻されたデータ・タイプまたは関数内の RETURN ステートメントに適合しません。
42872	FETCH ステートメント文節がカーソル定義と非互換です。

表 28. クラス・コード 42: 構文エラーまたはアクセス規則違反 (続き)

SQLSTATE 値	意味
42875	CREATE SCHEMA で作成するオブジェクトには、スキーマ名と同じ修飾子を付ける必要があります。
42877	列名は修飾できません。
42878	無効な関数またはプロシージャ名が EXTERNAL キーワードで使用されました。
42879	CREATE FUNCTION ステートメントの 1 つ以上の入力パラメーターのデータ・タイプが、ソース関数の対応するデータ・タイプに適合しません。
42880	CAST TO と CAST FROM のデータ・タイプが一致しないか、または固定ストリングが必ず切り捨てられる可能性があります。
42881	行ベース関数の使用が無効です。
42882	特定のインスタンス名の修飾子が、関数名の修飾子と等しくありません。
42883	一致するシグニチャーを持つ関数が見つかりませんでした。
42884	指定された名前と互換性のある引き数を持つ関数またはプロシージャが見つかりませんでした。
42885	CREATE FUNCTION ステートメントで指定した入力パラメーターの数が、SOURCE 文節で指定した関数によって与えられた数と一致しません。
42886	IN、OUT、または INOUT パラメーター属性が一致しません。
42887	コンテキストとの関係で関数が無効です。
42888	表に 1 次キーがありません。
42889	表にはすでに 1 次キーがあります。
42890	列リストが参照文節で指定されていますが、識別された親表が、指定された列名による固有制約を持っていません。
42891	重複する UNIQUE 制約がすでに存在します。
42893	別のオブジェクトが従属しているため、オブジェクトまたは制約をドロップできません。
42894	DEFAULT 値が無効です。
42895	静的 SQL で、入力ホスト変数のデータ・タイプにプロシージャまたはユーザー定義関数のパラメーターとの互換性がないため、その入力ホスト変数は使用できません。
428A0	ユーザー定義関数が基づいている関数でエラーが起きました。
428A1	ホスト・ファイル変数によって参照されたファイルにアクセスできません。

表 28. クラス・コード 42: 構文エラーまたはアクセス規則違反 (続き)

SQLSTATE 値	意味
428A2	表がパーティション・キーを持っていないため、複数ノード・ノード・グループに表を割り当てられません。
428A3	無効なパスがイベント・モニターに指定されています。
428A4	無効な値がイベント・モニターのオプションに指定されています。
428A5	SET INTEGRITY ステートメントに指定されている例外表が、正しい構造ではないか、あるいは生成された列、制約、またはトリガーによって定義されています。
428A6	SET INTEGRITY ステートメントに指定されている例外表は、検査中の表の 1 つと同じにはできません。
428A7	検査中の表の数が、SET INTEGRITY ステートメントに指定されている例外表の数に一致しません。
428A8	親表が検査保留状態であるときに、下位表で SET INTEGRITY ステートメントを使用して検査保留状態をリセットすることはできません。
428A9	ノード範囲が無効です。
428B0	ROLLUP、CUBE、または GROUPING SETS に違法なネストがありません。
428B1	特定のノードについて指定していない表スペースのコンテナ指定の数が誤りです。
428B2	コンテナのパス名が無効です。
428B3	無効な SQLSTATE が RAISE_ERROR で指定されました。
428C0	ノード・グループで唯一のノードであるため、そのノードをドロップすることはできません。
428C1	1 つの ROWID 列のみ表に指定できます。
428C2	関数本体を調べた結果、指定された文節は CREATE FUNCTION ステートメントで指定されていなければならないことがわかりました。
428C4	述部オペレーターの各サイドにあるエレメントの数が同じではありません。
428C5	データ・ソースからのデータ・タイプについて、データ・タイプのマッピングが見つかりません。
428C9	INSERT または UPDATE のターゲット列として ROWID 列を指定することはできません。
428CA	追加モードの表にはクラスター索引を作成できません。
428CB	表スペースのページ・サイズは、それに関連するバッファەر・プールのページ・サイズと一致していなければなりません。

表 28. クラス・コード 42: 構文エラーまたはアクセス規則違反 (続き)

SQLSTATE 値	意味
428D1	DATALINK の値によって参照されたファイルにアクセスできません。
428D4	FOR に指定されているカーソルを OPEN、CLOSE、または FETCH ステートメントで参照することはできません。
428D5	終了ラベルが開始ラベルに一致しません。
428D6	UNDO は NOT ATOMIC ステートメントでは許可されていません。
428D7	条件値は許可されていません。
428D8	SQLSTATE または SQLCODE 変数の宣言あるいは使用は許可されていません。
428DB	スーパータイプ、スーパー表、またはスーパー視点としてのオブジェクトは無効です。
428DC	このタイプのトランスフォームとして関数は無効です。
428DD	必要なトランスフォームが定義されていません。
428DE	PAGESIZE 値はサポートされていません。
428DF	CREATE CAST に指定されているデータ・タイプが無効です。
428DG	CREATE CAST に指定されている関数が無効です。
428DH	操作はタイプ付き表で無効です。
428DJ	継承された列あるいは属性の変更あるいはドロップができません。
428DK	参照列の効力範囲はすでに定義されています。
428DL	外部あるいはソース関数のパラメーターに、定義済みの効力範囲があります。
428DM	参照タイプの有効範囲表または視点が無効です。
428DN	SCOPE が外部関数の RETURNS 文節で指定されていないか、ソース関数の RETURNS 文節で定義されているかのいずれかです。
428DP	タイプは構造化タイプではありません。
428DQ	副表または副視点に、スーパー表またはスーパー視点でない別のスキーマ名を指定することはできません。
428DR	操作を副表に適用させることができません。
428DS	指定された列の索引は、副表には定義できません。
428DT	式のオペランドの有効な有効範囲参照タイプは無効です。
428DU	タイプが必須タイプ階層の中に入っていません。
428DV	参照解除演算子の左側オペランドが無効です。
428DW	オブジェクト ID 列は参照解除演算子を使用して参照できません。

表 28. クラス・コード 42: 構文エラーまたはアクセス規則違反 (続き)

SQLSTATE 値	意味
428DX	タイプ付き表またはタイプ付き視点階層のルート表またはルート視点を定義するために、オブジェクト ID の列が必要です。
428DY	副表の表統計データを更新できません。
428DZ	オブジェクト ID 列を更新できません。
428E0	索引の定義が索引拡張子の定義と一致しません。
428E1	範囲作成関数の結果が、索引拡張子のキー・トランスフォーム関数の結果と矛盾しています。
428E2	キー・ターゲット・パラメーターの数あるいはタイプが索引拡張子のキー・トランスフォーム関数の数あるいはタイプと一致しません。
428E3	索引拡張子内の関数の引き数が無効です。
428E4	関数は、CREATE INDEX EXTENSION ステートメントでサポートされていません。
428E5	ユーザー定義述部で指定できるのは SELECTIVITY 文節だけです。
428E6	ユーザー定義述部にあるメソッドの検索引き数が、対応する索引拡張子の検索メソッド内の検索引き数と一致しません。
428E7	ユーザー定義の述部中の比較演算子の後に続くオペランドのタイプが RETURNS データ・タイプと一致しません。
428E8	検索ターゲットまたは検索引き数パラメーターが、作成された関数のパラメーター名に一致しません。
428E9	引き数パラメーター名は同一の指数規則中で検索ターゲットおよび検索引き数の両方として出現しません。
428EA	タイプ付き視点の全選択は無効です。
428EB	スーパー視点内の列が更新可能であるなら、その副視点内のそれに対応する列を読み取り専用にすることはできません。
428EC	要約表で指定された全選択が無効です。
428ED	データ・リンクまたは参照タイプ属性を指定した構造化タイプは構成されません。
428EE	オプションがこのデータ・ソースでは無効です。
428EF	オプションの値はこのデータ・ソースで無効です。
428EG	このデータ・ソースに必要なオプションが欠落しています。
428EH	すでに定義済みのオプションを追加できません。
428EJ	追加されていないオプションを設定またはドロップできません。

表 28. クラス・コード 42: 構文エラーまたはアクセス規則違反 (続き)

SQLSTATE	意味
428EK	宣言されたグローバル一時表の修飾子は <code>SESSION</code> でなければなりません。
428EL	トランスフォーム関数は、関数またはメソッドでの使用では無効です。
428EM	<code>TRANSFORM GROUP</code> 文節が必要です。
428EN	使用されていないトランスフォーム・グループが指定されています。
428EP	直接的に、または間接的に構造化タイプをそれ自身に依存させることはできません。
428EQ	ルーチンの戻りタイプをサブジェクト・タイプと同じにすることはできません。
428ER	メソッド本文がドロップする前に、メソッド指定をドロップさせることはできません。
428ES	メソッド本文が、メソッド指定の言語タイプに対応していません。
428EU	<code>TYPE</code> または <code>VERSION</code> がサーバー定義に指定されていません。
428EV	パススルー機能は、データ・ソースのタイプのためにサポートされていません。
428EW	表を要約表に、または要約表から変換することができません。
428EX	組み込み関数またはメソッドであるため、ルーチンをトランスフォーム関数として使用できません。
428EY	ユーザー定義述部にある検索ターゲットのデータ・タイプが、指定された索引拡張子のソース・キーのデータ・タイプに一致していません。
428EZ	<code>OLAP</code> 関数のウィンドウ指定は無効です。
428F0	<code>ROW</code> 関数は少なくとも 2 つの列に組み込まなければなりません。
428F1	<code>SQL TABLE</code> 関数は表結果を返さなければなりません。
428F2	<code>SQL</code> プロシージャ内の <code>RETURN</code> ステートメント値のデータ・タイプは <code>INTEGER</code> でなければなりません。
428F3	<code>SCROLL</code> および <code>WITH RETURN</code> は同時に指定できません。
428F4	<code>FETCH</code> で指定された <code>SENSITIVITY</code> はカーソルには許可されていません。
428F7	<code>SQL</code> ルーチンにのみ適用する操作が、外部ルーチンで行われました。
428F9	シーケンス式はこのコンテキストでは指定できません。
428FA	10 進数の位取りをゼロにする必要があります。
428FB	シーケンス名は、識別列用のシステムで生成されたシーケンスではいけません。

表 28. クラス・コード 42: 構文エラーまたはアクセス規則違反 (続き)

SQLSTATE	意味
428FC	暗号化パスワードの長さが無効です。
428FD	暗号化解除キーが無効です。
428FE	データが ENCRYPT 関数の結果ではありません。
42901	列関数に列名がありません。
42903	WHERE 文節または SET 文節に、列関数などの無効な参照があります。
42904	コンパイル・エラーのため、SQL プロシージャは作成されませんでした。
42907	ストリングが長すぎます。
42908	必要な列リストがステートメントにありません。
42911	10 進数の除算で、結果の位取りが負の値になるものは無効です。
42912	列がカーソルの選択ステートメントの UPDATE 文節で識別されていないため、この列を更新できません。
42914	副照会で参照された表が影響を受けるため、DELETE は無効です。
42915	無効な参照制約が見つかりました。
42916	別名が反復チェーンになるため、別名を作成できません。
42917	オブジェクトを明示的にドロップできません。
42918	システム定義のデータ・タイプ名 (たとえば INTEGER) で、ユーザー定義のデータ・タイプを作成することはできません。
42919	ネストされた複合ステートメントは許可されていません。
42921	コンテナを表スペースに追加できません。
42925	再帰的名前派生表は SELECT DISTINCT を指定できません。 UNION ALL の指定が必要です。
42928	従属 REFRESH IMMEDIATE 要約表を持つ表に WITH EMPTY TABLE を指定することはできません。
42932	プログラム準備の前提事項に誤りがあります。
42939	指定された ID は、システムが使用するために予約されているため、オブジェクトを作成できません。
42962	長い列、LOB 列、または構造化タイプ列は、索引、キー、または制約では使用することができません。
42968	現行ソフトウェア・ライセンスがないため、接続が失敗しました。
42969	内部の制約あるいは無効なセクション番号のため、パッケージが作成されず、現行の作業単位がロールバックされました。
42972	複数のオペランド列にある、結合条件参照列にある式。

表 28. クラス・コード 42: 構文エラーまたはアクセス規則違反 (続き)

SQLSTATE 値	意味
42985	ステートメントはルーチンでは許可されていません。
42987	ステートメントが、プロシージャラーまたはトリガーで許可されていません。
42989	式に基づいている GENERATED 列を BEFORE トリガーで使用することはできません。
42991	BOOLEAN データ・タイプは、現在内部的にのみサポートされています。
42993	定義された列が、ログに記録するには大きすぎます。
42994	ロー・デバイス・コンテナは、現在このシステムではサポートされていません。
42995	要求された関数は、グローバル一時表に適用されません。
42997	キー列が区分化キー列のスーパーセットでないため、固有索引または固有制約が許可されません。
429A0	最初にログを取得しないように定義されている親表を、外部キーで参照することはできません。
429A1	ノード・グループが表スペースについて有効ではありません。
429A9	DataJoiner が SQL ステートメントを処理することはできません。
429B2	構造化タイプに指定されているインライン長さの値が小さすぎます。
429B3	オブジェクトが副表に定義されている可能性があります。
429B4	データ・フィルター関数は LANGUAGE SQL 関数にはなれません。
429B5	索引拡張子内のインスタンス・パラメーターのデータ・タイプが無効です。
429B8	PARAMETER STYLE JAVA で定義されたルーチンは、パラメーターまたは戻りタイプとして構造化タイプを持つことができません。
429B9	DEFAULT または NULL を属性割り当てに使用することはできません。
429BA	FEDERATED キーワードはニックネームまたは OLE DB 表関数に対する参照とともに指定しなければなりません。
429BB	パラメーターまたは属性に指定されているデータ・タイプは、SQL ルーチンではサポートされていません。
429BC	ALTER TABLESPACE ステートメントに、複数のコンテナ配置があります。

クラス・コード 44 WITH CHECK OPTION 違反

表 29. クラス・コード 44: WITH CHECK OPTION 違反

SQLSTATE 値	意味
44000	結果の行が視点定義を満たしていないため、INSERT または UPDATE は許可されません。

クラス・コード 46 Java DDL

表 30. クラス・コード 46: Java DDL

SQLSTATE 値	意味
46001	Java DDL - 無効な URL。
46002	Java DDL - 無効な jar 名。
46003	Java DDL - 無効なクラスの削除。
46007	Java DDL - 無効なシグニチャー。
46008	Java DDL - 無効なメソッド指定。
46501	Java DDL - オプションのコンポーネントが設定されていません。

クラス・コード 51 無効なアプリケーション状態

表 31. クラス・コード 51: 無効なアプリケーション状態

SQLSTATE 値	意味
51002	SQL ステートメントの実行要求に対応するパッケージが見つかりませんでした。
51003	整合性トークンが一致しません。
51004	SQLDA のアドレスが無効です。
51005	以前のシステム・エラーによって、このエラーを使用できません。
51008	プリコンパイルされたプログラムのリリース番号が無効です。
51015	バインド時にエラーが検出されたセクションを実行しようとしてしました。
51017	ユーザーはログオンしていません。
51021	アプリケーション・プロセスがロールバック操作を実行するまで、SQL ステートメントを実行できません。

表 31. クラス・コード 51: 無効なアプリケーション状態 (続き)

SQLSTATE 値	意味
51022	接続 (現行または休止のどちらか) が CONNECT ステートメントで指定されたサーバーにすでに存在するときは、許可名を指定した CONNECT は無効です。
51023	データベースは、データベース・マネージャーの他のインスタンスがすでに使用中です。
51024	視点の操作不能のマークが付いているため、視点は使用できません。
51025	XA トランザクション処理環境のアプリケーションが、SYNCPOINT TWOPHASE でバインドされていません。
51026	イベント・モニターのターゲット・パスが、すでに他のイベント・モニターによって使用されているため、イベント・モニターをオンにできません。
51027	表が検査保留状態にないため、SET INTEGRITY ステートメントの IMMEDIATE CHECKED オプションは無効です。
51028	パッケージが操作不能とマークされているので、使用できません。
51030	ALLOCATE CURSOR または ASSOCIATE LOCATORS ステートメントで参照されているプロシーチャーは、アプリケーション・プロセス内で呼び出されていません。
51035	値がこのセッションでまだシーケンスについて生成されていないため、PREVVVAL 式は使用できません。
51039	ENCRYPTION PASSWORD 特殊レジスターが設定されていません。

クラス・コード 54 SQL または製品の限界の超過

表 32. クラス・コード 54: SQL または製品の限界の超過

SQLSTATE 値	意味
54001	ステートメントが長すぎるか、または複雑すぎます。
54002	ストリング定数が長すぎます。
54004	ステートメントの SELECT または INSERT リストにある表名または項目が多すぎます。
54006	連結の結果が長すぎます。
54008	キーが長すぎるか、キーの持っている列が多すぎるか、またはキー列が長すぎます。
54010	表のレコード長が長すぎます。

表 32. クラス・コード 54: SQL または製品の限界の超過 (続き)

SQLSTATE 値	意味
54011	表または視点に指定されている列の数が多すぎます。
54023	関数またはプロシージャのパラメーターまたは引き数の数が、限界を超えています。
54028	並行 LOB ハンドルが最大数に達しました。
54029	オープン・ディレクトリー走査の最大数に達しました。
54030	イベント・モニターの最大数がすでに活動状態です。
54031	最大数のファイルが、すでにイベント・モニターに割り当てられています。
54032	表が最大サイズに達しました。
54033	パーティション・マップの最大数に達しました。
54034	表スペースのすべてのコンテナ名を結合した長さが長すぎます。
54035	内部オブジェクトの制限を超えました。
54036	コンテナのパス名が長すぎます。
54037	表スペースのコンテナ・マップが複雑すぎます。
54038	カスケード・トリガーの最大の深さを超えました。
54045	タイプ階層の最大レベルを超えています。
54046	索引拡張子内の最大許容可能パラメーター数を超えています。
54047	表が最大サイズを超えました。
54048	十分なページ・サイズの一部表スペースが存在しません。
54049	構造化タイプのインスタンスの長さがシステム制限を超えています。
54050	許可されている最大属性が構造化タイプで超過しています。

クラス・コード 55 前提条件の状態にないオブジェクト

表 33. クラス・コード 55: 前提条件の状態にないオブジェクト

SQLSTATE 値	意味
55001	データベースをマイグレーションする必要があります。
55002	説明表が正しく定義されていません。
55006	オブジェクトが現在同じアプリケーション・プロセスによって使用されているため、オブジェクトをドロップできません。

表 33. クラス・コード 55: 前提条件の状態にないオブジェクト (続き)

SQLSTATE 値	意味
55007	オブジェクトが現在同じアプリケーション・プロセスによって使用されているため、オブジェクトを更新できません。
55009	システムが、読み取り専用ファイルまたは書き込み保護ディスクに対して書き込みを試みました。
55012	クラスター化索引はすでに表に存在しています。
55019	表が無効な状態にあるため、操作できません。
55022	ファイル・サーバーは、このデータベースに登録されていません。
55023	ルーチン呼び出しエラーが起きました。
55024	表に関連するデータも他の表スペースにあるため、表スペースをドロップできません。
55025	データベースを再始動する必要があります。
55026	一時表スペースをドロップできません。
55031	エラー・マッピング・ファイルの形式に誤りがあります。
55032	このアプリケーションが始動された後に、データベース・マネージャーが停止されたため、CONNECT ステートメントは無効です。
55033	イベント・モニターが作成または修正された同じ作業単位で、イベント・モニターを活動化できません。
55034	イベント・モニターが操作に対して無効な状態にあります。
55035	表は保護されているため、ドロップできません。
55036	ノードがパーティション・マップから除去されていないため、ノードをドロップできません。
55037	表が複数ノード・ノード・グループにないため、パーティション・キーをドロップできません。
55038	ノード・グループが再平衡されているため、ノード・グループを使用できません。
55039	表スペースが適切な状態にないため、アクセスまたは状態の変換は許可されません。
55041	再平衡の進行中は、コンテナを表スペースに追加できません。
55043	タイプに基づくタイプ付き表またはタイプ付き視点が存在している場合、構造化タイプの属性は更新できません。
55045	必要なコンポーネントがサーバーで使用可能になっていないため、ルーチンの SQL アーカイブ (SAR) を作成できません。
55046	指定された SQL アーカイブがターゲット環境に適合しません。

表 33. クラス・コード 55: 前提条件の状態にないオブジェクト (続き)

SQLSTATE 値	意味
55048	暗号化されたデータは暗号化できません。

クラス・コード 56 その他の SQL または製品エラー

表 34. クラス・コード 56: その他の SQL または製品エラー

SQLSTATE 値	意味
56031	混合データと DBCS データが、このシステムではサポートされていないため、文節またはスカラー関数が無効です。
56033	長ストリング列の挿入または更新値は、ホスト変数または NULL である必要があります。
56084	DRDA では、LOB データはサポートされていません。
56091	複合 SQL ステートメントを実行した結果、複数のエラーが起きました。
56092	許可名が、ユーザー ID とグループ ID の両方であるため、許可のタイプを判別できません。
56097	LONG VARCHAR および LONG VARGRAPHIC フィールドは、DEVICE 上にビルドされる TABLESPACE では許可されません。
56098	暗黙の再バインドまたは作成中に、エラーが発生しました。
56099	REAL データ・タイプがターゲット・データベースによってサポートされていません。
560A0	LOB 値におけるアクションが失敗しました。
560AA	このシステムで UCS-2 がサポートされていないため、文節またはスカラー関数が無効です。
560AC	ラッパー定義は、データ・ソースの指定されたタイプまたはバージョンに使用できません。
560AF	ゲートウェイ集線装置を使用している場合、PREPARE ステートメントはサポートされていません。
560B0	新しいサイズ値は、表スペース・コンテナのサイズ変更には無効です。
560B1	ストアード・プロシージャのカーソル指定が無効です。
560B7	複数行 INSERT の場合、シーケンス式の使用は各行について同じでなければなりません。

クラス・コード 57 リソースが使用不能、またはオペレーターの介入

表 35. クラス・コード 57: リソースが使用不能、またはオペレーターの介入

SQLSTATE 値	意味
57001	1 次索引がないため、その表は使用できません。
57003	指定されたバッファ・プールは活動状態ではありません。
57007	DROP または ALTER が保留中のため、オブジェクトを使用できません。
57009	仮想記憶またはデータベース・リソースが一時的に使用不能になっています。
57011	仮想記憶またはデータベース・リソースを使用できません。
57012	非データベース・リソースを使用できません。これは、以降のステートメントの正常な実行には影響しません。
57013	非データベース・リソースを使用できません。これは、以降のステートメントの正常な実行に影響する可能性があります。
57014	要求にしたがって処理が取り消されました。
57016	表スペースが活動状態ではないので、アクセスできません。
57017	文字変換が定義されていません。
57019	リソースに問題があるため、ステートメントが失敗しました。
57020	データベースのあるドライブがロックされています。
57021	ディスク・ドライブのドアが開いています。
57022	ステートメントの許可 ID が適切なデータ空間を所有していないため、表が作成されませんでした。
57030	アプリケーション・サーバーへの接続が、導入先定義の限界を超えている可能性があります。
57032	並列処理できる最大数のデータベースが、すでに始動しています。
57033	自動ロールバックなしで、デッドロックまたはタイムアウトが起きました。
57036	このトランザクション・ログは、現在のデータベースにはありません。
57046	データベースまたはインスタンスが静止しているため、新しいトランザクションを開始できません。
57047	ディレクトリーがアクセス不能のため、内部データベース・ファイルを作成できません。
57048	表スペースのコンテナにアクセス中に、エラーが起きました。
57049	オペレーティング・システム・プロセス限界に達しました。
57050	ファイル・サーバーは現在使用できません。

表 35. クラス・コード 57: リソースが使用不能、またはオペレーターの介入 (続き)

SQLSTATE 値	意味
57051	見積もり CPU コストがリソースの限度を超過しています。
57052	そのノードは、すべての一時表スペースについてコンテナがないため使用できません。
57055	使用できる一時表スペースのページ・サイズが不足しています。
57056	データベースが NO PACKAGE LOCK モードであるため、パッケージは使用できません。
57057	SQL ステートメントの一連の DRDA での前の条件のため、SQL ステートメントは実行されません。

クラス・コード 58 システム・エラー

表 36. クラス・コード 58: システム・エラー

SQLSTATE 値	意味
58004	システム・エラー (必ずしも後続の SQL ステートメントの正常な実行を妨げるものではありません) が起きました。
58005	システム・エラー (後続の SQL ステートメントの正常な実行を妨げます) が起きました。
58008	分散プロトコル・エラーのため、実行が失敗しました。このエラーは、後続の DDM コマンドまたは SQL ステートメントの正常な実行には影響しません。
58009	会話の割り振り解除の原因となる分散プロトコル・エラーのため、実行が失敗しました。
58010	分散プロトコル・エラーのため、実行が失敗しました。このエラーは、後続の DDM コマンドまたは SQL ステートメントの正常な実行に影響を与えません。
58011	バインド・プロセスの進行中は、DDM コマンドは無効です。
58012	指定したパッケージ名と整合性トークンを持つバインド・プロセスが活動状態ではありません。
58014	DDM コマンドはサポートされていません。
58015	DDM オブジェクトはサポートされていません。
58016	DDM パラメーターはサポートされていません。
58017	DDM パラメーターの値がサポートされていません。
58018	DDM 応答メッセージがサポートされていません。

表 36. クラス・コード 58: システム・エラー (続き)

SQLSTATE	意味
58023	システム・エラーのため、現行プログラムが取り消されました。
58030	入出力エラーが起きました。
58031	システム・エラーのため、接続が失敗しました。
58032	分離モードのユーザー定義関数にプロセスを使用できません。
58034	DMS 表スペース内のオブジェクトについてページを検索しているときに、エラーが見つかりました。
58035	DMS 表スペース内のオブジェクトのためにページを解放している間に、エラーが見つかりました。
58036	指定された内部表スペース ID が存在しません。

付録A. 通信エラー

アプリケーションで -30081 の `sqlcode` が戻される場合、通信エラーが検出されたことを意味します。通信サブシステムによって検出された実際のエラーは、30081 エラー・メッセージのエラー・トークン・リストで戻されます。以下に、戻される可能性がある通信エラーがリストされています。

エラー・コードはプロトコルによって次のようにグループ化されています。

- 『TCP/IP』
- 623ページの『APPC』
- 626ページの『NETBIOS』
- 628ページの『IPX/SPX』

TCP/IP

UNIX 環境で TCP/IP を使用する際に、ユーザーが最も頻繁に検出する可能性がある *errno* が以下の表にリストされています。これは、エラーをすべて示したリストではありません。 *Errnos* は、`/usr/include/sys/errno.h` ファイルで検出できます。オペレーティング・システムごとの *errno* 番号が記載されています。

表 37. UNIX の TCP/IP *errno*

Errno	Errno 番号					記述
	AIX	HP-UX	Solaris	UnixWare	Linux	
EINTR	4	4	4	4	4	割り込まれたシステム呼び出し。
EAGAIN	11	11	11	11	11	一時的にリソースは利用不能です。
EBUSY	16	16	16	16	16	リソースは使用中です。
EMFILE	24	24	24	24	24	プロセスごとのファイル記述表はいっぱいです。
EPIPE	32	32	32	32	32	パイプ接続が切れています。
EADDRINUSE	67	226	125	125	98	指定されたアドレスは既に使用中です。

表 37. UNIX の TCP/IP errno (続き)

Errno	Errno 番号					記述
	AIX	HP-UX	Solaris	UnixWare	Linux	
ENETDOWN	69	228	127	127	100	ネットワークはダウンしています。
ENETUNREACH	70	229	128	128	101	ネットワークへの経路が利用不能です。
ENETRESET	71	230	129	129	102	ネットワークによってリセット時に接続が除去されました。
ECONNRESET	73	232	131	131	104	パートナーによって接続がリセットされました。
ENOBUFS	74	233	132	132	105	システムで呼び出しを完了するには不十分なバッファ・スペース・リソースしか利用できません。
ENOTCONN	76	235	134	134	107	ソケットが接続されていません。
ETIMEDOUT	78	238	145	145	110	接続はタイムアウトになりました。

表 37. UNIX の TCP/IP *errno* (続き)

Errno	Errno 番号					記述
	AIX	HP-UX	Solaris	UnixWare	Linux	
ECONNREFUSED	79	239	146	146	111	接続は拒否されました。データベースへの接続を試みている場合には、サーバーのデータベース・マネージャーおよび TCP/IP プロトコル・サポートが正常に開始されたことを確認してください。 SOCKS プロトコル・サポートを使用している場合には、SOCKS サーバーの TCP/IP プロトコル・サポートも正常に開始されるようにしてください。
EHOSTDOWN	80	241	147	147	112	ホストがダウンしています。
EHOSTUNREACH	81	242	148	148	113	ホストへの経路は存在しません。

UNIX の TCP/IP 通信エラーについて詳細は、適切なオペレーティング・システムのテクニカル解説書を参照してください。以下のコマンドを実行することもできます。

`man function-name`

function-name は、エラーを戻した関数の名前を表します。特定の関数によって戻されるエラーに関する追加情報は、マニュアル・ページに記載されています。

OS/2 TCP/IP を使用する際に、ユーザーが最も頻繁に検出する可能性がある *errno*s が以下の表にリストされています。これは、エラーをすべて示したリストではありません。*Errnos* は、**nerreno.h** ファイルで検出できます。このファイルは TCP/IP 製品組み込みファイルの一部です。インストールされていない場合には、システムに存在していないかもしれません。*errno*s 番号自体は括弧で囲まれています。

- SOCEINTR (10003): 割り込まれたシステム呼び出し。
- SOCEMFILE (10024): オープンされているファイルが多すぎます。

- SOCEPIPE (10032): パイプ接続が切れています。
- EADDRINUSE (10048): 指定されたアドレスは既に使用されています。
- ENETDOWN (10050): ネットワークはダウンしています。
- ENETUNREACH (10051): ネットワークへの経路が存在しません。
- ENETRESET (10052): ネットワークによってリセット時に接続が除去されました。
- SOCECONNABORTED (10053): ソフトウェアによって接続が異常終了されました。
- ECONNRESET (10054): パートナーによって接続がリセットされました。
- ENOBUFS (10055): バッファ・スペースは使用可能ではありません。
- ENOTCONN (10057): ソケットが接続されていません。
- ETIMEDOUT (10060): 接続が行われる前に接続の確立はタイムアウトになりました。
- ECONNREFUSED (10061): 接続は拒否されました。データベースへの接続を試みている場合には、サーバーのデータベース・マネージャーおよび TCP/IP プロトコル・サポートが正常に開始されたことを確認してください。
SOCKS プロトコル・サポートを使用している場合には、SOCKS サーバーの TCP/IP プロトコル・サポートも正常に開始されるようにしてください。
- EHOSTDOWN (10064): ホストはダウンしています。
- EHOSTUNREACH (10065): ホストへの経路が存在しません。
- SOCEOS2ERR (10100): OS/2 エラー。

OS/2 TCP/IP 通信エラーの詳細については、OS/2 TCP/IP 文書を参照してください。

Windows 32 ビット オペレーティング・システム上で TCP/IP または IPX/SPX を使用する際に、ユーザーが最も頻繁に検出する可能性があるエラー・コードを以下のリストに示します。これは、エラーをすべて示したリストではありません。

WSAGetLastError() によって戻されたエラーは、**wsock.h** ファイルで検出できます。開発環境をインストールしていないと、このファイルをインストールできません。特定の関数によって戻されるエラーに関する詳細情報は、Windows Sockets 2 Application Programming Interface に記述されています。この仕様のコピーは、以下の Web サイトから入手できます。 http://www.stardust.com/wsock/ws_specs.htm

- WSAEINVAL (10022): WSASTARTUP 関数でこのエラーが受け取られると、アプリケーションによってサポートされる Windows ソケット・バージョンはこの DLL ではサポートされていません。
- WSAEMFILE (10024): 使用可能なファイル記述子がありません。
- WSAEWOULDBLOCK (10035): ソケットは非ブロック化であるとしてマークされており、操作はブロック化されます。
- WSAEINPROGRESS (10036): ブロック化 Windows ソケット操作が進行中です。
- WSAENOPROTOPT (10042): オプションは不明あるいはサポートされていません。
- WSAEADDRINUSE (10048): 指定されたアドレスは既に使用されています。

- WSAENETDOWN (10050): ネットワーク・サブシステムで障害が起こりました。
- WSAENETUNREACH (10051): 現時点でネットワークにホストから接続することはできません。
- WSAENETRESET (10052): リモート・ホスト・リセットのため、接続は切られました。
- WSAECONNABORTED (10053): タイムアウトまたは他の障害のため、バーチャル・サーキットは異常終了されました。ネットワークによってリセット時に接続が除去されました。
- WSAECONNRESET (10054): パートナーによって接続がリセットされました。
- WSAENOBUFS (10055): 接続が多すぎて、バッファ・スペースは使用可能ではありません。
- WSAENOTCONN (10057): ソケットは接続されていません。
- WSAETIMEDOUT (10060): 接続が行われる前に接続の確立はタイムアウトになります。
- WSAECONNREFUSED (10061): 接続は拒否されました。データベースへの接続を試みている場合には、サーバーのデータベース・マネージャーおよび TCP/IP プロトコル・サポートが正常に開始されたことを確認してください。
- WSAEHOSTUNREACH (10065): 現時点でネットワークにホストから接続することはできません。
- WSASYSNOTREADY (10091): 基礎ネットワーク・サブシステムは、ネットワーク通信をする用意ができていません。
- WSAVERNOTSUPPORTED (10092): 要求されている Windows ソケット API サポートは、この Windows ソケットの実装では提供されていません。
- WSAHOST_NOT_FOUND (11001): ホストは見つかりません。
- WSATRY_AGAIN (11002): ホストは見つかりません。ネーム・サーバーからホスト名の IP アドレスを検索する要求は失敗しました。
- WSANO_DATA (11004): 有効な名前で、要求されたタイプのデータ・レコードはありません。ネーム・サーバーまたはホスト・ファイルはホスト名を認識しません。または、サービス・ファイルではサービス名は指定されていません。

Windows での TCP/IP 通信エラーの詳細については、Windows ソケットの文書を参照してください。

APPC

以下のリストでは、ユーザーが最も頻繁に検出する可能性がある CPI-C 関数戻りコードが示されています。これは、戻りコードをすべて示したリストではありません。括弧内の数字は、戻りコードに対応する定義された数を示します。

- **CM_ALLOCATE_FAILURE_NO_RETRY (1):** 一時的ではない状態のために割り振りは失敗しました。たとえば、システム定義エラーまたはセッション活動化プロトコル・エラーのためにセッションを活動化できない場合があります。対話を割り振る前にセッション・プロトコル・エラーが生じてセッションが非活動化される際にも、この戻りコードは戻されます。
- **CM_ALLOCATE_FAILURE_RETRY (2):** 一時的な状態のために割り振りは失敗しました。ローカル・システムまたはリモート・システムでの一時的なリソースの不足のためにセッションを活動化できない場合があります。
- **CM_CONVERSATION_TYPE_MISMATCH (3):** リモート・プログラムが割り振り要求の対話タイプをサポートしないので、割り当ては失敗しました。これは、おそらくサーバー側の TP の問題でしょう。サーバーの TP が基本をサポートするように構成してください。
- **CM_TPN_NOT_RECOGNIZED (9):** このエラーは、割り振り要求がリモート・システムに送られる際に起こります。これは、リモート・システムが要求内で指定されたトランザクション・プログラム名を認識しないことを示します。グローバル・ディレクトリー・サービスを使用していないならば、クライアントの CPI-C サイド情報プロファイルで指定された TP 名がサーバーで指定された TP 名と合致していることを確認してください。グローバル・ディレクトリー・サービスを使用しているならば、データベース管理者の助言を受けてグローバル・ディレクトリー項目で指定されている TP 名がサーバーで指定されている TP 名と合致することを確認してください。
- **CM_TP_NOT_AVAILABLE_NO_RETRY (10):** このエラーは、割り振り要求がリモート・システムに送られる際に起こります。これは、リモート LU が送られた TP 名を認識しても、プログラムを開始できないことを示します。サーバーの TPN プロファイルで指定されるユーザー ID が有効であることを確認してください。
- **CM_TP_NOT_AVAILABLE_RETRY (11):** このエラーは、割り振り要求がリモート・システムに送られる際に起こります。これは、リモート LU が送られた TP 名を認識しても、おそらく一時的な理由でプログラムを開始できないことを示します。サーバーのデータベース・マネージャーおよび APPC プロトコル・サポートが正常に開始されたことを確認してください。
- **CM_DEALLOCATED_ABEND (17):** このエラーは、リモート・プログラムが対話の割り振りを解除する場合に起こります。これは、リモート・プログラムが異常終了した場合、または致命的エラー状態を検出した場合に起きることがあります。DB2 (AIX 版) に接続を試みている場合には、サーバーのデータベース・マネージャーおよび APPC プロトコル・サポートが正常に開始されたことを確認してください。AIX サーバーでは、以下のいずれかによって、このエラーが起きた可能性があります。
 - サーバーのデータベース・エージェントが、システム管理者によって強制的にオフにされました。
 - *maxagents* データベース・マネージャー構成パラメーターを超えたために、データベース・エージェントが、サーバーで始動できませんでした。サーバーの First Failure Service Log (DB2DIAG.LOG) をチェックして、エラー・メッセージが記録されているかどうかを判別してください。

- 主要データベース・マネージャー・プロセスの異常終了のために、サーバーのデータベース・エージェントが終了しました。
- **CM_PRODUCT_SPECIFIC_ERROR (20):** 製品固有のエラーが検出され、エラーの説明が製品のシステム・エラー・ログに格納されました。ローカル APPC サブシステムが正常に開始されたことを確認してください。Communication Server for AIX で製品固有のエラーに関する情報をさらに得るには、グローバル変数 *errno* の値を確認する必要があります。戻すことができる *errnos* の詳細については、以下のセクションを参照してください。Communication Server for OS/2 は、エラーを OS/2 システム・エラー・ログに記録します。
- **CM_RESOURCE_FAILURE_NO_RETRY (26):** このエラーは、リソースに関連するエラーが原因で (セッションまたはリンク)、対話が途切れる際に起こります (相手側またはローカル側のいずれかで)。OS/2 サーバーでは、以下のいずれかによって、このエラーが起きた可能性があります。
 - サーバーのデータベース・エージェントが、システム管理者によって強制的にオフにされました。
 - *maxagents* データベース・マネージャー構成パラメーターを超えたために、データベース・エージェントが、サーバーで始動できませんでした。サーバーの First Failure Service Log (DB2DIAG.LOG) をチェックして、エラー・メッセージが記録されているかどうかを判別してください。
 - 主要データベース・マネージャー・プロセスの異常終了のために、サーバーのデータベース・エージェントが終了しました。
- **CM_RESOURCE_FAILURE_RETRY (27):** このエラーは、上記で説明した NO_RETRY 状態とほぼ同じ理由で、対話が途切れる際に起こります (相手側またはローカル側のいずれかで)。唯一の相違点は、このエラーが永続的なものである可能性があるということです。

ほとんどの場合、CPI コミュニケーション戻りコードを使用すれば、エラーの原因を見つけることができます。CM_PRODUCT_SPECIFIC_ERROR が戻されると、追加情報が提供されます。

Communication Server for AIX では、*errno* が追加情報を提供します。一般的な *errnos* のいくつかは以下のようなものです。これは、すべてを示したリストではありません。101 番以上の *errnos* は、**/usr/include/luxsna.h** ファイルにあり、Communication Server for AIX 固有の *errnos* を含んでいます。これらの *errnos* のほとんどは、CPI-C 戻りコードに変換されます。もっと小さな番号の *errnos* は AIX の問題に関連しており、**/usr/include/sys/errno.h** ファイルで見つかります。 *errnos* 番号自体は括弧で囲まれています。

- **EBADF (9):** これは「間違ったファイル記述子」エラーです。データベースに接続を試みる際にこのエラーが起きる場合には、通常はサーバーの SNA サブシステムが開始されていないことを意味しています。または、SNA 構成プロファイルに問題があ

ることを示しています。サーバーの SNA サブシステムが開始されたかどうかを検査してください。サーバー・ノードへのリンク・ステーションが活動化できるかどうかを検査してください。

- EACCESS (13): これは「許可の拒否」エラーです。データベースに接続を試みる際にこのエラーが起きる場合には、通常は SNA 構成プロファイルに問題があることを示しています。

HP-UX の SNAPplus2 では、`/usr/include/sys/errno.h` ファイルを参照してエラーの記述を調べてください。

OS/2 では、CPI コミュニケーションが `CM_PRODUCT_SPECIFIC_ERROR` を戻す際に、エラー・ログで項目が作成されます。このエラー・ログ項目の情報は、CPIC を発信元として識別します。Communications Server/2 (CS/2) がインストールされている場合には、エラーが OS/2 のシステム・エラー・ログに記録されます。エラーの完全な記述および推奨処置については、特定の製品の問題判別ガイドを参照してください。

CPI 通信エラーの詳細については、システム・アプリケーション体系 共通プログラミング・インターフェース コミュニケーション・インターフェース解説書を参照してください。

NETBIOS

NetBIOS を使用する際に、ユーザーが最も頻繁に検出する可能性がある 16 進数の戻りコードが示されています。これは、戻りコードをすべて示したリストではありません。

- 01** 無効なバッファ長
- 03** 無効なコマンド
- 05** タイムアウトになったコマンド
- 06** 不完全なメッセージ
- 07** 受信されていないデータ
- 08** 無効なローカル・セッション番号
- 09** 使用可能なリソースがありません。
- 0A** セッションはクローズされています。

このエラーは以下のいずれかの原因で発生した可能性があります。

- サーバーのデータベース・エージェントが、システム管理者によって強制的にオフにされました。
- *maxagents* データベース・マネージャー構成パラメーターを超えたために、データベース・エージェントが、サーバーで始動できませんでした。サーバーの First Failure Service Log (DB2DIAG.LOG) をチェックして、エラー・メッセージが記録されているかどうかを判別してください。
- 主要データベース・マネージャー・プロセスの異常終了のために、サーバーのデータベース・エージェントが終了しました。

- 0B** コマンドがキャンセルされました。

- 0D** 重複する名前がネットワーク上で使用されています。データベース・マネージャー構成ファイルに定義されている `nname` パラメーターがネットワーク上で固有であることを確認してください。
- 0E** 名前表がいっぱいです。
- 0F** コマンドが完了しました (名前にはアクティブ・セッションがあり、登録が解除されました)。
- 11** ローカル・セッション表がいっぱいです。
- 12** セッションのオープンが拒否されました。
- 13** 無効な名前番号
- 14** リモート名が見つかりませんでした。
- データベースに接続を試みる際にこのエラーが起きる場合には、次のことを確認してください。
- データベース・マネージャーがサーバーで正常に開始されたこと、また NetBIOS サポートも正常に開始されたこと。
 - クライアントの NETBIOS ノード項目で指定されたサーバー `nname` がサーバーのデータベース・マネージャー構成ファイルのワークステーション名と合致すること。
- 15** ローカル名は検出されませんでした。
- 16** リモート・ノードで使用されている名前
- 17** 名前は削除されました。
- 18** セッションは異常終了しました。
- 19** 名前の競合が検出されました。
- 21** インターフェースは使用中です。
- 22** 未解決のコマンドが多すぎます。
- 23** 無効なアダプター
- 24** 既に完了されたコマンド
- 26** キャンセルすることができないコマンド
- 30** 別の環境によって定義された名前
- 34** 定義されていない環境、RESET を発行する必要があります。
- 35** 必須なオペレーティング・システムのリソースが使い果たされているので、後で再度試してみてください。
- 36** 最大数のアプリケーションを超えました。
- 37** 使用可能な SAP がありません。
- 38** 要求したリソースが使用不能です。
- 39** 無効な NCB アドレスです。
- 3A** 無効なりセットです。
- 3B** 無効な NCB DD ID です。
- 3C** セグメント・ロックが失敗しました。
- 3F** デバイス・ドライバのオープン・エラー
- 40** OS エラーが検出されました。
- 4F** 永続的なリング状況です。
- F6** 予期しない CCB エラーです。

F8	アダプター・オープン・エラー
F9	アダプター・サポート・ソフトウェアの内部エラー
FA	アダプター・チェック
FB	NetBIOS は操作不能です。
FC	オープン障害です。
FD	予期しないアダプター・クローズです。
FF	プロセス中のコマンドです。

NetBIOS 戻りコードの詳細については、ローカル・エリア・ネットワークのテクニカル解説書を参照してください。

IPX/SPX

Windows 32 ビット オペレーティング・システム上で IPX/SPX を使用する場合は、最も頻繁に検出するエラーのリストについては、TCP/IP の節を参照してください。Windows システム上の TCP/IP と IPX/SPX の両方によって戻されるエラーは、WINSOCK 仕様に準拠しています。OS/2 または UNIX システム上で IPX/SPX を使用する際に、ユーザーが最も頻繁に検出する可能性がある `t_errnos` のリストです。これは、エラーをすべて示したリストではありません。エラー値 は、`tiuser.h` ファイルで検出できます。 `t_errno` 番号自体は括弧で囲まれています。

- TBADF (4): 指定されたファイル・ハンドルはトランスポート・エンド・ポイントを指していません。
- TNOADDR (5): トランスポート・プロバイダーはアドレスを割り振ることができませんでした。
- TOUTSTATE (6): 関数は間違った順序で発行されました。
- TSYSERR (8): この関数の実行時にシステム・エラーが起きました。
- TLOOK (9): この接続時に非同期のイベントが起きました。
- TNODATA (13): 現時点ではトランスポート・プロバイダーから提供されるデータはありません。
- TADDRBUSY (23): 指定されたアドレスは使用されており、トランスポート・プロバイダーは新しいアドレスを割り振ることができませんでした。

最初のエラー・トークンが `t_errno = TLOOK` を指定する場合、2 番目のエラー・トークンがイベントを指定します。ユーザーが最も頻繁に検出する可能性があるイベントのリストを以下に示します。これは、イベント をすべて示したリストではありません。イベント は、`tiuser.h` ファイルで検出できます。イベント 値は括弧で囲まれています。

- T_DISCONNECT (0x0010): 切断が受信されました。

このエラーは以下のいずれかの原因で発生した可能性があります。

- サーバーが開始されなかったか、サーバーの IPX/SPX サポートは開始されませんでした。サーバーの基本障害保守ログ (DB2DIAG.LOG) をチェックして、メッセージが記録されているかどうかを判別してください。

- クライアントで指定されているノード・ディレクトリー情報は間違っています。
- クライアントまたはサーバー IPX/SPX コミュニケーション・スタックはインストールされませんでした。または、正しく構成されていませんでした (あるいはその両方)。
- サーバーのデータベース・エージェントが、システム管理者によって強制的にオフにされました。
- *maxagents* データベース・マネージャー構成パラメーターを超えたために、データベース・エージェントが、サーバーで始動できませんでした。サーバーの First Failure Service Log (DB2DIAG.LOG) をチェックして、エラー・メッセージが記録されているかどうかを判別してください。
- 主要データベース・マネージャー・プロセスの異常終了のために、サーバーのデータベース・エージェントが終了しました。

最初のエラー・トークンが `t_errno = TLOOK` を指定する場合、2 番目のエラー・トークンは `T_DISCONNECT` イベントを指定します。そして、3 番目のエラー・トークンは切断理由コードを指定します。ユーザーが最も頻繁に検出する可能性がある理由コードのリストを以下に示します。これは、理由コードをすべて示したリストではありません。切断理由コードは、`tispxipx.h` ファイルで検出できます。UNIX プラットフォームでは、理由コードは `spx_app.h` ファイルに定義されています。理由コードの値は括弧に囲まれています。

- `TLI_SPX_CONNECTION_TERMINATED (0xEC)`: 相手側のピアから受信された切断。
- `TLI_SPX_CONNECTION_FAILED (0xED)`: 接続は失敗しました。

TLI IPX/SPX 通信エラーの詳細については、トランスポート層インターフェース文書を参照してください。

OS/2 IPX/SPX ファイル・サーバー・アドレッシングを使用する際には、ユーザーが最も頻繁に検出する可能性がある戻り値のリストを以下に示します。これは、エラーをすべて示したリストではありません。戻り値は `nwerror.h` ファイルで検出できます。

0x880F -

これは、「サーバーへの接続なし」エラーです。指定されたファイル・サーバーが起動されて実行されていること、またクライアントおよびサーバー・ワークステーションでアクセスできることを確認してください。

0x88FF -

データベースにこの接続を試みる際にこのエラーが起きる場合、また関数が `NWAttachToFileServer` である場合には、クライアントの IPX/SPX プロトコル・サポートが正しくインストールされて開始されていることを確認してください。

0x89EF -

これは、「無効な名前」エラーです。不当文字がファイル・サーバーまたはオ

プロジェクト名で指定されました。制御文字、コンマ、セミコロン、スラッシュ、バックスラッシュ、疑問符、アスタリスク、および波形記号は無効です。

0x89F2

これは、「オブジェクト読み取り特権なし」エラーです。クライアントは、Netware ファイル・サーバーで登録された DB2 サーバーのオブジェクトにアクセスできません。

0x89F4

これは、「オブジェクト削除特権なし」エラーです。登録解除の際に指定されたユーザー ID/パスワードが、ファイル・サーバー上でオブジェクトおよびその属性を削除する十分な権限を持っていることを確認してください。

0x89F5

これは、「オブジェクト作成特権なし」エラーです。登録の際に指定されたユーザー ID/パスワードが、ファイル・サーバー上でオブジェクトおよびその属性を作成する十分な権限を持っていることを確認してください。

0x89F6

これは、「プロパティ削除特権なし」エラーです。登録解除の際に指定されたユーザー ID/パスワードが、ファイル・サーバー上でオブジェクトおよびその属性を削除する十分な権限を持っていることを確認してください。

0x89F7

これは、「プロパティ作成特権なし」エラーです。登録の際に指定されたユーザー ID/パスワードが、ファイル・サーバー上でオブジェクトおよびその属性を作成する十分な権限を持っていることを確認してください。

0x89F8

これは、「プロパティ書き込み特権なし」エラーです。登録の際に指定されたユーザー ID/パスワードが、ファイル・サーバー上にオブジェクト・プロパティ値を書き込む十分な権限を持っていることを確認してください。

0x89FC -

これは、「ファイル・サーバー不明」または「そのようなオブジェクトなし」エラーです。

REGISTER/DEREGISTER コマンドを実行する際にこのエラーが起きる場合には、次のことを確認してください。

- オブジェクト名がデータベース・マネージャーの構成ファイルで指定されており、その名前に有効な文字が入っていること。
- ファイル・サーバー名がデータベース・マネージャーの構成ファイルで指定されており、その名前に有効な文字が入っていること。

データベースに接続を試みる際にこのエラーが起きる場合、また関数が *NWScanProperty* である場合には、次のことを確認してください。

- データベース・マネージャーのネットワーク・アドレスは、NetWare ファイル・サーバーで正常に登録されました。これは、サーバーで REGISTER コマンドを実行することによって行われます。
- クライアントの IPXSPX ノード・ディレクトリー項目で指定されたオブジェクト名は、サーバーのデータベース・マネージャー構成ファイルのオブジェクト名と合致します。
- クライアントの IPXSPX ノード・ディレクトリー項目で指定されたファイル・サーバー名は、サーバーのデータベース・マネージャー構成ファイルのファイル・サーバー名と合致します。

このエラーが *NWAttachToFileServer* 関数で起きる場合には、データベース・マネージャー構成ファイルでファイル・サーバー名が正しく構成されていることを確認してください。

このエラーが *NWLoginToFileServer* 関数で起きる場合には、登録 / 登録解除で指定されたユーザー ID はファイル・サーバーへのログ記録を行う際に有効であることを確認してください。

0x89FF -

これは、「そのようなオブジェクトなし、または無効パスワード」エラーです。指定されたパスワードが定義されていて、有効期限が切れていないことを確認してください。

IPX/SPX ファイル・サーバー・アドレッシング・エラーの詳細については、C 文書の *NetWare Client API* を参照してください。

Unix IPX/SPX ファイル・サーバー・アドレッシングを使用する際には、どの場所でエラーが生成されたかを識別するエラー生成プログラムのリストを以下に示します。

- 0x00 - ファイル・サーバー
- 0x10 - API
- 0x20 - API

Unix IPX/SPX ファイル・サーバー・アドレッシング・モードを使用する際に、ユーザーが最も頻繁に検出する可能性があるエラー・コードを以下のリストに示します。これは、エラーをすべて示したリストではありません。AIX では、エラー・コードは *nwerrors.h* ファイルで検出できます。

0x02 - これは、「トランスポート・オープン」エラーです。IPX/SPX コミュニケーションがインストールされて正しく構成されていることを確認してください。

0x0E - これは、「無効パスワード」エラーです。ファイル・サーバーにログ記録を行う際に、登録 / 登録解除で指定されたパスワードが有効であることを確認してください。

0xEF - これは、「無効な名前」エラーです。データベース・マネージャー構成ファイ

ルで指定されたファイル・サーバーおよびオブジェクト名が有効であることを確認してください。名前に無効文字が入っていないことをチェックしてください。

- 0xF2** - これは、「オブジェクト読み取り特権なし」エラーです。クライアントは、Netware ファイル・サーバーで登録された DB2 サーバーのオブジェクトにアクセスできません。
- 0xF4** - これは、「オブジェクト削除特権なし」エラーです。登録解除の際に指定されたユーザー ID/パスワードが、ファイル・サーバー上でオブジェクトおよびその属性を削除する十分な権限を持っていることを確認してください。
- 0xF5** - これは、「オブジェクト作成特権なし」エラーです。登録の際に指定されたユーザー ID/パスワードが、ファイル・サーバー上でオブジェクトおよびその属性を作成する十分な権限を持っていることを確認してください。
- 0xF6** - これは、「プロパティ削除特権なし」エラーです。登録解除の際に指定されたユーザー ID/パスワードが、オブジェクトおよびその属性を削除する十分な権限を持っていることを確認してください。
- 0xF7** - これは、「プロパティ作成特権なし」エラーです。登録の際に指定されたユーザー ID/パスワードが、オブジェクトおよびその属性を作成する十分な権限を持っていることを確認してください。
- 0xF8** - これは、「プロパティ書き込み特権なし」エラーです。登録の際に指定されたユーザー ID/パスワードが、ファイル・サーバー上にオブジェクト・プロパティ値を書き込む十分な権限を持っていることを確認してください。
- 0xFC** - これは、「ファイル・サーバー不明」または「そのようなオブジェクトなし」エラーです。

REGISTER/DEREGISTER コマンドを実行する際にこのエラーが起きる場合には、次のことを確認してください。

- オブジェクト名がデータベース・マネージャーの構成ファイルで指定されており、その名前に有効な文字が入っていること。
- ファイル・サーバー名がデータベース・マネージャーの構成ファイルで指定されており、その名前に有効な文字が入っていること。

データベースに接続を試みる際にこのエラーが起きる場合、また関数が *NWScanProperty* である場合には、次のことを確認してください。

- データベース・マネージャーのネットワーク・アドレスは、NetWare ファイル・サーバーで正常に登録されました。これは、サーバーで REGISTER コマンドを実行することによって行われます。
- クライアントの IPXSPX ノード・ディレクトリー項目で指定されたオブジェクト名は、サーバーのデータベース・マネージャー構成ファイルのオブジェクト名と合致します。

- クライアントの IPXSPX ノード・ディレクトリー項目で指定されたファイル・サーバー名は、サーバーのデータベース・マネージャー構成ファイルのファイル・サーバー名と合致します。

このエラーが *NWAttachToServerPlatform* 関数で起きる場合には、データベース・マネージャー構成ファイルでファイル・サーバー名が正しく構成されていることを確認してください。

このエラーが *NWLoginToServerPlatform* 関数で起きる場合には、登録 / 登録解除で指定されたユーザー ID はファイル・サーバーへのログ記録を行う際に有効であることを確認してください。

- 0xFF** - これは、「ファイル・サーバーからの応答なし」エラーです。ファイル・サーバーが起動されていて実行されており、DB2 サーバーおよびクライアントでアクセスできることを確認してください。

IPX/SPX ファイル・サーバーのアドレッシング・モード・エラーの詳細については、NetWare C Interface for UNIX API の解説書を参照してください。

付録B. DB2 ライブラリーの使用法

DB2 ユニバーサル・データベース ライブラリーは、オンライン・ヘルプ、ブック (PDF および HTML)、および HTML 形式のサンプル・プログラムから成っています。この項では、ユーザーに提供される情報について紹介し、その入手方法を示します。

オンライン製品情報をご利用になるには、インフォメーション・センターを使用することができます。詳細については、651ページの『インフォメーション・センターを使用した情報へのアクセス』を参照してください。ここではタスク情報、DB2 ブック、トラブルシューティング情報、サンプル・プログラム、および Web の DB2 情報を見ることができます。

DB2 PDF ファイルおよびハードコピー版資料

DB2 情報

以下に示す表では、DB2 ブックを 4 つのカテゴリーに分類しています。

DB2 の手引きおよび解説書

これらの資料は、すべてのプラットフォームに共通の DB2 情報を含んでいます。

DB2 のインストールおよび構成の情報

これらの資料は、特定のプラットフォーム上の DB2 ごとに用意されています。たとえば、OS/2、Windows、および UNIX ベースのプラットフォームで稼働するそれぞれの DB2 用に、別個の概説およびインストール 資料が用意されています。

プラットフォーム共通のサンプル・プログラム (HTML 形式)

これらのサンプルは、アプリケーション開発クライアントとともにインストールされるサンプル・プログラムの HTML 版です。これらのサンプルは参考用であり、実際のプログラムに代わるものではありません。

リリース情報

これらのファイルには、DB2 ブックには含まれなかった最新の情報が記載されています。

インストール情報、リリース情報、およびチュートリアルは、製品 CD-ROM から HTML 形式で参照することができます。ほとんどの資料は、製品 CD-ROM から HTML 形式で表示できますし、DB2 の資料 CD-ROM から Adobe Acrobat (PDF) 形

式で表示し印刷することができます。IBM にハードコピー版の資料を注文したい場合は、647ページの『印刷資料の注文方法』を参照してください。注文可能な資料については、以下の表をご覧ください。

OS/2 および Windows プラットフォームの場合、HTML ファイルは `sqllib¥doc¥html` ディレクトリーにインストールできます。DB2 情報はいくつかの言語で提供されています。しかし、すべての言語に翻訳されているわけではありません。ある言語で情報が提供されていない場合は、英語版の情報が提供されます。

UNIX プラットフォームの場合、言語ごとに異なる複数の HTML ファイルを `doc/%L/html` ディレクトリーにインストールできます。ここで、`%L` は地域を表しています。詳細については、適切な概説およびインストールの手引きを参照してください。

DB2 ブックを入手して情報を利用するには、次のようなさまざまな方法があります。

- 650ページの『オンライン情報の表示』
- 655ページの『オンライン情報の検索』
- 647ページの『印刷資料の注文方法』
- 647ページの『PDF 資料の印刷』

表 38. DB2 情報

資料名	記述	資料番号 PDF ファイル名	HTML ディレクトリー
DB2 の手引きおよび解説書情報			
管理の手引き	<p>管理の手引き: 計画 は、データベース概念について概説し、設計 (たとえば、論理および物理データベース設計) に関する情報を提供し、高い可用性について解説しています。</p> <p>管理の手引き: インプリメンテーション は、設計、データベースへのアクセス、監査、バックアップ、およびリカバリーなどのインプリメンテーションについて説明しています。</p> <p>管理の手引き: パフォーマンス は、データベース環境について解説し、さらにアプリケーションのパフォーマンスの評価と調整の方法について説明しています。</p>	<p>SC88-8513 db2d1x70</p> <p>SC88-8511 db2d2x70</p> <p>SC88-8512 db2d3x70</p>	db2d0
管理 API 解説書	データベースの管理に使用できる DB2 アプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) およびデータ構造について説明します。また、この資料は、アプリケーションから API を呼び出す方法も示します。	SC88-8514 db2b0x70	db2b0
アプリケーション構築の手引き	環境設定に関する情報を提供し、Windows、OS/2、および UNIX ベースのプラットフォームでの DB2 アプリケーションのコンパイル、リンク、実行の各ステップについて説明します。	SC88-8515 db2axx70	db2ax
APPC, CPI-C, and SNA Sense Codes	DB2 ユニバーサル・データベース製品をご使用中に発生する可能性のあるセンス・コード APPC、CPI-C、および SNA についての一般情報を提供します。	資料番号なし db2apx70	db2ap
	HTML 形式でのみご利用いただけます。		

表 38. DB2 情報 (続き)

資料名	記述	資料番号	HTML
		PDF ファイル名	ディレクトリー
アプリケーション開発の手引き	DB2 データベースにアクセスするアプリケーションを、組み込み SQL または Java (JDBC および SQLJ) を使用して開発する方法について説明します。さらに、ストアド・プロシージャの作成方法、ユーザー定義関数の作成方法、ユーザー定義タイプの作成方法、トリガーの使用法、区画化されている環境または統合されているシステムでのアプリケーションの開発方法などについて解説されています。	SC88-8516	db2a0
		db2a0x70	
コール・レベル・インターフェースの手引きおよび解説書	DB2 データベースにアクセスするアプリケーションを、DB2 コール・レベル・インターフェース (Microsoft ODBC 仕様互換の呼び出し可能 SQL) を使用して開発する方法について説明します。	SC88-8517	db2l0
		db2l0x70	
コマンド解説書	コマンド行プロセッサの使用法について説明し、データベースの管理に使用できる DB2 コマンドについて解説しています。	SC88-8518	db2n0
		db2n0x70	
コネクティビティー補足	DB2 (AS/400 版)、DB2 (OS/390 版)、DB2 (MVS 版)、または DB2 (VM 版) を DRDA アプリケーション・リクエスターとして DB2 ユニバーサル・データベース とともに使用するためのセットアップ情報および参照情報を提供します。また、この資料は DRDA アプリケーション・サーバーを DB2 コネクト アプリケーション・リクエスターとともに使用する方法の詳細を示します。	資料番号なし	db2h1
	HTML と PDF でのみ利用可能	db2h1x70	
データ移動ユーティリティー手引きおよび解説書	データの移動を行う DB2 ユーティリティー (インポート、エクスポート、ロード、AutoLoader、および DPROF など) の使用法について説明しています。	SC88-8522	db2dm
		db2dmx70	

表 38. DB2 情報 (続き)

資料名	記述	資料番号	HTML
		PDF ファイル名	ディレクトリー
データウェアハウスセンター 管理の手引き	データウェアハウスセンターを使用してデータウェアハウスを構築および保守する方法を説明します。	SC88-8545 db2ddx70	db2dd
データウェアハウスセンター アプリケーション統合の手引き	プログラマーがアプリケーションをデータウェアハウスセンターおよび情報カタログ・マネージャーと統合するのに役立つ情報を提供します。	SC88-8546 db2adx70	db2ad
DB2 コネクト 使用者の手引き	DB2 コネクト製品の概念、プログラミング、および一般的な使用方法に関する情報を提供します。	SC88-8521 db2c0x70	db2c0
DB2 クエリー・パトローラー 管理の手引き	DB2 クエリー・パトローラー・システムの運用の概説を行い、運用および管理に関する詳細情報、および管理用グラフィカル・ユーザー・インターフェース・ユーティリティについてのタスク情報を提供します。	SC88-8525 db2dwx70	db2dw
DB2 クエリー・パトローラー 使用者の手引き	DB2 クエリー・パトローラーのツールや関数の使用方法を説明します。	SC88-8527 db2wwx70	db2ww
用語集	DB2 およびそのコンポーネントで 사용되는用語の定義を示します。 HTML 形式と SQL 解説書 で利用可能	資料番号なし db2t0x70	db2t0
イメージ、オーディオ、およびビデオ・エクステンダー 管理およびプログラミングの手引き	DB2 エクステンダーの一般情報について提供し、画像、音声、およびビデオ (IAV) エクステンダーの管理と構成について、および IAV エクステンダーを使用したプログラミングについて説明しています。さらに、参照情報、診断情報 (メッセージ解説)、およびサンプルも収録されています。	SC88-8609 dmbu7x70	dmbu7
情報カタログ・マネージャー 管理の手引き	情報カタログを管理するためのガイドです。	SC88-8547 db2dix70	db2di
情報カタログ・マネージャー プログラミングの手引きおよび解説書	情報カタログ・マネージャー用の体系化されたインターフェースの定義を示します。	SC88-8549 db2bix70	db2bi

表 38. DB2 情報 (続き)

資料名	記述	資料番号	HTML
		PDF ファイル名	ディレクトリー
情報カタログ・マネージャー 使用者の手引き	情報カタログ・マネージャー・ユーザー・インターフェースの使用に関する情報を提供します。	SC88-8548 db2aix70	db2ai
インストールおよび構成補足	プラットフォーム固有の DB2 クライアントの計画、インストール、およびセットアップのガイドです。この補足資料には、バインド、クライアント / サーバー通信の設定、DB2 GUI ツール、DRDA AS、分散インストール、分散要求の構成、および異機種データ・ソースへのアクセスについても説明されています。	GC88-8524 db2iyx70	db2iy
メッセージ解説書	DB2、情報カタログ・マネージャー、およびデータウェアハウスセンターから出されるメッセージとコードをリストし、取るべき処置を解説しています。	第 1 巻 GC88-8543 db2m1x70 第 2 巻 GC88-8544 db2m2x70	db2m0
<i>OLAP Integration Server Administration Guide</i>	OLAP Integration Server の Administration Manager コンポーネントの使用方法を説明します。	SC27-0787 db2dpx70	n/a
<i>OLAP Integration Server Metaoutline User's Guide</i>	標準の OLAP Metaoutline インターフェースを使用して (Metaoutline Assistant を使用するのではなく) OLAP metaoutline を作成しデータを取り込む方法を説明しています。	SC27-0784 db2upx70	n/a
<i>OLAP Integration Server Model User's Guide</i>	(Model Assistant ではなく) 標準的な OLAP Model Interface を使用して OLAP モデルを作成する方法を説明します。	SC27-0783 db2lpx70	n/a
<i>OLAP のセットアップおよびユーザーズ・ガイド</i>	OLAP スターター・キットの構成およびセットアップに関する情報を提供します。	SC88-8652 db2ipx70	db2ip
<i>Hyperion Essbase スプレッドシート アドイン ユーザーズ ガイド for Excel</i>	Excel 作表計算プログラムを使用して OLAP データを分析する方法を説明します。	SC88-8724 db2epx70	db2ep

表 38. DB2 情報 (続き)

資料名	記述	資料番号 PDF ファイル名	HTML ディレクトリー
<i>Hyperion Essbase</i> スプレッドシート アドイン ユーザーズ ガイド for <i>Lotus 1-2-3</i>	ロータス 1-2-3 作表計算プログラムを使用して OLAP データを分析する方法を説明します。	SC88-8723 db2tpx70	db2tp
レプリケーションの手引きおよび解説書	DB2 に付属の IBM レプリケーション・ツールの計画、構成、管理、および使用方法に関する情報を提供します。	SC88-8550 db2e0x70	db2e0
地理情報エクステンダー使用者の手引きおよび解説書	地理情報エクステンダーのインストール、構成、管理、プログラミング、およびトラブルシューティングに関する情報を提供します。また、地理情報データの概念についての重要事項を示し、地理情報エクステンダー固有の参照情報 (メッセージおよび SQL) を提供します。	SC88-8624 db2sbx70	db2sb
SQL 概説	SQL の概念を紹介し、構造体とタスクの例を多数提供しています。	SC88-8539 db2y0x70	db2y0
SQL 解説書	SQL の構文、セマンティクス、および言語規則について説明します。また、この資料には、各リリース間の互換性、製品の制限事項、およびカタログ・ビューも含まれます。	第 1 巻 SC88-8540 db2s1x70 第 2 巻 SC88-8657 db2s2x70	db2s0
システム・モニター 手引きおよび解説書	データベースおよびデータベース・マネージャーに関連したさまざまな情報を収集する方法を示します。この資料は、この情報を利用して、データベース活動の把握、パフォーマンス向上、および問題原因の判別を行う方法を説明しています。	SC88-8523 db2f0x70	db2f0

表 38. DB2 情報 (続き)

資料名	記述	資料番号	HTML
		PDF ファイル名	ディレクトリー
テキスト・エクステンダー 管理およびプログラミング	DB2 エクステンダーの一般情報、テキスト・エクステンダーの管理および構成情報、およびテキスト・エクステンダーを使用したプログラミングの方法について解説します。この資料には、参照情報、診断情報 (メッセージ解説)、およびサンプルが入っています。	SC88-8610	desu9
		desu9x70	
問題判別の手引き	エラーの原因の判別、問題からのリカバリー、および DB2 カスタマー・サービスの支援の下での診断ツールの使用法を記載しています。	GD88-7271	db2p0
		db2p0x70	
新機能	DB2 ユニバーサル・データベースバージョン 7 の新しい機能および拡張機能について説明します。	SC88-8541	db2q0
		db2q0x70	
DB2 のインストールおよび構成の情報			
DB2 コネクト エンタープライズ・エディション (OS/2 および Windows 版) 概説およびインストール	OS/2 および Windows 32 ビット オペレーティング・システム版の DB2 コネクト エンタープライズ・エディションで、計画、マイグレーション、インストール、および構成を行う場合の情報を提供します。また、この資料はサポートされている多数のクライアントのインストールおよびセットアップについても説明します。	GC88-8520	db2c6
		db2c6x70	
DB2 コネクト エンタープライズ・エディション (UNIX 版) 概説およびインストール	UNIX ベースのプラットフォームでの DB2 コネクト エンタープライズ・エディションの計画、マイグレーション、インストール、構成、およびタスクに関する情報を提供します。また、この資料はサポートされている多数のクライアントのインストールおよびセットアップについても説明します。	GC88-8519	db2cy
		db2cyx70	

表 38. DB2 情報 (続き)

資料名	記述	資料番号	HTML
		PDF ファイル名	ディレクトリー
DB2 コネクト パーソナル・エディション 概説およびインストール	OS/2 および Windows 32 ビット オペレーティング・システムの DB2 コネクト パーソナル・エディションで、計画、マイグレーション、インストール、および構成を行う場合のタスク情報を提供します。また、この資料はサポートされているすべてのクライアントのインストールおよびセットアップについても説明します。	GC88-8533	db2c1
		db2c1x70	
DB2 コネクト パーソナル・エディション (Linux 版) 概説およびインストール	サポートされる Linux 配布プログラムの DB2 コネクト パーソナル・エディションで、計画、インストール、マイグレーション、および構成を行う場合の情報を提供します。	GC88-8528	db2c4
		db2c4x70	
DB2 データ・リンク・マネージャー 概説およびインストール	AIX および Windows 32 ビット オペレーティング・システムの DB2 データ・リンク・マネージャーで、計画、インストール、構成を行う場合の情報を提供します。	GC88-8532	db2z6
		db2z6x70	
DB2 エンタープライズ拡張エディション (UNIX 版) 概説およびインストール	UNIX ベースのプラットフォームでの DB2 エンタープライズ拡張エディションの計画、インストール、および構成に関する情報を提供します。また、この資料はサポートされている多数のクライアントのインストールおよびセットアップについても説明します。	GC88-8530	db2v3
		db2v3x70	
DB2 エンタープライズ拡張エディション (Windows 版) 概説およびインストール	Windows 32 ビット オペレーティング・システムの DB2 エンタープライズ拡張エディションで、計画、インストール、および構成を行う場合の情報を提供します。また、この資料はサポートされている多数のクライアントのインストールおよびセットアップについても説明します。	GC88-8529	db2v6
		db2v6x70	

表 38. DB2 情報 (続き)

資料名	記述	資料番号	HTML
		PDF ファイル名	ディレクトリー
DB2 ユニバーサル・データベース (OS/2 版) 概説およびインストール	OS/2 オペレーティング・システムでの DB2 ユニバーサル・データベースの計画、インストール、マイグレーション、および構成に関する情報を提供します。また、この資料はサポートされている多数のクライアントのインストールおよびセットアップについても説明します。	GC88-8534 db2i2x70	db2i2
DB2 ユニバーサル・データベース (UNIX 版) 概説およびインストール	UNIX ベースのプラットフォームでの DB2 ユニバーサル・データベースの計画、インストール、マイグレーション、および構成に関する情報を提供します。また、この資料はサポートされている多数のクライアントのインストールおよびセットアップについても説明します。	GC88-8536 db2ixx70	db2ix
DB2 ユニバーサル・データベース (Windows 版) 概説およびインストール	Windows 32 ビット オペレーティング・システムの DB2 ユニバーサル・データベースで、計画、インストール、マイグレーション、および構成を行う場合の情報を提供します。また、この資料はサポートされている多数のクライアントのインストールおよびセットアップについても説明します。	GC88-8537 db2i6x70	db2i6
DB2 パーソナル・エディション 概説およびインストール	OS/2 および Windows 32 ビット オペレーティング・システム版の DB2 ユニバーサル・データベース パーソナル・エディションで、計画、インストール、マイグレーション、および構成を行う場合の情報を提供します。	GC88-8535 db2i1x70	db2i1
DB2 パーソナル・エディション (Linux 版) 概説およびインストール	サポートされる Linux 配布プログラムの DB2 ユニバーサル・データベース パーソナル・エディションで、計画、インストール、マイグレーション、および構成を行う場合の情報を提供します。	GC88-8538 db2i4x70	db2i4
DB2 クエリー・パトローラー インストールの手引き	DB2 クエリー・パトローラーのインストール情報を提供します。	GC88-8526 db2iwx70	db2iw

表 38. DB2 情報 (続き)

資料名	記述	資料番号 PDF ファイル名	HTML ディレクトリー
ウェアハウス・マネージャ インストールの手引き	ウェアハウス・エージェント、ウェアハウス・トランスフォーマー、および情報カタログ・マネージャのインストール情報を提供します。	GC88-8572 db2idx70	db2id
プラットフォーム共通のサンプル・プログラム (HTML 形式)			
サンプル・プログラム (HTML)	DB2 のサポートするすべてのプラットフォームでのプログラム言語用に、サンプル・プログラム (HTML 形式) を提供します。これらのサンプル・プログラムは、参照用としてのみ提供されています。サンプルは、すべてのプログラミング言語で利用できるわけではありません。HTML サンプルが利用できるのは、DB2 アプリケーション開発クライアントがインストールされている場合だけです。 プログラムの詳細については、アプリケーション構築の手引き を参照してください。	資料番号なし	db2hs
リリース情報			
DB2 コネクト リリース情報	DB2 コネクトの資料には含められなかった最新の情報が収録されています。	注 #2 を参照してください。	db2cr
DB2 インストール情報	DB2 ブックには含められなかったインストールに関する最新の情報が収録されています。	製品 CD-ROM からのみ利用できます。	
DB2 リリース情報	DB2 ブックには含められなかった DB2 製品とその機能に関する最新の情報が収録されています。	注 #2 を参照してください。	db2ir

注:

1. ファイル名の 6 桁目の文字 *x* は、その資料の言語を表します。たとえば、ファイル名 db2d0e70 は、管理の手引き の英語版であることを示し、ファイル名 db2d0f70 は同じ資料のフランス語版を示します。資料の言語を表すためにファイル名の 6 桁目で使用されている文字は以下のとおりです。

言語	ID
ブラジル・ポルトガル語	b
ブルガリア語	u
チェコ語	x
デンマーク語	d
オランダ語	q
英語	e
フィンランド語	y
フランス語	f
ドイツ語	g
ギリシャ語	a
ハンガリー語	h
イタリア語	i
日本語	j
韓国語	k
ノルウェー語	n
ポーランド語	p
ポルトガル語	v
ロシア語	r
簡体字中国語	c
スロベニア語	l
スペイン語	z
スウェーデン語	s
繁体字中国語	t
トルコ語	m

2. DB2 ブックには含められなかった最新の情報が、「リリース情報」で HTML 形式および ASCII ファイルとして利用できます。HTML 版は、インフォメーション・センターおよび製品 CD-ROM からご利用になれます。ASCII ファイルの参照方法:

- UNIX ベースのプラットフォームでは、ファイル `Release.Notes` を参照してください。このファイルは `DB2DIR/Readme/%L` ディレクトリーにあります。ここで `%L` は地域名を、`DB2DIR` は以下のものを表します。
 - `/usr/lpp/db2_07_01` (AIX の場合)
 - `/opt/IBMdb2/V7.1` (HP-UX、DYNIX/ptx、Solaris、および Silicon Graphics IRIX の場合)
 - `/usr/IBMdb2/V7.1` (Linux の場合)
- これ以外のプラットフォームでは、ファイル `RELEASE.TXT` を参照してください。このファイルは、製品がインストールされているディレクトリーにあります。OS/2 プラットフォームでは、**IBM DB2** フォルダをダブルクリックし、**Release Notes** アイコンをダブルクリックすることもできます。

PDF 資料の印刷

資料のハードコピー版が必要な場合、DB2 の資料 CD-ROM にある PDF ファイルを印刷することができます。Adobe Acrobat Reader を使用すれば、資料全体または特定のページを印刷することができます。ライブラリー内の各資料のファイルについては、637ページの表38 を参照してください。

Adobe Acrobat Reader の最新版は、Adobe の Web サイト <http://www.adobe.co.jp/> から入手できます。

PDF ファイルは、DB2 の資料 CD-ROM に収録されており、ファイル拡張子 PDF が付いています。PDF ファイルにアクセスするには以下のようにします。

1. DB2 の資料 CD-ROM を挿入します。UNIX ベースのプラットフォームの場合は、DB2 資料 CD-ROM をマウントします。マウントの手順については、概説およびインストール を参照してください。
2. Acrobat Reader を起動します。
3. 以下に示すいずれかの位置から必要な PDF ファイルを開きます。

- OS/2 および Windows プラットフォームでは:

`x:\%doc%\language` ディレクトリー。ここで、`x` は CD-ROM ドライブを、`language` は 2 桁の言語を表す国コード (たとえば、EN は英語) を示します。

- UNIX ベースのプラットフォームでは:

CD-ROM の `/cdrom/doc/%L` ディレクトリー。ここで、`/cdrom` は CD-ROM のマウント・ポイントを、`%L` は地域名を表します。

さらに、PDF ファイルを CD-ROM からローカル・ドライブまたはネットワーク・ドライブにコピーし、そこから参照することもできます。

印刷資料の注文方法

ハードコピー版の DB2 ブックは、個別に注文することができます。資料を注文するには、IBM 承認の販売業者または営業担当員に連絡してください。

DB2 オンライン文書

オンライン・ヘルプへのアクセス

すべての DB2 コンポーネントで、オンライン・ヘルプを利用できます。以下の表に、さまざまな種類のヘルプを示します。

ヘルプの種類	内容	利用方法
コマンド・ヘルプ	コマンド行プロセッサの コマンド構文について説明 します。	コマンド行プロセッサの対話モードから、次のよ うに入力します。 ? <i>command</i> ここで <i>command</i> はキーワードまたはコマンド全体 を表します。 たとえば、? <i>catalog</i> と入力すると、すべての CATALOG コマンドに関するヘルプが表示され、 ? <i>catalog database</i> と入力すると、 CATALOG DATABASE コマンドのヘルプが表示されます。
クライアント構成アシ スタントのヘルプ	そのウィンドウまたはノートブックで実行できるタスクについて説明します。このヘルプは、知っておく必要のある概説および前提条件に関する情報を含みます。また、ウィンドウやノートブックの制御の使用方法を示します。	ウィンドウまたはノートブックから、「ヘルプ (Help)」プッシュボタンをクリックするか、または F1 キーを押します。
コマンド・センターの ヘルプ		
コントロール・センタ ーのヘルプ		
データウェアハウスセ ンターのヘルプ		
イベント・アナライザ ーのヘルプ		
情報カタログ・マネー ジャーのヘルプ		
サテライト管理センタ ーのヘルプ		
スクリプト・センタ ーのヘルプ		

ヘルプの種類	内容	利用方法
メッセージ・ヘルプ	メッセージの原因、および取るべき処置を説明します。	<p>コマンド行プロセッサの対話モードから、次のように入力します。</p> <pre>? XXXnnnnn</pre> <p>ここで、<i>XXXnnnnn</i> は有効なメッセージ ID を表します。</p> <p>たとえば、? SQL30081 と入力すると、メッセージ SQL30081 に関するヘルプを表示します。</p> <p>一度に 1 画面分のメッセージ・ヘルプを表示させるには、次のように入力します。</p> <pre>? XXXnnnnn more</pre> <p>メッセージ・ヘルプをファイルに保管するには、次のように入力します。</p> <pre>? XXXnnnnn > filename.ext</pre> <p>ここで、<i>filename.ext</i> はメッセージ・ヘルプを保管するファイルを表します。</p>
SQL ヘルプ	SQL ステートメントの構文について説明します。	<p>コマンド行プロセッサの対話モードから、次のように入力します。</p> <pre>help statement</pre> <p>ここで、<i>statement</i> は SQL ステートメントを表します。</p> <p>たとえば、help SELECT と入力すると、SELECT ステートメントのヘルプが表示されます。</p> <p>注: UNIX ベースのプラットフォームでは、SQL ヘルプを利用できません。</p>
SQLSTATE ヘルプ	SQL 状態およびクラス・コードについて説明します。	<p>コマンド行プロセッサの対話モードから、次のように入力します。</p> <pre>? sqlstate or ? class code</pre> <p>ここで、<i>sqlstate</i> は有効な 5 桁の SQL 状態を、<i>class code</i> は SQL 状態の最初の 2 桁を表します。</p> <p>たとえば、? 08003 によって SQL 状態 08003 のヘルプが表示され、? 08 によってクラス・コード 08 のヘルプが表示されます。</p>

オンライン情報の表示

この製品に付属のブックは、ハイパーテキスト・マークアップ言語 (HTML) ソフトコピー形式です。ソフトコピー形式では情報を検索または表示したり、ハイパーテキスト・リンクを利用して関連情報に移動したりすることができます。また、1 つの端末を超えてライブラリーを容易に共用することができます。

オンライン・ブックやサンプル・プログラムは、HTML バージョン 3.2 仕様に準拠するすべてのブラウザを使って表示できます。

オンライン・ブックまたはサンプル・プログラムは、次のようにして表示します。

- DB2 アドミニストレーション・ツールを実行している場合、インフォメーション・センターを使用します。
- ブラウザーで、「ファイル (File)」→「ページを開く (Open Page)」をクリックします。次のようなページを開いて、DB2 情報に関する説明とリンクを表示してください。
 - UNIX ベースのプラットフォームでは、以下のページを開きます。

```
INSTHOME/sqlllib/doc/%L/html/index.htm
```

ここで %L はロケール名です。

- その他のプラットフォームでは、以下のページを開きます。

```
sqlllib¥doc¥html¥index.htm
```

パスは DB2 がインストールされているドライブです。

インフォメーション・センターをインストールしていない場合、**DB2 Information** アイコンをダブルクリックしてページを開くことができます。このアイコンは、ご使用のシステムに応じて、製品のメイン・フォルダー内または Windows 「スタート」メニューにあります。

Netscape ブラウザーのインストール

システムに Web ブラウザーがインストールされていない場合、製品の箱の中にある Netscape CD-ROM から Netscape をインストールすることができます。インストールに関する詳細な説明については、以下を参照してください。

1. Netscape CD-ROM を挿入します。
2. UNIX ベースのプラットフォームでは、CD-ROM をマウントします。マウントの手順については、概説およびインストール を参照してください。
3. インストールの手順については、CDNAVnn.txt ファイルを参照します。ここで、nn は 2 桁の言語 ID を表します。ファイルは CD-ROM のルート・ディレクトリーにあります。

インフォメーション・センターを使用した情報へのアクセス

インフォメーション・センターを使用すると、DB2 製品情報にす早くアクセスすることができます。インフォメーション・センターは、DB2 アドミニストレーション・ツールを使用できるすべてのプラットフォームで利用できます。

インフォメーション・センターは「インフォメーション・センター (Information Center)」アイコンをダブルクリックすることによってオープンできます。このアイコンのある場所はシステムによって異なります。メイン・プロダクト・フォルダーか Windows の「スタート」メニューのどちらかです。

Windows プラットフォームの DB2 では、ツールバーおよびヘルプ・メニューを使用して、インフォメーション・センターにアクセスすることもできます。

インフォメーション・センターは 6 種類の情報を提供します。適切なタブをクリックすると、種類ごとに提供されているトピックが表示されます。

タスク (Tasks) DB2 を使用して実行できる主要なタスク。

参照 (Reference)

DB2 参照情報 (キーワード、コマンド、API など)。

ブック (Books) DB2 ブック。

トラブルシューティング (Troubleshooting)

エラー・メッセージのカテゴリーと、メッセージに対するリカバリー処置。

サンプル・プログラム (Sample Programs)

DB2 アプリケーション開発クライアントに付属のサンプル・プログラム。DB2 アプリケーション開発クライアントをインストールしていない場合、このタブは表示されません。

Web

WWW 上にある DB2 情報。この情報にアクセスするには、ご使用のシステムから Web への接続が必要です。

リストから項目を 1 つ選択すると、インフォメーション・センターはビューアーを立ち上げて情報を表示します。選択した情報の種類に応じて、ビューアーはシステム・ヘルプ・ビューアー、エディター、または Web ブラウザーです。

インフォメーション・センターには検索機能が備わっており、リストを参照せずに特定のトピックを探すことができます。

テキストの全検索を行うには、インフォメーション・センター内のハイパーテキスト・リンク「**DB2 オンライン情報の検索 (Search DB2 Online Information)**」検索フォームに従います。

通常、HTML 検索サーバーは自動的に始動します。HTML 情報の検索がうまくいかない場合は、以下の方法の 1 つを使用して、検索サーバーを始動しなければならない場合もあります。

Windows では

「スタート」をクリックし、「プログラム」 → 「IBM DB2」 → 「Information」 → 「Start HTML Search Server」を選択します。

OS/2 では

「DB2 (OS/2 版)」フォルダーをダブルクリックして、「Start HTML Search Server」アイコンをダブルクリックします。

HTML 情報の検索でこの他の問題が発生した場合は、リリース情報を参照してください。

注: 検索機能は、Linux、DYNIX/ptx、および Silicon Graphics IRIX 環境では利用できません。

DB2 ウィザードの使用

ウィザードを使用すると、各タスクをステップごとに進めることによって、さまざまな管理タスクを遂行することができます。ウィザードは、コントロール・センターおよびクライアント構成アシスタントを通して使用できます。以下の表では、ウィザードとその目的をリストしています。

注: データベース作成、索引作成、マルチサイト更新の構成、およびパフォーマンス構成ウィザードは、区分済みデータベース環境で使用できます。

ウィザード	内容	利用方法
データベース追加 (Add Database)	クライアント・ワークステーション上にデータベースのカタログを作成します。	クライアント構成アシスタントから、「追加 (Add)」をクリックします。
データベース・バックアップ (Back up Database)	バックアップ計画を決定、作成、およびスケジュールします。	「コントロール・センター (Control Center)」からバックアップするデータベースを右クリックし、「バックアップ (Backup)」 → 「ウィザードを使用するデータベース (Database Using Wizard)」を選択します。

ウィザード	内容	利用方法
マルチサイト更新の構成 (Configure Multisite Update)	マルチサイト更新、分散トランザクション、または 2 フェーズ・コミットを構成します。	「コントロール・センター (Control Center)」から、「データベース (Databases)」フォルダーを右クリックして、「マルチサイト更新 (Multisite Update)」を選択します。
データベース作成 (Create Database)	データベースを作成し、いくつかの基本的な構成タスクを実行します。	「コントロール・センター (Control Center)」から、「データベース (Databases)」フォルダーを右クリックして、「作成 (Create)」→「ウィザードを使用するデータベース (Database Using Wizard)」を選択します。
表作成 (Create Table)	基本的なデータ・タイプを選択して、表の基本キーを作成します。	「コントロール・センター (Control Center)」から、「表 (Tables)」アイコンを右クリックして、「作成 (Create)」→「ウィザードを使用する表 (Table Using Wizard)」を選択します。
表スペース作成 (Create Table Space)	新しい表スペースを作成します。	「コントロール・センター (Control Center)」から、「表スペース (Table Spaces)」アイコンを右クリックして、「作成 (Create)」→「ウィザードを使用する表スペース (Table Space Using Wizard)」を選択します。
索引作成 (Create Index)	すべての照会について、作成すべき索引および除去すべき索引を提案します。	「コントロール・センター (Control Center)」から、「索引 (Index)」アイコンを右クリックして、「作成 (Create)」→「ウィザードを使用する索引 (Index Using Wizard)」を選択します。

ウィザード	内容	利用方法
パフォーマンス構成 (Performance Configuration)	ビジネス要件に適合するように構成パラメーターを更新して、データベースのパフォーマンスを調整します。	「コントロール・センター (Control Center)」から、調整したいデータベースを右クリックして、「ウィザードを使用するパフォーマンスの構成 (Configure Performance Using Wizard)」を選択します。 区分データベース環境では、「Database Partitions」視点から、調整したい最初のデータベース区画を右クリックして、「ウィザードを使用するパフォーマンスの構成 (Configure Performance Using Wizard)」を選択します。
データベース復元 (Restore Database)	障害の後、データベースを回復します。どのバックアップを使用し、どのログを再生するかを判別を支援します。	「コントロール・センター (Control Center)」から復元するデータベースを右クリックし、「復元 (Restore)」→「ウィザードを使用するデータベース (Database Using Wizard)」を選択します。

文書サーバーのセットアップ

デフォルトでは、DB2 情報はローカル・システムにインストールされます。つまり、DB2 情報にアクセスする必要がある各担当者が同じファイルをインストールする必要があります。DB2 情報を 1 か所に格納するには、次のようにします。

1. %sqllib%doc%html のすべてのファイルとサブディレクトリーを、ローカル・システムから Web サーバーにコピーします。各ブックには独自のサブディレクトリーがあり、そのブックを構成する必要な HTML および GIF ファイルが入っています。ディレクトリー構造は常に同じ状態に保つ必要があります。
2. Web サーバーを構成して、ファイルを新しい場所で検索するようにします。さらに詳しい情報については、インストールおよび構成 補足 の NetQuestion 付録を参照してください。
3. インフォメーション・センターの Java バージョンをご使用の場合は、すべての HTML ファイルのベース URL を指定できます。この URL はブックのリストに使用してください。
4. 資料ファイルが表示されるようになったなら、よく使うトピックにはブックマークを付けておいてください。ブックマークを付けるページは、たとえば以下のものがあります。
 - ブックのリスト

- 頻繁に使用されるブックの目次
- 頻繁に参照する情報 (たとえば、ALTER TABLE トピックなど)
- 検索フォーム

中央のマシンから DB2 ユニバーサル・データベース オンライン文書ファイルを提供する方法については、インストールおよび構成 補足 の NetQuestion 付録を参照してください。

オンライン情報の検索

HTML ファイルの情報を検索するには、以下の方法のどれか 1 つを使用してください。

- 最上部にある「**検索 (Search)**」をクリックします。検索フォームを使用して特定のトピックを見つけます。この機能は、Linux、DYNIX/ptx、または Silicon Graphics IRIX 環境ではご利用になれません。
- 最上部にある「**索引 (Index)**」をクリックします。索引を使用して、ブック内の特定のトピックを見つけます。
- HTML 資料またはヘルプの目次あるいは索引を表示してから、Web ブラウザーの検索機能を利用してブック内の特定のトピックを見つけます。
- Web ブラウザーのブックマーク機能を使用して、特定のトピックにす早く戻ります。
- インフォメーション・センターの検索機能を使用して、特定のトピックを検索します。詳しくは、651ページの『インフォメーション・センターを使用した情報へのアクセス』を参照してください。

付録C. 特記事項

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品、プログラムまたはサービスの操作性の評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権の許諾については、下記の宛先に書面にてご照会ください。

〒 106-0032 東京都港区六本木 3丁目 2-31
AP 事務所
IBM World Trade Asia Corporation
Intellectual Property Law & Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとしません。

本書は定期的に見直され、必要な変更 (たとえば、技術的に不適切な表現や誤植など) は、本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム（本プログラムを含む）との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Canada Ltd.
Office of the Lab Director
1150 Eglinton Avenue East
Tronto, Ontario
M3C 1H7
CANADA

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのA

アプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのすべての部分、またはすべての派生した創作物には、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 © Copyright IBM Corp. _年を入れる_. All Rights Reserved.

商標

アスタリスク (*) 付きの以下の用語は、IBM Corporation の商標です。

ACF/VTAM	IBM
AISPO	IMS
AIX	IMS/ESA
AIX/6000	LAN DistanceMVS
AIXwindows	MVS/ESA
AnyNet	MVS/XA
APPN	Net.Data
AS/400	OS/2
BookManager	OS/390
CICS	OS/400
C Set++	PowerPC
C/370	QBIC
DATABASE 2	QMF
DataHub	RACF
DataJoiner	RISC System/6000
DataPropagator	RS/6000
DataRefresher	S/370
DB2	SP
DB2 Connect	SQL/DS
DB2 Extenders	SQL/400
DB2 OLAP Server	System/370
DB2 Universal Database	System/390
Distributed Relational Database Architecture	SystemView VisualAge
DRDA	VM/ESA
eNetwork	VSE/ESA
Extended Services	VTAM
FFST	WebExplorer
First Failure Support Technology	WIN-OS/2

以下は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

Tivoli および、NetView は、Tivoli Systems, Inc. の商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、The Open Group がライセンスしている米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名などはそれぞれ各社の商標または登録商標です。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

アクセス、ヘルプへの 1
インストール
Netscape ブラウザー 650
インフォメーション・センター 651
ウィザード
索引 653
タスクを遂行する 652
データベース作成 653
データベース追加 652, 653, 654
データベース復元 654
データベース・バックアップ 652
パフォーマンス構成 653
表作成 653
表スペース作成 653
マルチサイト更新の構成 652
オンライン情報
検索 655
表示 650
オンライン・ヘルプ 1, 647

[カ行]

概要、メッセージの 1
言語 ID
ブック 645
検索
オンライン情報 651, 655

[サ行]

最新情報 646
索引ウィザード 653

サンプル・プログラム
プラットフォーム共通の 645
HTML 645
セットアップ、文書サーバーの 654
その他のメッセージ・ソース 3

[タ行]

データベース作成ウィザード 653
データベース追加ウィザード 652, 653, 654
データベース・バックアップ・ウィザード 652

[ハ行]

パフォーマンス構成ウィザード 653
表作成ウィザード 653
表示
オンライン情報 650
表スペース作成ウィザード 653
復元ウィザード 654
ブック 635, 647
ヘルプ 1

[マ行]

マルチサイト更新の構成ウィザード 652
メッセージ 1
AUD 3
DIA 3
GOV 3
SQL 5
SQLSTATE 583
メッセージ、概要 1

[ラ行]

リリース情報 646

A

AUD メッセージ 3

D

DB2 ライブラリー
印刷版のブックの注文 647
インフォメーション・センター 651
ウィザード 652
オンライン情報の検索 655
オンライン情報の表示 650
オンライン・ヘルプ 647
構成内容 635
最新情報 646
セットアップ、文書サーバーの 654
ブック 635
ブックの言語 ID 645
PDF 資料の印刷 647
DIA メッセージ 3

G

GOV メッセージ 3

H

HTML
サンプル・プログラム 645

N

Netscape ブラウザー
インストール 650

P

PDF 647
PDF 資料の印刷 647

S

SmartGuides

 ウィザード 652

SQL メッセージ 5

SQLSTATE メッセージ 583

IBM と連絡をとる

技術上の問題がある場合は、時間をとって**問題判別の手引き** に定義されている処置を検討し、それらの提案を実行した後で、お客様サポートに連絡をとってください。この資料には、お客様サポートがお客様を支援するために必要とする情報が説明されています。

製品情報

以下の情報は英語で提供されます。内容は英語版製品に関する情報です。

<http://www.ibm.com/software/data/>

DB2 World Wide Web ページには、ニュース、製品説明、研修スケジュールなどの DB2 に関する最新情報が提供されています。ただし、提供されている情報は英語です。

<http://www.ibm.com/software/data/db2/library/>

「DB2 Product and Service Technical Library」では、よくされる質問 (FAQ)、修正内容、資料、および最新の DB2 技術情報などの情報へのアクセスが提供されています。

注: この情報のご提供は英語のみとなりますのでご注意ください。

<http://www.elink.ibm.com/pbl/pbl/>

「International Publications」注文用 Web サイトでは、マニュアルの注文方法についての情報を提供しています。ただし、提供されている情報は英語です。

<http://www.ibm.com/education/certify/>

IBM の「Professional Certification Program」Web サイトでは、DB2 を含むさまざまな IBM 製品の認証テストの情報を提供しています。ただし、提供されている情報は英語です。

<ftp://software.ibm.com>

匿名でログオンしてください。ディレクトリー /ps/products/db2 には、DB2 および多数の他製品に関連したデモ、修正プログラム、情報、およびツールがあります。ただし、提供されている情報は英語です。

<comp.databases.ibm-db2>, <bit.listserv.db2-l>

これらのインターネット・ニュースグループは、ユーザーが DB2 製品に関する自分の経験について話し合うために利用できます。ただし、提供されている情報は英語です。

Compuserve: GO IBMDB2

このコマンドを入力すると、IBM DB2 Family forum にアクセスできます。すべての DB2 製品が、このフォーラムでサポートされています。ただし、提供されている情報は英語です。

米国以外の国で IBM に連絡する方法については、*IBM Software Support Handbook* の Appendix A を参照してください。この資料にアクセスするには、Web ページ: <http://www.ibm.com/support/> にアクセスし、ページの最下部にある「IBM Software Support Handbook」リンク・ボタンを選択します。

注: 国によっては、IBM が承認している販売業者が、IBM サポート・センターの代わりにそれら販売業者のサポート・センターに連絡する場合があります。



Printed in Japan

GC88-8544-01



日本アイ・ビー・エム株式会社

〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12